

# Red Data Book

## レッドデータブックおおいた

～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～



2001.3  
大分県



Red Data Book

# レッドデータブックおおいた

～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～



# 発刊にあたって

大分県知事 平松守彦



本県は、全体的に温暖で、九州本島最高峰のくじゅう連山や原生林の残る祖母・傾山等の山々を源とする大小幾つもの河川が瀬戸内海や豊後水道等へと注いでいます。緑豊かな森林，耕地に囲まれ，変化に富んだ自然の中に，多様な野生生物が生息しやすい自然環境が形づくられています。

こうした恵み豊かな「ふるさと大分」の自然環境を健全に保全し，将来の世代に引き継いでいくことは，現在に生きる私たちの責務です。

しかし，近年，私たち人間の活動により，かけがえのない自然環境に深刻な影響を与え，野生生物の乱獲や生息地の破壊により多くの種が絶滅に追いやられ，また絶滅の危機に直面しています。生物は私たち人間の生存基盤であり，多様な生物の存在は，自然環境を健全に保つうえで大きな役割を果たしています。

このため，県では，平成9年度から県内の野生生物の生息生育状況の学術調査を行ってまいりましたが，このたび，絶滅のおそれのある野生生物の現状を「レッドデータブックおおいた」としてまとめ，発刊することとしました。

本書は，大分県環境基本計画に掲げられた「豊かな自然と人間とが共生する豊の国」を目指し，長期的目標である「自然環境の保全，快適環境の創造」を推進するため，生物の多様性を確保する諸施策を講じていくうえでの基礎資料とするものです。

本書が，各種の分野において自然保護へ向けての資料として活用されるとともに，広く県民の皆様に野生生物への関心を高めていただき，本県の自然環境の保全が図られていくことを願っています。

終わりに，本書の作成に多大なご尽力をいただきました大分県野生生物保護対策検討委員会の委員の方々をはじめ，文献の提供，現地調査及び原稿執筆にご協力いただきました大分県自然環境学術調査会の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成13年3月



# はじめに

大分県は、気候は温暖で、海を望み、山々が重なり、変化に富んだ自然に恵まれている。海域は遠浅の周防灘、砂丘の広がる別府湾、断崖の迫るリアス式海岸の豊後水道域などとさまざまである。西と南の県境付近では1,000mを超える山岳地帯を配し、中央には今なお噴煙をあげ、九州本土最高地点を擁する火山と高原とがある。県土を斜断する中央構造線の北側に新旧入り混じる火山岩を広げ、南側には堆積岩とその変成岩、石灰岩を敷く。気候は温暖、年平均気温15～16の等温線は海岸線に沿って迂曲し、鎮守の森にみるようなシイやカシなどの常緑広葉樹林を繁茂させた。標高1,000m付近は平均気温10と低下していった、冬季には積雪をみる。この一帯には、針葉樹のモミ・ツガ林やブナ林のような落葉広葉樹林を発達させた。あわせて、長い歳月を経て様々に変化していった海岸地形や湿地、耶馬溪様式の岩場や山地の岩峰などに特徴的な土地的極盛相を創出し、気候的極盛相と相まって、多様な野生生物の生活圏ともなってきたのである。

これらの自然環境を舞台とし、大分県を特産種とするツクシボダイジュやタガネラン、本県を主として生育・生息するブゼンノギクやオオイタサンショウウオ、日本では本県だけに分布するオトメクジャクやブンゴボダイジュ、本県が分布域の限界域となるコケモモやオオサンショウウオ、キムラグモなど、真に多様で独自性をもつ豊の国の野生生物をはぐくんできた。

地形的に人の生活圏が狭く、あるいは自然災害の多い県土では、早くから海岸線や河川は人工化し、人の生産活動は山地まで進出して木材の生産地となり、高原の半自然草原は人工牧野となって改変されていった。自然植生を失った都市砂漠は、丘の上まで広がっている。こうした人の生産・生活活動の中で、自然は改変され、絶滅の危惧される野生生物が多くなってきている。

一方、大分県では、地球規模の環境保全や21世紀を見据え大分県独自の自然の享受と継承を求めて、豊かな自然と人間との共生を目指す「大分県環境基本条例」を制定し、あわせて環境の保全に関する条例が見直され、さらには環境アセスメントの条例も施行されて、本県としての野生生物の現状やその保護が問われるようになってきた。

近年、地球レベル、国レベル、そして県レベルで絶滅の危惧される野生生物の実態把握、そして保護対策が進められるなかで、大分県は、平成9年度から「大分県野生生物保護対策検討委員会」を発足させ、野生生物9分科会を構成して調査・研究を行い、検討を重ねて、ここに『大分県の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブックおおいだ -』を刊行して公表することとなった。これには、本県からツクシカイドウ、ツキノワグマの野生絶滅を表明し、絶滅種を含め、絶滅の危惧される野生生物1,135種（植物739種、動物396種）を挙げてある。

今回の野生生物の調査活動やその検討には、県の周到な計画や積極的なご援助、高所からのご示唆をいただいで多大な成果をあげたが、それには本県の野生生物分科会の研究活動が従来から組織的に推進され、長い歳月をかけて累積された研究成果が、これに集約できたものと確信している。

ここに、県当局、この調査・研究、編集に参加された方々、従来から多様な分野で調査研究を重ねてきた「大分県自然環境学術調査会」の野生生物専門部会や事務局の方々、大分県の「地形・地質」「気候と水文」「植生」の解説を寄せていただいた各位に対し、深甚の謝意を表わしたい。

平成13年度は、これに関する内容の『普及版』を刊行する予定である。県民の皆様、これを活用される皆様方が、大分県における野生生物の現状のご理解をいただき、その保護・保全に対して深い関心を寄せられることを期待し、ふるさと大分の自然に生きる野生生物たちの自然生態系が保全され、末永く、その生命の灯火を受け継いでいくこと願うものである。

平成13(2001)年3月

大分県野生生物保護対策検討委員会  
委員長 荒金正憲





津波戸山付近の耶馬溪層凝灰岩地（山香町）



豊後水道域の断崖（蒲江町）



シナミズニラ  
絶滅危惧IA類

P. 34



オトメクジャク  
絶滅危惧IB類

P. 41



ヒメウラジロ  
準絶滅危惧

P. 41



テツホシダ  
絶滅危惧IA類

P. 55



ヒメユリ  
絶滅危惧IA類

P. 120



エヒメアヤマ  
絶滅危惧IB類

P. 125



**キンラン**  
絶滅危惧 類

P. 131



**オニバス**  
絶滅危惧IB類

P. 166



**ウメバチソウ**  
準絶滅危惧

P. 185



**ツクシボタイジュ**  
絶滅危惧IA類

P. 205



**キスミレ**  
絶滅危惧 類

P. 208



**ヒュウガトウキ**  
絶滅危惧 類

P. 214



ツクシアケボノツツジ P. 223  
準絶滅危惧



ハマサジ P. 226  
絶滅危惧 類



ヒゴタイ P. 263  
絶滅危惧IB類



ツクシタンボゴ P. 269  
絶滅危惧IB類



ミズスギモドキ P. 281  
絶滅危惧IB類



ヒメタチヒラゴケ P. 283  
準絶滅危惧



**モモジロコウモリ**  
絶滅危惧II類

P. 295



**ムササビ**  
地域個体群

P. 297



**イヌワシ**  
絶滅危惧IA類

P. 313



**コアジサシ**  
絶滅危惧IB類

P. 320



**コマドリ**  
絶滅危惧 類

P. 327



**サンコウチョウ**  
準絶滅危惧

P. 329



タカチホヘビ P. 335  
絶滅危惧 類



オオサンショウウオ P. 343  
絶滅危惧IA類



オオダイガハラサンショウウオ P. 343  
地域個体群



アカザ P. 351  
絶滅危惧 類



オヤユラミ P. 353  
準絶滅危惧



アオギス P. 354  
絶滅危惧 類



**トビハゼ**  
準絶滅危惧

P. 354



**ベッコウトンボ**  
絶滅危惧IA類

P. 365



**ハッチョウトンボ**  
絶滅危惧 類

P. 365



**ルイスハンミョウ**  
絶滅危惧IB類

P. 372



**台湾ツバメシジミ**  
絶滅危惧IA類

P. 402



**シルビアシジミ**  
絶滅危惧IA類

P. 406



ブンゴキムラゲモ( ) P. 424  
地域個体群



ブンゴキムラゲモ( ) P. 424  
地域個体群



ムラサキオカヤドカリ P. 443  
絶滅危惧IA類



シオマネキ( ) P. 443  
絶滅危惧II類



オナガラムシオイガイ P. 452  
絶滅危惧IB類 (提供: 増田 修)



オオイタシロギセルガイ P. 462  
絶滅危惧IB類 (提供: 増田 修)

# Red Data Book

## CONTENTS

### 発刊にあたって

大分県知事 平松 守彦

### はじめに

大分県野生生物保護対策検討委員会委員長 荒金 正憲

### 口 絵

### 大分県の自然環境

大分県の地質と地形 .....	3
大分県の気候・水文 .....	7
大分県の植生 .....	13

### 『レッドデータブックおおいた』の作成

1. レッドデータブック作成の背景 .....	19
2. 県版レッドデータブック作成の意義 .....	19
3. 県版レッドデータブック作成の概要 .....	20
(1) 作成の目的 .....	20
(2) 作成の方法・作業手順 .....	20
(3) 調査・研究体制 .....	21
4. 保護上重要な対象種 .....	23
(1) 選定対象種の範囲 .....	23
(2) カテゴリー定義と区分 .....	23
(3) 種の配列とカテゴリー区分の並記 ...	23
5. 絶滅のおそれのある種の選定結果 .....	25

### 資 料

生物分類群・カテゴリー別 選定種一覧 .....	477
自然公園・自然環境保全地域等一覧 .....	492
おわりに .....	497
和名索引(植物) .....	498
(動物) .....	504

### 保護上重要な植物

1. シダ植物 .....	27
2. 種子植物 .....	67
3. 蕨 類 .....	273

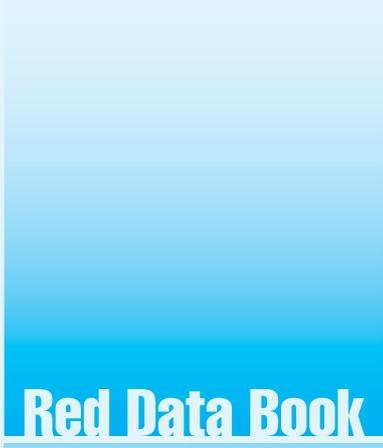
### 保護上重要な動物

1. 哺乳類 .....	289
2. 鳥 類 .....	301
3. 爬虫類 .....	331
4. 両生類 .....	339
5. 魚類・頭索類 .....	345
6. 昆虫類 .....	357
7. クモ類 .....	417
8. 甲殻類 .....	439
9. 陸・淡水産貝類 .....	447

### 絶滅のおそれのある野生生物の現状と課題

1. 野生植物 .....	469
2. 野生動物 .....	471
3. 今後の課題 .....	473



The logo consists of a square with a blue-to-white gradient background. At the bottom of the square, the text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font. A thin blue horizontal line is positioned directly below the text.

**Red Data Book**

# 大分県 of 自然環境



# 大分県の地質と地形

## 1 大分県の地質構造と地形概観

大分県には最も古い黒瀬川構造帯を構成する部分から現在までの様々な地質が分布する（唐木田ほか、1992）。それらの地質地域は、この地域に存在する重要な構造線により境されている。それらは北部から松山 - 伊万里構造線、大分 - 熊本構造線、臼杵 - 八代構造線、仏像構造線である。このうち臼杵 - 八代構造線は、北側の領家帯（内帯）と南側の秩父帯（外帯）を分ける九州における中央構造線としての役目を果たしている。仏像構造線は西南日本外帯の秩父帯と四万十帯の境界の断層である。

地形的にも構造線の存在が大きく、臼杵 - 八代構造線以南は300～500mの高度の山地が広がるが、その北方は大野川低地帯をなし、100～300mの低地がのびる。一方、祖母・傾山地は開析の進んだ山地地形を呈し、逆に九重山、由布岳などの第四紀火山は新鮮な地形を示している（図1）。

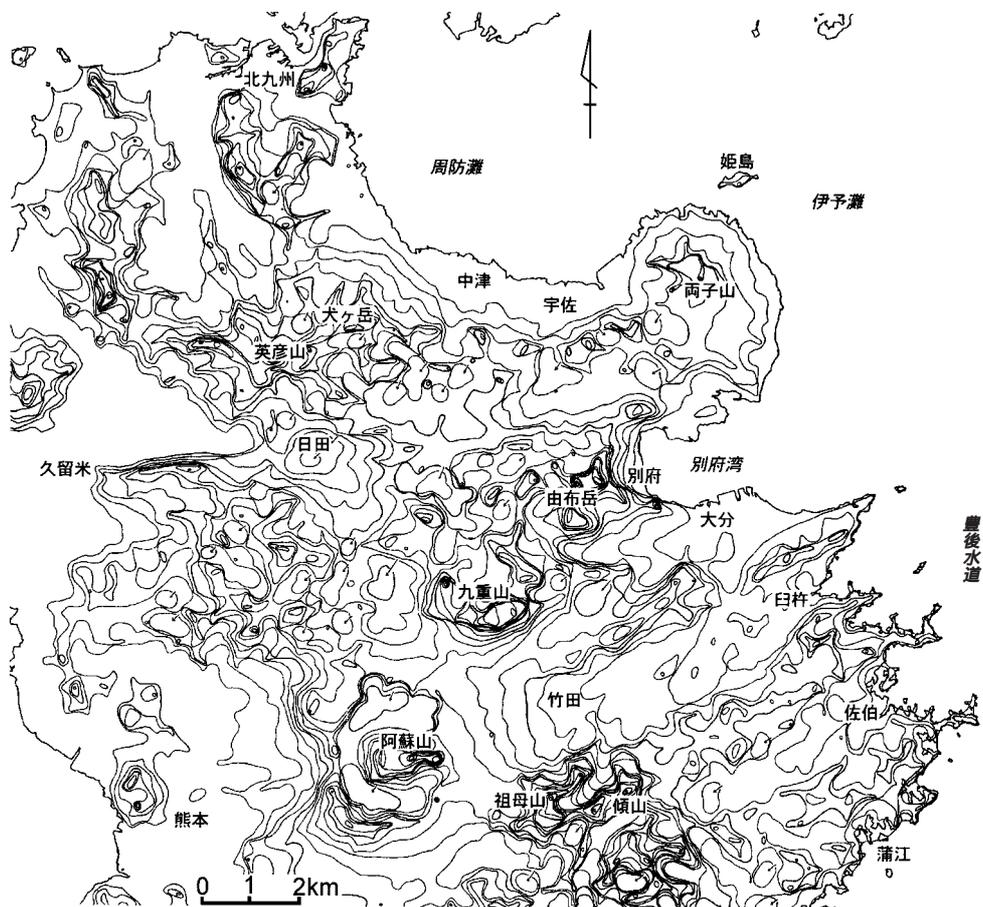
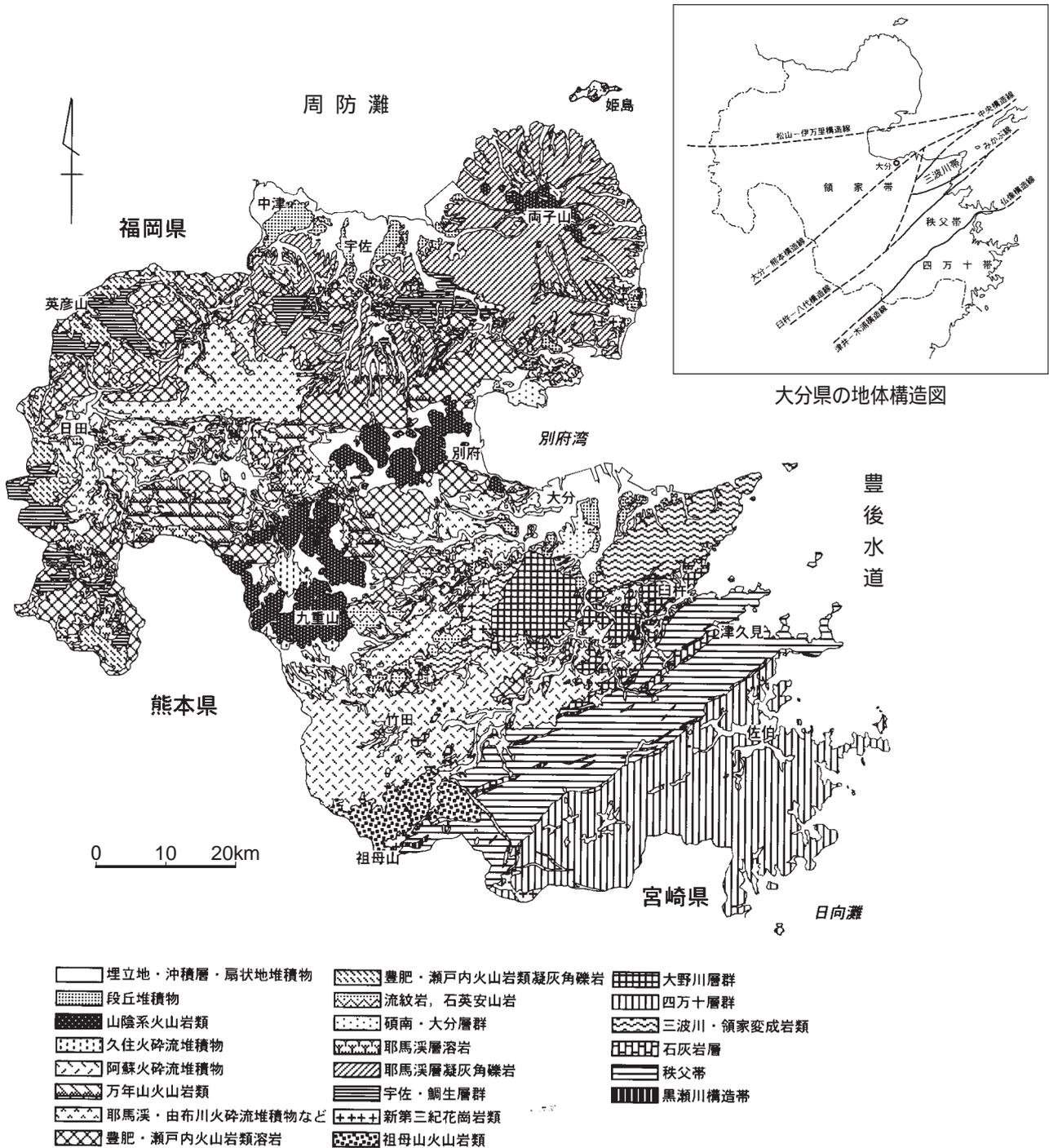


図1．大分県を中心とした接峰面図（等高線間隔は100m）

## 2 外帯の山地

臼杵 - 八代構造線以南の外帯は秩父帯と四万十帯から構成されており、両者は仏像構造線により境されている（図2）。秩父帯の大部分をなす山地は佩楯山地、佐伯 - 番匠川以南の主として四万十帯の山地は場照山地とよばれている（宮久，1972）。



九州地方土木地質図編纂委員会（1985）：九州地方土木地質図を簡略化  
大分県の地体構造図は宮久（1972）による

図2．大分県の地質

### 1) 秩父帯の山地

秩父帯は北部の黒瀬川構造帯と南部の秩父帯南帯にあたる三宝山帯からなる。黒瀬川構造帯は臼杵地域や尾平・奥畑地域でレンズ状に分布する。主に浅海性堆積物からなるが一部で海洋性堆積物もみられる。

大分県の秩父帯の大部分は、その南帯にあたる三宝山帯に属する。臼杵市海添から弥生町床木までの南北13kmの幅を持ち、東北東 - 西南西方向に宮崎県境までの40kmの長さの帯状分布を示す。秩父帯はさらに鎮南山帯、津久見帯、明治帯、中野帯に細分されている。最近の研究では津久見帯を構成する水晶山層・津久見層が古生代の地層で、他はすべて中生代の地層とされている。岩相は海洋性の堆積物で、砂岩・泥岩、石灰岩、チャートなどからなり、特に石灰岩層が広く発達する。津久見市の海岸部より三重町稲積山付近まで、幅2km、長さ30kmにわたって帯状に分布する津久見石灰岩は最も典型的な石灰岩層である。

### 2) 四万十帯の山地

仏像構造線により秩父帯と接する四万十帯は、宮崎県北部の延岡衝上断層により北帯と南帯に分けられる。大分県に分布する四万十帯は北帯（下部四万十層群）に属する。この地域の四万十層群は下位より諸塚層群、槇峰層群、北川層群に区分される。いずれも砂岩・泥岩を主とし枕状溶岩や黒色千枚岩、タービダイトなどを含む。いずれもテクトニック・メランジュに相当し、主に白亜紀～古第三紀の堆積物である。

## 3 内帯の古期岩山地

内帯の古期岩は主として領家帯の変成岩・花崗岩類と、それをを基盤とする大野川層群、及び三波川帯からなる。

### 1) 領家帯の山地

大分県における領家帯の変成岩・花崗岩類は新期の火山岩類に広くおおわれ、わずかに国東半島と朝地地域にみられるにすぎない。ボーリング調査では豊肥火山地域の基盤をなしていることが知られている。

国東半島の変成岩・花崗岩類は日豊本線中山香駅から安岐町安岐ダム付近までと国東半島東海岸の黒津崎から白石鼻にかけての地域に分布するが、新期火山岩類におおわれて点的に分布するにすぎない。

朝地地域の変成岩類は朝地変成岩とよばれ、野津原町塚野付近から朝地町にいたる長さ23km、幅1.5～5kmの地域に分布する。これらはほとんど未変成の堆積岩類、結晶片岩類、蛇紋岩類・ひん岩質の岩脈類、閃緑岩～花崗岩類の貫入を受けてできた変成岩類である。

### 2) 大野川層群の山地

大野郡犬飼町を中心に大野川の中流域に分布する白亜紀層を大野川層群とよんでいる。北西部では連続的に分布し、とくに河原内川に沿って大野川層群の下半部の各層がみられる。大野川の東岸地域では阿蘇火砕流堆積物におおわれて分布は限られる。北側の佐賀関半島の三波川結晶片岩とは佐志生断層で、南側は臼杵 - 八代構造線で秩父帯と接している。

大野川層群は礫岩・砂岩・頁岩の繰り返しからなり、層厚は最大20,000m以上とされる。大野川層群下部層（下位から霊山層、奥河原内層、中河原内層に区分）は主として粗粒な礫岩、砂岩からなる。上部層は下位より柴北層、犬飼層、吉野層、津留層、海辺層に区分され、主として砂岩や頁岩からなる。大野川層群の時代は、含まれる化石（主にイノセラムス）から後期白亜紀と考えられている。

### 3) 三波川帯の山地

九州の三波川帯は佐賀関半島に分布し、大野川以西にはみられない。この構成岩類は佐賀関層群とよばれている。佐賀関層群は主に泥質片岩、砂質片岩、塩基性片岩などの結晶片岩類からなり、一部では蛇紋

岩類をしばしば伴う。北側は新第三系とおもに断層で、南側は佐志生断層で大野川層群と接する。佐賀関層群は主に低温高压型の三波川変成作用を受けている。

#### 4 新生代・新第三系及び第四系とその地形

##### 1) 第三系

大分県の第三系のうち古第三系は漸新世・見立層で、それ以外は新第三系の火成岩類が主である。見立層は大分・宮崎県境の傾山の南部付近の秩父帯～四万十帯北部に分布する。

中新世中期に祖母山・傾山を中心として4回の火山活動が認められ、祖母山・傾山火山岩類を噴出した。活動は祖母山火砕流の噴出と祖母山コールドロンの形成にはじまる。その後傾山火砕流の噴出と傾山コールドロンの形成、祖母山成層火山の形成、祖母山・傾山両コールドロンの再沈降が続いた。さらに祖母山・傾山の火山岩類に大崩山を中心とする花崗岩体が貫入し、大分県では藤河内花崗岩体が分布する。

大分県西部の鯛生・津江地域の新第三系は主に火山岩類からなり、これは基盤を不整合におおい、更新世の火砕流堆積物におおわれる。火山岩類からなる山地は1,000～1,300mの高度を持ち、開析が進んでいる。この火山岩類を堆積させた火山活動は3期に分けられる。1期は中新世中期の鯛生層群が堆積した活動、2期は後期中新世の前津江累層を堆積させた活動、3期は鮮新世の釈迦岳火山岩類、渡神岳火山岩類を堆積させた活動である。

英彦山・耶馬溪地域から安心院を経て国東半島にいたる地域には、新第三紀～更新世の火山岩類が広く分布する。英彦山地域の新第三系は下位より山国累層、北坂本累層、英彦山火山岩類、大日ヶ岳火山岩類、夜明火山岩類に区分される。耶馬溪地域ではそれは下毛層、宮園安山岩、黒法師層、釣鐘山安山岩に区分され、それらを更新世の耶馬溪火砕流、阿蘇火砕流がおおっている。駅館川流域から国東半島にかけては中新世・宇佐層群が広く分布する。これはプロピライト化など著しい熱水変質作用を受けている。さらにその上位には耶馬溪層が分布する。

##### 2) 第四系

大分県で第四系が発達するのは内陸の湖盆形成地域と海岸の平野地域である。玖珠盆地では玖珠層が溶岩や火砕流堆積物に覆い、覆われる関係で分布する。岩室層、宝泉寺層、野上層などがそれである。大分市周辺では新第三系の碩南層群から更新統の大分層群まで、淡水成から海成にいたる堆積物が火砕岩類を伴いながら広く発達する。それらは広く台地を形成しており、鶴崎台地や丹生台地はその典型である。

第四紀火山岩類は新第三紀からの火山活動の「活動場」を縮小しながらの連続としてみられる。大規模火砕流としては耶馬溪火砕流、阿蘇火砕流、久住火砕流が100万年前以降に噴出し、その後、豊肥火山活動としての輝石安山岩の噴出、それに続くいわゆる山陰系火山活動としての角閃石安山岩の活動がある。前者は筑紫溶岩、万年山溶岩（火山岩類）などで、別府・万年山地溝帯を中心に広く溶岩台地を形成したようで、侵食が進んだ現在でも平坦な地形を残している。一方、後者は姫島から南西方向へ、両子山、由布岳・鶴見岳、九重山へと続く火山である。

由布・鶴見火山は35,000年前以前に活動を開始し、2,000年前以降にも溶岩の流出を伴う噴火活動があった。鶴見火山は侵食が進み、別府扇状地への堆積物の供給源になっている。由布火山の山頂部には直径300mの火口があり、山腹部には溶岩円頂丘状の側火山が分布する。側火山の大部分は22,000～6,300年前に形成されたが、2,000～1,500年前には池代溶岩・由布岳山頂溶岩を噴出した。

九重火山はおよそ20万年前から活動し、現在も活動が続いている。火山活動は前期（第 期～第 期）と後期（第 期～第 期）に分けられている。活動は26万年前の久住 軽石流の噴出に始まる。九重火山

群の主部を構成する1,400～1,700mの高度の火山体は第一期に形成され、第二期には大船山、平治岳などの溶岩流の流出があった。第三期は爆裂型の活動で特徴づけられ、大船山の御池、米窪火口、平治岳の山頂火口などが活動している。1995年10月11日夕刻に星生山中腹の硫黄山付近から火山灰を噴出しはじめ、噴煙は高度1,000mに達した。

およそ9万年前に噴出した阿蘇4火砕流堆積物は大分県に広く分布し、大規模な火砕流台地を形成している。特に阿蘇外輪山東方の大野川低地には臼杵まで厚く堆積している。

主として海岸地域には段丘地形が、内陸地域では扇状地が分布する。

## 文 献

唐木田芳文、早坂祥三・長谷義隆（1992）：日本の地質「九州地方」共立出版、371頁。

九州地方土木地質図編纂委員会（1985）：九州地方土木地質図。

宮久三千年（1972）：「大分県の地質」大分県、140頁。

（大分大学教育福祉科学部教授 千田 昇）

# 大分県の気候・水文

## 1 降水の分布と気候区分

日本列島の気候は、本州中央部を走る脊梁山脈によって、日本海沿岸型と太平洋沿岸型とに大別される。前者は、冬の北西季節風の影響を強く受けて冬季に降水量や降水日数が多く、後者は、夏季に太平洋からの湿気が流入して雨が多く、冬季には乾燥した晴天が続くタイプである。西日本には、中国山脈と四国山脈に挟まれた瀬戸内海があり、その沿岸部は瀬戸内型の気候で、年間を通じて降水量が少ないのが特徴である。大分県は瀬戸内海の西端に位置し、背後には九州山地が聳えるという地理的・地形的条件によって、気候区分の上では瀬戸内型から隣接する他の型への「遷移域」にあたる。

図1は大分県の年平均降水量の分布を示す。それによると、降水量の少ない地域が周防灘から別府湾の沿岸に位置し、年間平均1500～1600ミリである。一方、県境の九州山地に向けては、2500～3000ミリに達する多雨域となっている。海拔高度100mの増加についての、年平均降水量の増加は100～150ミリである。これら多雨域は、大野川や大分川、山国川など主要河川の源流域として、豊富な水資源を涵養する。

大分県の気候区分は、降水量の年平均値の分布と降水日数の年変化パターンとによって行うことができる。まず、瀬戸内型気候の限界線として、年平均1800ミリの等降水量線をとるならば、図2の線A Bのように、本耶馬溪町から院内町、別府市の鶴見岳東麓を通り、大野川中流域から臼杵半島に抜ける。この線の北東側を瀬戸内型、南西側を非瀬戸内型とすることができる。また、1月の平均降水日数は、北西季節風の影響の大きい大分県北西部で多く、10～12日に達するが、県南東部では5～6日と少なく、冬に晴天日が多い。この対照的な両地域の境界線は、図2の線C Dで示すように、国東半島の東岸（大分空港付近）と竹田市付近を結んで走り、この線の北西側は日本海沿岸型、南東側は太平洋沿岸型の性格が強い。

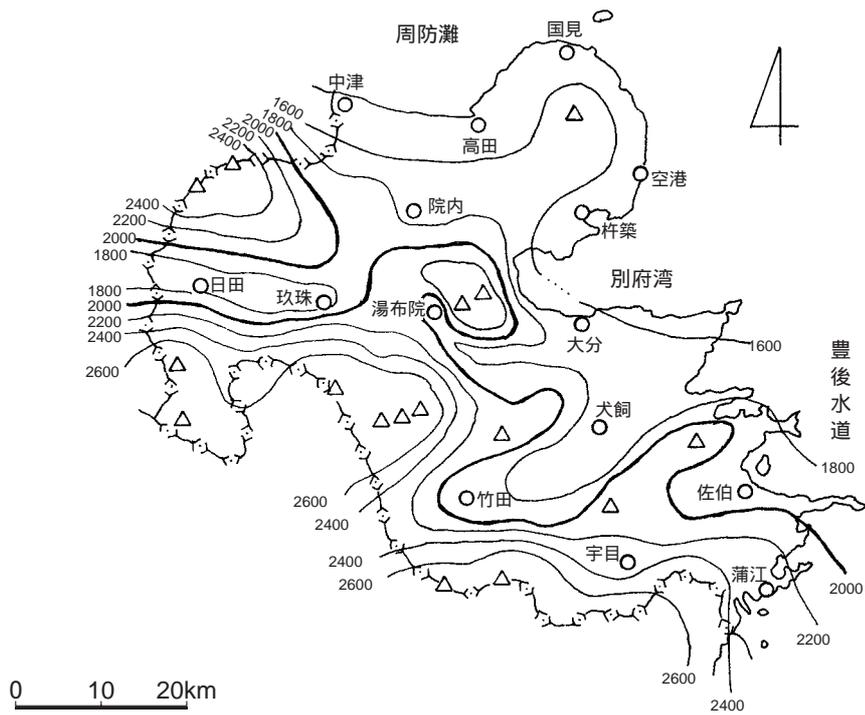


図1．大分県の年平均降水量分布（ミリ）

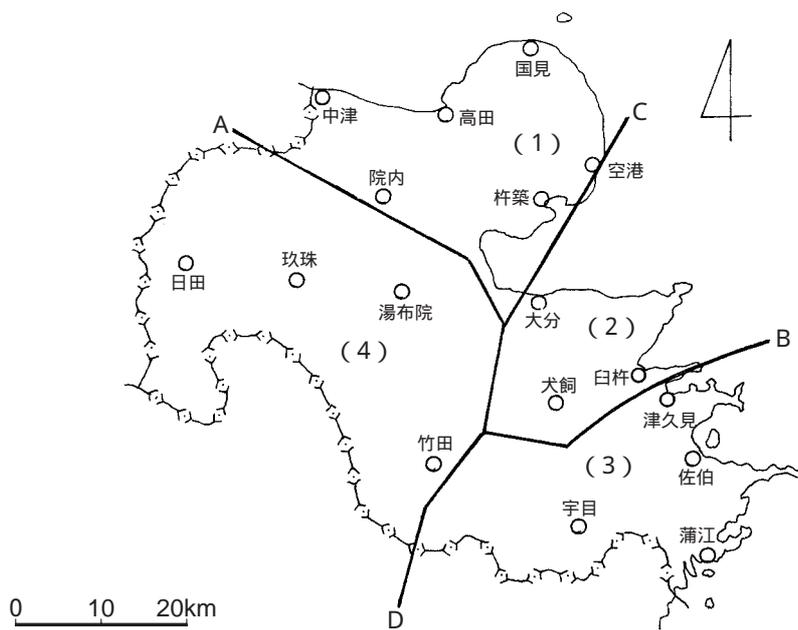


図2．大分県の気候区分

このように大分県の気候は、図2に示す2本の線A BとC Dとによって、次の4つの気候区に分類される。

- (1) 瀬戸内型 ( ) . . . 中津平野から国東半島，別府市の沿岸部を含む。年間降水量は1800ミリ以下で夏季は干ばつが起こりやすいが，冬は曇りがちであり，積雪もしばしば見られる。
- (2) 瀬戸内型 ( ) . . . 大分市から大野川の中流域および臼杵市を含む。年降水量は1800ミリ以下。冬季の天候は比較的よい。
- (3) 南海型 . . . 津久見市以南の南海部郡および大野郡の南部を含む。年降水量は1800ミリ以上であり，高さ1000m以上の山岳地域では3000ミリを超える。夏季に雨が多く，特に台風時には大雨が降りやすい。冬季には乾燥した晴天が持続する。
- (4) 九州山地型 . . . 県西部から北西部にかけての内陸部。山岳地域は特に降水量が多く，年間3000ミリを超える。梅雨期には豪雨が降りやすいが，台風による雨量は比較的少ない。冬季には季節風の影響で降水日数が多く，寒波襲来時にはしばしば積雪を見る。

## 2 気温の分布と変動

広がり100km程度のスケールの大分県では，気温の分布は海拔高度によってほぼ決まる。図3に示すよ

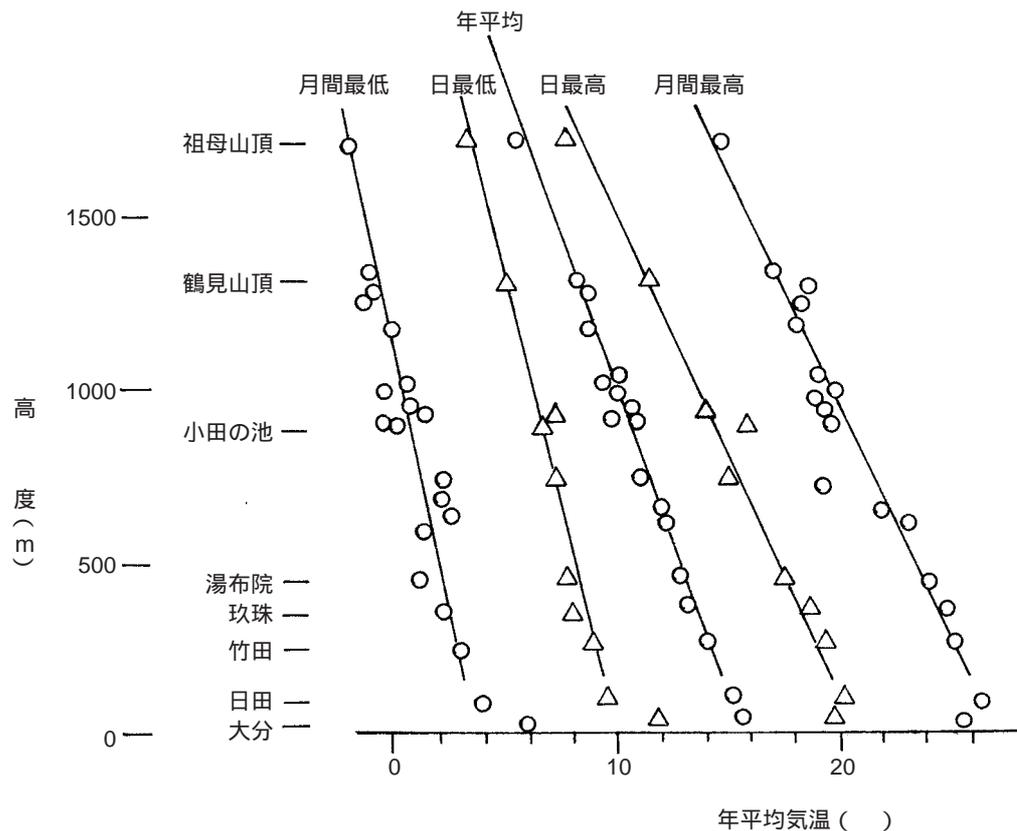


図3 . 年平均気温と高度の関係

うに、高度100mの増加につき平均気温の低下は約0.6 であって、自由大気中の気温減率とほぼ一致している。しかし、日中の最高気温および明け方の最低気温の減率は100mにつき、それぞれ約0.8 および約0.4 であり、昼夜の大気の安定度に違いが見られる。気温の日較差は、高度100mの増加につき約0.4 減少する。

図4は各地の年平均の日最高気温と日最低気温によって、気温の分布と日変化の特性を比較したものである。それによると、気候のタイプは、気温の日較差によって沿岸型と内陸型とに分けられる。年平均の気温日較差は、沿岸部で6～8 の程度であるが、内陸盆地では10～11 に達する。沿岸型の場合、年平均気温については沿岸海水温度の影響がみられる。蒲江や佐伯などで気温が高いのは、豊後水道を北上する黒潮暖流の影響であり、杵築や中津で低いのは、周防灘の水温が低いことによる。一方、盆地型では海拔高度が低いと夏季の暑さが厳しく、高度が高いと冬季の寒さが厳しい。図4において、日田（高度80m）と湯布院（450m）の関係がこのことを示す。

周防灘や別府湾などに面した沿岸部では海陸風が卓越する。昼間は、海から吹き込む風が内陸に向けて暖まり（海風）、8～10kmほど吹走してほぼ一定の気温に落ちつく。夜間には、海岸から8～10kmほど入った山沿いから、冷えた空気が海岸部に向かって吹き出しながら暖まる（陸風）。こうして、気温の日較

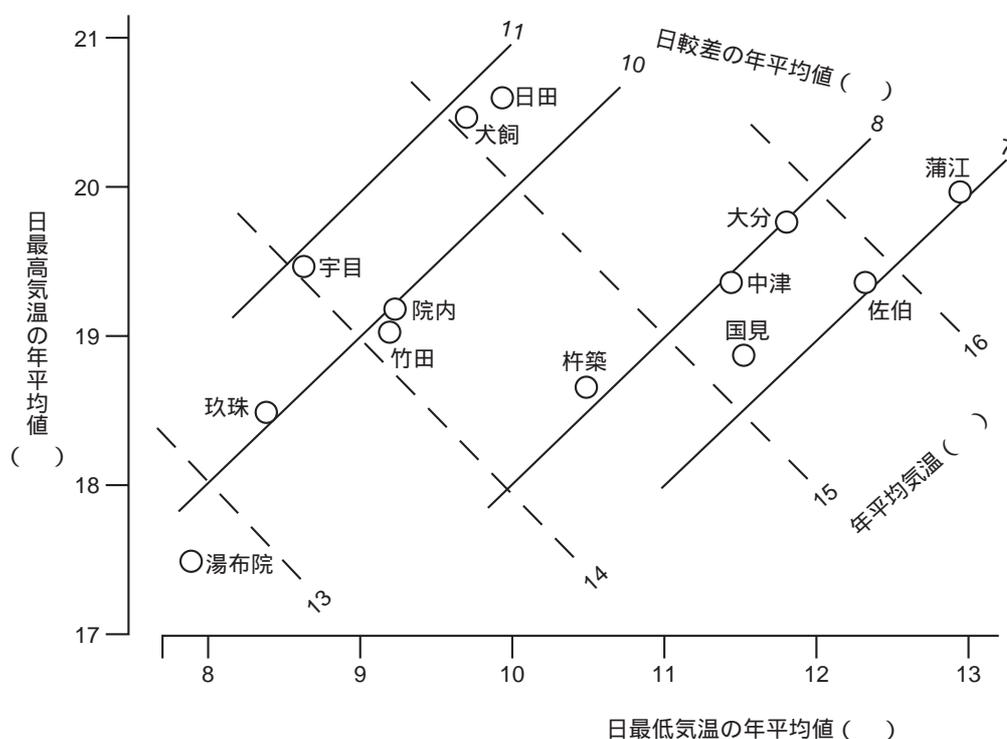


図4．各地の気温日変化特性

差から見た沿岸部と内陸部の境界は、海岸線から8～10km入ったあたりにある。

風が弱く快晴の夜間、気温はごく局地的な地形の影響を大きく受ける。盆地では、放射によって冷えた空気が100m程度の厚さで低地に停滞し、上空の暖気との間に気温の逆転層を形成する。秋季には、地面に接したこの冷気層内にしばしば底霧が発生する。一方、盆地の底から150～250mほど上がった山腹では、低地より3～5 ほど気温の高い「温暖帯」が形成されやすい。湯布院、玖珠、日田、竹田、宇目などの盆地の底から丘陵地に移行するところでは、その典型的な例がみられる。

### 3 水文環境

くじゅう連山や祖母傾山系，津江山系など，大分県の主要河川の源流域は，いずれも年平均降水量が2300～3000ミリを超える多雨域である。表1は5つの主要河川の集水域における年間の水収支を示す。例えば，大分県内最大の河川である大野川の集水域（面積1381km<sup>2</sup>）では，年平均として降水量は2160ミリ，蒸発量は680ミリそして流出高1480ミリである。日平均流出量に換算すると560万m<sup>3</sup>となる。年降水量に対する年流出高の比である流出率は0.68であって，降水量の約2/3が河川流出，残りの1/3が蒸発である。大分川や山国川など他の河川の水収支成分もほぼ同様である。また，流域面積と日流量の間には比例関係が成り立ち，各河川を平均した比流出量は約4300m<sup>3</sup>/日/km<sup>2</sup>である。これは4.3ミリ/日の水源供給量によって賄われる。

表1．大分県主要河川の年間流域水収支

河川名	流量 観測地点	流域面積 (km <sup>2</sup> )	流 量 (万トン/日)	流域年平均 降水量(ミリ)	年流出高 (ミリ)	年蒸発量 (ミリ)
山国川	下 唐 原	483	180	2020	1390	630
筑後川	小  淵	1137	500	2230	1600	630
大分川	府内大橋	601	265	2300	1620	680
大野川	白 滝 橋	1381	560	2160	1480	680
番匠川	番 匠 橋	278	130	2430	1700	730

水収支成分の季節変化を大分川と山国川について示したのが図5である。この図では，降水量から蒸発量を差し引いたものが地下水への供給量であり，この供給量に対する流出量の比較を示している。大分川の場合，6～7月に供給量が流出量より多くなって地下への水の貯留が増加し，10～12月頃には流出が供給より多くなって地下貯留からの放出が進む。供給量と流出量それぞれの変化の間には3～4ヵ月のずれがある。大野川の水収支にも同様な傾向がある。一方，山国川や番匠川の場合，供給量と流出量とはほぼ平行して変化しており，雨水からの供給は地下に貯留されることが少なく，直ちに流出することを示して

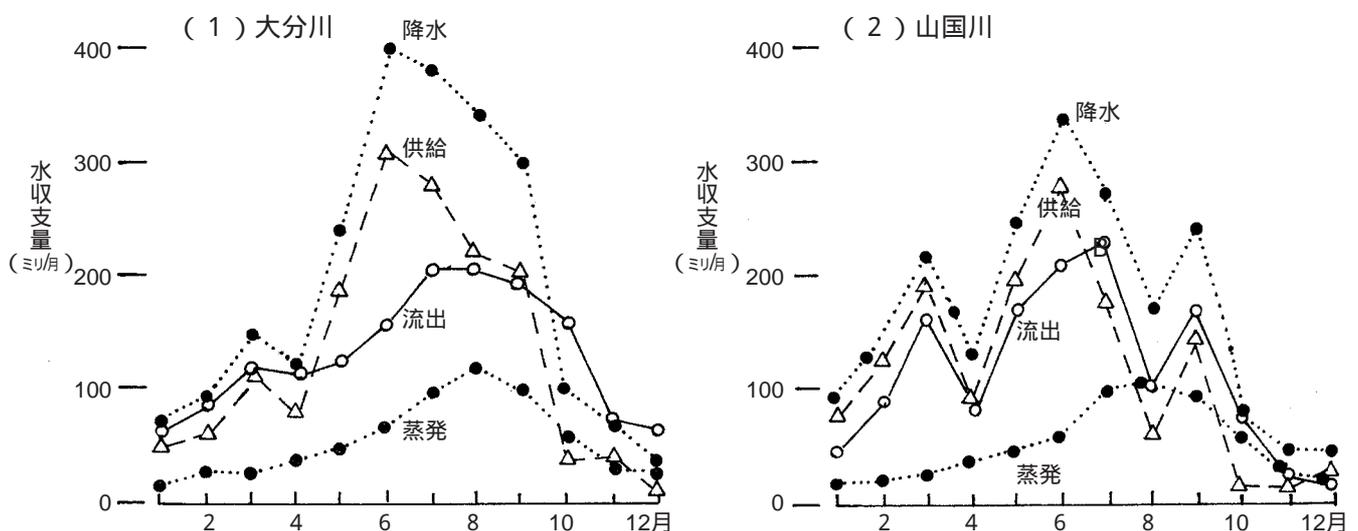


図5．河川の流域水収支成分の年変化

いる。山国川や番匠川は、大野川や大分川と比べて流出量の季節変動が大きく、特に秋から冬にかけての乾燥期には、流量がかなり減少する。集水域の地形が急峻で、地質が古くて堅い場合、地下水の浸透性が低く貯留能力が低下するためと考えられる。

源流域に降った雨が地下に貯えられて後湧き出すまでの時間（滞留時間）は、降水量の季節変化に対して応答する湧出量の季節変化の大きさから推定することができる。たとえば、全国名水百選に選定された庄内町の男池湧水群全体として、年平均湧出量36.7m<sup>3</sup>/分に対して季節的変動量は±12.7m<sup>3</sup>/分である。このことに注目すると、黒岳付近の集水域に浸透する地下水の滞留時間は半年ないし1年程度と算定される。このような調査を大分県の山岳源流域に拡張すると、河川源流を涵養する降雨 - 浅層地下水の循環は、1年程度またはそれ以内の比較的短期間のサイクルで行われている場合が多いようである。しかし、竹田盆地に湧出する名水のような規模の大きな地下水系では、滞留時間は数年程度と考えられる。

#### 4 気候の長期変化

近年、人間の活動による気候変化が、地球温暖化現象として注目されるようになった。これは単に気温上昇だけにとどまらず、異常気象の頻発や降水分布の変化、海水レベルの上昇などを通じて、生態系に甚大な影響を及ぼすことが懸念される。

大分地方気象台の110年余の観測資料により、年平均の日最高気温・日最低気温の経年変化を図6に示す。それによると大分市の年平均日最低気温は、この100年間に約2℃高くなり、特に最近25年間では約1℃の上昇を示している。これは都市化の進展によるローカルな現象であり大分市中心部などでは、晴れ

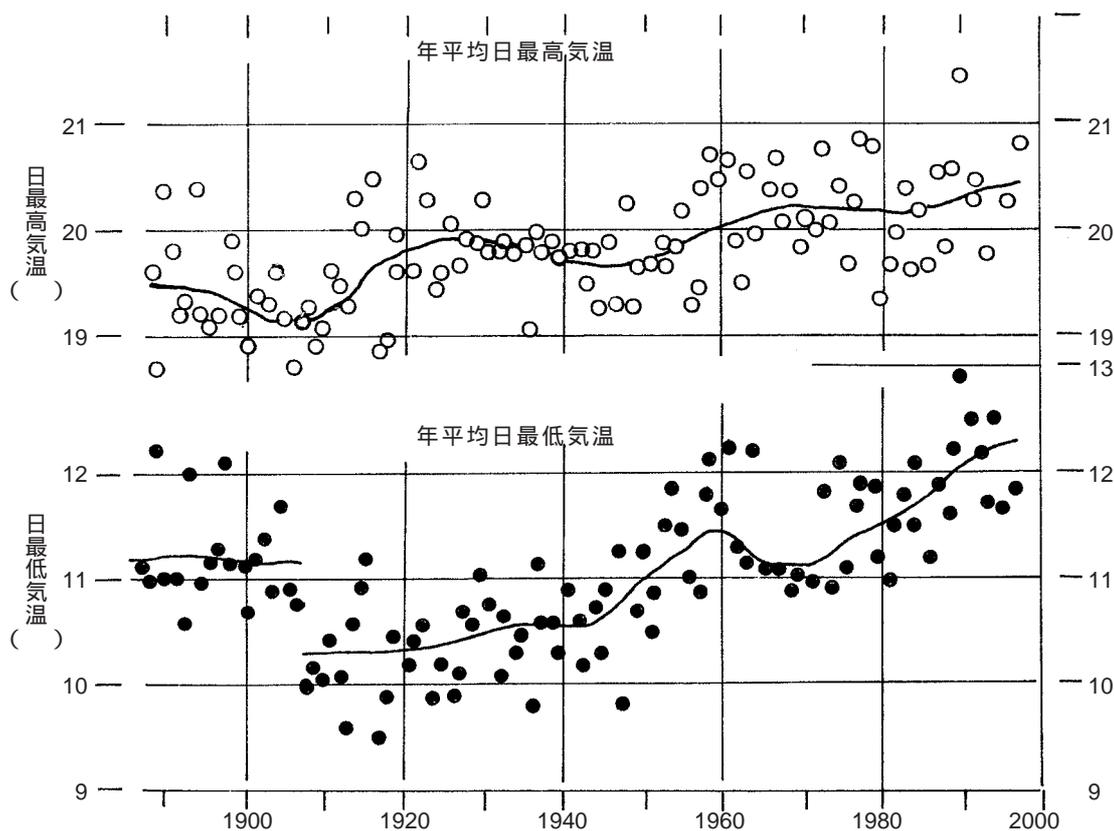


図6．大分市の気温経年変化

た夜間、郊外よりも4～6ほど高く、ヒートアイランド現象が顕著に認められる。しかし、郡部の田園地域では、夜間の気温上昇はあまり認められない。一方、昼間の最高気温の年平均値については、大分市でも田園地域でも、この100年間に約0.6の上昇がみられ、グローバルな地球温暖化の速さに近い値である。

地球温暖化による気候帯の北上速度は、日本付近では100年間で200～300kmと推定される。生態系は北上へのストレスを受けていると思われる。

大分市の年降水量については、約40年の周期のブリュックナー変動が認められる。すなわち、この100年ほどの間、平均値1660ミリを中心として±150ミリで変動し、1910年頃と1950頃がピークであった。1990年代のピークはやや不明瞭な感じである。

さらに、より長期の降水量のトレンドを見ると、最近の100年間につき約100ミリという年平均降水量の増加傾向が検出される。大分市の年平均降水量は20世紀初頭には約1600ミリであったが、現在では1700ミリに達している。降水量のこの増加傾向は、地球温暖化と連動しており、大分県全域はもちろん、かなり大きなスケールで広がっていると思われる。

謝辞 本報文の作成にあたり、大分地方気象台及び建設省大分工事事務所より多くの資料のご提供をいただいた。ここに記して深甚の謝意を表する。

#### 参考文献

川西 博：1994，大分県の気象探訪 大分合同新聞文化センター編

川西 博・西田 實：1999，くじゅう黒岳地域の気候・水文 くじゅう黒岳地域自然環境学術調査報告書 大分県

川西 博・西田 實：2000，藤河内溪谷周辺地域の気候・水文 藤河内溪谷周辺地域自然環境学術調査報告書 大分県

(大分大学名誉教授 川西 博)

## 大分県の植生

### 1 大分県の植生を支配する環境要素

大分県は九州本島の北東部、北緯32°43'～33°44'，東経130°50'～132°11'に位置しており、県東部は黒潮が洗う外洋に面し、県北部は内海の周防灘に面している。内陸地は県の北西部から西部にかけて英彦山や津江山、南西部は九重火山群、南部は祖母・傾山系の峻嶺が屏風のように連なって、大分県を半円状に囲んでいる。

本県の気候は大局的には暖温帯夏雨型多雨気候域に属しており、県南部は夏の降水量が多い典型的な西南日本太平洋型気候域であるが、県北部は年間降水量が1600mm以下となって瀬戸内型気候へ移行する。また県北西部の山地は冬季北西季節風をまともに受けて、日本海型気候の影響が植生にも反映されている。沿岸部の植生は海流の影響が大きく、黒潮が洗う県南部の沿岸地域は、緯度に比べてより暖かく、暖地性

の植物を多く伴った植生が成立する。大分県の気候区を川西博(1988)は瀬戸内型、瀬戸内型(南海型から瀬戸内型への移行帯)、南海型、内陸山地型の4つに分けているが、この気候区分と大分県の植生の地域性はよく一致している。

地質と植生の関係についてみると、西南日本の地質構造を内帯と外帯に2分する中央構造線が、大分県の中央を東西に走っており、これを境にして対照的な植生が成立する。

外帯の県南部は新生代第三紀に形成された祖母・傾山系のような古い火山が一部にあるが、大部分の地域は古生代や中世代に形成された三波川帯、秩父帯、四万十帯などの基盤岩が露出する非火山地帯であって、ここにはソハヤキ要素といわれる西南日本外帯に固有の植物が生育している。また壮年期に達した祖母・傾山系の地形は険しく、ここには気候を反映した森林帯が開発からまぬがれて残っている。

これに対して内帯の県北部や中部は新生代第四紀の火山活動による火山噴出物によって広く覆われている。中でも県中部は九重火山群や由布・鶴見火山群などの若い火山が多く、しかも阿蘇溶岩が大野川や大分川に沿って流入しているため、火山地帯特有の植生が成立する。また、この地域のフロラは氷期のころに南下した遺存植物が多い。

## 2 大分県の植生の地域性

大分県の植生は太平洋型気候、瀬戸内型気候、内陸山地型気候といった気候的要因、内帯と外帯、火山地帯と非火山地帯といった土地的要因、これに地史や海流などの要因が重なって、地域に特有の植生が成立する。この植生の地域性は図1のように6つに大別できる。

### ・1-A:太平洋型気候域(沿海型)・非火山地帯の植生

太平洋型気候域・非火山地帯の植生は東部の沿海地域と西部の内陸地域で大きな地域差が認められ、沿海型と内陸型に分かれる。これは高度的な差ばかりでなく黒潮効果が深く関わっている。

この地域は九州山地の東端が豊後水道に沈んでリアス海岸を形成し、これを黒潮が洗って沿岸部は無霜地帯となる。豊後水道に突出した半島の崖地は、地史や土地的要因を反映して、常緑硬葉型のウバメガシ・トベラ群集が成立する。また潮風が強い沿岸にはマサキ・トベラ群集、ハマビワ・オニヤブソテツ群集が成立し、ここには黒潮効果を反映してアコウ、ピロウ、ハマオモトなどの暖地性植物が自生する。年平均気温17℃、年間降水量2000mmを超えるこの地域は、沿岸部にタブ・ホソバカナワラビ群集やスダジイ・タイミンタチバナ群集、やや内陸部へ入るとコジイ・クロバイ群集、イチイガシ群集、ウラジロガシ・サカキ群集、アカガシ・ミヤマシキミ群集などが成立する。なお低地の神社林にはハナガガシの残存林があり、この群落の北限地になっている。また尾根の岩角地には九州東部の外帯に特有のアカマツ・オンツツジ群集が成立する。

### ・2-A:太平洋型気候域(内陸型)非火山地帯の植生

この地域は祖母山(1756.7m)、傾山、新百姓山、夏木山、桑原山など、標高1400~1700mの峻峰が続く九州山地とその山麓の地域である。古生代の基盤岩に第三紀の祖母火山岩が貫入してできたこの山系は、ソハヤキ要素といわれる西南日本外帯に固有の植物が生育しており、太平洋型気候を反映した森林帯が発達している。

植物の活動期間の尺度を月平均気温10℃以上の月を生育期間とし、それ以外は休眠期間としてあらわすと、大分県は標高400mまでは生育期間8か月であって、シイやイチイガシの群集が成立する。標高500mで生育期間は7か月となるが空中湿度が高くなってウラジロガシ・サカキ群集やアカガシ・ミヤマシキミ群集が成立する。標高700mで暖かさの指数85、寒さの指数-9.1になって、この付近が常緑広葉樹林帯の

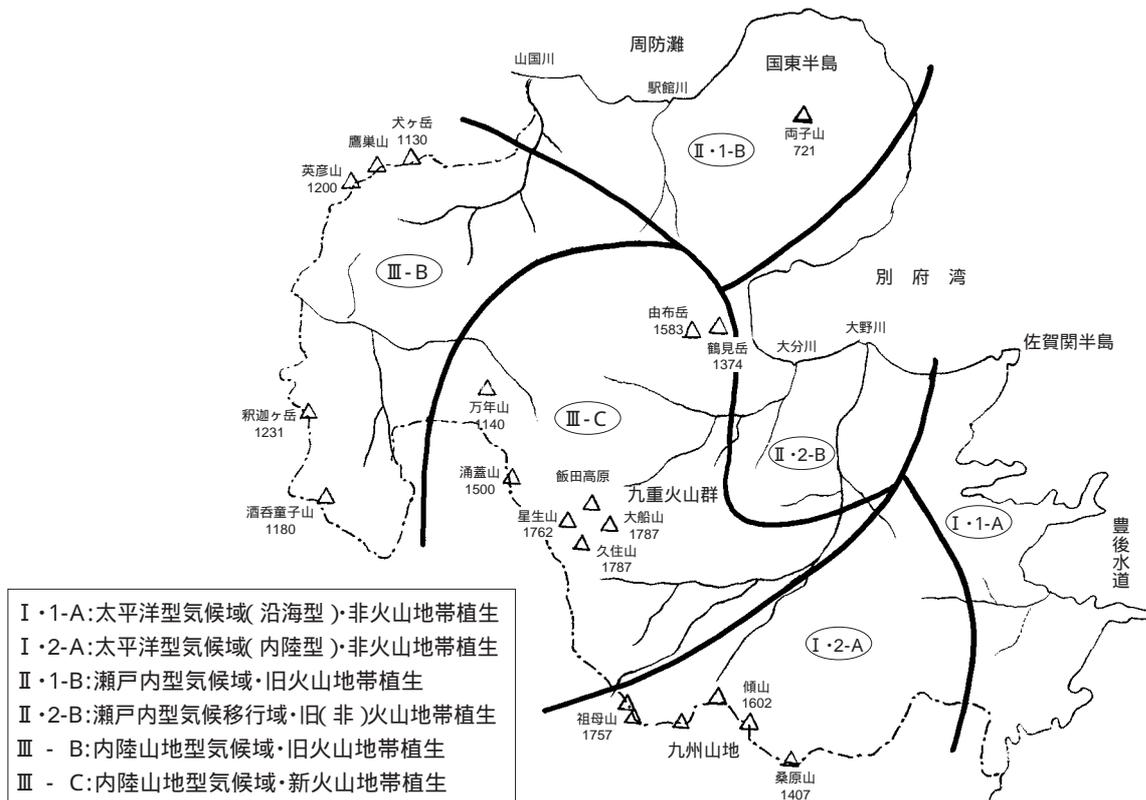


図1. 大分県の植生の地域性区分図

上限になる。

標高700mから1200mの間は生育期間6か月であって、西南日本外帯に特有のモミ - シキミ群集、ツガ - ハイノキ群集が成立する。これらの群集はヤブツバキクラスの標徴種を伴った針葉樹林で中間温帯の性格が強い。

標高1200mを越えて生育期間5か月になるとブナ - スズタケ群集が成立し、暖かさの指数60、寒さの指数 - 20付近がツガ帯とブナ帯の境界になっている。

日本の亜高山帯針葉樹林は暖かさの指数15~45、生育期間1か月以上~4か月未満の高度に成立している。大分県は標高1700mで暖かの指数43であるが、標高1800mになっても生育期間は4か月であって、なおブナ林の成立を許す温度条件である。そのため大分県の森林帯はブナ帯までであって亜高山帯針葉樹林は成立しない。

壮年期に達した祖母・傾山系の地形は険しく、尾根の岩角地はヒメコマツ - ヒカゲツツジ群集が成立し、深い溪谷はシオジ - ミヤマクマワラビ群集が成立する。

・ 1-B:瀬戸内型気候域・旧火山地帯の植生

周防灘に面した地域は年平均気温15℃、年間降水量1500~1600mmであって夏季の雨量が少ない地域である。また冬季は周防灘を吹きぬける冬季北西季節風の影響でしばしば降雪をみる。この気候を反映して、沿岸地域のシイ林はスタジイ - ヤブコウジ群集、内陸部はコジイ - クロキ群集が成立する。また、凝灰岩上は夏季の乾燥も加わってイブキシモツケ - イワヒバ群集、イワシデ群落、アカマツ - ヤマツツジ群集が成立する。

## ・2-B：瀬戸内型気候移行域・旧（非）火山地帯の植生

別府湾に面した地域で太平洋型気候から瀬戸内型気候への移行帯に相当する。アコウ、ハマオモトなどの暖地植物やウバメガシ・トベラ群集の生育地は、佐賀関半島の南側までであって北側には及ばない。豊後水道を北上した黒潮が国東半島の南東部沿岸にぶつかる付近は、局所的にスダジイ・タイミンタチバナ群集が成立するが、そのほかの沿岸地域はスダジイ・ヤブコウジ群集のイズセンリョウ亜群集である。また と の気候域はタブーイノデ群集が成立する。

### -B：内陸山地型気候域・旧火山地帯の植生

第三紀中新世から第四紀更新世の火山岩類からなる英彦山、釈迦ヶ岳、酒呑童子山など標高1100～1200mの山々が連なる古い火山地帯である。年間降水量は2000～2600mm、標高80mの日田盆地は年平均気温14.3℃、水系に恵まれて、しかも気温の日較差が大きいために霧が発生しやすい。このような気象条件であるために林業が盛んで、丘陵帯から低山地帯はスギ植林地に開発されている。

古い火山地帯であるため、祖母・傾山系と同様に気候を反映した森林帯が発達している。しかし、英彦山のブナ林はスダケのほかにはクマイザサを伴って、太平洋型気候要素の退行が目立つようになる。丘陵帯では中国地方西部や九州東北部に特有のシイモチ・シリプカガシ群集が成立し、低山地帯のツガ林では太平洋側要素のヒメシャラがヒコサンヒメシャラに代り、日本海側要素タムシバを伴うなど、日本海型気候の影響が強まってくる。

また犬ヶ岳や鷹ノ巣山などの筑紫溶岩上には第三紀遺存植物群落のヒノキ・ツクシシャクナゲ群集が残存し、耶馬溪溶結凝灰岩上にはイワシデ群落が成立する。

### -C：内陸山地型気候域・新火山地帯の植生

九州本島最高峰の大船山や久住山（1787m）、稲星山、星生山、三俣山など、標高1700m級のトロイデ火山が集まった九重火山群、並びに由布・鶴見火山群とその山麓地域であって今も一部で硫気が噴出するなど、地質年代の若い火山地域である。標高828mの飯田高原は年平均気温11.3℃、冬季の積雪日数は年平均30日、時には30～50cmの積雪を見ることもある。

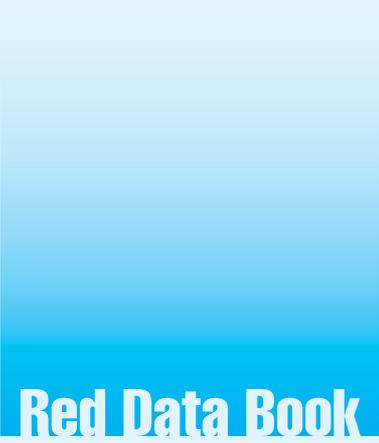
九重火山群は祖母・傾山系と緯度や海拔高度がほぼ同じであるが、土地的な要因が異なるために、祖母・傾山系のような森林帯はできないまま、火山地帯特有の植生が成立する。

山頂付近の植生は冬季北西季節風の影響も加わって、標高1500m付近が森林限界になって、ミヤマキリシマ・マイヅルソウ群集が成立し、高山帯の相観によく似た火山山頂帯植生を形成する。山地帯のブナ・スダケ群集は貧弱で、ミズナラ・リョウブ群集やノリウツギ・ヤマカモジグサ群集などの退行林が目立つ。低山地帯は西南日本太平洋型気候域に特有のモミ・ツガ林は退行し、代ってクヌギ・ミツバツチグリ群集、コナラ・コバノガマズミ群集、クマシデ・コガクウツギ群集が成立し、浅い谷はケヤキ・ヒメウワバミソウ群集が成立する。

山麓の火山高原一帯は定期的な火入れ、採草、放牧などの人為が加わってススキ・トダシバ群集が広範囲にわたって成立する。また局所的ではあるが、凹地形の湿地にはヨシ・ヤマアゼスゲ群集やヌマガヤ・ヒメミズゴケ群集で代表される湿原植物群落を形成する。

丘陵地帯は河川に沿って火山溶岩や火砕流が流入している。大部分が安山岩類であって、ここにはシイ林が成立しにくく、代ってアラカシ・ジャノヒゲ群集が成立する。

（日本植生学会会員 須股 博信）

The logo consists of a vertical rectangle with a blue-to-white gradient. At the bottom, the text "Red Data Book" is written in white on a solid blue background.

**Red Data Book**

『レッドデータブックおおいた』の作成



## 1．レッドデータブック作成の背景

我が国では、1989年に（財）日本自然保護協会と（財）世界自然保護基金日本委員会により、レッドデータブックの国内版として、維管束植物を対象にした「我が国における保護上重要な植物種の現状」を出版した。また、1991年には環境庁が動物を対象とした「日本の絶滅のおそれのある野生生物 脊椎動物編」及び「日本の絶滅のおそれのある野生生物 無脊椎動物編」をそれぞれ刊行した。また、動物関係の新しいレッドリストを1997年に爬虫類と両生類、1998年に哺乳類と鳥類、1999年に魚類、2000年には昆虫を公表した。一方、植物関係では、1997年に維管束植物と維管束植物以外のレッドリストを公表した。そして、2000年には環境庁から維管束植物版のレッドデータブックが発刊され、日本国内における保護すべき動植物が明確になり、野生生物を人為的に絶滅させないことの啓発活動に役立っている。

これらの国内版レッドデータブックは、全国的な視野からまとめられているため、必ずしも都道府県の現状に沿ったものとはなっていない。そのため、地域の自然環境の保全に十分に機能しているとはいえない。

したがって、地域における適切な野生生物の保護や自然環境保全の施策推進を図るためには、地域版のレッドデータブックの作成が必要となる。各都道府県においては、1995年に神奈川県、兵庫県、広島県のレッドデータブック発刊を皮切りに、全国各地でその作成の取り組みが行われている。

## 2．県版レッドデータブック作成の意義

我が国は、1992年の国連環境開発会議（地球サミット）において157か国により署名された「生物の多様性に関する条約」を受諾した。そして、同年6月に希少野生生物の保護を図るため「絶滅のおそれのある野生植物の種の保存に関する法律」が制定され、1995年10月には「生物多様性国家戦略」が関係閣僚会議で決定された。

近年、自然環境の改変や野生生物の絶滅に対する強い危機意識が広く社会に認識されるようになり、子や孫の世代に豊かな自然を継承することの大切さが理解されるようになってきた。

21世紀における最大の課題である生物多様性の保全に取り組むためには、その重要な基礎データ集としてのレッドデータブック（RDB）は、今後ますます重要な役割を果たすことになるものと思われる。

大分県では、平成9年7月に、「大分県野生生物保護対策検討委員会」を発足させた。そして、5年間という長期間にわたって、RDBの調査・研究、編集などのすべての作業を、県内における重要な自然を総合的に調査・研究してきた実績をもつ「大分県自然環境学術調査会」に依頼した。調査会では「野生生物専門部会」を組織し、その主体的活動を通じて、絶滅の危機に瀕している大分県の野生生物の現状を明らかにした。『レッドデータブックおおいた』は、野生生物の保護対策等への取り組みの重要な基礎資料集として、今後ますます重要な役割を担うこととなる。本書は、このような趣旨に基づいて刊行するものである。

## 3. 県版レッドデータブック作成の概要

### (1) 作成の目的

大分県は、豊かな自然環境に恵まれ、多様な野生生物が生育・生息しており、学術的にも高く評価されている。一方、各種開発に伴う森林伐採や土地改変等による自然環境の改変や移入動植物種による攪乱、人による採取等により、野生生物の絶滅のおそれの危険性は深刻度を増している。

このような状況を踏まえ、大分県の野生生物相の現状を把握し、「絶滅のおそれのある野生生物種」の視点から評価を行い『レッドデータブックおおいた』を発刊し、ここに公表して、県民・行政が一体となって希少野生生物の保護活動に活用するとともに、21世紀の自然生態系の保全計画に資することを目的とする。

### (2) 作成の方法・作業手順

本書は、「大分県野生生物保護対策検討委員会」において構想され、合議された事項について「野生生物専門部会」によってその実行が討議され、それぞれの生物分類群ごとに特性をふまえた現地調査を行い、その成果を集積していった。カテゴリーの決定、レッドリストの作成、選定種の抽出と評価、補足調査などの調査・研究を経て、その内容がしだいに深まり統合されていった。『レッドデータブックおおいた』は、こうした過程を経て野生生物専門部会で組織する「RDB編集委員会」を通じてまとめられたものである。

『レッドデータブックおおいた』作成の年度別作業手順は、次表の通りである。

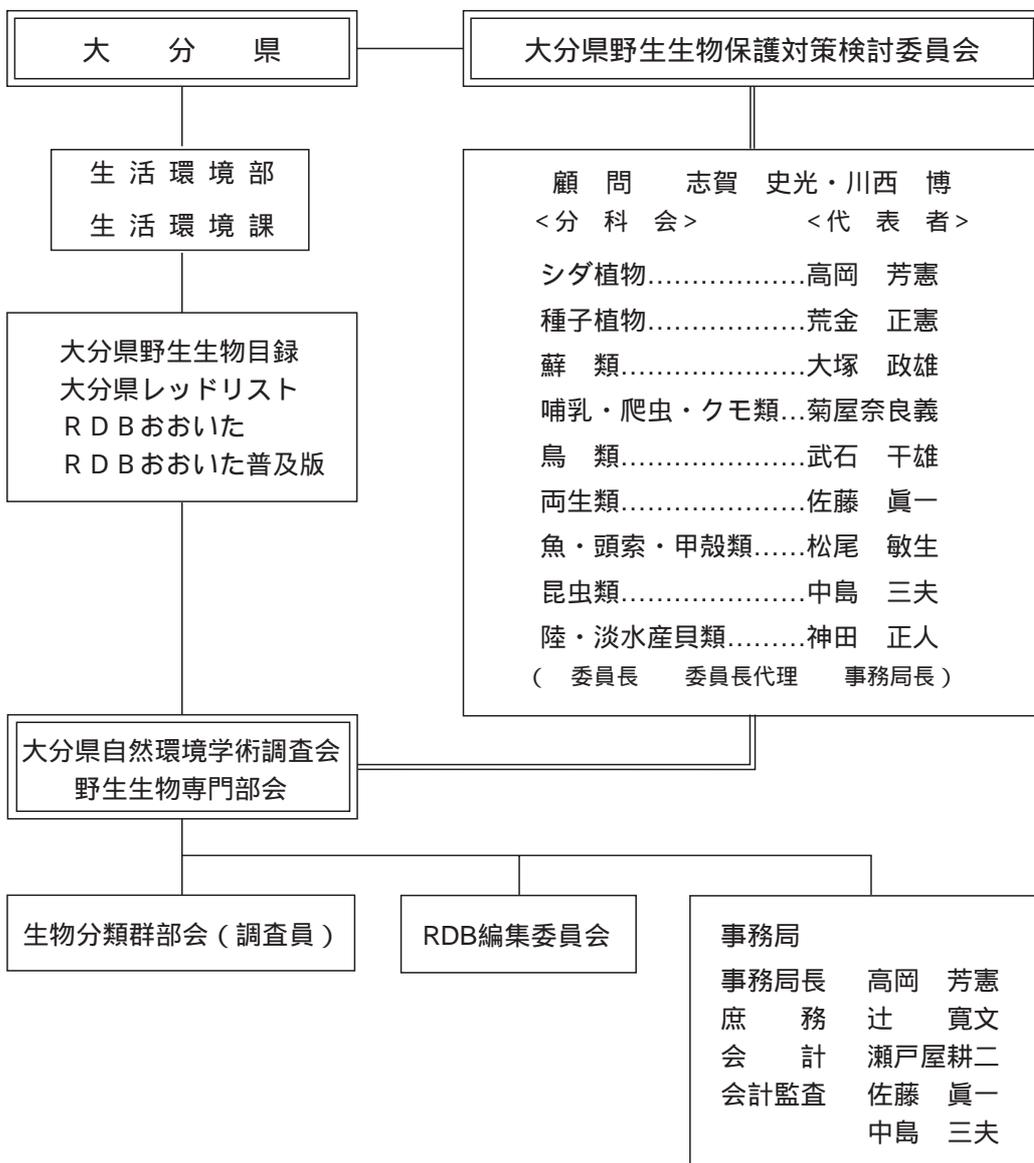
年度別作業手順

平成 9 年度	RDBフレームの設定 カテゴリー区分の設定（危惧性・減少要因） 文献調査 現地調査（生態写真・標本作成等を含む）→ 「調査情況報告書」	調査項目等の作成 生育・生息の状況 生育・生息環境 減少の原因等 情報不足種の場合 把握調査
10 年度	野生生物の危惧性カテゴリーに よる保護上重要な選定対象種の選定 現地調査（生態写真・標本作成等を含む）→ 『野生生物目録の作成』（生物分類群ごと）	
11 年度	カテゴリー・選定対象種の見直し 現地調査（生態写真・標本作成等を含む）→ 『大分県版レッドリスト』の作成	
12 年度	補足調査（生態写真・標本作成等を含む）→ 『大分県版RDB』原稿完了 → ↓ 『レッドデータブックおおいた』発行	
13 年度		『レッドデータブックおおいた』普及版の発行

### (3) 調査・研究体制

「大分県野生生物保護対策検討委員会」の組織体制は下図の通りである。本委員会は、顧問2名、各分科会の代表者9名、計11名から構成され、さらに各分科会にはそれぞれ生物分類群部会の調査員が配属している。検討委員会では、主に委員会全体にかかわる基本的事項の決定や課題の処理、決定事項の周知徹底、並びに連絡調整等を行った。また、「野生生物専門部会」では、具体的な実施方法などを協議し、調査・研究を実行した。『レッドデータブックおおいた』の編集には、各生物分類群ごとの編集委員で組織する「RDB編集委員会」が携った。

組織図



大分県野生生物保護対策検討委員会

顧問	志賀 史光	大分県自然環境学術調査会会長
顧問	川西 博	大分県自然環境学術調査会会員
委員長	荒金 正憲	大分県植物研究会会長（種子植物）
委員長代理	武石 干雄	日本野鳥の会大分県支部長（鳥類）
事務局長	高岡 芳憲	大分県植物研究会事務局長（シダ植物）
委員	大塚 政雄	大分県植物研究会会員（蕨類）
委員	菊屋奈良義	大分野生生物研究センター（哺乳類・爬虫類・クモ類）
委員	佐藤 眞一	大分生物談話会会長（両生類）
委員	松尾 敏生	日本動物学会会員（魚類・頭索類・甲殻類）
委員	中島 三夫	大分昆虫同好会会長（昆虫類）
委員	神田 正人	九州貝類談話会理事（陸・淡水産貝類）

レッドデータブック調査員（五十音順， 印は編集委員）

<シダ植物>	大城比佐子	荻田 和子	菅原 明美	高岡 芳憲
	辻 寛文	三浦 恒美	吉田 元子	
<種子植物>	阿孫 久見	阿部 泰雄	荒金 正憲	池永 邦夫
	泉 一徳	大上 和宏(故)	小代 連枝	小田 毅
	神川 建彦	川田 計(故)	木下 義雄	先砥 庸治
	佐藤三千代	生野喜和人	須股 博信	瀬戸屋耕二
	竹尾 良造	藤内 広三	中島 昌己	中原 洋子
	中山 孝則	羽田野二男	真柴 茂彦	安田 彬明
<蕨類>	大塚 政雄	小野 智幸		
<哺乳類・爬虫類・クモ類>		足立 高行	菊屋奈良義	桑原 佳子
	小林 晶(故)	佐藤 隆昭(故)	田辺 時男	堤 賢三
	野村 英俊	野村 洋子	平野 憲治	三田井寿一
	渡辺 政治			
<鳥類>	足利 慶聖	宇野 久生	郷司 信義	後藤 聡
	財津 博文	志賀 信幸	島岡 章	高野橋 豊
	武石 干雄	武石 宣彰	立川 孝之	谷上 和年
	丸野安比古	南 次郎		
<両生類>	内田 保博	小野 充之	佐藤 眞一	西田 實
	平松 恒彦	堀江 道廣	渡辺ひろ美	
<魚類・頭索類・甲殻類>		阿部 隆行	梅津 幸雄	鳥越善太郎
	藤沢 信一	星野 和夫	松尾 敏生	
<昆虫類>	堤内 雄二	中島 三夫	羽田 孝吉	三宅 武
	宮田 彬			
<陸・淡水産貝類>		神田 正人	浜田 保	室原 誠司

## 4 . 保護上重要な対象種

### (1) 選定対象種の範囲

選定対象種の範囲は、大分県内に生息・生育する野生動植物とした。その分類群は原則として種、亜種、変種とし、雑種、品種及び外来種、移入種、飼育種、栽培種などは除外した。

対象とした生物分類群の範囲は、次の通りである。

【植 物】	シダ植物	種子植物	蕨 類	
【動 物】	哺乳類	鳥 類	爬虫類	両生類
	魚 類	頭索類	昆虫類	クモ類
	甲殻類	陸・淡水産貝類		

### (2) カテゴリーの定義と区分

本県のカテゴリー定義は、1997年の環境庁の「新たなカテゴリーとその定義」に準拠した。

また、絶滅のおそれのある選定種の決定基準は、環境庁のカテゴリー区分（1997）に準じて野生絶滅、絶滅危惧 A類、絶滅危惧 B類、絶滅危惧 類、準絶滅危惧、情報不足及び絶滅のおそれのある地域個体群の7カテゴリーとし、これらのカテゴリーに該当するものを選定種とした。

### (3) 種の配列とカテゴリー区分の並記

#### 種の配列

本書における種の配列は、カテゴリー別区分とはせず、分類群ごとの種の配列順としてまとめた。

このような配列を行ったことで、

分類群における選定種全体の様子が把握できる。

科や属の特性がとらえられる。

近縁種のカテゴリー区分が理解でき、比較することができる。

環境庁や他県の選定種（掲載種）との関係が分かりやすい。

なお、カテゴリー別の種の配列は、巻末資料に掲載してある。

#### カテゴリー区分の並記

本書では、大分県のカテゴリー区分と環境庁のカテゴリー区分を並記した。これには次のような利便性がある。

国レベルと地方レベルの考え方が共通化できる。

野生物の地方における生育・生息状況や危険度の違いを、カテゴリーのランクの違いから知ることができる。

大分県では選定種として扱われているが、環境庁では掲載されていない種であることなどから、地域の特性を理解することができる。

次頁の表は、環境庁のカテゴリー及び大分県版RDBに使用したカテゴリー（略号）である。本書における種のカテゴリーの多くは、略号を用いてある。

## レッドデータブック カテゴリー

レッドデータブックカテゴリー（環境庁 1997）	大分県版RDB(2001) 「略号」
<p>「絶滅(EX)」 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p>	
<p>「野生絶滅(EN)」 飼育・栽培下でのみ存続している種</p>	「野生絶滅」
<p>絶滅危惧 = 絶滅のおそれのある種</p> <p>「絶滅危惧 類(CR + EN)」 絶滅の危惧に瀕している種</p> <p>「絶滅危惧 A類(CR)」 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種</p> <p>「絶滅危惧 B類(EN)」 A類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種</p> <p>「絶滅危惧 類(VU)」 絶滅の危険が増大している種</p>	<p>「 A」</p> <p>「 B」</p> <p>「 」</p>
<p>「準絶滅危惧(NT)」 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</p>	「準」
<p>「情報不足(NT)」 評価するだけの情報が不足している種</p>	「情報不足」
<p>付属資料「絶滅のおそれのある地域個体群(LP)」 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群</p>	「地域個体群」

環境庁（1997）のカテゴリーの内容説明は、環境庁編集のレッドデータブック（2000）等に詳しく掲載されている。なお、環境庁のカテゴリーについても比較のため、本書では略号を用いた箇所がある。

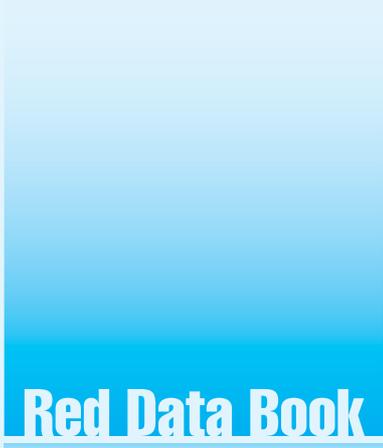
## 5 . 絶滅のおそれのある種の選定結果

次表は『レッドデータブックおおいた』に掲載した選定種を，各生物分類群ごとにカテゴリー別にまとめたものである。これには，植物は3生物分類群739種，動物は10生物分類群 396種，計13生物分類群 1,135種が登載されている。

大分県の絶滅のおそれのある選定種一覧

カテゴリー (略号) 生物分類群	野生絶滅 (野生絶滅)	絶滅危惧 A類 ( A )	絶滅危惧 B類 ( B )	絶滅危惧 類 ( )	準絶滅危惧 (準)	情報不足 (情報不足)	絶滅のおそれ ある地域個体群 (地域個体群)	県版RDB 選定種	大分県選定 対象種	比 率 (%)
植 物										
シダ植物	0	30	20	17	18	17	0	102	330	30.9
種子植物	1	74	159	186	91	95	0	606	2,036	29.8
蘚 類	0	7	4	4	12	4	0	31	452	6.9
小 計	1	111	183	207	121	116	0	739	2,818	26.2
動 物										
哺乳類	1	1	2	6	8	1	2	21	37	56.8
鳥 類	0	5	12	22	22	15	1	77	約 470	16.4
爬虫類	0	2	2	1	0	1	1	7	18	38.9
両生類	0	1	0	2	2	0	1	6	17	35.3
魚 類	0	0	4	4	7	7	1	23	約 100	23.0
頭索類	0	1	0	0	0	0	0	1	約 40	2.5
昆虫類	0	9	21	29	70	36	0	165	約5,000	3.3
クモ類	0	1	0	0	12	20	8	41	約 600	6.8
甲殻類	0	1	1	2	3	0	0	7	約 200	3.5
陸・淡水産貝類	0	10	16	8	12	2	0	48	190	25.3
小 計	1	31	58	74	136	82	14	396	6,672	5.9
合 計	2	142	241	281	257	198	14	1,135	9,490	12.0



The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font at the bottom of the square, with a thin white horizontal line underneath it.

**Red Data Book**

# 保護上重要な植物

## 1. シダ植物



## (1) 概要

### 概況

これまでに大分県で生育が確認されているシダ植物は330種(21変種, 48雑種を含む。品種は省いた。)であり, このほとんどは『新版大分県植物誌』(1989)に記載されている。『新版大分県植物誌』で分布量が[少]や[希]であるものと, その後に本県で生育が確認されたシダ植物を選定対象種とし, 1995年から2000年にかけてそれらの生育状況調査を行った。その結果, 何らかの要因により絶滅のおそれのある102種をシダ植物の選定種として取り上げた。これは大分県で生育が確認されたシダ植物の実に30.9%にあたり, 多くのシダ植物が絶滅の危機にさらされていることになる。また, 今回選定対象としなかった種のなかにも個体数や生育地が減少傾向にあるものが多くあり, シダ植物を取り巻く自然環境の悪化の深刻さがわかる。

危険性の要因としては「自然林の減少」が最も多く, 1960年代に県内各地で行われた大規模な自然林の伐採と人工林への転換により, 急激にその生育地や個体数を減らしたものが多くみられる。特に着生種でその傾向が大きく, 近年では酸性雨や地球温暖化がそれに拍車をかけていると考えられるものもあった。また, ため池や水田などの水湿地に生育するシダ植物の多くで絶滅の危険性が高まっている。特にデンジソウやアカウキクサ, サンショウモなど1970年代までは県内各地で普通にみられたものが, 除草剤の普及や水質汚濁などの原因により, 生育地が激減している。その他のシダ植物では, 好石灰岩性のシダ植物などのように分布域が限られているものに減少傾向が著しかった。人による園芸用の採取が, 本県でも数種みられた。

### 選定種について

シダ植物の大分県RDBカテゴリー別選定種数は下表の通りである。なお, 品種は選定の対象から省いた。「情報不足」の種については, 過去に本県での標本や文献記録等はあるが, それ以降の生育が確認できていないものを取り上げている。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	総計
大分県	0	30	20	17	18	17	102
環境庁	0	3	9	9	0	0	21

「環境庁」は, 環境庁レッドデータブック(2000)掲載分類群の大分県関係数。

### 解説の項目・内容について

選定種についての各項目の解説は, 下記の要領で行った。

#### 「選定理由」

日本における分布, 県内分布, 種の特性, 生育地における現状, 危険性の主要因等を踏まえ, 本県における適切なカテゴリーを選択した理由を記述した。

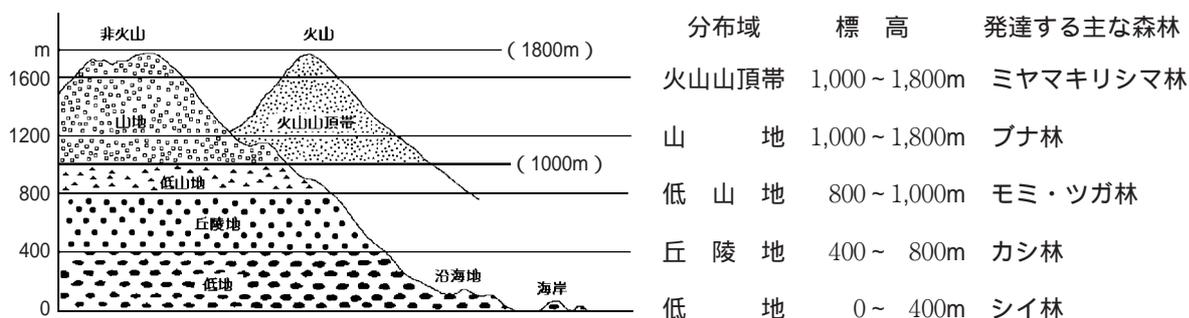
#### 「県内分布」

大分県を地形や地質, 気候などの要因で分けた次頁の野生植物地域区分図(荒金・1998)を用いた。なお, 耶馬溪・国東丘陵地については, 種の分布状況により耶馬溪地区と国東地区に細分して記したものもある。「情報不足」のものについては, 原則として県内分布は記載しなかった。ただし, 標本や文献記録から過去の生育地が判明しているものについては, ( )書きとした。



野生植物地域区分図（荒金正憲；1998）

- ① 耶馬溪・国東丘陵地（耶馬溪地区・国東地区）
- ② 周防灘海岸（豊後高田市を含む）
- ③ 中津・宇佐低地（三光村を含む）
- ④ 姫島・国東海岸（およそ真玉町から安岐町まで）
- ⑤ 英彦山・犬ヶ岳山地（山国町槻木、経読岳・雁股山・大平山を含む）
- ⑥ 日田低地・丘陵地（大山町・天瀬町を含む）
- ⑦ 津江山地（前津江村・中津江村・上津江村）
- ⑧ 玖珠丘陵地・山地（九重町平家山・玖珠町日出生台・福万山を含む）
- ⑨ 九重火山群（湯布院町小田の池・九重町飯田高原・久住町久住高原を含む）
- ⑩ 由布・鶴見火山群（経塚山・西の台、別府市神楽女湖を含む）
- ⑪ 別府湾沿岸域（杵築市から大分市の沿海地）
- ⑫ 大分川・大野川丘陵地（湯布院町・庄内町・野津原町・直入町・大野町など）
- ⑬ 豊後水道域（佐賀関町から蒲江町の沿海地）
- ⑭ 豊後水道後背地域（臼杵市・津久見市・野津町・弥生町・本匠村・直川村・佐伯市などの丘陵地）
- ⑮ 石灰岩地域
- ⑯ 大野川上流域（朝地町・竹田市・荻町・緒方町・清川村・三重町など）
- ⑰ 祖母・傾山地（竹田市越敷岳・緩木山・大障子岩、緒方町尾平、祖母・傾山など）
- ⑱ 北川上流域（宇目町藤河内・新百姓山・夏木山・鷹鳥屋山など）



大分県の植物垂直分布域（『新版大分県植物誌』より）

#### 「分布域」

国内における分布と国外における分布を記した。九州における分布については、分布が確認されている県名をすべて挙げた。

#### 「生育環境」

大分県における垂直分布域、並びに主たる生育環境を記した。「情報不足」のものについては原則として記載しなかった。

#### 「現状」

およそ過去10年間の生育地、並びに生育個体の消長をできるだけ量的に把握し記述した。

#### 「備考」

以下のような内容について記載した。

固有種、分布の限界域にあたるもの。

「情報不足」のものは過去の標本や文献記録等の情報。

国立・国定公園指定植物の[公園名]、天然記念物の指定を受けているもの。

種の分類学上の位置付けなど。

#### 危険性の主要因

選定理由に危険性の主要因として挙げたものには、次のようなものがある。

- ・森林伐採
- ・池沼・湿地開発
- ・河川開発
- ・海岸開発
- ・草地開発
- ・石灰岩等の採掘
- ・土地造成
- ・道路工事
- ・ダム建設
- ・水質汚染
- ・除草剤の使用
- ・園芸用採取
- ・踏み付け
- ・管理放棄
- ・遷移進行
- ・その他

#### 選定種の配列

科・属・種の配列、選定種の和名・学名は岩槻邦男編『日本の野生植物 シダ』（1992）に従った。

## （2）文献

荒金正憲 地域に特徴的な大分県産種子植物（1998）

岩槻邦男編 日本の野生植物 シダ（1992）

大分県植物誌刊行会 新版大分県植物誌（1989）

大分県植物研究会 大分県の植物 第1号（1991）～第10号（2000）

- 環境庁自然保護局編 改定・日本の絶滅のおそれのある野生植物 - レッドデータブック - 8  
 植物 (維管束植物)(2000)
- 倉田悟・中池敏之編 日本のシダ植物図鑑 1 (1979) ~ 8 (1997)
- 高岡芳憲 暖地性シダ植物の系統分類 (1979)
- 日本野生生物研究センター 緊急に保護を要する動植物の種の選定調査基礎資料 維管束植物種  
 都道府県別分布表 (1992)

## マツバラン

*Psilotum nudum* (L.) Beauv.マツバラン科  
Psilotaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

- 選定理由** 宮城県以南に広い分布域をもつ。かつては県内に広く分布していたが、開発の影響を受けたり、園芸用に採取されることが多く、生育地が年々少なくなっている。
- 県内分布** 中津・宇佐低地, 耶馬溪・国東丘陵地, 日田低地・丘陵地, 別府湾沿岸域, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道域, 大野川上流域
- 分布域** 本州(宮城, 石川県以西)・四国・九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)・沖縄  
韓国済州島, 中国南部から世界の熱帯・亜熱帯
- 生育環境** 低地や丘陵地の岩壁の割れ目や樹幹。
- 現 状** 岩面の掘削や吹付工事などにより消滅したり, 個体数が減少している生育地がある。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 祖母傾]

## ヒメスギラン

*Lycopodium chinense* Christヒカゲノカズラ科  
Lycopodiaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 北海道から九州にかけて広く分布し, 落葉広葉樹林帯にやや希に生じる。本県では遷移進行や自然林の伐採などによる生育環境の悪化が懸念される。
- 県内分布** 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 祖母・傾山地
- 分布域** 北海道, 本州, 四国, 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島, 中国, ロシア東部, カナダ
- 生育環境** 低山地のコケの生えた岩上や樹幹に着生。
- 現 状** 生育地が減少しており, 現在生育が確認できているのは数か所である。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 祖母傾]

## ヒモラン

*Lycopodium sieboldii* Miq.ヒカゲノカズラ科  
Lycopodiaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

- 選定理由** 九州南部以外ではごく希に分布し, 園芸用採取や森林伐採などにより絶滅の危機に瀕している。本県でも現存する生育地は数か所で, 絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地, (玖珠丘陵地・山地)
- 分布域** 本州(伊豆半島・東海道・紀伊半島・隠岐), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)・沖縄  
韓国済州島, 中国, 台湾
- 生育環境** 丘陵地や低山地の林内の岩上や樹幹に着生。
- 現 状** 生育を確認できる所は数か所で, 個体数も極めて少ない。「玖珠丘陵地・山地」の生育地は風水害により消滅した。

## スギラン

*Lycopodium cryptomerinum* Maxim.ヒカゲノカズラ科  
Lycopodiaceae

## カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB

**選定理由** 北海道東部から屋久島にかけて希に分布する。本県での生育地は少なく、自然林の伐採や風水害などにより消滅した生育地が増えており、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 津江山地，九重火山群，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 北海道東部,本州,四国,九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
韓国済州島,台湾,インド

**生育環境** 低山地の自然林内の樹幹や岩上に着生。

**現 状** 県内における確実な生育地は数か所となっている。

## ミスズギ

*Lycopodium cernuum* L.ヒカゲノカズラ科  
Lycopodiaceae

## カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし

**選定理由** 熱帯・亜熱帯性のシダ植物で、海岸近くのやや湿った向陽地や噴気孔周辺に生じる。本県では宅地開発や遷移進行などによる生育環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地，九重火山群，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 北海道東部,本州(東北地方中部以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
世界の熱帯・亜熱帯

**生育環境** 沿海地・低地の日当たりのよい崖や路傍，噴気孔周辺。

**現 状** かつては都市部にも生育地が多くあったが、そのほとんどが消滅し、近年は郊外でも消滅した生育地が目立つようになった。

## シナミスズラ

*Isoetes sinensis* Palmerミスズラ科  
Isoetaceae

## カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB

**選定理由** 本州のごく一部と九州に希に分布する。本県では県北部の池沼に生育しているが、池沼の改修や水田除草剤、富栄養化の影響を受け、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地

**分布域** 本州(新潟),九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
中国揚子江流域

**生育環境** 低地や丘陵地の浅い池沼。

**現 状** 県北部の池沼にごく希に生育している。生育個体は池沼の水量が減った時だけに確認できる。

**オオバシナミズニラ***Isoetes sinensis* Palmervar. *coreana* (Y.H.Chung & H.K.Choi)  
M.Takamiya, Mitsu. Watana. & K.Onoミズニラ科  
Isoetaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (由布・鶴見火山群)

分布域 本州(茨城・長野, 中国地方), 四国(愛媛・高知), 九州(福岡・大分・宮崎)  
朝鮮半島

生育環境 丘陵地の浅い池沼。

現 状 1951年に別府市志高湖で採集された標本はあるが, それ以降は確認されていない。

備 考 シナミズニラの6倍体変種。

**ハマハナヤスリ***Ophioglossum thermale* Komarovハナヤスリ科  
Ophioglossaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 北海道から沖縄にかけて希に分布する。本県では自然海浜の減少や道路舗装などで消滅した生育地があり, 絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 別府湾沿岸域, 大分川・大野川丘陵地, 大野川上流域

分布域 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
シベリアから中国・台湾の東アジア, ミクロネシア

生育環境 沿海地から丘陵地のやや湿った砂地や芝生。

現 状 芝生に生じる場合が多く, 生育地は数か所だけとなっている。

**ヒロハハナヤスリ***Ophioglossum vulgatum* L.ハナヤスリ科  
Ophioglossaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 北海道から九州にかけて広く分布するが, 南に行くほど少なくなる。本県では森林の伐採や草原の牧野化による生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地, 別府湾沿岸域, 由布・鶴見火山群, 九重火山群,  
豊後水道後背地域分布域 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)  
北半球の温帯

生育環境 丘陵地の林床や林縁, 竹林や野焼をした原野に群生。

現 状 落葉樹林の林床や林縁, 野焼をした原野や竹林などで生育が確認できるが, 消滅した生育地もある。

## ナガホノナツノハナクラビ

*Botrychium strictum* Underw.

ハナヤスリ科  
Ophioglossaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 山地の林床に比較的希に生じ、暖地では分布が特に限定される。本県の生育地では個体数はごくわずかで、森林伐採や林道工事などにより絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分)  
朝鮮半島,中国

**生育環境** 山地のやや暗い林内や林縁。

**現 状** 過去に県内で採集された標本はあったが、1999年に生育が再確認された。

## リュウビンタイ

*Angiopteris lygodiiifolia* Rosenst.

リュウビンタイ科  
Marattiaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯性の大型常緑シダ植物で、本県では県南部の照葉樹林内に生育し、個体数はごくわずかである。森林伐採や林道工事などにより絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(伊豆諸島・伊豆半島・東海地方・紀伊半島南部),四国(徳島・高知),九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
台湾

**生育環境** 沿海の無霜地帯の常緑林内多湿地。

**現 状** 1998年に初めて生育地を確認した。生育範囲はごく狭く、数個体が自生しているだけである。

## ヤシャゼンマイ

*Osmunda lancea* Thunb.

ゼンマイ科  
Osmundaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (大分川・大野川丘陵地)

**分布域** 北海道南部,本州,四国,九州(大分・宮崎)

**生育環境**

**現 状** 本県では1955年に湯布院町湯平で採集された標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山,祖母傾 ]

## シロヤマゼンマイ

*Osmunda banksiifolia* (Pr.) Kuhnゼンマイ科  
Osmundaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 静岡県以西の暖地に分布する常緑性の大型シダ植物。本県での生育地は非常に少なく、砂防ダム建設などによる生育環境の悪化で個体数も激減しており、絶滅の危機に瀕している。

**県内分布** 別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 本州(静岡・和歌山),四国南部,九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
アジアの熱帯・亜熱帯

**生育環境** 低地の溪流近くの湿った崖地。

**現 状** 生育地では個体数が激減している。新たに判明した生育地もあるが個体数は少なく、幼個体もみられない。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 日豊海岸 ]

## カネコシダ

*Gleichenia laevis* Christウラジロ科  
Gleicheniaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 九州固有のシダ植物で、東九州では大分県のみ分布する。砂防ダムの建設や風水害などにより生育地がかく乱され、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島,中国,インドシナ,フィリピン

**生育環境** 丘陵地の日当たりの良い斜面。

**現 状** 生育面積や個体数が半減し、生育状況も極めて悪化している。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山 ]

## コケシノブ

*Hymenophyllum wrightii*  
van den Boschコケシノブ科  
Hymenophyllaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 温帯性のシダ植物で、九州では山地に希に分布する。本県での生育地も比較的標高の高い山地に限られ、自然林の伐採などにより生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，由布・鶴見火山群，九重火山群，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島南部,アムール,千島,樺太,カナダ

**生育環境** 山地林内の樹幹や岩上に着生。コケ植物と混生する。

**現 状** 自然林の減少で、生育環境の悪化が目立つ生育地が増えている。

## オオコケシノブ

*Hymenophyllum badium*  
Hook. et Grev.

コケシノブ科  
Hymenophyllaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 伊豆半島以西に希に分布する。空中湿度の高い常緑林内の岩上や樹幹に群生することが多い。森林伐採や林道工事などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** | 津江山地，豊後水道後背地域，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** | 本州(伊豆半島以西), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島), 奄美大島  
中国南部～マレーシア, インド

**生育環境** | 丘陵地から山地の湿った岩上や樹幹に着生。

**現状** | 個体数が減少したり，消滅した生育地が多くみられる。

**備考** | オニコケシノブは異名として取り扱った。

## ツルホラゴケ

*Crepidomanes auriculatum*  
(Bl.) K.Iwats.

コケシノブ科  
Hymenophyllaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 紀伊半島以南からアジアの熱帯にかけて広く分布する亜熱帯・熱帯性のシダ植物。本県では生育地・個体数ともに極めて少なく，森林伐採などにより絶滅の危機に頻している。

**県内分布** | 耶馬溪地区，豊後水道後背地域

**分布域** | 本州(伊豆諸島・和歌山・三重・島根・山口), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
インド, ミクロネシア, マレーシア

**生育環境** | 低地の日当たりの悪い林内の樹幹に着生。

**現状** | 極めて狭い範囲に，ごくわずかな個体が生育しているだけとなっている。

## オウレンシダ

*Dennstaedtia wilfordii*  
(Moore) Christ

コバノイシカグマ科  
Dennstaedtiaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 温帯性のシダ植物で，九州での分布域は極めて狭く，生育地も少ない。県内の生育地では，ごく狭い範囲にわずかな個体が群生しているだけで，林道工事により絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** | 北川上流域

**分布域** | 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
アムール, 朝鮮半島, 中国, インド

**生育環境** | 丘陵地の風化した石灰岩地。

**現状** | 生育地での個体数は10年前の3分の1以下に減少している。

**オオフジシダ***Monachosorum flagellare*  
(Maxim. ex Makino) Hayataコバノイシカグマ科  
Dennstaedtiaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 栃木県・中部地方以西から九州にかけての暖地に分布する。県内での生育地は限られており、個体数も少なく、森林伐採や砂防ダム建設などで生育地が狭小し、絶滅の危機に瀕している。**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，北川上流域**分布域** 本州(栃木・中部地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国**生育環境** 丘陵地のやや暗い林内の傾斜地。**現 状** 以前は群生していた生育地でも，現在では点在する程度にまで個体数が減少している。**フジシダ***Monachosorum maximowiczii*  
(Bak.) Hayataコバノイシカグマ科  
Dennstaedtiaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 福島県・関東地方以西の暖地に分布し，自然林の林床に群生する。県内では風水害などによる自然林の減少で，生育環境の悪化が懸念される。**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，由布・鶴見火山群，九重火山群，北川上流域**分布域** 本州(福島・関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国, 台湾**生育環境** 山地の落葉樹林内のコケの生えた岩上に群生。**現 状** 「由布・鶴見火山群」，「九重火山群」では生育状況も比較的良好で個体数も多いが，その他の地域では個体数が減少している。**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 祖母傾 ]**ハマホラシノブ***Sphenomeris biflora*  
(Kaulf.) Tagawaホングウシダ科  
Lindsaeaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 関東地方南部以南の暖地に分布し，海浜の日当たりのよい岸壁の割れ目などに生育する。県内での生育地は限られており，防波堤工事などにより絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 豊後水道域**分布域** 本州(関東地方南部・伊豆半島・伊豆諸島・小笠原諸島・紀伊半島), 四国南部, 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
中国, 台湾, フィリピン**生育環境** 海岸近くの潮風が直接あたる岸壁の割れ目。**現 状** 本県では，県南東部の島にごく少数の個体が確認されているだけである。**備 考** 国定公園指定植物 [ 日豊海岸 ]

## エダウチホングウシダ

*Lindsaea chieni* Ching

ホングウシダ科  
Lindsaeaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州南部以南の暖地に分布する常緑性の小型シダ植物。本県では生育地が少なく、道路工事や宅地造成などにより生育面積が狭まっており、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域

**分布域** 本州(伊豆諸島・伊豆半島から東海地方・紀伊半島・山陽地方),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
台湾,中国南部,インドシナ,タイ

**生育環境** 低地の常緑林内の傾斜地。

**現 状** 都市化や道路工事などの影響により，生育地や個体数が減少している。

## サイゴクホングウシダ

*Lindsaea odorata* Roxb.  
var. *japonica* (Bak.) Kramer

ホングウシダ科  
Lindsaeaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 溪流沿いの岩上に生じる小型シダ植物。本県では生育地が限定されており，生育範囲も著しく狭い。風水害により個体数が激減し，絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 本州(八丈島・伊豆半島・紀伊半島),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
韓国済州島,台湾,中国(四川省)

**生育環境** 丘陵地の溪流沿いの岩上に群生。

**現 状** 自然災害の影響を受け，個体数が激減している。

## ミズワラビ

*Ceratopteris thalictroides*  
(L.) Brongn.

ハウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州以西に分布する一年生の水生シダ植物。30年くらい前までは本県でも各地の水田に生育していたが，除草剤や土地改良工事などにより多くの生育地が消滅しており，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 別府湾沿岸域，豊後水道後背地域

**分布域** 本州(新潟・関東地方以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
世界の熱帯・亜熱帯

**生育環境** 低地の水田や側溝。

**現 状** 水田や湧水を伴う沼地など数か所で生育が確認されている。

## エビガラシダ

*Cheilanthes chusana* Hook.

ホウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 暖地性の常緑シダ植物で、紀伊半島以西に希に分布する。本県では生育地・個体数ともに少なく、道路工事や吹き付け、農地改良工事などで生育範囲が狭められており、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 別府湾沿岸域，豊後水道後背地域，石灰岩地域

**分布域** 本州(奈良・和歌山・岡山・広島)，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島南部，中国，インドシナ

**生育環境** 低地のやや日の当たる石垣や道路の法面。

**現 状** 県内に現存する生育地は数か所で，個体数が激減している。

## ヒメウラジロ

*Cheilanthes argentea*  
(Gmel.) Kunze

ホウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 岩手県以南に分布する小型シダ植物。県内に広く分布するが，道路工事や吹付工事などで消滅した生育地がある。園芸価値が高いため，人による採取が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，姫島・国東海岸，玖珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域，石灰岩地域，大野川上流域

**分布域** 本州(岩手・関東中部以西)，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，沖縄  
シベリアからマレーシア

**生育環境** 低地の日当りのよい岩上や路傍の石垣。

**現 状** 県内各地にやや希に分布するが，「石灰岩地域」には生育地が比較的多い。どの生育地も個体数が減少傾向にある。

## オトメクジャク

*Adiantum edgeworthii* Hook.

ホウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 日本では本県だけで自生が確認されている。水田の畦畔や路傍の石垣などに生育するため人為的な影響を受けやすく，個体数も減少しており，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区，別府湾沿岸域

**分布域** 九州(大分)  
中国東北部からフィリピン，インド

**生育環境** 低地の水田の畦畔や道路法面の石垣。

**現 状** 県内の3か所で生育が確認されている。園芸的価値が高く，採取により個体数が減少している。農地の基盤整備工事で生育範囲が狭まっている所もある。

**備 考** 県指定天然記念物「畳石のオトメクジャク」(安心院町)・「内成・田代のオトメクジャク」(挾間町)

## ホウライクジャク

*Adiantum capillus-junonis* Rupr.

ホウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 日本では本県だけに自生する。生育地は人里に近く、生育環境も道路拡幅工事などにより著しく悪化し、個体数も減少し続けており、絶滅の危機に瀕している。

**県内分布** 石灰岩地域

**分布域** 九州(大分)  
朝鮮半島,中国,台湾

**生育環境** 低地の風化した石灰岩地。

**現 状** 道路拡幅工事後からは個体数が半減し、保護はされているが、ようやく生命活動を維持している状態である。

**備 考** 村指定の天然記念物。

## ハコネシダ

*Adiantum monochlamys* Eaton

ホウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北海道を除く日本各地に分布する。本県での分布は散在的で、個体数も少ない。道路工事や法面の吹付工事などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、津江山地、九重火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

**分布域** 本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島南部,中国,台湾,

**生育環境** 低地や丘陵地のやや乾いた岩上や岩隙。

**現 状** 人里近くの生育地の多くが、宅地造成や道路工事などで消滅している。

## カラクサシダ

*Pleurosoriopsis makinoi*  
(Maxim. ex Makino) Fomin

ホウライシダ科  
Parkeriaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 日本各地に点的に分布し、個体数も比較的少ない。本県での分布も限られており、自然林の伐採などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、津江山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
シベリア東部,朝鮮半島,中国

**生育環境** 丘陵地から山地の空中湿度の高い林内の岩上や樹幹にコケと混生。

**現 状** 自然林の伐採などで消滅した生育地がみられる。

## ナカミシシラン

*Vittaria fudzinoi* Makino

シシラン科  
Vittariaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 関東地方以西に希に分布する。本県では1996年に初めて自生が確認された。生育地では自然林内の樹幹にわずかな個体が着生しているが、風水害による倒木被害が深刻で、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 津江山地

**分布域** 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国南西部

**生育環境** 山地のシオジ林内の樹幹に着生。

**現 状** 本県では「津江山地」だけで確認されており、個体数も極めて少ない。

## キドイノモトソウ

*Pteris kidoi* Kurata

イノモトソウ科  
Pteridaceae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

**選定理由** 日本では中国・四国地方と九州の石灰岩地域だけに分布する。本県での分布も石灰岩地域に限られ、石灰岩の採掘や道路工事などによる生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 石灰岩地域

**分布域** 本州(岡山・山口), 四国(高知・愛媛), 九州(福岡・熊本・大分)  
台湾

**生育環境** 石灰岩地の岩上や岩隙。

**現 状** 個体数が減少したり、消滅した生育地が増えている。

## ハチジョウシダ

*Pteris fauriei* Hieron.

イノモトソウ科  
Pteridaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (豊後水道域)

**分布域** 本州南部(伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島), 四国(愛媛・高知), 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
中国, 台湾, インドシナ

**生育環境** 海岸近くの常緑樹林内。

**現 状** 1995年に「豊後水道域」で採集された標本はあるが、それ以降の生育は確認されていない。

## ハチジョウシダモドキ

*Pteris oshimensis* Hieron.

イノモトソウ科  
Pteridaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 暖地性のシダ植物で、関東地方南部から九州にかけて分布する。本県での分布はごく希で、森林伐採や林道工事などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 豊後水道後背地域、北川上流域

**分布域** 本州(千葉・神奈川・伊豆半島・紀伊半島)、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国、インドネシア

**生育環境** 低地の林内や林縁。

**現 状** スギ植林地内や林縁の極めて狭い範囲に、少数の個体が生育している。

**備 考** コハチジョウシダ は異名。

## アイコハチジョウシダ

*Pteris laurisilvicola* Kurata

イノモトソウ科  
Pteridaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 暖地に分布するシダ植物。県内の生育地は限られており、個体数も少ない。森林伐採や林道工事などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区、豊後水道後背地域

**分布域** 本州(静岡・紀伊半島・山口)、四国南部、九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

**生育環境** 低地のスギ植林地の林床。

**現 状** 県内の生育地は数か所で、いずれの生育地でも数個体が生育しているだけである。

## ヤワラハチジョウシダ

*Pteris natiensis* Tagawa

イノモトソウ科  
Pteridaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に分布域が限られており、個体数も少ない。本県のは生育地が路肩であり、個体数も少なく、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(紀伊半島)、四国南部、九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地の路傍。

**現 状** 現在確認されているものは畑地を通る道路沿いに生育しており、個体数は極めて少ない。

**備 考** 日本固有種。

## コタニワタリ

*Asplenium scolopendrium* L.

チャセンシダ科  
Aspleniaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 温帯の日本海側に偏って生育する常緑性のシダ植物。九州での分布はごく希で、本県の生育地は土地造成により激減し、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分)  
南千島,樺太,朝鮮半島,中国,ロシアからヨーロッパ,北アメリカ

**生育環境** 丘陵地のやや陰湿な林床。

**現 状** 生育地が3か所から1か所に減少し、個体数も非常に少ない。

## クモノスシダ

*Asplenium ruprechtii* Kurata

チャセンシダ科  
Aspleniaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 好石灰岩性のシダ植物。日本全国に広く分布するが、本県の分布は隔離的で個体数も少なく、石灰岩の採掘や林道工事などによる生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区,大野川上流域,豊後水道後背地域,北川上流域

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島,中国東北部,ロシア東部

**生育環境** 丘陵地の岩角地や石灰岩上に着生。

**現 状** 生育地の大きな環境変化は認められないが、個体数は多くない。

## ヒノキシダ

*Asplenium prolongatum* Hook.

チャセンシダ科  
Aspleniaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯性の常緑シダ植物。九州全域に分布しているが、本県での生育地は限定されており、個体数も少なく、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区,豊後水道後背地域

**分布域** 本州(静岡・紀伊半島),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島,台湾,中国,ベトナムからインド,スリランカ

**生育環境** 低地や丘陵地の林内の岩上。

**現 状** 上記地域に数か所の生育地があり、個体数も非常に少ない。

## トキワシダ

*Asplenium yoshinagae* Makino

チャセンシダ科  
Aspleniaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 自然度の高い林内に生育し、岩上や樹幹に着生する。県内では生育地も少なく、個体数も多くない。自然林の伐採などによる生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 津江山地，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 本州(関東地方・東海地方・紀伊半島), 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾, 中国, ヒマラヤ

**生育環境** 丘陵地や低山地の空中湿度の高い林内の岩上や樹幹。

**現 状** 生育地は県内数か所に点在し，個体数も減少傾向にある。

## カミガモシダ

*Asplenium oligophlebium* Baker

チャセンシダ科  
Aspleniaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 京都府や兵庫県ではやや普通に分布するが，それ以外の地域では希である。本県では国東半島のプロピライト(変巧安山岩)地域に分布しており，道路工事などが行われれば消滅してしまう可能性が大きい。

**県内分布** 国東地区

**分布域** 本州(新潟・岐阜県以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地のやや湿った林内や林縁の岩上に着生。

**現 状** 生育地では群生しているが，県道に隣接しているため，改変されるおそれがある。

**備 考** 日本固有種。

## シモツケヌリトラノオ

*Asplenium normale* D. Don  
var. *boreale* Ohwi ex Kurata

チャセンシダ科  
Aspleniaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州では熊本・大分・宮崎だけに分布する。本県の生育地では県道拡幅工事により，個体数が少なくなり，絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 石灰岩地域

**分布域** 本州(関東地方北部・伊豆半島以西), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)  
中国南西部, ヒマラヤ

**生育環境** 丘陵地の石灰岩壁の割れ目。

**現 状** 確認されている生育地は極めて狭く，生育環境が悪化している。

## オサシダ

*Blechnum amabile* Makinoシシガシラ科  
Blechnaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 温帯性のシダ植物で、四国や九州では希に分布する。本県での分布は点在的で、個体数も少なく、岩面の掘削などによる生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，玖珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

**分布域** 本州,四国(高知・愛媛),九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 山地や丘陵地の林内の岩上や岸壁に着生。

**現 状** 砂防ダム建設や風水害などで生育環境が悪化し，個体数が激減した生育地がある。

**備 考** 日本固有種。

## メヤブソテツ

*Cyrtomium caryotideum*

(Wall. ex Hook. et Grev.) Presl

オシダ科  
Dryopteridaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 関東地方以西に分布する比較的希なシダ植物である。県内の主な分布域は石灰岩地域であり，石灰岩の採掘，森林伐採や林道工事などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，日田低地・丘陵地，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域，石灰岩地域

**分布域** 本州(関東地方以西),四国,九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国,台湾,インドシナ,ネパール,インド,フィリピン,ハワイ

**生育環境** 低地や丘陵地のやや湿った林内の傾斜地や岩角地。

**現 状** 「石灰岩地域」以外の生育地では群生していることは少なく，個体数も減少傾向にある。

## ツルデンダ

*Polystichum craspedosorum*  
(Maxim.) Dielsオシダ科  
Dryopteridaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北海道から九州に分布域をもつ小型シダ植物。本県では石灰岩の採掘，林道工事，森林伐採などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，津江山地，大分川・大野川丘陵地，石灰岩地域，北川上流域

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島,中国,ロシア東部

**生育環境** 丘陵地のやや湿った斜面や岩上に着生。

**現 状** 「石灰岩地域」に多く分布するが，その他の地域では生育地が限られており，個体数も少ない。

## タチデンド

*Polystichum deltodon*  
(Bak.) Diels

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 山口県，高知県と九州本土の石灰岩地域に分布する。本県の生育地では個体数もごくわずかで，石灰岩の採掘による環境悪化や踏み付けなどにより，絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 石灰岩地域

**分布域** 本州(山口), 四国(高知), 九州(福岡・長崎・大分・熊本)  
中国, 台湾, ベトナム, フィリピン

**生育環境** 低地の常緑樹林内の石灰岩上に着生。

**現 状** 石灰岩の採掘で生育地が狭小化しており，個体数も激減している。

## アイアスカイノデ

*Polystichum longifrons* Kurata

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 東北地方以南に広く分布しているが，九州・四国では比較的希である。本県ではスギ植林内に生じることが多く，伐採や林道工事などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大野川上流域

**分布域** 本州(東北地方以南), 四国(香川・高知), 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の林内。

**現 状** 生育地のほとんどがスギ植林内であるため，スギ伐採で消滅，あるいは個体数が激減した所もある。

**備 考** 日本固有種。

## アスカイノデ

*Polystichum fibrilloso-paleaceum*  
(Kodama) Tagawa

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (耶馬溪地区)

**分布域** 本州(宮城県～紀伊半島), 四国(高知), 九州(大分)

**生育環境**

**現 状** 本県では「耶馬溪地区」で1960年に採集された標本はあるが，それ以降の生育状態は確認されていない。

**備 考** 日本固有種。

**サカゲイノデ***Polystichum retroso-paleaceum*  
(Kodama) Tagawaオシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 温帯性のシダ植物で、中国・四国地方では一部の地域に分布が限られている。1995年に九州では初めて「耶馬溪地区」で自生が確認された。生育範囲が狭く、周辺でスギの伐採が進んでおり、絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 耶馬溪地区**分布域** 北海道,本州,四国,九州(大分)  
朝鮮半島**生育環境** 丘陵地の林内や林縁。**現 状** スギ植林内や林道沿いの狭い範囲に集中して生育しており、個体数は多くない。**備 考** 日本における分布の西限域。**オトコシダ***Arachniodes assamica* (Kuhn) Ohwiオシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 伊豆半島以西に分布する比較的希なシダ植物である。本県では溪流沿いの極めて狭い範囲にわずかな個体が生育しているだけで、風水害の影響を受けやすく、絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 耶馬溪地区**分布域** 本州(伊豆半島・紀伊半島・山口),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国,インドシナ,タイ,ミャンマー,インド,ネパール**生育環境** 丘陵地の湿った林内。**現 状** 溪流沿いの常緑林内斜傾地に数個体が生育している。**シビカナワラビ***Arachniodes hekiana* Kurataオシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 IA**選定理由****県内分布** (耶馬溪地区)**分布域** 九州(大分・鹿児島)**生育環境****現 状** 本県では1961年に「耶馬溪地区」の文献記録があるが、生育地は把握できていない。**備 考** 日本固有種。

## ハガクレカナワラビ

*Arachniodes yasui-inouei* Kurata

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)

分布域 本州(紀伊半島・山口),四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境

現 状 「耶馬溪地区」で1981年に採集された標本はあるが、それ以降の生育状態は確認されていない。

備 考 日本固有種。

## ツクシオオクジャク

*Dryopteris handeliana* C.Chr.

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州と中国・四国地方の一部に希に分布する。本県の生育地では森林伐採や林道工事などで個体数が減少し、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 耶馬溪地区,(津江山地)

分布域 本州(山口),四国(愛媛・高知),九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

生育環境 低山地の林内。

現 状 「津江山地」では近年、生育が確認されていない。「耶馬溪地区」のものは、沢沿いのケヤキ林、スギ植林内に数個体が生育しているだけである。

## ワカナシダ

*Dryopteris pycnopteroides*  
(Christ) C.Chr.

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 群馬県から九州まで分布域をもつが、個体数は少ない。本県の生育地では森林伐採や道路工事などにより個体数が激減し、絶滅の危機に瀕している。

県内分布 玖珠丘陵地・山地,別府湾沿岸域,大分川・大野川丘陵地

分布域 本州(群馬県以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国(浙江省)

生育環境 丘陵地の林内。

現 状 伐採により個体数が激減し、消滅寸前の状態である。

**キヨズミオオクジャク***Dryopteris namegatae*  
(Kurata) Kurataオシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 関東地方以西にやや希に分布する。本県の生育地では森林伐採や道路工事などで生育環境が悪化しており、絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 耶馬溪地区**分布域** 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国(四川省)**生育環境** 丘陵地の林内。**現 状** 道路沿いに生育しており、生育環境も悪く、個体数も極めて少ない。**タニヘゴ***Dryopteris tokyoensis*  
(Matsum. ex Makino) C.Chr.オシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 温帯性のシダ植物で、四国や九州での分布域は限られている。本県では土地造成や道路工事、湿地の遷移進行などにより、生育地の減少が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群**分布域** 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島・中国**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地や湿った林内。**現 状** 生育地の周辺で観光地開発が進んでおり、個体数が減少している。**サクライカグマ***Dryopteris gymnophylla*  
(Bak.) C.Chr.オシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし**選定理由****県内分布** (大分川・大野川丘陵地)**分布域** 本州(宮城県以南), 九州(大分)  
朝鮮半島, 中国, タイ北部**生育環境** 低地林内の斜面。**現 状** 1976年と1978年に採集された標本はあるが、それ以降の生育状態は把握できていない。**備 考** 九州では本県だけで生育が確認されていた。

## ニセヨゴレイタチシダ

*Dryopteris hadanoi* Kurata

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 中国・四国地方の一部と九州に希に分布する。シイ・カシなどの常緑樹林との結び付きが強いため、森林伐採や土地開発などの影響を受けやすく、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 別府湾沿岸域, 大分川・大野川丘陵域, 豊後水道域, 豊後水道後背地域, 北川上流域

**分布域** 本州(山口), 四国(高知), 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地のやや乾燥した常緑樹林内や林縁。

**現 状** 生育地の多くが沿海地の人類文化地やその周辺部で、個体数は多くない。

**備 考** 1953年に宮崎県北浦町で採集されたものがタイプ標本。日本固有種。

## ギフベニシダ

*Dryopteris kinkiensis*

Koidz. ex Tagawa

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (玖珠丘陵地・山地)

**分布域** 本州(東北地方南部以南), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島, 中国

**生育環境** 丘陵地の路傍。

**現 状** 本県では1977年に「玖珠丘陵地・山地」で採集された標本はあるが、それ以降の生育状態は確認されていない。

## ナチクジャク

*Dryopteris decipiens*

(Hook.) O.Ktze.

オシダ科  
Dryopteridaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 暖地性のシダ植物で、関東地方以西に分布する。本県では沿海地から丘陵地に希に分布しているが、森林伐採や林道工事などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道域, 豊後水道後背域, 大野川上流域, 北川上流域

**分布域** 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

**生育環境** 沿海地から丘陵地の照葉樹林の林床や崖地。

**現 状** 森林伐採, 林道工事などで個体数が減少している。

**ヌカイトチシダ***Dryopteris gymnosora*  
(Makino) C.Chr.オシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 関東地方以西に希に分布する。本県では数か所の生育地が確認されているが、森林伐採や道路工事、ダム建設などで絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 豊後水道後背地域，北川上流域**分布域** 本州(関東地方以西), 四国, 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国南部**生育環境** 低地の林内や崖地。**現 状** 道路沿いの変成岩の崖に数個体が着生している。**ヌカイトチシダモドキ***Dryopteris indusiata*  
(Makino) Makino et Yamam. ex Yamam.オシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 静岡県から九州に分布する。本県の生育地は散在するが、森林伐採や道路工事、風水害による生育地の流出などで危険性が高くなった生育地がある。**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，津江山地，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域，北川上流域**分布域** 本州(静岡県以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),  
沖縄  
台湾**生育環境** 低地から丘陵地の湿度の高い林内や崖地。**現 状** 生育環境の悪化で、個体数が少なくなっている。風水害により消滅した生育地もある。**ヌカイトチシダマガイ***Dryopteris simasakii*  
(H.Ito) Kurataオシダ科  
Dryopteridaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 静岡県以西に分布域をもつ日本固有種。本県での分布は限られており、個体数もきわめて少なく、森林伐採やダム建設、道路工事などで絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 豊後水道後背地域，石灰岩地域**分布域** 本州(静岡県以西), 四国, 九州(熊本・大分・鹿児島)**生育環境** 低地から丘陵地のやや乾燥した林内や崖地。**現 状** 「豊後水道後背地域」と「石灰岩地域」の限られた範囲に生育しており、個体数も減少している。**備 考** 日本固有種。

## イワイタチシダ

*Dryopteris saxifraga* H.Itoオシダ科  
Dryopteridaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州中部地方以北に主な分布域をもち、九州での分布は希である。本県での分布も低山地に限られており、生育地は少ない。風水害や林内の乾燥化などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島,中国東北部

**生育環境** 低山地の林内の崖地や傾斜地の岩上に着生。

**現 状** 生育地は比較的標高の高い自然林内に限られ、どの生育地でも個体数が減少している。

## ミヤマワラビ

*Thelypteris phegopteris*  
(L.) Slosson ex Rydb.ヒメシダ科  
Thelypteridaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (祖母・傾山地)

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(大分・鹿児島)  
北半球の温帯域

**生育環境**

**現 状** 1978年に祖母山で採集された標本はあるが、それ以降の生育状態は確認されていない。

## ヨコグラヒメワラビ

*Thelypteris hattorii* (H.Ito) Tagawaヒメシダ科  
Thelypteridaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州中部地方以西に希に分布する。本県での分布は低山地に限られている。尾根の登山道沿いに生えていることが多く、踏み付けや森林伐採などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，北川上流域

**分布域** 本州(中部地方以西),四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国南部・南西部

**生育環境** 低山地の林内や林縁。

**現 状** 登山者による踏み付け被害などで、個体数が減少している生育地がある。

## ミドリヒメワラビ

*Thelypteris viridifrons* Tagawaヒメシダ科  
Thelypteridaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)

分布域

本州(東北地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島南部, 中国南部

生育環境

低地から丘陵地の林内や林縁。

現 状

本県では1978年と1993年に採集された標本はあるが、それ以降の生育状態は把握できていない。

## テツホシダ

*Thelypteris interrupta*  
(Willd.) K. Iwats.ヒメシダ科  
Thelypteridaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由

静岡県以西の沿海地から低地の多湿地に群生する亜熱帯性のシダ植物。本県では土地造成や湿地の遷移進行などにより、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布

中津・宇佐低地, 別府湾沿岸域

分布域

本州(静岡県以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
中国, 台湾, 東南アジアから世界の熱帯・亜熱帯地域

生育環境

沿海地や低地の湿地。

現 状

温泉の排水溝周辺や湿地に生育するが、年々生育地が狭まっており、個体数も減少している。

## ホソバショリマ

*Thelypteris beddomei* (Bak.) Chingヒメシダ科  
Thelypteridaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由

静岡県以西に広く分布するが、生育地は少ない。本県で確認されている生育地はスギ植林内であり、生育環境の悪化により絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布

耶馬溪地区

分布域

本州(静岡県以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)  
韓国済州島, インド, スリランカからニューギニア

生育環境

丘陵地の林内の多湿地。

現 状

スギ植林内の多湿地に群生しているが、個体数が激減している。

## コガネシダ

*Woodsia macrochlaena*  
Mett. ex Kuhn

イワデンダ科  
Woodsiaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 東北地方以南に分布が点在している。本県には比較的多くの生育地があるが、個体数はどこも少ない。道路工事や岩面の掘削、吹付工事などによる生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，津江山地，玖珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島, 中国北部, ロシア東部

**生育環境** 丘陵地や低山地の林縁の岩上。

**現 状** 生育地は県内各地に点在するが、個体数はどこも少なくなっている。

## イワデンダ

*Woodsia polystichoides* Eaton

イワデンダ科  
Woodsiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北海道から九州まで広く分布するが、九州では希である。本県では比較的多くの生育地があるが、岩面の掘削工事や遷移進行などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，津江山地，九重火山群

**分布域** 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
樺太, 千島, 朝鮮半島, 台湾, 東アジア

**生育環境** 丘陵地から山地までの日当たりのよい岩上や石垣。

**現 状** 「耶馬溪・国東丘陵地」には比較的生育地も多く、生育状態も今のところ安定している。他の地域での分布はごく希で、個体数も非常に少ない。

## イヌイワデンダ

*Woodsia intermedia* Tagawa

イワデンダ科  
Woodsiaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (国東地区)

**分布域** 本州(東北地方以南), 四国(愛媛), 九州(福岡・佐賀・大分)  
朝鮮半島, 中国

**生育環境** 丘陵地の林内の岩上。

**現 状** 本県では1965年に「国東地区」で採集された標本はあるが、それ以降の生育状態は把握できていない。

## コモチイヌワラビ

*Athyrium strigillosum*  
(Lowe) Salomon

イワデングダ科  
Woodsiaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

- 選定理由** | これまで屋久島と熊本県の一部地域のみで確認されていたが、2000年に本県での自生を確認した。生息地では、10㎡ほどの狭い範囲に数個体が生育しているだけで、風水害による絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** | 九重火山群
- 分布域** | 九州(熊本・大分・鹿児島)  
台湾,中国南西部からヒマラヤ
- 生育環境** | 丘陵地の林内の溪流辺。
- 現 状** | 溪流辺に数個体が生育しているが、どれも小形で生育状態はよくない。
- 備 考** | 日本における分布の北限域。

## ミヤコイヌワラビ

*Athyrium frangulum* Tagawa

イワデングダ科  
Woodsiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 関東地方以西に広く分布するが、分布量は少ない。本県では過去に数か所で採集されているが、近年生育が確認されていなかったり、現存していても個体数はごくわずかで、生育地の消滅が懸念される。
- 県内分布** | 英彦山・犬ヶ岳山地, 津江山地, 九重火山群, 北川上流域
- 分布域** | 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** | 丘陵地から低山地の湿った林内。
- 現 状** | 生育地のほとんどがスギ植林内の多湿地であり、個体数が少ない。
- 備 考** | 日本固有種。品種ダンドイヌワラビ (*f. viride* Kurata) を含む。

## サカバサトメシダ

*Athyrium palustre* Serizawa

イワデングダ科  
Woodsiaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

- 選定理由** |
- 県内分布** | (九重火山群)
- 分布域** | 四国(高知),九州(福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島)
- 生育環境** | 低山地の湿地や河川の周辺。
- 現 状** | 本県では過去に採集された標本はあるが、近年その生育状態は把握されていない。
- 備 考** | 日本固有種。

## サトメシダ

*Athyrium deltoideifrons* Makinoイワデングダ科  
Woodsiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北海道から九州まで広く分布するが、九州では比較的希である。本県では丘陵地や低山地の多湿地に希に分布し、湿地の開発や遷移進行で生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島南部から中国東部

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地や林縁。

**現 状** 生育が確認されている所では、個体数が著しく減少した所がある。

## シイバサトメシダ

*Athyrium neglectum* Serizawa  
subsp. *australe* Serizawaイワデングダ科  
Woodsiaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 四国山地や九州山地の山頂近くのブナ帯に生育する。本県では「祖母・傾山地」のみに分布し、遷移進行や登山者の踏み付けにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 祖母・傾山地

**分布域** 四国(徳島・愛媛),九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 山地の草地や林縁。

**現 状** 登山道に沿って生育しており、個体数はごくわずかである。

**備 考** 日本固有種。

## ツクシイヌワラビ

*Athyrium kuratae* Serizawaイワデングダ科  
Woodsiaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 中部地方以西から九州に分布する。本県では生育地も少なく、溪流沿いの岩上や林内に生じるため、風水害による生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，津江山地，北川上流域

**分布域** 本州(中部地方以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国,台湾

**生育環境** 丘陵地や低山地の溪流沿いの岩上や林内。

**現 状** 生育地における生育範囲はどこも狭く、個体数も少ない。

**備 考** アリサンイヌワラビは異名として取り扱った。

**ハコネシケチシダ***Cornopteris christenseniana*  
(Koidz.) Tagawaイワデンダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 北海道を除く全国に分布しているが、分布量は少ない。本県での分布はごく希で、森林伐採や林道工事などにより、絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，北川上流域**分布域** 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)  
韓国濟州島**生育環境** 低山地の湿った林内。**現 状** 生育地では生育範囲が極めて狭く、個体数も少ない。**オオヒメワラビモドキ***Deparia unifurcata* (Bak.) M.Katoイワデンダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 全国的に分布域が限られており、本県でも生育地は少ない。溪流沿いや崖地下部の多湿地に群生し、道路工事や護岸工事、遊歩道整備などによる生育環境の悪化が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区，日田低地・丘陵地，津江山地，玖珠丘陵地・山地**分布域** 本州(北陸・関東地方以南), 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)  
台湾, 中国南西部, インドシナ**生育環境** 丘陵地や低山地の林内や林縁，崖地の多湿地。**現 状** 県内の生育地では通常群生するが、個体数が激減した所もある。**ミドリワラビ***Deparia viridifrons* (Makino) M.Katoイワデンダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 本州から九州まで広く分布するが、分布量は少ない。本県での分布はごく希で、生育地では森林伐採が進んでおり、絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，豊後水道後背地域**分布域** 本州(東北地方以南), 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島, 中国中部**生育環境** 低地から低山地の林内。**現 状** 生育地はいずれもスギ植林内で、個体数もごくわずかである。

## コウライイヌワラビ

*Deparia coreana* (Christ) M.Kato

イワデングダ科  
Woodsiaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

分布域 本州(東北地方・静岡),九州(大分)  
朝鮮半島,中国東北部,ロシア東部

生育環境

現 状 過去に「中津・宇佐低地」で採集された文献記録があるが、その生育地は把握できていない。

## ヒトツバシケシダ

*Deparia lobatocrenata*  
(Tagawa) M.Kato

イワデングダ科  
Woodsiaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 関東地方以西に希に分布する。本県でもごく希に分布し、森林伐採や風水害などによる生育環境の悪化で、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 耶馬溪地区

分布域 本州(関東地方以西),四国(高知),九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地のやや日当たりのよい林内。

現 状 生育地は少なく、個体数もごくわずかである。

備 考 日本固有種。

## フモトシケシダ

*Deparia pseudoconilii*  
(Serizawa) Serizawa

イワデングダ科  
Woodsiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 日本固有種で、東北地方以南にやや希に分布する。本県での分布域は限られており、道路工事や土地造成などによる生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 本州(東北地方以南),四国(徳島),九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地のやや日当たりのよい林内や林縁、路肩。

現 状 「九重火山群」の生育地では観光地化が進行し、個体数が減少している。その他の地域での分布はごく希で、個体数も非常に少ない。

**アソシケシダ***Deparia otomasui*  
(Kurata) Serizawaイワデングダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 IB**選定理由** 九州固有種で、熊本・大分・宮崎県の限られた範囲にのみ分布する。森林伐採やマニアによる採集などで個体数が激減しており、絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，大分川・大野川丘陵地**分布域** 九州(熊本・大分・宮崎)**生育環境** 丘陵地のやや湿った林内。**現 状** 本県では数か所で生育が確認されているが、個体数が激減している。**イヨクジャク***Diplazium okudairae* Makinoイワデングダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 本州中部以西の太平洋側に分布するシダ植物。本県での分布はごく希である。生育地は風水害で壊滅的な状態にあり、絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 耶馬溪地区，北川上流域**分布域** 本州(静岡県以西の太平洋側)，四国，九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島，中国**生育環境** 丘陵地の溪流近くの湿った林内。**現 状** いずれの生育地も生育範囲が狭く、個体数も非常に少ない。**コクモウクジャク***Diplazium virescens* Kunzeイワデングダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 暖地性のシダ植物で、関東地方以西に分布する。本県では数か所で生育が確認されているが、土地開発や森林伐採などで生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域**分布域** 本州(関東地方以西)，四国，九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，沖縄 朝鮮半島，中国，台湾，インドシナ**生育環境** 低地のやや湿った林内。**現 状** 県内数か所のスギ植林内に小群落が確認できるだけとなっている。

**オニヒカゲワラビ***Diplazium nipponicum* Tagawaイワデングダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県  
環境庁 掲載なし**選定理由** 北海道を除く全国に広い分布域をもつが、本県での分布は希である。森林伐採や林道工事などによる生育地の減少や消滅が懸念される。**県内分布** 中津・宇佐低地，玖珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域**分布域** 本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国**生育環境** 低地から丘陵地の林内。**現 状** いずれの生育地でも，1～数個体が生育しているだけである。**イワヤシダ***Diplazium cavalerianum*  
(Christ) M.Katoイワデングダ科  
Woodsiaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 東北地方以南から九州にかけて広く分布するが，個体数は多くない。本県での分布も希で，森林伐採や遷移の進行，風水害などにより消滅した生育地があり，絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 耶馬溪地区，玖珠丘陵地・山地，豊後水道後背地域，北川上流域**分布域** 本州,四国,九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国**生育環境** 丘陵地から低山地の林内多湿地。**現 状** 生育が確認できるのは数か所だけで，個体数もごくわずかである。**コウラボシ***Lepisorus uchiyamae*  
(Makino) H.Itoウラボシ科  
Polypodiaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 暖地性のシダ植物で，伊豆半島以西の沿海地に分布するが，個体数は多くない。本県では「豊後水道域」の海岸近くに希に分布する。海岸の護岸工事や道路工事，遷移進行などによる生育地の減少が懸念される。**県内分布** (別府湾沿岸域)，豊後水道域**分布域** 本州(伊豆半島以西),四国,九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),  
沖縄**生育環境** 海岸や沿海地の岩上や石垣に着生。希に地上に生じる。**現 状** ほとんどの生育地でごく少数の個体が見られるだけである。「別府湾沿岸域」の生育地では，近年その生育状態は把握できていない。**備 考** 日本固有種。

**ホテイシダ***Lepisorus annuifrons*  
(Makino) Chingウラボシ科  
Polypodiaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 温帯性のシダ植物で主に夏緑樹林帯に生育し、九州での分布は山地に限られる。本県では森林伐採、台風による倒木被害、生育環境の悪化などで個体数が激減しており、絶滅の危険性が高まっている。**県内分布** 九重火山群**分布域** 北海道,本州,四国,九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島**生育環境** 山地林内の樹幹に着生。**現 状** 「九重火山群」のブナ林内にわずかな個体の生育が確認できる程度である。**ツクシノキシノブ***Lepisorus tosaensis* (Makino) H.Itoウラボシ科  
Polypodiaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 暖地性のシダ植物で、本州の一部と九州に分布するが、分布量は少ない。本県での分布は希で、森林伐採や林道工事、風水害などによる生育環境の悪化により、生育地の減少や消滅が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、津江山地、豊後水道後背地域、北川上流域**分布域** 本州(静岡・紀伊半島),四国,九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国南部,台湾**生育環境** 低地や丘陵地の溪流沿いの林内の樹幹や岩上に着生。**現 状** 「耶馬溪地区」と「北川上流域」の生育地は個体数も比較的多い。その他の生育地では、ごく狭い範囲にわずかな個体が生育しているだけである。**クラガリシダ***Dryotaenium miyoshianum*  
(Makino) Makinoウラボシ科  
Polypodiaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 IB**選定理由****県内分布** (耶馬溪地区)**分布域** 本州(能登半島・中部地方以西),四国(愛媛・高知),九州(大分)  
台湾,中国中部～南西部**生育環境** 丘陵地の林内樹幹に着生。**現 状** 九州では1962年から「耶馬溪地区」だけで生育が確認されていたが、近年その生育状態は把握できていない。

**ヌカボシクリハラン**  
*Microsorium buergerianum*  
 (Miq.) Ching

ウラボシ科  
 Polypodiaceae

**カテゴリー**

大分県 情報不足  
 環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (日田低地・丘陵地)

分布域 本州(関東地方以西の太平洋側), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島), 沖縄  
 中国南部, 台湾, インドシナ

生育環境 低地の林内岩上や樹幹に着生。

現 状 1979年に日田市目串で採集した標本はあるが, その生育地は道路工事により消滅した。

**ヒトツバイワヒトデ**  
*Colysis simplicifrons*  
 (Christ) Tagawa

ウラボシ科  
 Polypodiaceae

**カテゴリー**

大分県 情報不足  
 環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (北川上流域)

分布域 本州(静岡・和歌山), 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
 韓国濟州島, 中国南部, 台湾

生育環境 低地のやや湿った岩上。

現 状 1973年に「北川上流域」で採集した標本はあるが, それ以降の生育状態は確認されていない。

**イワヤナギシダ**  
*Loxogramme salicifolia*  
 (Makino) Makino

ウラボシ科  
 Polypodiaceae

**カテゴリー**

大分県 準  
 環境庁 掲載なし

選定理由 関東地方以西から九州に分布域をもつ小型シダ植物で, 岩上や樹幹に着生する。自然林の伐採, 道路工事, 着生岩面の掘削などによる生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地, 日田低地・丘陵地, 津江山地, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道後背地域, 北川上流域

分布域 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
 韓国濟州島, 台湾, 中国南部, インドシナ, ヒマラヤ

生育環境 低地や低山地の林内の岩上や樹幹に着生。

現 状 県内各地に分布するが, いずれの生育地も個体数は減少傾向にある。特に樹幹着生でその傾向が顕著である。

## ヒメサジラン

*Loxogramme grammitoides*  
(Bak.) C.Chr.

ウラボシ科  
Polypodiaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北海道から九州にかけて広く分布するが、生育地は少ない。本県でも希に分布し、道路工事による岩面の掘削、自然林の伐採などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地、九重火山群

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島,台湾,中国

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿った岩上や樹幹にコケと混生。

**現 状** 県内数が所で確認されているが、いずれの生育地でも個体数は減少傾向にある。

## オシャグジテンダ

*Polypodium fauriei* Christ

ウラボシ科  
Polypodiaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 温帯性のシダ植物で、九州での分布は夏緑樹林内に限られている。本県ではごく希に分布し、自然林の伐採や生育環境の悪化などで生育範囲が狭くなり、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
韓国濟州島,南千島

**生育環境** 山地林内の樹幹に着生。

**現 状** 森林伐採や風水害による倒木被害などで、個体数が減少している。

## オオクボシダ

*Xiphopteris okuboi* (Yatabe) Copel.

ヒメウラボシ科  
Grammitidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (津江山地)

**分布域** 本州(東北地方以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾

**生育環境** 山地の樹幹や岩上に着生。

**現 状** 1930年に「津江山地」で採集された文献記録があるが、その生育地は把握できていない。

## デンジソウ

*Marsilea quadrifolia* L.

### デンジソウ科

Marsileaceae

#### カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II

**選定理由** 全国に広く分布し、低地の湖沼や水田などに普通に生育していたが、水田除草剤や土地改良工事などの要因で生育地が激減している。本県でも生育が確認できるのは数か所だけになっており、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，別府湾沿岸域

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
ヨーロッパ,インド北部～東アジア

**生育環境** 低地や丘陵地の水田や湖沼。

**現 状** 1970年代には県内各地に生育していたが、現在では数か所に小群落があるだけである。

## サンショウモ

*Salvinia natans* (L.) All.

### サンショウモ科

Salviniaceae

#### カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II

**選定理由** 全国的に広い分布域をもっていたが、水田除草剤や土地改良工事などにより生育地が激減している。本県でも数か所で生育が確認できるだけで、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地，別府湾沿岸域

**分布域** 本州(東北地方以西),四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分)  
ヨーロッパ,アジア,アフリカ,アメリカ

**生育環境** 低地の水田や湖沼。

**現 状** 1970年代までは県内各地に広く分布していたが、現在生育が確認されている所は数か所だけになっている。

## アカウキクサ

*Azolla imbricata*  
(Roxb. ex Griff.) Nakai

### アカウキクサ科

Azollaceae

#### カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II

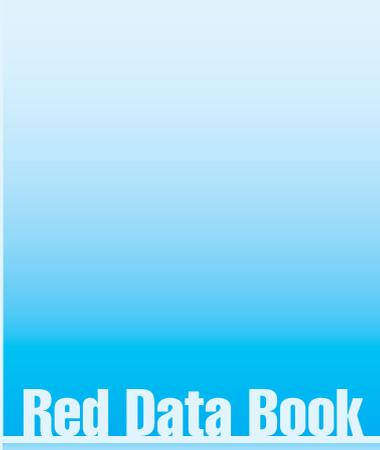
**選定理由** 水田除草剤や土地改良工事などにより全国的に生育地が激減している。本県でも1970年代までは各地に分布していたが、現在では数か所の生育地を残すのみで、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 中津・宇佐低地，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域

**分布域** 本州(東京都以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),沖縄  
朝鮮半島南部,中国,台湾,インド

**生育環境** 低地の水田や湖沼。

**現 状** 現在生育が確認できるのは、上記地域のため池やハス田，農業用水路などの数か所だけである。

The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font across the bottom portion of the square.

**Red Data Book**

# 保護上重要な植物

## 2. 種子植物



## (1) 概要

## 概況

1989年に刊行された『新版大分県植物誌』の種子植物の目録には、2,374種（亜種，変種，雑種，品種を含む。）が掲載されている。この目録は，野外調査で標本が得られたもの，本県から採集された標本が博物館や大学などの標本室で保管されているもの，そして，基準標本産地などのように学術雑誌に記載されたものなどを基としている。したがって，それ以前に刊行された『大分県産植物総目録』（1923），『大分県植物誌』（1953）及び隣県の植物誌に掲載された生育地で，標本等が確認されず，現在までその生育の状況が把握されていないものについては，原則として，このRDB選定対象種から除外することとした。

『新版大分県植物誌』刊行後，大分県植物研究会が発足し，県内各地での観察会や各自の調査研究活動が進められ，さらには，今回の「レッドデータブックおおいた」編纂のための調査活動によって，新たに生育地が確認され，本県の目録に追加されるものが多数生じた。一方，研究の結果，目録から削除されるものも出てきた。

こうした経緯を踏まえて整理された本県の種子植物自生種のうち，雑種（間種），品種，帰化植物（逸出・栽培植物を含む）を除き，2,036種（亜種，変種を含む）を絶滅危惧種の選定対象種とし，その中から選定種を決定した。

## 例外として扱った選定種

## (ア) 品種であるが選定種としたもの

キキョウラン，ケナシベニバナヤマシャクヤク，マンセンレンブクソウは品種であるが大分県において母種が分布せず，品種が種を代表するので選定種として扱った。

## (イ) 選定種の品種は，選定種として扱う。

<例> サクラスミレ（チシオスミレ，ケナシチシオスミレを含む）

## (ウ) 掲載した選定種の備考欄に“含む”として挙げた次の8種類は，選定種として扱った。

ヒロバスゲ（亜種アオバスゲを含む）

ハンノキ（変種ケハンノキを含む）

ヤシャビシャク（変種ケナシヤシャビシャクを含む）

コウライトモエソウ（母種トモエソウを含む）

イワアカバナ（変種ケナシイワアカバナを含む）

ホソバヒメトラノオ（変種オオホソバトラノオを含む）

ナガバジュズネノキ（変種ニセナガバジュズネノキを含む）

ルリミノキ（変種サツマルリミノキを含む）

## 選定種について

種子植物の大分県RDBカテゴリー別の選定種数は，次の通りである。

	野生絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	総計
大分県	1	74	159	186	91	95	606
環境庁	1	18	78	110	15	1	223

「環境庁」は，環境庁レッドデータブック（2000）掲載分類群の大分県関係数

選定種が10種以上ある科 ( )は選定種数

ラン科(69), カヤツリグサ科(54), キク科(45), イネ科(26), ユリ科(25), キンポウゲ科(25), シソ科(20), ユキノシタ科(19), セリ科(17), ゴマノハグサ科(16), バラ科(15), ツツジ科(13), マメ科(10)

選定対象種に対する選定種の割合(%)

		(選定種数)	(選定対象種数)
全選定種	30.3%	(616)	(2036)
選定種の多い5科			
ラン科	86.3%	(69)	(80)
カヤツリグサ科	32.3%	(54)	(187)
キク科	30.2%	(45)	(149)
イネ科	18.6%	(26)	(140)
ユリ科	35.7%	(25)	(90)
水生植物の例			
ヒルムシロ科	69.2%	(9)	(13)
イバラモ科	100.0%	(5)	(5)
ミクリ科	100.0%	(4)	(4)

#### 解説の項目・内容について

選定種についての各項目の解説は、下記の要領で行った。

##### 「選定理由」

分布域、県内分布、生育環境の現状、絶滅の危険度の増大、生育状況の悪化などを踏まえ、該当するカテゴリーを選択した理由を記述した。

“情報不足”のものについては原則として記載しない。

##### 「県内分布」

生育地の分布は、大分県の地形や地質、気候などから分けた下記の18地域区分を用いた。(図は、1.シダ植物の概要に掲載した「野生植物地域区分図」)

耶馬溪・国東丘陵地(耶馬溪地区・国東地区)	由布・鶴見火山群
周防灘海岸	別府湾沿岸域
中津・宇佐海岸	大分川・大野川丘陵地
姫島・国東海岸	豊後水道域
英彦山・犬ヶ岳山地	豊後水道後背地域
日田低地・丘陵地	石灰岩地域
津江山地	大野川上流域
玖珠丘陵地・山地	祖母・傾山地
九重火山群	北川上流域

過去に生育地が記載されていて、現在、その生育状態が把握されないものについては( )を付してある。また、その地域で消滅したと確認されるものについては、この項には記載していない。

##### 「分布域」

国内分布(北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄)及び国外分布 文献。

九州については県別分布 文献 。

「生育環境」

大分県の垂直分布域並びに生育環境。

「情報不足」のものについては、原則として未記載としたが、およそ10年前まで生育状態が確認されていたものについては記載した。

垂直分布；海岸，低地，丘陵地，低山地，山地，火山山頂帯（図は，1 .シダ植物の概要に掲載した「大分県の植物垂直分布域」）

「現 状」

およそ10年以前からの生育地並びに生育状態の衰退・減少・消滅などを記載した。

「備 考」

以下の内容について該当事項を記載した。

特別な種の解説

選定種として扱った植物種

基準標本産地，特産種（固有種），分布限界種（南限域・北限域等），特色ある分布（北方寒冷地要素の植物・大陸系遺存植物 注1 ・ソハヤキ要素の植物 注2 ・暖地性植物等）

注1 大陸系遺存植物；エヒメアヤメやヒゴタイなどのように，寒冷期に朝鮮半島と西日本とが陸続きになったとき，大陸から分布を広めた植物。現在，海によって隔離され，日本における分布域が狭く，九州が南限域となっているものが多い。

注2 ソハヤキ要素の植物；ケイピランやワタナベソウなどのように，日本固有種で，南九州（熊襲），四国（速水瀬戸），紀州（紀）に分布域をもつ植物。襲速紀要素の植物と呼ばれる。

国立・国定公園指定植物〔公園名〕

天然記念物等

“情報不足”の種の文献

生育に対する危険性の主要因

- ・森林伐採      ・池沼・湿地開発      ・河川開発      ・海岸開発      ・草地開発      ・石灰岩等
- 採掘      ・ゴルフ・スキー場開発      ・土地造成      ・道路工事      ・ダム建設      ・水質汚染
- ・農薬汚染      ・園芸・薬用採取      ・踏みつけ      ・動物食害      ・管理放棄      ・植生遷移
- ・火山噴火      ・その他      ・不明

選定種の配列について

選定種は，裸子植物，被子植物（単子葉植物・双子葉植物）の順に配列し，科の中では学名のアルファベット順に掲載した。学名・和名は『新版大分県植物誌』によった。

（2）文 献

荒金正憲 地域に特徴的な大分県産種子植物（1998）

大井次三郎著・北川政夫改訂 新日本植物誌 顕花編（1983）

山本義光編 大分県植物誌（1953）

大分県植物誌刊行会 新版大分県植物誌（1989）

大分県植物研究会 大分県の植物 第1号（1991）～第10号（2000）

環境庁編 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物（維管束植物）（2000）

日本野生生物研究センター 緊急に保護を要する動植物の選定調査のための植物都道府県別分布表（1992）

## イチイ

*Taxus cuspidata*  
Sieb. et Zucc.

イチイ科  
Taxaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は山地の尾根筋に点在し、個体数は極めて少ない。自然林の伐採により、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 北海道 本州(北～中部 奈良) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 山地の尾根筋の林内。

現 状 各地とも単木で生育している所が多い。「津江山地」では、台風の影響で衰弱しているものがある。

## ハリモミ

*Picea polita*  
(Sieb. et Zucc.) Carr.

マツ科  
Pinaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では主として山地の尾根筋に生育し、生育地は限られ、個体数は極めて少ない。自然林の伐採により、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 津江山地、祖母・傾山地

分布域 本州(福島以南) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低山地や山地の尾根筋の林内。

現 状 「津江山地」や「祖母・傾山地」の尾根筋には、狭い群生地がある。

## コウヤマキ

*Sciadopitys verticillata*  
(Thunb.) Sieb. et Zucc.

コウヤマキ科  
Sciadopityaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 本州(福島県 中部以西) 四国 九州(大分 宮崎)

生育環境

現 状 「祖母・傾山地」に文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 日本列島に遺存的に分布している日本固有種。文献 [ 林 弥栄：日本産重要樹種の天然分布 林業試験場研究報告 55 (1951) ]

## ヒノキ(自生種)

*Chamaecyparis obtusa*  
(Sieb. et Zucc.) Endl.

ヒノキ科  
Cupressaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 各地に植栽されているが、本県の自生地は極めて限られている。山頂尾根部の岩角地に生育しているため、伐採は免れるものの、風衝など自然災害による倒木や崩壊による損傷で、個体数の減少が懸念される。

**県内分布** (耶馬溪地区), 英彦山・犬ヶ岳山地, 北川上流域(いずれも自生地)

**分布域** 本州(福島以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・鹿児島)

**生育環境** 山地の山頂尾根部の岩角地林内。

**現 状** 「耶馬溪地区」の文献記録はあるが、その生育地は把握できていない。しばしば群生することがあるが、その生育範囲は極めて狭い。

**備 考** 文献 [ 林弥栄：日本産重要樹種の天然分布 林業試験場研究報告 55 (1951) ]

## ビャクシン

*Juniperus chinensis* L.

ヒノキ科  
Cupressaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県の生育地は「豊後水道域」の島に点在するが、厳しい生育環境にあって個体数は少ない。自然増殖はほとんどなく、自然災害による倒壊や損傷、人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分)  
中国 蒙古

**生育環境** 海岸の崖地や岩上。

**現 状** いずれの生育地も厳しい自然環境に耐えて生育している。自生地から移植したとされるものが半島の地に生育している。

**備 考** 県指定天然記念物「横島のビャクシン」(米水津村)

## ツクシビャクシン

*Juniperus chinensis* L.  
var. *tsukusiensis* Masamune

ヒノキ科  
Cupressaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域が限られており、個体数も少ない。本県では、現在生育が確認できる所は極めて希で、北限域となっている。採取されるおそれがあり、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 九州(佐賀・長崎・大分・宮崎)

**生育環境** 火山山頂帯の草原や林縁。

**現 状** 「九重火山群」の標高1,300m以上の尾根筋に、わずかに生育している。

**備 考** 大正末期のころ、当該地域から庭木や盆栽用として多量掘り取られた記録がある。

## ネズ

*Juniperus rigida*  
Sieb. et Zucc.

ヒノキ科  
Cupressaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では主として北部・西部地域の岩場に群生している。しばしば二次林に混生し、その伐採により、減少や衰退が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(東北部) 中国(北部)

生育環境 丘陵地や低山地の乾燥したやせ尾根の岩場。

現 状 北部地域の凝灰岩地には、しばしば群生地がみられる。

## ミクリ

*Sparganium erectum* L.  
subsp. *stoloniferum* (Ham. ex Graebn.) Hara

ミクリ科  
Sparganiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 準

選定理由 県内の生育地は点在して少ない。群生しているが、生育範囲は狭い。水質汚染や水生植物との競合で生育状態が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地、豊後水道後背地域

分布域 北海道 本州 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(東北部) 中国,トルキスタン,アフガニスタン

生育環境 低地の池沼や水溝。

現 状 水環境が悪化して、生育状態の衰退した所がある。

## ヤマトミクリ

*Sparganium fallax* Graebn.

ミクリ科  
Sparganiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 分布域は狭く、本県の生育地は点在し、群生しているが生育範囲は狭い。生育地の改修や水質汚染による生育環境の悪化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地、玖珠丘陵地・山地、別府湾沿岸域

分布域 本州(関東地方以西) 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
インド,ビルマ

生育環境 低地や丘陵地の池沼、河川。

現 状 水環境が悪化して、生育状態の衰退した所がある。

**ナガエミクリ***Sparganium japonicum*  
Rothertミクリ科  
Sparganiaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 準

**選定理由** 全国的にかなり広い範囲に分布するが、本県では人里近くのごく限られた所に生育し、生育地は狭い。生育地の改変や水環境の悪化で、その減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 本州 四国 九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 丘陵地の浅い池沼や水溝。

**現 状** 周辺地の改変や水環境の悪化で、衰退した生育地がある。

**ヒメミクリ***Sparganium stenophyllum*  
Maxim. ex Meinsh.ミクリ科  
Sparganiaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は中部・北部地域の池沼や灌漑用のため池などに点在し、しばしば群生する。水環境の変化による生育環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、豊後水道後背地域

**分布域** 北海道 本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
中国(北部) 中国(東北部) ウスリー

**生育環境** 丘陵地や低山地の池沼。

**現 状** 一部の生育地では、池沼の水環境が悪化して、生育状態の把握できない所がある。

**フトヒルムシロ***Potamogeton fryeri* A. Benn.ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は散在していて、良好な生育地は比較的多い。人里に近い生育地では、湿地や周辺地の開発により、生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、別府湾沿岸域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎)  
朝鮮半島

**生育環境** 丘陵地や低山地の池沼、湿原の水溝。

**現 状** 生育地は比較的多いが、生育環境の不安定な所がみられる。

## センニンモ

*Potamogeton maackianus*  
A. Benn.

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae

分布域 北海道 本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) 東シベリア 極東地方

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

生育環境 低地の池沼。

現 状 「中津・宇佐低地」で採集された標本はあるが、その生育地は水質汚濁がひどく、その後、生育状態は把握されていない。

## ササバモ

*Potamogeton malaianus*  
Miq.

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数も少ない。河川の汚染や湖沼の埋め立てにより生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高い。

県内分布 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道域

ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 中国(東北部) 中国 台湾 西インド マレーシア

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

生育環境 丘陵地や低地の湖沼、川。

現 状 水環境が悪化して、生育状態の衰退した所がみられる。

## オヒルムシロ

*Potamogeton natans* L.

選定理由 分布域は各地方の一部にみられ、本県の生育地も少ない。人里近い生育地は、土地の改変や池沼の植生遷移の進行などで、消滅の危険性が高くなっている。

県内分布 日田低地・丘陵地、九重火山群、別府湾沿岸域

ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae

分布域 北海道 本州 四国 九州(佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
北半球温帯

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

生育環境 丘陵地から山地の湿地や池沼。

現 状 いくつかの生育地で、池の水生植物の競合や湿地の乾燥化などで生育状態が悪化し、衰退する生育地が生じている。

**ミズヒキモ***Potamogeton octandrus* Poir.  
var. *miduhikimo* (Makino) Haraヒルムシロ科  
Potamogetonaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (国東地区)

分布域 本州 四国 九州(大分) 沖縄  
朝鮮半島 中国(東北部) ,ウスリー ,台湾

生育環境 低地や丘陵地の池沼。

現 状 「由布・鶴見火山群」の生育地は、観光開発のため生育環境が著しく改変され、消滅した模様。「国東地区」の生育地は、生育状態不明。

**リュウノヒゲモ***Potamogeton pectinatus* L.ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地) , (別府湾沿岸域) , (豊後水道域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・鹿児島) 沖縄  
欧亜大陸 北米 ,オーストラリア ,アフリカ

生育環境 低地の湖沼 , 河川。

現 状 いずれの生育地も河川の汚濁や護岸工事などにより、その生育状態が把握されていない。

**イトモ***Potamogeton pusillus* L.ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 II

選定理由 本県の生育地は散在しているが、生育範囲は狭い。河川改修、池沼の水質汚濁や水生植物の植生推移などで生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区 , 中津・宇佐低地 , 姫島・国東海岸 , 日田低地・丘陵地 , 九重火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
全世界

生育環境 低地から低山地の池沼や水溝。

現 状 ため池や人里に近い生育地では、河川工事で生育環境が悪化し、消滅した所がある。

## カワツルモ

*Ruppia maritima* L.  
var. *japonica* Hara

ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (周防灘海岸), (姫島・国東海岸)

分布域 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
欧亜大陸, アフリカ

生育環境 海辺の塩水池沼。

現 状 上記地域の一部の池は埋められて消失し, いずれもその生育状態は把握されていない。

## イトクズモ

*Zannichellia palustris* L.  
var. *indica* (Cham.) Graebner

ヒルムシロ科  
Potamogetonaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 分布域は狭く, 本県の生育地は点在して少ない。池沼の水質汚濁や水生植物の競合などで生育状態が悪化し, 絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津・宇佐低地, 別府湾沿岸域

分布域 本州, 九州(大分), 沖縄  
朝鮮半島, 中国(東北部), インド, 中央アジア, アフリカ, シベリア, 欧州

生育環境 低地の池沼や水溝。

現 状 生育地の一部では, 池の水質汚濁のため, 生育状態は不明。生育環境が不安定で, 持続的な生育状態の把握が難しい。

## ホッスモ

*Najas graminea* Del.

イバラモ科  
Najadaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 10年ほど前までは, 良好な生育地が散在していたが, 近年, 水質汚濁がひどくなり, 生育状態が把握しにくいため池が多くなり, 生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 国東地区, 中津・宇佐低地, 姫島・国東海岸, 別府湾沿岸域

分布域 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
アジア, アフリカ, オーストラリア, ヨーロッパ

生育環境 低地の池沼。

現 状 近年, ため池の汚濁がひどくなり, 良好な生育地がみられなくなってきた。

## サガミトリゲモ

*Najas indica* (Willd.) Cham.イバラモ科  
Najadaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)

分布域 本州 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島)  
台湾,インド,マレーシア,フィリピン

生育環境 低地の池沼。

現 状 生育地の環境が変わり,その生育状態は把握されていない。

## イトトリゲモ

*Najas japonica* Nakaiイバラモ科  
Najadaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 県内の生育地は点在して少ない。近年,水質汚染や水辺の開発などで生育環境が悪化し,生育地が減少したり消滅したりして,絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 姫島・国東海岸,由布・鶴見火山群,別府湾沿岸域,豊後水道後背地域

分布域 本州 四国 九州(大分)  
中国(東北部)

生育環境 低地や丘陵地の水溝や池沼。

現 状 水位の変化が著しい池沼では,その生育状態が不安定で,生育の把握できていない所がある。

備 考 本県は,分布の南限域にあたる。

## イバラモ

*Najas marina* L.イバラモ科  
Najadaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内で生育するため池は少ないが,良好な生育地では群生していた。近年,水質汚濁がひどく,衰退した生育地が多くなり,生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区,中津・宇佐低地

分布域 北海道 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・鹿児島) 沖縄  
全世界

生育環境 低地の池沼。

現 状 10年ほど前まで旺盛に生育していたため池でも,水環境が悪くなり,その生育状態が把握しにくくなってきた。

## トリゲモ

*Najas minor* All.

イバラモ科  
Najadaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 県内の生育地は希で、生育範囲は狭い。水質汚濁や生育環境が不安定な生育地が生じ、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 中津・宇佐低地

**分布域** 本州 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
アジア ,アフリカ ,ヨーロッパ

**生育環境** 低地の池畔。

**現 状** 生育地はため池上辺部の浅い池畔に多く、水位の増減で、生育状態に消長がみられる。

## コアマモ

*Zostera japonica*  
Aschers. et Graebn.

アマモ科  
Zosteraceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 情報不足

**選定理由** 県内では河口付近の塩水、又は汽水域の海水の中に群生するが、量的には把握されてない。川の汚染や採砂などの影響を受けやすく、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 周防灘海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
アジア 欧州 ,アフリカ

**生育環境** 浅い海の砂泥地。

**現 状** 河口付近の水深 1 ~ 2 m の泥底に群生していて、干潮時でもほとんどみえない。そのため詳細な生育状態は明かでない。海岸の改変で消滅した生育地がある。

## シバナ

*Triglochin maritimum* L.

ホロムイソウ科  
Scheuchzeriaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は海岸や河口の塩性泥地の限られた場所で、生育地、個体数ともに極めて少ない。海岸の埋立てや河川の改修などによって改変され、消滅する生育地が多くなり、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 周防灘海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 本州(関東以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)，  
朝鮮 満州 中国

**生育環境** 海岸や河口の泥地。

**現 状** 海岸の埋立てや河川改修工事などで、消滅した生育地がある。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山，日豊海岸 ]

## マルバオモダカ

*Caldesia reniformis*  
(D. Don) Makinoオモダカ科  
Alismataceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

**選定理由** 分布域は点在している。県内で生育するため池は極めて希で、個体数も少ない。ため池の水位の変化が著しく、生育環境が不安定で、水生植物の植生遷移も加わり、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・大分・鹿児島)  
中国 ,インド ,オーストラリア ,マダガスカル

**生育環境** 低地や丘陵地の池沼。

**現 状** 「由布・鶴見火山群」の生育地は、池沼の改修で消滅した。

## アギナシ

*Sagittaria aginashi*  
(Makino) Makinoオモダカ科  
Alismataceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 準

**選定理由** 県内では各地で生育地がみられたが、低地の人里近い所に多い。湿地の開発や水溝の改修などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 姫島・国東海岸、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、別府湾沿岸域、大野川上流域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 低地や丘陵地の湿地、水溝。

**現 状** 市街地周辺や農耕地帯の生育地では、土地開発により消滅した所がある。

## マルミスブタ

*Blyxa aubertii* L. C. Rich.トチカガミ科  
Hydrocharitaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

**選定理由**

**県内分布** (耶馬溪地区)

**分布域** 本州 九州(大分・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 台湾 中国 ,マレーシア ~ オーストラリア ,インド ,マダガスカル

**生育環境**

**現 状** 「耶馬溪地区」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## スブタ

*Blyxa aubertii* L.C.Rich.  
var. *echinosperma* (Clarke) Cook. et Luond.

トチカガミ科  
Hydrocharitaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、生育範囲は狭く、個体数も少ない。ため池の水位が変化し、水生植物との競合もあって、生育状態に消長がみられる。生育環境の悪化で、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 中津・宇佐低地

**分布域** 本州 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾

**生育環境** 低地の池沼。

**現 状** 生育地は泥状の浅い池畔で、良好な生育範囲は狭い。水生植物と競合し、生育状態に消長がみられる。

## ヤナギスブタ

*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.

トチカガミ科  
Hydrocharitaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は散在し、個体数はかなり多い。湿地や池沼の開発、ハス田の放置、水溝工事などで生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地、姫島・国東海岸、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 台湾~インド、マレーシア

**生育環境** 低地や丘陵地のハス田、湿地。

**現 状** 低地のハス田や湿地の生育地で、開発されたり、放置されたりして消滅した所がある。

## ウミヒルモ

*Halophila ovalis*  
(R. Br.) Hook. fil.

トチカガミ科  
Hydrocharitaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。生育地での築港や埋立て、港湾の浚渫などの海岸開発により、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地、別府湾沿岸域、(豊後水道域)

**分布域** 本州(紀伊 若狭 能登 相模等) 四国 九州(福岡・大分・鹿児島) 沖縄  
インド、マレーシア、オーストラリア、ポリネシア、アフリカ

**生育環境** 浅海の砂泥地。

**現 状** 浅海中の生育で、十分な生育地の把握ができていなかったが、最近、県内の生育状況が明らかになってきている。「豊後水道域」の標本はあるが、その生育状態は把握されていない。

**トチカガミ***Hydrocharis dubia*  
(Bl.) Backerトチカガミ科  
Hydrocharitaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区), (中津・宇佐低地), (姫島・国東海岸), (別府湾沿岸域)

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) 沖縄  
東南アジア 北オーストラリア

生育環境 低地の水溝や池沼。

現 状 上記の地域で採集された標本はあるが、いずれの生育地も水質汚濁や植生遷移の進行による環境変化で、その後の生育状態は不明。

**ミズオオバコ***Ottelia alismoides* (L.) Pers.トチカガミ科  
Hydrocharitaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は散在しているが、個体数は少ない。水田地帯の生育地は、農薬汚染や土地開発、圃場整理などでほとんど消滅してしまい、丘陵地の生育環境も悪化して、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地, 中津・宇佐低地, 英彦山・犬ヶ岳山地, 日田低地・丘陵地, 由布・鶴見火山群, 別府湾沿岸域, 大野川上流域

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) 中国 ウスリー ,インド ,オーストラリア

生育環境 低地や丘陵地の池沼や水溝。

現 状 低地の生育地はほとんど絶滅状態。丘陵地の池沼の生育地も生育環境の悪化で消滅した所が多い。「豊後水道域」は埋立てられて消滅。

**セキショウモ***Vallisneria natans*  
(Lour.) Haraトチカガミ科  
Hydrocharitaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的には広く分布しているが、本県での生育地は限られる。水の汚染、河川改修などの影響を強く受けてみられなくなっており、生育環境の悪化で生育地の消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道後背地域

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
東亜 ,インドシナ

生育環境 低地の河川や水溝。

現 状 ここ10年、個体数の減少した生育地が多くなっている。

## ハネガヤ

*Achnatherum pekinense*  
(Hance) Ohwi

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 隔離分布し、九州では本県だけに分布する。生育地は路傍に点在し、個体数は極めて少ない。道路工事や路辺の草刈などで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 九州(大分)  
朝鮮半島 樺太 中国(北部) 南千島 東シベリア

生育環境 丘陵地の林縁。

現 状 高原観光地の主要道路の路傍に点在し、林縁沿いに生え、個体数は極めて僅少。しばしば路辺の草刈で衰退している。

備 考 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。

## イシツチコウボウ

*Anthoxanthum japonicum* (Maxim.) Hack.  
var. *sikokianum* (Ohwi) Ohwi

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域 四国 九州(大分・鹿児島)

生育環境 火山山頂帯の草原。

現 状 「九重火山群」の標本はあるが、その生育状態は把握されていない。生育地一帯は土砂の崩壊が著しく進んでいる。

備 考 ソハヤキ要素の植物。

## イワタケソウ

*Asperella japonica* Hack.

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)、(津江山地)、(由布・鶴見火山群)

分布域 本州(三重・長野西部・山口:寂地山) 四国 九州(福岡・大分)

生育環境

現 状 上記地域の標本や文献記録はあるが、いずれもその生育地は把握されていない。

備 考 基準標本産地 [ 犬ヶ岳 ]。文献 [ 本田正次 : Monographia Poacearum Japonicarum Bambusoideis exclusis 東京帝国大学理学部紀要 第三類 植物学 (1930) ]

## ビロウドキビ

*Brachiaria villosa*  
(Lam.) A. Camus

イネ科  
Gramineae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (豊後水道域), (豊後水道後背地域)

分布域 本州(和歌山) 四国 九州(大分・宮崎) 沖縄  
台湾 中国 ,インド ,マレーシア

生育環境 沿海地の草地。

現 状 上記地域の標本や記録はあるが、いずれもその生育地は把握されていない。

## ホガエリガヤ

*Brylkinia caudata*  
(Munro) Fr. Schm.

イネ科  
Gramineae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育地、個体数はともに少ない。低山地の生育地では森林伐採や下刈などにより生育環境が変化し、生育地の減少が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、祖母・傾山地

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎)  
千島 樺太 中国(東北部)

生育環境 低山地や山地のやや湿った林縁や林内。

現 状 登山路沿いの林縁では、生育地の把握できなくなった所がある。

備 考 北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## クジュウガリヤス

*Calamagrostis autumnalis* Koidzumi  
var. *microtis* Ohwi

イネ科  
Gramineae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域が狭い。本県では火山地域の草原に群生するが、生育範囲は狭い。山腹の生育地では土地の改変や植生遷移により、山頂帯では植生遷移や登山者の踏圧などで生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高い。

県内分布 九重火山群, (由布・鶴見火山群)

分布域 九州(大分)

生育環境 低山地や火山山頂帯の草原, 林縁。

現 状 主として山頂帯の風衝地草原に点在するが、低山地の林縁や草原などにも生育している。「由布・鶴見火山群」で採集された標本はあるが、その生育状態は把握されていない。

備 考 九重山の特産種とされてきた。基準標本産地 [くじゅう黒岳]。キリシマノガリヤスの変種で、葉身の基部はほとんど耳状にはり出さず、花序の枝はざらつく。

## ホッスガヤ

*Calamagrostis pseudo-phragmites*  
(Haller fil.) Koeler

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では本県だけに分布し、生育地は少ない。崩壊地などの不安定な生育環境に生えるため、生育状態の消長が著しく、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 九州(大分)  
旧大陸温帯

生育環境 低山地や山地の崩壊地、溪流辺。

現 状 崩壊地などの不安定な環境に生育し、しばしば群生することがある。生育状態の消長が著しく、消滅した所がある。

備 考 本県は、分布の南限域にあたる。

## タカネノガリヤス

*Calamagrostis sachalinensis*  
Rendle

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 北海道 本州(北～中部) 四国 九州(大分)  
樺太 南千島 カムチャッカ

生育環境 山地の岩場や林縁？

現 状 「祖母山」の標本及び文献記録があるが、生育地は把握されていない。

備 考 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。文献 [ 初島住彦：九州新産植物 タカネノガリヤスが祖母山に産する。レポート日本の植物 35 (1988) ]

## タシロノガリヤス

*Calamagrostis tashiroi* Ohwi

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 四国と九州に限られて分布する。本県でも生育地がごく限られ、個体数も極めて少ない。植生遷移の進行や人による踏みつけなどで、絶滅の危険性が高い。

県内分布 豊後水道後背地域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低山地や山地の岩場、林内。

現 状 尾根筋の岩角地に、ごくわずか生育している。

備 考 ソハヤキ要素の植物。基準標本産地 [ 傾山 ] , 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

**ヒナザサ***Coelachne japonica* Hack.イネ科  
Gramineae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭い。本県での生育地，個体数はともに少ない。水辺や湿地に生える小形1年草のため，水環境の変化や植生遷移の影響を受けやすく，生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の水辺，湿地。

**現 状** 生育地は散在し，群生するが，その生育範囲は狭い。水環境の変化で消滅した所がある。

**コメススキ***Deschampsia flexuosa*  
(L.) Trin.イネ科  
Gramineae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州では本県と鹿児島県だけに分布する。県内では主として火山山頂帯に生育し，植生の遷移や登山者の踏圧などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 九重火山群，(祖母・傾山地)

**分布域** 北海道 本州(北～中部 奈良:大峰山 伯耆大山) 四国 九州(大分・鹿児島)  
北半球 南米(パタゴニア) ,アフリカ

**生育環境** 火山山頂帯の草原。

**現 状** 低木林が発達し減少した所がある。「祖母・傾山地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

**ウンヌケモドキ***Eulalia quadrinervis*  
(Hack.) O. Kuntzeイネ科  
Gramineae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内では日当たりのよい尾根や海岸草地にみられ，生育地，個体数は，僅少である。植林や草地の森林化により生育地は少なくなり，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(東海道以西) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
中国 ,インド

**生育環境** 海岸近くの岩場や草地。

**現 状** 以前は多くみられたが，生育地の草地が少なくなり，現在は数か所だけが確認されている。

## ヤマトボシガラ

*Festuca japonica* Makino

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は疎らで、九州では本県だけに分布している。生育地、個体数はともに極めて僅少。把握されている生育地は、高原の谷沿いの残存林で、森林伐採や植生遷移の進行で、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), 九重火山群

**分布域** 本州 四国 九州(大分)  
朝鮮半島 台湾

**生育環境** 低山地や山地の林縁や林内。

**現 状** 生育地は、草原内に残された谷沿いの林内で、生育範囲は狭い。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 九州では本県だけに分布し、国内分布の南限域となっている。

## ヒロハノドジョウツナギ

*Glyceria leptolepis* Ohwi

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は少なく、多くは農耕地と接するため、採草地や畑地に改変されており、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 津江山地, 九重火山群, 大野川上流域

**分布域** 北海道 本州 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 台湾 中国・中国(東北部) ウスリー

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地や水溝。

**現 状** 丘陵地では、採草地や畑地に改変されて消滅した生育地がある。

## ハイチゴザサ

*Isachne nipponensis* Ohwi

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は点在して少ない。植物体は小さく、群生する面積も狭い。水辺や湿地に生えるため、河川改修や流失などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区, 豊後水道後背地域

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島(南部)

**生育環境** 低地や丘陵地の溪流辺湿地。

**現 状** 小形の多年草で、地を這って群生しているが、その生育範囲は狭い。生育環境の変化に影響されやすく、衰退した生育地がある。

**ケカモノハシ***Ischaemum antheboroides*  
(Steud.) Miq.イネ科  
Gramineae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内の生育地は海岸砂地に限られ、しばしば群生する。海岸の埋立てや植林などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。**県内分布** 周防灘海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国**生育環境** 海岸の砂地。**現 状** 海岸の埋立てや砂浜の改変などによって、消滅した生育地が多い。**カモノハシ***Ischaemum aristatum* L.  
var. *glaucum* (Honda) T. Koyamaイネ科  
Gramineae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 沿海地に分布するが、県内での生育地は少ない。海岸の改修や湿地の埋立てなどで、生育地の減少や消滅が懸念される。**県内分布** 中津・宇佐低地，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部)**生育環境** 沿海地の湿地。**現 状** 海岸の開発，改修や湿地の埋立て，植生遷移による環境変化で，消滅した生育地がある。**ヒロハノサヤヌカグサ***Leersia sayanuka* Ohwi  
var. *latifolia* (Honda) Ohwiイネ科  
Gramineae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし**選定理由****県内分布** (耶馬溪地区)，(英彦山・犬ヶ岳山地)**分布域** 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)**生育環境****現 状** 上記地域の文献記録はあるが，いずれの生育地も把握されていない。  
文献 [ 大井次三郎：植垂植物資料 16 植物分類地理 7 (1938) ]

## コメガヤ

*Melica nutans* L.

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、生育する範囲も狭い。人里近くに生育するため人為の影響を受けやすく、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群，豊後水道域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 樺太 千島 中国～シベリア 欧州

**生育環境** 低山地の林縁。

**現 状** 「九重火山群」は、道路に沿う里宮の周辺に生え、採草などでその一部が消滅している。「豊後水道域」はごく最近、生育地が確認された。

## ミチシバ

*Melica onoei*  
Franch. et Savat.

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は人里近くで、生育範囲は狭く、道路工事や植生遷移などで、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 大分川・大野川丘陵地，(豊後水道域)

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地の路傍や水田畦地。

**現 状** 路傍の崖上辺に群生しているが、生育する面積は狭く、土地の改変や植生遷移の影響を受けやすい。「豊後水道域」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ヌマガヤ

*Molinia japonica*  
(Hack.) Hayata

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は火山地域に点在し、しばしば群生する。湿地の陸化や改変で生育環境の変化した所があり、生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 南千島

**生育環境** 火山性高原や火山山頂帯の湿地。

**現 状** 群落を形成している所は比較的安定しているが、狭い谷沿いの生育地では、消滅した所がある。しばしばミズゴケ類を伴い、泥炭湿原をつくる。

## ハイキビ

*Panicum repens* L.イネ科  
Gramineae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では海岸の砂浜に極めて希に生育し、しばしば群生する。港湾整備により消滅した所があり、砂浜の改良工事や植林などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 豊後水道域

分布域 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 全世界の亜熱帯 熱帯

生育環境 海岸の砂地。

現 状 生育地が港湾整備により消滅した所、記録にはあるが生育の把握できない所があり、生育地は局限している。

備 考 暖地植物。

## ムカゴツヅリ

*Poa tuberifera*

Faurie ex Hack.

イネ科  
Gramineae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 軟弱な多年草で、県内では溪流辺や滝壺周辺などに生える。生育地は希で、生育範囲も狭い。植生遷移の影響を受け、出水などで生育地が流失したり、埋没したりして、その消滅が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地

分布域 本州 四国 九州(大分・宮崎)  
韓国(済州島)

生育環境 低山地の溪流辺の林縁。

現 状 植物体が軟弱で、花期(4～5月)でないと把握しにくい。

備 考 日本特産種とされてきたが、朝鮮半島(済州島)での生育が確認されている。

## コササキビ

*Setaria plicata*

(Lam.) T. Cooke

イネ科  
Gramineae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (豊後水道域)

分布域 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国(南部) ,インド ,セレベス

生育環境 海岸の草地。

現 状 亜熱帯に分布する植物で、「豊後水道域」の島や岬の記録がある。港湾工事などにより、生育地は大きく改変されており、現状不明。

備 考 文献 [ 田代晃二：田代善太郎日記 大正篇(1972) ]

## チシマカニツリ

*Trisetum sibiricum* Rupr.

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 日本における分布域は狭く、九州では本県だけに分布し、主として火山山頂帯の草原に希産する。森林遷移による生育環境の変化で、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(大分)  
欧亜大陸～アラスカ

**生育環境** 低山地や火山山頂帯の草原。

**現 状** ササ草原やススキ草原に生え、群生することは少ない。草原の森林化により、生育状態の衰退した所がある。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。

## コオニシバ

*Zoysia sinica* Hance

イネ科  
Gramineae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的には分布域は限られる。本県では「豊後水道域」に偏在し、生育地は少ない。港湾整備や砂浜の改良工事、植林による影響で、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 九州(大分・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国・中国(東北部)

**生育環境** 海岸の砂浜や岩場。

**現 状** 確認される生育地は少なく、海岸の道路工事などで消滅した所がある。

**備 考** 暖地植物。

## イトテンツキ

*Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.  
var. *capitata* (Miq.) Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内では岩場や火山性草原に生育する。植林や野焼きの停止などによる植生遷移、畑地や人工牧野などの土地改変で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域

**分布域** 本州(中部地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，  
沖縄  
マレーシア

**生育環境** 低地から山地の日当たりのよい草原や岩場。

**現 状** 草丈が低いいため、植生遷移の進行や土地改変により、消滅した生育地が多い。

## ケタガネソウ

*Carex ciliato-marginata*  
Nakai

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は人里近くの林内に点在し、しばしば群生するが、その生育範囲は広くない。森林伐採や林道工事などの影響で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区，別府湾沿岸域

分布域 本州(中～西部) 四国 九州(佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部)

生育環境 低地の林縁や林内。

現 状 常緑広葉樹林内の乾燥した林床に生え、森林伐採で衰退した生育地がある。

## オニスゲ

*Carex dickinsii*  
Franch. et Savat.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は希で、個体数も少ない。多くは草原の谷沿い溪流辺に帯状に生育する。草原の開発や池畔の観光開発で消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高い。

県内分布 日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地，(九重火山群)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

生育環境 丘陵地の湿地や水流辺。

現 状 湿地や水流辺に帯状に分布し、群生するが、生育地の面積は狭い。「九重火山群」の標本や文献記録はあるが、生育地は把握されていない。

備 考 文献〔大井次三郎 *Cypetaceae Japonicae* 京都大学理学部紀要 Ser.B.18(1943)〕

## ビロウドスゲ

*Carex fedia* Nees  
subsp. *miyabei* (Franch.) T. Koyama

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では主として高原の溪流辺や湿地に群生しているが、生育地一帯は土地開発が著しく進み、河岸工事なども伴って生育地が減少しており、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群

分布域 北海道 本州 九州(熊本・大分・宮崎)

生育環境 低山地の溪流辺や湿地。

現 状 しばしば群生するが、生育地は分断されていて、いずれも面積は狭い。集落付近では消滅した生育地が多い。

備 考 九州は、分布の南限域にあたる。

## ウマスゲ

*Carex idzuroei*  
Franch. et Savat.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は極めて希。生育地のため池は水質汚濁がひどく、生育環境の悪化で生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地，(玖珠丘陵地・山地)，(豊後水道後背地域)

分布域 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・鹿児島)  
中国

生育環境 池沼の水湿地や池畔。

現 状 最近「中津・宇佐低地」で生育地が把握された。ため池の回りにごくわずか生育している。「玖珠丘陵地・山地」，「豊後水道後背地域」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## ヒロバスゲ

*Carex insaniae* Koidzumi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は，北西部地域に限られており，個体数も少ない。生育地一帯は林業が盛んで、スギ・ヒノキ植林地が広がり，植林や伐採などの施業に伴う生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地

分布域 本州(中部 近畿 中国) 四国 九州(大分)  
南千島

生育環境 共に山地の尾根岩場や林縁。

現 状 登山路沿いの岩場や林縁に希に生育している。

備 考 ヒロバスゲの生育地は，九州では本県だけで，分布の南限域にあたる。同じような環境に生える亜種アオバスゲ(subsp. *papillaticulmis*)を含む。

## コジュズスゲ

*Carex jackiana* Boott  
var. *macroglossa* (Franch. et Savat.) Kükenth.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)

分布域 北海道 本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島(南部)

生育環境

現 状 「耶馬溪地区」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## コウボウムギ

*Carex kobomugi* Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の海岸砂浜に生育し、しばしば群生する。砂丘の消滅や海岸改修による環境の悪化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

分布域 北海道(西半部) 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) 台湾 ウスリー 中米東部(帰化)

生育環境 海岸の砂地。

現 状 海岸開発や踏みつけ，砂丘の変化による植生遷移で消滅したり，衰退した所がある。

## クジュウツリスゲ

*Carex kujuzana* Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 本県の火山性高原に分布するが，生育地は点在し，範囲は狭く，個体数は多くない。高原開発や植林，野焼きの停止による植生遷移などで，絶滅の危険性が高い。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，(九重火山群)，由布・鶴見火山群

分布域 本州(岩手 宮城 長野) 九州(大分)  
朝鮮半島(南部)

生育環境 丘陵地や低山地の草原。

現 状 基準標本産地の「九重火山群」の生育地は把握されていない。野焼きの停止された草原では，著しく衰退している。

備 考 大分県の特産種とされる。基準標本産地 [ 久住山 ]。リクチュウツリスゲ (subsp. *dissitispicula*) と同種とする説もある。

## アズマスゲ

*Carex lasiolepis* Franch.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)

分布域 北海道(アポイ岳) 本州(北～中部) 四国(徳島) 九州(福岡・大分)

生育環境

現 状 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## ハタベスゲ

*Carex latisquamea* Komar.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域 北海道 本州(岩手・長野) 九州(大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,ウスリー

生育環境

現 状 「九重火山群」の文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 文献 [ 大井次三郎 : *Cyperaceae Japonica* 京都大学理学部紀要 (1975) ]

## センダイスゲ

*Carex lenta* D. Don

subsp. *sendaica* (Franch.) T. Koyama

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は希で、個体数も少ない。海岸開発などで崖地が改変され、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(仙台以西) 四国 九州(福岡・佐賀・大分)  
朝鮮半島 中国

生育環境 海岸の崖地。

現 状 ごく最近、生育地が確認された。「豊後水道域」の同様な環境では、他にも生育地があるものと思われる。

## タイワンスゲ

*Carex ligata* Boott

subsp. *formosensis* (Lev. et Van.) T. Koyama

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 IB

選定理由 県内で把握された生育地は、神社の参道近くの林縁で、生育範囲は狭く、個体数は少ない。参道の改修や除草などで群生地が損傷される危険性が高い。

県内分布 中津・宇佐低地

分布域 本州(栃木:高館山) 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島(南部) ,台湾

生育環境 低地の林縁。

現 状 参道沿いの生育地では、草刈られて衰退している。

**チュウゼンジスゲ***Carex longerostrata* C. A. Mey.  
var. *pallida* (Kitagawa) Ohwiカヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 国内の分布域は狭い。本県の生育地は野焼きされるススキ草原で、生育地は散在し、個体数は少ない。草原の植林や野焼きの停止などによる生育環境の変化で、生育地の減少が懸念される。**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，(大分川・大野川丘陵地)**分布域** 本州(北～中部) 九州(大分)  
朝鮮半島 中国(東北部)**生育環境** 丘陵地から山地の草原。**現 状** 「大分川・大野川丘陵地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。**備 考** 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。**キノクニスゲ***Carex matsumurae* Franch.カヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 II**選定理由** 県内の生育地は、主として島や岬に分布し、生育する範囲は狭い。林の伐採、海岸工事などにより、生育地の消滅が懸念される。**県内分布** 姫島・国東海岸，豊後水道域**分布域** 本州(富山 三重以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分)  
朝鮮半島**生育環境** 海岸の林縁や林内。**現 状** 島や岬の林内は人為的な影響は少ないが、人里近くの生育地では消滅した所がある。**フサスゲ***Carex metallica* Lév.カヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内での生育地は極めて希。個体数も少なく、土地改変や採草などで絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** (中津・宇佐低地)，別府湾沿岸域**分布域** 本州(山口) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 台湾**生育環境** 海岸の礫地や林縁。**現 状** 生育地の周辺は公園広場や海水浴場になっていて、クロマツなどの株元に僅かに生育している。「中津・宇佐低地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

ヌマクロボスゲ(シラカウスゲ)  
*Carex meyeriana* Kunth

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は泥炭湿原に点在し、自然公園外の生育地は、水田開発や草地開発などでほとんど消滅しており、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重火山群

分布域 本州(北～中部) 九州(福岡・佐賀・大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) 蒙古,アムール,ウスリー,シベリア

生育環境 低山地から山地の泥炭湿原。

現 状 かつては、泥炭湿原に広く群生していたが、草地開発や水田開発などで、消滅した所が多い。自然公園内の生育地は、辛うじて保全されている。

備 考 ヌマガヤやミズゴケ類を伴う泥炭湿原に群生し、しばしば顕著な谷地坊主をつくる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

ミタケスゲ

*Carex michauxiana* Böckl.  
var. *asiatica* (Hult.) Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 泥炭湿原に生育する。隔離分布して、本県が南限地にあたる。群生しているが、面積は狭い。生育環境の乾燥化で、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重火山群

分布域 北海道 本州(北～中部) 九州(大分)  
千島,カムチャッカ

生育環境 低山地の湿原。

現 状 湿原内の過湿な水湿地に生え、群生していて個体数はかなりみられる。生育地の一部は乾燥化し、生育状態が悪化している。

備 考 北方寒冷地要素の植物で、隔離分布し、「九重火山群」は西南日本唯一の生育地で、分布の南限地となっている。

ノゲヌカスゲ

*Carex mitrata* Franch.  
var. *aristata* Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (豊後水道域)

分布域 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島(南部) 台湾

生育環境

現 状 「豊後水道域」の文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 文献 [ 大井次三郎 : *Cyperaceae Japonica* 京都大学理学部紀要 (1975) ]

## キシウナキリスゲ

*Carex nachiana* Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 国内での分布域は狭い。県内の生育地は極めて希である。露出した崖地や林縁に生えるため、河岸工事や道路工事などによる絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 豊後水道域，石灰岩地域

**分布域** 本州(和歌山・山口) 四国 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

**生育環境** 低地の崖地や林縁。石灰岩地。

**現 状** 採集された標本で生育地は不明であったが、ごく最近、生育地が確認された。

## ヤチカワズスゲ

*Carex omiana*  
Franch. et Savat.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 過湿な湿地に群生し、しばしば湿原群落の優占種となる。県内分布は狭く、湿地の生育環境の変化や草地開発に伴って、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
南千島

**生育環境** 低山地や山地の水湿地。

**現 状** 低山地の湿地では、草地開発などで消滅した所がある。また、水の供給が悪くなって乾燥化し、生育環境が悪化している所もみられる。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## コハリスゲ

*Carex onoei* Franch. et Savat.  
var. *krameri* Kükenth.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では山地の湧水湿地に生え、生育範囲は狭い。周辺地の植生遷移の進行や風水害による生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** (九重火山群)，祖母・傾山地

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 山地の湧水湿地。

**現 状** 大水による崩壊で、消失した生育地がある。「九重火山群」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## エゾツリスゲ

*Carex papulosa* Boott

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 本県、熊本県が分布の南限域となっている。生育地は散在しているが、個体数は多くない。過湿環境を生育地としており、湿原の開発や生育環境の悪化で生育地の衰退や減少が懸念される。
- 県内分布** | 耶馬溪地区，日田低地・丘陵地，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群
- 分布域** | 北海道 本州(東北地方 栃木 福島 長野) 九州(熊本・大分) 朝鮮半島 ,ウスリー
- 生育環境** | 丘陵地から山地の湿地。
- 現 状** | 安定した湿地に群生しているが，いずれも生育する範囲は狭い。乾燥化して生育の衰退した所がある。
- 備 考** | 北方寒冷地要素の植物。九州は，分布の南限域にあたる。

## タカネマスクサ

*Carex planata*  
Franch. et Savat.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 県内の生育地，個体数とも極めて少なく，生育地は市街地にあつて，多くの環境変化の要因を伴い，絶滅の危険性が高い。
- 県内分布** | (英彦山・犬ヶ岳山地)，大野川上流域
- 分布域** | 北海道(石狩) 本州 四国 九州(福岡・大分)
- 生育環境** | 低地の池畔。
- 現 状** | 池の石垣に生育する。個体数は極めて少なく，池の改修や除草などで衰退している。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。
- 備 考** | 九州は，分布の南限域にあたる。

## クジュウスゲ

*Carex sachalinensis* Fr. Schmidt  
var. *elongatula* (Ohwi) Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 県内での分布域は狭い。県内で確認された生育地，個体数はともに僅少。森林伐採や植生遷移による環境変化が懸念される。
- 県内分布** | 玖珠丘陵地・山地，九重火山群
- 分布域** | 四国 九州(大分)
- 生育環境** | 低山地や火山山頂帯の林縁，林内。
- 現 状** | 精査すれば，他の生育地が把握できるものと思われる。
- 備 考** | 基準標本産地 [ 久住山米山 ]。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]。オオイトスゲ (var. *alterniflora*) に似ているが，果の嘴が長い。

**ジングウスゲ***Carex sacrosancta* Hondaカヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 県内の生育地は希で、個体数も少ない。神社境内などの人里近い陰地にも生える。出水や生育環境の悪化で絶滅の危険性が高い。

県内分布 耶馬溪地区，大分川・大野川丘陵地，北川上流域

分布域 本州(近畿地方,伊豆七島:三宅島),四国,九州(佐賀・大分・鹿児島)  
台湾

生育環境 やや湿った溪谷沿いの岩場や神社境内地。

現 状 神社境内地に生えているものは，生育状態が衰退している。

**サドスゲ***Carex sadoensis* Franch.カヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域 北海道,本州(北~中部,伯耆大山),九州(大分)  
樺太(南部),南千島

生育環境 低山地の湿地。

現 状 「九重火山群」で採集されているが，生育地付近の草地開発により，現状不明。

**アブラシバ***Carex satsumensis*  
Franch. et Savat.カヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県の西部から中部地域に点在し，生育地は少ない。崩壊地の植生の回復，河川改修などの環境変化で，生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 津江山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 本州(福島以西),四国,九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾,フィリピン,インドシナ

生育環境 丘陵地から山地の崩壊地，川原。

現 状 植生遷移に伴う生育環境の変化で，生育状態の衰退した生育地がある。

## タシロスゲ

*Carex sociata* Boott

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育範囲は狭く、個体数も少ない。河川工事や道路工事などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 大野川上流域

分布域 四国(高知) 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾

生育環境 低地の河岸や林縁。

現 状 河岸改修や道路工事などで消滅した生育地がある。

## ツクシナルコ

*Carex subcernua* Ohwi

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 県内では「中津・宇佐低地」のため池に集中して生育している。池畔の環境悪化や池の補修などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地

分布域 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地の池畔や湿地。

現 状 「中津・宇佐低地」のため池には、所々に株をつくって群生しているが、築堤近くや池の上辺では、生育状態の衰退した所がみられる。

備 考 九州の特産種。

## アゼスゲ

*Carex thunbergii* Steud.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は主として火山性高原の湿地に散在し、しばしば群生する。高原の湿地開発や河川改修などで、生育地の減少が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地、津江山、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分)

生育環境 丘陵地から山地の湿地や水流辺。

現 状 かなり安定した湿地や水流辺に群生するが、ヤマアゼスゲ (*C. heterolepis*) やカサスゲ (*C. dispalata*) などより少なく、丘陵地の生育地では消滅した所がある。

備 考 本県は、分布の南限域にあたる。

**オオアゼスゲ***Carex thunbergii* Steud.  
var. *appendiculata* (Trautv.) Ohwiカヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では泥炭湿原を生育地とするが、生育地、個体数ともに極めて少なく、草地開発で消滅した生育地が多い。現存している生育地も、植生遷移の進行に伴って生育環境が悪化し、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州(山地) 九州(大分)  
樺太 千島 ,カムチャッカ ,アムール ,ウスリー 朝鮮半島(北部) 中国(東北部)

**生育環境** 低山地や山地の泥炭湿原。

**現 状** 火山性高原での生育地は、ほとんど消滅している。

**備 考** 叢生して株が発達し、顕著な谷地坊主をつくる。北方寒冷地要素の植物で、隔離分布し、本県は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]。

**オニナルコスゲ***Carex vesicaria* L.カヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では池畔の水湿地に群生しているが、生育地は局限し、水位の変化や池の水生植物と競合して生育状態が悪化し、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 九州(大分・宮崎)  
北半球温帯

**生育環境** 低山地の水湿地。

**現 状** 近年、生育地への水の供給が悪化し、カサスゲと競合して個体数が著しく減少している。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物で、隔離分布し、九州は、分布の南限域にあたる。

**ツクシオオガヤツリ***Cyperus ohwii* Kükenth.カヤツリグサ科  
Cyperaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 最近、本県でも河岸に野生状態で生育していることが確認された。生育地は狭く、個体数も僅少である。大水などの環境変化や流失により、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 大分川・大野川丘陵地

**分布域** 九州(福岡・大分)  
マレーシア ,インド

**生育環境** 低地の河岸水湿地。

**現 状** 入り江状になった河岸に沿って生育し、生育地は狭く、個体数も少ない。最近、定着したもののようである。

**備 考** 今後、引き続き生育状態の観察が必要である。

## ムギガラガヤツリ

*Cyperus unioloides* R. Br.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

分布域

四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島)  
中国 ,インド ,オーストラリア 北米(西南部) 南米 ,アフリカ ,アメリカ

生育環境

現 状

暖地植物。「中津・宇佐低地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ミスミイ

*Eleocharis acutangula*  
(Roxb.) Schult.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由

県内ではため池の水湿地に生えるが、生育地、個体数とも少ない。池の水位の変化により生育状態が悪化した所が多く、絶滅の危険性が高い。

県内分布

耶馬溪地区, 中津・宇佐低地

分布域

本州(紀伊半島) 九州(福岡・大分・鹿児島)  
台湾 ,中国 ,インド ,オーストラリア

生育環境

低地や丘陵地の池沼。

現 状

比較的水位の安定した池沼の水沢地に生える。水位が変化して衰退した生育地が多い。

備 考

暖地植物。本邦の生育地は、分布の北限域にあたる。

## オオヌマハリイ

*Eleocharis mamillata* Lindb. fil.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内で生育する池沼は少なく、個体数も僅少。高原の各種開発で生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布

九重火山群

分布域

北海道 本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)  
朝鮮半島 ,中国(東北部) ,ウスリー

生育環境

低山地の池沼。

現 状

生育地の水環境が悪化して衰退した所がある。

備 考

九州は、分布の南限域にあたる。

## シオカゼテンツキ

*Fimbristylis cymosa* (L.) R. Br.  
var. *spathacea* (Roth) T. Koyama

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県では「豊後水道域」に希に生育し、個体数も少ない。波の侵食や釣り人による踏圧などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(関東地方以西) 四国 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 台湾 中国 インド マレーシア オーストラリア

生育環境 海岸の岩の間隙。

現 状 生育する範囲は狭く、波の侵食や人の踏圧により衰退した所がある。

備 考 暖地植物。

## ツクシテンツキ

*Fimbristylis dichotoma* (L.) Vahl  
subsp. *podcarpa* (Nees et Meyen) T. Koyama

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 県内の分布域は狭く、温泉噴気孔付近だけに生育する。土地開発や噴気孔の埋設などにより、生育地の減少が懸念される。

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域

分布域 九州(熊本・大分・鹿児島)

生育環境 温泉噴気孔付近の草地。

現 状 温泉噴気の影響で他の植物の侵入は少ないが、土地造成や噴気孔の埋設により消滅した所が多くなっている。

備 考 九州の特産種。本県は、分布の北限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ノハラテンツキ

*Fimbristylis pierotii* Miq.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II (大分)

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)，(日田低地・丘陵地)，(玖珠丘陵地・山地)，(九重火山群)，(豊後水道域)

分布域 本州(近畿・中国地方) 四国 九州(佐賀・長崎・大分) 朝鮮半島 中国 インド フィリピン

生育環境

現 状 1920年代から30年代にかけての上記地域の標本はあるが、その生育地は、いずれも把握されていない。

## ビロウドテンツキ

*Fimbristylis sericea*  
(Poir.) R. Br.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では、主として海岸砂地に生育している。海岸の埋立てや砂浜の攪乱によって、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 姫島・国東海岸，別府湾沿岸域

**分布域** 本州(北陸地方，関東地方以西)，九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾，中国，インド，マレーシア，オーストラリア

**生育環境** 海岸の砂地。

**現 状** 海岸の埋立てや海水浴場・キャンプ地などにより，生育地が消滅したり，攪乱されて衰退した所がある。

## ミカツキグサ

*Rhynchospora alba*  
(L.) Vahl

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 隔離分布し，本県では，泥炭湿原の過湿地に生育している。湿原内の生育地は水の供給が悪くなって乾燥化し，生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道，本州，九州(福岡・大分・宮崎)  
欧亜，北米(北東部)

**生育環境** 低山地の湿地。

**現 状** 湿原内の水溝に沿って群生しているが，もともと湿原の凹地(シュレンケ)に生える植物で，その生育地は，湿原の上辺からの水の供給が中断され，乾燥化して生育状態が悪化している。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。九州は，分布の南限地にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]

## オオイヌノハナヒゲ

*Rhynchospora fauriei* Franch.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 隔離分布する。本県の生育地は，泥炭湿原の凹地(シュレンケ)に生えるが，湿原中の人工的な水溝湿地に逸出し，不安定な生育環境にある。生育環境の悪化に伴って絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道，本州，九州(大分)

**生育環境** 低山地の泥炭湿原。

**現 状** もともと泥炭湿原の凹地に生えるが，その生育地は乾燥化し，生育状態が悪化している。

**備 考** 本県は，分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ミクリガヤ

*Rhynchospora malasica*  
C. B. Clarke

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 IB

選定理由 やや大形の暖地植物で、これまで「豊後水道域」の離島の崖下で、小群生地を確認している。植生遷移の進行による生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(東海道,近畿地方南部,中国地方),九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島),  
沖縄  
台湾,マレー半島,マレーシア

生育環境 海岸の崖下湿地。

現 状 1978年に、離島の崖下に生育する小群落を確認したが、人による攪乱はなく、持続して生育しているものと思われる。

## トラノハナヒゲ

*Rhynchospora rugosa* (Vahl) Gale  
subsp. *brownii* (Roem. et Schult.) T. Koyama

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内ではため池の池畔湿地に群生するが、生育地は極めて希で、群生地の面積も狭い。近年、帰化植物が進入して生育環境が悪化し、絶滅の危険性が極めて高くなっている。

県内分布 中津・宇佐低地

分布域 本州(近畿地方南部,中国地方),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・  
宮崎・鹿児島),沖縄  
台湾,中国,旧世界の亜熱帯~熱帯

生育環境 低地の池畔湿地。

現 状 近年、湿地にメリケンカルカヤ (*Andropogon virginicus*) が繁茂し、生育地が攪乱されている。「別府湾沿岸域」の生育地は、道路拡幅のため1974年に消滅した。

## ノグサ

*Schoenus apogon*  
Roem. et Schult.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育地は希である。草丈の低い1年草で、その生育状態は湿地環境の変化に強く影響される。近年、生育地に帰化植物の進入が著しく、生育地が攪乱されて、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津・宇佐低地

分布域 本州,四国,九州(福岡・大分・鹿児島),沖縄  
マレーシア,オーストラリア

生育環境 低地の水湿地。

現 状 池畔湿地には、メリケンカルカヤ (*Andropogon virginicus*) などの帰化植物の進入が著しく、ノグサの衰退した所がみられる。

## コマツカサススキ *Scirpus fuirenoides* Maxim.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は比較的狭く、本県の生育地は主に湿地に点在し、個体数は少ない。湿地開発や湿地周辺の環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の池畔，湿地。

**現 状** 湿地開発で消滅した生育地がある。

## ウキヤガラ *Scirpus fluviatilis* (Torr.) A. Gray

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の分布域は狭く、生育地は点在し、個体数は少ない。池畔湿地を生育地とするため乾燥化により生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 国東地区，中津・宇佐低地，姫島・国東海岸，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・鹿児島)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,インドシナ 東シベリア ,アムール ,ウスリー 樺太 ,カムチャッカ

**生育環境** 低地や丘陵地の池畔湿地。

**現 状** 「中津・宇佐低地」で、生育環境が悪化した池沼がみられる。

## シズイ *Scirpus nipponicus* Makino

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。池の水位の変化で、生育状態に消長がみられる。水環境の変化により、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分)  
中国(東北部)

**生育環境** 低山地の池沼。

**現 状** 「由布・鶴見火山群」の池沼に生育していたが、築堤され、水没して消滅した。

**備 考** 九州の生育地は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]。

## ツクシアブラガヤ

*Scirpus rosthornii* Diels

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (日田低地・丘陵地), (玖珠丘陵地・山地)

分布域 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地の溪流辺や草地。

現 状 上記の生育地は, いずれも生育状態の再確認ができず, 現状不明。

## サンカクイ

*Scirpus triqueter* L.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は池沼や河川に限られていて, 個体数も少ない。河川や池沼の改修, 洪水による流失などで, 生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地, 中津・宇佐低地, 別府湾沿岸域, 豊後水道域

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,ウスリー ,マレーシア ,インド~欧州(南部)

生育環境 低地の水辺や湿地。

現 状 生育環境が変化して衰退した所がある。

## カガシラ

*Scleria caricina*  
(R. Br.) Benth.

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

分布域 本州(千葉以西 東海道 中国地方等) 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 台湾 ,インド ,オーストラリア

生育環境 低地の池沼。

現 状 暖地植物。採集された標本はあるが, その後, 生育状態は把握されていない。

## ミカワシンジュガヤ

*Scleria mikawana* Makino

カヤツリグサ科  
Cyperaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

分布域 本州(関東地方南部 東海道) 九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
インド ニューギニア アフリカ

生育環境

現 状 採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

## ビロウ

*Livistona chinensis* R. Br.  
var. *subglobosa* (Hassk.) Becc.

ヤシ科  
Palmae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 日本では四国、九州、沖縄に分布する亜熱帯植物で、県内では「豊後水道域」だけに生育する。竹林内や自然林内に生育しているものもあり、森林化が進めば生育環境が悪化し、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 四国 九州(福岡・長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾

生育環境 離島や海岸の林内や崖地。

現 状 近づきやすい所では、人により採取されることがある。

備 考 県指定天然記念物「高島のビロウ自生地」(佐賀関町)、「竹野浦のビロウ」(米水津村)、「沖黒島の自然林」(米水津村・蒲江町)

## マイヅルテンナンショウ

*Arisaema heterophyllum* Bl.

サトイモ科  
Araceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数も少ない。生育地の開発や森林化などの生育環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾 朝鮮半島(南部) 中国・中国(東北部)

生育環境 丘陵地や低山地のやや湿った草地、林縁。

現 状 生育地の環境が変化して個体数が少なくなった所や、生育状態の把握できなくなった所がある。

## オキシマテンナンショウ

*Arisaema limbatum* Nakai et F. Maekawa  
var. *conspicuus* Serizawa

サトイモ科  
Araceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県では「豊後水道域」の海岸に近い林内、林縁に分布する。生育地は狭く、個体数も限られる。林道工事や植林などによる影響を受け、絶滅の危険性が高い。

県内分布 豊後水道域

分布域 四国 九州(大分)

生育環境 海岸に近い林内。

現 状 生育地は人為の及ぶような林内に点在し、個体数が少なくなった所がある。

備 考 ミミガタテンナンショウ (*A. limbatum*) とは分布域の違いなどで、その変種とされている。

## シコクヒロハテンナンショウ

*Arisaema longepedunculatum*  
M. Hotta

サトイモ科  
Araceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 本州(山梨) 四国 九州(大分 宮崎 鹿児島)

生育環境 山地の林縁や林内。

現 状 「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 ソハヤキ要素の植物。

## ヒロハテンナンショウ

*Arisaema robustum*  
(Engl.) Nakai

サトイモ科  
Araceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は低山地や山地に点在し、個体数は少ない。植生遷移の進行による生育環境の変化で、生育地の衰退が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、由布・鶴見火山群、(祖母・傾山地)

分布域 北海道 本州 九州(福岡・佐賀・大分・鹿児島)  
朝鮮半島 樺太

生育環境 低山地や山地の林縁、林内。

現 状 山地の尾根などで、ササ類が密生する所では、生育状態が衰退している。「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

ツクシヒトツバテンナンショウ  
*Arisaema tashiroi* Kitamra

選定理由 九州の特産種。本県の生育地は「祖母・傾山地」に点在し、個体数も極めて少ない。植生遷移の進行や人による踏みつけなどで、絶滅の危険性が高い。

県内分布 祖母・傾山地

サトイモ科  
Araceae

分布域 九州(大分・宮崎・鹿児島)

カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

生育環境 山地の林内や林縁。

現 状 スズダケの密生により衰退している所がある。

ナンゴクウラシマソウ  
*Arisaema thunbergii* Bl.

選定理由 県内では海岸から内陸の丘陵地まで分布している。海岸林などにまとまった個体数のみられる所があるが、生育地は点在している。森林伐採や林内の攪乱などで、生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域

サトイモ科  
Araceae

分布域 本州(中国地方) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

生育環境 丘陵地や低地の林縁，林内。

現 状 以前はかなり多くの個体数がみられたが，群生する生育地が少なくなっている。

イヌノヒゲ  
*Eriocaulon miquelianum*  
Koern.

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

ホシクサ科  
Eriocaulaceae

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

生息環境 低地の池畔や湿地。

現 状 「中津・宇佐低地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## ツクシクロイヌノヒゲ

*Eriocaulon nakashimanum*  
Satakeホシクサ科  
Eriocaulaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 分布域は九州だけで狭い。県内の生育地は点在し、生育地、個体数はともに少ない。低地ではため池の周辺地で生育環境の変化が著しく、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地，九重火山群

**分布域** 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎)

**生育環境** 低地や山地の水湿地。

**現 状** 低地の生育地で水環境が悪化し、消滅した所がある。

## クジュウイヌノヒゲ

*Eriocaulon nakashimanum* Satake  
var. *superans* Satakeホシクサ科  
Eriocaulaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では「九重火山群」の山頂帯の池沼群を生育地とする。水環境の変化で生育状態に消長がみられ、登山者による生育地の踏み入れもあって、生育環境が悪化し、生育状態の衰退や減少が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 九州(大分)

**生育環境** 火山山頂帯の池畔湿地。

**現 状** 1年草で、水環境の変化で生育状態の消長がみられる。

**備 考** 「九重火山群」の特産種。基準標本産地 [ 星生山 ]。

## クロホシクサ

*Eriocaulon parvum* Koern.ホシクサ科  
Eriocaulaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 県北地域の水田や湿地に生えるが、生育地が少なく、生育環境が安定していない。1年草のため、生育状態に著しい消長がみられ、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地

**分布域** 本州(関東、富山以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島(南部)

**生育環境** 低地の水田や湿地。

**現 状** 生育環境が悪化して、生育状態の把握されない所がある。

## ゴマシオホシクサ

*Eriocaulon senile* Honda

ホシクサ科  
Eriocaulaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由 分布域が狭く，県内での生育地は極めて希。湧水に涵養された湿地に生育していたが，生育地一帯は開発されて池となり，絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 (由布・鶴見火山群)

分布域 本州(東海道以西) 四国 九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地の湧水湿地。

現 状 生育環境は安定し，生育状態は良好であったが，2000年に，生育地一帯は池沼となって水没してしまった。周辺の水湿地に残存している可能性はある。

## ミズアオイ

*Monochoria korsakowii*  
Regel et Maack

ミズアオイ科  
Pontederiaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 (大野川上流域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー アムール

生育環境 低地の池沼。

現 状 1996年までは「大野川上流域」の池で少ない個体を確認できたが，その後，池の改修工事により，その生育状態は不明。

## ヒメコウガイゼキショウ

*Juncus bufonius* L.

イグサ科  
Juncaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 種としての分布域は広いが，本県では確認された生育地は少なく，個体数も僅少。近年，生育地一帯に帰化植物が進入し，生育環境が悪化しており，生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地，(大野川上流域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
インド インドシナ 欧州 シベリア 東亜～北米 ハワイ オーストラリア アフリカ 南米(ブラジル，チリ)

生育環境 低地の湿地。

現 状 「別府湾沿岸域」の生育地は，土地改変のため消滅。「大野川上流域」の標本はあるが，現状不明。「中津・宇佐低地」の生育地は，帰化植物の進入が著しい。

備 考 生育地に進入する帰化植物；メリケンカルカヤやアメリカスズメノヒエ。

## ニッコウコウガイゼキショウ

*Juncus nikkoensis* Satake

イグサ科  
Juncaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では火山山頂帯の池沼にごく希に生え、個体数も少ない。植生遷移の進行による生育環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 九州(大分)

**生育環境** 火山山頂帯の池沼。

**現 状** 生育地周辺には崩壊地もあって、生育環境は不安定である。

**備 考** 異名マツバコウガイゼキショウ (var. *pinifolius*) の基準標本産地 [ 星生山 ]。

## ツクシイヌイ

*Juncus yokoscensis* (Franch. et Savat.) Satake  
var. *laxus* Satake

イグサ科  
Juncaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭い。本県の生育地は極めて希である。湿原の浅い水溝に、帯状に狭い範囲に生えており、土砂による埋没や植生遷移の進行などにより、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群, (大野川上流域)

**分布域** 九州(大分)

**生育環境** 山地の湿原の水溝。

**現 状** 生育地は湿原中の水溝で、幅 1 ~ 2 m, 長さ 15m ほどの小面積。「大野川上流域」の標本や記録があるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 九州の特産種。

## ナベワリ

*Croomia heterosepala*  
(Baker) Okuyama

ビャクブ科  
Stemonaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), (津江山地), (九重火山群), (祖母・傾山地)

**分布域** 本州(関東地方南部以西) 四国 九州(福岡・大分)

**生育環境** 低山地の林内。

**現 状** 上記地域の標本や記録はあるが、その生育地はいずれも把握されていない。

**備 考** 国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## ケイビラン

*Alectorurus yedoensis*  
(Maxim.) Makino

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は四国，九州に限られ，本県では，主として岩場に群生している。森林の伐採や林道の開発，人による採取で，生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 九重火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域，大野川上流域，石灰岩地域，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 海岸から山地までの岩場。

**現 状** 人為の及ぶ岩場では，以前より生育状態の悪くなっている所がみられる。

**備 考** ソハヤキ系植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，祖母傾 ]

## タマボウキ

*Asparagus oligoclonos*  
Maxim.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

**選定理由** 日本での分布は阿蘇・くじゅう地域の火山性高原に限られる。草地開発や野焼きの停止による植生遷移の進行，植林などで，生育地，個体数ともに激減し，絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 九州(大分)  
朝鮮半島，中国(東北部)，アムール，ウスリー，ダフリア

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原。

**現 状** 野焼きが行われている草原の狭い範囲に，わずかな個体が生育している。

**備 考** 大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## キキョウラン

*Dianella ensifolia* (L.) DC.  
f. *racemulifera* (schitter) Liu et Ying

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯まで分布域は広がる。県内では「豊後水道域」の海岸の岩場の林縁に点在するが少ない。土地の改変や人による採取で，生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(紀伊半島)，四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾，マレーシア

**生育環境** 海岸の草地や林縁。

**現 状** 島のもの安定しているが，人里近い生育地はしだいに少なくなり，近年確認できない所が増えている。

**備 考** 国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

**キバナチゴユリ***Disporum lutescens*  
(Maxim.) Koidzumiユリ科  
Liliaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内では低山地の林内に生え、生育地は散在するが、個体数は少ない。森林伐採や植生遷移の進行による環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地**分布域** 本州(和歌山・高野山) 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)**生育環境** 低山地の林内。**現 状** 林内に生育するため、植生遷移の進行で生育状態が悪くなった所がある。**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]**ホソバナコバイモ***Fritillaria amabilis* Koizdumiユリ科  
Liliaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 II**選定理由** 県内の生育地は極めて稀で、個体数も少ない。谷沿いの森林伐採や植林などによる生育環境の悪化で、絶滅の危険性が高い。**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、大分川・大野川丘陵地、北川上流域**分布域** 本州(中国地方) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)**生育環境** 丘陵地や低山地の林内。**現 状** 生育地はスギ植林の適地でもあるので、伐採や植林が行われて消滅した所がある。**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山 ]**キバナノアマナ***Gagea lutea* (L.) Ker-Gawl.ユリ科  
Liliaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 本県は分布の南限域で、生育地、個体数とも極めて僅少。人里近い河岸林縁を生育地とする。植生遷移の進行、河岸工事などにより、絶滅の危険性は極めて高い。**県内分布** 九重火山群**分布域** 北海道 本州(北～中部) 滋賀 岡山 九州(大分) 樺太 千島 朝鮮半島 中国 東シベリア 欧州**生育環境** 低山地の河岸林縁。**現 状** 採草地と接した河岸林縁に生育し、付近では人の往来がみられる。**備 考** 北方寒冷地要素の植物。隔離分布し、本県は、分布の南限域にあたる。

## キスゲ

*Hemerocallis citrina* Baroni  
var. *vespertina* (Hara) M. Hotta

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内では草原や湿地のかなり広い範囲に生育して、個体数もかなりみられる。生育地が人工牧野や植林地などに改変されて縮小し、生育地の衰退や減少が懸念される。

県内分布 | 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 | 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 | 丘陵地から山地の日当たりのよい草原。

現 状 | 「由布・鶴見火山群」，「九重火山群」の草原では，すでに数か所が人工牧野となって消滅している。

備 考 | 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ハマカンゾウ

*Hemerocallis fulva* (L.) L.  
var. *littorea* (Makino) M. Hotta

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 分布域が狭く，県内では「豊後水道域」の崖地に生育している。海岸の道路工事や人による踏みつけ，採取などにより，生育環境の悪化や減少が懸念される。

県内分布 | 豊後水道域

分布域 | 本州(関東地方南西部以西) 九州(大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 | 海岸の崖地，草地や林縁。

現 状 | 釣り人の多い岩場では生育地が荒廃している。

備 考 | 国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海，日豊海岸 ]

## ベニカンゾウ

*Hemerocallis fulva* (L.) L.  
var. *longituba* (Miq.) Maxim.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内の生育地は点在し，人里に生育するため，圃場整備，道路工事などの土地改変により，絶滅の危険性が高い。

県内分布 | 耶馬溪・国東丘陵地，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域，大野川上流域

分布域 | 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
台湾 中国

生育環境 | 低地や丘陵地の畦や草地，岩角地。

現 状 | 田の畦や土手などの生育地では，圃場整備で消滅した所がある。

備 考 | 別名：ノカンゾウ

**カンザシギボウシ***Hosta capitata*  
(Koidzumi) Nakaiユリ科  
Liliaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内の生育地は極めて希。生育する河岸崖地も広くない。生育地付近は道路の拡幅工事による土地改変で、絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 大分川・大野川丘陵地**分布域** 本州(近畿) 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島**生育環境** 低地の湿った崖地。**現 状** 道路沿いの北向きの河岸の崖地で、一部、流水が滝状に落下している。上辺及び下辺の林縁にも群生地がみられるが、ごく狭い。**ヒュウガギボウシ***Hosta kikutii* F. Maekawaユリ科  
Liliaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内の生育地は限られていて個体数も少ない。植生遷移の進行や人による採取で、生育地の減少が懸念される。**県内分布** 大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域**分布域** 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島)**生育環境** 低山地や山地の湿った崖地。**現 状** 生育地は湿った岩場に限られ、しばしば水害による流失被害を受けることがある。**備 考** ソハヤキ要素の植物。**ウバタケギボウシ***Hosta pulchella* N. Fujitaユリ科  
Liliaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 IB**選定理由** 本県の生育地は「祖母・傾山地」に局限し、その量も少ない。人の踏みつけや採取などで、絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 祖母・傾山地**分布域** 九州(大分・宮崎)**生育環境** 山地の尾根岩場。**現 状** 生育地は山頂や尾根に集中し、縦走路沿いにも生育しているため、人の踏みつけや採取などで消滅した所がある。**備 考** 祖母山の特産種。基準標本産地 [ 祖母山 ]

## ノヒメユリ

*Lilium callosum* Sieb. et Zucc.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に分布域が狭く、本県においても生育の確認できる所は極めて希である。生育地の草原が植林されたり、人工牧野などに改変され、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), 津江山地, (九重火山群), 大野川上流域, (豊後水道後背地域)

**分布域** 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島,台湾,中国・中国(東北部),ウスリー

**生育環境** 丘陵地や低山地のやや湿った半自然草原。

**現 状** 「英彦山・犬ヶ岳山地」,「九重火山群」,「豊後水道後背地域」の標本や記録はあるが、その生育地は把握されていない。現存する生育地の個体数は極めて少ない。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 日豊海岸, 祖母傾 ]

## ヒメユリ

*Lilium concolor* Salisb. var. *partheneion*  
(Sieb. et de Vriese) Baker

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。草原や湿地の開発、人による採集で生育地は年々減少しており、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地, 英彦山・犬ヶ岳山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大野川上流域

**分布域** 本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島, 中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地や低地の草地。

**現 状** 繁殖力が弱く、草原、湿地の管理放棄や人による採集で、消滅した生育地が多い。

**備 考** 大陸系遺存植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 祖母傾 ]

## キバナノコオニユリ

*Lilium leichtlinii* Hook. fil.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は、かつては島の数が所に生え、個体数もかなりみられたが、人に採取され、人の手が届かない崖の高所にごくわずか残っている。島はキャンプ地となっていて、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州,九州(大分)

**生育環境** 海岸の崖地。

**現 状** 生育地、個体数とも極めて僅少。絶滅寸前の状態である。

**備 考** 分布域が極めて狭く、隔離分布し、本県は、分布の南限域にあたる。

## ヒメヤブラン

*Liriope minor*  
(Maxim.) Makinoユリ科  
Liliaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内での分布は「豊後水道域」に限られ、海岸の砂地や岩場に生育するが生育面積も狭く、個体数も多くない。埋立てや港湾工事などの影響を受けやすく、生育地の衰退や消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 海岸砂地や岩場。

**現 状** 「豊後水道域」の数か所に確認されている。いずれも生育面積は狭く、生育環境も不安定な所が多い。

## ホソバナアマナ

*Lloydia triflora*  
(Ledeb.) Bakerユリ科  
Liliaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、個体数も僅少。軟弱な草本であるため、生育地の植生遷移の影響を受けやすく、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群, 由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(大分)  
千島 朝鮮半島 中国(北～中部・東北部) 樺太, ウスリー, シベリア, カムチャッカ

**生育環境** 低山地や山地の草地や林縁。

**現 状** 植生遷移の進行による影響を受けて消滅した生育地がある。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。

## ミドリヨウラク

*Polygonatum inflatum* Komar.ユリ科  
Liliaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では西部・中部・南部地域に生育する。個体数は少ない。林縁に生育するため、植生遷移の進行による生育環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 大野川上流域

**分布域** 本州(中国地方) 四国 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島, ウスリー, 中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地や低山地の林縁, 林内。

**現 状** 生育環境の変化で、生育状態が衰退した所がある。

**備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。  
国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## ワニグチソウ

*Polygonatum involucreatum*  
(Franch. et Savat.) Maxim.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では火山地域に集中的に分布し、個体数は少ない。森林伐採や植林などによる環境変化の影響を受け、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 九重火山群，大分川・大野川丘陵地

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,ウスリー

生育環境 丘陵地や低山地の林内，林縁。

現 状 森林伐採や植林で衰退した生育地がある。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## オニツルボ

*Scilla scilloides* (Lindl.) Druce  
var. *major* Uyeki et Tokui

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的にも分布は限られ、本県では「豊後水道域」の海岸や島に生える。生育地は少なく、海岸開発や釣り人による環境変化が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州 四国 九州(佐賀・長崎・大分)

生育環境 海岸の岩場。

現 状 いずれの生育地も小さな群生地で個体数も少ない。

## マルバサンキライ

*Smilax vaginata* Decne.  
var. *stans* (Maxim.) T. Koyama

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では山地の谷部に生育し、生育地、個体数は僅少。森林の伐採や林道開発による生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 大野川上流域，祖母・傾山地

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎)

生育環境 山地の溪谷沿い林内。

現 状 ごく最近、生育地が確認された。いずれも山地の溪谷沿いの林内に生育し、個体数は極めて少ない。

## チャボゼキショウ

*Tofieldia coccinea* Richardson  
var. *kondoi* (Miyabe et Kudo) Hara

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (由布・鶴見火山群)

分布域 北海道 本州(北～中部) 九州(大分)

生育環境 火山山頂帯の岩場。

現 状 1980年代後半に「由布・鶴見火山群」で生育地が確認されたが、その後、生育状態は把握されていない。

## ホトトギス

*Tricyrtis hirta* (Thunb.) Hook.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県北地域の崖地に広く生育していたが、人による採取で消滅した生育地が多くなり、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，(祖母・傾山地)

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

生育環境 丘陵地や低山地の崖や岩場。

現 状 凝灰岩の崖や岩場に生えるが、人里近い岩場や溪谷などのものはほとんど採取され、消滅してしまった所が多い。「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## タマガワホトトギス

*Tricyrtis latifolia* Maxim.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は散在し、個体数も少ない。生育環境の変化に左右されやすく、遷移進行による生育状態の悪化が懸念される。

県内分布 (耶馬溪地区)，英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地，北川上流域

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)

生育環境 低山地や山地の湿った岩場，林縁。

現 状 山地の半陰地に生育し、個体は少ない。「耶馬溪地区」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## シロバナエンレイソウ

*Trillium tschonoskii* Maxim.

ユリ科  
Liliaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて限られ、生育範囲は狭く、個体数も少ない。森林伐採や人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
樺太 朝鮮半島

**生育環境** 低山地や山地の林内。

**現 状** 落葉広葉樹の林床に生育しているが、個体数は少ない。開花期は人目につきやすく、しばしば採取されている。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 祖母傾]

## キンバイザサ

*Curculigo orchioides* Gaertn.

ヒガンバナ科  
Amaryllidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。草原や林縁に生えるため、植生遷移の進行による生育環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、豊後水道域

**分布域** 本州(中国地方以西) 四国九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島),  
沖縄  
中国 台湾 インド マレーシア オーストラリア

**生育環境** 低地や丘陵地の草地や林縁。

**現 状** 日当たりのよい草丈の低い草地に生えるが、植生遷移の進行で生育環境が変わり、消滅した生育地がある。

## ノハナショウブ

*Iris ensata* Thunb.  
var. *spontanea* (Makino) Nakai

アヤメ科  
Iridaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では北部・西部・中部地域に点在する。生育地、個体数ともに少なく、生育地の改変や人による採取が懸念される。

**県内分布** 日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) アムール ウスリー

**生育環境** 丘陵地から山地の湿地。

**現 状** 野焼きの停止による植生遷移で、個体数が減少した所がある。また、観光地周辺では人による採取がみられる。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山]

## ヒメシヤガ

*Iris gracilipes* A. Grayアヤメ科  
Iridaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 準

選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)

分布域 本州(近畿以東) 四国 九州(福岡・大分)

生育環境

現 状 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山 ]

## カキツバタ

*Iris laevigata* Fisch.アヤメ科  
Iridaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 九州では北部地方、本県では北西部地域に偏在し、生育地、個体数とも僅少。池畔の改変や植生の遷移で消滅する生育地があり、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・長崎・大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) 東シベリア アムール ウスリー オホーツク

生育環境 低地や丘陵地の池沼、水湿地。

現 状 生育地の周辺部が開発され、水環境の変化や水生植物との競合で生育状態が悪化した所がある。

備 考 北方寒冷地要素の植物。

## エヒメアヤメ

*Iris rossii* Bakerアヤメ科  
Iridaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 九州は分布の南限域。県内では主に火山性高原の草原や林縁に生育する。植林や草地改良、野焼きの停止などによる森林化で生育地が縮小し、人による採取もあって、絶滅の危険性が高い。

県内分布 国東地区、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域

分布域 本州(中部地方西部) 四国 九州(佐賀・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部)

生育環境 低地から山地の、主として火山性高原の草原や林縁。

現 状 植林や草地改良、土地の改変及び野焼きの中止による森林化、盗掘などにより個体数は激減している。

備 考 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。杵築市狩宿はその自生南限地として1925年に国指定天然記念物となったが、指定地では絶滅して1971年に指定解除された。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海 ]

## アオノクマタケラン

*Alpinia intermedia* Gagnep.

ショウガ科  
Zingiberaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯植物で、本県では「豊後水道域」の島や海岸近くの林内にごく限られて生育する。個体数は極めて少ない。林縁近くのは環境の変化で消滅した所もあり、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(伊豆七島 紀伊)、四国、九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄、台湾

**生育環境** 海岸の林内。

**現 状** 林内に、生育するものは生育状態がよく、群落をつくって開花や結実しているが、林縁のものは生育状態が悪化している所が多い。

## ヒナノシャクジョウ

*Burmannia championii* Thw.

ヒナノシャクジョウ科  
Burmanniaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 林内に生える微少な腐生植物。県内の生育地は極めて希で、個体数も僅少。生育地が森林伐採で攪乱され、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 津江山地、由布・鶴見火山群

**分布域** 本州(中～西部)、四国、九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄、中国(南部)、マレー、マレーシア、セイロン島

**生育環境** 丘陵地や低山地の林内。

**現 状** ごく最近、良好な生育地が森林伐採で著しく攪乱された。

**備 考** 国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海]

## シロシャクジョウ

*Burmannia cryptopetala*  
Makino

ヒナノシャクジョウ科  
Burmanniaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、生育面積も狭く、個体数も極めて少ない。生育地の林内が人為的に攪乱され、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 本州(近畿)、四国、九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄、中国(海南島)

**生育環境** 丘陵地の林内。

**現 状** 神社の境内林内に生育するが、その生育面積は極めて狭い。最近、近接する林内にシイタケが栽培され、生育地が攪乱されている。

## キリシマシャクジョウ

*Burmanna liukiensis* Hayata

ヒナノシャクジョウ科  
Burmanniaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

**選定理由** 県内では、アカガシ林に生育し、その落葉に腐生する。確認された生育地は極めて希。森林の伐採や攪乱により、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 大野川上流域、(北川上流域)

**分布域** 本州(伊豆:神津島) 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 丘陵地や低山地の常緑広葉樹林内。

**現 状** 「北川上流域」では個体数が極めて少なく、確認された後の生育状態は把握されていない。「大野川上流域」の生育地でも、年により生活状態の消長が著しい。

## ヒナラン

*Amitostigma gracile*  
(Bl.) Schltr.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 全国的に分布域が狭い。県内での生育地は点在し、個体数は少ない。植生遷移の進行や人による採取で、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、玖珠丘陵地・山地、豊後水道後背地域、大野川上流域

**分布域** 本州(近畿以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 中国・中国(東北部)

**生育環境** 低地や丘陵地の岩場。

**現 状** 岩場の環境変化や人による採取で、消滅した所がある。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 祖母傾]

## シラン

*Bletilla striata*  
(Thunb.) Reichb. fil.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

**選定理由** 日当たりのよい林縁や崖地に生育する。県内の生育地は散在していて、しばしば群生する。土地の改変による消滅や、人による採取が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、中津・宇佐低地、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道域、豊後水道後背地域、北川上流域

**分布域** 本州(中南部) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 中国

**生育環境** 低地や丘陵地のやや湿った崖地や林縁。

**現 状** 人目につきやすい生育地では消滅したり、個体数が大幅に減少している。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 日豊海岸]

## マメツタラン

*Bulbophyllum drymoglossum*  
Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** | 県内の生育地は点在し、林内の樹幹や岩上に着生して小群落をつくる。森林の伐採や林道開設により、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** | 耶馬溪・国東丘陵地，津江山地，豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域
- 分布域** | 本州(中～南部) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，沖縄  
朝鮮半島(南部)
- 生育環境** | 丘陵地や低山地の常緑広葉樹，針葉樹の樹幹及び林内の岩上。
- 現 状** | 森林の伐採，林道開設，植林などにより，生育環境が悪化している所がある。
- 備 考** | 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## ムギラン

*Bulbophyllum inconspicuum*  
Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** | かつては県内の低地や丘陵地の林内，岩場に普通に生育していたが，森林伐採や人による採取などで，生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** | 耶馬溪・国東丘陵地，英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域
- 分布域** | 本州(中～西部) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** | 低地や丘陵地の岩場や樹上。
- 現 状** | 人里近くの林内や岩場での生育地は，消滅して，ほとんどみられなくなった。
- 備 考** | 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## キリシマエビネ

*Calanthe aristulifera* Reichb. fil.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA

- 選定理由** |
- 県内分布** | (豊後水道後背地域)
- 分布域** | 本州(近畿以西) 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** | 丘陵地の林内。
- 現 状** | 人による採取で消滅状態となり，その生育状態は把握されていない。

## タガネラン

*Calanthe davidii* Franch.  
var. *bungoana* (Ohwi) Hashimoto

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

**選定理由** 本県だけに生育する。生育地は極めて希。個体数も数えるほどで、僅少。右灰岩の採掘，人による採取で，絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 九州(大分)

**生育環境** 石灰岩の丘陵地林縁や林内。

**現 状** 生育地の一部は鉱山用地で一般の人の立ち入れない所にある。今後の石灰岩採掘などにより，生育地の消滅，さらには絶滅することが考えられる。

**備 考** 本県の特産種とされる。基準標本産地 [ 津久見市上青江 ]。マツダエビネ (*C. matsudai*) と同種とする説もある。

## エビネ

*Calanthe discolor* Lindl.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** かつては県内各地の林内に，多くの生育地がみられたが，植林や人による採取などで，野生状態で生育している所は少なくなり，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，英彦山・犬ヶ岳山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，石灰岩地域，大野川上流域，祖母・傾山地

**分布域** 北海道(西南部)本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地や丘陵地の林内。

**現 状** 人里付近の生育地からほとんど姿を消し，人為の及ばない谷沿いなどで希にみかけることがある。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## ナツエビネ

*Calanthe reflexa* Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内の湿潤な溪流辺の林内に生育するが，個体数は極めて少ない。人による採取が著しく，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿った林内。

**現 状** ほとんどの生育地は既に消滅したか，消滅の危機に瀕している。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山 ]

## キエビネ

*Calanthe sieboldii* Decne.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

- 選定理由** | かつては県内の低地や丘陵地の林内に比較的多くみられたが、人による採取が著しく、絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** | 耶馬溪・国東丘陵地，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域，大野川上流域
- 分布域** | 本州(東海道以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** | 低地や丘陵地の林内。
- 現 状** | 現在もごくわずかに生育しており，人による採取の報告がある。その数は年々減っている。
- 備 考** | 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山 ]

## サルメンエビネ

*Calanthe tricarinata* Lindl.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

- 選定理由** | 県内の生育地は限られ，個体数は極めて少ない。森林伐採や植林，その管理放棄などによる環境変化や人による採取で，絶滅の危険性が高い。
- 県内分布** | 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，津江山地
- 分布域** | 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国，インド(北部)
- 生育環境** | 丘陵地や低山地の肥沃な林内。
- 現 状** | かつての生育地で，確認できなくなった所や個体数の激減した生育地が多い。
- 備 考** | 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山 ]

## ギンラン

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Bl.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 県内各地に散在するが，低地や丘陵地の生育地は植生遷移の進行により，生育状態に消長がみられる。また人による採取も懸念される。
- 県内分布** | 耶馬溪・国東丘陵地，英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域，北川上流域
- 分布域** | 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島，中国
- 生育環境** | 低地から低山地の林縁や林内。
- 現 状** | 林縁や林内の生育地では，下草の茂り具合によって生育が持続しない所がみられる。
- 備 考** | 国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## ユウシュンラン

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Bl.  
var. *subaphylla* (Miyabe et Kudo) Ohwi

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は局限され、生育環境に極めて敏感な小形植物。生育地周辺のわずかな変異でも消滅する要因を抱えている。個体数も極めて少なく、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群，豊後水道後背地域，祖母・傾山地

**分布域** 北海道 本州 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低山地の林内。

**現 状** 生育地は陰地の狭い範囲に生育し、個体数も極めて少ない。環境変化に弱く、生育状態が持続しているか把握されない所が多い。

## キンラン

*Cephalanthera falcata*  
(Thunb.) Bl.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の林縁や明るい林内に生育し、生育地は散在している。森林伐採や植生遷移の進行による生育環境の変化、人による採取で、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，英彦山・犬ヶ岳山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国

**生育環境** 低地や丘陵地の林縁や林内。

**現 状** 里山の放置によって生育環境が変わって消滅したり、人による採取で個体数の減少が目立ってきている。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，日豊海岸 ]

## ササバギンラン

*Cephalanthera longibracteata* Bl.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内生育地は点在し、ごく希に発見される。植生遷移による生育環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) 樺太 千島

**生育環境** 低山地や山地の林内。

**現 状** 生育地，個体数が極めて僅少。持続して生育しているかどうか把握されていない生育地がある。

**備 考** 本県は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]。

## ムカデラン

*Cleisostoma scolopendrifolium*  
(Makino) Garay

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 岩上や樹幹に着生する小形のラン。県内の生育地は極めて希で、生育面積も狭い。周辺地の環境変化や人による採取で、絶滅の危険性が高い。

県内分布 別府湾沿岸域，豊後水道域

分布域 本州(関東地方以西) 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島(南部)

生育環境 海岸の林縁や林内の岩，樹上。

現 状 小群落をつくって着生している。いずれも生育範囲は狭く，環境の変化で衰退した所や人による採取で消滅した所がみられる。

## トケンラン

*Cremastra unguiculata*  
(Finet) Finet

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)，(英彦山・犬ヶ岳山地)

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分)

生育環境

現 状 「耶馬溪地区」，「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## ナギラン

*Cymbidium lancifolium*  
Hook.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 県内の常緑樹林内に希にみられ，個体数は僅少。人による採取で近年著しく減少し，絶滅の危険性が高い。

県内分布 別府湾沿岸域，豊後水道域

分布域 本州(関東地方南部 東海道 伊豆七島以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 インド

生育環境 海岸及び丘陵地の林内。

現 状 人による採取で消滅した生育地がある。

## クマガイソウ

*Cypripedium japonicum*  
Thunb.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

選定理由	全国的に分布域は広い。県内でも多くの生育地があったが、現存する生育地は極めて少ない。植林や人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域
分布域	北海道(渡島) 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 中国
生育環境	低地から低山地の林内。
現 状	かつての生育地は多くあったが、すでに消滅した所が極めて多い。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 祖母傾 ]

## セッコク

*Dendrobium moniliforme*  
(L.) Sw.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内各地に分布するが、個体数は少ない。森林の伐採や林道の開発、人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、豊後水道後背地域、石灰岩地域、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域
分布域	本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島(南部) 中国
生育環境	丘陵地から山地の常緑広葉樹、針葉樹、落葉広葉樹の樹幹や岩上。
現 状	常緑広葉樹、針葉樹(モミ・ツガ)、落葉広葉樹(シオジ・ブナ)の樹幹や枝、岩上などに着生する。林内ではしばしば地上に落ちていることがある。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## タシロラン

*Epipogium roseum*  
(D. Don) Lindl.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

選定理由	県内では常緑広葉樹林内に生育するが、生育地は限られ個体数も少ない。森林伐採や植生遷移の進行、林内の攪乱により、消滅する生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	別府湾沿岸域、豊後水道後背地域、大野川上流域
分布域	本州(関東地方南部) 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 台湾 中国(南部) インドシナ インド マレーシア オーストラリア
生育環境	低地や丘陵地の林内。
現 状	生育状態に消長がみられる。キノコの栽培跡地でも生育が確認されたが、人為による攪乱ですぐに消滅した。

## カシノキラン

*Gastrochilus japonicus*  
(Makino) Schltr.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 (豊後水道後背地域)

分布域

本州(関東地方西部) 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

生育環境

現 状

「豊後水道後背地域」での記録はあるが、その生育地は把握されていない。

## ベニカヤラン(マツラン)

*Gastrochilus matsuran*  
(Makino) Schltr.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内では主に内陸部に分布し、針葉樹の樹幹に着生する。森林伐採や植林により、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布

耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域

分布域

本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境

丘陵地から山地の、主に針葉樹の樹幹。

現 状

目立ちにくいランで、アカマツやツガなどの樹幹に着生するが、その生育の把握されることは少ない。

備 考

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海、祖母傾]

## アキザキヤツシロラン

*Gastrodia confusa*  
Honda et Tuyama

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由

腐生の多年草で、常緑樹林、竹林などを生育地とするが、生育状態の消長が著しい。森林伐採や植林などによる環境の変化で、絶滅の危険性が高い。

県内分布

国東地区、玖珠丘陵地・山地、別府湾沿岸域、豊後水道域、大野川上流域、北川上流域

分布域

本州(福井・神奈川・和歌山) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境

低地や丘陵地の林内。

現 状

「大野川上流域」では、シイタケの栽培された竹林内に生育しているのを確認した。2～3年同じ所に生えるが、腐生菌がなくなると生えなくなる。

## オニノヤガラ

*Gastrodia elata* Bl.ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は散在する。しばしば群生することがある。森林伐採や土地開発などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域

分布域 北海道，本州，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)  
台湾，中国，アムール，ウスリー，千島

生育環境 丘陵地や低山地の草地や林縁。ナラタケ菌と共生する。

現 状 生育地が次々と移り変わる。生育環境の悪化に伴い、生育地、個体数とも減少する傾向にある。

備 考 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山 ]

## ハルザキヤツシロラン

*Gastrodia nipponica*  
(Honda) Tuyamaラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)

分布域 本州(紀伊半島)，四国，九州(大分・宮崎・鹿児島)，沖縄

生育環境

現 状 「別府湾沿岸域」に文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 国定公園指定植物 [ 日豊海岸 ]。文献 [ 津山 尚 : Plantae Boninenses Novae vel Criticae 植物学雑誌 53(1939) ]

## ベニシュスラン

*Goodyera biflora* (Lindl.) Hook. fil.  
var. *macrantha* (Maxim.) Hashimoto.ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では、谷沿いの林内に生えるが、いずれの生育地も個体数は少ない。森林伐採や風水害による生育環境の悪化や人による採取もあって、消滅する危険性が高い。

県内分布 耶馬溪地区，津江山地，大野川上流域

分布域 本州(中部地方以西)，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島(莞島)

生育環境 丘陵地や低山地の谷沿いの林内。

現 状 谷沿いの生育地で、森林伐採により消滅した所がある。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## アケボノシュスラン

*Goodyera foliosa* (Lindl.) Benth.  
var. *laevis* Finet

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。渓谷の開発、森林伐採などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 | 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大野川上流域、祖母・傾山地

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
南千島 朝鮮半島

生育環境 | 丘陵地や低山地の林内、渓谷の周辺。

現 状 | 渓谷の森林伐採で消滅した生育地がある。

備 考 | 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山]

## ツリシュスラン

*Goodyera pendula* Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内の生育地は極めて希で、個体数も僅少。森林伐採や人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 | 英彦山・犬ヶ岳山地、九重火山群

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 | 丘陵地や低山地の谷沿いの林内。

現 状 | 「英彦山・犬ヶ岳山地」では、生育地とされる渓谷林が林道開発などで伐採されている。

備 考 | 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山]

## シュスラン

*Goodyera velutina* Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。森林伐採や風水害による環境変化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 | 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、由布・鶴見火山群、豊後水道後背地域

分布域 | 本州(中部地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

生育環境 | 丘陵地から山地の林内。

現 状 | 「由布・鶴見火山群」では、森林の伐採で消滅した生育地がある。

備 考 | 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山]

## サギソウ

*Habenaria radiata*  
(Thunb.) Spreng.ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

選定理由	県内の生育地は点在し、個体数は僅少。湿原に群生することが多く、人目につきやすい。人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，日田低地・丘陵地，津江山地，玖珠丘陵地・山地
分布域	本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	丘陵地の日当たりのよい湿地。
現 状	「玖珠丘陵地・山地」では、すでに消滅してしまった生育地がある。「由布・鶴見火山群」では、生育地が水没して消滅した。
備 考	国立公園指定植物 [瀬戸内海]

## ミズトンボ

*Habenaria sagittifera* Reichb. fil.ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	県内では低地から山地までの湿地に生え、個体数はかなりみられる。低地や丘陵地の生育地では、土地開発や湿地開発で生育地が減少し、その消滅が懸念される。
県内分布	日田低地・丘陵地，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，大分川・大野川丘陵地
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	低地から山地の湿地。
現 状	「別府湾沿岸域」の生育地は、土地開発により消滅した。
備 考	国立公園指定植物 [瀬戸内海]

## ムカゴソウ

*Herminium lanceum* (Thunb.) Vuijk  
var. *longicrure* (Wright) Haraラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内では主として火山性高原の草原に生育する。生育地は植林されたり、野焼きが停止されたりして生育環境が悪化し、また、草原開発で生育地が減少し、絶滅の危険性が高い。
県内分布	津江山地，玖珠丘陵地・山地，由布・鶴見火山群
分布域	北海道(渡島) 本州 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 台湾 中国・中国(東北部) 朝鮮半島 インドシナ
生育環境	丘陵地から山地の草原。
現 状	牧野改良で消滅した生育地がある。
備 考	国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう，瀬戸内海]

**ヒメノヤガラ***Hetaeria sikokiana*  
(Makino et F. Maek.) Tuyamaラン科  
Orchidaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内の生育地はごく希で、個体数は極めて少ない。森林伐採や植生遷移の進行などにより、生育地の消滅が懸念される。**県内分布** 祖母・傾山地**分布域** 本州(岩手以南) 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島)**生育環境** 低山地の林内。**現 状** 最近、生育地が把握された。目立ちにくいので、同様な環境で他に生育している可能性がある。**ムヨウラン***Lecanorchis japonica* Bl.ラン科  
Orchidaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内の生育地は、安定した林内に生育する。生育地や個体数は僅少。森林伐採や林内の錯乱などの影響を受けやすく、絶滅の危険性が高い。**県内分布** 別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)**生育環境** 低地や丘陵地の林内。**現 状** 生育地は少なく，生育状態が悪くなった所や森林伐採で消滅した所がある。**ギボウシラン***Liparis auriculata* Bl.ラン科  
Orchidaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし**選定理由****県内分布** (由布・鶴見火山群)**分布域** 北海道(西南部) 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)**生育環境** 丘陵地の湧水付近の水流辺や林縁。**現 状** 「由布・鶴見火山群」で数個体生育していたが消滅した。この地域には類似した環境が多く，他に生育している可能性がある。**備 考** 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山 ]

## フガクスズムシソウ

*Liparis fujsanensis* F. Maekawaラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

## 選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地), (津江山地)

分布域 本州(富士山, 長野:鉢伏山) 九州(大分)

生育環境 低山地の自然林内の樹上。

現 状 「津江山地」で倒伏したシオジ樹幹に着生したものが採集されたが、その後の情報はない。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ジガバチソウ

*Liparis krameri*  
Franch. et Savatラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数も少ない。自然林内の攪乱や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 津江山地, 祖母・傾山地

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部)

生育環境 丘陵地から低山地の林内。

現 状 最近、確認されなくなった生育地が多くなってきた。

備 考 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## セイタカスズムシソウ

*Liparis lilifolia* (L.) L. C. Rich.  
var. *japonica* (Miq.) Hashimotoラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。森林伐採や植生遷移の進行による環境変化などで、絶滅の危険性が高い。

県内分布 (九重火山群), 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 大野川上流域

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,アムール

生育環境 火山山頂帯の林内。

現 状 個体数が極めて少なく、植生遷移の進行で衰退した生育地がみられる。「九重火山群」の記録はあるが、その生育地は把握されていない。

## アオフタバラン

*Listera makinoana* Ohwi

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では、落葉広葉樹林の谷部に生育し、個体数は少ない。自然林の伐採や林道開発、人による採取などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、祖母・傾山地

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低山地の谷沿い林内。

現 状 「祖母・傾山地」の谷部では、最近生育地が確認された。

備 考 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山 ]

## ミヤマフタバラン

*Listera nipponica* Makino

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 北海道 本州(北～中部) 四国 九州(大分)  
千島 ,ウスリー

生育環境

現 状 「祖母・傾山地」の文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 文献 [ 大井次三郎：日本植物誌 顕花編(1975) ]

## ボウラン

*Luisia teres* (Thunb.) Bl.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

選定理由 県内では樹木や断崖などに着生しているが少ない。崖の崩壊や防止工事による損傷や着生木の枯死などで、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 国東地区、豊後水道域、豊後水道後背地域、北川上流域

分布域 本州(紀伊半島以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

生育環境 低地や丘陵地の林内の樹上、崖地。

現 状 崖地や林内の樹木に希に生えるが、いずれも生育状態が悪くなっている。

備 考 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山、日豊海岸、祖母傾 ]

## ニラバラン

*Microtis unifolia* Reichb. fil.ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では島の狭い草地に生えていて、個体数は極めて少ない。その生育地は道路沿いにあるため、植生遷移の進行や採土などにより、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄  
中国 台湾 太平洋諸島 ,オーストラリア

**生育環境** 海岸の草地。

**現 状** 生育地は島の道路法面状の草地で、生育状態は衰退している。

## フウラン

*Neofinetia falcata* (Thunb.) Huラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 樹上に着生し、その確認は困難であるが、県内では所々の林内でわずかに生育している。人による採取で、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域

**分布域** 本州(静岡以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
中国

**生育環境** 低地や丘陵地の林内の樹上。

**現 状** 人による採取で、その減少は著しい。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## ムカゴサイシン

*Nervilia nipponica* Makinoラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA

**選定理由**

**県内分布** (大野川上流域)

**分布域** 本州(一部) 九州(大分・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 丘陵地の林内。

**現 状** 県内では、「大野川上流域」で採集された標本はあるが、以後、その生育状態は把握されていない。

## ヨウラクラン

*Oberonia japonica*  
(Maxim.) Makino

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 林内の樹幹に着生する。県内の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。着生木の伐採や枯損などにより、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** | 日田低地・丘陵地，津江山地，九重火山群，北川上流域
- 分布域** | 本州(関東地方南部以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄
- 生育環境** | 低地から低山地の林内の樹幹に着生。
- 現 状** | 林内の樹幹に着生するが，着生木は極めて少ない。
- 備 考** | 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，祖母傾 ]

## コケイラン

*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 県内では所々の渓谷沿いに生育しているが，個体数は多くない。渓谷林の伐採や河川工事，人による採取が懸念される。
- 県内分布** | 耶馬溪地区，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群
- 分布域** | 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 南千島 樺太 中国・中国(東北部) アムール ウスリー カムチャッカ
- 生育環境** | 丘陵地や低山地の渓谷沿い林縁。
- 現 状** | 渓谷沿いの森林伐採や植林が行われ，生育地が攪乱されて消滅した所がある。
- 備 考** | 北方寒冷地要素の植物。九州は，分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]。

## ガンゼキラン

*Phajus flavus* (Bl.) Lindl.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

- 選定理由** | 谷あいのやや湿った林内にみられる大形のラン。県内の生育地は限られ，個体数も極めて少ない。人による採取で，絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** | 豊後水道域
- 分布域** | 本州(東海道 紀伊半島 伊豆七島) 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄
- 生育環境** | 海岸の谷沿いの林内。
- 現 状** | 「豊後水道域」での生育地は，人に採取され，ほとんどみられなくなった。

## ツクシチドリ

*Platanthera brevicarata* Hay.  
subsp. *yakumontana* (Masamune) Masamune

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由	九州にごく希に分布する。県内の生育地はその北限地とされている。その生育地は極めて希で、個体数も少ない。生育環境の変化や人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	九重火山群
分布域	九州(大分・鹿児島)
生息環境	低山地の林内湿地。
現 状	最近生育地が確認された。植生遷移による環境変化で、生育状態が悪くなった所がある。
備 考	前川文夫は「原色，日本のラン」で、母種のニイタカチドリ(台湾中部高山2,500m前後に生育)と区別する必要はないとしている。 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

## ミズチドリ

*Platanthera hologlottis*  
Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内では西部地域の湿地に生え、個体数は少ない。水環境が変化して生育状態が悪化したり、人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪地区，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，(祖母・傾山地)
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・鹿児島) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) 南千島 ,アムール ,ウスリー ,ダフリア
生育環境	丘陵地や低山地の湿地。
現 状	「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。人が近づきやすい生育地では、しばしば採取されたあとがみられる。
備 考	北方寒冷地要素の植物。

## ツレサギソウ

*Platanthera japonica*  
(Thunb.) Lindl.

ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内の生育地は散在するが、個体数は少ない。草原や林縁を生育地とするため植林や野焼きの停止などによる生育環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地，英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大野川上流域，祖母・傾山地
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 中国
生育環境	丘陵地から低山地の草原や林縁。
現 状	植生遷移の進行による環境変化で、消滅した所が多くなっている。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山 ]

## ハシナガヤマサギソウ

*Platanthera mandarinorum*  
Reichb. fil.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 本県では火山山頂帯草原に希に生え、個体数は少ない。夏の登山期に開花するため人目につきやすく、人による採取で生育地の減少が懸念される。

県内分布 | 九重火山群

分布域 | 本州 四国 九州(佐賀・長崎・大分・鹿児島)  
中国

生育環境 | 火山山頂帯の草原や林縁。

現 状 | 山頂風衝地の草原に生え、個体数は少ない。花期は7～8月で、夏の登山シーズンと重なり、採取されることが多い。

## ヤマサギソウ

*Platanthera mandarinorum* Reichb. fil.  
var. *brachycentron* (Franch. et Savat.) Koidz.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 本県では火山性高原や尾根などの風衝地草原に生え、個体数は少ない。人による採取で生育地の減少が懸念される。

県内分布 | 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国 樺太

生育環境 | 丘陵地から山地の草原。

現 状 | 野焼きされる草原や尾根などの風衝地草原に生える。開花期は7～8月，夏山シーズンに開花するため，採取されることが多い。また，野焼きの停止による植生遷移の環境変化で，衰退した所がみられる。

備 考 | 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]

## マイサギソウ

*Platanthera mandarinorum* Reichb. fil.  
var. *neglecta* (Schltr.) F. Maekawa

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由 |

県内分布 | (九重火山群)，(由布・鶴見火山群)，(北川上流域)

分布域 | 本州(秋田:手形山) 九州(大分・宮崎)

生育環境 | 丘陵地や山地の草原。

現 状 | 上記地域で採集された標本はあるが，いずれもその生育状態は把握されていない。

**キソチドリ***Platanthera ophrydioides*  
Fr. Schm.ラン科  
Orchidaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分・宮崎)  
樺太 南千島

生育環境 山地の尾根岩上。

現 状 「祖母・傾山地」の尾根筋で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

備 考 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

**オオヤマサギソウ***Platanthera sachalinensis*  
Fr. Schmidt.ラン科  
Orchidaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (津江山地), (祖母・傾山地)

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分・宮崎)  
樺太 南千島

生育環境 丘陵地や低山地の林内。

現 状 「津江山地」, 「祖母・傾山地」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

備 考 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

**ソハヤキトンボソウ***Platanthera stenoglossa* Hay.  
subsp. *hottae* K. Inoueラン科  
Orchidaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 IA

選定理由 県内では生育地が局限されていて、個体数も極めて少ない。人の踏みつけや採取などにより、絶滅の危険性が高い。

県内分布 祖母・傾山地

分布域 九州(大分・宮崎)

生育環境 山地の尾根林内。

現 状 「祖母・傾山地」では最近、縦走路沿いの岩場に、ごくわずかの個体が生育しているのが確認された。

備 考 基準標本産地 [ 祖母山 ]  
ソハヤキ要素の植物。

## コバノトンボソウ

*Platanthera tipuloides* Lindl.  
var. *nipponica* (Makino) Ohwi

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では生育する湿地が少なく、生育地が限られていて狭い。野焼きの停止による植生遷移の進行や湿原の改変により、生育地の減少や消滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地。

**現 状** 野焼きが停止されたり，湿原の一部が埋められたりして，生育状態の悪化した所がある。

**備 考** 九州は分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]

## トキソウ

*Pogonia japonica* Reichb. fil.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内では分布域が狭く，個体数は極めて少ない。野焼きの停止による植生遷移による環境変化や，人による採取で消滅する生育地が多く，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国・中国( 東北部 ) ,アムール ,ウスリー ,南千島

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地。

**現 状** 水環境の悪化で生育状態が衰退した生育地がある。また，人による採取で消滅した所もある。

**備 考** 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]

## ヤマトキソウ

*Pogonia minor*  
(Makino) Makino

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内で確認された生育地は希で，個体数も少ない。土地開発や野焼きの停止による生育環境の悪化で消滅する生育地が多く，また，人による採取もあって絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区，九重火山群，由布・鶴見火山群，豊後水道後背地域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原。

**現 状** 「耶馬溪地区」のダム周辺の生育地は，公園になって一部消滅した。人の近づきやすい生育地では，採取されている所がみられる。

**備 考** 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]

## ウチョウラン

*Ponerorchis graminifolia*  
Reichb. fil.ラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

- 選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数も極めて少ない。人により採取されて多くの生育地は消滅し、絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、豊後水道後背地域、大野川上流域
- 分布域** 本州(秋田 関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島
- 生育環境** 丘陵地や低山地の岩場。
- 現 状** 人による採取で、どの生育地も消滅状態にある。たまに深山の岩や樹木などに着生したのを見ることもある。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## ナゴラン

*Sedirea japonica*  
(Linden et Reichb. fil.) Garay et Sweetラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

- 選定理由** 雲霧のかかりやすい林内の古木の樹幹や枝に着生する。県内の生育地、個体数はともに僅少で、人による採取や森林の伐採などにより、絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** 豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域
- 分布域** 本州(伊豆諸島 京都以西) 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島
- 生育環境** 丘陵地や低山地の林内。古木や樹幹に着生。
- 現 状** 生育地は樹林の伐採や植林、林道開発、人による採取などでほとんど消滅している。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、祖母傾 ]

## クモラン

*Taeniophyllum aphyllum*  
(Makino) Makinoラン科  
Orchidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 県内では分布する地域は狭く、個体数も少ない。森林の伐採や植林により、生育地の減少や生育環境の悪化が懸念される。
- 県内分布** 国東地区、津江山地、豊後水道後背地域、大野川上流域
- 分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島
- 生育環境** 丘陵地や低山地の林内。樹幹に着生。
- 現 状** 森林伐採されて消滅した生育地がある。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## カヤラン

*Thrixspermum japonicum*  
(Miq.) Reichb. fil.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は散在し、個体数はかなりみられたが、森林伐採や土地開発による生育環境の悪化で減少傾向となり、さらに人による採取が懸念されるようになってきた。

**県内分布** 中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道域、豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地から山地の林内樹上。

**現 状** 針葉樹、広葉樹どちらの樹種にも着生する。目立ちにくく、確認されていない生育地があるものと思われる。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## ヒトツボクロ

*Tipularia japonica* Matsumura

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地)、(日田低地・丘陵地)、(由布・鶴見火山群)

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 丘陵地や低山地の林内。

**現 状** 「英彦山・犬ヶ岳山地」、「日田低地・丘陵地」、「由布・鶴見火山群」で採集された標本はあるが、その後、いずれも生育状態は把握されていない。

**備 考** 国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## イイヌマムカゴ

*Tulotis iinumae*  
(Makino) Hara

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

**選定理由**

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地)

**分布域** 北海道(渡島) 本州 四国 九州(大分)

**生育環境**

**現 状** 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山 ]

## トンボソウ

*Tulotis ussuriensis*  
(Regel et Maack) Hara

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内の草原や林縁に希に生え、個体数も少ない。多くは林縁に生えるため、植生遷移の進行で生育状態に消長がみられ、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、祖母・傾山地
分布域	北海道、本州、四国、九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島、中国・中国(東北部)、南千島、ウスリー
生育環境	低山地や山地の草原や林縁。
現 状	植生遷移の影響を受けて、消滅した生育地がある。
備 考	北方寒冷地要素の植物で、九州は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## オオハクウンラン

*Vexillabium fissum* F. Maekawa

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由	分布域が狭い。県内での生育地、個体数はともに少なく、持続して生育しているか把握しにくい。林内に生育する微少な植物で、植生遷移の進行による生育環境の悪化で、生育地の消滅が懸念される。
県内分布	津江山地、九重火山群、祖母・傾山地
分布域	本州、九州(大分)
生育環境	丘陵地や低山地の林内。
現 状	溪谷沿いの自然林内に希に生える。植物体が小さいので7～8月の花期でないと確認しにくい。
備 考	本県は、分布の南限域にあたる。

## キバナノショウキラン

*Yoania amagiensis*  
Nakai et F. Maekawa

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由	県内ではごく限られた場所に生育し、個体数も極めて少ない。林内の生育環境に影響されやすく、生育状態の消長が著しい。常に消滅の危険性が高い。
県内分布	九重火山群、祖母・傾山地
分布域	本州(関東地方西南部、伊豆半島、東海地方、奈良)、九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生息環境	低山地や山地の林内。
現 状	「祖母・傾山地」ではスズダケの中に生育している。無葉ランで生育の確認が難しい。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山 ]

## ショウキラン

*Yuania japonica* Maxim.

ラン科  
Orchidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 主として落葉広葉樹林内に生える無葉ラン。県内の生育地、個体数はともに少ない。生育環境の変化によって生育状態が違い、森林伐採や環境の乾燥化などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 津江山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，北川上流域

**分布域** 北海道(半島部) 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地から山地の林内。

**現 状** 気象条件により生育状態が著しく違う。

**備 考** 九州は、分布の南限域にあたる。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## ハンゲショウ

*Saururus chinensis*  
(Lour.) Baill

ドクダミ科  
Saururaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 低湿地に生育し、県内の生育地は散在していて少ない。湿地の改修や枯渇などによる生育環境の悪化で、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 中国 フィリピン

**生育環境** 低地の水辺や湿地。

**現 状** 生育環境が変化して、生育状態の悪化した所がみられる。

## サダソウ

*Peperomia japonica* Makino

コショウ科  
Piperaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭く、県内では「豊後水道域」に限られる。海岸の崖下などに多く生え、道路工事、崖の崩壊などの影響を受けて生育環境の悪化し、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 海岸の林内や湿った岩場。

**現 状** 崖の樹陰などに希に生え、いずれも個体数は少ない。道路工事で消滅した生育地がある。

**備 考** 暖地植物。国定公園指定植物 [ 日豊海岸 ]

## イヌコリヤナギ

*Salix integra* Thunb.

ヤナギ科  
Salicaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて限定されており，個体数も少ない。溪流辺の改変や湿地開発により，生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 日田低地・丘陵地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,アムール ,ウスリー ,千島

**生育環境** 丘陵地から低山地の溪畔や湿地。

**現 状** 生育地は溪畔に近く，川の氾濫や土地の改変により消滅した所がある。

## コウライヤナギ

*Salix koreensis* Anders.

ヤナギ科  
Salicaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (耶馬溪地区)，(九重火山群)

**分布域** 本州(西部) 九州(佐賀・大分)  
朝鮮半島 中国(東北部)

**生育環境**

**現 状** 「耶馬溪地区」，「九重火山群」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## ノヤナギ

*Salix subopposita* Miq.

ヤナギ科  
Salicaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では火山性高原の風衝地に生育し，しばしば群生している。野焼きの停止や牧野改変による生育環境の変化で，生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，姫島・国東海岸，英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，大野川上流域，祖母・傾山地

**分布域** 本州(中国) 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)  
韓国(済州島)

**生育環境** 丘陵地から山地の乾燥した風当たりの強い草原。

**現 状** 消滅の主たる原因は土地改変によるもので，「九重火山群」や「由布・鶴見火山群」では消滅した生育地がある。

**備 考** 大陸系遺存植物。

## ハンノキ

*Alnus japonica* (Thunb.) Steud.

カバノキ科  
Betulaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の湿地や湧水地の周辺部に生育し、しばしば群生する。土地造成や道路建設などで生育環境が改変され、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地，姫島・国東海岸，九重火山群，(豊後水道後背地域)

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島 ,ウスリー ,中国(東北部)

**生育環境** 低地や丘陵地の湿地，湧水池の周辺部。

**現 状** 低地の生育地では土地造成や道路工事などで皆伐され，消滅した所がある。「別府湾沿岸域」の生育地は土地改変で消滅した。「豊後水道後背地域」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

**備 考** ケハンノキ(var.*koreana*)を含む。

## イワシデ

*Carpinus turczaninovii* Hance

カバノキ科  
Betulaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県の生育地は限られていて個体数も少ない。生育地の崩落や生育環境の変化により，その消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地

**分布域** 本州(中国) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分) 朝鮮半島 ,中国(北部・東北部)

**生育環境** 丘陵地の乾燥した尾根や岩場の林内。

**現 状** 岩場の厳しい生育環境で，個体数の自然増は期待できず，徐々に減少する傾向にある。

**備 考** 県指定天然記念物「高平のイワシデ林」(本耶馬溪町)

## ハシバミ

*Corylus heterophylla* Fischer  
var. *thunbergii* Bl.

カバノキ科  
Betulaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では「九重火山群」だけに分布する。野焼きの行われる放牧地，採草地などに群生するが，野焼きの停止による植生遷移の進行や牧野改良などにより，生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 九州(大分)

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原，林縁。

**現 状** 草原が放置されて森林化している所では，個体数は激減している。

**備 考** 大陸系遺存植物。「九重火山群」はその南限域にあたる。母種は朝鮮半島，中国(東北部)・中国北部，東シベリアに分布する。

## ハナガガシ

*Quercus hondae* Makinoブナ科  
Fagaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由	九州と四国に分布する。県内では「豊後水道域」とその背後地の丘陵地に林をつくるが、生育範囲は狭い。他の地域では単木で生育しているものがあり、消滅の危険性が高い。
県内分布	別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域
分布域	四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	丘陵地。
現 状	国天然記念物のものを除けば住民の意識は薄く，隣接するスギの切り出しの邪魔になるということで伐採されたことがある。
備 考	国指定天然記念物「堅田郷八幡社のハナガガシ林」・一部県指定「城八幡社の自然林」(佐伯市)，県指定天然記念物「八坂神社のハナガガシ林」(弥生町)

## アベマキ(自生種)

*Quercus variabilis* Bl.ブナ科  
Fagaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県では、植栽によるものが多く、自生種の生育地は瀬戸内型気候の岩場のごく狭い地域に限られている。森林伐採や植林などによって、生育地の消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地
分布域	本州(中～西部) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分) 朝鮮半島 中国・中国(東北部)
生育環境	低地や丘陵地の尾根林内。
現 状	「国東地区」では、地域開発による土地改変で生育地が狭くなっている。「耶馬溪地区」では、筑紫熔岩上に生育地がみられる。

## タイワントリアシ

*Boehmeria formosana* Hayataイラクサ科  
Urticaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由	
県内分布	(豊後水道後背地域)
分布域	九州(大分・鹿児島) 沖縄 中国 台湾
生育環境	低地の谷沿いの林内。
現 状	近年、ごく狭い範囲で生育地が確認されたが、林内の下刈りが行われ、その後、生育状態は把握されていない。
備 考	「豊後水道後背地域」は、日本における分布の北限域にあたる。

## アカソ

*Boehmeria tricuspis* Makino

イラクサ科  
Urticaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。路傍の林縁に生えているため、人為が及びやすく、生育地が攪乱されて絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部)

**生育環境** 低山地の林縁。

**現 状** 生育地、個体数ともに僅少。林道沿いに生育しているため、草刈や切り枝が積まれるなど、しばしば人為の影響を受けている。

## イヌヤブマオ

*Boehmeria pseudoc-sieboldiana* Honda

イラクサ科  
Urticaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭い。県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。林縁や路傍に生育し、植生遷移の進行により生育環境が悪化し、生育地の衰退や減少が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 九州(大分・?)

**生育環境** 岬の林縁や路傍。

**現 状** 岬の尾根を通る道路沿いの林縁や路傍に生え、個体数は少ない。

**備 考** 九州の特産種とされる。

## ヤナギイチゴ

*Debregeasia edulis*  
(Sieb. et Zucc.) Weddell

イラクサ科  
Urticaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では「豊後水道域」だけに生育するが、個体数はかなりみられる。林道工事、河川工事などで影響を受けた所が多く、生育地の変化が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(関東地方南部 東海道 近畿地方南部) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国

**生育環境** 海岸の林縁。

**現 状** 「豊後水道域」の南に行くほど個体数は増え、結実もみられる。

**チョクザキミズ***Lecanthus peduncularis*  
(Royle) Wedd.イラクサ科  
Urticaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 IA**選定理由** | 日本での生育地は局限されている。本県の生育地は「大野川上流域」に限られ、個体数も極めて少ない。河川工事や道路工事などで生育地が改変され、絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** | 大野川上流域**分布域** | 九州(熊本・大分)  
中国(中部・南部・西南部),台湾,ヒマラヤ,ジャワ,フィリピン**生育環境** | 丘陵地のしぶきがかかる滝の周辺。**現 状** | 人里近くの滝の、しぶきがかかるような岩場に生育している。道路沿いで衰退した生育地がある。**タチゲヒカゲミズ***Parietaria micrantha* Ledeb.  
var. *coreana* (Nakai) Haraイラクサ科  
Urticaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 IB**選定理由** |**県内分布** | (英彦山・犬ヶ岳山地)**分布域** | 本州(中部),九州(大分)  
朝鮮半島**生育環境** |**現 状** | 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。**ミヤコミズ***Pilea kiotensis* Ohwiイラクサ科  
Urticaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 II**選定理由** | 主に西日本に分布し、本県での生育地は点在し、少ない。溪流沿いの陰湿地に生育し、護岸工事や増水による流失などで、生育地の消滅が懸念される。**県内分布** | 耶馬溪地区、大分川・大野川丘陵地、九重火山群**分布域** | 本州(近畿地方),九州(福岡・佐賀・大分)**生育環境** | 丘陵地の湿った林縁や溪流辺。**現 状** | 「大分川・大野川丘陵地」のスギ林内の生育地では、その伐採で著しく攪乱され、消滅状態である。

## コケミズ

*Pilea peploides*  
(Gaudich.) Hook. et Arn.

イラクサ科  
Urticaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では海岸の湿った岩の隙間に生え、個体数は極めて少ない。波による被害や植生遷移の進行による環境変化で、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), 豊後水道域

**分布域** 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島, 台湾, 中国, ウスリー, マレーシア, インド, ハワイ, ガラパゴス

**生育環境** 海岸の湿った岩の隙間。

**現 状** 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。「豊後水道域」は、ごく最近、生育地が確認された。

## ボロボロノキ

*Schoepfia jasminodora*  
Sieb. et Zucc.

ボロボロノキ科  
Olacaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では、西部と南部地域に偏在し、生育地、個体数とも少ない。低地の二次林にあるものは、里山の開発による森林伐採の影響が懸念される。

**県内分布** 日田低地・丘陵地, 豊後水道後背地域

**分布域** 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
中国

**生育環境** 低地や丘陵地のやや乾燥した林内。

**現 状** カシ・シイ二次林に生え、個体数は少ない。

## ツクバネ

*Buckleya lanceolata* Miq.

ジャクダン科  
Santalaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (玖珠丘陵地・山地), (豊後水道後背地域)

**分布域** 本州(近畿地方以東), 九州(大分)

**生育環境**

**現 状** 「玖珠丘陵地・山地」, 「豊後水道後背地域」の文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 文献 [原 寛: 日本顕花植物分布図 (1959)]

## オオバヤドリギ

*Taxillus yadoriki*  
(Sieb.) Danserヤドリギ科  
Loranthaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内では、生育地は点在し、少ない。樹上寄生のため、風害、伐採、あるいは寄生樹の衰退により、生育状態の悪化が懸念される。
県内分布	国東地区、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域
分布域	本州(関東地方南部以西)、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島(南部)
生育環境	低地の林内(樹上)、スギ、メタセコイア、クヌギ、ケヤキ、タブノキ、ソメイヨシノ、イロハモミジなどに寄生する。
現 状	生育地は孤立している。オオバヤドリギが多く着生し、衰退した寄生樹がみられる。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## タイリンアオイ

*Asarum asaroides*  
(Morr. et Decne.) Makinoウマノスズクサ科  
Aristolochiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内の分布域は広く、個体数もかなり多い。植生の遷移による生育環境の悪化や人による採取が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道域、豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域
分布域	本州(中国地方西部)、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)
生育環境	低地から低山地の林内。
現 状	道路工事や人による採取などで、個体数が減少した所がある。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山 ]

## ミヤコアオイ

*Asarum asperum* F. Maekawaウマノスズクサ科  
Aristolochiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	全国的には分布が限られている。県内では中部地域に偏在する。植生の遷移による生育環境の悪化や人による採取が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地
分布域	本州(西部)、四国、九州(大分)
生育環境	丘陵地や低山地の林縁、林内。
現 状	植生の遷移や森林伐採などにより、個体数の減少した所がある。
備 考	本県は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## フタバアオイ

*Asarum caulescens* Maxim.ウマノスズクサ科  
Aristolochiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内での生育地は各地に散在し、しばしば群生して個体数はかなり多い。植生の遷移や森林伐採などによる生育環境の変化で、生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、北川上流域

**分布域** 本州(福島以南)、四国、九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地や低山地の谷林内。

**現 状** 植林や森林伐採による環境の変化で、消滅したり、個体数の減少した所がある。

## クロフネサイシン

*Asarum dimidiatum* F. Maekawaウマノスズクサ科  
Aristolochiaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。林縁の生育地は植生遷移の進行による環境変化で生育状態が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地、北川上流域

**分布域** 四国、九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低山地や山地の林縁や林内。

**現 状** ズズダケが密生して衰退した生育地がある。

## サンヨウアオイ

*Asarum hexalobum*  
(F. Maekawa) F. Maekawaウマノスズクサ科  
Aristolochiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 主として常緑樹林内に生え、県内の生育地は限られている。森林の伐採で生育環境が悪化し、また、人による採取で生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 大分川・大野川丘陵地、豊後水道域、豊後水道後背地域

**分布域** 本州(中国地方西部)、九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地や丘陵地の林内。

**現 状** 生育地は保存のよい常緑樹林内に限られているが、個体数はかなり多い。植林されて生育環境の悪化した所がみられる。

**備 考** 国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## ツチトリモチ

*Balanophora japonica* Makinoツチトリモチ科  
Balanophoraceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育地は東部・南部地域に偏在し、個体数は少ない。森林伐採，林道開設など生育環境の改変で，絶滅の危険性が高い。

県内分布 豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域

分布域 本州 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地や丘陵地の林内。

現 状 クロキ，ハイノキなどの根に寄生し，アカマツ林やコジイ林などを生育地とする。森林伐採で消滅した生育地がある。

備 考 国定公園指定植物 [ 日豊海岸，祖母傾 ]

## ミヤマツチトリモチ

*Balanophora nipponica* Makinoツチトリモチ科  
Balanophoraceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 本州北部に広く分布し，南下するに従い分布域が狭くなっている。本県の生育地は点在し，個体数も少ない。自然林の伐採による生育地の減少が懸念される。

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

分布域 本州(北～中部) 九州(長崎・大分・鹿児島)

生育環境 山地の谷部林内，落葉広葉樹(カエデ類)を宿主として根に寄生する。

現 状 「祖母・傾山地」では，ごく最近，生育地が確認された。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]。異名キュウシュウツチトリモチの基準標本産地 [ 由布岳 ]

## サイコクヌカボ

*Polygonum foliosum* H. Lindb.  
var. *nikaii* (Makino) Okuyamaタデ科  
Polygonaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)，(九重火山群)

分布域 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地や丘陵地の湿った林縁。

現 状 「別府湾沿岸域」，「九重火山群」で採集されているが，その後，生育状態は把握されていない。

## ヤナギヌカボ

*Polygonum foliosum* H. Lindb.  
var. *paludicola* (Makino) Kitamura

タデ科  
Polygonaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は散在し、しばしば群生するが、生育範囲は狭い。1年草のため、生育環境の変化で生育状態に消長がみられる。土地の改変や水環境の悪化で生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大野川上流域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 低地から低山地の湿地や湿った林縁。

**現 状** 生育環境が不安定で、生育状態が持続しているかどうか把握されていない所がある。

## ヌカボタデ

*Polygonum taquetii* Lév.

タデ科  
Polygonaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は点在し、しばしば群生するが、生育範囲は広くない。1年草のため、水環境による消長が著しく、生育環境の変化で生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 低地や丘陵地の湿地。

**現 状** かつての生産地で、生育状態が把握されていない所が多い。

## フトボノヌカボタデ

*Polygonum kawagoeanum* Makino  
var. *densiflorum* (Hara et I. Ito) Ohwi

タデ科  
Polygonaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域はごく狭く、県内の生育地は希。池畔の一部に生育し、個体数は少ない。生育する池畔は人類文化地と接しているため、生育地が攪乱され、水環境の変化もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地

**分布域** 本州(千葉) 九州(大分)

**生育環境** 低地の池畔。

**現 状** 生育地の池畔は、ほとんどが広場の緑地帯となっていて、常に人為が及んでいる。

**備 考** 分布域はごく狭く、本県は、分布の南限域にあたる。

## コギシギシ

*Rumex nipponicus*  
Franch. et Savat.タデ科  
Polygonaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 | 県内の生育地は耕作地に多い。しばしば群生しているが、生育環境が不安定で生育状態に消長がみられ、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 | 別府湾沿岸域，豊後水道後背地域

分布域 | 本州(関東沿海地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，  
沖縄  
朝鮮半島 中国

生育環境 | 低地の水田や畑地。

現 状 | 耕作地やその周辺地に生育するため生育環境が不安定で、生育状態の消長が著しい。

## イソハウキギ

*Kochia scoparia* (L.) Schrad.  
var. *littorea* Makinoアカザ科  
Chenopodiaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内の生育地は河口の塩湿地で狭く、個体数は少ない。海岸の埋立てや河川敷の改変などで、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 | 周防灘海岸，別府湾沿岸域

分布域 | 本州(東海道以西) 四国 九州(福岡・大分)  
朝鮮半島 中国( 東北部)

生育環境 | 海岸の塩湿地。

現 状 | 海岸の埋立てによって生育地の消滅した所がある。

## シチメンソウ

*Suaeda japonica* Makinoアカザ科  
Chenopodiaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 | (周防灘海岸)，(別府湾沿岸域)

分布域 | 九州(福岡・佐賀・長崎・大分)  
朝鮮半島 中国( 東北部)

生育環境 | 海岸や河口の泥湿地。

現 状 | 「周防灘海岸」や「別府湾沿岸域」で採取された標本や記録はあるが、生育地は埋立てや河川工事などで改変されており、現在まで、生育状態は把握されていない。

備 考 | 大陸系遺存植物。

## ヒロハマツナ

*Suaeda malacosperma* Hara

アカザ科  
Chenopodiaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

**選定理由** 全国的に分布域が限られており，県内でも生育地，個体数はともに僅少。生育地は海岸の埋立てや河川工事などによって改変され，絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 周防灘海岸，別府湾沿岸域

**分布域** 本州(広島) 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)

**生育環境** 海岸や河口の泥湿地。

**現 状** 「周防灘沿岸」や「別府湾沿岸域」の河口の泥湿地に局所的に生育していたが，現在，生育地の確認できる所はほとんどない。

## ハママツナ

*Suaeda maritima* (L.) Dumort.  
subsp. *asiatica* Hara

アカザ科  
Chenopodiaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 浅海地の泥湿地に生育する。県内の生育地は散在し，帯状に分布する。生育地の地形変化や改変で，生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 周防灘海岸，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 本州(宮城以南 太平洋側) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
北半球 ,オーストラリア

**生育環境** 海岸や河口の泥湿地。

**現 状** 河口の生育環境の変化で，生育状態が衰退した所がある。

## ハチジョウイノコズチ

*Achyranthes bidentata* Bl.  
var. *hachijoensis* (Honda) Hara

ヒユ科  
Amaranthaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は海岸の岬の先端部や島に限られる。路傍近くにも生育地があるため，土地開発や吹付工事などにより，生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(南部) 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 海岸の林縁や路傍。

**現 状** 島の生育地で漁具などが放置され，生育状態の悪化した所がみられる。

## ヤナギイノコズチ

*Achyranthes longifolia*  
(Makino) Makino

ヒコ科  
Amaranthaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では主として西部地域に偏在し、点在している。路傍や林縁に生育していることから、道路開設や除草などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 日田低地・丘陵地，津江山地，玖珠丘陵地・山地

**分布域** 本州(中部地方以南) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国 台湾

**生育環境** 低地や丘陵地の林縁。

**現 状** 低地から丘陵地の林縁に生育しているため、生育地は人為的影響を受けやすく、消滅した所がある。

## ヒメハマナデシコ

*Dianthus kiusianus* Makino

ナデシコ科  
Caryophyllaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (豊後水道域)

**分布域** 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 海岸の岩上。

**現 状** 「豊後水道域」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 日豊海岸 ]

## オグラセンノウ

*Lychnis kiusiana* Makino

ナデシコ科  
Caryophyllaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 国内では中国地方と九州の一部に分布する。県内の生育地は極めて希で、個体数も僅少。生育地の湿地の開発や乾燥化による生育環境の悪化，人による採取などで，絶滅の危険性は極めて高い。

**県内分布** 津江山地，九重火山群

**分布域** 本州(西部) 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島

**生育環境** 丘陵地の湿地。

**現 状** 植林されて生育する個体数が少なくなった所，生育の確認できない所がある。

**備 考** 大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## フシグロセンノウ

*Lychnis miqueliana* Rohrb.

ナデシコ科  
Caryophyllaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では主として西部・中部の火山地域に偏在する。生育地や個体数はかなり多い。植生遷移の進行による環境変化や人による採取が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地

分布域 本州(関東・中部・西部地方) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)

生育環境 丘陵地や低山地の林縁。

現 状 植生遷移の進行で生育環境が変化し，生育状態が悪くなった所がある。

## タチハコベ

*Moehringia trinervia* Clairv.

ナデシコ科  
Caryophyllaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 (姫島・国東海岸)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・鹿児島)  
ヨーロッパ シベリア 台湾

生育環境

現 状 「姫島・国東海岸」の記録はあるが，その生育地は把握されていない。

## ワダソウ

*Pseudostellaria heterophylla*  
(Miq.) Pax

ナデシコ科  
Caryophyllaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し，個体数も少ない。植林の森林化や土地改変により，生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，祖母・傾山地，北川上流域

分布域 本州 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー

生育環境 丘陵地や低山地の北寄りのやや湿った草原や林縁。

現 状 主として丘陵地の火山性草原を生育地としているため，植林や人工牧野などへの改変で，消滅した生育地がある。

備 考 大陸系遺存植物。九州は，分布の南限域。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## ハマツメクサ

*Sagina maxima* A. Grayナデシコ科  
Caryophyllaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では海岸崖地に生えるが、生育範囲は狭い、魚釣り、レジャーなどによる生育環境の悪化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 樺太 千島 台湾 中国 中国(東北部) 朝鮮半島 ウスリー カムチャツカ アリューシャン アラスカ 北米西海岸

生育環境 海岸の岩上。

現 状 「豊後水道域」の島の岩上に、ごく少ない生育地が確認されている。

## アオハコベ

*Stellaria uchiyamana* Makino  
var. *apetala* (Kitamura) Ohwiナデシコ科  
Caryophyllaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 生育地は県の西部地域に偏在し、生育地、個体数は僅少。人類文化地に生育するため、生育環境に人為が及びやすく、絶滅の危険性が高い。

県内分布 日田低地・丘陵地

分布域 本州(近畿地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地の路傍や空き地。

現 状 生育状態に消長がみられ安定していない。

## ジュンサイ

*Brasenia schreberi* J. F. Gmel.スイレン科  
Nymphaeaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は北部・西部地域に偏っている。古い池沼に生育し、生育地は少ない。池沼開発や水質汚濁による生育環境の悪化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、別府湾沿岸域

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 東亜 インド オーストラリア 西アフリカ 北米

生育環境 低地や丘陵地の池沼。

現 状 池沼の水質悪化により、消滅した生育地がある。

## オニバス

*Euryale ferox* Salisb.

スイレン科  
Nymphaeaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内では農業用ため池に点在し、生育地は少ない。水質汚濁や改修工事、埋立てなどにより生育地が激減している。水環境の変化による消長が著しく、環境の悪化で絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 中津・宇佐低地，(別府湾沿岸域)

**分布域** 本州(宮城以南)九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 ,インド ,中国・中国( 東北部 ) ,ウズリー ,台湾

**生育環境** 低地の池沼。

**現 状** 年による消長が著しく、安定した生育地は数か所ほどである。「別府湾沿岸域」の生育地は1980年代以降、その生育は確認されていない。

## コウホネ

*Nuphar japonicum* DC.

スイレン科  
Nymphaeaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は県北地域に偏在し、生育地は点在するが、個体数はかなり多い。比較的水環境の安定したため池に生育する。周辺地の環境変化による影響が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 北海道(西部) 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 低地の池沼。

**現 状** 水環境が安定している池沼でも、他の水生植物と競合して生育状態に消長がみられる。「豊後水道域」はごく最近、生育地が確認された。

## ヒメコウホネ

*Nuphar subintegerrimum* Makino

スイレン科  
Nymphaeaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内で生育する池沼は極めて希。生育する池は水位の変化が著しく、生育環境は安定していない。また、開発されて絶滅する危険性が高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地

**分布域** 本州 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地の池沼。

**現 状** 「中津・宇佐低地」は池沼は多いが、ヒメコウホネの生育地はごく希で、不安定な生育環境にある。

## ヒツジグサ

*Nymphaea tetragona* Georgi  
var. *angusta* Casp

スイレン科  
Nymphaeaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内では、主に西部地域の池沼に生育し、生育地は少ない。水質汚濁で水環境が悪化した所が生じており、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪地区、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、由布・鶴見火山群
分布域	本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 欧州、シベリア、中国・中国(東北部)、朝鮮半島、極東地方、インド、北米
生育環境	低地や丘陵地の池沼。
現 状	低地のため池で水質汚濁がひどく、生育状態の把握できない所がある。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山 ]

## ハナカズラ

*Aconitum ciliare* DC.

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由	九州だけに分布しており、県内でも過去の記録はあるが、生育の確認できる所は希である。植林や土地開発などにより、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群
分布域	九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島(南部)
生育環境	丘陵地の草原や明るい林内。
現 状	一部の群生地は土地開発や植生遷移で消滅した。点在する生育地も個体数は極めて少ない。
備 考	大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## コウライブシ

*Aconitum jaluense* Komarov

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA

選定理由	
県内分布	(大野川上流域)
分布域	本州(中国地方)、九州(大分) 朝鮮半島
生育環境	丘陵地の林縁。
現 状	「大野川上流域」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
備 考	大陸系遺存植物。本県は、分布の南限域にあたる。

## タンナトリカブト

*Aconitum japonicum* Thunb.  
subsp. *napiforme* (Lév. et Van.) Kadota

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 日本では西南日本に限定して分布するが、県内ではかなり広い地域に生育し、個体数も少なくない。主として林縁に生えるため、植生遷移の進行や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** | 中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地、
- 分布域** | 本州(中国地方) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島
- 生育環境** | 丘陵地から山地の林縁や林内。
- 現 状** | 植生が遷移して生育環境が変わり、衰退した生育地がある。
- 備 考** | 大陸系遺存植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## ルイヨウショウマ

*Actaea asiatica* Hara

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 県内の生育地はごく希で、個体数も少ない。谷沿いの林内に生えるため、渓谷林の伐採や谷部の崩壊などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** | 九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地
- 分布域** | 北海道 本州 四国 九州(大分) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー
- 生育環境** | 低山地の林内。
- 現 状** | 安定した渓谷沿いの林内に生えるが、森林伐採や出水などで消滅した生育地がある。
- 備 考** | 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。

## フクジュソウ

*Adonis amurensis*  
Regel et Radde

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

- 選定理由** | 県内の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。年々生育地が失われており、辛うじて生育している所が多い。草地開発、人による採取などで、絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** | 九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地
- 分布域** | 北海道 本州 九州(大分・宮崎・鹿児島) 千島
- 生育環境** | 丘陵地や低山地の谷草原や林縁。
- 現 状** | 生育環境が保持され持続している生育地は、ほとんどなくなっている。
- 備 考** | 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ユキワリイチゲ

*Anemone keiskeana* T. Itoキンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域は極めて狭い。県内での生育地，個体数はともに僅少。森林伐採や人による採取などで，生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域，北川上流域

分布域 本州(西部) 四国 九州(熊本・大分)

生育環境 丘陵地や低山地の林縁，林内。

現 状 森林伐採により環境が悪化した所や人により採取された所がある。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## キクザキイチリンソウ

*Anemone pseudo-altaica* Haraキンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域 北海道 本州(北部～中部) 九州(大分)

生育環境

現 状 「九重火山群」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## アズマイチゲ

*Anemone raddeana* Regelキンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は極めて少なく，個体数も僅少である。林縁に生育するため，植生遷移の進行や人為の影響を受けやすく，絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群，大野川上流域

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分 宮崎)

生育環境 低山地の林縁。

現 状 「九重火山群」では，人為による影響を強く受けて，消滅寸前の生育地がある。「大野川上流域」では最近，生育地が確認された。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ヤマオダマキ

*Aquilegia buergeriana* Sieb. et Zucc.

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域が狭く、県内での生育地は点在し、個体数も少ない。生育地の植生遷移の進行による生育環境の変化や人による採取などで、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州 四国 九州(大分・宮崎)

**生育環境** 火山山頂帯付近の草原や林縁。

**現 状** 植生遷移の進行により生育状態が衰退した所や、人による採取で消滅した所がある。

## リュウキンカ

*Caltha palustris* L.  
var. *membranacea* Turcz.

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北方の湿原には広く分布するが、県内では限られた狭い地域に生育する。開発による攪乱や、生育地の乾燥化による生育環境の悪化で、個体数は減少しており、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群

**分布域** 本州 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,アムール ウスリー 東シベリア 極東地方

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地や水流辺。

**現 状** ほとんどの生育地で生育環境が悪化し、個体数が減少している。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## カザグルマ

*Clematis patens*  
Morren et Decaisne

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数も少ない。低いつる性の植物のため植生遷移の影響を受けやすく、人による採取もあって、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部)

**生育環境** 低地から低山地の林縁。

**現 状** 管理放棄された里山では、植生遷移の進行で消滅した生育地がある。

## オオクサボタン

*Clematis speciosa* (Makino) Makinoキンボウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	分布域は狭い。県内の生育地は石灰岩地に点在し、個体数も少ない。石灰岩の採石や観光開発により、生育地の減少が懸念される。
県内分布	石灰岩地域
分布域	四国 九州(熊本・大分・宮崎)
生育環境	石灰岩地域の林内や岩崖。
現 状	石灰岩の採石現場、鍾乳洞などの観光地では、衰退した生育地がみられる。
備 考	国立公園指定植物 [ 日豊海岸, 祖母傾 ]

## トリガタハンショウヅル

*Clematis tosaensis* Makinoキンボウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	分布域が狭く、県内での生育地は「英彦山・犬ヶ岳山地」だけで、個体数も少ない。林縁に生えるため、植生遷移の進行による環境変化や樹木の伐採によって、生育地の消滅が懸念される。
県内分布	英彦山・犬ヶ岳山地
分布域	本州 四国 九州(福岡・大分)
生育環境	低地から低山地の林縁。
現 状	明るい林縁に生えて林内での生育はよくない。花が目立つので採取されることがある。
備 考	国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## シロバナハンショウヅル

*Clematis williamsii* A. Grayキンボウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内では石灰岩地に生育するつる植物で、個体数は少ない。林縁に生えるため、道路工事の影響を受けやすく、絶滅の危険性が高い。
県内分布	石灰岩地域
分布域	本州( 東海道以西 ) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
生育環境	石灰岩地域の林縁や林内。
現 状	生育地は石灰岩地に限られており、道路工事で消滅した所がある。
備 考	国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## ミスミソウ

*Hepatica nobilis* Schreber  
var. *japonica* Nakai

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 準

選定理由 県内では渓谷沿いの自然林内や岩場に生え、生育地は狭く、個体数もごくわずかである。渓谷林の伐採や人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地

分布域 本州 九州(福岡・大分)

生育環境 丘陵地の渓谷崖や林縁。

現 状 ごく限られた範囲の渓流辺岩上、林内にわずかな個体が生育している。どの生育地も絶滅寸前の状態である。

備 考 分布の南限域。国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山 ]

## ハイサバノオ

*Dichocarpum dicarpon* (Miq.) W.T.Wang et Hsiao  
var. *decumbens* Tamura et Kosuge

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地、個体数は極めて少ない。渓流辺の陰地に生育するため大雨による流失で、絶滅の危険性が高い。

県内分布 津江山地

分布域 四国? 九州(熊本・大分)

生育環境 低山地の渓谷沿い林縁。

現 状 生育地は、最近確認された。サバノオと混生しているが、個体数は僅少である。

## トウゴクサバノオ

*Dichocarpum trachyspermum*  
(Maxim.) W. T. Wang et Hsiao

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内で把握された生育地は極めて希で、個体数も少ない。渓流辺の岩上や林縁を生育地としているので、植生の遷移や出水による流失などで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群, 祖母・傾山地

分布域 本州(宮城以南), 四国 九州(福岡・熊本・大分)

生育環境 低山地の渓谷沿い林縁。

現 状 生育地がスズダケに覆われ、岩上の一部にごくわずか生育している。

備 考 九州は分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ヤマシャクヤク

*Paeonia japonica*  
(Makino) Miyabe et Takeda

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

- 選定理由** 県内の生育地は散在し、個体数は極めて少ない。森林の伐採や人による採取で消滅する生育地が多くなり、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、祖母・傾山地、北川上流域
- 分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** 低山地や山地の谷林内。
- 現 状** 森林伐採や林道などの開発、人による採取で、生育地が激減している。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## ケナシベニバナヤマシャクヤク

*Paeonia obovata* Maxim.  
f. *glabra* (Makino) Kitamura

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

- 選定理由** 県内に生育する範囲は狭く、個体数も極めて少ない。森林伐採、植林地の間伐の遅れにより生育環境が悪化し、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群
- 分布域** 北海道 本州(北～中部) 九州(熊本・大分・宮崎)
- 生育環境** 低山地の林内。
- 現 状** 自然林のものは人による採取のため少なくなっている。明るいスギ植林地にも生育がみられるが、群生していた所はほとんど採取されている。

## オキナグサ

*Pulsatilla cernua*  
(Thunb.) Spreng.

キンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** 県内の草原に散在し、生育地は狭く、個体数は少ない。植生遷移の進行や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地
- 分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
韓国(済州島)、中国
- 生育環境** 低地から低山地の向陽草原。
- 現 状** 草原の森林化や人による採取によって消滅した生育地が多い。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、日豊海岸、祖母傾 ]

**ヒメバイカモ***Ranunculus trichophyllus* Chaix  
var. *kazusensis* (Makino) Wiegleb.キンポウゲ科  
Ranunculaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 IA**選定理由** 淡水の清流に生育する水生植物で、県内での生育地は極めて希。河川の汚染や河川改修などにより、絶滅の危険性は極めて高い。**県内分布** 豊後水道後背地域**分布域** 北海道 本州 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島**生育環境** 低地の水溝や河川。**現 状** 昭和30年代に「豊後水道域後背地域」の川で生育地が確認された。上流域で河川工事などもあり、年によりその消長が著しい。**ミヤマカラマツ***Thalictrum filamentosum* Maxim.  
var. *tenellum* (H. Boiss.) Ohwiキンポウゲ科  
Ranunculaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内では深山に生育するので、人為による被害は少ないが、個体数は極めて少なく、生育地の植生遷移の進行による環境変化で、絶滅の危険性が高い。**県内分布** 九重火山群，祖母・傾山地**分布域** 北海道 本州 四国 九州(大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(東北部) ウスリー 南千島**生育環境** 山地の林縁。**現 状** 植生遷移の進行により、衰退した生育地がある。**備 考** 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]**ノカラマツ***Thalictrum simplex* L.  
var. *brevipes* Haraキンポウゲ科  
Ranunculaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 II**選定理由** 県内の生育地、個体数はともに少ない。草原の改変や野焼きの停止による植生遷移の進行で、絶滅の危険性が高い。**県内分布** 津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群**分布域** 本州 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部)**生育環境** 丘陵地や低山地のやや湿った草地。**現 状** 植生遷移の進行で生育環境が悪化し、消滅した生育地がある。**備 考** 大陸系遺存植物。

## タマカラマツ

*Thalictrum watanabei* Yatabeキンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 本州(近畿地方) 四国 九州(大分・宮崎)

生育環境

現 状 「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## モミジカラマツ

*Trautvetteria japonica* Sieb. et Zucc.キンポウゲ科  
Ranunculaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州は分布の南限域。本県では「祖母・傾山地」にごく希に生育し、個体数も少ない。谷沿いに生育するため、大雨による流失や植生遷移による環境変化で、絶滅の危険性が高い。

県内分布 祖母・傾山地

分布域 北海道 本州(北～中部) 四国 九州(大分・宮崎)  
樺太 ,アムール ,ウスリー ,ウダ

生育環境 低山地の溪谷辺。

現 状 やや明るく開けた沢沿いの岩上に群生しているが、生育範囲は狭い。

備 考 北方寒冷地植物。国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

## オオバメギ

*Berberis tschonoskyana* Regelメギ科  
Berberidaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域は偏在して狭い。県内の生育地は点在していて個体数も少ない。低木のため、森林伐採や植生遷移の進行による環境変化が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，(祖母・傾山地)

分布域 本州(関東・中部・近畿地方) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

生育環境 低山地や山地の林内。

現 状 低木のため、植生遷移の進行で衰退した生育地がある。  
「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ルイヨウボタン

*Caulophyllum robustum* Maxim.メギ科  
Berberidaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 県内の生育地は散在するが、個体数は少ない。植林や森林伐採により、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、祖母・傾山地
- 分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)  
中国・中国(東北部) 朝鮮半島 樺太、ウスリー、アムール
- 生育環境** 低山地の谷沿いの林内。
- 現 状** 森林伐採のため生育環境が変化して、生育状態の衰退した所がみられる。

## イカリソウ

*Epimedium grandiflorum* Morr.メギ科  
Berberidaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 九州では分布域が狭く、県内の生育地は局限されて個体数も少ない。生育地は土地開発や草地開発で改変され、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 九重火山群
- 分布域** 北海道 本州 九州(熊本・大分)
- 生育環境** 低山地の草原や林縁。
- 現 状** 道路工事や土地開発で、消滅した生育地がある。
- 備 考** 国立公園指定植物[瀬戸内海]。熊本県では、ヒゴイカリソウ(*var. higoensis*)とされている。

## コウシュウヤク

*Cocculus laurifolius* DC.ツツラフジ科  
Menispermaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 県内では「豊後水道域」のいずれも離島で生育しているが、生育地、個体数はともに少ない。離島振興などによる開発で森林伐採される所が生じ、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 豊後水道域
- 分布域** 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄  
台湾、中国、東南アジア
- 生育環境** 離島の海岸の林縁や林内。
- 現 状** 森林伐採による環境変化で、生育状態の悪くなった所がみられる。
- 備 考** 暖地植物。

## ミヤコジマツツラフジ

*Cyclea insularis*  
(Makino) Hatusimaツツラフジ科  
Menispermaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて希で、占める面積は狭く、個体数も多くない。海岸の低木に巻き付いているため、その森林化の影響を受け、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(近畿地方南部,中国地方西部),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) 沖縄  
台湾

**生育環境** 海岸崖地の林縁。

**現 状** 海岸崖地の低木に巻き付いて群生するが、生育地は点在し、そのまともりは広くない。森林化に伴って衰退した所がみられる。

**備 考** 暖地植物。九州東海岸では、極めて希な生育地である。

## コウモリカズラ

*Menispermum dauricum* DC.ツツラフジ科  
Menispermaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に分布するが、県内の生育地は極めて少ない。刈払いや採草、植生遷移の進行などにより、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 日田低地・丘陵地、(津江山地)、九重火山群

**分布域** 北海道,本州,四国,九州(熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島,中国(北部・東北部),東シベリア

**生育環境** 低地から低山地の河床や林縁。

**現 状** 河川堤防や水田土手などに生育しているため、除草などの影響を強く受ける。「津江山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ナガミノツルキケマン

*Corydalis ochotensis* Turcz.  
var. *raddeana* (Regel) Ohwiケシ科  
Papaveraceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

**選定理由** 本県では丘陵地や低山地に生育し、個体数もかなり多い。路傍や林内に生えるため、採草や植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地

**分布域** 北海道,本州,九州(福岡・大分・宮崎)  
朝鮮半島,中国(東北部),アムール

**生育環境** 丘陵地や低山地のやや湿った路傍、林縁。

**現 状** 道路の拡幅や圃場整理などで消滅した所がある。

## ヤマブキソウ

*Hylomecon japonica*  
(Thunb.) Prantl

ケシ科  
Papaveraceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。森林伐採や大雨による出水の影響を受けやすく、絶滅の危険性が高い。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群

分布域 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)  
中国

生育環境 低山地谷沿いの林内。

現 状 谷沿いの林内に点在し、いずれの生育地も個体数は少ない。

## シコクハタザオ

*Arabis serrata* Franch. et Savat.  
var. *sikokiana* (Nakai) Ohwi

アブラナ科  
Cruciferae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域は狭い。県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。溪谷の崩壊やその防災工事などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 本州(東海道 近畿地方以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生育環境 丘陵地から低山地の溪谷沿いの林縁。

現 状 生育地が溪谷沿いのため、崩壊したり流失したりして消滅した所がある。

備 考 九州は、分布の南限域にあたる。

## ユリワサビ

*Eutrema tenuis* (Miq.) Makino

アブラナ科  
Cruciferae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数も少ない。林縁の生育地はしばしば人為により攪乱され、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低山地の林縁や林内。

現 状 各地の個体数は極めて少なく、かつての生育地で現在確認されない所がある。

## コイヌガラシ

*Rorippa cantonoensis*  
(Lour.) Ohwiアブラナ科  
Cruciferae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 準

選定理由 | 県内の分布域は限られており、生育地、個体数はともに僅少。道路計画に直面する生育地もあり、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 | 中津・宇佐低地

分布域 | 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) アムール 台湾

生育環境 | 低地のため池や水溝。

現 状 | 生育地は河川敷や水田周辺で、生育環境が不安定な所が多い。

## モウセンゴケ

*Drosera rotundifolia* L.モウセンゴケ科  
Droseraceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 湿地に生える。県内の生育地、個体数はともに少ない。湿地開発や水環境の変化により、生育地の減少が懸念される。

県内分布 | 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
北半球亜寒帯～温帯

生育環境 | 丘陵地から山地の日当たりのよい湿地。

現 状 | 湿地周辺では流れが変わったり、環境が乾燥したりして消滅した所がある。

備 考 | 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## チャボツメレンゲ

*Meterostachys sikokianus*  
(Makino) Nakaiベンケイソウ科  
Crassulaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 | 県内での生育地はごく希で、個体数も少ない。環境の変化により、生育状態に消長がみられる。厳しい環境のため自然増殖は少なく、人による採取もあって、絶滅の危険性が高い。

県内分布 | 国東地区、祖母・傾山地

分布域 | 本州(西部) 四国 九州(福岡・長崎・大分・宮崎)  
朝鮮半島(南部)

生育環境 | 丘陵地から山地の岩場。

現 状 | 日当たりのよい平らな岩場に生育しているが、個体数は限られ、植生遷移による環境の変化で減少傾向にある。

## ツメレンゲ

*Orostachys erubescens* (Maxim.) Ohwi  
var. *japonicus* (Maxim.) Ohwi

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

- 選定理由** | 県内では乾燥地の岩場に生育し、しばしば群生することがある。生育環境の変化や人による採取で、生育地の減少が懸念される。
- 県内分布** | 耶馬溪・国東丘陵地，別府湾沿岸域，豊後水道域
- 分布域** | 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) 朝鮮半島 中国( 東北部 )
- 生育環境** | 低地や丘陵地の乾燥した岩場。
- 現 状** | 乾燥に耐えるが，日陰や湿潤な環境になると生育は衰退し，海岸部では環境変化や港湾工事によって消滅した所がある。
- 備 考** | 国定公園指定植物 [ 耶馬日田英彦山 ]

## イワレンゲ

*Orostachys iwarenge*  
( Maleino ) Hara

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

- 選定理由** | 分布域は狭い。県内の生育地は極めて希で，狭い範囲に密生している。生育地が人家近くに生えているため，生育地の改変や人による採取などで，絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** | 耶馬溪地区
- 分布域** | 本州(山口) 九州(福岡・佐賀・長崎・大分)
- 生育環境** | 低地の石垣。
- 現 状** | 生育地は極めて希で，しかも人家の石垣に生えており，人為による影響を受けやすい。
- 備 考** | 九州は，分布の南限域にあたる。

## タコノアシ

*Penthorum chinense* Pursh

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

- 選定理由** | 県内での生育地は点在するが，しばしば群生することがある。生育地の水溝や湿地の埋立て，河川の改修や洪水などで生育環境が変わり，絶滅の危険性が高い。
- 県内分布** | 日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，豊後水道域，大野川上流域
- 分布域** | 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー 東シベリア
- 生育環境** | 低地や丘陵地の水溝や湿地，河川の低水敷。
- 現 状** | 農地の圃場整備による水溝の改変や湿地の埋立て，護岸や河床整備などの河川改修，大水による流失などで，消滅した生育地がある。

## メノマンネングサ

*Sedum japonicum* Sieb.

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は散在し、個体数はかなり多い。水田の石垣や人里近い岩場にも生育するため、採草、採取などの人為による影響が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、大分川・大野川丘陵地

**分布域** 本州 四国 九州(佐賀・大分)

**生育環境** 低地から山地の岩場。

**現 状** 県北地方の凝灰岩の岩場に生えるが、しばしば水田の石垣や路傍などにも生育している。

## ウンゼンマンネングサ

*Sedum polytrichoides* Hemsl.

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 分布域が狭いが、生育地となる凝灰岩は本県の県北地方に比較的広く分布し、個体数もかなり多い。人が近づきやすい岩場では、人による採取や生育地の改変が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地

**分布域** 本州(西部) 九州(佐賀・長崎・大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー

**生育環境** 丘陵地から山地の岩場。

**現 状** 県北地方に分布する凝灰岩の岩場に広く生育し、個体数もかなり多い。

**備 考** 大陸性遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。葉の幅の狭い型(1~2mm)。国立・国定公園指定植物[瀬戸内海、耶馬日田英彦山]

## アオベンケイ

*Sedum viride* Makino

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 樹上や岩場に生え、県内の生育地は散在しているが、個体数は少ない。森林伐採や自然災害による着生樹の生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、大野川上流域

**分布域** 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低山地や山地の樹上や岩場。着生樹は落葉広葉樹が多い。

**現 状** 老木や倒木に着生し、岩場にも生える。「津江山地」では、台風などによる着生樹の倒木がみられる。

**備 考** 国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山]

## ツシマンネングサ

*Sedum yatabeanum* Makino

ベンケイソウ科  
Crassulaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域が狭く、本県では「国東地区」に分布している。人の往来する岩場の生育地は、踏みつけや人による採取が懸念される。

県内分布 国東地区

分布域 本州(中国) 四国(小豆島) 九州(長崎・大分)

生育環境 丘陵地の岩場。

現 状 「耶馬溪地区」の記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 葉の幅の広い型(2~4.5mm)。

## アワモリショウマ

*Astilbe japonica*  
(Morr. et Decne.) A. Gray

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は南部地域に散在し、しばしば群生して個体数はかなり多い。河川工事や道路工事などで、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州(近畿地方以西) 四国 九州(大分・宮崎)

生育環境 低地、丘陵地や低山地の溪流辺。

現 状 生育地が改変されて、消滅した所がある。

## ネコノメソウ

*Chrysosplenium grayanum* Maxim.

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、生育範囲は狭い。溪流辺に生育するため、水環境の変化で生育状態に消長がみられる。水環境が悪化して衰退した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国 南千島

生育環境 丘陵地や低山地の溪流辺、水溝。

現 状 源流地域の生育地は比較的安定しているが、人里近い水溝では、生育状態の悪化した所がある。

## ツクシネコノメソウ

*Chrysosplenium rhabdospermum*  
Maxim.ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は散在し、安定した溪谷沿いに生え、個体数はかなりみられる。溪谷林の伐採や大水による生育環境の変化が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、北川上流域

分布域 四国(南部)、九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地や低山地の溪谷沿いの岩上や林縁。

現 状 県北地域では、たびたびの大雨で流失した生育地がある。

## ギンバイソウ

*Deinanthe bifida* Maxim.ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では溪谷沿いの林縁や林内に生え、生育地は散在して少ない。溪谷林の伐採や林道工事などで生育環境が改変され、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 津江山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、北川上流域

分布域 本州(関東地方以西)、四国、九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生育環境 丘陵地や低山地の溪谷沿いの林縁、林内。

現 状 丘陵地の溪谷林が伐採され、消滅した生育地がある。

## コミノヒメウツギ

*Deutzia gracilis* Sieb. et Zucc.  
var. *microcarpa* Hatusimaユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では石灰岩地に生育し、生育地は狭く、個体数も少ない。石灰岩採掘や道路工事などで生育地が改変され、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 石灰岩地域

分布域 九州(熊本・大分・宮崎)

生育環境 丘陵地の石灰岩地。

現 状 谷沿いの石灰岩地の林縁、崖などに生育し、生育地、個体数とも僅少である。

## キレンゲショウマ

*Kirengeshoma palmata* Yatabe

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 分布域は狭く、本県での生育地は点在し、個体数は極めて少ない。森林伐採や出水による流失、人による採取もあって生育地が減少し、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 祖母・傾山地

**分布域** 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低山地や山地の渓谷沿いの林内や岩上。

**現 状** 大群生地もあったが、大雨で流失し、消滅した所がある。人による採取で、岩の割れ目などに根を張っているものが辛うじて残っている。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

## ツクシチャルメルソウ

*Mitella kiusiana* Makino

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 分布域が九州の一部だけで狭く、本県では東部や南部地域に分布し、いずれの生育地も個体数が少ない。大雨による流失や土砂の埋没、損傷などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域、豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域

**分布域** 九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 渓谷沿いの湿った岩場。

**現 状** 大雨の出水によって流失した生育地がある。

**備 考** 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

## コチャルメルソウ

*Mitella pauciflora* Rosend.

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の分布は西部地域に限られ、生育地は少なく、生育範囲も狭い。渓谷沿いの林縁を生息地とするため、植生の遷移や出水による流失などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)

**生育環境** 丘陵地や低山地の溪流辺林縁、林内。

**現 状** 台風時の出水で、消失した生育地が所々にみられる。

## シラヒゲソウ

*Parnassia foliosa* Hook. fil. et Thoms.  
var. *nummularia* (Maxim.) T. Ito

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	西南日本に分布し、九州では欠ける地方もある。本県では中部や西部地域の火山地帯に偏在し、生育地は極めて少ない。湿地開発や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	玖珠丘陵地・山地，由布・鶴見火山群，九重火山群
分布域	本州(中～西部) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)
生育環境	丘陵地や山地の湿地。
現 状	近年，観光開発による土地改変が著しく，生育地が減少している。
備 考	国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海 ]

## ウメバチソウ

*Parnassia palustris* L.

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	日本全土に広く分布し、本県においてもほぼ全域に生育地が広がっている。草原の森林化や人工牧野への改変，人による採取などが懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地，英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，大野川上流域
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 北半球温帯～亜寒帯
生育環境	低地から低山地の草地。
現 状	生育地の草原は野焼きの停止などで森林化し，あるいは人工草地へ改変され，人による採取もあって，生育地の減少している所が多い。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## ワタナベソウ

*Peltoboykinia watanabei*  
(Yatabe) Hara

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	四国，九州に分布域が限られている。本県では「祖母・傾山地」のほか「由布・鶴見火山群」，「九重火山群」などの谷林内に生育する。森林伐採や入山者の踏みつけ，人による採取で生育地の減少が懸念される。
県内分布	九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，祖母・傾山地，北川上流域
分布域	四国 九州(熊本・大分・宮崎)
生育環境	丘陵地や低山地の谷林内。
現 状	森林伐採や植生遷移で生育環境が変化して衰退した所や，人により採取された所がある。
備 考	ソハヤキ要素の植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，祖母傾 ]

## ヤシャビシャク

*Ribes ambiguum* Maxim.

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 北海道，沖縄を除く広い分布域をもつが，本県での生育地は狭い。ブナ林の伐採や林道開発，台風による着生樹の枯死などにより，生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，津江山地，九重火山群，大野川上流域，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低山地や山地の林内の樹上。

**現 状** 多くはブナの高木にできたくぼみに生育しているが，着生樹は点在していて少ない。しばしば着生樹の倒木がみられる。

**備 考** ケナシヤシャビシャク (var. *glabrum*) を含む。

## ヤブサンザシ

*Ribes fasciculatum*  
Sieb. et Zucc.

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内での生育地は極めて少なく，生育地の面積も狭小で，個体数も少ない。森林伐採や土地改良，人による採取などによって，絶滅する危険性が高い。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，豊後水道後背地域，石灰岩地域

**分布域** 本州(中部地方以西) 四国 九州(福岡・大分)  
朝鮮半島，中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地の林縁や林内。

**現 状** どの生育地とも生育範囲が狭く，個体数も極めて少ない。森林化の進行によって衰退する傾向がみられる。

## ダイモンジソウ

*Saxifraga fortunei* Hook. fil.  
var. *incislobata* (Engler et Irmsch.) Nakai

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内での生育地は点在し，湿気のある岩上に群生する。林道開発や森林の伐採，人による採取もあって，絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低山地や山地の湿気ある岩場。

**現 状** 自然林の伐採，林道の開発で，生育地が減少している。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾]

## ナメライモンジソウ

*Saxifraga fortunei* Hook. fil.  
var. *suwoensis* Nakai

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的に分布域は限られている。県内の生育地は西部地域に偏在し、極めて少ない。道路開設や河川工事、人による採取などで、絶滅の危険性が高い。

県内分布 耶馬溪地区、津江山地

分布域 本州(山口) 九州(福岡・佐賀・大分)

生育環境 丘陵地や低山地の溪流沿いの岩場。

現 状 「耶馬溪地区」では道路工事のため、生育地の消滅した所がある。

## ウチワダイモンジソウ

*Saxifraga fortunei* Hook. fil.  
var. *obtusocuneata* (Makino) Nakai

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育地は希で、個体数は極めて少ない。森林の伐採や林道開発、人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 山地帯、谷の湿った岩上。

現 状 ごく最近、上記の地域で生育地が確認された。

## クロクモソウ

*Saxifraga fusca* Maxim.  
var. *kikubuki* Ohwi

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育地、個体数はともに少ない。森林の伐採や林道開発、人による採取もあって、生育地の減少が懸念される。

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州(北～中部) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生育環境 低山地や山地の溪流岩上。

現 状 森林伐採や林道開発で生育地が減少している。「英彦山・犬ヶ岳山地」の文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 異名ナンゴククロクモソウの基準標本産地 [ 犬ヶ岳 ]  
文献 [ 原寛：ユキノシタ科 大日本植物誌 ( 1939 ) ]  
国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## センダイソウ

*Saxifraga sendaica* Maxim.

ユキノシタ科  
Saxifragaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地、個体数はともに極めて僅少。溪流辺や水が落下する断崖に生育しているため、出水による流失や人による採取で、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), 祖母・傾山地

**分布域** 本州(紀伊半島), 四国, 九州(福岡・長崎・熊本・大分)

**生育環境** 低山地の溪流辺や断崖。

**現 状** 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。「祖母・傾山地」は、ごく最近、生育地が確認された。

**備 考** ソハヤキ要素の植物。

## コウヤミズキ

*Corylopsis gotoana* Makino

マンサク科  
Hamamelidaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では生育地が極めて限られていて、個体数も少ない。溪流辺の開発や生育地周辺の崩壊などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 本州(中～西部), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地のやや湿った溪流辺。

**現 状** 生育地が溪谷辺で崩落があり、また、キャンプ場施設ができて人の往来が激しくなり、伐採された所もあって個体数が減少している。

## クサボケ

*Chaenomeles japonica*  
(Thunb.) Lindl.

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域が狭く、本県での生育地も火山性高原や火山山頂帯に集中している。生育地での草地開発、植林や放牧の停止などによる植生遷移の影響が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地

**分布域** 本州, 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低山地や火山山頂帯の草原や林縁。

**現 状** 人工牧野開発のため生育地が減少した所がみられ、かつての放牧地が放置されて植生遷移が進み、生育状態が悪くなった生育地がある。

**備 考** 久住地方ではタケウメと呼び、実を果実酒に用いる。

## シモツケソウ

*Filipendula multijuga* Maxim.バラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の分布域は狭く、湿地やその周辺地に生育する。林縁の生育地は植生遷移の進行により生育状態に消長がみられ、開花期は人目につきやすいため、人による採取も懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域

**分布域** 本州(中部地方以西)、四国、九州(福岡・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿った草地、林縁。

**現 状** 林縁の生育地では森林化して、生育状態の衰退した所がある。

## ツクシカイドウ

*Malus hupehensis* (Pampan.) Rehderバラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 野生絶滅  
環境庁 野生絶滅

**選定理由** 本県で生育地とされた丘陵地は、切り開かれて消滅した。周辺地での生育地は確認されず、絶滅したものと考えられる。

**県内分布**

**分布域** 九州(熊本?・大分)  
中国、ヒマラヤ

**生育環境** 低地の林縁?

**現 状** 1920年、1930年に、「中津・宇佐低地」(中津市大貞)で採集された標本がある。

**備 考** ツクシカイドウは、ズミ (*Malus toringo*) と同種とする説がある。ズミは「日田低地・丘陵地」、「玖珠丘陵地・山地」に生育地がある。

## ズミ

*Malus toringo* (Sieb.) Sieb.  
ex Vrieseバラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州では北部に偏り、本県の分布域は狭く、生育地、個体数とも極めて僅少。生育地はいずれも人里近くにあつて、土地改変や植林管理などにより、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地

**分布域** 北海道、本州、四国、九州(佐賀・大分)  
朝鮮半島、中国

**生育環境** 低地や丘陵地の林縁。

**現 状** 「日田低地・丘陵地」の生育地は、谷間の湧水湿地でため池とスギ植林地と接し、「玖珠丘陵地・山地」の生育地は、丘陵地尾根筋のクヌギ植林地内にあつて道路と接している。

## オオウラジロノキ

*Malus tschonoskii* (Maxim.) C. K. Schneid.

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域 本州,九州(大分)

生育環境 低山地の林内。

現 状 県内生育地は、九州唯一の生育地である。確認されていた生育地は道路により掘削されて消滅した。この地域で生育地の把握される可能性は大きい。

備 考 本県は、分布の南限域。

## カワラサイコ

*Potentilla chinensis* Ser.

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数も少ない。生育地の植生遷移の進行による環境変化や土地改変などで、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 姫島・国東海岸，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大野川上流域

分布域 本州,四国,九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島,中国・中国(東北部),台湾,北蒙古,アムール,ウスリー,ダフリア

生育環境 海岸の砂地や低地の空き地。

現 状 生育地が狭められたり、環境が悪化して、生育状態が衰退した所が多くなっている。

## イワキンバイ

*Potentilla dickinsii*  
Franch. et Savat.

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県の生育地は火山山頂帯や山地の岩場に点在し、個体数は少ない。植生遷移の進行による環境変化や岩場の崩落、登山者の踏圧などで、生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

分布域 北海道,本州,四国,九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 火山山頂帯や山地の岩場。

現 状 森林化による植生遷移や崖の崩壊，登山者による踏圧などで、個体数が減少している所がある。

備 考 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう,瀬戸内海,祖母傾]

## ツチグリ

*Potentilla discolor* Bungeバラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 全国的に分布域が狭い。本県でも北部地域に偏在し、個体数は極めて少ない。植生遷移の進行による環境変化や道路工事などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域

**分布域** 本州(近畿地方) 九州(福岡・大分・鹿児島)  
朝鮮半島 台湾 中国・中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地の草地や岩場。

**現 状** 道路がつくられて絶滅した所や，植生遷移が進行して生育状態の悪化した所がある。

## ツルキジムシロ

*Potentilla stolonifera* Lehm.バラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県の生育地，個体数はともに少ない。山頂帯付近の生育地は，植生の遷移や登山者の踏圧などにより，生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

**分布域** 北海道 本州 九州(大分・宮崎・鹿児島)  
千島 樺太 ,カムチャッカ

**生育環境** 火山山頂帯や山地の草地，林縁。

**現 状** 山頂帯や登山路沿いの生育地は，植生遷移の進行や登山者による踏圧で生育状態が悪化している所がある。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。九州は，分布の南限域にあたる。

## ミヤマウラジロイチゴ

*Rubus idaeus* L.  
subsp. *nipponicus* Fockeバラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (九重火山群)

**分布域** 本州(北～中部) 九州(大分)

**生育環境**

**現 状** 「九重火山群」で採集された標本はあるが，その生育地は把握されていない。

## クロイチゴ

*Rubus mesogaeus* Focke

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県の生育地は限られ、個体数も少ない。植生遷移の進行による環境の変化で減少傾向をたどっており、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分)  
台湾 中国

生育環境 低地や山地の林縁。

現 状 低木のため，植生遷移の進行により他の植物に被圧され，減少傾向にある。

## コジキイチゴ

*Rubus sumatranus* Miq.

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。林縁に生育するため、植生遷移の進行や人為による影響で、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，北川上流域

分布域 本州(東海・近畿・中国地方) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島(南部) 中国(南部) 台湾 インド

生育環境 低地から低山地の林縁。

現 状 生育地が林縁のため，草刈りで消滅した所がある。

備 考 基準標本産地 [ 英彦山 ]

## ゴショイチゴ

*Rubus tanakae* O. Kuntze

バラ科  
Rosaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由 全国的に分布域が限られており、本県での生育地、個体数は極めて少ない。林縁に生育するため、植生遷移の進行による生育環境の変化や伐採で、絶滅する危険性が極めて高い。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地，(豊後水道後背地域)

分布域 本州(山口) 四国 九州(大分)  
中国

生育環境 丘陵地の尾根沿いの林縁。

現 状 「豊後水道後背地域」の生育地は，現在まで把握されていない。「英彦山・犬ヶ岳山地」は，ごく最近，生育地が確認された。

備 考 基準標本産地 [ 彦岳 ]

## ナガホシロワレモコウ

*Sanguisorba x tenuifolia* Fisch. ex Kink  
var. *parviflora* Maxim.

バラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県の生育地は極めて希。生育する範囲は極めて狭い。低地や高原の生育地は土地開発などで著しく減少し、消滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津・宇佐低地，九重火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) 東部シベリア, アムール, ウスリー 樺太,  
千島, カムチャッカ

生育環境 低地や低山地の湿地。

現 状 「九重火山群」の良好な生育地が、畑地に開発されて消滅してしまった。

備 考 自然雑種ともされる。北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## イワガサ

*Spiraea blumei* G. Don

バラ科  
Rosaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)

分布域 本州(近畿地方以西) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分)  
朝鮮半島

生育環境

現 状 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 国立公園指定植物「瀬戸内海」

## ハカマカズラ

*Bauhinia japonica* Maxim.

マメ科  
Leguminosae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内分布は限られ、「豊後水道域」の島に点在する。生育地、個体数はともに僅少。植生遷移の進行による環境変化で、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(和歌山) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

生育環境 海岸の林縁や林内。

現 状 「豊後水道域」のごくわずかな島に生育している。

## ミヤマトベラ

*Euchresta japonica* Hook. fil.

マメ科  
Leguminosae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は常緑樹林の林内や谷に近い林縁に点在し、個体数は少ない。環境の変化に影響されやすく、森林伐採や林内の攪乱などで、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，豊後水道後背地域，北川上流域

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地や丘陵地の常緑樹林内。

**現 状** 社叢の林床や保存のよい常緑樹林内に生育し、林縁では消滅した所がある。

## サイカチ

*Gleditsia japonica* Miq.

マメ科  
Leguminosae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。河岸、溪流辺のものは、水害や河川改修、伐採などにより、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，(中津・宇佐低地)，日田低地・丘陵地，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，(大野川上流域)

**分布域** 本州(中～南部) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低地や丘陵地の川原や林縁。

**現 状** 「中津・宇佐低地」，「大野川上流域」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。多くは川原を生育地とするため、環境の変化で衰退したものもみられる。

**備 考** 「日田低地・丘陵地」のものはトゲナシサイカチ(*f. inermis*)。

## チョウセンニワフジ

*Indigofera kirilowii* Maxim.

マメ科  
Leguminosae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

**選定理由** 国内の分布域は極めて狭く、本県での生育地は極めて希で、個体数も少ない。尾根沿いの林内に生えて生育状態は悪く、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 九州(熊本?・大分)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部)

**生育環境** 丘陵地の尾根の疎林内。

**現 状** 凝灰岩岩場の尾根疎林内に小面積に生育し、乾燥がひどく、生育状態はよくない。

**備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## レンリソウ

*Lathyrus quinquenervius*  
(Miq.) Litv. et Klob-Alisova

マメ科  
Leguminosae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は極めて少なく、個体数は僅少である。土地の改変や野焼きの停止による植生遷移の進行、人による採取などで、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州 九州(佐賀・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,ウスリー ,アムール ,ダフリア

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原，湿地。

**現 状** 植生遷移の進行や人による採取で，消滅した生育地がある。

## イヌハギ

*Lespedeza tomentosa*  
(Thunb.) Sieb. ex Maxim.

マメ科  
Leguminosae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内では，生育地が人里近くや市街地にあって散在し，個体数は少ない。土地改変や植生遷移の進行により，生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地，珍珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域

**分布域** 本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国・中国(東北部) ,台湾 ,インド ,東シベリア

**生育環境** 低地や丘陵地の空き地，草地。

**現 状** 市街地やその周辺地の生育地で，土地が改変されて消滅した所がある。

## クスモダマ(カマエカズラ)

*Mucuna macrocarpa* Wall.

マメ科  
Leguminosae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯から東南アジアまで分布する大形の木質つる植物。鹿児島島の馬毛島に分布し，九州本土の当該地に隔離分布している。植林地の生育地では切られるほか，斜面の崩壊などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 九州(大分・鹿児島) 沖縄  
台湾 ,中国南 ,東南アジア ,インド ,東ヒマラヤ

**生育環境** 海岸の崖地。

**現 状** 崩壊などの影響はあるものの，生育地は近年少し広がっている。

**備 考** 暖地植物。県指定天然記念物「蒲江カズラ」(蒲江町)，カマエカズラはクスモダマの別名。以前はカマエカズラと呼ばれていた。地元ではウマカズラと呼び，牛馬の飼料にしていた。

## オオバクサフジ

*Vicia pseudo-orobus*  
Fisch. et Mey.

マメ科  
Leguminosae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県では火山性高原の草原に生えるが、生育地の土地開発が進み、植林されて消滅した所が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 津江山地，九重火山群，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) ,アムール ,ウスリー ,東シベリア

生育環境 丘陵地の草地や林縁。

現 状 土地開発や植林などで生育地が減少し，草原が放置されて生育状態が悪化した所がある。

備 考 北方寒冷地要素の植物。九州は，分布の南限域にあたる。

## ヒメヨツバハギ

*Vicia venosa* (Willd.) Maxim.  
var. *minor* Nakai

マメ科  
Leguminosae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県では主として火山性高原の草原に生育しているが、生育地、個体数はともに少ない。草地開発や植林、野焼きの停止などで植生が遷移し、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 本州 四国 九州(佐賀・大分・宮崎)

生育環境 丘陵地や低山地の草原。

現 状 草原開発や植林，野焼きの停止などで生育環境が悪化して，生育状態の把握されない所がある。

## アカササゲ

*Vigna vexillata* Benth.  
var. *tsusimensis* Matsumura

マメ科  
Leguminosae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

選定理由 分布域は極めて狭く、本県での生育地は限られ、個体数も僅少。林縁や路傍に生育しているため、植生遷移の進行や採草などで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 日田低地・丘陵地

分布域 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地や丘陵地の日当たりのよい林縁，路傍。

現 状 クズなどと競合して，生育状態に著しい消長がみられ，衰退した所がある。

## タチフウロ

*Geranium krameri*  
Franch. et Savat.

フウロソウ科  
Geraniaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では主として九重火山群の草原に生えるが、生育地、個体数はともに少ない。高原の土地開発や植生遷移の進行による環境変化で生育地が消滅し、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 九重火山群、(大分川・大野川丘陵地)

**分布域** 本州 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島, アムール, ウスリー, 中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原や林縁。

**現 状** 「九重火山群」は、土地開発で生育地の一部が消滅している。「大分川・大野川丘陵地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## イヨフウロ

*Geranium shikokianum* Matsumura

フウロソウ科  
Geraniaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に分布域が狭い。本県では西部・中部の火山群の中腹や山頂帯に生育し、しばしば群生している。植生の遷移や登山者の踏圧などによる生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, (祖母・傾山地)

**分布域** 本州(静岡, 中国地方), 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 火山の中腹や山頂帯の草原や林縁。

**現 状** 森林の発達や登山者の踏圧などにより、生育環境が悪化している。「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** ソハヤキ要素の植物。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ツクシフウロ

*Geranium soboliferum* Komar.  
var. *kiusianum* (Koidzumi) Hara

フウロソウ科  
Geraniaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 分布域が狭い。本県では湿地に生育し、しばしば群生するが、生育範囲は狭い。草地開発や土地開発などで生育地が改変され、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群, (祖母・傾山地)

**分布域** 九州(熊本・大分)

**生育環境** 低山地の湿地。

**現 状** 火山性高原の生育地が各種の開発で消滅している。「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 九州の特産種とされる。基準標本産地 [ 九重町田野 ]。関東, 朝鮮半島, 中国(東北部)に分布するアサマフウロ(*G. soboliferum*)の変種とされている。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## コミヤマカタバミ

*Oxalis acetosella* L.

カタバミ科  
Oxalidaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生育地は点在し、個体数も極めて少ない。森林伐採や出水などによる環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、(津江山地)、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 北海道 本州(北～中部) 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾 中国、インド(北部)

生育環境 丘陵地や低山地の溪谷沿いの岩場や林縁。

現 状 「津江山地」の生育地は道路周辺地で、消滅した可能性が大きい。

備 考 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾]

## オオヤマカタバミ

*Oxalis obtriangulata* Maxim.

カタバミ科  
Oxalidaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

選定理由 分布域は広い範囲に及ぶが、県内での生育地は局限されており、個体数も僅少。特異な葉形で目立ちやすく、人による採取のおそれがあり、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(東北部)、アムール、ウスリー

生育環境 低山地の林内。

現 状 台風のため、倒木により生育環境が攪乱されて、個体数が著しく減少した。

## マツバニンジン

*Linum stelleroides* Planch.

アマ科  
Linaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部)、アムール、ウスリー

生育環境 低地の草地。

現 状 「別府湾沿岸域」で採集されているが、その後の生育状態は不明。

## タチバナ

*Citrus tachibana* (Makino) C. Tanaka

ミカン科  
Rutaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内では石灰岩地に生え、生育地は極めて希で、個体数も僅少。確認された生育地は人里近くの林内にあって、森林伐採や人による採取などで、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 石灰岩地域

**分布域** 本州(静岡・愛知・和歌山・山口) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
韓国(済州島) 台湾

**生育環境** 石灰岩地の林内。

**現 状** 確認されたタチバナは数株。開花し、実をつけるものもある。

**備 考** 津久見市長泉寺のタチバナは、周辺の石灰岩地に自生していたものを移植したとされていたが、1994年に枯死した。

## ヒナノカンザシ

*Salomonina ciliata* (L.) DC.

ヒメハギ科  
Polygalaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (別府湾沿岸域)

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島(南部) ~ 台湾 ,インド ,マレーシア ,オーストラリア

**生育環境** 低地のため池湿地。

**現 状** 「別府湾沿岸域」で採集されているが、その後の生育状態は不明。

**備 考** 国立公園指定植物 [瀬戸内海]

## イワタイゲキ

*Euphorbia jolkinii* Boiss.

トウダイグサ科  
Euphorbiaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では海岸の岬や島の岩場に生育し、個体数は少ない。しばしば小群落をつくる。大波による被害や海浜のレジャーによる影響で、生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 姫島・国東海岸、豊後水道域

**分布域** 本州(房総半島以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 朝鮮半島

**生育環境** 海岸の岩場。

**現 状** 生育地ではいずれも小群落で株立ちするが、個体数は限られている。しばしば台風などで被害を受け、流木などに埋もれて衰退した所がある。

**備 考** 国立公園指定植物 [瀬戸内海]

## ヒゼンマユミ

*Euonymus chibai* Makino

ニシキギ科  
Celastraceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 県内では「豊後水道域」のごく限られた海岸林に生育し、個体数も少ない。生育する幼木が少なく、人による伐採もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(山口:蓋井島)九州(福岡・長崎・大分・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島(南部)

**生育環境** 海岸の林内。

**現 状** 「豊後水道域」の限られた島の林内にみられる。

## ナガバヒゼンマユミ

*Euonymus oblongifolius*  
Loes. et Rehd.

ニシキギ科  
Celastraceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

**選定理由** 現在、国内では本県の「耶馬溪地区」だけに生育がみられる。個体数も極めて僅少。林内に生えるが、最近、その周辺地のものが伐採され、絶滅の危険性が極めて高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 九州(大分)  
中国(雲南 四川 湖南 江西 安徽 浙江 福建 広西)

**生育環境** 低地の林内。

**現 状** 「耶馬溪地区」の神社林と神社境内の林縁に生育し、個体数は僅少。生育地が人里近いため、草刈りや森林伐採で、個体数が減少している。

**備 考** ナガバヒゼンマユミ(初島住彦：日本新産植物2種 植物地理・分類研究 39(1)39-40 1991)

## サワグツ

*Euonymus melananthus*  
Franch. et Savat.

ニシキギ科  
Celastraceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の分布域は比較的広いが、溪畔や林縁に生えるため、森林伐採や出水による環境変化で、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、北川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の谷沿いの林縁，林内。

**現 状** 溪谷沿いの生育地で、森林伐採や出水による土砂の埋没で、消滅した所がある。

## ショウベンノキ

*Turpinia ternata* Nakai

ミツバウツギ科  
Staphyleaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 亜熱帯性の植物で、本県では「豊後水道域」の島に分布し、生育地は極めて希で、個体数も僅少。道路の拡幅や山林の伐採などにより、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** | 豊後水道域

**分布域** | 四国 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾

**生育環境** | 海岸の林縁，林内。

**現 状** | 林縁に生育しているもので，たびたび枝切りされたものがある。

**備 考** | 暖地植物。

## ナンゴクミネカエデ

*Acer australe*  
(Momotani) Ohwi et Momotani

カエデ科  
Aceraceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 県内の生育地はごく希で、個体数も僅少。森林伐採や自然災害などによる生育地の減少が懸念される。

**県内分布** | 九重火山群，祖母・傾山地

**分布域** | 本州(奈良) 四国 九州(大分・宮崎)

**生育環境** | 山地の林内。

**現 状** | ごく最近，「九重火山群」と「祖母・傾山地」で生育地が確認されたが，個体数は極めて少ない。

## フシノハアワブキ

*Meliosma pinnata* (Roxb.) Walp.  
subsp. *arnottiana* (Walp.)  
var. *oldhamii* (Maxim.) Beus.

アワブキ科  
Sabiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 県内での生育地は狭い範囲に限定され、個体数も極めて少ない。森林伐採による消滅や生育地の環境変化が懸念される。

**県内分布** | 日田低地・丘陵地，津江山地

**分布域** | 本州(山口) 九州(熊本・大分)  
台湾 中国 朝鮮半島(南部)

**生育環境** | 丘陵地の林内。

**現 状** | 成木は数本，幼樹もわずかし確認できていない。

## アオカズラ

*Sabia japonica* Maxim.

アワブキ科  
Sabiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内ではいずれの生育地も個体数が少ない。特に人工林とその周辺のは環境変化や林業作業で伐採され、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), 日田低地・丘陵地, 豊後水道後背地域

**分布域** 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

**生育環境** 丘陵地の林縁。

**現 状** 県の西部地域では伐採されて生育地が減少している。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ハガクレツリフネ

*Impatiens hypophylla* Makino

ツリフネソウ科  
Balsaminaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では主として南部・西部地域に分布し、生育地ではしばしば群生している。林道開発や森林の伐採で生育地が減少し、植林などによる生育環境の変化で、生育地の衰退が懸念される。

**県内分布** 津江山地, 九重火山群, 祖母・傾山地, 北川上流域

**分布域** 本州(紀伊半島) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低山地や山地の湿った林縁。

**現 状** 低山地の林縁に群生していた生育地が、植林や林道開発で消滅した所がある。

**備 考** ソハヤキ要素の植物。

## エンシュウツリフネ

*Impatiens hypophylla* Makino  
var. *microhypophylla* (Nakai) Hara

ツリフネソウ科  
Balsaminaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域が狭く、本県の西部地域に隔離分布しており、生育範囲は狭く、個体数も少ない。林縁や路傍の人為の影響を受けやすい所では生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群

**分布域** 本州(東海道) 九州(大分)

**生育環境** 丘陵地のやや湿潤地の林縁。

**現 状** 林道工事や植生遷移の進行による環境変化で減少している所が多くなっている。

**備 考** 本県の生育地は、分布の南限域にあたる。

## ハマナツメ

*Paliurus ramosissimus* (Lour.) Poir.クロウメモドキ科  
Rhamnaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 全国的に分布域が限られており、本県での生育地、個体数はともに僅少。生育地が人類文化地に接しているため、地域開発による絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** (別府湾沿岸域), 豊後水道域

**分布域** 本州(東海道以西) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 台湾 中国 朝鮮半島(南部)

**生育環境** 海岸の林縁。

**現 状** 「別府湾沿岸域」の標本や記録はあるが、その生育地は把握されていない。「豊後水道域」の生育地の一部は、人家に接近して枝切りされたものがみられる。

## イソノキ

*Rhamnus crenata* Sieb. et Zucc.クロウメモドキ科  
Rhamnaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭い。県内では生育地は点在し、個体数も少ない。伐採や植生遷移の進行により消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高まっている。

**県内分布** 耶馬溪地区, 英彦山・犬ヶ岳山地, 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, (別府湾沿岸域), 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道後背地域, 北川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地から低山地の林内。

**現 状** やや疎開した林内に生え、遷移の推移に伴って衰退する傾向がある。「別府湾沿岸域」の生育地は伐採されて消滅した。

## ウドカズラ

*Ampelopsis cantoniensis*  
(Hook. et Arn.) Planch.ブドウ科  
Vitaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では主として低地の谷沿いの林縁に生えるが、個体数は多くない。刈草, 林道工事や植林などの環境変化で、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域, 豊後水道後背地域

**分布域** 本州(和歌山・奈良・中国地方西部) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾 中国, インドシナ, マレーシア

**生育環境** 低地や丘陵地の林縁。

**現 状** 県内で広範囲の記録があるが、生育地が確認されている所は極めて少ない。

## ケサンカクヅル

*Vitis gilbo-tomentosa*  
Makino et F. Maekawa

ブドウ科  
Vitaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的にも分布は限られている。本県では「豊後水道域」に分布するが、個体数は少ない。生育地は林縁のため、伐採や植生遷移の進行などの影響を受け、生育地の減少が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(近畿地方 若狭) 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地の林縁。

現 状 「豊後水道域」の南部海岸の林縁に生える。植生遷移が進み、生育環境が悪化して消滅した所がある。

## シラガブドウ

*Vitis amurensis* Rupr.

ブドウ科  
Vitaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

選定理由

県内分布 (日田低地・丘陵地)

分布域 本州(岡山) 九州(大分)

生育環境 丘陵地の林縁。

現 状 「日田低地・丘陵地」の林縁で1個体が発見されたが、台風のと、災害復旧事業によって攪乱され、その後、生育地は確認されていない。

## ブンゴボダイジュ

*Tilia inonsa*  
Wils. ex Rehd. et Wils.

シナノキ科  
Tiliaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 中国の雲南省と四川省に主分布域があり、本県に隔離分布する。個体数は極端に少なく、指定木以外のものは伐採されるおそれもあり、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群

分布域 九州(大分)  
中国(四川省・雲南省)

生育環境 丘陵地の林縁。

現 状 昔は付近に多くあったとされるが、現在では指定木以外にごくわずかな個体数がみられるだけである。県指定天然記念物である大株については、所有者や付近住民の保護意識は高い。

備 考 県指定天然記念物「相挟間のブンゴボダイジュ」(九重町)

## ケナシシナノキ

*Tilia japonica* (Miq.) Simonkai  
var. *leiocarpa* Nakai

シナノキ科  
Tiliaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域 本州(中国), 四国, 九州(大分)

生育環境 低山地の林内。

現 状 九州では「九重火山群」で採取されたことがあるが、以後、その生育地は確認されていない。

## ツクシボダイジュ

*Tilia rufo-villosa* Hatusima

シナノキ科  
Tiliaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

選定理由 県内の狭い範囲に生育する特産種。繊維植物として大切に護り育てられてきたが、利用されることが少なくなり、耕地や家屋の陰にもなることから伐採されることが多く、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群

分布域 九州(大分)

生育環境 丘陵地や低山地の林縁，耕地の周辺。

現 状 九重の南北丘陵地におよそ100本ほどが残っている。実生苗がほとんどみられず，減少が続いている。

備 考 基準標本産地 [九重町笠口]。県指定天然記念物「久住のツクシボダイジュ」(久住町)。

## ハマボウ

*Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.

アオイ科  
Malvaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 四国，九州などを分布域とする。本県では主に海岸の河川汽水域に生育する。港湾改修や河川改修などにより，生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 周防避海岸，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

分布域 本州(神奈川以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
韓国(済州島)

生育環境 海岸の泥地や河川汽水域の泥地。

現 状 「別府湾沿岸域」では，河口付近の港湾工事や河川改修などにより，消滅した所が多い。河川改修工事に伴い，保護対策を講じている所がある。

備 考 国立・国定公園指定植物 [瀬戸内海，日豊海岸]

## コウライトモエソウ

*Hypericum ascyron* L.  
var. *longistylum* Maxim.

オトギリソウ科  
Guttiferae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

- 選定理由** 本県の生育地は点在し、個体数は少ない。生育地の植生遷移や、土地開発などにより、絶滅の危険性が高い。
- 県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，(祖母・傾山地)
- 分布域** 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島，中国(東北部)，蒙古，アルタイ，ダフリア
- 生育環境** 丘陵地や低山地の草原。
- 現 状** 生育環境が改変され消滅した生育地がある。「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
- 備 考** 大陸系遺存植物。母種のトモエソウ (*H. ascyron*) を含む。

## アゼオトギリ

*Hypericum oliganthum*  
Franch. et Savat.

オトギリソウ科  
Guttiferae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

- 選定理由**
- 県内分布** (耶馬溪地区)，(九重火山群)
- 分布域** 本州(関東地方以西)，四国，九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)
- 生育環境**
- 現 状** 「耶馬溪地区」の文献記録，「九重火山群」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
- 備 考** 文献 [ 木村陽二郎：日本産弟切草の記載 植物学雑誌 52 (1938) ]

## タカネオトギリ

*Hypericum sikoku-montanum* Makino

オトギリソウ科  
Guttiferae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 分布域は狭く、本県での生育地も局限され、個体数も極めて少ない。背丈が低く、他の植物に覆われて減少傾向にあり、人による採取もあって、絶滅の危険性が高い。
- 県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地
- 分布域** 四国，九州(大分)
- 生息環境** 山地の草原や林縁。
- 現 状** 日当たりのよい所に生育する。草丈が低いので、他の植物に被圧されて生育地、個体数ともに減少している。
- 備 考** 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

**クモイオトギリ***Hypericum sikoku-montanum* Makino  
var. *hyugamontanum* (Y. Kimura) Ohwiオトギリソウ科  
Guttiferae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 九州(大分)

生育環境

現 状 「祖母・傾山地」の標本，文献記録はあるが，その生育地は把握されていない。

備 考 基準標本産地 [ 祖母山 ]。文献 [ 木村陽二郎：日本産弟切草の記載植物学雑誌 52 (1938) ]

**ミズオトギリ***Triadenum japonicum*  
(Bl.) Makinoオトギリソウ科  
Guttiferae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の中部地域の湿地に点在し，個体数も少ない。湿地開発や乾燥化による生育環境の悪化で，生育地の減少が懸念される。

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,アムール ,ウスリー

生育環境 丘陵地や低山地の湿地。

現 状 生育地が乾燥化して，生育状態が悪化した所がある。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

**サクラスミレ***Viola hirtipes* S. Mooreスミレ科  
Violaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では西部・中部地域の火山性高原に偏在する。草原の野焼きの停止による植生遷移や植林，草地改良などにより，生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) ,ウスリー

生育環境 丘陵地から山地の草原や林縁。

現 状 人工草地の改変で消滅した所がある。

## キスミレ

*Viola orientalis*  
(Maxim.) W. Becker

スミレ科  
Violaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** 県内では、主として火山性高原に生育している。野焼きを停止したり、人工牧野に改変される生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 玖珠丘陵地・山地、九重火山群、別府湾沿岸域、由布・鶴見火山群、大野川上流域
- 分布域** 本州(静岡、山梨、広島)、九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)、朝鮮半島、中国(東北部)、ウスリー
- 生育環境** 丘陵地から山地の乾いた草原や疎林内。
- 現 状** 「九重火山群」や「由布・鶴見火山群」で土地改変をした所や、野焼きを停止した所ですでに消滅している。
- 備 考** 大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## ホソバシロスミレ

*Viola palrinii* A. P. DC.  
var. *angustifolia* Regel

スミレ科  
Violaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 中国地方以西に生育し、分布域が狭い。本県では北部・西部・中部地域に点在する。草地改良や植林化で生育環境が悪化し、生育地の消滅が懸念される。
- 県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群
- 分布域** 本州(近畿・中国地方)、四国、九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** 丘陵地から山地の草原。
- 現 状** 草地改良や植林化で消滅した所がある。
- 備 考** 大陸系遺存植物。母種は朝鮮半島、中国東北部、アムール、ウスリー、東シベリアに分布する。

## タチスミレ

*Viola raddeana* Regel

スミレ科  
Violaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

- 選定理由** 日本での分布域はごく狭い。本県でも「九重火山群」だけに生育している。生育地の半自然草原や湿地が牧草地や植林地に改変され、消滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** 九重火山群
- 分布域** 北海道、本州(関東地方)、九州(大分・宮崎・鹿児島)、朝鮮半島、中国(東北部)、アムール、ウスリー
- 生育環境** 低山地の湿地。
- 現 状** 生育地が人工牧野となって消滅した所がある。
- 備 考** 大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

**ヒメアギスミレ***Viola verecunda* A. Gray  
var. *subaequiloba* (Franch. et Savat.) F. Maekawaスミレ科  
Violaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 愛知県以西の西日本に分布する。本県での生育地は北部・西部地域に点在し、湿地の狭い範囲に生育している。土地開発により生育環境が改変され、生育地の消滅が懸念される。**県内分布** 中津・宇佐低地，日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・鹿児島)**生育環境** 低地から山地の湿地。**現 状** 湿地開発により生育地が改変され，消滅した所がある。**ヒカゲスミレ***Viola yezoensis* Maxim.スミレ科  
Violaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内では北部・西部・南部地域に点在し，個体数も少ない。植生の遷移や森林伐採による生育環境の悪化で，生育地の減少や消滅が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，大野川上流域，北川上流域**分布域** 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)**生育環境** 丘陵地から山地の林内。**現 状** 植生遷移による生育環境の変化で消滅した所がある。**オニシバリ***Daphne pseudo-mezereum*  
A. Grayジンチョウゲ科  
Thymelaeaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 県内の生育地は点在し，個体数も少ない。小低木のため植生遷移の進行により，生育環境が悪化し，生育状態の衰退や消滅が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，石灰岩地域，大野川上流域**分布域** 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)**生育環境** 丘陵地の林内。石灰岩地。**現 状** 植生遷移が進んで絶滅した生育地があり，個体数も減少傾向にある。

## ミヤマガンピ

*Wikstroemia albiflora* Yatabe

ジンチョウゲ科  
Thymelaeaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 本県では山地の稜線上の岩角地に生育し、個体数は少ない。岩場の植生遷移の進行や林道開発などにより、生育地の消滅が懸念される。
- 県内分布 | 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，祖母・傾山地，北川上流域
- 分布域 | 本州(紀伊半島) 四国 九州(大分・宮崎)
- 生育環境 | 山地の尾根や岩角地。
- 現 状 | 植生遷移の進行で、生育状態の衰退した所がみられる。
- 備 考 | ソハヤキ要素の植物。

## シマサクラガンピ

*Wikstroemia pauciflora* Franch. et Savat.  
var. *yakushimensis* Makino

ジンチョウゲ科  
Thymelaeaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 九州の太平洋側に多く分布する。本県では低山地や山地の岩上や崖地に生育する。森林の伐採や林道開発で、生育地の消滅が懸念される。
- 県内分布 | 豊後水道後背地域，大野川上流域，祖母・傾山地，北川上流域
- 分布域 | 九州(大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境 | 低山地の岩角地や崖。
- 現 状 | 林道の開設で消滅した生育地がある。
- 備 考 | 「北川上流域」ではヒノウと呼び、昔は和紙の原料とされた。

## キガンピ

*Wikstroemia trichotoma* (Thunb.) Makino

ジンチョウゲ科  
Thymelaeaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 本県の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。森林伐採や植生遷移の進行などで消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高い。
- 県内分布 | 英彦山・犬ヶ岳山地，(豊後水道後背地域)，祖母・傾山地，北川上流域
- 分布域 | 本州(近畿地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島
- 生育環境 | 丘陵地から低山地の林内。
- 現 状 | 森林が発達すると衰退する傾向があり、消滅寸前の生育地がみられる。「豊後水道後背地域」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**ミズキカシグサ***Rotala leptopetala* (Bl.) Koehne  
var. *littorea* (Miq.) Koehneミソハギ科  
Lythraceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 IB**選定理由** 県内では、水田や湿地に生える。1年草で、生育環境の変化によって生育状態の消長が著しい。生育環境の悪化や水田の圃場整備などで、生育地の消滅が懸念される。**県内分布** 姫島・国東海岸，別府湾沿岸域**分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄**生育環境** 低地の水田や湿地。**現 状** 圃場整備で生育地の消滅した所がある。**ミズマツバ***Rotala pusilla* Tulasneミソハギ科  
Lythraceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 II**選定理由** 県内の生育地は点在し、生育範囲は極めて狭い。小さい1年草で、水田などの耕作地に生えるため、生育環境が不安定である。環境の悪化が続くと生育地の消滅が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地，別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域，大野川上流域**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
世界暖帯～熱帯**生育環境** 低地や丘陵地の水田や湿地。**現 状** 生育地は水田及び周辺の湿地で、持続して生育しているかどうか把握できていない所が多い。**ヒメノボタン***Osbeckia chinensis* L.ノボタン科  
Melastomataceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 IB**選定理由****県内分布** (別府湾沿岸域)，(豊後水道域)**分布域** 本州(和歌山) 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国 ,インド ,マレーシア ,オーストラリア**生育環境** 丘陵地や低山地の林縁。**現 状** 「別府湾沿岸域」，「豊後水道域」で採集された標本はあるが，その後，生育状態は把握されていない。

## イワアカバナ

*Epilobium cephalostigma* Hausskn.

アカバナ科  
Onagraceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県は分布の南限域にあたる。生育地は希で、個体数も少ない。渓谷沿いや林縁に生育しているため、植生の遷移の影響を受けて消滅した所もあり、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地

**分布域** 北海道 本州 九州(大分)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー 樺太 南千島

**生育環境** 低山地や山地の渓谷沿いの岩場や林縁。

**現 状** 生育地は崖崩れや植生遷移の進行による環境の変化で、生育状態が安定していない。

**備 考** 「大分川・大野川丘陵地」に分布するケナシイワアカバナ (var. *nudicarpum*) を含む。

## ヒメビシ

*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.

アカバナ科  
Onagraceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 本県では生育するため池は少ない。水環境の悪化や、他の水生植物との競合、あるいは虫の食害を受けるなどして、生育状態に著しい消長がみられ、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地，日田低地・丘陵地

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) ウスリー 台湾

**生育環境** 低地のため池。

**現 状** 生育する水草との競合や虫の食害で、消滅寸前の生育地がある。

## タチモ

*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

アリノトウグサ科  
Haloragaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 準

**選定理由**

**県内分布** (中津・宇佐低地)

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・大分)  
朝鮮半島 台湾 中国(東北部) ウスリー アムール

**生育環境** 低地のため池。

**現 状** 「中津・宇佐低地」の標本はあるが、その後生育地の状況が変わり、生育状態は把握されていない。

## フサモ

*Miriophyllum verticillatum* L.アリノトウグサ科  
Haloragaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県の生育地は点在して少ない。最近、水質汚濁で生育状態が把握されない生育地が生じている。生育環境の悪化で、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 中津・宇佐低地，日田低地・丘陵地，由布・鶴見火山群，大野川上流域

**分布域** 北海道(西南部) 本州 四国 九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
北半球温帯

**生育環境** 低地や丘陵地の池沼。

**現 状** いずれの生育地も植生遷移の進行による環境の変化で、生育状態が安定していない。

## ウラジロウコギ

*Eleutherococcus hypoleucus*  
(Makino) Nakaiウコギ科  
Araliaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的にも分布域が狭い。本県での生育地はごく希で、個体数も少ない。生育地は溪谷沿いや登山路沿いであるため、流失や伐採などにより、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 祖母・傾山地

**分布域** 本州(長野・山梨) 四国 九州(熊本・大分)

**生育環境** 低山地の溪谷沿い林内。

**現 状** 確認された生育地はごくわずかであるが、他の同様な環境には生育地があるものと思われる。

**備 考** 九州は、分布の南限域にあたる。

## ミヤマウコギ

*Eleutherococcus trichodon*  
(Franch. et Savat.) Ohashiウコギ科  
Araliaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では生育地が限られており、個体数も少ない。低木のため、周辺地の森林伐採や植生遷移の進行で生育環境が悪化し、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 本州(関東・中部・近畿地方 太平洋側) 九州(大分)

**生育環境** 低山地の谷沿いの林縁や林内。

**現 状** 生育地は「九重火山群」に限られ、登山路沿いのものは伐採された所がある。

## シラハノダケ

*Angelica cartilaginomarginata* (Makino) Nakai  
var. *matsumurae* (H. Boiss.) Kitagawa

セリ科  
Umbelliferae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 国内での分布域は狭い。本県では主として火山地域の草原に生える。生育地、個体数ともに僅少。草原の開発、野焼きの停止などで消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地
- 分布域** 本州(南部)九州(大分・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部)
- 生育環境** 丘陵地や低山地の草原。
- 現 状** 生育地は点在し、個体数も僅少。草原開発や植生遷移の進行などで消滅した所がある。母種のヒメノダケと混生している。
- 備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## ヒュウガトウキ

*Angelica furcijuga* Kitagawa

セリ科  
Umbelliferae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** 大分・宮崎県に分布域が限定される。本県では、「豊後水道域」と「豊後水道後背地域」の岩場や路傍には比較的多くみられる。道路工事や崖の吹付工事などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 豊後水道域，豊後水道後背地域
- 分布域** 九州(大分・宮崎)
- 生育環境** 海岸から，丘陵地の路傍や崖。
- 現 状** 最近，道路工事で激減した所がある。薬用として採取されることがある。
- 備 考** 九州の特産種。

## オニノダケ

*Angelica gigas* Nakai

セリ科  
Umbelliferae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

- 選定理由**
- 県内分布** (祖母・傾山地)
- 分布域** 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(東北部)
- 生育環境** 低山地の林縁や湿った河岸。
- 現 状** 「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
- 備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## ハナビゼリ

*Angelica inaequalis* Maxim.セリ科  
Umbelliferae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県では生育地が点在し、個体数も極めて少ない。渓谷沿いに生育するため、台風などによる出水で流失したり埋没したりして、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，九重火山群

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低山地の渓谷林縁。

**現 状** 出水で流失した生育地がある。また、谷沿いの環境変化により、消滅した所もみられる。

## ツクシゼリ

*Angelica longeradiata*  
(Maxim.) Kitagawaセリ科  
Umbelliferae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 兵庫以西の西日本に分布域が限られている。県内でも火山地域に偏在しており、個体数はかなりみられる。植生の遷移や登山者の踏圧により、生育環境が悪くなった所が生じている。

**県内分布** 国東地区，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，祖母・傾山地

**分布域** 本州(岡山:蒜山) 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地から山地の草原。

**現 状** 植生の遷移や植林，登山者の踏圧などにより，生育環境が悪化した所がある。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## ツクシトウキ

*Angelica pseudo-shikokiana*  
Kitagawaセリ科  
Umbelliferae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

**選定理由**

**県内分布** (豊後)

**分布域** 九州(佐賀・長崎・大分)

**生育環境**

**現 状** 「豊後」の標本(1938)を基に記載されたが，その生育地は把握されていない。

**備 考** 基準標本産地 [ 豊後 ]

## イヌトウキ

*Angelica shikokiana*  
Makino

選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)

セリ科  
Umbelliferae

分布域 四国 九州(熊本・大分・鹿児島)

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

生育環境 丘陵地や低山地の林縁。

現 状 「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ウバタケニンジン

*Angelica ubatakensis*  
(Makino) Kitagawa

選定理由 分布域は狭い。本県でも生育地は局限し、個体数は極めて少ない。人による採取や踏みつけで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 祖母・傾山地，(北川上流域)

セリ科  
Umbelliferae

分布域 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

生育環境 低山地や山地の岩場。

現 状 「祖母・傾山地」の尾根筋の岩の割れ目に生育しているが、個体数も少なく、場所によっては減少傾向がみられる。「北川上流域」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 ソハヤキ要素の植物。基準標本産地 [ 姫嶽 ( 祖母山 ) ]。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，祖母傾 ]

## ミシマサイコ

*Bupleurum falcatum* L.  
var. *komarovi* Koso-Polj.

選定理由 県内では各地に散在するが、個体数は少ない。植林や野焼きの停止などで生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区，姫島・国東海岸，玖珠丘陵地・山地，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域

セリ科  
Umbelliferae

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

生育環境 低地や丘陵地の草原。

現 状 植生遷移の進行による環境の変化で、生育状態が衰退した生育地がある。

**ドクゼリ**

*Cicuta virosa* L.  
var. *nipponica* (Franch.) Makino

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)

セリ科  
Umbelliferae

分布域 北海道 本州 九州(佐賀・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) 欧州 シベリア 極東地方 北米

**カテゴリー**

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

生育環境

現 状 「耶馬溪地区」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**シラカワボウフウ(カワラボウフウ)**

*Peucedanum terebinthaceum* (Fisch.) Fisch.  
var. *deltoidum* (Makino) Makino

選定理由 分布の南限域にあたる。本県の生育地は主として火山性高原に点在し、  
個体数は極めて少ない。植林や草原開発などで消滅した生育地があり、  
絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群

セリ科  
Umbelliferae

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分 宮崎 鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) ウスリー アムール 東シベリア

**カテゴリー**

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

生育環境 丘陵地や低山地の草原や林縁。

現 状 草原開発や植林により、消滅した生育地が多い。

備 考 北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。

**ミツバグサ**

*Pimpinella diversifolia* DC.

選定理由 日本では九州だけに分布する。本県では、火山地帯の草原に生育地は  
多いが、植生遷移の進行や草原開発などによる環境変化で、生育地の  
消滅が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府  
湾沿岸域，豊後水道後背地域，大野川上流域，祖母・傾山地

セリ科  
Umbelliferae

分布域 九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島)  
中国 インド(北部)

**カテゴリー**

大分県 II  
環境庁 掲載なし

生育環境 低地から山地の草地や林縁。

現 状 かつて放牧されていた半自然草原が、植林や植生遷移の進行で森林化  
し、生育状態の衰退した所がみられる。

## ツクシボウフウ

*Pimpinella thellungiana* H. Wolff

var. *gustavohegiana* (Koidzumi) Kitamura

セリ科  
Umbelliferae

### カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB

**選定理由** 火山性高原の草原を生育地とする。生育地は草地開発や土地開発などが進み、さらに植林や植生遷移の進行による環境の悪化で、絶滅の危険性が極めて高くなっている。

**県内分布** 九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地

**分布域** 九州(大分)

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原や林縁。

**現 状** 生育地の草原が各種開発や植林，路辺の草刈りなどで著しく改変されている。

**備 考** 大分県特産種。基準標本産地 [ 九重町三俣山 ] 母種(コウアンボウフウ)は，東シベリア，アムール，ウスリーなどに分布している。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## シムラニンジン

*Pterygopleurum neurophyllum*

(Maxim.) Kitagawa

セリ科  
Umbelliferae

### カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB

**選定理由** 分布域が狭く，県内の生育地は火山性高原の湿地に点在し，個体数は少ない。各種の開発や植林，野焼きの停止による環境悪化で，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州(関東地方南部) 九州(熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 丘陵地や低山地のやや湿った草原。

**現 状** 生育地の草原が改変されたり，植林などで植生が変化したりして，生育地が著しく減少している。

**備 考** 基準標本産地 [ 久住山 ]

## フキヤミツバ

*Sanicula tuberculata* Maxim.

セリ科  
Umbelliferae

### カテゴリー

大分県 情報不足

環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (九重火山群)

**分布域** 本州(中部地方以西) 四国 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島

**生育環境** 低山地や山地の谷沿いの林内。

**現 状** 九州では「九重火山群」に隔離分布し，その南限域にあたる。植生遷移の進行による生育環境の変化に伴って衰退した模様であるが，現存している可能性がある。

**サワゼリヌマゼリ)***Sium suave* Walt.  
var. *nipponicum* (Maxim.) Haraセリ科  
Umbelliferae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (九重火山群)

分布域

北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島

生育環境

低山地の湿地。

現 状

「九重火山群」だけに生育していたが、土地開発により改変され、その生育状態は把握されていない。

**カノツメソウ***Spuriopimpinella calycina*  
(Maxim.) Kitagawaセリ科  
Umbelliferae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由

九州では本県だけに分布している。生育する範囲は狭く、個体数も少ない。植生遷移の進行や植林による環境変化で、絶滅の危険性が高い。

県内分布

九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域

北海道 本州 四国 九州(大分)

生育環境

丘陵地や低山地の湿った林内，林縁。

現 状

「由布・鶴見火山群」では、生育環境が悪化して消滅した生育地がある。

備 考

基準標本産地 [ 久住山 ]。本県は、分布の南限域にあたる。

**イワカガミ***Shortia soldanelloides*  
(Sieb. et Zucc.) Makinoイワウメ科  
Diapensiaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由

主として、火山山頂帯の岩場に生育する。矮小な植物のため、植生の遷移による環境の変化に影響され、また、登山者の踏みつけや人による採取で、生育地の減少が懸念される。

県内分布

九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地，北川上流域

分布域

北海道(西部) 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境

火山山頂帯の岩場。

現 状

火山山頂帯の岩場では、登山者による踏みつけや採取などの被害地がみられる。

備 考

国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，祖母傾 ]

## ウメガサソウ

*Chimaphila japonica* Miq.

イチャクソウ科  
Pyrolaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 県内での生育地は散在するが、個体数は少ない。主に林縁に生育するため、植生の遷移による環境悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、石灰岩地域、大野川上流域、祖母・傾山地
- 分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 樺太 南千島 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー
- 生育環境** 低地から低山地の林縁。
- 現 状** 生育環境が変化して消滅した生育地がある。また、人による採取もみられる。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## マルバノイチャクソウ

*Pyrola nephrophylla* (H. Andr.) H. Andr.

イチャクソウ科  
Pyrolaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 九州での分布域は狭い。本県では、山地の林内に希に生育し、個体数は僅少。森林伐採による環境変化や人による採取が懸念される。
- 県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地), 玖珠丘陵地・山地, 祖母・傾山地, 北川上流域
- 分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎) 南千島
- 生育環境** 山地の林内。
- 現 状** 森林伐採されて衰退した生育地がある。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
- 備 考** 北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山 ]

## ツクシドウダン

*Enkianthus campanulatus* (Miq.) Nichols.  
var. *longilobus* (Nakai) Makino

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 分布域は九州に限られている。本県では山頂帯や尾根の岩場に生育するが、生育範囲は狭い。低木のため植生遷移の進行による環境変化や人による採取で、生育地の減少が懸念される
- 県内分布** 九重火山群, 祖母・傾山地
- 分布域** 九州(熊本・大分・宮崎)
- 生育環境** 低山地や山地の林内。
- 現 状** 生育地は主として「九重火山群」や「祖母・傾山地」の山頂帯の岩場で、登山者による踏みつけや採取などの被害が生じた所がある。
- 備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## ヨウラクツツジ

*Menziesia purpurea* Maxim.

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 IB

選定理由	分布域は狭く、九州の山地に生育する。本県での生育地は点在し、個体数も少ない。森林伐採や人の採取により、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	九重火山群，祖母・傾山地，北川上流域
分布域	九州(熊本・大分・宮崎)
生育環境	山地の岩角地。
現 状	人による採取で減少した所がある。
備 考	九州の特産種。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，祖母傾 ]

## ツクシシャクナゲ

*Rhododendron degronianum* Carr.  
subsp. *heptamerum* (Maxim.) Hara

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	岩石の多い林内に生育し、個体数はかなりみられる。庭木や盆栽用として幼木から成木までが採取の対象となっており、生育地や個体数の減少が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地，英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，豊後水道後背地域，大野川上流域，祖母・傾山地，北川上流域
分布域	本州(中部地方西部以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)
生育環境	丘陵地から山地の岩の堆積した林内。
現 状	比較的人の立ち入りやすい「九重火山群」，「津江山地」の一部では、盗掘跡をみかけることがある。
備 考	国指定天然記念物「犬ヶ岳のツクシシャクナゲ自生地」(耶馬溪町)，県指定天然記念物「鹿嵐山のツクシシャクナゲ群落」(院内町)，国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## レンゲツツジ

*Rhododendron japonicum*  
(A. Gray) Suringer

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	全国的に分布域が限られている。本県の生育地は西部地域に遍在し、個体数は少ない。草地改良や植林などで生育地は縮小し、人による採取もあって消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，玖珠丘陵地・山地
分布域	北海道(西南部) 本州 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎)
生育環境	丘陵地の草原や湿地，林縁。
現 状	草地改良による土地の改変や、人による採取などで消滅した所がある。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海，耶馬日田英彦山 ]。県指定天然記念物「清田川のレンゲツツジ群落」(玖珠町)

## ヒカゲツツジ

*Rhododendron keiskei* Miq.

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	岩場に生育していて、本県では生育地、個体数ともに少ない。人による採取で、個体数の減少が懸念される。
県内分布	英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域
分布域	本州(関東地方以西)、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	低山地や山地の岩場。
現 状	生育環境が厳しいため、個体数の増える可能性は極めて低い。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、日豊海岸、祖母傾 ]

## ミヤマキリシマ

*Rhododendron kiusianum* Makino

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	分布域は九州の火山山頂帯に限られ、本県でも主に火山山頂帯の風衝地に生育して、群落をつくる。自然災害や虫の食害もみられるが、植生遷移の進行による環境変化が生育に影響する。また、登山者の踏みつけや人による採取などで、その減少が懸念される。
県内分布	英彦山・犬ヶ岳山地、津江山、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、祖母・傾山地
分布域	九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	丘陵地の尾根から火山山頂帯の風衝地。
現 状	群生地では登山者の踏みつけや人による採取の被害個所が各所にみられる。
備 考	国指定天然記念物「大船山のミヤマキリシマ群落」(久住町)、県指定天然記念物「経塚山ミヤマキリシマ自生地」(日出町)、国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## ナンゴクミツバツツジ

*Rhododendron mayebarae*  
Nakai et Hara

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由	分布域は九州に限られる。県内の生育地も点在し、個体数は少ない。森林伐採や人の採取により、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	豊後水道後背地域、(祖母・傾山地)、(北川上流域)
分布域	九州(熊本・大分・宮崎)
生育環境	丘陵地から山地の岩場。
現 状	「祖母・傾山地」、「北川上流域」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は確認されていない。「豊後水道後背地域」は人里近くに生育しているため、人による採取がみられる。
備 考	九州の特産種。この種類には類似したものが多い。 国定公園指定植物 [ 祖母傾 ]

## カラムラサキツツジ

*Rhododendron mucronulatum* Turcz.

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

選定理由	主として県の北部・西部地域の岩場に生えるが、分布はかなり広く、個体数も少なくない。河川ダム工事などで改変され、消失した生育地もあり、人による採取もあって、その減少が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地
分布域	本州(中国地方)、九州(福岡・長崎・熊本・大分) 朝鮮半島、中国(北部・東北部)、ウスリー
生育環境	低地から山地の岩場。
現 状	河川工事などで改変され、消滅した生育地があり、人里近い所では人により採取されている。
備 考	ゲンカイツツジ( <i>f. ciliatum</i> )を含む。大陸系遺存植物。九州は分布の南限域にあたる。県指定天然記念物「ゲンカイツツジ」(耶馬溪町)。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山]

## ツクシアケボノツツジ

*Rhododendron pentaphyllum* Maxim.

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

選定理由	本県は分布の北限域にあたる。生育地は狭いが、かなりの個体数が生育している。人による採取や踏みつけなどにより、その損傷や生育地の減少が懸念される。
県内分布	祖母・傾山地、北川上流域
分布域	九州(大分・宮崎)
生育環境	山地の尾根岩場や疎林内。
現 状	尾根筋にはかなりの個体が生育している。開花期(5月上・中旬)には登山者による損傷や採取がみられる。
備 考	九州の特産種。

## キシツツジ

*Rhododendron ripense* Makino

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	分布域は西南日本に限られている。本県では「耶馬溪地区」の河川流域の一部に生育しているだけで、個体数も極めて少ない。洪水による流失や河岸改修などに加え、人による採取で、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	耶馬溪地区
分布域	本州(中国地方)、四国、九州(大分)
生育環境	低地の河岸。
現 状	河川の洪水による流失や護岸工事、河岸の森林化による生育環境の悪化、人による採取などで生育状態が著しく衰退している。
備 考	県天然記念物「キシツツジ」(耶馬溪町)、国定公園指定植物[耶馬日田英彦山]

## コメツツジ

*Rhododendron tschonoskii* Maxim.

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県の生育地は山地尾根の岩角地に限られ、個体数もごくわずかである。異常乾燥、植生遷移の進行などによって生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島(南部)

**生育環境** 山地の尾根岩場。

**現 状** 環境の悪化で衰退した所がみられる。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，祖母傾 ]

## ヒュウガミツバツツジ

*Rhododendron viscistylum* Nakai  
var. *hyugaense* Yamazaki

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 宮崎県を中心に分布する。本県では岩場に生えるが、生育範囲は狭く、個体数も少ない。植生遷移による環境変化や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道後背地域，北川上流域

**分布域** 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 低地や丘陵地の岩場。

**現 状** 最近、上記の地域で生育が確認された。道路近くでは、人による採取がみられる。

**備 考** 「北川上流域」ではイワツツジと呼ばれている。

## コケモモ

*Vaccinium vitis-idaea* L.  
var. *minus* Lodd.

ツツジ科  
Ericaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州では「九重火山群」の山頂帯だけに生育する。生育地は登山者が多く、踏みつけや人による採取などで、生育環境の悪化や減少が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(大分)  
母種ヒロハコケモモは朝鮮半島，千島 樺太～北半球寒帯～高山帯

**生育環境** 火山山頂帯の風衝地。

**現 状** 生育地は山頂帯の風衝地で、風雨による侵食で自然崩壊している所がある。また、登山者による踏みつけの被害も大きく、人による採取が各所にみられる。

**備 考** 国指定天然記念物「九重山のコケモモ群落」(久住町・九重町)，国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## オオツルコウジ

*Ardisia montana*

(Miq.) Sieb. ex Franch. et Savat.

ヤブコウジ科  
Myrsinaceae

## カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB

選定理由 本県の生育地は局限していて、個体数は極めて少ない。森林の伐採や林内の攪乱などで生育環境が悪化し、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(千葉県以西,伊豆七島),九州(大分・鹿児島)

生育環境 海岸の崖地林内。

現 状 県内では「豊後水道域」の島の林内に生育しており、個体数はごく僅少である。

## ミヤマコナスビ

*Lysimachia tanakae* Maximサクラソウ科  
Primulaceae

## カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし

選定理由 県内では南部や西部地域に生育し、個体数はかなりみられる。森林伐採や道路工事による環境変化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道後背地域, 大野川上流域, 祖母・傾山地, 北川上流域

分布域 本州(紀伊半島), 四国(一部), 九州(熊本・大分・宮崎)

生育環境 丘陵地や低山地の林縁。

現 状 生育状態の安定している所が比較的多い。

備 考 ソハヤキ要素の植物。

## オニコナスビ

*Lysimachia tashiroi* Makinoサクラソウ科  
Primulaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足

環境庁 IB

選定理由

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地), (九重火山群)

分布域 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)

生育環境 丘陵地や低山地の渓谷林縁。

現 状 「英彦山・犬ヶ岳山地」, 「九重火山群」での標本はあるが、その生育地は把握されていない。「耶馬溪地区」のものは大水により生育地が消滅した。

備 考 基準標本産地 [ 山国町苅又山 ]

## クサレダマ

*Lysimachia vulgaris* L.  
var. *davurica* (Ledeb.) R. Knuth

サクラソウ科  
Primulaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地は希で、個体数も極めて少ない。植生遷移の進行により湿地環境が悪化した所が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分)  
東亜温帯一帯

生育環境 丘陵地や低山地の湿地。

現 状 池沼の陸化，周辺地の土地開発などで生育地の環境が悪化し，生育状態の衰退した所が多くなっている。

備 考 北方寒冷地要素の植物。九州は，分布の南限域にあたる。

## サクラソウ

*Primula sieboldii* E. Morren

サクラソウ科  
Primulaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 本県では，主として火山性高原の湿地に点在し，しばしば群生する。植林や野焼きの停止などで生育環境が悪化し，また，人による採取によって，絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 北海道(南部) 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) アムール ウスリー ダフリア ウダ

生育環境 丘陵地や低山地の湿地。

現 状 開花期は人目につきやすく，人による採取により減少したり消滅した生育地が多い。開花期には監視体制がとられる生育地がある。

## ハマサジ

*Limonium tetragonum*  
(Thunb.) A. A. Bullock

イソマツ科  
Plumbaginaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 全国的に分布域は狭い。本県では河口付近の塩湿地に生育し，生育地，個体数ともに僅少である。河口付近の埋立や浚渫，河岸の護岸工事などで生育地が縮小し，その減少や消滅が懸念される。

県内分布 周防灘海岸，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

分布域 本州(宮城県以南) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島

生育環境 海岸や河口付近の塩湿地。

現 状 「別府湾沿岸域」の生育地では，埋立てや浚渫，河川改修により生育地の消滅した所が多い。

## ハクウンボク

*Styrax obassia* Sieb. et Zucc.

エゴノキ科  
Styracaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では崩落しやすい谷沿いに生育し、個体数は多くない。生育地がスギ植林の適地にあるため、植林による生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部)

**生育環境** 低山地の渓谷沿い林内や林縁。

**現 状** 以前、確認された生育地で、植林されて消滅した所がある。

## ナタオレノキ

*Osmanthus insularis* Koidzumi

モクセイ科  
Oleaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では暖地の海岸林に希にみられる。個体数は極めて少ない。少数の個体が道路沿いに生育しており、道路整備や拡張などで絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(福井県以西 八丈島) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
韓国(巨文島) 台湾

**生育環境** 海岸近くの林縁。

**現 状** 生育地は道路沿いの林縁で、多くの危険要因をかかえている。

## ミツガシワ

*Menyanthes trifoliata* L.

リンドウ科  
Gentianaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 極地周辺に広く分布し、西南日本では点在する。県内での生育地は極めて希で、個体数も少ない。もともと貧栄養の池沼に生育するが、上辺から流入する水量の減少、あるいは富栄養水の流入などにより生育環境が悪化し、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地、九重火山群

**分布域** 北海道 本州 九州(佐賀・大分)  
北半球寒地一帯

**生育環境** 丘陵地の湿原。

**現 状** いずれの生育地も年々環境が悪化しており、早急な対応が必要である。

**備 考** 熊本県の生育地が明治後期に消滅し、本県の生育地は南限地。県指定天然記念物「野平のミツガシワ自生地」(玖珠町)。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、日豊海岸]。

## ヒメシロアサザ

*Nymphoides coreana* (Lév.) Hara

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地) , (豊後水道後背地域)

リンドウ科  
Gentianaceae

分布域

本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 中国(東北部) ,ウスリー

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

生育環境

低地の沼や川。

現 状

「中津・宇佐低地」は植生の遷移で、「豊後水道後背地域」は河川工事で衰退し、その生育状態は把握されていない。

## ガガブタ

*Nymphoides indica* (L.) O. Kuntze

選定理由

県内での生育地は、北部地域の池沼に偏在する。しばしば群生するが、生育の消長が著しい。池沼の開発や水質汚濁により、生育地の衰退や消滅が懸念される。

県内分布

中津・宇佐低地

リンドウ科  
Gentianaceae

分布域

本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎)  
朝鮮半島 ,台湾 中国・中国(東北部)~東南アジア ,オーストラリア ,アフリカ

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

生育環境

低地の池沼や水溝。

現 状

池水が富栄養化して消滅した所がある。また、気象条件や水生植物との競合で、生育状態の消長が著しい。

## アサザ

*Nymphoides peltata* (Gmel.) O. Kuntze

選定理由

県内の生育地は極めて希。池沼開発や水質汚濁で生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布

中津・宇佐低地 , 豊後水道後背地域

リンドウ科  
Gentianaceae

分布域

本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 ,台湾 中国・中国(東北部) ,旧世界温帯一般

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

生育環境

低地の池沼。

現 状

水質汚染や虫の食害で、生育状態の悪化した所がみられる。

## イヌセンブリ

*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.  
var. *tosaensis* (Makino) Hara

リンドウ科  
Gentianaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	県内では北部・西部・中部地域の湿地に散在するが、個体数は少ない。湿地開発や植生遷移の進行などで生育環境が悪化し、その減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪地区，中津・宇佐低地，姫島・国東海岸，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域
分布域	本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	低地や丘陵地の湿地。
現 状	湿地周辺地の土地の改変や植生の遷移で消滅した所がある。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山 ]

## センブリ

*Swertia japonica* (Schult.) Makino

リンドウ科  
Gentianaceae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内の生育範囲はかなり広く、個体数も少なくない。1年草のため、生育地の植生遷移の進行により衰退した所が多く、また、薬用として採取されて、その減少が懸念される。
県内分布	耶馬溪地区，姫島・国東海岸，英彦山・犬ヶ岳山地，中津・宇佐低地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 中国
生育環境	低地や丘陵地の草地，林縁。
現 状	薬用として採取され，消滅した生育地が多くなっている。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾 ]

## ムラサキセンブリ

*Swertia pseudochinensis* Hara

リンドウ科  
Gentianaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	県内での生育地は散在するが、個体数は少ない。草地開発や植林，生育地の植生遷移の進行による環境変化で，生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，大野川上流域，祖母・傾山地
分布域	本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 中国(北部・東北部) ,アムール
生育環境	丘陵地や低山地の草原。
現 状	多くは火山性高原の風衝地に生育する。草地開発で消滅した所がある。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，日豊海岸，祖母傾 ]

## シノメソウ

*Swertia swertopsis* Makino

リンドウ科  
Gentianaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 IB

**選定理由** | 伊豆半島以西に分布域が限られている。本県では主として南部地域に分布し、個体数は少ない。植生遷移の進行や森林伐採による環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** | 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

**分布域** | 本州(伊豆半島以西)、四国、九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** | 丘陵地から山地のやや湿った林縁や林内。

**現 状** | 森林伐採による環境変化で減少した所や、林道工事で改変されて消滅した所がある。

**備 考** | ソハヤキ要素の植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## チョウジソウ

*Amsonia elliptica*  
(Thunb.) Roem. et Schult.

キョウチクトウ科  
Apocynaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

**選定理由** | 九州での分布域は狭い。本県の生育地は極めて希で、生育範囲が狭く、個体数も少ない。植生遷移の進行による環境変化の影響を受けやすく、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** | 由布・鶴見火山群

**分布域** | 北海道、本州、九州(福岡・大分)  
朝鮮半島、中国

**生育環境** | 丘陵地の水湿地。

**現 状** | 生育地は観光地に接しているため、採取される危険性もある。

## アオカモメヅル

*Cynanchum ambiguum*  
(Maxim.) Matsumura

ガガイモ科  
Asclepiadaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 分布域が狭く、県内の生育地はごく希で、個体数も少ない。閉鎖された池畔に生育するため、水位の増減により生育状態に消長がみられる。また、池畔の植物と競合して、生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** | 九重火山群

**分布域** | 本州(紀伊半島)、四国、九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** | 低山地の池畔。

**現 状** | 生育地は年により池の水位の変化が著しく、生育状態の衰退した所がみられる。

## ロクオンソウ

*Cynanchum amplexicaule*  
(Sieb. et Zucc.) Hemsl.

ガガイモ科  
Asclepiadaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由	東北、四国の一部と九州に分布し、本県での生育地は極めて少ない。湿地周辺や草地に生育し、土地開発や植生遷移の進行による環境の悪化で、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	別府湾沿岸域、豊後水道域
分布域	本州 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) 蒙古 中国 ウスリー
生育環境	低地の草地。
現 状	いずれの生育地も狭い範囲に少数の個体が生育している。「別府湾沿岸域」のものは、他の地方からの客土由来によるものと思われる。
備 考	異名:ヒゴビャクゼン

## クロバナイヨカズラ

*Cynanchum japonicum* Morren et Decaisne  
var. *puncticulatum* (Koidzumi) Hara

ガガイモ科  
Asclepiadaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県では海岸の岩上や路傍の崖地などに生育し、生育範囲は狭い。崖の崩壊防止工事で消滅した生育地もあり、絶滅の危険性が高い。
県内分布	豊後水道域
分布域	本州 四国 九州(福岡・大分・鹿児島)
生育環境	海岸の崖地や岩上。
現 状	岬の先端部や島に生育し、母種のイヨカズラもみられるが、当該地域の南に遍在し、生育する範囲は狭い。
備 考	イヨカズラの変種で、花は黒紫色、茎は蔓状に長く伸びるものが多い。

## タチカモメヅル

*Cynanchum nipponicum* Matsumura  
var. *glabrum* (Nakai) Hara

ガガイモ科  
Asclepiadaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県では主として火山性高原の湿地に生える。生育地は点在し、個体数も少ない。湿地の開発や生育環境の乾燥化で、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	中津・宇佐低地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群
分布域	本州(近畿地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎) 朝鮮半島
生育環境	低地から山地の湿地。
現 状	「九重火山群」の生育地では、湿地開発で消滅した所がある。

## マルバカモメヅル

*Cynanchum nipponicum* Matsumura  
var. *ratundifolium* (Honda) Murata

選定理由

県内分布 (九重火山群)

ガガイモ科  
Asclepiadaceae

分布域 九州(熊本・大分)

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

生育環境 低山地の湿地及び周辺地。

現 状 「九重火山群」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

## スズサイコ

*Cynanchum paniculatum*  
(Bunge) Kitagawa

選定理由 県内の生育範囲は広く、個体数もかなりみられる。草原に生育するため、土地開発や野焼きの停止などの環境変化で、生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、姫島・国東海岸、日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地

ガガイモ科  
Asclepiadaceae

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,アムール ,ウスリー ,ダフリア

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

生育環境 低地から低山地の草原。

現 状 人工牧野への改変や野焼きの中止により、消滅したり、生育状態が衰退した生育地がある。

## ノアサガオ

*Ipomoea acuminata* (Vahl)  
Roem. et Schult.

選定理由 「豊後水道域」の特定の島の林縁、空き地、段々畑の縁などに生育し、しばしば群生する。畑などが放置され、植生遷移の進行による影響で消滅する生育地もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 豊後水道域

ヒルガオ科  
Convolvulaceae

分布域 本州(伊豆七島 紀伊半島) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
東南アジア ,オーストラリア

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

生育環境 海岸の林縁や空き地。

現 状 ここ10年、生育地の範囲はほとんど変化はないが、生育地周辺の樹木の繁茂で、生育状態の悪化した所がみられる。

## ゲンバイヒルガオ

*Ipomoea pes-caprae* (L.) Sweet  
subsp. *brasiliensis* (L.) Ooststr.

ヒルガオ科  
Convolvulaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯，熱帯までの海岸砂浜に広く分布する。本県では以前から「豊後水道域」で生育が確認されていたが，冬を越すことはほとんどなかった。10年くらい前から，越冬して砂浜に繁茂している。絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 四国(南部) 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 熱帯

**生育環境** 海岸の砂地。

**現 状** 生息地は，冬の寒さや，浜の規模が小さく大波などによる影響を受けて衰退したが，現在は生育状態は回復している。「別府湾沿岸域」は1987年に生育し，翌年に消滅した。

**備 考** 暖地植物。

## ハナシノブ

*Polemonium kiushianum* Kitamura

ハナシノブ科  
Polemoniaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA

**選定理由**

**県内分布** (祖母・傾山地)

**分布域** 九州(熊本・大分)

**生育環境** 丘陵地や山地の草地，林縁。

**現 状** 「九重火山群」の生育地は，人により採取されたものか，消滅し，「祖母・傾山地」の生育地は把握されていない。

**備 考** 基準標本産地 [ 笹倉 - 久住道・祖母山 ]。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ホタルカズラ

*Buglossoides zollingeri*  
(DC.) Johnston

ムラサキ科  
Boraginaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では生育地は点在し，個体数は少ない。植生の遷移や路傍の草刈などによる生育環境の悪化で，生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 国東地区，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 台湾 中国

**生育環境** 低地や丘陵地の草地や林縁。

**現 状** 植生遷移の進行による環境の変化や草刈などで，消滅した生育地が多い。

## マルバチシャノキ

*Ehretia dikesonii* Hance  
var. *japonica* Nakai

ムラサキ科  
Boraginaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域は狭く、本県の生育地は海岸崖地にごく希で、個体数も僅少。道路沿いでは枝が切り払われたことがあり、絶滅の危険性は極めて高い。

県内分布 豊後水道域

分布域 本州(千葉県以西) 四国 九州(大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国

生育環境 海岸の林内。

現 状 「豊後水道域」の道路沿いの海岸低木林内に、ごく少数が生育している。一部はクスなどが巻きあがって衰退している。

## ムラサキ

*Lithospermum erythrorhizon*  
Sieb. et Zucc.

ムラサキ科  
Boraginaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (玖珠丘陵地・山地)、由布・鶴見火山群、(大分川・大野川丘陵地)、(豊後水道後背地域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・大分・鹿児島)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) アムール

生育環境 丘陵地や低山地のやや乾いた草地。

現 状 「由布・鶴見火山群」では1990年まで生育していたことが確認されている。その他の地域での標本や記録はあるが、その生育地は把握されていない。

備 考 国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## トサムラサキ

*Callicarpa shikokiana* Makino

クマツヅラ科  
Verbenaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由 県内での分布は局限し、個体数も極めて少ない。生育地は、いずれも林道沿いのものが多く、道路工事や伐採などで、その減少や消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道後背地域

分布域 四国 九州(大分・鹿児島)

生育環境 丘陵地の林縁や林内。

現 状 林道沿いの林縁に生育していたもので、伐採され消滅した所がある。

## ショウロウクサギ

*Clerodendron trichotomum* Thunb.  
var. *esculentum* Makino

クマツヅラ科  
Verbenaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では「豊後水道域」の半島先端部や島などに分布するが、個体数は少ない。陽樹で林縁に生えることが多く、伐採による生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道域

分布域 四国 九州(長崎・熊本・大分・鹿児島) 沖縄

生育環境 海岸低木林や林縁。

現状 岬や島にみられるが個体数は少なく、道路辺で伐採されたものをみかける。

備考 クサギの海岸型で、クサギとの区別が難しいものもある。

## カイジンドウ

*Ajuga ciliata* Bunge  
var. *villosior* A. Gray ex Nakai

シソ科  
Labiatae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 県内の生育地は火山性草原に点在し、個体数も少ない。草原の開発や人による採取で消滅する生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地

分布域 北海道 本州 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 丘陵地や低山地の草地。

現状 「由布・鶴見火山群」の生育地は、道路工事により生育範囲が減少した。

## ツクバキンモウソウ

*Ajuga yesoensis* Maxim.  
var. *tsukubana* Nakai

シソ科  
Labiatae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的に分布域は狭い。本県での生育地は極めて希で、個体数もごく少ない。森林伐採による環境の変化や登山者の踏圧などで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地

分布域 本州 四国 九州(大分)

生育環境 丘陵地から低山地の林縁や林内。

現状 いずれの生育地も、ごく少数が生育しており、わずかな環境変化でも消滅しそうな状態である。

備考 本県は、分布の南限域にあたる。

## タニジャコウソウ

*Chelonopsis longipes* Makino

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 本県の生育地は点在し、個体数も少ない。低地や丘陵地の生育地は、河川工事や道路工事などで、生育地の減少や絶滅が懸念される。

県内分布 | 九重火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域

分布域 | 本州(関東南部以西)、四国、九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 | 低地から低山地の湿った林縁。

現 状 | 河川工事や道路工事などで消滅した所や、林内の下刈りで衰退した所がある。

## ジャコウソウ

*Chelonopsis moschata* Miq.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由 |

県内分布 | (珍珠丘陵地・山地)、(九重火山群)

分布域 | 北海道、本州、四国、九州(長崎・熊本・大分・宮崎)

生育環境 | 低山地の林内。

現 状 | 「珍珠丘陵地・山地」、「九重火山群」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

## ミズネコノオ

*Eusteralis stellata* (Lour.) Murata

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 | 生育地が極めて希で、個体数も少ない。生育地の生育環境の変化が著しく、消滅した生育地があって、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 | (中津・宇佐低地)、(別府湾沿岸域)、豊後水道域

分布域 | 本州、四国、九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島、台湾、中国、東南アジア

生育環境 | 低地の水田、池畔や水湿地。

現 状 | 「中津・宇佐低地」、「別府湾沿岸域」から採集されているが、その後、生育状態は把握されていない。「豊後水道域」では、ごく最近、生育地が確認された。

## ミズトラノオ

*Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区), (中津・宇佐低地)

シソ科  
Labiatae

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,ウスリー

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

生育環境 低地のため池や水湿地。

現 状 上記の地域で採集されているが、その後、生育地の状況が変わり、いずれも生育状態は把握されていない。

## マネキグサ

*Lamium ambiguum* (Makino) Ohwi

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区), (英彦山・犬ヶ岳山地), (玖珠丘陵地・山地), (九重火山群)

シソ科  
Labiatae

分布域 本州(神奈川県以西) 四国 九州(福岡・大分)

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 II

生育環境 丘陵地の溪谷沿いの林内。

現 状 上記地域の標本及び記録はあるが、いずれも生育状態は把握されていない。

## ヒメキセワタ

*Lamium chinense* Benth.  
var. *tuberiferum* (Makino) Murata

選定理由

県内分布 (豊後水道域)

シソ科  
Labiatae

分布域 九州(大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

生育環境 海岸の畑地。

現 状 「豊後水道域」の島で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

## キセワタ

*Leonurus macranthus* Maxim.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 生育地は県内に散在するが、個体数は少ない。植生の遷移や林道工事などで消滅する生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、玖珠丘陵地・山地、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、石灰岩地域、大野川上流域、祖母・傾山地

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,ウスリー

生育環境 低地や丘陵地の草地、林縁。

現 状 植生遷移の進行による環境変化で、消滅した生育地がみられる。

## シロネ

*Lycopus lucidus* Turcz.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,ウスリー ,アムール ,ダフリア 樺太 ,千島 ,台湾

生育環境 低地の湿地。

現 状 「別府湾沿岸域」に生育地があったが、一帯が出水で埋没し、その後、生育状態は把握されていない。

## エゾシロネ

*Lycopus uniflorus* Michx.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 生育地は火山性高原の湿地に点在していて少ない。土地改変や湿地環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(佐賀・大分)  
樺太 ,千島 朝鮮半島 中国(東北部) ,アムール ,ウスリー

生育環境 丘陵地から山地の湿地。

現 状 「玖珠丘陵地・山地」では、水質汚濁で植生が変化して消滅し、「九重火山群」では、湿地開発で消滅した所がある。

備 考 北方寒冷地要素の植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## ホソバヤマジソ

*Mosla chinensis* Maxim.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 IB

- 選定理由** 県内の生育地は岩場に点在し、個体数は少なくない。人里近い生育地では土地の改変や踏みつけなどの影響を受け、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地，
- 分布域** 本州(西部) ,九州(佐賀・大分)  
朝鮮半島(南部) ,中国
- 生育環境** 低地や丘陵地の乾いた岩場。
- 現 状** 確認された生育地は比較的立ち寄りやすい岩場だけで、生育していると思われる岩場は広く分布している。
- 備 考** 日本での分布域は、西南日本の狭い範囲である。

## ヤマジソ

*Mosla japonica* (Benth.) Maxim.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** 県内では多くは火山岩の露出した草原に生える。生育地は点在して個体数も少ない。植生遷移の進行による環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 国東地区，英彦山・犬ヶ岳山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大野川上流域
- 分布域** 北海道 ,本州 ,四国 ,九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島(南部)
- 生育環境** 丘陵地や低山地の石の多い草原。
- 現 状** 1年生の短草で、周辺の植生の遷移により生育状態に消長がみられる。登山路沿いでは、踏みつけで生育状態の衰退した所がある。

## スズコウジュ

*Perillula reptans* Maxim.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 生育地は散在し、個体数も少なくない。渓谷沿いに生育しているため、森林伐採や出水などによる生育環境の変化が懸念される。
- 県内分布** 耶馬溪地区，津江山地，北川上流域
- 分布域** 本州(愛知以西) ,四国 ,九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生育環境** 丘陵地や低山地の渓谷沿いの林内。
- 現 状** 最近、「北川上流域」や「津江山地」の生育地が確認された。

## ミゾコウジュ

*Salvia plebeia* R. Br.

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

**選定理由** 近年、各地で減少しているとされるが、本県ではかなりの生育地があり、個体数も少なくない。低地の開発や河川氾濫などで、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー 台湾 インド マレーシア オーストラリア

**生育環境** 低地や丘陵地の水湿地。

**現 状** 生育地では個体数が多く、生育環境はかなり安定しているが、土地開発や洪水で消滅した所もある。

## コナミキ

*Scutellaria guilielmii* A. Gray

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 IB

**選定理由** 海岸の磯浜や林縁に生え、生育地は希で、個体数も少ない。海岸開発や道路工事、植林による環境の変化などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域

**分布域** 本州(千葉以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生育環境** 海岸の磯浜や林縁。

**現 状** 「別府湾沿岸域」の生育地は、海岸の遊歩道工事で消滅した。

## ミヤマナミキ

*Scutellaria shikokiana* Makino

シソ科  
Labiatae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内で確認された生育地は少ない。自然災害や植生遷移の環境変化により、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山、玖珠丘陵地・山地、祖母・傾山地

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島)

**生育環境** 低山地や山地の林縁、林内。

**現 状** 崖くずれや植生遷移の進行により、消滅した生育地がある。

## ケミヤマナミキ

*Scutellaria shikokiana* Makino  
var. *pubicaulis* (Ohwi) Kitamura

シソ科  
Labiatae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 分布域はごく狭い。本県の生育地も点在し、個体数も極めて少ない。草丈10cm内外の植物で林縁に生えることが多く、森林伐採や林縁の植生遷移の進行による環境悪化で、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，北川上流域

**分布域** 四国(愛媛) 九州(大分)

**生育環境** 低山地や山地の林縁。

**現 状** 生育が持続しているかどうか、生育状態の把握されていない生育地がある。本県は、分布の西限域にあたる。

## ナミキソウ

*Scutellaria strigillosa* Hemsl.

シソ科  
Labiatae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 海岸の磯浜や林縁に生え、県内の生育地は希で、個体数も少ない。海岸開発で消滅したり、植林されて消滅した生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 姫島・国東海岸，豊後水道域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分)  
樺太 千島 朝鮮半島 中国(東北部) 東亜温帯

**生育環境** 海岸の磯浜や林縁。

**現 状** 「別府湾沿岸域」の生育地は、海岸埋め立てや港湾整備などの改変で消滅した。海岸の草地に生えるため、環境の変化が著しく、衰退した生育地が多い。

## ケナシイヌゴマ

*Stachys riederi* Chamiss  
var. *japonica* (Miq.) Hara

シソ科  
Labiatae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では湿地周辺に生育し、個体数は極めて少ない。湿地開発や遷移進行などによる生育環境の悪化で、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** (耶馬溪地区)，津江山地，豊後水道後背地域

**分布域** 北海道 本州 九州(佐賀・大分・宮崎) 沖縄  
台湾 中国・中国(東北部) 台湾

**生育環境** 低地や丘陵地の湿地周辺の草地。

**現 状** 「耶馬溪地区」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。「津江山地」，「豊後水道後背地域」の生育地は、ごく最近、確認された。

## ヤマホオズキ

*Physalis chamaesarachoides* Makino

ナス科  
Solanaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 県内の生育地は点在し、生育範囲も狭く、個体数も極めて少ない。林縁や路傍に生育するものが多く、林道の改良や草刈などで絶滅する危険性が高い。

**県内分布** 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、豊後水道後背地域、大野川上流域

**分布域** 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地の林縁。

**現 状** 近年、生育の確認されなくなった所が多くなっている。

## ゴマクサ

*Centranthera cochinchinensis*  
(Lour.) Merr.

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 生育地は点在し、個体数は少ない。土地の改変や、野焼きの停止により生育状態が悪化し、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地、玖珠丘陵地・山地、由布・鶴見火山群

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 台湾 中国 インド

**生育環境** 低地や丘陵地の湿地。

**現 状** 「別府湾沿岸域」の生育地は、道路工事で消滅し、「由布・鶴見火山群」の生育地は、野焼きの停止による植生遷移の進行で衰退している。

## マルバノサウトウガラシ

*Deinostema adenocaulum*  
(Maxim.) Yamazaki

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

**選定理由**

**県内分布** (別府湾沿岸域)、(大分川・大野川丘陵地)

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島)  
韓国(済州島)

**生育環境** 低地や丘陵地の水田や湿地。

**現 状** 「別府湾沿岸域」、 「大分川・大野川丘陵地」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

## キュウシュウコゴメグサ

*Euphrasia iinumae* Takeda  
var. *kiusiana* (Y. Kimura) Ohwi

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は希で、個体数は極めて少ない。野焼きされる草原や火山山頂帯の風衝地草原に生えるが、野焼きが停止されて生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 由布・鶴見火山群

**分布域** 本州(中国) 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)

**生育環境** 低山地や火山山頂帯の草原。

**現 状** 野焼きが停止されて、生育状態の把握されない所がある。

**備 考** 類似したものにタチコゴメグサ(*Euphrasia maixmowiczii*)、ツクシコゴメグサ(*Euphrasia multifolia*)がある。国立公園指定植物[阿蘇くじゅう]

## キクモ

*Limnophila sessiliflora* Bl.

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は点在し、生育範囲は狭い。水環境が悪化して生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、中津・宇佐低地、別府湾沿岸域、豊後水道後背地域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島 中国 台湾 インド

**生育環境** 低地の池沼。

**現 状** 水位の増減による水環境が悪化して、生育状態の衰退した所がある。

## シソバウリクサ

*Lindernia setulosa* (Maxim.) Tuyama

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (中津・宇佐低地)

**分布域** 本州(紀伊半島) 四国 九州(大分・鹿児島)

**生育環境**

**現 状** 「中津・宇佐低地」での文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 文献[初島住彦：日本列島における暖地植物の分布(1) 鹿児島島の植物 8 (1986)]

## ホソバママコナ

*Melampyrum setaceum* (Maxim.) Nakai

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB

**選定理由** 県内では北部地域に点在し、個体数は少ない。草地や岩場、林縁に生え、人里近い生育地では草刈などの人為が及び、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪地区、中津・宇佐低地、玖珠丘陵地・山地

**分布域** 本州(近畿地方以西)、四国、九州(福岡・佐賀・大分)、朝鮮半島、中国(東北部)、アムール、ウスリー、

**生育環境** 低地や丘陵地の草地、林縁。

**現 状** 生育環境が不安定で、消滅した生育地がある。

**備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## スズメノハコベ

*Microcarpaea minima* (Koenig) Merrill

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB

**選定理由** 水湿地や水田に生える微小な1年草。県内の生育地は少ない。不安定な水田などの生育地では、生育状態に著しい消長がみられ、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 別府湾沿岸域、豊後水道域

**分布域** 本州、四国、九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄、朝鮮半島、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア

**生育環境** 低地の水湿地や水田。

**現 状** 確認された生育地は極めて少なく、生育環境の適応性などが十分に把握されていない。

## ツクシシオガマ

*Pedicularis refracta* (Maxim.) Maxim.

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州を分布域とし、本県が北限域となる。県内では広く散在し、個体数は少なくない。草原の管理放棄や圃場整理などの改変により、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地

**分布域** 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿った草地。

**現 状** 水田や畑地周辺の改変で、消滅した生育地がある。

**備 考** 九州の特産種で、本県が分布の北限域となる。基準標本産地〔久住山〕国立・国定公園指定植物〔阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾〕

## イヌノフグリ

*Veronica didyma* Tenore  
var. *lilacina* (Hara) Yamazaki

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由	近年，本県での生育地は激減し，個体数も極めて少なくなった。農耕や埋立てなどの人為が加わり，帰化植物との競合もあって生育が阻まれ，絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，日田低地・丘陵地，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 中国 朝鮮半島 台湾
生育環境	低地や丘陵地の路傍，草地。
現 状	最近，フラサバソウ ( <i>Veronica hederifolia</i> ) の侵入が著しく，生育状態の衰退した生育地が増えている。

## ヒロバトラノオ

*Veronica kiusiana* Furumi

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由	
県内分布	(九重火山群)
分布域	九州(熊本・大分) 朝鮮半島
生育環境	
現 状	「久住町古街道」の標本を基に記載されたが，その生育地は把握されていない。
備 考	基準標本産地 [久住町古街道] 国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，祖母傾] 文献 [古海正福：植物学雑誌 30 (1916)]

## ホソバヒメトラノオ

*Veronica linariaefolia* Pall.

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由	
県内分布	(玖珠丘陵地・山地)，(九重火山群)，(由布・鶴見火山群)，(大分川・大野川丘陵地)
分布域	本州(紀伊半島以西) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) 蒙古 アムール ウスリー 台湾 シベリア 極東地方
生育環境	丘陵地の草原。
現 状	上記の地域で採集された標本はあるが，植林地や畑地などに変わり，いずれもその生育状態は把握されていない。
備 考	国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，日豊海岸] オオホソバトラノオ (var. <i>dilatata</i> ) を含む。

## ヤマトラノオ

*Veronica rotunda* Nakai  
var. *subintegra* (Nakai) Yamazaki

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 九州では本県と熊本県に分布する。県内では分布域が狭く、個体数も多くない。土地改変や野焼きの停止、さらに、人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。
- 県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群
- 分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,アムール ,ウスリー 樺太
- 生育環境** 丘陵地から山地の草原。
- 現 状** 植生が遷移して環境が悪化し，生育状態の把握できない生育地が多くなっている。
- 備 考** 北方寒冷地要素の植物。

## カワジサ

*Veronica undulata* Wall.

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

- 選定理由** 本県では低地や丘陵地の河川や池沼に散在して生育し，生育地によっては群生している所もある。河川の改修や氾濫による流失などが懸念される。
- 県内分布** 耶馬溪地区，中津・宇佐低地，日田低地・丘陵地，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域
- 分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国・中国(東北部) 朝鮮半島，蒙古，ヒマラヤ
- 生育環境** 低地や丘陵地の水湿地，河原。
- 現 状** 河川の改修や氾濫，流失などで個体数が減ったり，生育状態の悪くなった所がある。

## ナンゴククガイソウ

*Veronicastrum sibiricum* (L.) Pennell  
var. *australe* Yamazaki

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

- 選定理由**
- 県内分布** (九重火山群)
- 分布域** 九州(熊本・大分・宮崎)
- 生育環境** 低山地の谷の草地。
- 現 状** 「九重火山群」で採集された標本はあるが，その後，生育状態は把握されていない。

## ツクシクガイソウ

*Veronicastrum sibiricum* (L.) Pennell  
var. *zuccarinii* (Koidzumi) Hara

ゴマノハグサ科  
Scrophulariaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由 国内では本県と熊本県に分布する。県内の生育地は極めて希で、個体数も少ない。草地開発や人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群

分布域 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島(南部)

生育環境 丘陵地や低山地の谷の草地。

現 状 生育地の確認されている所は極めて少ない。人目につきやすいため、採取されることが多い。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ハマウツボ

*Orobanche coerulescens* Steph.

ハマウツボ科  
Orobanchaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (別府湾沿岸域)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) 沖縄  
台湾 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,アムール ,ウスリー ,シベリア 東欧

生育環境 海岸の砂れき地。

現 状 「別府湾沿岸域」の生育地は、台風による海岸地形の変化によって現状不明。

備 考 国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海 , 日豊海岸 ]

## キヨスミウツボ

*Phacellanthus tubiflorus* Sieb. et Zucc.

ハマウツボ科  
Orobanchaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 広葉樹の根に寄生する。県内で確認された生育地は極めて少ない。自然林の伐採や植林、土地開発などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 祖母・傾山地, 北川上流域

分布域 北海道 本州 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国・中国(東北部) ,ウスリー 樺太 沿海州

生育環境 丘陵地や低山地の林内。

現 状 目立ちにくい植物で、他にも生育地があるものと思われる。

備 考 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]

## シシンラン

*Lysionotus pauciflorus* Maxim.

イワタバコ科  
Gesneriaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由 | 日本での分布域は狭い。本県での生育地は極めて希で、個体数も少ない。渓谷林の伐採により、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 | 耶馬溪地区

分布域 | 本州(伊豆半島以西) 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国(中南部)

生育環境 | 丘陵地の渓谷沿いの樹幹に着生。

現 状 | ごく少数の樹幹に着生しているので、森林伐採や人の採取で消滅する可能性が大きい。

備 考 | 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## イワギリソウ

*Opithandra primuloides*  
(Miq.) B. L. Burtt

イワタバコ科  
Gesneriaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

選定理由 | 分布域が狭く、県内での生育地は局限している。人による採取で著しく減少し、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 | 国東地区

分布域 | 本州(近畿地方以西) 四国 九州(大分・鹿児島)

生育環境 | 丘陵地の岩上。

現 状 | 岩上に生育しているが、人の手が及ぶ所はほとんど採取されて、絶滅状態になっている所が多い。

備 考 | 九州は、分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [ 瀬戸内海 ]

## ムラサキミミカキグサ

*Utricularia affinis* Wight

タヌキモ科  
Lentibulariaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由 | 県内の生育地は点在し、個体数は少ない。湿地開発や植生遷移の進行による生育環境の悪化で、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 | 日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
南アジア オーストラリア ニューカレドニア

生育環境 | 丘陵地の水湿地。

現 状 | 湿地の乾燥化が進行して生育状態が衰退し、生育状態の把握できない所がある。

備 考 | 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海 ]

## ノタヌキモ

*Utricularia aurea* Lour.タヌキモ科  
Lentibulariaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内で確認された生育地はごく希。水質汚濁や水生植物との競合もあって、生育する池沼や個体数が減少し、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津・宇佐低地

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島(南部) 台湾~南アジア オーストラリア

生育環境 低地の池沼。

現 状 古いため池に希に生えるが、水環境の悪化で、生育地、個体数とも減少している。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海 ]

## ホザキノミミカキグサ

*Utricularia caerulea* L.タヌキモ科  
Lentibulariaceae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では西部・中部地域の湿地に偏在する。生育地は狭い。湿地環境の改変や野焼きの停止による乾燥化で、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島 中国 台湾 インド インドシナ マレーシア オーストラリア

生育環境 丘陵地の水湿地。

現 状 湿地の周辺地が改変され、生育環境が悪化した生育地がみられる。

備 考 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海 ]

## ミカワタヌキモ(イトタヌキモ)

*Utricularia exoleta* R. Br.タヌキモ科  
Lentibulariaceae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

分布域 本州(東海・近畿地方) 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 台湾 インド オーストラリア アフリカ ポルトガル

生育環境 低地の池沼。

現 状 「中津・宇佐低地」で採集されているが、その後、生育地の状況が変わり、生育状態は把握されていない。

## コタヌキモ

*Utricularia intermedia* Hayne

タヌキモ科  
Lentibulariaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県が分布の南限地。生育環境が乾燥化し、生育状態の悪化した所が生じて生育地が狭くなり、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道 本州 九州(大分)  
朝鮮半島 千島 北半球の温帯

**生育環境** 低山地の湿原水湿地。

**現 状** 生育する湿原は極めて希。近年、湿原が乾燥化し、ごく一部の水湿地に生育している。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。隔離分布し、当該生育地が分布南限域となっている。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海 ]

## タヌキモ

*Utricularia vulgaris* L.

タヌキモ科  
Lentibulariaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内では、各地の池沼に生育する。池沼開発や流入する水質の悪化により、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・鹿児島) 沖縄  
樺太 南千島

**生育環境** 低地や丘陵地の池沼。

**現 状** 池沼開発や水質汚染により、生育状態の衰退した所がある。

## ナガバジュズネノキ

*Damnacanthus indicus* Gaertn. fil.  
var. *giganteus* Makino

アカネ科  
Rubiaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数も極めて少ない。森林伐採や植生遷移の進行による生育環境の悪化で、絶滅の危険性は高い。

**県内分布** 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、豊後水道後背地域

**分布域** 本州(愛知県以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地の溪谷沿い林内。

**現 状** 陰湿な溪谷辺林内の極めて狭い範囲に生育し、森林伐採されて消滅した生育地がある。

**備 考** ニセナガバジュズネノキ (var. *pseudogiganteus*) を含む。

## キヌタソウ

*Galium kinuta* Nakai et Hara

アカネ科  
Rubiaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内での生育地は極めて希で、個体数も少ない。草刈などの人為や植生遷移の進行による環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
中国

**生育環境** 丘陵地や低山地の林縁。

**現 状** 林縁の草刈で生育状態が悪くなった生育地がある。

## ハナムグラ

*Galium tokyoense* Makino

アカネ科  
Rubiaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

**選定理由**

**県内分布** (九重火山群)

**分布域** 本州(中部地方以北) 九州(大分)  
朝鮮半島 中国(東北部)

**生育環境** 丘陵地の湿地。

**現 状** 「九重火山群」で採集されたが、その後、生育状態は把握されていない。

**備 考** 本県は、分布の南限域にあたる。

## ルリミノキ

*Lasianthus japonicus* Miq.

アカネ科  
Rubiaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 西南日本の比較的安定した常緑広葉樹林内に生育する。本県では、主として東部・南部地域に分布する。生育地はスギ植林に改変されることが多く、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、(別府湾沿岸域)、豊後水道域、豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域

**分布域** 本州(静岡以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、  
沖縄  
台湾 中国(南部)

**生育環境** 低地や丘陵地の林内。

**現 状** スギ林や畑地などに改変されて生育地が減少している。「別府湾沿岸域」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** サツマルリミノキ (var. *satumensis*) を含む。

## ミサオノキ

*Randia cochinchinensis* (Lour.) Merrill

アカネ科  
Rubiaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 国内では分布が限られており、本県では東部・南部地域の常緑樹林内に希に生育している。森林伐採や植林により、生育地の消滅が懸念される。

県内分布 豊後水道域，豊後水道後背地域，北川上流域

分布域 本州(和歌山県) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾 中国 マレーシア インド オーストラリア

生育環境 低地の林内。

現 状 生育地はスギ植林に改変されて消滅した所が多く，神社林などにわずかに残されている。

## ヘツカニガキ

*Sinoadina racemosa*  
(Sieb. et Zucc.) Ridsd.

アカネ科  
Rubiaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では沿海地の林内や林縁に生育し，時には大木になる。個体数は多くない。植林や森林伐採などによる影響が懸念される。

県内分布 別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域，

分布域 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
台湾 中国

生育環境 低地や丘陵地の林内，林縁。

現 状 海岸からその背後地に広くみられるが，いずれも個体数は少ない。

## ツクバネウツギ

*Abelia spathulata* Sieb. et Zucc.

スイカズラ科  
Caprifoliaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の分布域は点在し，個体数も極めて少ない。低木のため，植生遷移の進行による生育環境の悪化で，生育地の消滅が懸念される。

県内分布 祖母・傾山地，北川上流域

分布域 本州 四国 九州(佐賀・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低山地の林内や林縁。

現 状 局所的に分布し，個体数も僅少である。

## ウスバヒョウタンボク

*Lonicera cerasina* Maxim.スイカズラ科  
Caprifoliaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県の中部・南部地域に偏在する。生育地は極めて少ない。低木のため、常に被圧の影響を受けやすい。個体数も少なく、森林伐採や植生遷移の進行による環境悪化で、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重火山群，大野川上流域

**分布域** 本州(近畿地方以西) 四国 九州(熊本・大分)

**生育環境** 丘陵地や低山地の林内。

**現 状** 落葉広葉樹林の低木層として生育し、個体数は少なく、植生遷移の進行により衰退した生育地がみられる。

**備 考** ソハヤキ要素の植物。

## ヤマヒョウタンボク

*Lonicera mochidzukiana* Makino  
var. *nomurana* (Makino) Nakaiスイカズラ科  
Caprifoliaceae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 生育地は点在し、個体数も極めて少ない。植生遷移の進行により消滅した生育地があり、絶滅の危険性は高い。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，日田低地・丘陵地，大野川上流域

**分布域** 本州(東海道 和歌山県以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地や低山地の林内。

**現 状** 森林伐採により消滅した生育地がある。

**備 考** 国立公園指定植物 [瀬戸内海]

## ハクサンボク

*Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.スイカズラ科  
Caprifoliaceae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 林内に生育する低木。本県での生育地はごく希で、個体数も少ない。森林伐採や植生遷移の進行により、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区，姫島・国東海岸

**分布域** 本州(東海道 三宅島 八丈島 山口) 九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島) 沖縄  
台湾

**生育環境** 低地や丘陵地の林内。

**現 状** 森林進行に伴う生育環境の変化によって、徐々に個体数が減少している。

## マンセンレンブクソウ

*Adoxa moschatellina* L.  
f. *japonica* Hara

レンブクソウ科  
Adoxaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由	日本における分布域は著しく狭い。県内の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。耕作や生育地の植生遷移による環境の変化で、絶滅の危険性は極めて高い。
県内分布	大野川上流域
分布域	九州(熊本・大分) 朝鮮半島, 中国(東北部)
生育環境	丘陵地の溪谷辺や水田の畦。
現 状	水田の耕作で畦の生育地が減少したり、植生遷移の進行により衰退している所がある。
備 考	大陸系遺存植物。

## マツムシソウ

*Scabiosa japonica* Miq.

マツムシソウ科  
Dipsacaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県では火山性高原の草地に生育するが、野焼きの停止による植生遷移の進行や人工牧野への改変など、生育環境の変化により減少傾向にある。また、人による採取も懸念される。
県内分布	津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)
生育環境	丘陵地から火山山頂帯の草地。
現 状	人の往来が著しい高原や登山道沿いでは、人の採取によって個体数が減少している。
備 考	国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 祖母傾 ]。越年草。

## シデシャジン

*Asyneuma japonicum* (Miq.) Briq.

キキョウ科  
Campanulaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内の生育地は中部・南部地域に偏在する。生育地は散在し、個体数は少なくない。植生遷移の進行や道路沿いの草刈などによる生育環境の悪化が懸念される。
県内分布	九重火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地
分布域	本州 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島, 中国(東北部), アムール, ウスリー
生育環境	丘陵地や低山地のやや湿った草地や林縁。
現 状	林縁に生えるため、植生遷移の進行により生育状態が悪くなった所がある。
備 考	大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう, 祖母傾 ]

## ヤツシロソウ

*Campanula glomerata* L.  
var. *dahurica* Fisch.

キキョウ科  
Campanulaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 県内では火山性高原の草原に多く生育していたが、現在生育地はごく希である。人工牧野などへの土地改変や野焼の停止による植生遷移の進行で生育環境が悪化し、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群，大野川上流域，祖母・傾山地

**分布域** 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島，中国・中国(東北部)，アムール，ウスリー，ウダ，コーカサス，シベリア

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原。

**現 状** これまでに確認された生育地はほとんど消滅してしまい、牧草地に利用されていないごく小面積の半自然草原に、わずかな個体が見られる。

**備 考** 大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ツルギキョウ

*Campanumoea javanica* Bl.  
subsp. *japonica* (Makino) Hong

キキョウ科  
Campanulaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は点在し、個体数も極めて少ない。林縁に生えるため、伐採や植生遷移の進行による環境変化で、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，(大分川・大野川丘陵地)，(豊後水道域)

**分布域** 本州(関東地方以西) 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾

**生育環境** 丘陵地の林縁。

**現 状** 「英彦山・犬ヶ岳山地」の生育地は、植生遷移の進行で衰退している。「大分川・大野川丘陵地」，「豊後水道域」で採集された標本はあるが、その後、生育状態が把握されていない。

## サワギキョウ

*Lobelia sessilifolia* Lam.

キキョウ科  
Campanulaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では北部・西部・中部地域の湿地に散在する。湿地の改変や乾燥化による植生の遷移，人の採取により，生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地)，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 北海道，本州，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
台湾，朝鮮半島，中国・中国(東北部)，アムール，ウスリー，東シベリア，樺太，千島

**生育環境** 丘陵地から山地の池沼や湿地。

**現 状** 野焼きの停止により植生の遷移が進み，生育状態が悪化している所がある。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

**備 考** 北方寒冷地要素の植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山 ]

## キキヨウ

*Platycodon grandiflorum*  
(Jacq.) A. DC.

キキヨウ科  
Campanulaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 県内での生育地は各地に散在しているが、個体数は僅少。植林や野焼きの停止などで生育環境が変わり、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、豊後水道域、豊後水道後背地域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) ウスリー アムール ダフリア

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原。

**現 状** 植生遷移の影響により生育状態が悪化したり、土地改変のため消滅した生育地がある。人によりしばしば採取される。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、日豊海岸 ]

## アソノコギリソウ

*Achillea sibirica* Ledeb.  
subsp. *subcartilaginea* Heimerl

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 火山性高原の草原に生育し、生育地、個体数はかなり多い。野焼きの停止による植生遷移の進行や人工牧野への改変などで、減少の傾向にある。また、人による採取も懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地

**分布域** 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地や低山地の日当たりのよい草原。

**現 状** 「九重火山群」の牧野改変で生育地が消滅したり、登山道の近くでは人の採取によって個体数の減少がみられる。

**備 考** 九州の特産種。

## カワラハハコ

*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook. fil.  
subsp. *yedoensis* (Franch. et Savat.) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (中津・宇佐低地)

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境**

**現 状** 「中津・宇佐低地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

## ヤブヨモギ

*Artemisia codonocephala* Dielsキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 分布域が狭く、本県では、主として火山性高原に群生している。草原開発や植林、野焼きの停止などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域

**分布域** 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部)

**生育環境** 丘陵地や退散地の草地や林縁。

**現 状** 野焼きされている草原に群生地がみられるが、人工牧野や植林地などでは、ほとんど消滅している。

**備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。  
異名ブンゴヨモギの基準標本産地 [豊後国飯田]

## ケショウヨモギ

*Artemisia dubia* Wall.キク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域が狭く、本県では火山性高原の湿地周辺にしばしば群生している。植林や野焼きの停止による植生の遷移で、生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大野川上流域

**分布域** 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) 蒙古 ,ダフリア ,インド

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地。

**現 状** 高原の湿地周辺地にしばしば群生しているが、植生遷移の進行で生育状態が衰退している所がある。

**備 考** 大陸系遺存植物。

## フクド

*Artemisia fukudo* Makinoキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 近畿地方以西の海岸や河口の塩泥湿地に分布する。本県でも塩湿地に生育し、しばしば群生する。海岸の開発や護岸工事により、生育地の消滅が懸念される。

**県内分布** 周防灘海岸，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 本州(近畿地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島

**生育環境** 海岸の塩湿地。

**現 状** 海岸の埋立てや多目的利用などによって、生育地を消滅した所がある。

## ヒロハヤマヨモギ

*Artemisia stolonifera*  
(Maxim.) Komar.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由	県内の火山地域に広く分布し、しばしば群生する。高原の土地開発や植生遷移の進行により、生育環境の変化が懸念される。
県内分布	玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地
分布域	本州(中国地方)、九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎) 朝鮮半島、中国(東北部)、アムール、ウスリー、ウダ
生育環境	丘陵地から山地の草地や林縁。
現 状	生育地は比較的広いが、草原開発や植林化で消滅したり、生育が衰退した所がある。
備 考	大陸系遺存植物。

## アソヨモギ

*Artemisia stolonifera* (Maxim.) Komar.  
var. *microcephala* Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由	
県内分布	(由布・鶴見火山群)
分布域	九州(熊本・大分)
生育環境	
現 状	「由布・鶴見火山群」での文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。
備 考	九州特産種。文献 [ 北村四郎 : Compositae Japonicae 京都大学理学部紀要 Ser.B, 15 (1940) ]

## ヒゴシオン

*Aster maackii* Regel

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由	生育する湿地は希で、個体数も少ない。湿地が開発されたり、森林化したりして生育状態が悪化し、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	津江山地、九重火山群、由布・鶴見火山群
分布域	九州(熊本・大分・鹿児島) 朝鮮半島、中国(東北部)、アムール、ウスリー
生育環境	丘陵地から低山地の湿地。
現 状	いずれの湿地も個体数が少なく、土地開発で消滅したり、植生遷移の進行により、生育状態が悪化している所がみられる。
備 考	大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。

## シオン

*Aster tataricus* L. fil.キク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 日本における分布域は狭く、県内では主として中部・南部地域に分布する。湿地開発や植林などで消滅する生育地が多くなり、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 津江山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域

**分布域** 本州(中国地方) 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(北部・東北部) 蒙古 アムール ウスリー 東シベリア

**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地。

**現 状** 生育地付近では、人家に栽培されていて、自生するものと区別できにくいものがある。

**備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ウラギク

*Aster tripolium* L.キク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 県内の生育地は海岸や河口の塩湿地に限られていて、点在し、個体数は極めて少ない。海岸の埋立てや河川敷の浚渫などによる改変で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 周防灘海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
樺太 朝鮮半島 中国(北部・東北部) シベリア 蒙古 樺太 中央アジア，  
コーカサス 欧州

**生育環境** 海岸の塩湿地。

**現 状** 海岸や河口の塩湿地に生育しているが、海岸の埋立てや河川敷利用などによって消滅した所がある。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [ 瀬戸内海，耶馬日田英彦山，日豊海岸 ]

## モミジタマブキ

*Cacalia farfaraefolia* Sieb. et Zucc.  
var. *acerina* (Makino) Kitamuraキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (津江山地)

**分布域** 本州(東海道 近畿地方南部) 四国 九州(熊本?・大分)

**生育環境** 低山地の渓谷沿いの林内。

**現 状** 「津江山地」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

## テバコモミジガサ

*Cacalia tebakaensis*  
(Makino) Makino

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地はかなり広いが、個体数は少ない。森林伐採や植生遷移の進行による生育環境の変化で、生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地、北川上流域

**分布域** 本州(関東地方、東海道、奈良、中国地方西部)、四国、九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地から山地の林内。

**現 状** 同一場所に混生するモミジガサに比べ、個体数は少ない。多くは谷沿いに生育するため、生育地を流失した所がある。

**備 考** ソハヤキ要素の植物。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾 ]

## ミヤマヤブタバコ

*Carpesium triste* Maxim.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** (祖母・傾山地)

**分布域** 北海道、本州、四国、九州(熊本・大分)

**生育環境** 山地の林縁。

**現 状** 「祖母・傾山地」で採集されているが、その後、生育状態は把握されていない。

## ビッチュウアザミ

*Cirsium bitchuense* Nakai

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域が狭く、本県の生育地は点在していて、個体数も少ない。生育地は藪状の草地や林縁で、植生遷移の進行により、生育環境の悪化で、その消滅が懸念される。

**県内分布** 日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地

**分布域** 本州(中国地方)、九州(大分)

**生育環境** 丘陵地の草地や林縁。

**現 状** 生育地が藪状になって、生育状態の衰退した所がある。

**備 考** 中国地方を主として分布しており、本県は、その南限域にあたる。

## モリアザミ

*Cirsium dipsacolepis*  
(Maxim.) Matsumuraキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内での生育地は限られていて狭い。しばしば群生して個体数はかなりみられる。植林や野焼きの停止による環境変化や人工牧野に改変されて、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	九重火山群，由布・鶴見火山群
分布域	本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎)
生育環境	丘陵地や低山地の草原。
現 状	人工牧野に改変されて消滅した生育地がある。
備 考	基準標本産地 [ 久住山 ] 本県では，これまで人による根茎の採取はみられない。

## ウラジロヤナギアザミ

*Cirsium lineare* (Thunb.) Sch.-Bip.  
var. *discolor* Nakaiキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県では生育地が限定され，個体数も少ない。草地開発や土地造成などで生育環境が改変され，生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪地区，日田低地・丘陵地，津江山地，由布・鶴見火山群，豊後水道後背地域，石灰岩地域，大野川上流域
分布域	九州(福岡・熊本・大分・鹿児島)
生育環境	丘陵地の草原や湿原。
現 状	草原や湿原の改変によって，消滅したり，個体数の減少した生育地がある。

## サツマアザミ

*Cirsium sieboldii* Miq.  
subsp. *austrokiushianum* (Kitamura) Kitamuraキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	本県生育地は火山地域の湿地に集中し，少ない。しばしば群生する。湿地開発や周辺地の土地改変で生育地の消滅が懸念される。
県内分布	玖珠丘陵地・山地，九重火山群
分布域	九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生育環境	丘陵地や低山地の湿地。
現 状	生育地の周辺が開発されて，生育状態の衰退した所がある。
備 考	マアザミ( <i>C. sieboldii</i> )より葉の棘が多く，花茎に1～3個の苞がつき，頭花も多くて大きい。

## イズハハコ

*Conyza japonica* (Thunb.) Less.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 県内では各地に生育地がみられ、個体数もかなり多い。崖地に生育するため、崖の自然崩壊や道路拡幅による影響が懸念される。

**県内分布** 日田低地・丘陵地、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道域、豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域

**分布域** 本州(関東地方西部以西)、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄  
台湾、中国、インド、マレーシア

**生育環境** 低地や丘陵地の乾いた崖。

**現 状** 生育地は比較的多くみられ、生育環境の安定している所が多い。

## イヨアブラギク

*Dendranthema indicum* (L.) Moul.  
var. *ijoense* (Kitamura) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭く、県内での生育地は希で、生育範囲も狭い。道路に露出している岩場などに多くみられ、草刈や道路工事などによる絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 国東地区、別府湾沿岸域、石灰岩地域

**分布域** 四国(愛媛)、九州(大分)

**生育環境** 低地や丘陵地の岩場や林縁。

**現 状** 生育地は点在し、生育範囲は狭く、個体数も少ない。

**備 考** 九州、四国の特産種。本県の生育地は、豊後水道を挟んで分布の西限域となっている。

## アシズリノジギク

*Dendranthema occidentali-japonense*  
(Nakai) Kitamura  
var. *ashizuriense* Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** ノジギクの変種で分布域は狭い。県内の分布は「豊後水道域」の海岸を主とし、生育範囲は比較的広く、個体数も多い。道路工事、埋立工事などの影響で、生育地の減少が懸念される。

**県内分布** 姫島・国東海岸、豊後水道域

**分布域** 四国、九州(大分)

**生育環境** 海岸の草原や路傍、崖地。

**現 状** 「豊後水道域」では生育範囲は広く、個体数も多い。栽培菊との交雑もみられる。

**備 考** 本県は、分布の西限域にあたる。国定公園指定植物〔日豊海岸〕

## イワギク

*Dendranthema zawadskii*  
(Herbich) Tzvelevキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 II

- 選定理由** 日本各地に点在する。県内では火山山頂帯の岩場などに生育している。登山者による踏みつけや人による採取で消滅した生育地があり、絶滅の危険性が極めて高い。
- 県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群
- 分布域** 本州(岩手・福井・石川・奈良) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島 中国(中部・東北部),ウスリー
- 生育環境** 火山山頂帯風衝地の岩場。
- 現 状** 人による採取で著しく減少し，採取しにくい所にごくわずか残っている。
- 備 考** 大陸系遺存植物。国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山]

## ヒゴタイ

*Echinops setifer* Iljinキク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

- 選定理由** 主として火山性高原や火山山頂帯の草原に生育し，生育地は限られていて，個体数も少ない。野焼きの停止による植生の遷移や人工牧野への改変などで消滅した所もあり，人による採取もあって絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 耶馬溪地区，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，大野川上流域，祖母・傾山地
- 分布域** 本州(愛知 岡山) 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島
- 生育環境** 丘陵地から火山山頂帯の日当たりのよい草原。
- 現 状** 「九重火山群」や「由布・鶴見火山群」の草原では，採取されて激減している。
- 備 考** 大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## アキノハハコグサ

*Gnaphalium hypoleucum* DC.キク科  
Compositae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

- 選定理由** 県内では生育地は点在し，個体数は極めて少ない。河岸工事や道路工事による生育環境の悪化で，絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 耶馬溪地区，別府湾沿岸域，大野川上流域
- 分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島 中国 台湾 インド フィリピン
- 生育環境** 低地や丘陵地の草地。
- 現 状** 1年草のため生育環境の変化によって持続しにくく，かつて生育していた所も生育状態の把握されてない所が多い。

## ソナレノギク

*Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less.  
subsp. *insularis* (Makino) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 四国・九州の一部に分布する。本県では当該地の海岸や沿海地，日当たりのよい路傍などにみられる。道路拡張や草刈などにより，生育地の消滅や生育環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 豊後水道域，豊後水道後背地域

**分布域** 四国 九州(長崎・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 海岸路傍や崖地。

**現 状** 「豊後水道域」の半島や沿海地の海岸崖地や路傍に生え，しばしば群生するが，人里近い所では草刈などで衰退している。

**備 考** 国立・国定公園指定植物 [瀬戸内海，日豊海岸]

## ブゼンノギク

*Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less.  
subsp. *koidzumianus* (Kitamura) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 本県では凝灰岩の岩場に生育し，県北地域に広く分布する。越年草であるが，よく繁殖している。人里近い生育地では，土地の改変や人による採取が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪・国東丘陵地，玖珠丘陵地・山地

**分布域** 九州(佐賀・大分)

**生育環境** 低地や丘陵地の岩場。

**現 状** 凝灰岩の岩場に生え，良好な生育地をみかけるが，人里近い生育地では消滅した所がある。

**備 考** 九州北部地域の特産種。基準標本産地 [耶馬溪町耶馬溪]，国定公園指定植物 [耶馬日田英彦山]

## チョウセンスイラン

*Hololeion maximowiczii* Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 国内では九州を分布域とする。県内の生育範囲は狭く，個体数も少ない。土地改変や野焼きの停止による植生遷移などで，絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 中津・宇佐低地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，(大分川・大野川丘陵地)

**分布域** 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) アムール ウスリー

**生育環境** 丘陵地から山地の湿地。

**現 状** 生育環境の悪化で，生育状態が衰退した生育地がみられる。「大分川・大野川丘陵地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

**備 考** 大陸系遺存植物。

## ホソバオグルマ

*Inula britannica* L.  
subsp. *linariaefolia* (Turcz.) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	国内での分布域は狭いが、県内の生育地は散在し、個体数も少ない。湿地開発や植林などで生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域、(祖母・傾山地)
分布域	本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) シベリア
生育環境	丘陵地や低山地の湿地、低地の草原。
現 状	しばしば群生している所もみかけるが、環境の悪化で衰退した所がある。「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
備 考	大陸系遺存植物。

## カセンソウ

*Inula salicina* L.  
var. *asiatica* Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	県内の生育地は点在し、個体数は少ない。人里近くの生育地では、道路工事などの土地改変や路辺の草刈、植生遷移の進行などによる環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪・国東丘陵地、姫島・国東海岸、豊後水道域、大野川上流域
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎) 朝鮮半島 中国(東北部) 樺太
生育環境	低地や丘陵地の草地。
現 状	草原や林縁に生えるため、植生遷移の進行による消長がみられ、低地では消滅する生育地が生じている。
備 考	九州は、分布の南限域にあたる。

## タカサゴソウ

*Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai  
subsp. *strigosa* (Lév. et Van.) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

選定理由	県内の生育地は希で、個体数も少ない。低地の人里近い所では、土地改変や植生遷移の進行で消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	中津・宇佐低地、姫島・国東海岸、別府湾沿岸域、豊後水道域、大野川上流域
分布域	本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) 朝鮮半島
生育環境	低地や丘陵地の草地。
現 状	把握された生育地はかなりあるが、どの生育地も生育環境が悪化しており、消滅した所もある。
備 考	大陸系遺存植物。

## ホソバニガナ

*Ixeris makinoana*  
(Kitamura) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 県内ではため池の池畔に生えるが、生育地、個体数はともに少ない。生育地は水位の変化が大きいため、生育環境が著しく変わり、絶滅の危険性が高い。

県内分布 中津・宇佐低地，別府湾沿岸域

分布域 本州(関東地方以西) 四国 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島)

生育環境 低地の池畔。

現 状 ため池の水位の高いときは水湿地に生育し，水位が低くなると湖盆内の裸地にも生育する。

## オオバヨメナ

*Kalimeris miqueliana*  
(Hara) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (祖母・傾山地)

分布域 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎)

生育環境

現 状 「祖母・傾山地」で採集された標本はあるが，その後，生育状態は把握されていない。

## ミヤマアキノノゲシ

*Lactuca triangulata* Maxim.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 本県の生育地は極めて希で，個体数も僅少。不安定な渓谷沿いの崩壊地を生育地とするため，大雨による流失や植生の遷移による環境変化で，絶滅の危険性が高い。

県内分布 由布・鶴見火山群

分布域 北海道 本州(中部) 九州(大分)  
朝鮮半島 中国(東北部) ,ウスリー ,アムール ,千島

生育環境 低山地の渓谷沿いの林縁。

現 状 渓谷沿いの林内に散生し，生育地も狭く，生育環境が安定していない。

備 考 北方寒冷地要素の植物。隔離分布し，本県は，分布の南限域にあたる。

## チョウセンヤマニガナ

*Lactuca raddeana* Maxim.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県での生育地は火山性高原の草原に散在しているが、個体数は少ない。草原開発や野焼きの停止、植林などによる環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区，玖珠丘陵地・山地，由布・鶴見火山群，大野川上流域

**分布域** 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国(東北部) 東亜温帯～亜寒帯

**生育環境** 丘陵地や低山地の草原。

**現 状** 生育地の草原が開発されて減少している所が多い。

**備 考** 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。ヤマニガナ(var. *elata*)と類似し、しばしば混生している。

## オオモミジガサ

*Miricacalia makineana*  
(Yatabe) Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内の生育地は山地の陰湿地に限られ、しばしば群生することがある。森林伐採や遷移進行による環境変化が懸念される。

**県内分布** 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，九重火山群，祖母・傾山地，北川上流域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 低山地や山地の溪流辺や湿った谷沿いの林内。

**現 状** 山地の水気のある湿った林内に小群落をつくって生育している。生育地が谷沿いのため、崩壊して生育状態の衰退した所がある。

**備 考** ソハヤキ要素の植物。国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾]

## ツクシカシワバハグマ

*Pertya robusta* (Maxim.) Beauverd  
var. *kiushiana* Kitamura

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は極めて狭い。本県の生育地は限定されていて、個体数は少ない。森林伐採や植林などによる環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 由布・鶴見火山群，(祖母・傾山地)

**分布域** 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や低山地の林縁，林内。

**現 状** 「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。

**備 考** 九州の特産種。

## ヒナヒゴタイ

*Saussurea japonica* (Thunb.) DC.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IA

選定理由	国内では九州だけで分布域は狭く、本県の生育地も希で、個体数も少ない。越年草のため、生育環境の変化によって生育状態に著しい消長がみられ、絶滅の危険性が高い。
県内分布	別府湾沿岸域，豊後水道域，石灰岩地域
分布域	九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 ,中国 ,台湾
生育環境	低地や丘陵地(石灰岩地)の草地や林縁。
現 状	生育状態に消長がみられ、かつての生育地で生育状態が持続していない所が多い。
備 考	大陸系遺存植物。

## ミヤコアザミ

*Saussurea maximowiczii* Herder

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県では主として火山性高原の湿地に分布し、生育地、個体数はともに少ない。高原の土地開発や人工牧野の改変によって、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群
分布域	本州 ,九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島 ,中国(東北部) ,ウスリー
生育環境	丘陵地や低山地の湿地。
現 状	湿地の周辺地にまで生育しており、高原の土地開発によって消滅した生育地がかなりみられる。
備 考	大陸系遺存植物。国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]

## ヒメヒゴタイ

*Saussurea pulchella* Fisch.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

選定理由	県内の生育地は散在し、個体数は少ない。越年草で草原や林縁に生えるため、植生遷移の進行による環境変化の影響を受け、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	耶馬溪地区，(日田低地・丘陵地)，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，豊後水道後背地域，石灰岩地域，大野川上流域
分布域	北海道 ,本州 ,四国 ,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎) 朝鮮半島 ,中国(東北部) ,樺太 ,東シベリア
生育環境	丘陵地や低山地の草地や林縁。
現 状	生育地は散在していて、生育状態の持続していないことが多い。「日田低地・丘陵地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。
備 考	九州は、分布の南限域にあたる。国立・国定公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう，日豊海岸 ]

**キクバヤマボクチ***Synurus palmatopinnatifidus*  
(Makino) Kitamuraキク科  
Compositae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 分布域は狭く、本県での生育地は火山地域に点在し、個体数は少ない。草原の生育地は、畑地や植林地などに改変されており、生育地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 本州(近畿以西・中国) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

**生育環境** 丘陵地から山地の草原や林縁。

**現 状** 火山性高原では、畑地周辺の草原に残存する個体をみかけることがある。山地の草原で森林化している所では、生育状態が衰退している。

**カンサイタンポポ***Taraxacum japonicum* Koidzumiキク科  
Compositae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内での標本や記録はあるが、生育地の確認されている所は極めて少ない。生育地は路傍に多く、生育環境の変化が著しく、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** (英彦山・犬ヶ岳山地)，(九重火山群)，豊後水道域

**分布域** 本州(近畿地方以西) 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分) 沖縄

**生育環境** 低地や山地の路傍，草原。

**現 状** 「豊後水道域」では10年前までは路傍に群生していたが、道路工事でほぼ壊滅状態になった。その後、周辺の草地などに少数の生育地が確認されている。「英彦山・犬ヶ岳山地」，「九重火山群」で採集された標本はあるが、その後、生育状態は把握されていない。

**ツクシタンポポ***Taraxacum kiushianum* H. Koidzumiキク科  
Compositae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 分布域は限られ、本県では山地の草原や林縁，路傍に生えるが、個体数は極めて少ない。植生遷移の進行や帰化植物との競合，登山道の整備などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** (耶馬溪地区)，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群

**分布域** 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)

**生育環境** 丘陵地や山地の草原，林縁。

**現 状** 草原や林縁にごく希にみられ，個体数も限られる。場所によってはセイヨウタンポポ (*T. officinale*) と競合して生育地が狭くなっている。「耶馬溪地区」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。

**備 考** 基準標本産地 [ 耶馬溪町川原口 ]

## キクアザミ

*Saussurea ussuriensis* Maxim.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	本県の生育地は散在していて個体数は少ない。草原や林縁に生えるため、植林や野焼きの停止などによる生育環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。
県内分布	由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，大野川上流域
分布域	本州 九州(大分) 朝鮮半島 中国(北部 東北部) ,ウスリー
生育環境	丘陵地や低山地の草原や林縁。
現 状	生育地は散在しているが，いずれも生育範囲は狭く，植生遷移の進行により衰退した生育地がみられる。
備 考	大陸系遺存植物。本県は，分布の南限域にあたる。国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

## コウリンギク

*Senecio argunensis* Turcz.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IA

選定理由	県内で確認されている生育地は極めて希で，個体数も僅少。生育地一帯は放牧地として利用され，道路にも接しているため，攪乱され，あるいは採取されて，絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	玖珠丘陵地・山地，(由布・鶴見火山群)
分布域	九州(大分) 朝鮮半島 中国(東北部) ,ダフリア
生育環境	丘陵地の草原。
現 状	生育地は河川沿いの草原で，毎年野焼きされる。生育範囲は極めて狭く，辛うじて生育を維持している。「九重火山群」はすでに消滅した模様。「由布・鶴見火山群」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。
備 考	大陸系遺存植物。国内では，本県だけに分布する。

## タカネコウリンギク

*Senecio flammeus*

Turcz. ex DC.

キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由	県内では火山性高原の草原や山頂帯の風衝地に点在し，個体数は僅少。生育地は高原の各種開発で消滅しており，絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地
分布域	九州(熊本・大分) 朝鮮半島 中国(北部・東北部) ,ダフリア
生育環境	火山性高原や山頂帯の風衝地草原。
現 状	高原の生育地では，植林や人工牧野，ゴルフ場などの土地改変で消滅した所がある。
備 考	大陸系遺存植物。九州は，分布の南限域にあたる。

## ハマグルマ

*Wedelia prostrata*  
(Hook. et Arn.) Hemsl.

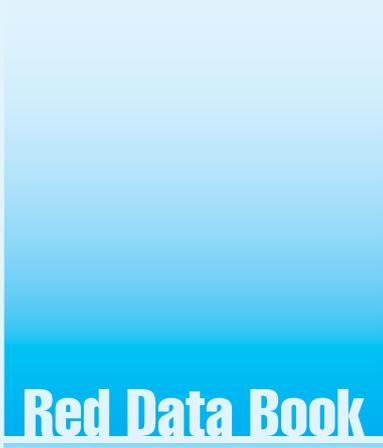
キク科  
Compositae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** | 本県では海岸砂浜に生え、しばしば群生するが、生育地は狭い。護岸工事による砂浜の減少、レジャーによる浜の荒廃などで消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** | 周防灘海岸，姫島・国東海岸，別府湾沿岸域，豊後水道域
- 分布域** | 本州(関東以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島 中国(東北部の南部) 台湾 中国 インドシナ
- 生育環境** | 海岸の砂浜や砂礫地。
- 現 状** | 各地域とも生育地は点在し，群生地は少なくなっている。



The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font at the bottom of the square, with a thin white horizontal line underneath it.

**Red Data Book**

# 保護上重要な植物

## 3. 蕨類



## (1) 概要

### 概況

現在，大分県では47科168属452種（変種を含む）の藓類（コケ植物）の生育が記録されている。その内、『新版大分県植物誌』（1989）には45科164属436種が記載されている。『新版大分県植物誌』でその分布量が〔少〕や〔稀〕であるものと，その後に本県で生育が確認されたものを選定対象種とした。1995年から2000年までの6年間を調査期間として選定対象種の再検討を試みた。主な視点は，次の4項目である。

（ア）県内に生育する種で環境庁レッドデータブックに登載されているもの。

（イ）国内での生育分布上貴重とされるもの。

（ウ）大分県が基準標本産地であるもの。

（エ）県内での生育地が極く限られ，生育環境が不安定であるもの。

その結果，31種を選定種として取り上げた。

コケ植物の生育は環境の変化を鋭敏に受ける。大分県では1960年代から1970年代にかけて自然林の伐採が進められ，そのほとんどが人工林に転換された。現在残存する自然林での調査結果から，自然林に生育する藓類の種類がいかに多いかを推測することが出来る。例えば，トサヒラゴケは現在耶馬溪地区，豊後水道後背地域，大野川上流域に生育している。耶馬溪地区での生育地は古くから観光地として自然林が残されているが，他の地域は周囲の自然林が伐採され，残存した落葉広葉樹の幹にわずかに着生しているに過ぎない。また，自然災害の影響も大きい。ミズスギモドキはかつて耶馬溪地区に多く生育がみられたが，過去の水害でその着生木のほとんどが流失した。今度の調査により，耶馬溪地区の他の場所での生育や新たに豊後水道後背地域での生育地を確認することが出来た。しかし，いずれの生育地も生育する量が少なく，生育環境が不安定である。その他，湿地の乾燥化や開発，湖沼の護岸工事などの要因により，藓類の生育が減少していく危険性がある。

### 選定種について

藓類の大分県RDBカテゴリ別選定種数は，次の通りである。「情報不足」は過去に本県での標本や文献記録などがあるが，それ以降，あるいは近年生育の確認ができないものである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	総計
大分県	0	7	4	4	12	4	31
環境庁	0	4	1	0	9	6	20

「環境庁」は，環境庁レッドデータブック（2000）の掲載分類群の大分県関係数。

### 解説の項目・内容について

選定種についての各項目の解説は，下記の要領で行った。

#### 「選定理由」

国内における分布，県内での分布，生育環境の現状，生育状況，絶滅の危険性などにに基づき適切なカテゴリを選択した理由を記述した。

#### 「県内分布」

大分県内の地形や地質，気候などから18地域に区分した「野生植物地域区分図」（荒金正憲 1998）に従った。なお，耶馬溪・国東丘陵地については種の分布状況により耶馬溪地区と国東地区に分けて記したのものもある。「情報不足」のものについては原則として県内分布は記載しなかった。ただ

し、標本や文献記録はあるが、その生育地（生育状態）の把握できていないものは（ ）書きとした。

「分布域」

国内における分布と国外における分布を『原色日本蘚苔類図鑑』（1972）を参考にして記した。

「生育環境」

大分県の垂直分布域並びに生育環境を記した。「情報不足」のものについては原則として記載しなかった。

「現 状」

現在の生育の様子や量的な判別などについて記した。「情報不足」のものについては過去に採集、記録のある生育地を記した。

「備 考」

次の2項目について記した。

- ・基準標本産地：生育地
- ・国立・国定公園指定植物 [公園名]

**危険性の主要因**

選定理由で危険性の主要因となったものは、次のようなものがある。

- ・森林の伐採      ・林道や道路の工事      ・湖沼の護岸工事      ・湿地や草地の開発
- ・自然災害      ・溪谷や湿地の乾燥      ・人による採取

**選定種の配列**

学名及び種の配列は次に従った。

Zenoske Iwatsuki Catalog of the Mosses of Japan (1991)

(2) 文 献

岩月善之助・水谷正美 原色日本蘚苔類図鑑 (1972)

Zenoske Iwatsuki Catalog of the Mosses of Japan (1991)

Akira Noguchi Illustrated Moss flora of Japan Part 1 (1987) ~ Part 5 (1994)

大分県植物誌刊行会 新版大分県植物誌 (1989)

荒金正憲 地域に特徴的な大分県産種子植物 (1998)

大塚政雄 大分県で採集された興味ある蘚類, 日本蘚苔類学会会報 2 (10) : 148 (1980)

岩月善之助・立石幸敏・鈴木 直 日本産Campylostelium (ハクチョウゴケ属), ヒコピア 13 : 79-85 (1999)

**コアナミズゴケ***Sphagnum microporum*  
Warnst. ex Card.ミズゴケ科  
Sphagnaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし**選定理由** 日本固有種で、本州から九州に分布する。本県では生育地が少ない。湿地の開発や生育地の乾燥により絶滅の危険性が極めて高い。**県内分布** 九重火山群**分布域** 本州, 四国, 九州**生育環境** 丘陵地や低山地の湿地で、湿地性草本植物の株元。**現 状** 数年前、「玖珠丘陵地・山地」の湿地に生育していたが富栄養化などの環境の変化により消滅した。現在は「九重火山群」にわずかに生育している。**備 考** 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]**オオミズゴケ***Sphagnum palustre* L.ミズゴケ科  
Sphagnaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 I**選定理由** 北海道から九州に分布する。本県での生育地は他のミズゴケ類に比べてやや多いが、湿原の開発や乾燥、森林の伐採、人による採取などにより生育地の減少が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群**分布域** 北海道, 本州, 四国, 九州  
世界各地**生育環境** 丘陵地から山地の湿地。**現 状** 生育地では散在的であり、場所によっては生育範囲が狭くなっている。**備 考** 国立公園指定植物 [ 阿蘇くじゅう ]**クマノゴケ***Theriotia lorifolia* Card.キセルゴケ科  
Buxbaumiaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 準**選定理由** 本州から九州に分布する。本県では数か所の生育地はあるが、谷部の森林の伐採による乾燥、自然災害など環境の変化により、生育状態の悪化が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域**分布域** 本州, 四国, 九州  
朝鮮半島, 中国, インド, パキスタン**生育環境** 山地の溪流辺で、時に、水しぶきがかかる岩盤。**現 状** 生育地では点在している。森林の伐採により周囲の環境が変化して、生育範囲が減少している所がみられる。

## コキヌシツポゴケ

*Seligeria pusilla*  
(Hedw.) Bruch et Schimp.

コシツポゴケ科  
Seligeriaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 I

選定理由

県内分布 (豊後水道後背地域)

分布域 本州,九州  
欧・北米東部,コーカサス,アラスカ

生育環境

現 状 本県では過去に「豊後水道後背地域」での採集標本はあるが、近年、その生育状態は確認されていない。

## ヤマトハクチョウゴケ

*Campylostelium brachycarpum*  
(Nog.) Iwats.

ギボウシゴケ科  
Grimmiaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 本州と九州に分布する。本県では生育地が少ない。森林の伐採や谷部の乾燥などの環境変化により、生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区

分布域 本州,九州  
欧・北米

生育環境 やや明るい谷部や溪谷の岩上。

現 状 やや湿度のある岩上に着生しているが、植物体が微小であるため生育状態の把握が困難である。

## フガゴケ

*Gymnostomiella longinervis* Broth.

オオツボゴケ科  
Splachnaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

選定理由 本州から沖縄の石灰岩地域に分布する。本県では生育地がごく希である。生育している場所の改変により、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 石灰岩地域

分布域 本州(千葉県),四国,九州,沖縄  
台湾,フィリピン

生育環境 半日陰の石灰岩及び石灰質の地上。

現 状 生育している場所が道路に近く、防護壁の設置や道路拡張工事などによる減少のおそれがある。

**タチチョウチンゴケ***Orthomnion dilatatum* (Mitt.) Chenチョウチンゴケ科  
Mniaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 I

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)

分布域 本州, 四国, 九州  
中国, 台湾, マレー半島, フィリピン, スマトラ, ボルネオ, インド, スリランカ, ヒマラヤ

生育環境

現 状 本県では過去に「耶馬溪地区」での採集標本はあるが, 近年その生育状態は確認されていない。

**イブキキンモウゴケ***Ulotia perbreviseta* Dix. et Sak.タチヒダゴケ科  
Orthotrichaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 II

選定理由 本州中部地方以西から九州に分布する。本県では生育地が希である。自然災害や植生遷移などによる生育状態の悪化が懸念される。

県内分布 由布・鶴見火山群

分布域 本州(中部地方以西), 四国, 九州  
朝鮮半島

生育環境 山地の尾根部や山頂域の灌木の枝。

現 状 ノリウツギなどに着生するため, その植生遷移により減少している。

**ホゴケ***Rhacopilum aristatum* Mitt.ホゴケ科  
Rhacopilaceae**カテゴリー**大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 本州中部地方以西から沖縄, 小笠原に分布する。本県での生育地は少ない。台風や集中豪雨など自然災害による生育状態の悪化が懸念される。

県内分布 豊後水道域, 石灰岩地域

分布域 本州(中部地方以西), 四国, 九州, 沖縄, 小笠原  
台湾, 中国, フィリピン

生育環境 やや湿り気のある石灰岩や石灰質土壌。

現 状 沿海地の林縁や石灰岩地の谷部に生育しているが, 生育環境が不安定である。

## ツルゴケ

*Pilotrichopsis dentata*  
(Mitt.) Besch.

イトヒバゴケ科  
Cryphaeaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 本州から沖縄に分布する。本県では生育地が少ない。林道開発や森林の伐採などで生育地の減少が懸念される。

県内分布 大分川・大野川丘陵地

分布域 本州, 四国, 九州, 沖縄  
中国, 台湾, フィリピン, インドシナ半島

生育環境 丘陵地から山地の岩上。

現 状 丘陵地から山地の谷部などで、やや明るい林縁の岩上に懸垂している。生育している量は少なく、生育環境が不安定である。

## リスゴケ

*Dozya japonica* Lac.

イタチゴケ科  
Leucodontaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 東北地方以南から九州に分布する。本県では生育地が少ない。森林の伐採や自然災害などによる生育地の減少が懸念される。

県内分布 大分川・大野川丘陵地

分布域 本州(東北地方以南), 四国, 九州  
中国, フィリピン, シベリア

生育環境 丘陵地や山地の樹幹や枝。

現 状 丘陵地の谷部で明るい樹幹や枝に着生している。生育している量は少ない。

## マツムラゴケ

*Duthiella speciosissima*  
Broth. ex Card.

ムジナゴケ科  
Trachypodaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 関東地方以西から九州に分布する。本県では生育地が少ない。谷部の森林伐採や乾燥、林道開発などによる生育状態の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区

分布域 本州(関東地方以南), 四国, 九州  
台湾, 中国

生育環境 丘陵地の谷部で湿った腐葉土上、岩上、崖の草本植物の株元。

現 状 草本植物のあるやや湿った岩上や崖に生育している。生育している量は少なく、近年、生育地が減少している。

**オオノコギリゴケ***Duthiella wallichii*  
(Mitt.) C.Müll.ムジナゴケ科  
Trachypodaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 情報不足**選定理由** 九州と沖縄に分布する。本県では生育地が少ない。谷部の森林の伐採や乾燥及び自然災害など環境の変化により生育状態の悪化が懸念される。**県内分布** 石灰岩地域**分布域** 九州,沖縄  
中国,台湾,フィリピン,ジャワ,ヒマラヤ**生育環境** 林内の湿った石灰岩。**現 状** 谷部で森林内のやや湿った石灰岩に着生し,垂れ下がっている。生育している量は少ない。**ミズスギモドキ***Aerobryopsis subdivergens*  
(Broth.)Broth.ハイヒモゴケ科  
Meteoriaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 関東地方以西の西日本に分布する。本県では生育地が希である。渓谷沿いの森林の伐採や自然災害などのため,着生木が損失し,絶滅の危険性が高くなっている。**県内分布** 耶馬溪地区,豊後水道後背地域**分布域** 本州(関東地方以西),四国,九州,沖縄  
中国,台湾,インドシナ半島**生育環境** 渓谷沿いの樹枝や岩上。**現 状** 空中湿度の高い渓谷の落葉樹の枝から懸垂している。生育している量は少ない。**イトゴケ***Barbella pendula* (Sull.) Fleisch.ハイヒモゴケ科  
Meteoriaceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 本州中部地方以西から九州に分布する。本県での生育地は少ない。森林の伐採などにより絶滅の危険性が高い。**県内分布** 耶馬溪地区**分布域** 本州(中部地方以西),四国,九州  
中国,北米南部,メキシコ,熱帯アジア**生育環境** 丘陵地の谷部の樹上や枝。**現 状** 空中湿度が高く,明るく開けた渓谷の樹枝に懸垂しているが生育している量は少ない。生育環境が不安定で生育地が減少している。

## ツクシタスキゴケ

*Chrysocladium flammeum* (Mitt.) Fleisch.  
*ssp. tukusiense* (Nog.) Nog.

ハイヒモゴケ科  
Meteoriaceae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (由布・鶴見火山群)

分布域 九州(大分)

生育環境

現 状 由布岳の1,500m付近での生育記録があるが、近年、その生育状態は確認されていない。

備 考 基準標本産地 [ 由布山 ]

## ヒロハシノブイトゴケ

*Floribundaria aurea* (Mitt.) Broth.  
*ssp. nipponica* (Nog.) Nog.

ハイヒモゴケ科  
Meteoriaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

選定理由

神奈川県箱根以西から九州に分布する。本県では生育地がごく希である。渓谷の森林の伐採や自然災害などにより絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 耶馬溪地区

分布域 本州(箱根以西),四国,九州  
台湾

生育環境 丘陵地の渓谷沿いの樹枝や岩。

現 状 耶馬溪地区の数か所に生育していたが過去の集中豪雨により着生木が流失した。現在、着生木が少なく、損失のおそれがある。

## ハイヒモゴケ

*Meteorium subpolytrichum*  
(Besch.) Broth.

ハイヒモゴケ科  
Meteoriaceae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由

関東地方以西から沖縄に分布する。本県では生育地が少ない。森林の伐採や乾燥、自然災害により生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区, 大分川・大野川丘陵地

分布域 本州(関東地方以南),四国,九州,沖縄  
朝鮮半島,中国,台湾,フィリピン,ヒマラヤ

生育環境 丘陵地や低山地の樹枝や岩上。

現 状 明るく開けた谷部の立ち木の枝や岩上から垂れ下がり、散生している。生育環境が不安定である。

**ヒメタチヒラゴケ***Homaliadelphus targionianus*  
(Mitt.) Dix. et P.Vard.  
var. *rotundatus* Nog.ヒラゴケ科  
Neckeraceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 I**選定理由** 本州から九州に分布する。本県では生育地が少ない。谷部の森林の伐採や乾燥など環境の変化により生育状態の悪化が懸念される。**県内分布** 石灰岩地域**分布域** 本州, 四国, 九州  
台湾**生育環境** 低地のやや湿度のある石灰岩。**現 状** 森林内で湿度のある谷部に生育するが, 生育地が減少している。**備 考** 基準標本産地 [ 野津町川登 ]**セイナンヒラゴケ***Neckeropsis calcicola* Nog.ヒラゴケ科  
Neckeraceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 準**選定理由** 日本固有種で本州から沖縄の石灰岩地域に生育する。本県では石灰岩地域の他に火成岩地域の耶馬溪地区にも生育している。森林の伐採や林道開発などにより生育状態の悪化が懸念される。**県内分布** 耶馬溪地区, 石灰岩地域**分布域** 本州, 四国, 九州, 沖縄**生育環境** 丘陵地の日陰で湿り気のある石灰岩。**現 状** 「耶馬溪地区」及び「石灰岩地域」では, 生育環境が不安定で生育地が減少している。**トサヒラゴケ***Neckeropsis obtusata*  
(Mont.) Fleisch.ヒラゴケ科  
Neckeraceae**カテゴリー**大分県 IB  
環境庁 掲載なし**選定理由** 関東地方以西の西日本に分布する。本県では生育地が少ない。渓谷沿いの森林の伐採や自然災害などによる着生木の損失で, 絶滅の危険性が高い。**県内分布** 耶馬溪地区, 豊後水道後背地域, 大野川上流域**分布域** 本州(関東地方以西), 四国, 九州, 沖縄  
中国, 台湾, インドシナ半島**生育環境** 渓谷の樹幹や岩上。**現 状** 渓谷の流水近くや滝の霧がかかるような樹幹に着生している。生育地では生育している量は少ない。着生木の損失のおそれがある。

## キブリハネゴケ

*Pinnatella makinoi* (Broth.) Broth.

ヒラゴケ科  
Neckeraceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 I

**選定理由** 本州中部地方以西から九州の石灰岩地域に分布する。本県では石灰岩地域の他に火成岩地域の耶馬溪地区にも生育している。森林の伐採や林道開発などによる生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 耶馬溪地区, 石灰岩地域

**分布域** 本州(中部地方以西), 四国, 九州  
中国, 台湾

**生育環境** 丘陵地のやや湿度のある石灰岩。

**現 状** 生育地での生育環境が不安定で生育している量は少ない。

## ケサガリゴケ

*Neobarbella pilifera*  
(Broth. et Yas.) Nog.

トラノオゴケ科  
Lembophyllaceae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

**選定理由** 本州紀伊半島以西から九州に分布する。本県では生育地が希である。谷部の森林の伐採や自然災害などによる絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 本州(紀伊半島以西), 四国, 九州  
台湾

**生育環境** 谷沿いの樹枝。

**現 状** 「耶馬溪地区」の数か所に生育していたが過去の集中豪雨で着生木が流失した。現在はごく少量の生育が認められるが、着生木の損失のおそれがある。

## コキジノオゴケ

*Cyathophorella hookeriana*  
(Griff.) Fleisch.

クジャクゴケ科  
Hypopterygiaceae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

**選定理由** 本州中部地方から沖縄に分布する。本県では生育地は少ない。林道の整備や開発, 森林の伐採などにより絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 耶馬溪地区

**分布域** 本州(中部地方以西), 四国, 九州, 沖縄  
中国, 台湾, フィリピン, シッキム

**生育環境** 丘陵地の谷部で, 明るくやや湿り気のある樹上や岩上。

**現 状** 谷川沿いの樹幹や岩上に散生しているが, 生育環境は不安定である。

**フチナシクジャクゴケ***Dendrocyathophorum paradoxum*  
(Broth.) Dix.クジャクゴケ科  
Hypopterygiaceae**カテゴリー**大分県 情報不足  
環境庁 I

選定理由

県内分布 (耶馬溪地区)

分布域 本州, 四国, 九州  
台湾, フィリピン, ベトナム

生育環境

現 状 採集標本はあるが, 近年, その生育状態は確認されていない。

**ヌマシノブゴケ***Helodium paludosum*  
(Sull.) Aust.シノブゴケ科  
Thuidiaceae**カテゴリー**大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 本州に分布する。本県では火山性高原の湿地に生育するが, 生育地が希である。湿地の開発や乾燥により絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群

分布域 本州, 九州  
シベリア, 北米東部

生育環境 湿地草原の水辺。

現 状 山地の湿地の水辺で草本植物の株元に生育している。近年湿地の開発や乾燥により生育地が減少している。

**ヤリノホゴケ***Calliergonella cuspidata*  
(Hedw.) Loeskeヤナギゴケ科  
Amblystegiaceae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 北海道, 本州, 九州に分布する。本県では丘陵地から山地の湿地に生育する。湿地の開発や乾燥による生育状態の悪化が懸念される。

県内分布 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群

分布域 北海道, 本州, 九州  
中国, 朝鮮半島, シベリア, ヒマラヤ, 欧・北米, ニュージーランド, 北アフリカ

生育環境 山地の草原内の湿地。

現 状 草原内の湿地で, 草本植物の株元に散生している。各地とも生育している量は少ない。

**アオモリカギハイゴケ**  
*Sasaokaea aomoriensis*  
(Par.) Kanda

ヤナギゴケ科  
Amblystegiaceae

**カテゴリー**

大分県 IA  
環境庁 I

**選定理由** 日本固有種で、本州と九州に分布する。本県では生育地が少ない。湿地の開発や乾燥などによる絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 玖珠丘陵地・山地

**分布域** 本州,九州

**生育環境** 草原内の湿地で、湿地性草本植物の株元。

**現 状** 日当たりの良い湿地で、湿地性草本植物の株元に散生している。近年、生育地が減少している。

**コゴメツヤゴケ**  
*Entodon giraldii* C.Müll.

ツヤゴケ科  
Entodontaceae

**カテゴリー**

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州から九州に分布する。本県では生育地がごく希である。森林の伐採や自然災害などによる生育状態の悪化が懸念される。

**県内分布** 石灰岩地域

**分布域** 本州,四国,九州  
朝鮮半島,中国

**生育環境** 丘陵地や低山地のやや乾いた岩上。

**現 状** 森林内の乾いた石灰岩に着生しているが、生育している量は少ない。

**備 考** 基準標本産地 [ 三重町大白谷 ]

**マキハキヌゴケ**  
*Pylaisiella subcircinata*  
(Card.) Iwats.et Nog.

ハイゴケ科  
Hypnaceae

**カテゴリー**

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 北海道及び本州中部地方以北に分布する。本県では生育地がごく希で、生育範囲は狭い。護岸工事や自然災害での着生木であるヤナギ類の損失により、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 九重火山群

**分布域** 北海道,本州(中部地方以北),九州  
朝鮮半島

**生育環境** 山地の樹幹。

**現 状** 多目的利用として建設された貯水池の上流の水辺に立つヤナギ類の幹に着生している。

## トガリチイゴケ

*Taxiphyllum cuspidifolium*  
(Card.) Iwats.

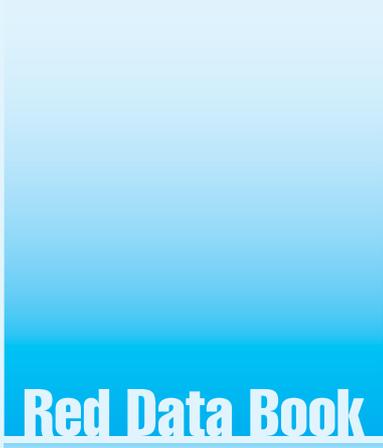
ハイゴケ科  
Hypnaceae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	本州から九州に分布する。本県では生育地が少ない。森林の伐採などによる生育状態の悪化が懸念される。
県内分布	石灰岩地域
分布域	本州,四国,九州 北米東部
生育環境	丘陵地や低山地の岩上,地上,時に立木の根元。
現 状	谷部の林縁の地上に生育する。生育している量は少ない。
備 考	基準標本産地 [ 由布岳 ]



The logo for the Red Data Book, featuring a blue square with a white horizontal bar at the bottom containing the text "Red Data Book" in white.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 1. 哺乳類



## (1) 概要

### 概況

大分県下に生息する野生陸棲哺乳類は、生息確認種が36種、過去に生息が認められていたものの現在否定的であるもの1種の計37種と考えられる。

飼育動物のうちイヌ、ネコ、リス、ウサギなど数種の一部野生化したものも認められるが、計数すべき種としては概念から除いてある。

今回選定した種は21種で、37種に対して約57%にあたる。種としての概念でこれを検討すると、保護・保全を前提とした種数が、大分県下の陸棲哺乳類数に占める割合が大きいように考えられるが、このことは大分県下の陸棲哺乳類全体の評価を意味するものではない。

選定した21種のうち、もともと人との関わりが薄かった種が15種、里山周辺などに生息し人との関わりが深かった種が6種であり、前者は生息環境の改変による減少傾向、後者は人為圧の急増による減少傾向が著しいという個体群動態上の特徴を持っている。

県下の陸棲哺乳類のうち、選定しなかった15種は、農林業被害によって注目される有害鳥獣の範疇に含まれる里山動物が多く、特定の場所においては地域個体群の劣弱化が懸念される種類も認められる。

21種の選定種は、いずれも個体数が急激に減ってきたか、今後急速に減っていく原因が存在する現状があるかの、いずれかによって注目されてきた種である。

次に、県下全域レベルで検討すると、ある特定の地域に生息する地域個体群の規模が急激に負の変動を示し、しかも、その原因が人為的な加圧によるものと認められることによって、将来ともに地域個体群としての成立が危ぶまれる恐れのある種（個体群）に注目した。

1946年以来、県下の自然環境に対して働きかけられた人為圧は産業、経済優先の生産活動などに始まり、都市圏の拡大、居住圏の拡張など、自然環境の存在形態を大きく改変する開発活動によって地域社会の存立を問う特徴があった。

このため、野生の陸棲哺乳類は生息地を失い、あるいは生息圏を分断されるという生存環境条件の劣悪化にさらされたうえ、さらに、農林産物に対する加害防止目的で積極的に駆除されるなどの人為的個体数変動にさらされる歴史を積み上げてきた。

この結果、野生の陸棲哺乳類相が、やや劣弱化してきたことが国内でも普遍的現象として認識されるようになり、これらの保護・保全の必要性がクローズアップしてきたことは、大分県下においても例外ではない。

ある特定の種にいたっては、観光産業資源として特別の積極的保護を加えられたものもある。しかし、これにしても永年的人為的保護を原因として個体群規模が異常に増大し、個体群の採食行動が森林群落に及ぼす影響が懸念されるにいたり、保護・増殖策が否定され、間引き、避妊など個体群規模の積極的コントロールに転じた事例もある。

このようなことから、大分県下の陸棲哺乳類相も全国的レベルの特徴を示していて、将来、これら野生哺乳類の種個体群レベルが安定した動態を維持するためには、県民全体で自然環境の賢明な利用と、自然環境の環境収容力が低下しないような限度を考えた利用について、より理解を深める必要がある。

環境に配慮した開発利用の在り方について、陸棲哺乳類の種個体群との関わりを考える拠り所ともなるべきリストアップを心がけた。

## 選定種について

日本産哺乳類175種の内、これまでに大分県内で目撃され、観察された記録（聞き取りを含む）がある種を選定の対象とした。ただし、イルカ類やクジラ類などのクジラ目及び海牛目の哺乳類については信憑性のある資料が極めて少ない上、県内に研究者がいないなどの理由から、今回は除外した。また、「カイウサギ」「シマリス」「アライグマ」「ハクビシン」「カワウソ」などについては、ペットの逃避または放獣、未確認情報、確認不能情報が多く、野生化や生息を立証する資料がないなどの理由により除外した。

亜種レベルで大分県内に生息している種については（ ）内に亜種名を和名で記載した。

哺乳類の大分県RDBのカテゴリー別選定種数は、次の通りである。

	野生絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	総計
大分県	1	1	2	6	8	1	2	21
環境庁	0	0	1	1	1	0	1	4

「環境庁」は、環境庁レッドリスト（1998）の大分県関係数。

## 解説の項目・内容について

選定種の、各項目の解説は次のように行った。

### 「選定理由」

県内の生息分布域、生息環境の現状、絶滅の危険度の増大、生息環境の悪化などを勘案し、該当するカテゴリーを選択した理由を記載した。

- ・「情報不足」は過去20年以内の確かな情報がない種とし、選定理由は記載していない。
- ・地域個体群は、生息分布域が偏在し、加えて移動性が制限される種群、または、生息分布域は広いものの個体群としての安定したまとまりが限られる種群とした。これらは生息地ごとに状況が異なるため、特に絶滅のおそれが高い種群については「地域個体群」として記載した。

### 「県内分布」

基本的には、市・町・村区分を行ったが、本来哺乳類の生息分布は行政区画に属するものではなく、生存環境の特性に属する性質が強いことから、祖母・傾山系や九重山系のように高山地帯や樹林地帯などの自然環境に対応した生息分布が顕著な種については、「祖母・傾山域」、「九重山域」と表記した。

### 「分布域」

国内分布（北海道・本州・四国・九州・沖縄）及び国外分布。九州の分布域については県別分布を記載した。

### 「生息環境」

- ・選定種の国内における一般的な生息環境及び生態の概略を記載した。
- ・県内における特徴的な生息環境がある場合には、これを記載した。

### 「現 状」

選定種の県内における生息分布域、生息環境、生態、生息個体数の増減などの現状を記載した。

### 「備 考」

その種にかかる日本哺乳類学会のレッドデータ基準。日本の固有種。その他天然記念物等。

**危険性の主要因**

- ・河川改修    ・護岸工事    ・農道，林道工事    ・宅地開発    ・洞窟の消滅    ・洞内照明
- ・洞内人為利用    ・森林伐採    ・森林の小規模化    ・通行車両    ・夜間照明    ・種間関係
- ・有害鳥獣駆除    ・捕獲（密猟）    ・植林    ・その他    ・不明

**選定種の配列**

科・属・種の配列及び学名は，日本哺乳類学会編「レッドデータ 日本の哺乳類」(1997)に準拠した。

**(2) 文 献**

環境庁「哺乳類及び鳥類のレッドリストの見直しについて」(1998)

<http://www.eic.or.jp/kisya/attach/42792-4.html>

菊屋奈良義・小林晶 1982，耶馬日田英彦山国定公園の哺乳類，耶馬日田英彦山国定公園学術調査報告書，123～126，大分県

菊屋奈良義・小林晶・相良精一郎 1984，祖母傾国定公園の哺乳類，祖母傾国定公園学術調査報告書，127～130，大分県

菊屋奈良義 1984，挾間町の動物，挾間町誌，47～48，挾間町

菊屋奈良義・小林晶・相良精一郎 1985，日豊海岸国定公園の哺乳類，日豊海岸国定公園学術報告書，143～146，大分県

菊屋奈良義 1985，津久見市の哺乳類，津久見市誌，74～88，津久見市

1986，日出町の哺乳類，日出町史，180～191，日出町

菊屋奈良義・小林晶・相良精一郎 1988，くじゅう地域の哺乳類，阿蘇くじゅう国立公園学術調査報告書，151～154，大分県

菊屋奈良義 1988，大分市街地の哺乳類，大分生物談話会会誌第4号 大分川下流域の生物65～68，大分生物談話会

1990，臼杵の哺乳類，臼杵市誌112～144，臼杵市

1990，米水津村の哺乳類，米水津村誌105～125，米水津村

1990，庄内町の動物，庄内町史，135～165，庄内町

1991，宇目町の動物，宇目町誌，18～42，宇目町

1993，野津町の哺乳類，野津町史，92～146，野津町

1996，上浦町の動物，上浦町史，65～87，上浦町

1997，直川村の哺乳類，直川村誌，55～130，直川村

(社)大分野生生物研究センター，1985～2000，知見資料集（未発表）

日本哺乳類学会編「レッドデータ 日本の哺乳類」(文一総合出版)(1997)

## カワネズミ

*Chimarrogale platycephala*  
(Temminck)

食虫目  
INSECTIVORA  
トガリネズミ科  
Soricidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 山間地の溪流や中小河川の丘陵地内の流水域では、河川工事、護岸工事など、生息環境への人為干渉が増えつつあり、急激に個体数が減少している。

**県内分布** 下毛郡, 日田郡, 玖珠郡, 大分郡, 大野郡, 直入郡, 南海部郡

**分布域** 本州 四国 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生息環境** 丘陵地帯から山間地の中小河川の森林におおわれた溪流付近。魚類やサワガニなどを採食している。

**現 状** 確認地域が限られており、最近では、確認されていた生息域での再確認が難しくなっている。

**備 考** 日本固有種。日本哺乳類学会：保護すべき地域個体群(九州)

## ジネズミ(サイゴクジネズミ)

*Crocidura dsinezumi dsinezumi*  
(Temminck)

食虫目  
INSECTIVORA  
トガリネズミ科  
Soricidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 高規格農道、林道、作業用林道などの急速な開設に伴い、目撃個体数は急激に減少した。各種森林公園、住宅地開発、ふるさと林道開設などが生息域一帯に集中的であることから、減少の恐れが高い。

**県内分布** ほぼ県内全域に生息

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 種子島 屋久島 トカラ列島(中之島) 韓国済州島

**生息環境** 海岸から低山帯の農耕地、河畔、林縁などに主として生息。本県では久住の草原域からも確認されている。

**現 状** 1980年代前半までは、標高300m程度の低山の林内、林縁で安定した生息状況が認められたが、1985年頃から森林域に対する開発利用で、個体群は急激に減少している。

## ヒメヒミズ

*Dymecodon pilirostris* True

食虫目  
INSECTIVORA  
モグラ科  
Talpidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 標高の高い岩礫地に生息地は極限されている。個体数、個体群共に極めて小さいため生息環境が競合するヒミズが侵入することによる絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 九重山域, 祖母・傾山域

**分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 標高の高い地域の岩礫地。

**現 状** 「九重山域」および「祖母・傾山域」の極く限られた場所からのみ生息が報告されている。生息環境そのものは現在のところ安定しているが、近縁種のヒミズと競合するためヒミズが侵入しない岩礫地の保全が重要となる。

**備 考** 日本固有属、日本固有種。日本哺乳類学会：保護すべき地域個体群(九州)

**キクガシラコウモリ***Rhinolophus ferrumequinum*  
(Schreber)翼手目  
CHIROPTERA  
キクガシラコウモリ科  
Rhinolophidae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 生息洞の消滅，洞内照明の積極化，洞内人為利用の推進などによる生息環境の悪化が懸念される。**県内分布** 県内全域の自然洞，人工洞，暗渠**分布域** 北海道，本州，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，伊豆大島，三宅島，八丈島，佐渡島，対馬，五島列島，屋久島  
ヨーロッパ，モロッコからインド北部，中国，朝鮮半島**生息環境** 河川，平地，小丘陵，森林，草原などで採餌。営巣環境として岩裂，自然形成洞，人為造成洞，暗渠などを必要とする。**現 状** 戦時中の防空壕が埋め戻され，石灰洞は掘削され，鍾乳洞は人為的照明が取られるなど生息環境の悪化が県下全域で進行中である。このため，従来の生息利用洞内でも個体数が減少している。**コキクガシラコウモリ***Rhinolophus cornutus*  
Temminck翼手目  
CHIROPTERA  
キクガシラコウモリ科  
Rhinolophidae**カテゴリー**大分県 準  
環境庁 掲載なし**選定理由** 生息洞の消滅，洞内照明の積極化，洞内人為利用の推進などにより生息環境の悪化が懸念される。**県内分布** 県内全域の自然洞，人工洞，暗渠**分布域** 北海道，本州，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，伊豆諸島，対馬，志岐，福江島，屋久島，奄美諸島，沖永良部島**生息環境** 河川，小丘陵，森林，草原などで採餌。営巣環境として岩裂，自然形成洞，人為造成洞，暗渠などを必要とする。**現 状** 戦時中の防空壕が埋め戻され，石灰洞は掘削され，鍾乳洞は人為的照明が取られるなど生息環境の悪化が県下全域で進行中である。このため，従来の生息利用洞内でも個体数が減少している。**備 考** 日本固有種の可能性が高い(中国東部にも同一種が分布する疑いがある)。**モモジロコウモリ***Myotis macrodactylus*  
(Temminck)翼手目  
CHIROPTERA  
ヒナコウモリ科  
Vespertilionidae**カテゴリー**大分県  
環境庁 掲載なし**選定理由** これまで生息が確認されていた廃坑や鍾乳洞などでの再確認が極めて少なくなっており，一部生息地の消滅などの危険性が高くなっている。**県内分布** 山国町(草本廃坑)，本匠村(小半洞)，宇目町(天神原洞)**分布域** 北海道，本州，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，佐渡島，対馬  
シベリア東部，サハリン南部，朝鮮半島**生息環境** 河川，丘陵地，森林などで採餌するが，森林の内部や樹冠部で確認されることが多い。営巣環境としては岩裂，自然形成洞，人為造成洞など。**現 状** 最近，草本廃坑ではほとんど目撃されなくなり，わずかに小半洞で2～3個体目撃されるにとどまっている。

## ノレンコウモリ

*Myotis nattereri* (Kuhl)

翼手目  
CHIROPTERA  
ヒナコウモリ科  
Vespertilionidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 生息地はごく限られており、確認も散発的である。生息が確認されていた洞窟が道路工事で消滅したほか、各地で生息個体数が急減し、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 大分市、津久見市、野津町、本匠村、佐伯市、宇目町

**分布域** 北海道、本州、四国、九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)、佐渡島、対馬、ヨーロッパ西部、ウラル地方、イスラエル、アフリカ北部、アジア東部

**生息環境** 採餌はおもに森林の中の低層でおこなわれている。営巣環境は石灰洞に限らず、旧防空壕跡、浸蝕洞など。

**現 状** 大分市南部の洞窟は道路工事で消滅。他の地点でも個体数は、一洞あたり2～3個体、遭遇頻度はしだいに低下している。県内では出産、哺育のための洞窟は確認されていない。情報は極めて局地的、散発的である。

**備 考** 日本哺乳類学会：希少

## ヤマコウモリ

*Nyctalus aviator* Thomas

翼手目  
CHIROPTERA  
ヒナコウモリ科  
Vespertilionidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

**選定理由** 個体数の減少傾向が認められる。近年さらに、生息地の消滅や生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 大分市、臼杵市、本匠村、宇目町

**分布域** 北海道、本州中部以北、九州、対馬、壱岐島、福江島、中国東部、朝鮮半島

**生息環境** 比較的明るい大木のある森林に生息し、鬱蒼とした森林では観察されていない。繁殖には大木の樹洞を使用する。

**現 状** 樹齢200年程度以上の自然林での目撃例が多かったが、生息する森林への人為干渉が進み、夜間照明などの影響も広範囲に広がり、個体数が減少する傾向が見受けられる。現在では、特定の神社林などに限って個体数保存地点と認められる状況である。

**備 考** 日本哺乳類学会：希少

## コビナガコウモリ

*Miniopterus fuliginosus* (Hodgson)

翼手目  
CHIROPTERA  
ヒナコウモリ科  
Vespertilionidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 生息地は限定されていたが、近年いずれの場所でも生息個体数が減少。全く確認できない場所もある。

**県内分布** 野津町、臼杵市、津久見市、宇目町

**分布域** 本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、佐渡島、対馬、シベリア東部、朝鮮半島、アフガニスタンからインド、中国

**生息環境** 洞窟性のコウモリで、キクガシラコウモリなどのように、暗渠には生息せず、大きな洞窟を必要とする。河川や森林周辺が主な採餌場所となる。

**現 状** 1970年代までは、臼杵市、津久見市、宇目町などで数個体ずつ目撃されていたが、1985年以降、急激に減少。特に、臼杵市の火灯洞などでは全く見られなくなった。その他の生息地でも減少している。

## ニホンザル(ホンダザル)

*Macaca fuscata fuscata* (Blyth)

霊長目  
PRIMATES  
オナガザル科  
Cercopithecidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 森林伐採，高速道路や林道開設などにより，生息域の縮小・分断が起  
こっており，個体群の不安定化が進行している。

**県内分布** 県内全域

**分布域** 本州 四国 九州 (福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，金華山，淡  
路島，小豆島，屋久島

**生息環境** 海岸域から山地まで。主として，常緑広葉樹林，落葉広葉樹林に生息。

**現 状** 本県のニホンザル個体群は，高崎山個体群を除けば，20～30個体程  
度の安定した個体群規模であるが，県道改修，高速道路新設，林道開  
設などの影響を受け，生息域の分断，縮小，変動などが発生している。

**備 考** 日本固有種。

## ニホンモモンガ

*Pteromys momonga* Temminck

齧歯目  
RODENTIA  
リス科  
Sciuridae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布**

**分布域** 本州 四国 九州

**生息環境** 山地帯から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で，樹上で活動し，ム  
ササビのように滑空する。食性はほぼ完全な植物食で，樹の葉，芽，  
樹皮，種子，果実，キノコなどを採食する。

**現 状** 自然林，特に広葉樹林帯のうち，ムササビとは競合しない環境を選択  
しているものと思われる。県下における聞き取りは，山国町，緒方町，  
本匠村，直川村などで，林業家による目撃例を聞知したが，いずれも  
未確認である。

**備 考** IUCN：希少種。日本固有種。日本哺乳類学会：保護すべき地域個  
体群(九州)

## ムササビ

*Petaurista leucogenys*  
(Temminck)

齧歯目  
RODENTIA  
リス科  
Sciuridae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 特定の神社林，伐採された森林の孤島状残存林などで小規模個体群化  
し，地域特定の傾向が顕著である。

**県内分布** 県内全域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島)  
中国(甘肅・四川・雲南省)

**生息環境** 低地から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で，樹上で活動し，食性  
はほぼ完全な植物食で樹の葉，芽，樹皮，種子などを採食する。

**現 状** 大山町烏宿神社では森林の孤島化。弥生町愛宕神社では森林の減少と通  
行車両による影響。佐伯市城山では市街地直近のため夜間照明や人の出  
入りなどの人為圧を理由に。その他，国東町文殊仙寺，竹田市宮砥八幡，  
臼杵市東神野熊野神社，宇目町真弓天満宮及び木浦小学校でも樹林の小  
規模化や人為干渉などを理由に個体群の孤立小規模化が進行している。

**備 考** 生息場所である森林自体の消滅や小規模化が発生していることに加え，従来の営業場所  
である樹洞，神社，民家の屋根裏などに対する人為干渉が激しく，生息可能な場所が急減し  
ている。特に，神社では改修に伴う外壁の金属建材の普及により生息場所を奪われている。

## ヤマネ

*Glirulus japonicus* (Schinz)

齧歯目  
RODENTIA  
ヤマネ科  
Gliridae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 準

選定理由	確認例が少なく、全体として生息する自然林に対する人為干渉が進み、生息条件が劣化。個体数は減少しており、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	由布・鶴見山域，九重山域，祖母・傾山域
分布域	本州 四国 九州(佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎)
生息環境	山地帯から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で、樹上で活動し、主に果実，種子を採食する。
現 状	標高800m付近の落葉広葉樹林帯に生息，夜行性のため確認例は少ない。県下では，樹洞などを利用して生息しているが，フクロウの育雛巢内などで捕食された個体が確認されている。
備 考	天然記念物，IUCN：希少種。日本固有属，日本固有種。日本哺乳類学会：危急

## スミスネズミ

*Eothenomys smithii* (Thomas)

齧歯目  
RODENTIA  
ネズミ科  
Muridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由	生息確認例が少なく、地域も限定されている。生息地の減少が懸念される。
県内分布	湯布院町，九重町，久住町，野津原町
分布域	本州(新潟・福島以南) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島) 隠岐島後
生息環境	山塊につながった低地から高山帯の森林に生息。植林地内にはあまり生息しない。湿潤な環境を好み，植物の緑葉部，種実のデンプンを採食する。
現 状	生息確認地が偏在しており，しかも，確認例があまり多くない状況である。個体数として安定しているのは由布岳山麓，標高700～900m付近。この生息地については，将来共に人為干渉は予想されないが，個体群保全のため選定した。
備 考	日本固有種。日本哺乳類学会：希少

## ハタネズミ

*Microtus montebelli*  
(Milne-Edwards)

齧歯目  
RODENTIA  
ネズミ科  
Muridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	1980年代から確認例が極端に少なくなっている。理由は不明だが個体数の減少が懸念される。
県内分布	県内全域
分布域	本州 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島) 佐渡島 能登島
生息環境	畑，水田の畦，河川敷など平野部に広く分布し，ときには高山帯にもみられる。個体数の変動が著しく，ときおり大発生し，農作物被害を起こすこともある。
現 状	1980ごろからトラッピング調査などによっても稀にしか確認できない状態である。
備 考	日本固有種。

## カヤネズミ

*Micromys minutus* (Pallas)

齧歯目  
RODENTIA  
ネズミ科  
Muridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 1970年代初頭から急激に減少。2000年現在、少数の特定地点にだけ生息。河川改修などによる生息環境の悪化が懸念される。
- 県内分布** 東国東郡、宇佐郡、日田市、日田郡、玖珠郡、大分郡、直入郡、竹田市、大野郡、佐伯市、蒲江町
- 分布域** 本州(福島・新潟以南)、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島)、隠岐諸島、淡路島、豊島、因島、対馬、天草下島、福江島、朝鮮半島、中国、台湾、アッサム、ミャンマー、インドシナ北部、シベリア、コーカサス北部、ヨーロッパ
- 生息環境** 低地の草地・水田、畑・休耕地、沼沢地などのイネ科植物が繁茂した水気のあるところに多い。
- 現 状** 河川敷のヨシ、ツルヨシ群落、ススキ草原、伐開地の草原などの他、水田の刈り取り前の稲田などに生息するが、個体数は極端に減少している。全国的にも分布域、個体数共に減少傾向にある。
- 備 考** 日本哺乳類学会：不能

## ツキノワグマ

*Selenarctos thibetanus* (Cuvier)

食肉目  
CARNIVORA  
クマ科  
Ursidae

### カテゴリー

大分県 野生絶滅  
環境庁 地域個体群

- 選定理由** 1987年11月24日、笠松山北麓で1個体射殺されたが、野生個体であるかどうかについては論議がある。その後、目撃、皮剥ぎ、雪上の足跡、体毛などの情報が寄せられてはいるが現在のところ生息するという確実な証拠はない。
- 県内分布** 祖母・傾山系(1943年の記録)
- 分布域** 本州、四国、九州(大分)、ロシア極東地域、中国、朝鮮半島、台湾、インドシナ半島北部
- 生息環境** 落葉広葉樹林帯で森林規模の広域な空間を必要とする。溪谷林やササ類におおわれた林内、伐採跡地なども利用する。
- 現 状** 野生種は絶滅したものと考えられる。目撃情報は多いが、確定的ではない。野生個体であるか、明らかに本種であるか信憑性に欠ける。
- 備 考** 日本哺乳類学会：保護すべき地域個体群(九州)

## ニホンアナグマ

*Meles meles anakuma* Temminck

食肉目  
CARNIVORA  
イタチ科  
Mustelidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 1960年代までは春期、日中でも林道で目撃していたが、1980年代に至って急減。現在では主として夜間目撃にとどまる。個体数の減少が進行中。
- 県内分布** 県内全域
- 分布域** 本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、小豆島、ヨーロッパから極東までユーラシア北部に広く分布
- 生息環境** 丘陵地帯から山間地の中小河川の森林におおわれた溪流付近。魚類やサワガニなどのほか果実類も採食している。
- 現 状** 森林林縁部、河岸崖、切削崖などへの人為干渉が進み、アナグマの掘削可能な斜面・崖地などが減少。加えて捕殺や交通事故死例が多い。
- 備 考** 狩猟獣

## ニホンイタチ

*Mustela itatsi* Temminck

食肉目  
CARNIVORA  
イタチ科  
Mustelidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	1960年代以降チョウセンイタチの侵入により平野部ではほとんどみられない。チョウセンイタチとの競合により、一部の地域では消滅が懸念される。
県内分布	庄内町, 野津原町, 久住町, 九重町, 竹田市, 緒方町, 宇目町
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生息環境	平地から亜高山帯まで広く生息する。食性の幅が広く農耕地, 草原, 河川, 樹林域など幅広い環境に適応できる。
現 状	県内で, 現在確実に生息が確認されている地点は上記地域の山間部および渓流部である。チョウセンイタチの侵入が認められない黒岳山域を除いては, 混棲関係にあるがその構造は明かではない。
備 考	日本固有種。狩猟獣。

## ニホンジカ(キュウシュウジカ)

*Cervus nippon nippon* Temminck

偶蹄目  
ARTIODACTYLA  
シカ科  
Cervidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由	有害鳥獣駆除, 食肉需要などを背景に捕獲数が増加傾向にあり, 個体群の貧弱化が懸念される。保護すべき地域個体群 大船山南東麓の個体群, 八戸高原~ニガキの台の個体群, 葛原~波当津浦の個体群
県内分布	国東半島, 山国町, 日田市, 玖珠町, 安心院町, 湯布院町, 別府市, 緒方町, 野津町, 臼杵市, 佐伯市, 本匠村, 宇目町, 直川村, 米水津村, 蒲江町
分布域	北海道 本州 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 金華山, 瀬戸内海諸島 五島列島
生息環境	草地を餌場とするが, 森林から完全に離れて生活することはなく, 伐開地などパッチ状草地が入り込んだ森林地帯に多く生息する。
現 状	農林業被害の増大に伴い有害鳥獣として, 雌までの狩猟が論議されている。また, 食肉としての需要も高まり, 狩猟対象として捕獲数は増加傾向にある。
備 考	狩猟獣。

## ニホンカモシカ

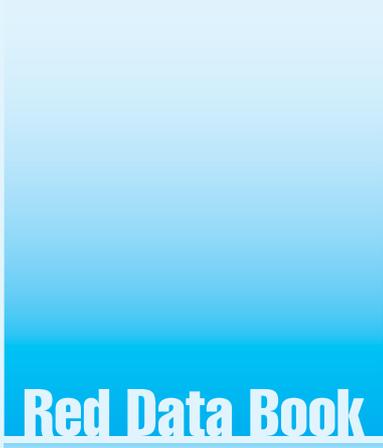
*Capricornis crispus* (Temminck)

偶蹄目  
ARTIODACTYLA  
ウシ科  
Bovidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由	祖母・傾山系に安定して生息するが, 単純一斉造林(スギ・ヒノキ植林)による壮齢林は生息域とはならないため大分県下では生息地は限定されている。
県内分布	祖母・傾山系
分布域	本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)
生息環境	低山帯から亜高山帯にかけてのブナ, ミズナラなどが優占する落葉広葉樹林, 針広混交林などに主として生息。各種木本類の葉, 広葉草本, ササ類などを選択的に採食する。
現 状	県下では祖母・傾山系の標高およそ400m以上の広葉樹林, およびその二次林, 植栽幼齢林に生息。広葉樹やササ類の葉や冬芽などの他, 崖地のケイビランに食痕がめだつ。自然林の伐採やスギ, ヒノキの植林地化による影響をはじめ, 密猟が生存に悪影響を及ぼしている。
備 考	日本固有種。日本哺乳類学会: 保護すべき地域個体群(九州)

The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font across the bottom portion of the square.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 2. 鳥 類



## (1) 概要

### 概況

日本に生息する鳥類570種（外来種を除く）のうち、日本野鳥の会大分県支部会員によって、県内で観察された記録があるものは326種である。鳥類の生息状況は、限られた調査員と短い調査期間では十分な調査ができないので、おもに日本野鳥の会大分県支部会員の観察記録を活用した。大分県内に生息する野鳥のうち、絶滅のおそれのある種として、24目34科77種を選定した。

大分県の野鳥の状況を概観すると、里山の減少、環境の悪化などにより、そこで繁殖する夏鳥、留鳥が生息数を減らしている。また、生態系の頂点に位置するタカ科やフクロウ科の鳥はもともと生息数が少ない上に、生息環境の悪化や営巣木の減少などにより、生息数が減少している。さらに、河川改修、海岸部や湿地の埋め立てなどによる生息地の大幅な減少によって、河川敷や干潟に生息する鳥は減少傾向がみられる。

### 選定種について

鳥類の大分県RDBカテゴリ別選定種数は、次のとおりである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	総計
大分県	0	5	12	22	22	15	1	77
環境庁	0	4	7	18	9	7	0	45

「環境庁」は、環境庁レッドデータブック（1997）の大分県関係数。

大分県選定種のカテゴリ定義は、環境庁のレッドデータブック（1997）のカテゴリに次のような配慮を加えた。

- 迷鳥として大分県内で観察される場合や、渡り鳥で大分県を単に通過するだけの種は除外した。ただし、シギ・チドリ類のように休息、中継地として大分県を利用している種は含めた。
- 大分県の環境がその種の生息にとって重要であり、生息環境の悪化や生息数の現象がみられるものについては、冬鳥についても同様に取り扱った。
- 全国的にみて、大分県内に数少ない繁殖地があるもののカテゴリは「地域個体群」とした。
- 大分県内への飛来が不定期的で、観察記録が少ない種は「情報不足」とした。

### 解説の項目・内容について

選定種についての各項目の解説は、次のように行った。

#### 「選定理由」

日本における種の生息状況、大分県における現状及び危険性の主要因を踏まえて、該当するカテゴリを選択した理由を記述した。また、「情報不足」については選定理由を記述しなかった。

#### 「県内分布」

鳥類は移動能力が高いため、飛来回数の少ない種では、観察記録が必ずしも分布を示さない。県内の分布はこれまで観察された場所ではなく、生息環境を中心に表現した。また、季節によって生息状況が異なるので、「日本鳥類目録」（改定第6版）（2000）に準拠して、夏鳥あるいは繁殖、旅鳥、冬鳥あるいは越冬、または留鳥という区分で分布を示した。

#### 「分布域」

主として「日本鳥類目録」に準拠して国内分布を示し、海外分布はその種の日本周辺での繁殖、越冬する地域を示した。亜種を区分して分布を表現する必要がある場合は、亜種ごとに国内分布、海外分布を示した。

#### 「生息環境」

鳥類においては、繁殖期、非繁殖期の生息環境だけではなく、その生態系も重要な要素であるので、生息環境に主な餌を示した。

#### 「現 状」

過去10年程度の生息地、生息環境や生息数の変化を記述した。生息羽数の少ない種については、概数を記した。

#### 「備 考」

天然記念物、国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種、国際条約による指定がなされている種（亜種）については、その指定を記した。国際自然保護連合は2000年にレッドリストを改定したので、そのカテゴリーを記した。日本固有種、大分県がその種の分布の限界域にあたるもの、亜種により取り扱いが異なるものなども記した。

#### 危険性の主要因

・河川改修、湿地や干潟、海岸部の埋め立て      ・防波堤工事によるアシ原や湿地、干潟、砂礫地の面積の激減  
・里山の森林の伐採や開発、針葉樹への樹種変換、営巣木となる老木の減少  
・土地改良による水田環境の変化      ・餌となる動物の減少や化学的汚染      ・飼育や剥製によるための捕獲圧  
・磯釣りや自動車など人の接近による繁殖妨害      ・個体数の絶対数の減少  
・繁殖地の限定

#### 選定種の種名及び種の配列

学名や和名の配列は、「日本鳥類目録」(2000)に従った。鳥類のレッドリストは、環境庁をはじめ国内の関係法令や国際条約も、亜種を単位に取り扱われているが、大分県RDBでは和名は種名で表記し、学名は亜種名で表記した。亜種を区別する必要がある場合には、本文の備考に説明をつけた。これは、野外の観察では亜種の識別が困難である場合が多く、分布も不明な点があり、また、亜種名は一般的に使われている種名と異なることがあるなどの理由によるためである。

#### (2) 文 献

International Union for Conservation of Nature and Natural Resources, The 2000 IUCN Red List of Threatened Species, (2000)

環境庁, 日本で観察されるシギ・チドリ類とその推定個体数, 掲載の国際湿地保全連合オセアニアのシギ・チドリ類フライウェイ・オフィサー 提供資料 (1997)

環境庁, 哺乳類及び鳥類のレッドリストの見直しについて (1998.6.12報道発表資料)

Miyabayashi, Y. and Mundkur, T., Anatidae populations in the East Asian Flyway, in Atlas of Key Sites for Anatidae in the East Asian Flyway. Wetlands International, (1999)

日本の絶滅の恐れのある野生生物 レッドデータブック 脊椎動物編, 日本野生生物センター (1991)

日本野鳥の会大分県支部, 20周年記念誌, (1992)

日本野鳥の会大分県支部, たより (日本野鳥の会大分県支部支部報) (1972~2001)

大分県, 大分県の野鳥 (1982)

水産庁, 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック 日本水産資源保護協会 (1998)

日本鳥学会, 日本鳥類目録 (改定第6版) (2000)

## カワウ

*Phalacrocorax carbo hanedae*  
Kuroda

ペリカン目  
PELECANIFORMES  
ウ科  
Phalacrocoracidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州以南の数十か所で繁殖するが、そのひとつが蒲江町沖黒島にある。県内では繁殖地がただ1か所であり、数百羽が繁殖している。他地域の個体群とは異なる個体群を形成している。

**県内分布** 蒲江町沖黒島で繁殖。全域の河川、内湾に飛来する冬鳥。

**分布域** 本州、四国、九州の数十か所だけで繁殖。本州以南の河川、内湾で冬鳥。種カワウは、朝鮮半島、中国、サハリンで繁殖、中国中部以南で越冬。

**生息環境** 樹上で集団繁殖する。大きな河川、内湾で集団で潜水して魚を捕食する。

**現 状** 沖黒島北斜面で数百羽が集団繁殖する。冬には番匠川、大分川などで多いときには2,000~3,000羽の群れが見られる。

**備 考** 亜種カワウは、日本だけで繁殖する固有亜種である。

## サンカノゴイ

*Botaurus stellaris stellaris*  
(Linnaeus)

コウノトリ目  
CICONIIFORMES  
サギ科  
Ardeidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

**選定理由**

**県内分布** アシ原にごく希に飛来する冬鳥。

**分布域** 北海道北部および本州中部以北の数か所で繁殖。繁殖地以外では冬鳥。中国東北部、ウスリー、シベリア南部、サハリンで繁殖。中国南部で越冬。

**生息環境** 広いアシ原に生息し、魚類、両生類、小型哺乳類などひろく動物質の餌をとる。アシ原の中に生息するため、観察することが難しい。

**現 状** 県内では、宇佐と大分（6号地）の2回の観察記録があるのみ。

## ヨシゴイ

*Ixobrychus sinensis sinensis*  
(Gmelin)

コウノトリ目  
CICONIIFORMES  
サギ科  
Ardeidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に、河川改修によるアシ原の消失や湖沼の埋め立てなどのために、生息に適した環境が悪化、減少し、生息個体数が激減している。県内では繁殖期に観察される個体数が減少した。

**県内分布** 平野部の河川やため池などの湿地帯に生息する夏鳥。

**分布域** 北海道、本州、四国、九州で夏鳥。奄美諸島以南では冬鳥。中国全域、朝鮮半島、台湾で夏鳥。東南アジア全域で冬鳥あるいは留鳥。

**生息環境** 夏鳥として平野部の河川や湖沼、ため池、湿地のヨシ・ガマ地帯に生息し、繁殖する。小魚、両生類、甲殻類などを食べる。

**現 状** 県内では、1999年、2000年にそれぞれ1個体しか観察されていない。

## ミゾゴイ

*Gorsachius goisagi*  
(Temminck)

コウノトリ目  
CICONIIFORMES

サギ科  
Ardeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 日本だけで繁殖する固有種であるが、生息個体数は少ない。森林開発により繁殖に適した環境が減少している。

県内分布 低山の溪流部に生息する夏鳥あるいは越冬。

分布域 本州(新潟、関東以南)、四国、九州で夏鳥。九州以南では越冬。日本のみで繁殖。中国南部、台湾、フィリピンで越冬。

生息環境 平地から低山の混交林の沢筋で繁殖し、うっそうとした薄暗い森林中の溪流で甲殻類や昆虫を食するが、個体数が少なく、夜行性でもあるため、その生態は不明な部分が多い。

現 状 竹田、日田、玖珠などで観察記録がある。夜行性であるため、観察される機会が少ない。

備 考 国際自然保護連合：絶滅寸前種

## チュウサギ

*Egretta intermedia intermedia*  
(Wagler)

コウノトリ目  
CICONIIFORMES

サギ科  
Ardeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準  
水産庁 希少種

選定理由 営巣地となる竹林や雑木林が、開発などにより減少し、個体数が減少している。農薬汚染による餌の減少も考えられ、全国的にも個体数が急激に減少している。

県内分布 田園地帯、水田、湿地などに生息する夏鳥。

分布域 本州、四国、九州で繁殖。琉球諸島では冬鳥。朝鮮半島、中国南部で繁殖。フィリピン、インドネシアで越冬。

生息環境 平野部の草地、水田、川岸、湿地などに夏鳥として生息し、コサギ、ダイサギなどととも平地や丘陵の林で集団営巣する。昆虫類、小型魚類、甲殻類、両生類、爬虫類などを食べる。

現 状 集団営巣地は、悪臭や騒音などのために近隣住民から苦情が出て、繁殖妨害や有害鳥獣駆除をされることがある。

## カラシラサギ

*Egretta eulophotes*  
(Swinhoe)

コウノトリ目  
CICONIIFORMES

サギ科  
Ardeidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 情報不足

選定理由 本種の分布は、東アジアの狭い地域に限定され、繁殖地も限られており、種の総個体数が極めて少ない。県内への飛来記録もわずかである。

県内分布 海岸部の湿地や河川でごく希に飛来する冬鳥または旅鳥。

分布域 全国各地でごく希に飛来する冬鳥または旅鳥。朝鮮半島、中国南部の限定された地域で繁殖。朝鮮半島南部、中国南部、東南アジアで越冬。

生息環境 干潟、河口、水田にごく希に飛来する。

現 状 主な生息地である干潟が開発により減少している。県内では、杵築で数回の飛来が観察されたのみ。

備 考 国際自然保護連合：危急種、ボン条約付属書Ⅰ登録種

## クロサギ

*Egretta sacra sacra*  
(Gmelin)

コウノトリ目  
CICONIIFORMES

サギ科  
Ardeidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 海岸部の岩棚で繁殖するが、磯釣りなど、人の接近による繁殖への影響が懸念される。生息数が減少している。

県内分布 全域の岩場、干潟、河口などに生息する留鳥。

分布域 本州中西部、四国、九州、琉球諸島の海岸部で留鳥。  
朝鮮半島南部、中国南部以南の東南アジア全域では留鳥。

生息環境 海岸の岩場、干潟、砂浜に生息し、魚やカニ、貝類などを食べる。繁殖は局地的である。

現状 観察頻度が少なくなっている。県内では白色型と黒色型の両方が生息する。

## ヘラサギ

*Platalea leucorodia major*  
Temminck & Schlegel

コウノトリ目  
CICONIIFORMES

トキ科  
Threskiornithidae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 情報不足

選定理由 種の総個体数が非常に少なく、県内への飛来記録も少ない。

県内分布 河川、湖沼などにごく希に飛来する冬鳥。

分布域 全国各地にごく希に飛来する冬鳥または旅鳥。  
中国東北部・北部で繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 水田、湿原、干潟、河川、湖沼などに飛来する。魚類、カニ、カエルなどを採食する。

現状 県内では、中津、宇佐、大分、佐伯で観察記録があるが滞在日数は短い。

備考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## クロツラヘラサギ

*Platalea minor*  
Temminck et Schlegel

コウノトリ目  
CICONIIFORMES

トキ科  
Threskiornithidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA  
水産庁 絶滅危惧種

選定理由

県内分布 河川や湿地などにごく希に飛来する冬鳥。

分布域 全国にごく希に飛来する冬鳥。九州北部には毎年数羽が越冬する。  
中国東部・南部、朝鮮半島の数か所の岩礁だけで繁殖。中国南部、ベトナム、日本で越冬。

生息環境 水田、湿原、干潟に冬鳥として飛来する。浅い水面で、嘴を半開きにして左右に振りながら歩き回り、嘴に触れた魚や干潟の泥中の小動物を食べる。

現状 種の総個体数が約550羽と極めて少なく、種の存続が危惧される。県内では、杵築（八坂川河口）、佐伯（女島）で観察記録がある。

備考 国際自然保護連合：絶滅寸前種

## コクガン

*Branta bernicla orientalis*  
Tugarinov

カモ目  
ANSERIFORMES  
カモ科  
Anatidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁  
水産庁 希少種

選定理由 本亜種の総個体数は約5,000羽と少なく、日本の越冬個体数は数百羽、大分県には数年に1度、数羽が飛来し越冬する。大分県は日本の越冬地のほぼ南限である。

県内分布 別府（関の江）、杵築（守江湾）、佐伯（番匠川）に飛来する冬鳥。

分布域 北海道、本州北部の太平洋岸で冬鳥、東北以南では希に飛来する冬鳥。シベリア北部で繁殖。中国黄海沿岸で越冬。

生息環境 大きな湖沼や河口や内湾部などの海上で越冬する。アマモ、アオノリ、アオサなどの海藻やマコモなどの水草を食べる。

現状 数年に1回程度、数羽が観察される。

備考 天然記念物。

## マガン

*Anser albifrons frontalis*  
Baird

カモ目  
ANSERIFORMES  
カモ科  
Anatidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 準

選定理由

県内分布 河川やため池・湿地、干潟に希に飛来する冬鳥。

分布域 本州(宮城県伊豆沼、石川県片野鴨池、島根県斐伊川河口など)で冬鳥。シベリア北部で繁殖。朝鮮半島、中国中部で越冬。

生息環境 局地的に河口や内陸部の湖沼、湿地、水田、干潟に生息する。早朝に群れで飛び立ち、水田で落穂を食べる。

現状 全国数か所の集団越冬地周辺以外では見られることが少ない。大分県では、5年に1回程度の飛来記録があるのみ。

備考 天然記念物。

## ヒシクイ

*Anser fabalis serratirostris*  
Swinhoe

カモ目  
ANSERIFORMES  
カモ科  
Anatidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

選定理由

県内分布 河川やため池・湿地、干潟に希に飛来する冬鳥。

分布域 亜種ヒシクイ(*A. f. serratirostris*)は主に日本海側(新潟県瓢湖、石川県片野鴨池)に飛来する冬鳥。亜種オオヒシクイ(*A. f. middendorffii*)は主に宮城県伊豆沼に飛来する冬鳥。シベリアで繁殖。朝鮮半島、中国中部・南部で越冬。

生息環境 局地的に湖沼、湿地、河川、水田、海岸に生息する。早朝に群れで飛び立ち、水田や湖沼などで落穂や水草、その根などを食べる。

現状 全国数か所の集団越冬地周辺以外では見られることが少ない。県内では、1993年から94年にかけて飛来し、中津、宇佐、杵築、大分で観察された記録がある。

備考 天然記念物。亜種ヒシクイは、環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類、亜種オオヒシクイは環境庁カテゴリー 準絶滅危惧種。

## アカツクシガモ

*Tadorna ferruginea* (Pallas)カモ目  
ANSERIFORMESカモ科  
Anatidae

## カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 情報不足

選定理由 日本国内への飛来数が極めて少なく、県内の飛来記録もわずかしかない。

県内分布 干潟、湿地にごく希に飛来する冬鳥。

分布域 中部地方以南、主に九州に飛来する希な冬鳥。  
中国内陸部で繁殖。中国南部以南で越冬。生息環境 内陸の湖沼、河川、干潟、広い水田などに希な冬鳥として飛来する。  
畑や乾燥した場所で草を食べる。

現 状 全国的に飛来する頻度や数が極めて少ない。県内では、宇佐、杵築、大分で観察された記録がある。

## ツクシガモ

*Tadorna tadorna* (Linnaeus)カモ目  
ANSERIFORMESカモ科  
Anatidae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 日本の主な越冬地は九州北部で、100羽以内である。大分県に飛来する頻度や数は少なく、採餌場所である干潟が埋め立てや河川改修などにより悪化し、その面積も減少している。

県内分布 海岸部の干潟及び湿地に希に飛来する冬鳥。

分布域 九州で冬鳥。中部以南では希な冬鳥。  
中国東北部で繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 河川河口部、湖沼、干潟や湿地に生息し、甲殻類、海藻類などを食べる。

現 状 中津、西国東、杵築、大分、日田で毎年数回の観察記録がある。

## オシドリ

*Aix galericulata* (Linnaeus)カモ目  
ANSERIFORMESカモ科  
Anatidae

## カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 東アジアが主な生息地で、その中でも日本での越冬数が半数を越す。県内には3,000羽以上が越冬するが、これは本種の総個体数の約6%に相当する。近年、里山の開発などにより森林が減少し、主な生息地である暗いため池や溪流の消滅が懸念される。

県内分布 丘陵地から山地のため池、ダム湖、森林地帯の溪流で越冬。少数が森林地帯で繁殖。

分布域 北海道、本州北部では夏鳥、琉球諸島以北で繁殖するが、本州中部以南では主に冬鳥。  
日本と中国東北部、ウスリーで繁殖。日本と中国南部、台湾で越冬。

生息環境 丘陵地から山地のため池や森林地帯の溪流沿いと、その周辺の森林に生息する。水面に樹木が張り出たようなやや薄暗い水面を好み、開けた水面にはあまり出てこない。夕方になると、餌場となる森林地帯に飛んで行き、カシやシイなどの木の実を食べる。

現 状 近年、住宅開発などの里山の開発により、ため池や周辺の森林が減少している。

備 考 1996年版の国際自然保護連合レッドリストでは準絶滅危惧種であったが、2000年版には掲載されていない。

## トモエガモ

*Anas formosa* Georgi

カモ目  
ANSERIFORMES

カモ科  
Anatidae

### カテゴリー

大分県 II

環境庁 II

選定理由 開発により、自然度の高い湖沼が減少し、越冬環境が悪化しているため、個体数が減少している。大分県に飛来する個体数は少ない。

県内分布 河川、湖沼、ため池などに飛来する冬鳥。

分布域 本州中西部、四国、九州の湖沼、河川、干潟に冬鳥。  
シベリアで繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 河川で昼間は休息し、夕方になると、水田や河川に飛んでいき、イネ科植物などを食べる。周辺に木立がある自然度の高い湖沼を好む。

現状 年に数か所、数羽程度（最大80羽）飛来する。

備考 ワシントン条約附属書II，国際自然保護連合：危急種。

## アカハジロ

*Aythya baeri* (Radde)

カモ目  
ANSERIFORMES

カモ科  
Anatidae

### カテゴリー

大分県 IA

環境庁 情報不足

選定理由 種の総個体数が減少しており、全国的にも毎年数個体しか飛来しない。県内にもわずかな記録しかない。

県内分布 県北の池や河川に希に飛来する冬鳥。

分布域 全国に希に飛来する冬鳥。  
ウスリー、中国東北部で繁殖。中国南部以南で越冬。

生息環境 湖沼、河川に生息する。水面採餌、潜水採餌の両方で、水草やその根、イネ科植物の種子などを食べる。

現状 県内では、数年に1度単独で飛来し、県北の池や河川を移動しながら越冬する。

備考 国際自然保護連合：危急種

## コウライアイサ

*Mergus squamatus* Gould

カモ目  
ANSERIFORMES

カモ科  
Anatidae

### カテゴリー

大分県 IA

環境庁 情報不足

選定理由 総個体数が極めて少なく、日本への飛来も極めて希である。県内での観察記録は1回だけである。

県内分布 大きな河川や湖沼に極めて希に飛来する冬鳥。

分布域 本州中部以西に極めて希に飛来する冬鳥。  
アムール地方から中国東北部に繁殖し、朝鮮半島、中国中南部で越冬。

生息環境 河川、湖沼などで潜水して魚をとる。

現状 本種の総個体数は2,000~4,000羽と極めて少ない。日本では、1986年に始めて記録され、その後毎年1~3羽が観察されている。県内では北川ダムで1回の観察記録があるのみ。

備考 国際希少野生動植物種，国際自然保護連合：危急種。

## ミサゴ

*Pandion haliaetus haliaetus*  
(Linnaeus)

タカ目  
FALCONIFORMES

タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 魚類の化学的汚染により、世界的に個体数が減少している。県内の繁殖個体数は大変少なく、釣り人の営巣地への接近により繁殖活動が妨害される危険性が高い。

県内分布 全域の海岸部、大きな河川、大きなダム湖に生息する留鳥。

分布域 北海道では夏鳥、本州、四国、九州、琉球諸島で留鳥。中国東北部、サハリン、カムチャツカで繁殖。中国南部、フィリピンでは留鳥。

生息環境 海岸部、河口、湖沼などに生息し、大木の樹上や岩や崖の上で営巣する。水面を泳ぐ魚を空中からとって食べる。

現 状 県内の繁殖個体数は数十羽程度と推定される。冬季は越冬個体が増加する。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## ハチクマ

*Pernis apivorus orientalis*  
Taczanowski

タカ目  
FALCONIFORMES

タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 個体数が非常に少ない。営巣に用いる低山帯の高木が減少している。

県内分布 低山の林に生息する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国の丘陵から低山帯では夏鳥。朝鮮半島、中国東北部で繁殖。フィリピン、ベトナムで越冬。

生息環境 成熟した森林の樹上に営巣し、ハチ類の幼虫やサナギを巣ごととって食べるが、トカゲ、ヘビなども食べる。

現 状 県内では繁殖の確認はされていないが、繁殖期にも観察されており、繁殖している可能性が高い。熊本では繁殖記録がある。繁殖期の個体数は数十羽程度と推定される。秋の渡りの時期には1,000羽程度が西に渡っていく。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## オオタカ

*Accipiter gentilis fujiyamae*  
(Swann et Hartert)

タカ目  
FALCONIFORMES

タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 Ⅱ  
環境庁 Ⅱ

選定理由 繁殖地である里山域の森林が開発されたり樹種変換が行われ、繁殖に適した環境が減少している。飼育や剥製にするための捕獲圧も大きい。

県内分布 県内全域の平地から低山帯に生息する冬鳥。

分布域 北海道、本州では留鳥。四国、九州では冬鳥。種オオタカはウスリー、シベリア、カムチャツカで留鳥。朝鮮半島、中国南部で越冬。日本に生息する亜種オオタカは日本固有の亜種。

生息環境 平地から低山帯の混合林に生息する。巣は、アカマツなどの針葉樹の大木に作る。林縁や開けた農耕地などで、ハト、カモ類など中型の鳥類を捕食する。

現 状 県内では繁殖の確認はされていないが、繁殖期にも観察例がある。熊本では繁殖が確認されている。繁殖期の個体数は十羽よりも少ないと推定される。

備 考 国内希少野生動物種、ワシントン条約附属書Ⅱ

## ハイタカ

*Accipiter nisus nisosimilis*  
(Tickell)

タカ目  
FALCONIFORMES  
タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 近年、全国的に個体数が減少していると言われている。大分県内でも越冬個体数が減少している。

県内分布 平地部から山地の林や農耕地に飛来する冬鳥。

分布域 北海道、本州中部以北の平地から亜高山帯の林で繁殖。全国の森林や平地部の林で冬鳥。  
朝鮮半島、中国東北部、シベリアで繁殖。中国中部以南で越冬。

生息環境 丘陵から亜高山の森林の樹上で繁殖する。おもに森林内で、小・中型の鳥類を捕食する。

現 状 タカの仲間では個体数が多い種であるが、近年、観察頻度が少なくなっている。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## ツミ

*Accipiter gularis gularis*  
(Temminck & Schlegel)

タカ目  
FALCONIFORMES  
タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 種の総個体数が少なく、森林開発などにより生息環境が悪化している。県内での繁殖期の記録は少なく、冬の観察頻度も減少している。

県内分布 平地から山地の林に希にみられる留鳥。

分布域 亜種ツミは北海道、本州、四国、九州の平地から亜高山の森林地帯に留鳥。奄美諸島以南では冬鳥。南西諸島では別亜種リュウキュウツミ (*A.g. iwasakii*) が留鳥。  
朝鮮半島、中国東北部で繁殖。中国南部、東南アジアで越冬。

生息環境 平地から亜高山の森林に生息し、小型の鳥類やネズミ、トカゲ昆虫などの小動物を捕食する。

現 状 繁殖期の個体数は数十羽程度と推定される。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## サシバ

*Butastur indicus* (Gmelin)

タカ目  
FALCONIFORMES  
タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 繁殖場所である里山の平地林が減少している。餌となる爬虫類、両生類が減少している。県内での繁殖個体数が減少している。

県内分布 全域の平地から山地の林に生息する夏鳥。

分布域 本州、四国、九州で夏鳥。奄美諸島以南では冬鳥。  
朝鮮半島、中国東北部で繁殖。中国南部以南の東南アジアで越冬。

生息環境 低山や丘陵の林で繁殖する。水田や草地で、小型爬虫類、両生類、昆虫類を捕食する。

現 状 かつては里山に普通に生息していた種であるが、最近は観察頻度が減っている。春秋には、四国と鶴見半島や佐賀関の間を数千羽が渡る。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## クマタカ

*Spizaetus nipalensis orientalis*  
Temminck et Schlegel

タカ目  
FALCONIFORMES

タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 生息地である森林の伐採・開発や、針葉樹への樹種変換などにより、エサとなる動物が減少し、生息環境が悪化している。営巣木となる高木が減少している。また、剥製や飼育のための捕獲圧も高い。

**県内分布** 県内全域の森林部に生息する留鳥。

**分布域** 北海道、本州、四国、九州の山地の混交林に生息する留鳥。中国南部、台湾で繁殖、留鳥。タイ、マレーシアで越冬。日本に生息する亜種は日本固有亜種。

**生息環境** 山地のよく茂った森林に生息し、ノウサギ、ヤマドリ、小鳥類を捕食する。巣は針葉樹の高木に造る。

**現 状** 県内の生息個体数は、数十羽程度と推定される。剥製や飼育のために捕獲され、県内の密猟グループが摘発された事例がある。

**備 考** 日本に生息する亜種クマタカは、国内希少野生動物種、種クマタカは、ワシントン条約附属書Ⅱ

## イヌワシ

*Aquila crysaetos japonica*  
Severtzov

タカ目  
FALCONIFORMES

タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 IB

**選定理由** 全国に400～500羽程度生息するが、九州、四国、中国地方西部では生息個体数が少なく、絶滅の危機に瀕している。森林の伐採、開発などにより全国的に生息数、繁殖率が低下している。県内には1ペアが生息するのみであるが、繁殖活動がみられなくなっている。

**県内分布** くじゅう山系に生息する留鳥。

**分布域** 北海道から九州の低山から高山に生息する留鳥。朝鮮半島で留鳥。中国東北部では冬鳥。シベリア北部では夏鳥。シベリア南部では留鳥。

**生息環境** 山地の森林と草原が組み合わさった環境に生息する。崖地の岩棚などに営巣し、開けた場所で、ウサギ、キジ、ヘビなどを捕食する。

**現 状** 県内には1ペアが生息するのみで、しかも発見された1983年以降、一度も繁殖に成功していない。1996年以降は営巣活動が見られなくなった。大分は南限であると思われていたが、1999年に宮崎県で1羽の生息が確認されている。

**備 考** 亜種イヌワシは、日本と朝鮮半島の固有亜種で、国内希少野生動物種、天然記念物。種イヌワシは、ワシントン条約附属書Ⅱ

## チュウヒ

*Circus spilonotus spilonotus*  
Kaup

タカ目  
FALCONIFORMES

タカ科  
Accipitridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

**選定理由** 全国的に個体数は非常に少ないが、河川改修、開発などにより広い湿原、アシ原が激減しており、生息に適した環境が少なくなっている。県内でも越冬個体数が減少している。

**県内分布** 全域の海岸部のアシ原に希に飛来する冬鳥。

**分布域** 北海道、本州中北部では少数が繁殖。本州中西部、四国、九州、琉球諸島の海岸部のアシ原に冬鳥。中国東北部、シベリア、サハリンで繁殖。中国南部で越冬。

**生息環境** 湖沼、河川、海岸の周辺にある広い湿原、草原、農耕地に生息する。アシ原の上を周回しながら、ネズミやカエルなどの小動物を捕食する。

**現 状** 県内の越冬個体数は10羽未満であると推定される。

**備 考** ワシントン条約附属書Ⅱ

## ハヤブサ

*Falco peregrinus japonensis*  
Gmelin

タカ目  
FALCONIFORMES

ハヤブサ科  
Falconidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

選定理由 繁殖個体数は極めて少ない。飼育や剥製にするために捕獲される。また、化学的汚染による悪影響も懸念されている。

県内分布 県内全域の海岸部に生息する留鳥。冬季は個体数増加。

分布域 北海道、本州、四国、九州の海岸部に留鳥。琉球諸島では冬鳥。シベリア、中国東北部で繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 岩山や海岸の岩棚に営巣する。おもに空中で中型鳥類を捕食する。非繁殖期には、干潟や河川、都市部など開けた場所でも見られる。

現状 県内の繁殖個体数は10羽未満、越冬個体数は数十羽程度である。

備考 大分で観察される亜種ハヤブサ(*F.p.japonensis*)は、環境庁カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類、国内希少野生動植物種、冬鳥としてごく希に観察される亜種オハヤブサ(*F.p.pealei*)は、環境庁カテゴリー情報不足、北硫黄島のみで繁殖する亜種シマハヤブサ(*F.p.furuitii*)は、環境庁カテゴリー絶滅危惧ⅠB類、国内希少野生動植物種。種ハヤブサは、ワシントン条約附属書Ⅰ。

## ウズラ

*Coturnix japonica*  
Temminck & Schlegel

キジ目  
GALLIFORMES

キジ科  
Phasianidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 情報不足

選定理由 全国的に個体数が激減している。県内でも生息数が減少していて、見る機会が少なくなっている。

県内分布 平地、高地の草原に飛来する冬鳥。

分布域 北海道、本州北部で夏鳥。本州中西部、四国、九州、琉球諸島で冬鳥。九州でも繁殖例がある。ウスリー、中国東北部、シベリアで繁殖。朝鮮半島、中国南部で越冬。

生息環境 平地から山地の草原や農耕地に生息し、主に地上で生活する。草を歩き回って、草の種子や芽、木の実、昆虫類、クモ類などを食べる。開けた場所に出ることはほとんどない。

現状 県内の生息数は少ない。繁殖期の観察記録もあるが地上生活し、ほとんど鳴かないので観察する機会が少ない。

## ヤマドリ

*Phasianus soemmerringii*  
*soemmerringii* Temminck

キジ目  
GALLIFORMES

キジ科  
Phasianidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息数に比べて、狩猟圧が大きい。針葉樹林に転換され生息環境が悪化している。

県内分布 全域の森林地帯に生息する留鳥。

分布域 種ヤマドリは本州、四国、九州に留鳥。亜種アカヤマドリ(*P.s.soemmerringii*)は九州中北部。

生息環境 平地から山地のよく茂った林と林縁部。おもに植物食だが、昆虫なども食べる。

現状 狩猟圧により、生息数が少なくなっている。

備考 種ヤマドリは日本固有種で、国際自然保護連合準絶滅危惧種。5亜種あり、大分県内では亜種アカヤマドリだけが生息する。九州南部(熊本南部、宮崎南部、鹿児島)に生息する亜種コシジロヤマドリ(*P.s.ijimae*)は環境庁カテゴリー準絶滅危惧種に指定されている。

## ナベヅル

*Grus monacha* Temminck

ツル目  
GRUIFORMES  
ツル科  
Gruidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

## 選定理由

## 県内分布

開けた耕地，湿地，河原などに，希に一時的に立ち寄るのみ。

## 分布域

定期的な生息地は鹿児島県出水に約7,000羽，山口県熊毛町八代に約60羽冬鳥として飛来するのみで，その他の地域は渡りの途中に立ち寄るだけ。  
アムール川流域，シベリアで繁殖し，鹿児島県出水と揚子江流域で越冬する。

## 生息環境

開けた耕地，湿地，河原などで越冬する。落穂，草の実，ドジョウ，タニシなどを食べる。

## 現 状

鹿児島県出水と山口県熊毛町八代，この2か所以外には定期的な越冬地がない。県内では，宇佐，佐賀関，緒方で観察記録がある。

## 備 考

国際希少野生動植物種，ワシントン条約附属書Ⅰ，国際自然保護連合：危急種。

## マナヅル

*Grus vipio* Pallas

ツル目  
GRUIFORMES  
ツル科  
Gruidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

## 選定理由

## 県内分布

希に全域の平野部に飛来する冬鳥。

## 分布域

定期的な生息地は鹿児島県出水に約2000羽が冬鳥として生息するのみで，その他は渡りの途中あるいは迷鳥。  
中国東北部で繁殖。朝鮮半島，出水，揚子江下流で越冬。

## 生息環境

開けた耕地，湿地，河原などで越冬する。魚類や穀類，草の根などを採食する。

## 現 状

県内では，宇佐，玖珠，緒方で観察記録がある。10年に1回程度，渡りの時期に数日間飛来するのみ。

## 備 考

国際希少野生動植物種，ワシントン条約附属書Ⅰ，国際自然保護連合：危急種

## ヒクイナ

*Porzana fusca erythrothorax*  
(Temminck & Schelgel)

ツル目  
GRUIFORMES  
クイナ科  
Rallidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

## 選定理由

小河川や水路のコンクリート化により生息環境が悪化し，生息数が減少している。

## 県内分布

平地の湿地に生息する夏鳥。

## 分布域

亜種ヒクイナは北海道，本州，四国，九州で夏鳥。屋久島以南では冬鳥。  
奄美以南では亜種リュウキュウヒクイナ(*P.f. phaeopyga*)が留鳥。  
朝鮮半島，中国中部，南部で繁殖。東南アジアで留鳥。

## 生息環境

平地から低山の水田を含む湿地に生息し，草の茂みの中で繁殖する。  
水生の魚類，昆虫類，甲殻類のほか，草本の種子などを食べる。

## 現 状

大分県内でも繁殖している可能性が高いが，草むらの中で生活しているので，姿を見つけにくい。近年，生息環境が悪化し，観察頻度が減少している。

## オオバン

*Fulica atra atra* Linnaeus

ツル目  
GRUIFORMES  
クイナ科  
Rallidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 西日本では繁殖地は局地的で、大分は繁殖南限である。県内では繁殖地が近接した2か所だけであり、繁殖個体数は数十羽である。

**県内分布** 大分市の埋立地で繁殖。県内全域の湿地に飛来する冬鳥。

**分布域** 北海道では夏鳥。本州、九州(福岡、大分)では局地的に繁殖。本州中西部、四国、九州、琉球諸島で冬鳥。中国北部、ウズリー、サハリン、シベリアで繁殖。朝鮮半島南部、中国南部以南で越冬。

**生息環境** 平地から低山の湖沼や河川、蓮田に生息し、アシやガマの根元に営巣する。雑食性で、開けた水面に出て、小魚、昆虫や水草の根や葉を食べる。

**現 状** 大分市の2か所の埋立地の人工池で、毎年数十羽が繁殖している。池が、人為により、少しずつ小さくなっている。

## タマシギ

*Rostratula benghalensis benghalensis*  
(Linnaeus)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
タマシギ科  
Rostratulidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 土地改良により泥田が減少し、農業形態の変化により生息環境が悪化して、個体数が減少している。

**県内分布** 全域の水田、蓮田、休耕地や湿生草原、河川に生息する留鳥。

**分布域** 本州中西部、四国、九州、琉球諸島で留鳥。中国北部で夏鳥。中国南部以南の東南アジア全域で留鳥

**生息環境** 水田や草丈の短い湿生草原に生息し、昆虫やミミズなどの小動物や、イネなどの草本の種子を食べる。繁殖期の夕方にはよく鳴くが、姿を見ることは少ない。水を張った休耕地では繁殖するが、乾燥していると利用しない。

**現 状** かつては、水田に普通に見られた鳥であるが、近年は、観察頻度が減少している。

## コチドリ

*Charadrius dubius curonicus*  
Gmelin

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
チドリ科  
Charadriidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 海岸や河川が環境が変化し、繁殖に使う海岸や河川の砂礫地が減少しているため、繁殖数が減少している。

**県内分布** 全域の海岸や河川で繁殖、一部は越冬。

**分布域** 北海道、本州、四国、九州で繁殖。本州、四国、九州、琉球諸島では越冬。朝鮮半島、中国、シベリアで繁殖。中国南部、東南アジアで越冬。

**生息環境** 海岸、砂浜、河原、裸地の草の少ない地上に営巣する。おもに湿地で無脊椎動物や草本の種子を食べる。

**現 状** 営巣できる環境が少なくなって、繁殖期の観察頻度が少なくなっている。

## シロチドリ

*Charadrius alexandrius alexandrius*  
Linnaeus

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
チドリ科  
Charadriidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 海岸や河川環境が変化し、繁殖に使う海岸や河川の砂礫地が減少しているため、繁殖数が減少している。
- 県内分布 | 海岸部の砂浜や埋立地で繁殖，越冬。
- 分布域 | 北海道で夏鳥。本州、四国、九州、琉球諸島で留鳥。中国、インドシナ半島で繁殖。中国中部以南で越冬。
- 生息環境 | 海岸の砂浜や河川，埋立地などの地上に営巣し，主に，湿地，干潟でゴカイや水生昆虫，ミミズ，甲殻類，貝類などの小動物を食べる。
- 現 状 | 営巣できる環境が少なくなって，繁殖期の観察頻度が少なくなっている。

## ヘラシギ

*Eurynorhynchus pygmeus*  
(Linnaeus)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IB

- 選定理由 |
- 県内分布 | 県北の海岸に希に飛来する旅鳥。
- 分布域 | 全国の海岸に希な旅鳥。チュコト半島からカムチャツカで繁殖。中国南部からインドシナで越冬。
- 生息環境 | 砂浜の海岸や砂質の干潟で，嘴を左右に振りながら，甲殻類や昆虫類の幼生を採食する。おもに秋に観察される。
- 現 状 | 本種の総個体数は，約1,000羽と極めて少ない。日本に飛来する個体数は，数10羽である。県内では過去に4回しか観察されていない。
- 備 考 | 国際自然保護連合：危急種。

## シベリアオオハシシギ

*Limnodromus semipalmatus*  
(Blyth)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 情報不足

- 選定理由 | 日本に飛来する個体数は極めて少なく，県内の記録も少ない。
- 県内分布 | 干潟や湿地に極めて希に飛来する旅鳥。
- 分布域 | 全国の干潟に希な旅鳥。中国東北部で繁殖。東南アジアで越冬。
- 生息環境 | まれな旅鳥として，干拓地，湿地，干潟などに飛来する。海水域では，ゴカイ，貝類，甲殻類などを食べ，淡水域では，陸生貝類，ミミズ，昆虫類の幼虫を食べる。
- 現 状 | 県内では，中津，杵築，大分で5回の観察記録がある。
- 備 考 | 国際自然保護連合：準絶滅危惧種。

## アカアシシギ

*Tringa totanus ussuriensis*  
Buturlin

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

- 選定理由** | 本種の総個体数は、約 10,000羽と極めて少ない。
- 県内分布** | 全域の海岸部、河口部の湿地に飛来する旅鳥。
- 分布域** | 北海道東部で繁殖。琉球諸島では冬鳥。その他の地域では旅鳥。中国東北部、シベリアで繁殖。中国南部以南で越冬。
- 生息環境** | 湿地、干潟、河口部、干拓地、水田などに旅鳥として、飛来する。北海道東部では草むらの中に営巣する。湿地でゴカイ、ミミズ、小魚などを食べる。
- 現 状** | 県内では、ほぼ毎年、春に 1 ~ 2 回、秋に 2 ~ 3 回程度の観察記録がある。

## カラフトアオアシシギ

*Tringa guttifer* (Nordmann)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA

- 選定理由** |
- 県内分布** | 海岸、河口の干潟に、ごく希に飛来する旅鳥。
- 分布域** | 全国の海岸、河口の干潟にごく希に飛来する旅鳥。サハリンで繁殖し、東南アジアで越冬する。
- 生息環境** | 海岸、河口の干潟に飛来し、砂浜や干潟でカニなどの甲殻類や無脊椎動物、小魚を食べる。
- 現 状** | 本種の総個体数は、約 1,000羽と絶滅のおそれが高いレベルである。日本への飛来数は、年間数羽と極めて少ない。県内では、宇佐、杵築、大分、佐伯に数年に 1 回程度の観察記録があるだけである。
- 備 考** | 国内希少野生動植物種、ワシントン条約附属書 I、国際自然保護連合：絶滅寸前種。

## ハウロクシギ

*Numenius madagascariensis*  
(Linnaeus)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

- 選定理由** | 本種の総個体数は約 21,000羽と少ない。大きな干潟が減少している。
- 県内分布** | 全域の干潟、河川河口部、海岸部の湿地に飛来する旅鳥。
- 分布域** | 全国の干潟に旅鳥。山口、福岡、佐賀、長崎、熊本、沖縄で越冬。中国東北部、シベリアで繁殖。東南アジア南部とオーストラリアで越冬。
- 生息環境** | 広い干潟、河口部、水田、草地などに飛来し、干潟でカニなどの甲殻類。ゴカイ類、昆虫類などを食べる。
- 現 状** | 県内では、春秋に数羽 ~ 20 数羽が渡りの途中に休息していく。
- 備 考** | 国際自然保護連合：準絶滅危惧種。

## コシャクシギ

*Numenius minutus* Gould

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA

選定理由

県内分布

分布域

生息環境

現 状

備 考

海岸近くの農耕地，河川敷などにごく希に飛来する旅鳥。

全国の海岸近くの農耕地，草地に飛来する旅鳥。  
シベリア北部で繁殖。ニューギニア，オーストラリアで越冬。

海岸近くの農耕地，草地などにごく希に渡来し，ハチ，アブなどの昆虫類を食べる。

日本への飛来数が少ない。県内では，中津，杵築，大分，佐伯で観察記録がある。

国際希少野生動植物種。

## オオジシギ

*Gallinago hardwickii*  
(Gray)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
シギ科  
Scolopacidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由

県内分布

分布域

生息環境

現 状

備 考

日本だけで繁殖する固有種であるが，総個体数は少ない。越冬地のオーストラリアでは個体数が減少していると言われている。飯田高原は，阿蘇北外輪山について繁殖地のほぼ南限に位置し，数羽が繁殖している。

飯田高原に生息する夏鳥。

北海道，本州中北部，本州西部(広島)，四国(愛媛)，九州(熊本・大分)で夏鳥。その他の地域では旅鳥。  
オーストラリア南東部で越冬し，日本とサハラ以南南部で繁殖。

湿生草地や牧草地に夏鳥として飛来し，地上に営巣する。ミミズや昆虫などをとる。移動の時期には，水田や湿地にも飛来する。

県内の生息数は10個体以下である。

1996年版の国際自然保護連合レッドリストでは準絶滅危惧種であったが，2000年版には掲載されていない。

## セイタカシギ

*Himantopus himantopus himantopus*  
(Linnaeus)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
セイタカシギ科  
Recurvirostridae

## カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB  
水産庁 希少種

選定理由

県内分布

分布域

生息環境

現 状

本種の総個体数は約10,000羽であり，日本への飛来数は極めて少ない。

海岸部の湿地帯に希に飛来する旅鳥。

本州(千葉，愛知)で繁殖。その他の地域では希な旅鳥。  
中国内陸部で繁殖，中国南部，東南アジア，オーストラリアで越冬

海岸沿いの開けた見晴らしのよい地上に営巣する。浅い水域で昆虫，貝類，小魚などの小動物や水草を食べる。

県内では年に1～2回観察される程度である。

## ツバメチドリ

*Glareola maldivarum*  
Forster

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
ツバメチドリ科  
Glareolidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

選定理由 日本への飛来個体数が少なく、繁殖が局地的である。県内でも毎年数羽飛来する程度である。

県内分布 河川、農耕地、埋立地などに希に飛来する夏鳥または旅鳥。

分布域 本州(茨城、栃木、埼玉、愛知、大阪)、四国(徳島)、九州(福岡、熊本、宮崎、鹿児島)では局所的に繁殖。その他の地域では希な旅鳥。中国で繁殖。中国南部、マレー半島、インドネシア、オーストラリアなどで越冬。

生息環境 草地、乾燥した農耕地、埋立地などに旅鳥として飛来する。裸地の地上に営巣する。おもに、地上を走ったり、空中を飛び回って昆虫類を捕食する。

現 状 県内でも毎年数回観察されている。飛来する個体数は10羽以内であると推定される。

## ズグロカモメ

*Larus saundersi* (Swinhoe)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
カモメ科  
Laridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II  
水産庁 絶滅危惧種

選定理由 本種の総個体数約5,000羽のうち、九州北部の海岸部に約1,000羽が越冬する。県内には数10羽が越冬する。泥質干潟に依存している鳥であるが、採餌場所である泥質干潟が近年急激に減少している。世界的に絶滅のおそれのある種である。

県内分布 杵築湾以北の干潟に飛来する冬鳥。

分布域 九州北部に冬鳥。中国北部、モンゴルなどで繁殖。九州北部、中国南部、台湾で越冬。

生息環境 海岸、海上に生息し、泥質干潟で甲殻類、ゴカイ類などの水生小動物を採餌する。

現 状 中津、杵築の海岸に数羽~数十羽が越冬する。北九州の曾根干潟には、毎年二百数十羽が越冬し、その一部が県北の干潟に飛来するものと思われる。県北の泥質干潟は少なくなってきている。

備 考 国際自然保護連合：危急種、ボン条約付属書I登録種。

## コアジサシ

*Sterna albifrons sinensis*  
Gmelin

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
カモメ科  
Glareolidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II  
水産庁 減少傾向

選定理由 全国的に河川改修、海岸部の埋め立て、造成、防波堤工事、自動車の進入などにより、繁殖に適した環境が激減している。県内でも、10数年前まで数か所で集団繁殖していたが、近年は、繁殖がほぼゼロに近い状態が続いている。

県内分布 大分川、大野川及び海岸部の砂礫地で繁殖する夏鳥であったが、近年は春秋に通過する旅鳥。

分布域 本州、四国、九州、琉球諸島で夏鳥。朝鮮半島、中国全域、台湾で繁殖。東南アジアで越冬。

生息環境 海岸部や湖沼の岸、大きな河川の砂地・砂礫地に集団で繁殖する。空中からダイビングして小魚を取って食べる。

現 状 新たな繁殖地として、海岸部の造成中の更地を使うようになっている。中州の営巣地は釣り人の接近や、増水によって失敗する例がみられた。

備 考 国際希少野生動植物種。

## ウミスズメ

*Synthliboramphus antiquus*  
(Gmelin)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
ウミスズメ科  
Alcidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA  
水産庁 絶滅危惧種

## 選定理由

県内分布 全域の海上に希に見られる冬鳥。

分布域 北海道の島嶼で繁殖。東北以北の海上では留鳥。本州以南では冬鳥。北太平洋、日本海北部の海岸部で繁殖。台湾以北の太平洋で越冬。本亜種はカムチャツカから黄海までで繁殖する。

生息環境 岩の隙間の奥に営巣する。繁殖期以外は海上で生活する。潜水して小魚や甲殻類、軟体動物などを食べる。

現 状 佐賀関、蒲江、真玉、姫島の海上で観察記録がある。

備 考 潜水中に魚網にかかることがある。1997年の日本海油流出事故で被害を受けた水鳥 1,304羽の 35% が本種であった。

## カムリウミスズメ

*Synthliboramphus wumizusume*  
(Temminck)

チドリ目  
CHARADRIIFORMES  
ウミスズメ科  
Alcidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁  
水産庁 絶滅危惧種

## 選定理由

県内分布 県南の海上で生息する留鳥。

分布域 本州、九州の周辺の十数か所の島で繁殖。繁殖地付近の海上では留鳥。それ以外の本州南部以南では冬鳥。本州と九州の島嶼部と朝鮮半島南部でのみ繁殖。冬も日本近海のみで生息。

生息環境 日本列島周辺の暖流域にある数か所の無人島の崖や岩のすき間などに集団営巣する。雛は孵化して2日後に海上に出て生活する。潜水して魚や甲殻類などのプランクトンを食べる。

現 状 県南の海域に冬季だけでなく繁殖期にも見られるので、もし繁殖地が見つければ、日本固有種の数少ない繁殖地として重要である。近県では、福岡県沖ノ島、宮崎県枇榔島で繁殖している。釣り人の接近、人が営巣地にもたらしたネコやネズミ、カラスによる捕食、魚網による捕獲などが、本種の生息に悪影響を与えている。本種の総個体数は、5,000～6,000羽と推定されている。潜水中に魚網にかかることがある。

備 考 日本近海の固有種。天然記念物、国際自然保護連合：危急種、ボン条約付属書Ⅰ登録種。

## カラスバト

*Columba janthina janthina*  
Temminck

ハト目  
COLUMBIFORMES  
ハト科  
Columbidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 生息環境が島嶼部に限定されており、個体数が少ない。

県内分布 深島、沖黒島など県南の島嶼部に生息する留鳥。

分布域 伊豆諸島と九州周辺、奄美諸島、琉球諸島、隠岐以南の暖流域の島や海岸部に生息する留鳥。朝鮮半島、中国黄海と日本の島嶼部に生息する留鳥。

生息環境 暖流域にある島や海岸部の常緑広葉樹林内で繁殖する。シイやタブ、ツバキなどの実を好んで食べる。生息環境が限られているため、個体数が少ない。

現 状 生息環境が島嶼部に限定されているが、鶴見半島、佐賀関の半島部で確認されたこともある。

備 考 日本の周辺だけに生息する準固有種である。国際自然保護連合：準絶滅危惧種、天然記念物。

## ジュウイチ

*Cuculus fugax hyperthrus*  
Gould

カッコウ目  
CUCULIFORMES  
カッコウ科  
Cuculidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州中央山地が繁殖南限で、祖母・傾山系、くじゅう連山は、ほぼ繁殖南限に位置する。生息数は、他のカッコウの仲間よりもかなり少ない。

県内分布 山地の他のカッコウの仲間よりも標高の高いところに生息する夏鳥。

分布域 北海道 本州 四国 九州中部以北の山地に夏鳥。  
中国全域 東北部で繁殖。東南アジア全域で留鳥。

生息環境 低山から亜高山帯の落葉広葉樹林や針広混交林に生息し、おもに、コルリヤオオルリおよび小型ヒタキ類に托卵する。樹冠部で毛虫を取って食べる。

現 状 年に5～10回程度の観察記録がある。

## コミミズク

*Asio flammeus flammeus*  
(Pontoppidan)

フクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 広いアシ原を持つ河川敷や湿った草地の面積が減少しているため、越冬個体数が大きく減少している。

県内分布 全域の草原、河川敷に飛来する冬鳥。

分布域 北海道 本州 四国 九州に飛来する冬鳥。  
中国東北部、シベリアで繁殖。朝鮮半島、中国全域で冬鳥。

生息環境 広い河川敷のアシ原や湿った草原、開けた農耕地に生息し、ネズミなどを捕食する。

現 状 県内の越冬個体数は、数十羽程度と推定される。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## コノハズク

*Otus scops japonicus*  
Temminck & Schlegel

フクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息数が少なく、さらに営巣環境の悪化により、生息数が減少している。

県内分布 全域の森林に生息する夏鳥。

分布域 北海道 本州 四国 九州の山地に夏鳥。  
朝鮮半島、中国北部・東北部で繁殖。中国中部・南部、フィリピン、インドシナ半島で越冬。

生息環境 平地から山地の茂った林に夏鳥として生息し、樹洞で営巣する。夜行性で主に昆虫類を捕食する。

現 状 県内では、釈迦岳、黒岳、傾山、文殊仙寺などで観察記録がある。県内の繁殖期の個体数は、数十羽程度と推定される。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

## オオコノハズク

*Otus lempiji semitorques*  
Temminck & Schlegelフクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 平地から山地の森林に生息する留鳥。

分布域

北海道、本州、四国、九州で留鳥。琉球諸島には亜種リュウキュウオオコノハズク(*O.l. pryeri*)が留鳥。

朝鮮半島、中国全域、東南アジア全域で留鳥。

生息環境

平地から山地の森林に生息し、大木の樹洞で繁殖する。ネズミ類、トカゲ類、小鳥類などの小動物を捕食する。

現 状

全国的に個体数が極めて少ない。繁殖に利用する大木が減少している。県内の観察記録は、中津平野と文殊仙寺の3回のみである。

備 考

種オオコノハズクが、ワシントン条約附属書Ⅱ。*Otus bakkamoena*と同じ。

## アオバズク

*Ninox scutulata japonica*  
(Temminck & Schlegel)フクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由

平地でも山地でも、繁殖に適した大木が減少している。

県内分布

平地から山地の林に生息する夏鳥。

分布域

種アオバズク(*N.s. japonica*)は北海道、本州、四国、九州で夏鳥。奄美以南は亜種リュウキュウアオバズク(*N.s. totogo*)が留鳥。朝鮮半島、中国北部、東北部で繁殖。中国中部、南部、台湾、フィリピン、インドシナ半島で越冬。

生息環境

広葉樹林と針広混交林に夏鳥として生息し、大木の樹洞で繁殖し、薄暮時に飛翔性昆虫や鳥類を捕食する。

現 状

自然林で営巣する環境が減少し、社寺林や公園林などに営巣している。

備 考

種アオバズクは、ワシントン条約附属書Ⅱ

## フクロウ

*Strix uralensis fuscescens*  
Temminck & Schlegelフクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

## カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由

平地でも山地でも、繁殖に適した大木が減少している。

県内分布

全県の平地から山地の林に生息する留鳥。

分布域

種フクロウは北海道、本州、四国、九州に留鳥。亜種キュウシュウフクロウ(*S.u. fuscescens*)は千葉以南の太平洋岸、四国、九州に留鳥。中国東北部、シベリア南部、サハリンに留鳥。

生息環境

平地から亜高山帯の針広混交林、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、農耕地などに生息し、大木の樹洞やカラスなどの古巣などに営巣する。夜行性で、ネズミやウサギなどの小動物、小鳥類などを捕食する。

現 状

平地では営巣することができる木が激減している。営巣に適した老大木があれば、都市部でも繁殖する。

備 考

大分県内に生息するのは亜種キュウシュウフクロウである。種フクロウはワシントン条約附属書Ⅱ

## ヨタカ

*Caprimulgus indicus jotaka*  
Temminck & Schlegel

ヨタカ目

CAPRIMULGIFORMES

ヨタカ科

Caprimulgidae

### カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし

選定理由 生息数が激減している。

県内分布 全県の平地から山地の疎林に生息する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州で夏鳥。

中国全域、朝鮮半島で繁殖。東南アジアで越冬。

生息環境 低山から山地の明るい林、農耕地内の残存林などに生息し、地上に直接卵を産む。薄暮から夜行性で、飛びながら昆虫類を捕食する。

現 状 里山の夜行性の鳥で身近な鳥であったが、近年鳴き声を聞くことが少なくなった。農薬の空中散布などの影響が考えられる。

## アマツバメ

*Apus pacificus kurodae*  
(Domaniewski)

アマツバメ目

APODIFORMES

アマツバメ科

Apodidae

### カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし

選定理由 生息数が少ない、繁殖地が局限されている。

県内分布 海岸や山地の絶壁で繁殖する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州、奄美諸島で繁殖する夏鳥。

中国、シベリア東部で繁殖。中国南部以南で越冬。

生息環境 高山や海岸の急峻な絶壁などに集団で繁殖する。ハエなどの飛翔性昆虫を飛びながら捕食する。雲が低い時には平地の上空でも見られる。

現 状 県内では、深島、高島、沖黒島、鶴見半島、飯田高原などで観察されている。

備 考 北海道には、別亜種キタアマツバメ(*A.p. pacificus*)が分布する。

## アカショウビン

*Halcyo coromanda major*  
(Temminck & Schlegel)

ブッポウソウ目

CORACIIFORMES

カワセミ科

Alcedinidae

### カテゴリー

大分県

環境庁 掲載なし

選定理由 道路などの開発により、生息環境が悪化したため、生息数が減少している。個体数は非常に少ない。

県内分布 全県の平地から山地の溪流に生息する夏鳥。

分布域 亜種アカショウビンは北海道、本州、四国、九州、種子島、屋久島で繁殖する夏鳥。奄美諸島以南には別亜種リュウキュウアカショウビン(*H.c. bangsi*)が留鳥。朝鮮半島、日本、台湾で夏鳥。東南アジアで留鳥。

生息環境 溪流沿いなどのよく茂った湿気のある林に生息し、朽木に穴を掘って営巣する。湿った林床で、カエルなどの両生類、爬虫類、甲殻類、無脊椎動物などを採食する。

現 状 県内では、年に5回程度の観察記録があるのみである。

## ブッポウソウ

*Eurystomus orientalis calonyx*  
Sharpe

ブッポウソウ目  
CORACIIFORMES  
ブッポウソウ科  
Coraciidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

- 選定理由** | 営巣に適した老木が少なくなった。生息数はたいへん少ない。
- 県内分布** | 低山の溪流沿いの林に生息する夏鳥。
- 分布域** | 本州 四国 九州に夏鳥。  
中国全域 朝鮮半島で繁殖。フィリピン、インドネシア、ベトナムで越冬。
- 生息環境** | 平地から低山の湖沼や溪流に接するよく茂った森林に生息し、大木の樹洞に営巣する。森林内や農耕地上空で甲虫類やセミ、トンボなどの大型昆虫類を捕食する。
- 現 状** | 営巣に適した老木が少なくなり、竹田、庄内、大分の鉄橋の橋げたなどの人工構造物に営巣し、自然林での繁殖が見られなくなっている。県内の個体数は、数十羽であろうと推定される。

## ヤイロチョウ

*Pitta brachyura nympha*  
Temminck & Schlegel

スズメ目  
PASSERIFORMES  
ヤイロチョウ科  
Pittidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

- 選定理由** | 生息数が極めて少ない。生息に適したうっそうとした常緑広葉樹森林が減少している。
- 県内分布** | 常緑広葉樹林に生息する夏鳥。
- 分布域** | 本州中部以南 四国 九州に夏鳥。  
中国南部、台湾で夏鳥。東南アジア西部では留鳥。
- 生息環境** | 溪流沿いの落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に生息し、湿った斜面に営巣する。おもに地上でミミズや昆虫をとる。
- 現 状** | 県内では、毎年数か所で観察記録がある。県内の個体数は、10羽以内であろうと推定される。
- 備 考** | *Pitta nympha* と同じ。国内希少野生動物種、ワシントン条約附属書Ⅱ、国際自然保護連合：危急種。

## サンショウクイ

*Pericrocotus divaricatus divaricatus*  
(Raffles)

スズメ目  
PASSERIFORMES  
サンショウクイ科  
Campephagidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

- 選定理由** | 近年の里山の開発、伐採、樹種変換が行われたことにより、落葉広葉樹林が減少し、生活環境が悪化し、個体数も大きく減少している。
- 県内分布** | 亜種サンショウクイ (*P. d. divaricatus*) は全域の里山に生息する夏鳥。亜種リュウキュウサンショウクイ (*P. d. tegimae*) は県南で生息する留鳥。
- 分布域** | 亜種サンショウクイは本州 四国 九州に生息する夏鳥。亜種リュウキュウサンショウクイは九州中部以南で留鳥。  
中国東北部、ウズリー、シベリアで繁殖。中国南部、東南アジアで越冬。
- 生息環境** | 平地から低山の落葉樹林、常緑広葉樹林およびその林縁部のいわゆる里山域を主な生息地とする。昆虫類を空中で捕食する。
- 現 状** | 生息地が減少し、個体数も激減している。かつては、里山に普通に見られる鳥であったが、近年は、めったに見られない鳥になった。
- 備 考** | 亜種サンショウクイは環境庁カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類。

## チゴモズ

*Lanius tigrinus* Drapiez

スズメ目  
PASSERIFORMES  
モズ科  
Laniidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

選定理由

県内分布 低地の広葉樹林帯に生息する夏鳥あるいは旅鳥。

分布域 本州中北部に夏鳥。  
朝鮮半島 ,中国中部・東北部で繁殖。中国南部 ,東南アジアで越冬。

生息環境 平地から低山の明るい落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。昆虫類やクモ類を食べる。

現 状 生息数が極めて少ない。全国的にも減少が著しいと言われている。県内では大分と久住で6回の観察記録がある。

## アカモズ

*Lanius cristatus superciliosus*  
Latham

スズメ目  
PASSERIFORMES  
モズ科  
Laniidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 世界的に生息数が減少していると言われており、国内の生息数もかなり少ない。

県内分布 全域の疎林に生息する夏鳥あるいは旅鳥。

分布域 亜種アカモズ( *L. c. superciliosus* )は主に本州中部以北に夏鳥。亜種シマアカモズ( *L. c. lucionensis* )は主に九州に夏鳥。  
朝鮮半島 ,中国東北部 ,ウスリー ,シベリアで繁殖。中国南部 ,東南アジアで越冬。

生息環境 開けた林、木が疎生する草原、林縁に生息し、昆虫、カエル、小鳥類などを食べる。

現 状 県内で観察されるのは、おもに亜種シマアカモズであるが、亜種アカモズも春秋の通過時にはごく希に観察される。

## カヤクグリ

*Prunella rubida rubida*  
(Temminck & Schlegel)

スズメ目  
PASSERIFORMES  
イワヒバリ科  
Prunellidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息数が少なく、繁殖南限である。

県内分布 長者原で少数が繁殖。全域の低木林、林縁に飛来する冬鳥。

分布域 北海道、本州、四国に夏鳥。全国の低山に冬鳥。

生息環境 低木林、林縁の地上で種子や昆虫を食べる。

現 状 県内では繁殖個体は希で、越冬個体も多くない。

備 考 日本国内だけで繁殖し、越冬する固有種である。

## コマドリ

*Erithacus akahige akahige*  
(Temminck)スズメ目  
PASSERIFORMES  
ツグミ科  
Truidae

## カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 | よく茂った森林が少なくなっており、県内の生息地は標高の高い場所に限定されるので、生息個体数も少ない。

県内分布 | 標高の高い山地に生息する夏鳥。

分布域 | 北海道 本州 四国 九州 屋久島に夏鳥。  
日本だけで繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 | 山地の下草にササのよく茂った落葉広葉樹林や針葉樹林に夏鳥として飛来し、湿った地上や窪みに営巣する。昆虫、ミミズ、クモ類などを食べる。

現 状 | 県内では標高1,200m程度より高いところにしか生息しない。個体数は少ない。

備 考 | 日本だけで繁殖する固有種である。

## コルリ

*Luscinia cyane bochaiensis*  
(Schulpin)スズメ目  
PASSERIFORMES  
ツグミ科  
Truidae

## カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 繁殖南限であり、生息地が限定されていて、生息個体数が少ない。

県内分布 | 標高の高い山地の落葉広葉樹林に生息する夏鳥。

分布域 | 北海道 本州中北部に夏鳥。  
朝鮮半島 中国東北部 シベリア南部 サハリンで繁殖。中国南部、インドシナ半島で越冬。

生息環境 | 山地の針広混交林、落葉広葉樹林の茂った林床に住み、チョウ・ガ類やクモを捕食する。

現 状 | 県内では、黒岳と渡りの途中に平地でみられた観察記録のみ。

## クロツグミ

*Turdus cardis* Temminckスズメ目  
PASSERIFORMES  
ツグミ科  
Truidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 繁殖南限に近い。落葉広葉樹林が人工造林や森林伐採によって生息地が減少悪化している。

県内分布 | 低山に生息する夏鳥。

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(熊本 大分)で夏鳥。  
中国の一部と日本で繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 | 山地や丘陵の針広混交林、広葉樹林に夏鳥として生息し、おもに林床でミミズや昆虫をとる。漿果も食べる。

現 状 | かつては、ふつうの夏鳥であったが、近年、生息数が減少し、声が聞こえる場所が少なくなってきた。

備 考 | 九州中央山地が繁殖南限。

## コヨシキリ

*Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps*  
Swinhoe

スズメ目  
PASSERIFORMES  
ウグイス科  
Sylviidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的にも繁殖地は局限されている。

県内分布 日出生台で繁殖。

分布域 本州中部以北の高原、北海道の草原に夏鳥。  
中国中部以北で夏鳥。中国南部、東南アジアで越冬。

生息環境 草丈の高い草原。アシ原、河川敷、湖沼周辺の草原に夏鳥として生息し、草むらの地上近くに営巣する。茂みの中で昆虫類や種子を食べる。

現 状 繁殖に使う環境がかなり特殊で、県内では日出生台だけに生息している。

## メボソムシクイ

*Phylloscopus borealis xanthodryas*  
(Swinhoe)

スズメ目  
PASSERIFORMES  
ウグイス科  
Sylviidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 繁殖南限であり。生息地は標高の高い場所に限定され、生息数もかなり少ない。

県内分布 釈迦岳、黒岳、祖母・傾山の山頂部に生息する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州(大分)の高山に夏鳥。  
シベリア、カムチャツカ、サハリンで繁殖。東南アジアで越冬。

生息環境 亜高山帯の針葉樹林・広葉樹林に夏鳥として生息し、木の根元や崖のくぼ地に営巣する。枝上でチョウ・ガ類の幼虫などの昆虫類を捕食する。

現 状 亜種メボソムシクイ (*P. b. xanthodryas*) は、年に数回程度の観察記録しかない。

備 考 亜種コメボソムシクイ (*P. b. borealis*) は旅鳥として全国を通過する。県内でも平地での観察例がかなりある。

## キビタキ

*Ficedula narcissina narcissina*  
(Temminck)

スズメ目  
PASSERIFORMES  
ヒタキ科  
Muscicapidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 森林開発と樹種変換のため、生息地である広葉樹林が減少しており、生息数も減少している。

県内分布 低山から高山の落葉広葉樹林帯に生息する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州に分布する夏鳥。屋久島以南では別亜種リュウキュウキビタキ (*F.n. owstoni*) が常緑広葉樹林に生息する。  
中国の一部と日本で繁殖。中国南部、フィリピンで越冬。

生息環境 低山帯の落葉広葉樹のある森林に夏鳥として生息する。枝から昆虫に飛びつき捕らえる。

現 状 かつては、ふつうの夏鳥であったが、近年、生息数が減少し、声が聞こえる場所が少なくなってきた。

## サンコウチョウ

*Terpsiphone atrocaudata atrocaudata*  
(Eyton)

スズメ目  
PASSERIFORMES  
カササギビタキ科  
Monarchidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	平地林が減少し、幼齢林など生息環境が悪化・減少しているため、生息数が減少している。
県内分布	県内全域の平地林に生息する夏鳥。
分布域	亜種サンコウチョウは本州、四国、九州に夏鳥。奄美諸島以南は別亜種リュウキュウサンコウチョウ( <i>T.a. illex</i> )が常緑広葉樹林に留鳥。台湾で繁殖。中国南部から東南アジア西部で越冬。
生息環境	丘陵地から低山の里山の開けた沢沿いの広葉樹林に夏鳥として生息し、樹冠部で昆虫類を空中で捕食する。
現状	観察数は少なくなっている。
備考	日本と台湾だけで繁殖する準固有種、国際自然保護連合：準絶滅危惧種。

## キバシリ

*Certhia familiaris japonica*  
Hartert

スズメ目  
PASSERIFORMES  
キバシリ科  
Certhiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由	
県内分布	祖母傾山系の標高の高いところに生息する留鳥。
分布域	北海道では平地に、本州、四国、九州(大分、宮崎)では山地に留鳥。中国北部・東北部、シベリア南部、サハリンで留鳥。
生息環境	亜高山帯の針葉樹林や落葉広葉樹林に留鳥として生息し、昆虫やクモ類を食する。北海道では、別亜種キタキバシリ( <i>C.f. daurica</i> )が平地にも留鳥として生息する。
現状	県内では傾山と移動の途中に宇佐で観察記録があるのみ。生息地が祖母傾山系の標高の高いところに限定されており、生息数がかなり少ない。

## コジュリン

*Emberiza yessoensis yessoensis*  
(Swinhoe)

スズメ目  
PASSERIFORMES  
ホオジロ科  
Emberizidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

選定理由	
県内分布	平地～山地の草原に飛来する冬鳥。
分布域	本州中北部、九州(熊本)で留鳥あるいは夏鳥。本州南西部、四国、九州では冬鳥。種コジュリンは中国、ウスリーで繁殖。朝鮮半島、中国中部で越冬。亜種コジュリンは日本固有亜種。
生息環境	草丈の低い草原に生息し、昆虫や種子を食する。
現状	県内では、香々地と大分の2回の観察記録があるのみである。全国的にも繁殖分布は局地的で、生息数はかなり少ない。阿蘇が繁殖南限である。
備考	国際自然保護連合：準絶滅危惧種。

## ホオアカ

*Emberiza fucata fucata*  
Pallas

スズメ目  
PASSERIFORMES  
ホオジロ科  
Emberizidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 阿蘇外輪山について久住，飯田高原が繁殖の南限域である。

県内分布 | 久住，飯田高原，猪の瀬戸，日出生台など高地の草原で繁殖する冬鳥。

分布域 | 北海道，本州，四国，九州で夏鳥。全国の平地で冬鳥。  
朝鮮半島，中国東北部，南部で繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 | 灌木のある草原で地上や低木に営巣する。冬は耕地や河原にも生息する。昆虫類や種子などを食べる。

現 状 | 県内では，繁殖期に高地の草原に生息する。冬は県内全域の平地に，ごく普通に見られる。

## ホシガラス

*Nucifraga caryocatactes japonica*  
Hartert

スズメ目  
PASSERIFORMES  
カラス科  
Corvidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 日本の繁殖のほぼ南限で，渡りをしないので，地域個体群として生息地が孤立している。生息個体数はかなり少ない。

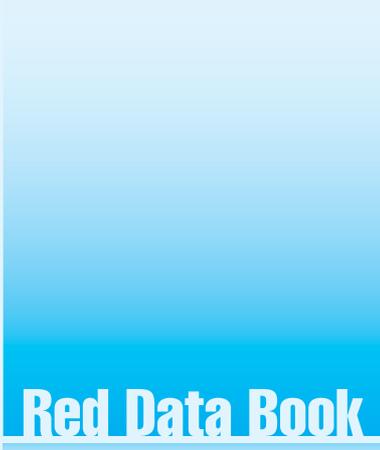
県内分布 | 祖母傾山系に生息する留鳥。

分布域 | 北海道，本州，四国，九州(熊本，大分，宮崎)で留鳥。  
中国中部，北部，東北部，シベリア，朝鮮半島，台湾に留鳥。

生息環境 | 亜高山帯から高山帯のハイマツ・ブナ帯に留鳥。冬はやや低い場所にも漂行する。ハイマツやオオシラビソなどの種子を食べる。

現 状 | 標高の高いところにしか生息しないので，分布が局限，隔離されている。個体数も少ない

備 考 | 亜種ホシガラスは日本固有亜種。九州中央山地が繁殖南限。

The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font at the bottom of the square, with a thin white horizontal line underneath it.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 3. 爬虫類



## (1) 概要

### 概況

現在、大分県に生息する爬虫類はヘビ類などの陸棲種11種。カメ類などの水棲種7種が確認されている（ウミヘビ類などは情報がないため除外）。

今回選定した種は7種であるが、昭和30年代以降全県下で普通種であったヘビ類は、全体的に個体数が減少傾向を示しているという特徴があり、爬虫類全体が減少傾向にあるのではないかという危機を抱かざるを得ない状況である。

その主たる要因としては、農薬使用による2次的影響、生息環境の減少や質的变化などが挙げられるが、詳しいことは現段階では判断できない。

一般的に「ヘビ」類は住民らによって忌み嫌われ、マムシなど目撃次第殺されるという風習もあり、都市住民らにとってはヘビ即マムシと理解する現状もある。このため、今後も爬虫類が、安定して生息できる状況になるとは考え難く、県域全体における積極的な保全策が待たれる。

### 選定種について

基本的には環境庁「両生類・爬虫類のレッドリストの見直しについて」(1997)および水産庁編「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」(1998)を参考に選定および区分を行った。

日本産爬虫類87種（亜種を含む）の内、大分県内における生息および分布の知見資料（聞き取り資料を含む）や隣接県のデータなどを加味しながら判断を下した。

ただし、ウミヘビ類などのように生息していると思われる種であっても情報が全くない種や、明らかにペットとして飼育されていたと思われる種については除外したが、ミシシッピーアカミミガメのように野生化し、定着していると認められる種については選定種の対象とした。

また、爬虫類については全体的に情報が少ないため、今後情報が集積されればランクの見直しも考えられる。

なお、標準和名、学名ともに環境庁「日本産野生生物目録（脊椎動物編）」(1993)に準拠した。

爬虫類の大分県RDBカテゴリー別選定種数は、次の通りである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	総計
大分県	0	2	2	1	0	1	1	7
環境庁	0	絶滅危惧 類 1		2	0	1	0	4

「環境庁」は、環境庁レッドリスト(1997)の大分県関係数。

### 解説の項目・内容について

選定種の、各項目の解説は次のように行った。

#### 「選定理由」

県内の生息分布域、生息環境の現状、絶滅の危険度の増大、生息環境の悪化などを勘案し、該当するカテゴリーを選択した理由を記載した。

- ・「情報不足」は過去20年以内の確かな情報がない種とし、その状況を記載した。
- ・地域個体群は生息分布域が偏在する種や移動が制限される種群、または、生息分布域は広いものの個体群としての安定したまとまりが限られる種群。これらは生息地ごとに状況が異なるため、特に絶滅が危惧される種群に関しては選定種を「地域個体群」として記載した。

#### 「県内分布」

基本的には、市・町・村区分をおこなったが、海棲カメ類については（産卵）と（生息）に分けて表記し、この内、（生息）については市・町・村区分ができないため 沖という表記をおこなった。

#### 「分布域」

国内分布（北海道・本州・中国・九州・沖縄）及び国外分布。

海棲カメ類については、海域指定をおこなった。

#### 「生息環境」

選定種の国内における一般的な生息環境および生態の概略を記載した。

#### 「現 状」

選定種の県内における生息分布域，生息環境，生態，生息個体数の増減などの現状を記載した。

#### 「備 考」

水産庁のレッドデータ基準。日本の固有種。捕獲制限。

#### 危険性の主要因

- ・森林伐採
- ・河岸改造
- ・自然海浜の人為利用
- ・沿岸部の夜間照明
- ・誤 獲
- ・池沼の埋立
- ・移 入
- ・その他

#### 選定種の配列

科・属・種の配列及び学名は環境庁「日本産野生生物目録 本邦産野生動植物の種の現状（脊椎動物編）」（1993）に準拠した。

## （2）文 献

環境庁「日本産野生生物目録 本邦産野生動植物の種の現状（脊椎動物編）」（1993）

環境庁「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」 レッドデータブック（爬虫類・両生類）（2000）

（社）大分野生生物研究センタ 資料「大分県内の両生・爬虫類」（未発表）

水産庁「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（社）日本水産資源保護協会（1998）

## タカチホヘビ

*Achalinus spinalis* Peters

トカゲ目  
SQUAMATA  
ヘビ科  
Colubridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 大分県内での確認例は現在のところ3地域4例と極めて少ない。生息環境の悪化から個体数の減少が懸念される。

**県内分布** 佐伯市(城山), 庄内町(黒岳), 野津原町(七瀬川流域)

**分布域** 本州 四国 九州 屋久島 種子島  
中国大陸東部

**生息環境** 平地から山地の森林に生息し、夜行性で昼間は倒木や石の下に隠れている。夜間に行動し、ミミズなどを捕食。乾燥に弱い。

**現 状** 城山や黒岳の生息地は安定しているが、移動性が低く、乾燥に弱いことから、野津原町では、森林伐採の他、峡谷・溪谷、河岸改造などによる乾燥化の影響を受け、生息個体数が減少している。

## シロマダラ

*Dinodon orientalis* (Hilgendorf)

トカゲ目  
SQUAMATA  
ヘビ科  
Colubridae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 確認例が少なく不明であるが、南方系の種で低山に生息することから、開発などによる森林の消失による影響を受けており、絶滅の危険性は極めて高い。

**県内分布** 大分市(西大分), 宇佐・中津市(今仁, 伊東田)

**分布域** 本州 四国 九州 奥尻島 伊豆大島 佐渡 志岐 薩摩硫黄島 屋久島

**生息環境** 低山地の森林の林縁部などに生息。夜間や早朝に行動し、トカゲ類や小型のヘビ類を捕食する。観察例が少なく詳しい生態は判っていない。

**現 状** 夜行性のため人目に付く機会が少ない種である。大分県内での確認例は現在のところ上記の2地域3例と極めて少ない。

**備 考** 日本固有種。

## アカウミガメ

*Caretta caretta* (Linnaeus)

カメ目  
TESTUDINATA  
ウミガメ科  
Cheloniidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

**選定理由** 産卵上陸の疎外要因となっている。産卵上陸個体の減少傾向が顕著である。

**県内分布** (産卵)佐賀関町, 臼杵市, 津久見市, 上浦町, 鶴見町, 米水津村, 蒲江町

**分布域** (産卵)太平洋側は福島県と茨城県境付近以南, 日本海側は石川県の能登半島付近以南  
(生息)温帯・亜熱帯域の海洋

**生息環境** 温帯・亜熱帯域に分布の中心を持ち、海亀類の中では最も高緯度の温帯域に繁殖の場を広げている種である。水温の適温は25 前後。

**現 状** 県南部の自然海浜の人為利用がすすみ、人の出入り、沿岸部の自動販売機設置、夜間照明などのため上陸産卵が妨げられている。

**備 考** 水産庁：希少種。

## アオウミガメ

*Chelonia mydas* (Linnaeus)

カメ目  
TESTUDINATA  
ウミガメ科  
Cheloniidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

選定理由 自然海浜の人為利用がすすみ、産卵上陸の情報が近年激減している。

県内分布 (産卵)蒲江町

分布域 (生息)北海道の室蘭以南から日本海側も含め、南西諸島南端まで  
(生息)熱帯・亜熱帯域の海洋

生息環境 世界の熱帯・亜熱帯に広く分布し、温帯域にも生息するが、水温8以下では生息できない。

現 状 海浜の人為利用により県南部の自然海浜が減少。僅かに聞き取りがあった産卵上陸は最近ほとんどみられなくなっている。蒲江町、米水津村などにおいて定置網に掛かる事例はある(聞き取り)。

備 考 水産庁：希少種。

## タイマイ

*Eretmochelys imbricata*  
(Linnaeus)

カメ目  
TESTUDINATA  
ウミガメ科  
Cheloniidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁

選定理由 県内の海域での生息状況は不明であるが、個体の確認情報は近年激減。定置網などによる誤獲情報のみだが件数は少ない。漁獲圧による個体数の激減が懸念される。

県内分布 (生息)蒲江町沖

分布域 (生息)太平洋側、日本海側共に津軽海峡以南、(産卵)黒島、石垣島、多良間島、水納島(先島諸島)、宮古島、阿嘉島、座間味島、沖縄島、水納島(沖縄諸島)  
(生息)主として南北緯30度より低緯度の熱帯海域

生息環境 海亀類の中で最も熱帯海域に偏って生息する。主に、サンゴ礁や岩礁海域に生息するが、低質が泥の小湾や河口のマングローブ域などにも出現することがある。

現 状 特に、豊後水道南部において定置網、刺し網などによる誤獲が多く、漁獲圧が高い。

備 考 水産庁：希少種、捕獲制限種。

## クサガメ

*Geoclemys reevesii* (Gray)

カメ目  
TESTUDINATA  
イシガメ科  
Emydidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由 池沼の管理放棄や開発などにより生息する池沼が埋め立てられ、生息基盤そのものが消滅するなど、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 県内全域

分布域 本州、四国、九州、徳島、対馬、朝鮮半島、中国東部、台湾

生息環境 日の当たる浅い池沼や静かな川にすみ、神社や寺の池にも人為的に放され住みついている。

現 状 放棄水田や休耕田などの発生に伴い、流入水が遮断され池沼の形態が変化する場や、各種の開発によって埋め立てられたりする場合が散見される。

# スッポン

*Trionyx sinensis* Wiegmann

カメ目  
TESTUDINATA  
スッポン科  
Trionychidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 情報不足

**選定理由** | 従来野生種として県下の各河川に生息していた個体は、1998年現在、ほとんど影をひそめ、飼育下の個体の逸走などによる野生化が特定の地域に認められる現状である。地域によっては、捕獲圧が高く、野生種が激減する危険性があると考えられるが、詳細は情報不足である。

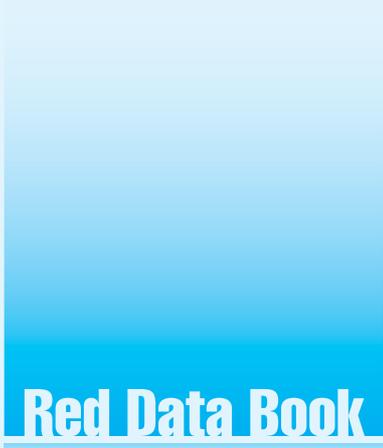
**県内分布** | 山国川、深見川など県下各河川

**分布域** | 本州、四国、九州、徳島、石垣島、西表島、与那国島、朝鮮半島、中国東部、台湾、インドシナ北部

**生息環境** | 底が砂泥質の平地の池沼やゆるやかな流れにすむ。夜行性。食性は肉食で、魚、甲殻類、水生昆虫などである。

**現状** | 養殖場からの逸脱個体と思われる情報は散見されるが、自然分布の状況についての情報は極めて少ない。しかも、食用とされるため池沼などへの移入などの人為攪乱もあり、生息状況の把握は今後の調査に待つしかない。



The logo for the Red Data Book, featuring a blue square with a white gradient at the bottom where the text "Red Data Book" is written in white.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 4. 両生類



## (1) 概要

### 概況

大分県に生息している両生類はカエル目が4科11種(うち1種は外来種), サンショウウオ目が3科6種である。カエル目のうちニホンアマガエルとヌマガエルは広い地域で生息が確認されている。ニホンアカガエルなど6種は, 比較的広い範囲で生息しているが, 個体数の減少傾向がみられる。

ニホンヒキガエルの生息域は広いが個体数は減少しており, 平地から山地へと退行傾向がみられる。トノサマガエルは都市部やその周辺からは姿を消しており, 個体数激減の傾向は現在も続いている。

サンショウウオ目のうちオオサンショウウオは県北地区の院内町だけに生息している。カスミサンショウウオも県北地区のごく一部で生息が確認できただけである。オオイタサンショウウオは番匠川を南限とし, 大野・大分川流域, 別杵・山香地域などに生息しているが, 開発が進む地域では絶滅が懸念されている。祖母・傾山系の地域だけに生息しているオオダイガハラサンショウウオは, 全国的な分布から見ると地域個体群としての特性がみられる。イモリとブチサンショウウオは割合広い地域で生息が確認されたが, 生息環境の悪化により個体数が減少している。

### 選定種について

これまでに大分県で生息が確認されている両生類の7科17種について, 1995年から1999年の5年間にわたって, 生息状況の調査を行った。その結果, 人間との関わりが要因で絶滅のおそれがある6種(カエル目2種, サンショウウオ目4種)を選定種とした。

両生類の大分県RDBカテゴリー別選定種数は, 次の通りである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	総計
大分県	0	1	0	2	2	0	1	6
環境庁	0	0	0	1	1	0	1	3

「環境庁」は, 環境庁レッドデータブック(1997)の大分県関係数。

### 解説の項目・内容について

選定種について, 各項目の解説は次のように行った。

#### 「選定理由」

分布域, 種の特性, 生息環境の現状, 特色ある分布域(ソハヤキ要素), 生息の危険性などを記した。

#### 「県内分布」

原則として市, 郡単位で示したが, オオサンショウウオは分布が限られているので町名で示し, カスミサンショウウオも分布が限られているので, 市名の後に一部と記した。

#### 「分布域」

国内における分布と国外における分布を「動物系統分類学 第9(下A<sub>2</sub>) 両生類」(1997)を参照して記した。四国のオオイタサンショウウオは分布が限られているので市名まで記した。九州における分布については, 分布が確認されている県名をすべてあげた。

#### 「生息環境」

垂直分布域や主な生息環境を記した。

#### 「現状」

およそ過去10年間の生息地や個体数などの現状を記した。

「備考」

次のような内容について記載した。

- ・その種の標準産地
- ・国・県・市指定の特別天然記念物，天然記念物

「地域個体群」

地方型としての特徴を有し，生物地理学的な観点からみて重要と判断される個体群で，絶滅の危険性が増大していると判断されるものを地域個体群とした。

**危険性の主要因**

選定理由に危険性の主要因としてあげたものは，次の通りである。

- ・森林伐採
- ・池沼・湿地開発
- ・土地造成
- ・道路工事
- ・水質汚染
- ・管理放棄

**選定種の配列**

科・属・種の配列，選定種の学名は「動物系統分類学 第9（下A<sub>2</sub>）両生類」によった。

（2）文献

- 岩澤久彰・倉本満 動物系統分類学 第9（下A<sub>2</sub>）脊椎動物 両生類 中山書店（1997）
- 佐藤井岐雄 「日本産有尾類総説」 日本出版社（1943）
- 佐藤眞一 九州に産するオオダイガハラサンショウウオについて 動物学雑誌（1954）
- 佐藤眞一 九州に生息するサンショウウオ類の現況について 日本爬虫両棲類学会誌（1989）
- 佐藤眞一 駅館川流域のサンショウウオ類 大分大学教育学部地域総合研究論文集（1995）
- 佐藤眞一 オオイタサンショウウオ 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（1996）
- 松井正文 両生類の進化 東京大学出版会（1996）

## オオサンショウウオ

*Andrias japonicus* (Temminck)

サンショウウオ目  
CAUDATA

オオサンショウウオ科  
Cryptobranchidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 準  
水産庁 減少種

**選定理由** 本県は日本における生息域の南限域で、九州における唯一の自然繁殖地である。生息地のほとんどが私有地のため、森林が伐採されれば生息環境の悪化をきたし、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 宇佐郡（院内町）

**分布域** 本州(中部・近畿・中国地方),九州(大分)

**生息環境** 針広混交林の二次林中の渓流域。

**現 状** 当該地では、近年卵塊や幼生を目視することが少なくなっている。

**備 考** 国特別天然記念物「オオサンショウウオ南院内各河川」、国天然記念物「オオサンショウウオ生息地旧南院内村全村」（院内町）

## オオイタサンショウウオ

*Hynobius dunni* Tago

サンショウウオ目  
CAUDATA

サンショウウオ科  
Hynobiidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II  
水産庁 危急種

**選定理由** サンショウウオ属の中では分布域が狭く、本県が主な生息地となっている。都市部やその周辺部では開発や休耕田の増加などにより、生息地の消滅が懸念される。

**県内分布** 宇佐市、宇佐郡、豊後高田市、西国東郡、東国東郡、杵築市、速見郡、別府市、大分市、大分郡、北海部郡、臼杵市、津久見市、佐伯市、南海部郡、竹田市、大野郡、直入郡

**分布域** 四国(土佐清水市),九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 標高10～800mの池沼や水田などの止水域。

**現 状** 生息域や産卵地が開発や水質汚染などの影響を受け、個体数が激減している所がある。

**備 考** 佐伯市城山の雄池・雌池付近は本種の標準産地。大分県天然記念物「佐伯城山のオオイタサンショウウオ」（佐伯市城山）。大分市指定天然記念物「オオイタサンショウウオ及び生息地」（霊山寺弁天池）

## オオダイガハラサンショウウオ

*Hynobius boulengeri* (Thompson)

サンショウウオ目  
CAUDATA

サンショウウオ科  
Hynobiidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 地域個体群  
水産庁 希少種

**選定理由** ソハヤキ要素の主要な動物である。祖母・傾山系産は、紀伊・四国産より小型の傾向を示すので、地域個体群としての特性が認められる。森林伐採による個体数の減少が懸念される。

**県内分布** 竹田市、大野郡、南海部郡

**分布域** 本州(近畿地方),四国,九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生息環境** 標高500～1,500mの自然林内の渓流域。

**現 状** 生息地域の祖母・傾山系は国定公園に指定されているが、一部の地域では自然林の伐採などにより生息環境が悪化している。

**備 考** 大分県天然記念物「奥祖母のオオダイガハラサンショウウオ」（祖母・傾山系、緒方町）

## カスミサンショウウオ

*Hynobius nebulosus* Temmnick et Schlegel

サンショウウオ目  
CAUDATA  
サンショウウオ科  
Hynobiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本県の個体群は、西九州・北九州の個体群よりやや大型の傾向が見られる。近年、都市化の影響で生息域が狭められ、絶滅が懸念される。

**県内分布** 宇佐市，豊後高田市の一部

**分布域** 本州(近畿・中国地方),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島)

**生息環境** 沿岸近くの低地や谷間の水田・湿地などの止水域。

**現 状** 宅地造成，道路工事，水田の圃場整備などの増大で生息地が減少し，個体数も少なくなっている。

## トノサマガエル

*Rana nigromaculata* Hallowell

カエル目  
SALIENTIA  
アカガエル科  
Ranidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 都市化による水田の消滅，休耕田の増加，農薬による水質の悪化などで個体数が減少している所が多く，生息地の消滅が懸念される。

**県内分布** 中津市，宇佐市，宇佐郡，豊後高田市，東国東郡，速見郡，大分郡，日田市，日田郡，玖珠郡，竹田市，大野郡，直入郡

**分布域** 本州(関東地方から仙台平野を除いた地域),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
韓国,中国

**生息環境** 水田・池沼やその周辺。

**現 状** 県内全域の水田やその周辺域に生息していたが，1960年ごろから，個体数が激減し，その傾向は現在も続いている。

## ニホンヒキガエル

*Bufo japonicus japonicus*  
Temmnick et Schlegel

カエル目  
SALIENTIA  
ヒキガエル科  
Bufonidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

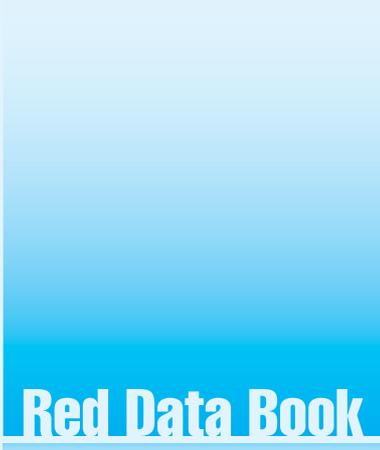
**選定理由** 生息域はかなり広いが，開発・汚染の進行している平地・山間地域などでは，個体数が激減し，平地から山間部へと生息域が移行している。

**県内分布** 県内全域

**分布域** 本州(近畿・中国地方),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

**生息環境** 生息域は海岸から1,000mくらいの高地の藪，林，森など。

**現 状** 都市化によって，生息地の消滅や汚染がみられ，目視できなくなった所が多くみられる。

The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font at the bottom of the square, with a thin white horizontal line underneath it.

**Red Data Book**

## 保護上重要な動物

### 5. 魚類・頭索類



## (1) 概要

### 概況

現地調査および過去の文献調査から、大分県で生息が確認されている頭索類は約40種、魚類については今回の調査では除外した海水魚（ただしアオギス以外）を除く汽水・淡水魚類は約100種である。選定対象種全体からみると、河川の上・中流域、また干潟を主な生息場所とするもの（とくにハゼ亜目魚類）は、人為的開発の影響を直接的に受けやすいことが絶滅に対する危険要因となっている。また、ニッポンバラタナゴやイワメに関しては遺伝学的な攪乱が懸念されている。

### 選定種について

選定対象は種レベルとし、亜種レベルは選定対象から外した。輸入種や偶発的な分布と思われる種は対象外とし、過去の文献に記載されている種であっても不確実な要素を含む種やデータに疑問がある種は除外した。ただし、県指定天然記念物である無班型（イワメ）が混在する西日本のアマゴ個体群は、遺伝子情報学上今後の調査研究対象種としては極めて重要な位置にあるため、保護に留意すべき個体群として環境庁と同様に「地域個体群」とした。

過去、大分県で生息が確認されながら、近年その生息が明らかにされていない種は、「情報不足」とした。

頭索類は選定種がナメクジウオ1種類のみであるので、水産庁に準拠して魚類の末尾に掲載した。魚類・頭索類の大分県RDBカテゴリー別選定種数は、次の通りである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	総計
大分県	0	1	4	4	7	7	1	24
環境庁	0	1	2	5	4	1	2	15

「環境庁」は、環境庁レッドリスト（1999）の大分県関係数。

### 解説の項目・内容について

選定種について、各項目の解説は次のように行った。

#### 「選定理由」

分布域、県内分布、生息環境の現状、絶滅の危険度の増大、生息状況の悪化などを踏まえ、適切なカテゴリーを選択した理由を記述した。

#### 「県内分布」

魚類については、今回の調査で除外した海水魚以外の汽水・淡水魚類には水系・河川名を、また一部海水魚と頭索類については海域を記した。なお、「情報不足」として挙げたものはすべて（ ）を付して、過去の記録を記載した。

#### 「分布域」

中坊（2000）を基本的資料とし、新たな知見がある場合はそれを補足的に追加した。

#### 「生息環境」

中坊（2000）を基本的資料とし、また生息が確認された周辺の環境についても記載した。

#### 「現状」

およそ10年以前から現在までの生息地、ならびに生息個体数などをできるだけ具体的に記した。

## 「備考」

以下の内容について該当事項を記載した。

- ・環境庁指定の「日本の重要な淡水魚」
- ・日本固有種
- ・天然記念物
- ・その他必要特記事項

## 危険性の主要因

- ・港湾工事
- ・河川改修工事
- ・河川護岸工事
- ・干潟や河口域の消失
- ・外来魚の移入
- ・水質汚染
- ・堰やダムの設置
- ・林道工事
- ・森林伐採
- ・餌の減少
- ・人為放流
- ・挺水植物群落の消失
- ・生息環境の悪化

## 選定種の種名及び配列

学名や和名の配列は、「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」(1998)に従った。

## (2) 文献

- 岡村 収・尼岡邦夫(編・監修) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚(1997)
- 川那部浩哉・水野信彦(編・監修) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚(1989)
- 椎野季雄 水産無脊椎動物学(1987)
- 社団法人日本水産資源保護協会 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編)(1998)
- 長田芳和・細谷和海(編) 日本の希少淡水魚の現状と系統保存(1997)
- 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定 第二版(2000)
- 星野和夫・松尾敏生・細谷和海 「九州におけるアカザの分布」 魚類学雑誌(1996)

## スナヤツメ

*Lethenteron reissneri* (Dybowski)

ヤツメウナギ目  
PETROMYZONTIFORMES

ヤツメウナギ科  
Petromyzontidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁  
水産庁 希少種

**選定理由** 北海道から九州北部まで分布する。県内では局所的な分布を示しており、また堰堤やダムを設置で平瀬と淵が分断された河川では成育場と産卵場との移動が困難になり、絶滅の危険性が高い。

**県内分布** 山国川, 駅館川, 大分川, 筑後川の各水系

**分布域** 鹿児島県 宮崎県を除く九州以北  
沿海州, 中国北部, 朝鮮半島

**生息環境** 夏期水温が25 以下の人為的汚染のない軟泥の堆積する淵と平瀬。

**現 状** 河川改修工事などにより各生息地は激減している。

## ヤリタナゴ

*Tanakia lanceolata*  
(Temminck and Schlegel)

コイ目  
CYPRINIFORMES  
コイ科  
Cyprinidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 日本では北海道と南九州を除く日本各地に分布する。県内では県北部の河川においては、河川改修工事が大きく影響し、生息地の悪化が懸念される。

**県内分布** 山国川, 伊呂波川, 駅館川, 筑後川の各水系

**分布域** 北海道と南九州を除く日本各地  
朝鮮半島西岸

**生息環境** 淡水産二枚貝が生息する河川の中・下流の緩流域とそれに続く用水。

**現 状** 筑後川水系においては比較的良好な状態で個体群を維持しているが、多くの県北部河川では生息地とともに個体数も減少している。

## セボシタビラ

*Acheilognathus tabira* subsp.2

コイ目  
CYPRINIFORMES  
コイ科  
Cyprinidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁  
水産庁 希少種

**選定理由**

**県内分布** (筑後川水系)

**分布域** 筑後川水系を中心とする九州北西部, 長崎県壱岐地方

**生息環境** 淡水産二枚貝が生息する河川の下流の緩流域, それに続く用水。

**現 状** 過去に生息が確認されているが、近年の10年間はその生息が確認できていない。

## ニッポンバラタナゴ

*Rhodeus ocellatus kurumeus*  
Jordan and Thompson

コイ目  
CYPRINIFORMES

コイ科  
Cyprinidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 IA  
水産庁 絶滅危惧種

選定理由

県内分布 (筑後川水系)

分布域 濃尾平野,琵琶湖・淀川水系,京都盆地,山陽地方,四国北西部,九州北部

生息環境 淡水産二枚貝が生息する平野部の浅い池沼,流れのない用水。

現 状 過去に生息が確認されているが,近年の10年間はその生息が確認できていない。

備 考 日本固有亜種。

## カゼトゲタナゴ

*Rhodeus atremius atremius*  
Jordan and Thompson

コイ目  
CYPRINIFORMES

コイ科  
Cyprinidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁  
水産庁 希少種

選定理由 九州地方にのみ生息する。県内では筑後川水系のみに分布し,個体数密度が低く希少な存在である。産卵床である二枚貝が減るなどの環境変化により個体数の減少が懸念される。

県内分布 筑後川水系

分布域 熊本県球磨川以北の九州北部と長崎県壱岐地方

生息環境 淡水産二枚貝が生息する河川の下流の緩流域,それに続く用水や湧水。

現 状 河川改修工事が急速に進んだ筑後川水系の各支流では,緩流域や本種の産卵床となる淡水産二枚貝が減少し,ほとんどその生息が確認できていない。

## カワムツA型

*Zacco* sp.

コイ目  
CYPRINIFORMES

コイ科  
Cyprinidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 中部地方以西から九州北部に生息する。県内の分布は県北部に限られている。貯水池の減少・河川改修工事・魚食性外来魚の移入などにより,個体数の減少が懸念される。

県内分布 山国川, 駅館川の各水系, およびそれらに連絡する貯水池

分布域 中部地方以西の本州, 四国の瀬戸内側, 九州北部

生息環境 河川の中・下流の緩流域や平野部の池沼。

現 状 平野部での宅地造成による池沼の埋め立てが影響し, 生息地そのものが消失している。

備 考 日本固有種。

## ヤマトシマドジョウ

*Cobitis matsubarae*  
Okada and Ikeda

コイ目  
CYPRINIFORMES  
ドジョウ科  
Cobitidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 日本では九州と山口県に分布する。県内の各主要河川の中流域に散在して生息しているが、河川改修工事の際に流出する土砂や泥粒により良質な砂底域が消失し、生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 山国川、伊呂波川、駅館川、八坂川、大分川、大野川の各水系

**分布域** 九州と山口県

**生息環境** 河川の中流域の砂底。

**現 状** 山国川、伊呂波川、駅館川、八坂川、大分川、大野川の各水系において本種の生息が確認されているが、いずれの生息地も個体数は減少傾向にある。

## アリアケギバチ

*Pseudobagrus aurantiacus*  
Temminck and Schlegel

ナマズ目  
SILURIFORMES  
ギギ科  
Bagridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

**選定理由** 九州に生息する日本固有種。1970年代までは筑後川水系各支流にも生息していたが、現在ではその本流だけで確認されている。河川改修による環境の悪化にも弱いため生息地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 筑後川水系

**分布域** 九州西部、長崎県壱岐

**生息環境** 自然度の高い河川の上・中流域。

**現 状** 近年周囲の環境改善により個体数は回復傾向にあるが、1970年代と比較すると、生息地・個体数とも激減している。

**備 考** 日本固有種。

## アカザ

*Liobagrus reini* Hilgendorf

ナマズ目  
SILURIFORMES  
アカザ科  
Amblycipitidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁  
水産庁 危急種(九州産)

**選定理由** 宮城県以南から九州まで生息する日本固有種。生息確認できた県内各河川内において、その分布は局所的である。河川護岸工事のため、流出した土砂などにより生息地および産卵場が埋められ、個体数の減少が危惧される。

**県内分布** 山国川、駅館川、桂川、安岐川、大分川、筑後川各水系の本流及び支流

**分布域** 宮城県・秋田県以南の本州、四国、淡路島、九州

**生息環境** 比較的水の澄んだ河川の上・中流域の転石帯。

**現 状** 1950年頃までは大分川水系以北のほとんどの河川で生息が確認されたが、現在は個体数、生息場所とも減少している。

**備 考** 日本固有種。

### 無斑型が混在するアマゴ个体群

*Oncorhynchus masou ishikawae*  
Jordan and McGregor

サケ目  
SALMONIFORMES

サケ科  
Salmonidae

#### カテゴリー

大分県 地域个体群  
環境庁 地域个体群

**選定理由** | いくつかの県に不連続に分布する。本个体群は県内では大野川水系上流部にのみ生息する。今後、林道工事や森林伐採による土砂流入のための生息地の減少、またアマゴやヤマメの無秩序な人為的放流のため現存する个体群の存続が危惧される。

**県内分布** | 大野川水系上流部(メンノツラ谷)

**分布域** | 岐阜県 三重県 愛媛県 大分県

**生息環境** | 河畔が広葉樹に覆われ照度が低い、源流部の限られた水域。

**現 状** | メンノツラ谷は現在本个体群の1/4程度が無斑型(イワメ)である。

**備 考** | 大分県指定天然記念物。1961年にイワメ *Oncorhynchus iwame* として新種記載されたが、現在はアマゴの突然変異種とされている。環境庁では「無斑型(イワメ)が混在する西日本のアマゴ个体群」となっている。

### 降海型イトヨ

*Gasterosteus aculeatus*  
(Linnaeus); anadromous form

トゲウオ目  
GASTEROSTEIFORMES

トゲウオ科  
Gasterosteidae

#### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由** |

**県内分布** | (大分川), (大野川)

**分布域** | 北海道 利根川・島根県益田川以北の本州  
ユーラシア 北アメリカ

**生息環境** | 海域の沿岸部, 内湾, 潮だまり。

**現 状** | 大分川と大野川では過去に生息が確認されていたが、近年10年間はその生息が確認できていない。

### カジカ

*Cottus pollux* Günther

カサゴ目  
SCORPAENIFORMES

カジカ科  
Cottidae

#### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** | 国内では北海道と沖縄を除くほぼ全域に分布する。県下では局地的に生息する。良好な河川環境に生息するが、人為的汚染の影響を受け、絶滅の危険性が大きい。

**県内分布** | 大野川水系柴北川の一部および筑後川水系高瀬川・大山川

**分布域** | 本州 四国 九州北西部

**生息環境** | 河川の上流域の石礫底。

**現 状** | 現在、県内ではほとんど捕獲できず、個体数も少ない。

## ウツセミカジカ

*Cottus reinii* Hilgendorf

カサゴ目  
SCORPAENIFORMES  
カジカ科  
Cottidae

### カテゴリー

大分県 情報不足

環境庁

水産庁 希少種(琵琶湖集団)

選定理由

県内分布 (山国川), (駅館川), (安岐川), (大分川)

分布域 北海道南部(日本海側) 本州 四国 九州北西部

生息環境 河川の中・下流域の石礫底。

現 状 1970年代前半には山国川, 駅館川, 安岐川, 大分川の各水系で本種の採集情報があるが, 現在では採集による生息確認はできていない。

備 考 過去に採集された標本は県外に保管されているが, 今後精査の必要がある。日本固有種。

## アカメ

*Lates japonicus*  
Katayama and Taki

スズキ目  
PERCIFORMES  
アカメ科  
Latidae

### カテゴリー

大分県 情報不足

環境庁 準

選定理由

県内分布 (佐伯湾)

分布域 和歌山県 高知県 大分県 宮崎県沖 (幼魚は高知県四万十川 宮崎県大淀川に出現)

生息環境 沿岸域, 幼魚は河口域の藻場。

現 状 年代不詳であるが, 過去に佐伯湾大入島の定置網での捕獲記録がある。しかし, 現地調査及び聞き取り調査を行ったが, その後の生息確認はできていない。

備 考 日本固有種。

## オヤニラミ

*Coreoperca kawamebari*  
(Temminck and Schlegel)

スズキ目  
PERCIFORMES  
ケツギョ科  
Sinipercaidae

### カテゴリー

大分県 準

環境庁 準

水産庁 希少種

選定理由 県北部の限られた河川と筑後川水系に生息する。河川改修工事による生息場所および産卵基質となる川岸の挺水植物群落の消失, 及び富栄養化による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 山国川, 犬丸川, 筑後川の各水系

分布域 淀川上流(太平洋側)及び由良川(日本海側)以西の南日本

生息環境 水の澄んだ流れの緩い河川や水路。

現 状 本種が生息するいずれの河川においても個体数は減少している。

## アオギス

*Sillago parvisquamis* Gill

スズキ目  
PERCIFORMES  
キス科  
Sillaginidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし  
水産庁 絶滅危惧

**選定理由** 日本ではかつて東京湾以南の沿岸域に広く分布していた。県内では限定された海域にのみ生息する。干潟や河口砂底域の消失及び減少などによる生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 山国川河口域から豊前海，八坂川河口域から守江湾周辺

**分布域** 吉野川河口，大分県，鹿児島県  
台湾

**生息環境** 干潟の内湾。

**現 状** 現在，ある程度のもともった個体数を確認できるのは，全国的にも本県のみである。

## カワアナゴ

*Eleotris oxycephala*  
Temminck and Schlegel

スズキ目  
PERCIFORMES  
カワアナゴ科  
Eleotridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 日本では栃木県以南の高い自然度を保つ河口域に主に生息する。県内では河川改修などにより生息環境が悪化した生息地がいくつか生じてきており，今後，生息状況の悪化が懸念される。

**県内分布** 山国川，駅館川，八坂川，冷川，大分川，大野川，臼杵川，番匠川の各水系

**分布域** 栃木県遊水池～種子島  
中国

**生息環境** 河川の中・下流域から汽水域にかけての砂・泥・礫底。

**現 状** 県内の生息が確認されている大半の河川で個体数は減少してきている。

**備 考** 環境庁により「日本の重要な淡水魚」に指定。

## トビハゼ

*Periophthalmus modestus* Cantor

スズキ目  
PERCIFORMES  
ハゼ科  
Gobiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 地域個体群  
水産庁 危急種(東京湾個体群)，現  
希少種(沖縄島個体群)

**選定理由** 日本では関東以南から沖縄島まで分布する。本県では干拓や埋め立て工事による干潟の狭小と餌となる小動物の減少により，生息数の減少が懸念される。

**県内分布** 山国川・駅館川・桂川を中心とした周防灘に注ぐ各河川の河口域，及び八坂川河口域から守江湾周辺

**分布域** 東京湾～沖縄島  
朝鮮半島，中国，台湾

**生息環境** 泥質干潟が発達する河口域及び内湾。

**現 状** 守江湾以北の各河口・干潟に生息するが，各生息地とも個体数は減少傾向にある。

## シロウオ

*Leucopsarion petersii* Hilgendorf

スズキ目  
PERCIFORMES  
ハゼ科  
Gobiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 | 全国の河川の下流・河口域や内湾に分布する。県内では水質汚染，底域の砂礫減少などにより，生息状態の悪化が懸念される。

県内分布 | 別府湾および駅館川・寄藻川・白杵川・番匠川の各水系

分布域 | 北海道～九州  
朝鮮半島

生息環境 | 伏流水の豊富な河川の下流～河口域及び内湾。

現 状 | 漁獲量は以前に比べると年々減少している。

備 考 | 県内では「シラウオ」として知られる。

## ネムリミミズハゼ

*Luciogobius dormitoris*  
Shiogaki and Dotu

スズキ目  
PERCIFORMES  
ハゼ科  
Gobiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 情報不足

選定理由 |

県内分布 | (佐志生川)

分布域 | 大分県

生息環境 | 小河川の感潮域。

現 状 | 臼杵市佐志生川の感潮域で採集された完模式標本1個体のみが知られている。その後は採集されていない。

## クボハゼ

*Gymnogobius scobiculatus*  
(Takagi)

スズキ目  
PERCIFORMES  
ハゼ科  
Gobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

選定理由 | 国内では西日本各地にわたり広く分布する種であるが，県内では2河川でその生息が確認されたただけである。河口・沿岸域の護岸工事や干潟の埋め立てなどにより失われた生息地が多くなり，絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 | 駅館川および番匠川の河口域

分布域 | 和歌山県 兵庫県 山口県 愛媛県 高知県 福岡県 大分県 宮崎県 対馬，五島列島

生息環境 | 河口域。

現 状 | 駅館川と番匠川の各河口域でその生息が確認されている。

## チクゼンハゼ

*Gymnogobius uchidai*  
(Takagi)

スズキ目  
PERCIFORMES

ハゼ科  
Gobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 IB

**選定理由** 北海道から九州全域に広く分布する種であるが、本県では2河川でのみその生息が確認できた。河口・沿岸域の護岸工事や干潟の埋め立てなどにより失われた生息地が多くなり、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 高山川および番匠川の河口域

**分布域** 北海道有珠湾,千葉県,兵庫県,福岡県,長崎県,大分県,宮崎県~鹿児島県

**生息環境** 河口域。

**現 状** 高山川と番匠川の各河口域でその生息が確認されている。

## シモフリシマハゼ

*Tridentiger bifasciatus*  
Steindachner

スズキ目  
PERCIFORMES

ハゼ科  
Gobiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** 山国川水系河口域

**分布域** 北海道~九州  
沿海州,朝鮮半島,中国,台湾

**生息環境** 河口の汽水域~内湾の海水域。

**現 状** 国内では広く分布する種であるが、県内では山国川水系の支流河口域で1個体が確認されている。

## ナメクジウオ

*Branchiostoma belcheri* Gray

両尖目  
AMPHIOXI

ナメクジウオ科  
Branchiostomidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし  
水産庁 危急種

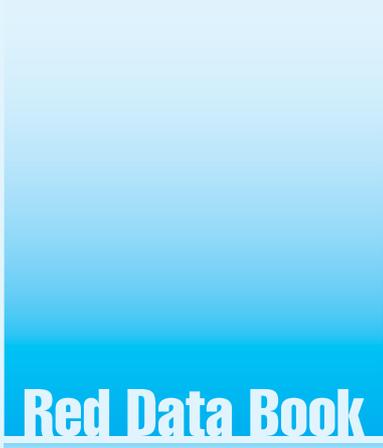
**選定理由** 房総半島周辺以南から鹿児島県までの瀬戸内海を含む太平洋岸の潮間帯に分布する。県内では一部の限られた海域のみに生息するが、近年、港湾整備工事などの影響で、絶滅に瀕している。

**県内分布** 豊前海と守江湾の一部

**分布域** 房総半島周辺以南から鹿児島県までの瀬戸内海を含む太平洋岸  
インド洋,西太平洋の暖水域浅海

**生息環境** 泥分をほとんど含まない粗い砂でできた遠浅の海域。

**現 状** 県内では、中津市沖で9個体が採集されている。

The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font at the bottom of the square, with a thin white horizontal line underneath it.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 6. 昆虫類



## (1) 概要

### 概況

分類学上の昆虫綱は30目の多岐にわたり、日本産昆虫総目録(1989)には 30,167種が記載されている。このうち、大分県で確認されているのは約 5,000種であり、ハチ目やハエ目ほかの大きなグループでは詳しい調査が及ばない分野がある。

本県で調査がよく進められているのはトンボ目、コウチュウ目、チョウ目为中心であり、バッタ目、カメムシ目がこれに次ぐ。これらは、分布調査を主とし、生態的な研究も比較的進んでおり、環境指標として、あるいは環境保全の観点から重要な資料となっている。

選定対象種は大分県に生息する種とし、迷蝶・偶産種など僅かな個体が確認されたり、一時的に発生した種は対象外とした。

### 選定種について

昆虫類の大分県RDBカテゴリ別選定種数は、次の通りである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	総計
大分県	0	9	21	29	70	36	165
環境庁	0	絶滅危惧 類 9		13	16	0	38

「環境庁」は、環境庁レッドデータブック(2000)掲載分類群の大分県関係数。

#### ・選定を保留した種

環境庁レッドリスト選定種については、原則として大分県の選定種とした。しかし、生息の現状で絶滅のおそれが低いと判断できるベニイトトンボ、ゲンバイトンボ、コバネアオイトトンボ(トンボ目)、信頼できる調査が充分でないマルコガタノゲンゴロウ(コウチュウ目)、ギンボシツツピケラ(トビケラ目)は選定種としなかった。また、希少な種、分布が限られる種であっても、生息の現状で絶滅のおそれが低いと判断される種については選定種とすることを保留した。

### 解説の項目・内容について

選定種の、各項目の解説は、次のように行った。

#### 「選定理由」

分布域、県内分布、生息環境の現状、絶滅の危険性、生息状況などを踏まえ、該当するカテゴリーを選択した理由を記述した。

#### 「県内分布」

生息地が判明している市町村名を、西から東、北から南の順に記載した。

過去に生息地が判明していて、現在は生息が確認できないものについては( )を付した。

#### 「分布域」

国内分布は北海道、本州、四国、九州、沖縄とし、本州は地方区分を一部に、九州は分布が明確な県名を( )内に記載した。生息地となる島名は、その後に記した。

国外分布は判明している地域や国名を記載した。

#### 「生息環境」

大分県の垂直分布並びに生息環境、幼虫期の食草が限られる種については、それを記述した。

#### 「現状」

現在の生息状況や生息の消長などを記述した。

## 「備考」

次の内容について、該当事項を記載した。

- ・特別な種の解説
- ・分布上特異な地域性，生態
- ・国内希少野生動植物種解説等で用いた用語

生息地と産地：生息地は種の生息環境あるいは生息する生態系を意味し，産地は種の生息が確認されている場所を意味する。

(火山性)一次草原：竹内亮(1934)，白水隆(1955,1966)両博士の学説による。竹内は“B型草原”にはないマツムシソウ，ホクチアザミが存在し，またツクシゼリ，アソノコギリソウなどを特徴的に生じる草原を“A型草原”とした。さらに白水は「A型草原は阿蘇水道を埋める火山性の大高原に展開した一次的な草原で，他の山岳地帯に二次的に森林が破壊されて出来たB型草原とは，その歴史と成因が異なる」とした。阿蘇・九重の地域は比較的新しい火山性の土壌の上に広範囲に広がる草原を展開しており，これを一次草原とする。

遺存種：氷河期，間氷期が繰り返した時代に，大陸や南方から移動した昆虫が，その後，局地的に生き残って分布している種をいう。

幼生期：変態の過程のうち，卵・幼虫・蛹の期間をいう。

食草：幼虫期の植物食性の種については樹木，草本の別なく，「食草」に統一した。

### 生危険性の主要因

- ・森林伐採
- ・池沼・湿地開発
- ・水田の基盤整備
- ・河川開発
- ・海岸開発
- ・草地開発
- ・土地造成
- ・観光開発
- ・道路工事
- ・ダム建設
- ・水質汚染
- ・農薬汚染
- ・管理放棄
- ・自然災害
- ・溪谷，湿地の乾燥
- ・不明

### 選定種の種名及び種の配列

種名は亜種分類まで，分布についても亜種レベルで記述した。学名及び種の配列は『九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター 日本産昆虫総目録』文献に従った。

## (2) 文献

大分昆虫同好会編 二豊のむし 1~37 (1976~2000)

環境庁編 動物分布調査報告書(大分県)(1979)

九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター 日本産昆虫総目録(1989)

白水 隆 蝶類雑記(1)九州において阿蘇九重熔岩地帯に特有な数種蝶類の分布型の成因 新昆虫(北隆館)(1955)

白水 隆 阿蘇・九重の昆虫相の特異性 阿蘇・九住の自然(六月社)(1966)

竹内 亮 耶馬溪及びその附近の草原植物の分布に就きて 耶馬溪彦山の植物景觀(耶馬溪鉄道株式会社)(1934)

蝶研出版 蝶類年鑑(1987~1996)

宮田 彬・三宅 武・野崎敦士・玉嶋勝範 大分県の鱗翅類(1999)

筑紫の昆虫・新筑紫の昆虫・北九州の昆虫・博多虫・KORASANA(以上福岡)，佐賀の昆虫(佐賀)，熊本昆虫同好会報(熊本)，宮崎の蝶(宮崎)，SATUMA(鹿児島)ほか(県外文献は多数に及ぶため省略)。

**モートンイトトンボ**  
*Mortonagrion selenion*  
(Ris)

トンボ目  
ODONATA  
イトトンボ科  
Agrionidae

**カテゴリー**

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 小規模の湿地に生息するが、湿地の乾燥化や開発による生息地の消滅が懸念される。

県内分布 玖珠町, 杵築市, 湯布院町, 宇目町, 佐伯市

分布域 北海道南端, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島, 中国北部, 沿海州

生息環境 標高のやや高い草原の湿地帯で、草丈の低い抽水植物の群生地。

現 状 限られた地域にのみ分布し、各生息地とも個体数が少ない。

**オツネントンボ**  
*Sympecma paedisca paedisca*  
(Eversmann)

トンボ目  
ODONATA  
アオイトトンボ科  
Lestidae

**カテゴリー**

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 止水の池沼周辺などに生息するが、どの生息地でも密度がかなり低い。市街地の拡大による生息地の減少や、汚水の流入などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 宇佐市, 山香町, 安心院町, 大分市, 佐賀関町

分布域 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・大分) 奥尻島, 佐渡島, 淡路島, 志岐, 対馬, 五島列島

生息環境 平地や低山地の挺水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水。

現 状 生息環境の悪化により個体数が減少している。

備 考 本県は分布の南限地。

**トゲオトンボ**  
*Rhipidolestes aculeatus aculeatus*  
Ris

トンボ目  
ODONATA  
トゲオトンボ科  
Megapodagrionidae

**カテゴリー**

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 特異な環境に生息しているため、森林伐採や林道開発などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 院内町, 安心院町, 別府市, 九重町, 竹田市, 緒方町, 三重町, 宇目町

分布域 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 石垣島, 西表島  
台湾

生息環境 森林に覆われた陰湿で苔むした岩肌に、水が浸み出ているような場所。

現 状 生息は局地的で、川のすぐ上流部まで護岸による改修が進み、個体数の減少した所がある。

## ムカシヤンマ

*Tanypteryx pryeri* (Selys)

トンボ目  
ODONATA  
ムカシヤンマ科  
Petaluridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 特異な環境に生息する。近年道路開発や宅地開発などにより生息地が狭められ、個体数の減少が著しい。

県内分布 | 山国町, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 中津江村, 庄内町, 野津原町, 大分市, 竹田市, 緒方町, 宇目町

分布域 | 本州 九州

生息環境 | 丘陵地から山地の傾斜地で、水がしたたり落ちるような所。

現 状 | 宅地開発や車道工事により、壊滅した生息地がある。

備 考 | 日本特産種。

## キイロサナエ

*Asiagomphus pryeri* (Selys)

トンボ目  
ODONATA  
サナエトンボ科  
Gomphidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内では生息密度が低く、河川の改修や生活排水の流入などによる環境悪化で、生息地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 | 耶馬溪町, 山香町, 九重町, 大分市, 庄内町, 野津原町, 大野町, 緒方町

分布域 | 本州 四国 九州 種子島

生息環境 | 河川上・中流域のゆるやかな流れ。

現 状 | 数年前までは川の上・中流域に生息していたが、生息環境の悪化により個体数の減少している所がある。

備 考 | 日本特産種。

## ウチワヤンマ

*Ictinogomphus clavatus*  
(Fabricius)

トンボ目  
ODONATA  
サナエトンボ科  
Gomphidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内各地の池に生息していたが、近年台湾ウチワヤンマに生息域を奪われ、徐々に個体数が減少している。

県内分布 | 中津市, 三光村, 宇佐市, 豊後高田市, 山香町, 大分市

分布域 | 本州 四国 九州  
朝鮮半島, 中国北・中部, 台湾, トンキン

生息環境 | 平地や丘陵地の挺水植物や浮葉植物が繁茂する広い池沼。

現 状 | 主に県北のため池に生息するが、個体数は多くない。

## アオサナエ

*Nihonogomphus viridis* Oguma

トンボ目  
ODONATA

サナエトンボ科  
Gomphidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	河川中流域のゆるやかな流れに生息するため、河川改修や生活排水の流入による生息環境の悪化で、個体数の減少傾向がみられる。
県内分布	日田市、中津市、大山町、宇佐市、山香町、九重町、臼杵市、三重町、本匠村、弥生町、直川村
分布域	青森県を除く本州、四国、九州
生息環境	平地や丘陵地、低山地の河川中流域。
現 状	川底の土砂を排出する改修工事により、著しく生息域が狭められている所がある。
備 考	日本特産種。

## オオルリボシヤンマ

*Aeshna nigroflava* Martin

トンボ目  
ODONATA

ヤンマ科  
Aeschnidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	生息は局地的であり、観光開発・土地造成などにより、環境の悪くなった生息地が生じてきた。
県内分布	天瀬町、玖珠町、九重町、庄内町、久住町
分布域	北海道、本州、九州、利尻島、佐渡島ほかの離島
生息環境	高地の湿原の滞水や挺水植物が繁茂する池沼。
現 状	近年、観光開発により、生息域が狭められている所がある。
備 考	日本特産種。

## ネアカヨシヤンマ

*Aeschnophlebia anisoptera* Selys

トンボ目  
ODONATA

ヤンマ科  
Aeschnidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由	生息地周辺の宅地化による生活排水の流入や、池沼の改修工事などによる生息環境の悪化で、個体数の減少が懸念される。
県内分布	中津市、宇佐市
分布域	茨城、千葉、埼玉、新潟より西の本州、四国、九州、伊豆大島、淡路島ほかの離島
生息環境	周囲に森林がある平地のヨシやガマなどが繁茂した池沼。
現 状	水田転作による用水池の放置や改修工事などで、生息個体数の極端な減少がみられる。

## キイロヤマトンボ

*Macromia daimoji* Okumura

トンボ目  
ODONATA  
ヤマトンボ科  
Macromiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

選定理由 | 生息地である河川域では、生活排水の流入や周囲の環境悪化により、生息地の消滅の危険性が高まっている。

県内分布 | 野津原町, 犬飼町

分布域 | 本州(福島県以南) 九州  
朝鮮半島南部

生息環境 | 低山地を流れる幅の広い清流の周辺。

現 状 | 河川域の水質汚染や環境悪化により、個体数が減少している。

## ハネビロエゾトンボ

*Somatochlora clavata* Oguma

トンボ目  
ODONATA  
エゾトンボ科  
Corduliidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 生息は局地的であり、観光開発や湿地の乾燥化による生息環境の変化で、絶滅の危険性が高まっている。

県内分布 | 山香町, 三重町

分布域 | 北海道 本州 四国 九州 佐渡島 淡路島 隠岐 対馬などの離島

生息環境 | 丘陵地や低山地の湿地や挺水植物が繁茂した池。

現 状 | 観光開発による湿地の陸化で、生息の確認が出来なくなった所がある。

備 考 | 日本特産種。

## オオエゾトンボ

*Somatochlora viridiaenea atrovirens*  
Selys

トンボ目  
ODONATA  
エゾトンボ科  
Corduliidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 湿地の埋立てや開発により生息地が失われ、絶滅の危険性が高まっている。

県内分布 | (中津市), 山香町

分布域 | 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分) 奥尻島 淡路島 隠岐

生息環境 | 丘陵地の挺水植物が茂る池沼や湿地。

現 状 | 小さな池や湿地の埋め立てにより、個体数が著しく減少している。「中津市」でかつて確認された生息地では、現在、その生息は把握されていない。

## ベッコウトンボ

*Libellula angelina* Selys

トンボ目  
ODONATA  
トンボ科  
Libellulidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

選定理由 全国的にも、その分布域・発生数とも著しく減少しており、県内では開発による池の埋め立てや生活排水の流入による汚染などで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 中津市，宇佐市，豊後高田市，大分市

分布域 本州(東北地方南部以南) 四国 九州(対馬を含む)  
朝鮮半島 中国北部から中部

生息環境 挺水植物が繁茂する平地や丘陵地の池沼。

現 状 県内では15か所で生息が確認されていたが、環境悪化により個体数が著しく減少している。

備 考 種の保存法による国内希少野生動植物種に指定(1994)。

## ハッチョウトンボ

*Nannophya pygmaea* Rambur

トンボ目  
ODONATA  
トンボ科  
Libellulidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 限られた地域のみで生息しており、周辺の開発による湿地の陸化で、生息地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 安心院町

分布域 本州 四国 九州

生息環境 日当たりのよい丘陵地の湿原や、浅い水たまりの湿地。

現 状 土砂の流れ込みにより、湿地が陸化して生息域が狭められた所がある。

## オオキトンボ

*Sympetrum uniforme* Selys

トンボ目  
ODONATA  
トンボ科  
Libellulidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

選定理由 限られた農業用水池に生息するため、農薬や生活排水などの流入による個体数の減少、生息地の消滅が懸念される。

県内分布 中津市，宇佐市，豊後高田市，大分市

分布域 本州 四国(瀬戸内側) 九州(福岡・大分)  
朝鮮半島 中国東北部・北部

生息環境 平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する開けた池沼。

現 状 生息地の周囲に果樹園やゴルフ場などがあり、農薬などの流入により個体数が減少している所がある。

## イトアメンボ

*Hydrometra albolineata* (Scott)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
イトアメンボ科  
Hydrometridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

**選定理由** 水田地帯は農薬や除草剤の使用，湿地や湿原は宅地や牧野の造成，さらに小河川は護岸工事でなだらかな水辺を失うなどして，生息地の消滅が懸念される。

**県内分布** 県内全域

**分布域** 本州 四国 九州  
朝鮮半島 中国 台湾

**生息環境** 水田畦畔，湿地，湿原，河川や湖沼の水辺。

**現 状** 主に県北の池沼や各地の河川および湿地に生息するが，個体数は減少している。

## エサキアメンボ

*Limnoporus esakii* Miyamoto

カメムシ目  
HEMIPTERA  
アメンボ科  
Gerridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

**選定理由** 池沼の改修工事で，重要な生息条件である挺水植物が除去され，生息地の環境が著しく悪化して，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 中津市，宇佐市

**分布域** 本州 九州

**生息環境** ヨシヤガマなどの生えた池沼の水際。

**現 状** 県北の特定の農業用水池に生息し，個体数は少ない。

## コオイムシ

*Diplonychus japonicus* Vuillefroy

カメムシ目  
HEMIPTERA  
コオイムシ科  
Belostomatidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

**選定理由** 県内の水田や河川で普通にみられた種で，1950年代の水田農薬多用により激減した。農薬や生活排水の影響による生息環境の悪化により，生息地の減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 中津市，宇佐市，玖珠町，野津原町，犬飼町，野津町

**分布域** 本州 四国 九州  
中国東北部 朝鮮半島 ソ連極東部

**生息環境** 水質汚濁のない川や池沼。

**現 状** 個体数は以前と比較にならないほど少なくなり，土木工事や廃棄物の投棄などにより，環境が悪化した生息地がある。

## タガメ

*Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
コオイムシ科  
Belostomatidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁

選定理由 | かつては県内全域に広く分布していたが、その後激減し、最近はほとんど生息が確認されず、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 | (日田市), (山香町), (杵築市), (大分市), 竹田市, 荻町

分布域 | 本州 四国 九州 沖縄  
アッサム 朝鮮半島 中国 台湾

生息環境 | 水田, 河川, 用水地など。

現 状 | 汚染のない山間部数か所で生息が知られていたが、「日田市」「山香町」「杵築市」「大分市」ではその後の生息が把握されていない。

備 考 | 1962年夏には大分市の川沿いの工場の外灯に多数飛来が続き、毎朝オート三輪車に一杯積んで捨ててに行く光景がみられた。

## ヒメミズカマキリ

*Ranatra unicolor* Scott

カメムシ目  
HEMIPTERA  
タイコウチ科  
Nepidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内での生息数はもともと少なく、池沼の干上がりや改修工事による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 | 中津市, 宇佐市

分布域 | 北海道 本州 四国 九州 沖縄  
朝鮮半島 中国 シベリア東部

生息環境 | 平野部の池沼。

現 状 | ゴミの投棄により環境が悪化した所がある。

## トゲナベブタムシ

*Aphelocheirus nawai* Nawa

カメムシ目  
HEMIPTERA  
ナベブタムシ科  
Aphelochiridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内の各河川に広く分布していたが、畜産汚水の流入や川石の採取および河川改修により、多くの河川で絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 | 宇佐市, 院内町, 安心院町, 日田市, 天瀬町, 大分市, 野津原町, 犬飼町, 三重町, 大野町

分布域 | 本州 九州  
朝鮮半島

生息環境 | 川石の多い, 流れのやや早い瀬。

現 状 | 生息地の把握できない所が多くなっている。

## アシトマキバサシガメ

*Prostemma higendorffi* Stein

カメムシ目  
HEMIPTERA  
マキバサシガメ科  
Nabidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 基盤整備や農薬の使用による害虫防除及び里山の荒廃などで、生息環境の悪化した生息地が生じてきた。

県内分布 宇佐市, 九重町

分布域 北海道 本州 四国 九州  
中国 シベリア東部 済州島

生息環境 平地から高原の乾燥地の地上, 草間, 石下など。

現 状 生息環境が狭められ, 個体数は少なくなっている。

## キバネアシトマキバサシガメ

*Prostemma kiborti* (Jakovlev)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
マキバサシガメ科  
Nabidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 希な種であり, リゾート開発や農地開発などで消滅する生息地が多くなり, 絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重町

分布域 本州 四国 九州  
シベリア東部 中国 中国東北部 朝鮮半島

生息環境 高原の未舗装の野道や裸地の畑。

現 状 野道の舗装化, 畑地の農業害虫防除, 大型機械による土地の掘り起こしなどにより, 生息地が狭められている。

## ハリサシガメ

*Acanthaspis cincticrus* Stal

カメムシ目  
HEMIPTERA  
サシガメ科  
Reduviidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 近年著しい個体数の減少がみられ, 圃場整備や宅地造成などによる生息地の減少や消滅も懸念される。

県内分布 日田市, 九重町, 大分市

分布域 本州 九州  
中国

生息環境 ササ類やチガヤの生えた畑の畦畔や裸地。

現 状 畑地にごく普通な種であったが, 近年著しく減少し, 生息地も少なくなっている。

## オオカモドキサシガメ

*Empicoris brachystigma* (Horvath)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
サシガメ科  
Reduviidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 農地や宅地造成及び帰化植物の繁茂などで、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 県内全域

分布域 本州 九州

生息環境 帰化植物やクズが進出していない草原や草地、道路の法面、河川の堤防など。

現 状 各地とも個体数の減少傾向がみられる。

## ビロウドサシガメ

*Ectrychotes andreae*  
(Thunberg)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
サシガメ科  
Reduviidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (安心院町), (庄内町), (大分市)

分布域 本州, 四国, 九州, 沖縄  
朝鮮半島, 中国

生息環境 低山地の畑や草地, 未舗装の道路沿い。

現 状 道路の舗装や側溝の整備によって生息条件は悪化し, その後, いずれの生息地もその生息は把握されていない。県内では1962年以後記録されていない。

備 考 ヤスデの天敵として知られている。

## クロバアカサシガメ

*Labidocoris insignis* Distant

カメムシ目  
HEMIPTERA  
サシガメ科  
Reduviidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (玖珠町), (湯布院町), (庄内町), (大分市)

分布域 本州 四国 九州

生息環境 低山地の草むらや未舗装の道路沿い。

現 状 1977年以降, いずれの生息地もその生息が確認されていない。

## シロヘリツチカメムシ

*Canthophorus nivemarginatus*  
(Scott)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
ツチカメムシ科  
Cydnidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

選定理由 火山性草原地帯のリゾート化，牧野改良，農耕地化，宅地化などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 別府市，湯布院町，天瀬町，玖珠町，九重町，庄内町，直入町，久住町，竹田市，荻町

分布域 本州 四国 九州  
中国中東北部，シベリア，朝鮮半島，フィンランド

生息環境 標高500m以上の火山性草原地帯。

現 状 野焼きの停止や，リゾート化により，生息環境である草原が消滅している。

## ベニツチカメムシ

*Parastrachia japonensis* (Scott)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
ツチカメムシ科  
Cydnidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息は照葉樹の自然林に限られ，個体数も少ない。森林伐採などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 日田市，玖珠町，庄内町，九重町，野津原町，大野町，三重町，緒方町，清川村，竹田市，宇目町

分布域 本州 九州  
濟州島

生息環境 林内のシイ・ヒサカキなどの葉上に群生。

現 状 平野部や低山地でほとんど生息が確認できず，標高の高い深山でも確認される個体数が少なくなっている。

備 考 すう光性が強く，人が近づくと音(鳴声)を発する習性がある。

## アカアシクチブトカメムシ

*Pinthaeus sanguinipes* (Fabricius)

カメムシ目  
HEMIPTERA  
カメムシ科  
Pentatomidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 牧野改良や農地造成，シイタケの原木伐採などで個体数が減少し，生息環境の変化が懸念される。

県内分布 耶馬溪町，山国町，玖珠町，湯布院町，別府市，九重町，久住町

分布域 本州 四国 九州  
朝鮮半島，中国，シベリア 欧州

生息環境 くじゅう火山性草原と疎林周辺及び英彦山山頂部の自然林。

現 状 生息地でも個体数は減少している。

## イカリモンハンミョウ

*Cicindela anchoralis* Chevrolat

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハンミョウ科  
Cicindelidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁

選定理由 蒲江町の自然海岸の一部に僅かな生息地があるが、環境が悪化し、生息地の消滅が懸念される。

県内分布 蒲江町

分布域 本州, 九州(大分・宮崎・鹿児島), 種子島  
中国南部, 台湾, ベトナム

生息環境 海岸の砂丘。

現 状 蒲江町波当津に唯一の生息地がみられる。

## ホソハンミョウ

*Cicindela gracilis* Pallas

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハンミョウ科  
Cicindelidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息地は火山のすそ野草原や疎林に散在する。観光開発や造成工事により生息範囲が狭められ、生息地の減少が懸念される。

県内分布 別府市, 九重町

分布域 本州, 四国, 九州(福岡・大分)  
シベリア, 朝鮮半島, 中国北東部

生息環境 明るい草原や疎林。

現 状 九重山群, 由布・鶴見山系のすそ野草原や疎林に局所的な生息地があり、個体数は少ない。

## ヨドシロヘリハンミョウ

*Cicindela inspecularis* W. Horn

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハンミョウ科  
Cicindelidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁

選定理由 分布は局地的で、河口域の生息地で消滅した所があり、絶滅の危機に瀕している。

県内分布 大分市, (佐伯市)

分布域 本州(瀬戸内海沿岸) 四国(瀬戸内海沿岸) 九州(大分) 種子島  
朝鮮半島 中国 台湾

生息環境 アシなどが自生する河口で、干潟ができる砂泥地。

現 状 大分市大野川河口と乙津川河口に狭い範囲の生息地がある。「佐伯市」に生息の記録があるが、現状不明。

備 考 瀬戸内海沿岸地域に特有の分布が知られていたが、近年鹿児島県種子島でも発見された。

## トウキョウヒメハンミョウ

*Cicindela kaleea yedoensis* Kano

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハンミョウ科  
Cicindelidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での分布は北部・西部地方に偏る。生息地が土の露出部であるため、庭の芝植えや露地の舗装による生息環境の変化が懸念される。

県内分布 日田市, 宇佐市, 日出町

分布域 本州 九州(福岡・大分)

生息環境 荒れ地や神社の境内などの土が露出している所。

現 状 人家の庭や山道などにもみられるが、個体数は減少している。

## カワラハンミョウ

*Cicindela laetescripta* Motschulsky

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハンミョウ科  
Cicindelidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

選定理由

県内分布 (大分市)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・大分・鹿児島)  
シベリア南東部, モンゴル, 中国, サハリン, 朝鮮半島, 濟州島

生息環境 海岸や河原の砂丘。

現 状 大分市南大分で1960年ごろ採集されたが、その後確認されていない。

## ルイスハンミョウ

*Cicindela lewisi* Bates

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハンミョウ科  
Cicindelidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

選定理由 九州での分布は非常に局地的であり、県内でも河口干潟に生息するが、分布域は狭く局地的。消滅した生息地もあり、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 (別府市), 大分市

分布域 本州(中部以西) 四国 九州  
朝鮮半島, 濟州島, 中国北部

生息環境 大きな川の河口の干潟。

現 状 大分市乙津川河口と大野川河口付近に狭い範囲の生息地がある。「別府市」の記録があるが、現状不明。

## クロカタビロオサムシ

*Calosoma maximowiczi*  
(Morawitz)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
オサムシ科  
Carabidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由	非常に希な種であり、近年生息の確認がほとんどなく、里山の荒廃による生息環境の悪化も懸念される。
県内分布	九重町, 別府市, 湯布院町, 緒方町
分布域	北海道 本州 四国 九州 シベリア東部 朝鮮半島 中国 台湾
生息環境	森林の林縁部の樹上で主にチョウ目の幼虫を捕食する。クヌギの樹液にも集まる。
現 状	近年は採集記録がほとんどみられない。

## セアカオサムシ

*Hemicarabus tuberculatus*  
(Dejean et Boisduval)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
オサムシ科  
Carabidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由	局地的な分布を示す種で、九州の生息地は、高原の草地や岩れき地に限られる。県内では、道路の開発や側溝の整備などによる生息環境の悪化で、生息地の消滅や減少が懸念される。
県内分布	九重町, 別府市, 湯布院町, 久住町
分布域	北海道 本州 四国 九州 シベリア 朝鮮半島 中国
生息環境	高原地帯の草原, れき地。
現 状	由布・鶴見山系のすそ野草原には、一部に比較的多産する場所もあるが、その他の生息地では非常に個体数が少ない。
備 考	後翅が退化した歩行性の甲虫で、九重山群山顶部に近い岩れき地で発見されたことがある。

## ウミホソチビゴミムシ

*Perileptus (Perileptus) morimotoi*  
S.Ueno

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
オサムシ科  
Carabidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

選定理由	河川改修工事や周辺の工業用地化による河口付近の生息環境変化により、生息地の消滅や減少が懸念される。
県内分布	大分市, 蒲江町
分布域	本州 四国 九州 奄美 南千島 朝鮮半島南部
生息環境	河口付近の潮間帯の水辺の石下。
現 状	河口付近で僅かな個体が確認されている。

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ  
*Canthydrus politus* (Sharp)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コツブゲンゴロウ科  
Noteridae

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 生息地が浅い池のため、埋め立てられる可能性が高く、生息地の消滅が懸念される。
- 県内分布 | 中津市，宇佐市
- 分布域 | 本州 四国 九州(熊本・大分・鹿児島)  
中国
- 生息環境 | 池沼の浅瀬の植物の多い水域。
- 現 状 | 県内で確認されている生息地は2か所のみであり、宇佐市の生息地では個体数が極めて少ない。

ヒメケシゲンゴロウ  
*Hyphydrus laeviventris* Sharp

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 産地はかなり局地的で個体数も少ない。平地の池が生息地であり、埋め立てにより消滅する恐れがある。
- 県内分布 | 中津市，蒲江町
- 分布域 | 本州 四国 九州(熊本・大分・鹿児島)
- 生息環境 | 池沼，放棄水田，湿地などの止水域。
- 現 状 | 県内では2か所の生息地が確認されている。

チャイロチビゲンゴロウ  
*Liodessus megacephalus*  
(Gschwendtner)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 生息地が海岸線のため、沿岸部の工事や開発による生息環境の変化が懸念される。
- 県内分布 | 大分市
- 分布域 | 本州 四国 九州(福岡・長崎・大分・宮崎) 南西諸島  
台湾 中国南部
- 生息環境 | 海岸線の塩水の混じるようなタイドプールや荒れ地の水たまり，湿地。
- 現 状 | 大分市の3か所で生息地が把握されている。

## コクロマメゲンゴロウ *Agabus insolitus* Sharp

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 山地の源流部に隔離分布し，県内の生息地の個体数は少ない。森林伐採などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 緒方町

分布域 本州 九州(熊本・大分・鹿児島)

生息環境 山地の清流の小さな水たまり。

現 状 県内の生息状況は，今の所安定している。

## ヒコサンセスジゲンゴロウ *Copelatus takakurai* M.Sato

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州にのみ分布し，局地的で個体数が少ない。県内では，所々に生息地がみられるが，開発による生息環境の変化が懸念される。

県内分布 中津市，安心院町，九重町，湯布院町

分布域 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)

生息環境 荒れ地の水たまりや一時的に雨水が溜まった所などの不安定な水域。

現 状 低山地から山地まで生息している。

## テラニセスジゲンゴロウ *Copelatus teranishii* Kamiya

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 分布は局地的，隔離的で，県内でも県北・県南地域に隔離分布しており，生息環境の変化が懸念される。

県内分布 中津市，姫島村，竹田市

分布域 本州 九州(福岡・大分) 対馬

生息環境 休耕田や一時的な水たまりなど。

現 状 中津市の休耕田と姫島村では，かなりの個体数が生息している。

## サワダマゲンゴロウ

*Platambus sawadai* (Kamiya)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 個体数が少なく、産地は局地的、隔離的である。流域の森林伐採などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 緒方町, 宇目町

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)

生息環境 河川上流の清流の石の間など。

現 状 緒方町, 宇目町では源流部に近い所に生息し、個体数は少ない。

## ゲンゴロウ

*Cybister jaoinicus* Sharp

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

選定理由 主に水田地帯に生息し、食物連鎖の上位であることから、農薬汚染による影響をもっとも顕著に受け、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重町, 玖珠町

分布域 北海道 本州 四国 九州 屋久島 壱岐  
シベリア 朝鮮半島 中国 台湾

生息環境 ヒルムシロ, オモダカなどの水生植物の生えた池沼や放棄水田, 湿地。

現 状 1960年代以降ほとんど生息が確認できなかったが、1990年代後半から、わずかながら生息が確認されている。

## コガタノゲンゴロウ

*Cybister tripunctatus orientalis*  
Gschwendtner

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

選定理由 かつては県内に広く分布していたが、池沼の減少と農薬による水質の悪化で生息地が狭まり、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 玖珠町, 大分市, 野津原町, 犬飼町, 三重町, 野津町

分布域 本州 四国 九州 南西諸島  
台湾 中国 朝鮮半島

生息環境 山間地域の水生植物の生えた池沼, 休耕田など。

現 状 主として山間部に生息地が点在し、個体数は減少している。

## マルガタゲンゴロウ

*Graphoderus adamsii* (Clark)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (大分県)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分)  
朝鮮半島 中国

生息環境 平地や丘陵地の休耕田・池沼などの水域。

現 状 県内分布は文献記録のみで、現状不明。

## スジゲンゴロウ

*Hydaticus satoi* Wewalka

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゲンゴロウ科  
Dytiscidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 |

選定理由

県内分布 (大分市)

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分・鹿児島) 対馬 大隅諸島 トカラ列島  
朝鮮半島 中国 台湾 フィリピン ポルネオ ビルマ ブータン ネパール、  
インド スリランカ

生息環境 ヒルムシロ、オモダカなどの水生植物の生えた池沼や休耕田、湿地。

現 状 1960年ごろ大分市で採集されて以来、組織的調査にもかかわらず、  
再発見に至っていない。

備 考 現在九州全域でも確認されておらず、全国でも静岡県伊東市(1988)  
の記録があるのみ。

## ツヤヒラタガムシ

*Agraphyrus narusei* (M. Sato)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ガムシ科  
Hydrophilidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 川の上流域やダムで局地的に確認される。流域の森林伐採や河川工事  
などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 佐伯市

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 川の上流部の清流。

現 状 県内では佐伯市で生息が確認されている。

## マルヒラタガムシ

*Enochrus subsignatus* (Harold)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ガムシ科  
Hydrophilidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では県北の池でのみ生息が確認されており，生息環境の変化による生息地や個体数の減少が懸念される。

県内分布 中津市

分布域 本州，四国，九州(熊本・大分)，沖縄  
台湾，中国

生息環境 池沼の浅瀬に植物が繁茂している水域。

現 状 県内では中津市で生息が確認されている。

## マルチビガムシ

*Pelthydrus japonicus* M.Sato

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ガムシ科  
Hydrophilidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での分布は隔離的であり，生息地も限られ，生育環境の変化が懸念される。

県内分布 山香町，湯布院町

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・鹿児島)

生息環境 池沼などの浅瀬に植物が繁茂している止水域。

現 状 山香町と湯布院町でわずかな個体が採集されている。

## コガタガムシ

*Hydrophilus hilineatus cashimirensis*  
Redtenbacher

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ガムシ科  
Hydrophilidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内ではごくわずかな生息地が確認されている。河川工事などによる生息地の消滅や減少が懸念される。

県内分布 宇目町

分布域 本州 四国 九州 沖縄  
台湾 中国 東南アジア ,カシミール ,インド ,スリランカ

生息環境 池沼などの浅瀬に植物が繁茂している止水域。

現 状 県内では宇目町で生息が確認されている。

## エゾアリガタハネカクシ

*Paederus parallelus* Weise

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハネカクシ科  
Staphylinidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 限られた生息地が観光開発などによって脅かされ、個体数が減少している。

県内分布 山国町，九重町，庄内町，久住町

分布域 北海道 本州 九州

生息環境 深山地の渓谷周辺の，明るい空間。

現 状 観光地化によって環境が変化し，個体数が激減した所がある。

## シラフハイロハネカクシ

*Phytolinus variegatus*

Sawada et Nakane

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハネカクシ科  
Staphylinidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 祖母山と九重山群の森林でわずかに採集されており，個体数が非常に少ない。生息環境の変化が懸念される。

県内分布 九重町，竹田市

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分)

生息環境 高地の森林帯で採集されているが，生態は不明。

現 状 祖母山と九重山群のわずかな記録のほかには，生息地が確認されていない。

## ネブトクワガタ

*Aegus laevicollis laevicollis*

E.Saunders

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
クワガタムシ科  
Lucanidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の分布域は限られ個体数も少ない。マツの枯死や森林伐採による生息環境の変化が懸念される。

県内分布 臼杵市，緒方町，三重町

分布域 本州 四国 九州 伊豆諸島 対馬 屋久島 種子島 トカラ列島 奄美諸島 中国

生息環境 幼虫はマツや常緑広葉樹の赤褐色に腐食土化した中に入り，成虫になると各種樹木の樹液のある場所に生息。

現 状 低山地に生息し，森林破壊の影響を強く受けている。

## オオクワガタ

*Dorcus hopei* (E.Saunders)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
クワガタムシ科  
Lucanidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

選定理由 主に平地の里山を生息地としており、樹木の伐採による大木の減少により個体数が減少し、絶滅の危険性が高い。

県内分布 宇佐市

分布域 北海道 本州 四国 九州 対馬  
朝鮮半島 中国

生息環境 幼虫は平地の腐朽した広葉樹の朽ち木に入り、成虫になると広葉樹の樹液のある場所に生息。

現 状 宇佐市の生息地でも、個体数は非常に少ない。

## ムネアカセンチコガネ

*Bolbocerosoma nigroplagiatum*  
(Waterhouse)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
センチコガネ科  
Geotrupidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 里山の都市化と牧草地や草原の荒廃により、生息地の減少が懸念される。

県内分布 九重町、湯布院町、別府市、大分市、久住町、犬飼町

分布域 北海道 本州(伊豆諸島を含む) 四国 九州(壱岐を含む)  
朝鮮半島

生息環境 山地の放牧場が隣接する草原地帯。

現 状 草原の管理が生息環境に影響を及ぼしており、生息地での個体数は減少している。

## アカマダラセンチコガネ

*Ochodaeus maculatus maculatus*  
Waterhouse

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的に希な種であり、県内でも個体数は非常に少なく、森林伐採や草地改良など環境の変化による生息地の消滅や減少が懸念される。

県内分布 九重町、湯布院町、庄内町、宇目町

分布域 本州 四国 九州 対馬 屋久島

生息環境 山地の草地が隣接する森の、木漏れ日が差し込むような場所。

現 状 生息地での個体数は減少している。

備 考 獣糞または植物のいずれを食すのか、食性は不明。黄昏時の飛翔活動など特異な生態をもつ。

## ゴホンダイコクコガネ

*Copris acutidens* Motschulsky

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 放牧場などの減少により個体数は減少している。生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 玖珠町, 九重町, 湯布院町, 別府市, 庄内町, 久住町, 緒方町, 直川村

分布域 北海道 本州 四国 九州 佐渡 五島  
朝鮮半島 中国

生息環境 山地, 低山地の獣糞(牛・犬)のある場所。

現 状 放棄される牧草地が増え, 糞虫である本種の生息域はかなり減少している。

## ダイコクコガネ

*Copris ochus* Motschulsky

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 主に牧場の牛馬糞に依存している種であるため, 放牧場の減少による生息地の減少傾向が懸念される。

県内分布 玖珠町, 九重町, 湯布院町, 久住町, 竹田市

分布域 北海道 本州 四国 九州 佐渡 伊豆諸島 沓岐 口永良部島 屋久島  
濟州島 朝鮮半島 シベリア東部 中国 モンゴル

生息環境 山地の放牧場の牛糞のある場所。

現 状 放棄される牧草地が増え, 個体数が減少した生息地が多い。

## ヒゲコガネ

*Polyphylla laticollis* Lewis

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 河川敷などに多数生息していたが, 河川改修工事などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 中津市, 山香町, 大分市, 野津原町, 臼杵市, 三重町

分布域 本州 四国 九州  
朝鮮半島 中国

生息環境 おもに河原の草地。

現 状 河川改修や宅地化により, 個体数が減少している生息地が多い。

## オオチャイロハナムグリ

*Osmoderma opicum* Lewis

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 幼虫は樹洞内の腐食土中で生育するため、大木の伐採により生息範囲がかなり狭められ、生育環境の変化が懸念される。

県内分布 別府市, 湯布院町, 九重町, 庄内町, 竹田市

分布域 本州 四国 九州 屋久島

生息環境 山地の樹洞や立ち枯れの木の中。

現 状 保存の良い森林の減少に伴い、生息域が狭められている。

## アカマダラコガネ

*Poecilophilides rusticola*  
(Burmeister)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 堆肥中で生育するため、堆肥の生産が著しく減少した今日では、生息地の消滅や減少が懸念される。

県内分布 中津市, 宇佐市, 山香町, 別府市, 大野町, 三重町

分布域 本州 四国 九州  
济州島 朝鮮半島 シベリア東部 中国 モンゴル

生息環境 低山地の雑木林。

現 状 以前はどこにでも生息していたが、近年ほとんどみられなくなっている。

## コカブトムシ

*Eophileurus chinensis chinensis*  
Faldermann

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
コガネムシ科  
Scarabaeidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 森林伐採や植林のため、生息に適した朽ち木などが減少し、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 宇佐市, 豊後高田市, 山香町, 玖珠町, 大分市, 挾間町, 大野町

分布域 北海道 本州 四国 九州 対馬 屋久島 琉球列島  
朝鮮半島 中国 台湾

生息環境 朽ち木や腐食土の中。

現 状 生息環境の悪化により、生息地での個体数は減少している。

## クロサワドロムシ

*Neorihelmis kurosawai* Nomura

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ヒメドロムシ科  
Elmidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では、近年確認された種で、非常に希。県内では護岸工事などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 九重町，庄内町，野津原町

分布域 本州，九州(大分・宮崎)

生息環境 川の上流部，清流の浅瀬。

現 状 九重山群一帯ほかの源流部付近の小川で生息が確認されている。

## ゴトウミゾドロムシ

*Ordobrevia gotoi* Nomura

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ヒメドロムシ科  
Elmidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では宮崎県と大分県の2か所しか生息が確認されていない。県内では護岸工事などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 宇目町

分布域 本州 九州(大分・宮崎) 対馬

生息環境 清流の浅瀬の水中。

現 状 宇目町の小川で生息が確認されている。

## フチトリヒメヒラタタムシ

*Anthaxia primorjensis*  
Obenberger

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
タムシ科  
Buprestidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (大分県)

分布域 北海道 本州 九州(大分) 対馬  
朝鮮半島 東シベリア

生息環境 コナラ・クヌギなどのナラ類を食樹とし，ノイバラの花に飛来。

現 状 1965年に採集された標本(国立科学博物館所蔵)があるだけである。

備 考 九州では大分県の1例のみが知られている。

## サツマウバタマムシ

*Chalcophora yunnana satzumae*  
Lewis

コウチュウ目  
COLEOPTERA

タマムシ科  
Buprestidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (宇佐市), (佐賀関町), (臼杵市)

分布域 本州 四国 九州 甌島 種子島 屋久島 北大東島

生息環境 平地のマツ林。

現 状 佐賀関町(1978), 臼杵市(1981), 宇佐市(1985)の記録があるが, その後記録が途絶えている。

## アヤムネスジタマムシ

*Chrysodema lewisii* E. Saunders

コウチュウ目  
COLEOPTERA

タマムシ科  
Buprestidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由

南方系の種で, 県内では海岸線沿いに分布している。生息地であるウバメガシを主体とするカシ類の林の減少による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 宇佐市, 津久見市, 米水津村

分布域 本州 四国 九州 沖縄  
台湾

生息環境 海岸線沿いの林。

現 状 宇佐市, 津久見市, 米水津村のそれぞれ1か所で生息が確認されている。

## アオタマムシ

*Eurythyrea tenuistriata* Lewis

コウチュウ目  
COLEOPTERA

タマムシ科  
Buprestidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (緒方町)

分布域 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生息環境 アカマツ・モミ・ツガの針葉樹林帯。

現 状 緒方町で1979年に採集されて以来, 確認されていない。

ツメアカナガヒラタタマムシ  
*Melanophila obscurata* Lewis

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
タマムシ科  
Buprestidae

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (山香町)

分布域 北海道 本州 九州(大分・宮崎・鹿児島)  
シベリア東部,サハリン 中国 朝鮮半島

生息環境 マツ科の針葉樹の枯れ枝。

現 状 1924年に山香町のエノキで採集され、その後確認されていない。

備 考 近年、全国的に採集記録がない。

クロマダラタマムシ  
*Nipponobuprestis querceti*  
(E.Saunders)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
タマムシ科  
Buprestidae

カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息地が少なく、個体数も非常に少ない種である。近年採集例がほとんどなく、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 安心院町, 別府市, (山香町)

分布域 本州 四国 九州  
中国中部

生息環境 平地から低山地の河川周辺のエノキ。

現 状 山香町では1927年に採集されていたが、最近安心院町でも採集された。別府市では近年、上翅のみ見つかった。

ギョウトクテントウ  
*Hyperaspis gyotokui* H.Kamiya

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
テントウムシ科  
Coccinellidae

カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国で福岡県と大分県にのみ分布し、非常に希な種である。県内の生息地は1か所のみであり、個体数も極めて少ない。生息環境が限られ、絶滅に瀕している。

県内分布 玖珠町

分布域 九州(福岡・大分)  
朝鮮半島

生息環境 高原の湿地帯。

現 状 玖珠町の湿原で、水草の葉上にみられた。

クロスジチャイロテントウ  
*Micraspis kiotoensis*  
(Nakane et M.Araki)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
テントウムシ科  
Coccinellidae

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	生息地の湿原は狭小な範囲に限られており、生息地の減少が懸念される。
県内分布	玖珠町，九重町
分布域	本州 九州(大分)
生息環境	草原の湿地帯。幼虫はアケボノソウの葉を食草とする。
現 状	九重町と玖珠町の湿原でのみ生息が確認されている。

トゲウスバカミキリ  
*Megopis formosana nipponica*  
Matsushita

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由	
県内分布	(佐伯市)
分布域	四国(愛媛・高知) 九州(大分・鹿児島) 台湾
生息環境	平地，低山地のカシ類を主体とした照葉樹林。
現 状	数十年前，佐伯市で1死体が採集され，九州初記録になったが，その後採集記録はない。
備 考	九州では大分県と鹿児島県の2例しか知られていない。

ケブカヒラタカミキリ  
*Nothorhina punctata* (Fabricius)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由	高原の観光地化による生息環境の悪化や，マツ林の減少による生息地の減少が懸念される。
県内分布	久住町，庄内町
分布域	本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎) 旧北区一帯
生息環境	高原の松並木の古木の樹幹。
現 状	クロマツの生木の樹皮下に生息している。

### イガブチヒゲハナカミキリ

*Corymbia igai* (Tamanuki)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

#### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 山地に局地的に分布し、個体数は少ない。ブナ・ツガ帯の森林伐採によって古木が減少し、生息地の減少が懸念される。

県内分布 竹田市, 緒方町

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

生息環境 自然林のブナ・ツガ帯森林。

現 状 祖母・傾山系では、ノリウツギの花に飛来する個体が確認されている。

### ヒラヤマコブハナカミキリ

*Enoploderes bicolor* Ohbayashi

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

#### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (庄内町), (九重町)

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分)

生息環境 木のウロの中。

現 状 九重町ではカエデの花上で、庄内町ではイタヤカエデの空洞内で採集された記録はあるが、その後両産地とも生息は確認されていない。

### クロサワハリグロハナカミキリ

*Eustrangalis anticereducta* Hayashi

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

#### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 九重町

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生息環境 渓谷でゴトウヅル・ミズキなどの花に飛来する。幼生期は不明。

現 状 九重町で1頭採集されている。

## ヒメヨツズジハナカミキリ

*Leptura kusamai*  
Ohbayashi et Nakane

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では非常に希な種である。県内でも個体数は少なく、山地に生息するため生息環境の変化が懸念される。

県内分布 緒方町，宇目町

分布域 本州 九州(熊本・大分・宮崎)

生息環境 ブナ帯に生息し、ノリウツギの花に飛来する。

現 状 個体数は少ないが緒方町と宇目町で生息が確認されている。

## キョウシュウヒメコブハナカミキリ

*Macropidonia japonica amanoi*  
Hayashi

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (竹田市)

分布域 九州(大分)

生息環境 カツラの古木が自生する山地帯の溪谷部。

現 状 全国的にも分布は大分県のみで、非常に希な種。竹田市の一部の山頂で、上昇気流にのった個体が採集されるが、近年の採集記録はない。

## ヒゲブトハナカミキリ

*Pachypidonia bodemeyeri* Pic

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では非常に個体数が少ない種である。県内での分布は山地帯の自然林に限られ、隔離分布するため、生息環境の変化が懸念される。

県内分布 九重町，庄内町，竹田市

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生息環境 朝夕にノリウツギなどの花に飛来。

現 状 林内ではブナの大木を這っている個体や、山頂では吹き上げによる個体が採集されている。

## オニホソコバネカミキリ

*Necydalis gigantea gigantea* Kano

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (耶馬溪町)

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎)

生息環境 幼虫の発生はクワの古木。

現 状 耶馬溪町で1976年に1頭記録されたのみ。

## クロサワヒメコバネカミキリ

*Epania septentrionalis* Hayashi

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 広葉樹の自然林に局地的に分布するが、環境の悪化した生息地がみられ、その減少が懸念される。

県内分布 (湯布院町), 庄内町

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分)

生息環境 自然林内やその周辺に生息し、クリなどの花に飛来する。ミズキ・クマノミズキが食草。

現 状 湯布院町ではクマノミズキの立ち枯れで発生していたが、発生木の消滅により、その後生息が確認されていない。庄内町ではごく少数の採集記録がある。

## ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ

*Glaphyra adachii*  
Takakuwa et Fujita

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州にのみ点々と分布し、非常に希な種である。県内では、食草などの伐採による生息地の環境悪化が懸念される。

県内分布 (別府市), 緒方町

分布域 九州(福岡・熊本・大分)

生息環境 低山地から山地。エゾエノキが食草。

現 状 別府市では最近生息が確認されていない。

スネケブカヒロコバネカミキリ  
*Merionoeda hirsuta*  
(Mitono et Nisimura)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (大山町), (玖珠町), (緒方町)

分布域 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生息環境 リョウブやカラスザンショウなどの花に飛来。ネムノキが食草。

現 状 上記の地域で採集されているが、その後の確認がされていない。

アカアシオオアカミキリ  
*Chloridolum japonicum* (Harold)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重町), (大分市), (朝地町), (竹田市)

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分)  
朝鮮半島 中国東北部

生息環境 クヌギなどの雑木林。

現 状 夜間街灯や灯火に飛来したものの記録はあるが、最近は全く確認されていない。

オオアカミキリ  
*Chloridolum thaliodes* Bates

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内での生息地は局地的で、森林伐採により、山地溪谷部の生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 宇目町

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎) 対馬  
朝鮮半島 中国北部

生息環境 幼虫の発生は山地帯のサワグルミなどの衰弱木や伐採木。

現 状 宇目町にごくわずかな生息地が確認されている。

## ヨコヤマトラカミキリ

*Epiclytus yokoyamai* (Kano)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的にも分布が限られ、県内でも個体数は非常に少なく、広葉樹林の伐採などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 別府市, 庄内町, 緒方町

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎)

生息環境 山地の広葉樹林。

現 状 個体密度は低く、成虫が野外で目撃されることは希である。

## ヤマトシロオビトラカミキリ

*Kazuoclytus lautoides* (Hayashi)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では大分県と鹿児島県にのみ隔離分布し、非常に希な種である。針葉樹林の伐採による生育環境の変化が懸念される。

県内分布 緒方町

分布域 本州 四国 九州(大分・鹿児島)

生息環境 モミ・ツガが自生する針葉樹林帯。

現 状 緒方町で生息が確認されているが、少ない。

## キジマトラカミキリ

*Xylotrechus zebratus* Matsushita

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重町)

分布域 本州 九州(大分)

生息環境 ツガなどの衰弱木や伐採木に飛来するほか、訪花することもある。

現 状 九重町で1973年に記録され、その後確認されていない。

## エゾトラカミキリ

*Cyrtophorus rosti* (Pic)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (緒方町)

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分)

生息環境 ブナ帯でハリギリが自生する林。ゴトウヅル・カエデなどの花に飛来する。

現 状 緒方町で記録されて以来、採集記録がない。

## モンクロベニカミキリ

*Purpuricenus lituratus*

Ganglbauer

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的に少ない種であり、県内では生育環境の変化で、個体数が激減しており、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 (日田市), 中津市, 別府市, 湯布院町, (佐伯市)

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分) 対馬  
朝鮮半島 中国 シベリア

生息環境 クヌギの切り株から出た新芽を好んで食し、またクヌギなどの伐採木に飛来する。

現 状 別府市では、以前多くの個体が見られたが、最近ほとんど見られない。「日田市」「佐伯市」ではその後確認されていない。

## マダラゴマフカミキリ

*Mesosa poecila* Bates

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では大分県にのみ分布し、非常に希な種。県内では自然林に局地的に分布するため、森林伐採などによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 九重町, 庄内町

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分)

生息環境 ブナ帯の自然林内。

現 状 九重山群の山頂と森林内で採集されている。

## ヒメビロウドカミキリ

*Acalolepta degener* (Bates)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 情報不足

選定理由 開発による湿原や湿地の減少で、生息地が狭められ、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 玖珠町, 湯布院町, 三重町

分布域 本州 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎)  
台湾 朝鮮半島 中国

生息環境 荒地や湿地草原。

現 状 湿地帯の草原に生息しているが、個体数は少ない。

## カラフトヒゲナガカミキリ

*Monochamus saltuarius*  
(Gebler)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (緒方町)

分布域 本州 四国 九州(大分)

生息環境 山地のアカマツ林。

現 状 緒方町で採集されているが、その後の生息は確認されていない。

## ムネホシシロカミキリ

*Olenecamptus clarus* Pascoe

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 クワ畑の減少によって、本種の生息域は非常に狭められ、個体数が減少しており、生息環境の変化が懸念される。

県内分布 庄内町, 清川村

分布域 北海道 本州 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)

生息環境 放置されたクワ畑や里山のクワの古木に発生。

現 状 生息地は狭い範囲に限られ、個体数は減少している。

## エゾナガヒゲカミキリ

*Jezohammus nubilus* Matsushita

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では非常に局地的な分布をしている。県内では生息地が二次林のため、伐採などの人為的影響を受けやすく、生息環境の変化が懸念される。

県内分布 緒方町，三重町，臼杵市

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

生息環境 二次林のニガキ自生地。

現 状 三重町では石灰岩台地のニガキを食草としており、生息範囲は狭い。

## ジュウジクロカミキリ

*Clytosemia pulchra* Bates

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では、食草のオニグルミが渓谷部で伐採されるなど、生息環境の悪化により、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 緒方町

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

生息環境 山地のクルミ類の枯れ枝上。

現 状 緒方町での分布は非常に限られている。

## フタモンアラゲカミキリ

*Rhopaloscelis maculatus* Bates

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (緒方町)

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分)

生息環境 山地の各種広葉樹の枯枝。

現 状 緒方町で1984年に採集され、その後記録がない。

## イッシキキモンカミキリ

*Glenea centroguttata* Fairmaire

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 里山が主な生息地のため、人為的影響を受けやすく、生息環境の変化が懸念される。

県内分布 庄内町，直入町，野津町，犬飼町，緒方町，宇目町

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
台湾 中国西部

生息環境 幼虫はヌルデを食草とし、成虫は里山のクワにみられる。

現 状 生息地では、各地とも個体数は少ない。

## ホソリンゴカミキリ

*Oberea nigriventris* Bates

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では局地的に分布し、生息地は伐採などの人為的影響を受けやすく、生息環境の変化が懸念される。

県内分布 湯布院町，庄内町，鶴見町，米水津村

分布域 本州 四国 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島) 対馬 屋久島  
台湾 中国 インドシナ 南アジア

生息環境 海岸線から山地に分布し、海岸部では林縁のサカキカツラやイケマ、山地ではツクシガシワが食草。

現 状 食草の生育状態の変化で生息状態が変わりやすく、個体数の減少した所がある。

## ブロイニングカミキリ

*Saperda ohbayashii* Podany

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では大分県にのみ分布し、極めて希な種。生息地は溪谷部の狭い範囲であり、生息環境の悪化で絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 九重町，緒方町

分布域 北海道 本州 九州(大分)

生息環境 溪谷部の落葉広葉樹林のケヤキの細枝。

現 状 県内では九重町と緒方町で生息が確認されている。

## アサカミキリ

*Thyestilla gebleri* (Faldermann)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
カミキリムシ科  
Cerambycidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 準

**選定理由** 全国的に分布域が狭く、希な種である。九州では大分県にのみ分布し、県内では観光開発や道路整備などによって生息地である湿地が消滅したり減少したりして、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 湯布院町, (緒方町)

**分布域** 本州 四国 九州(大分)  
東アジア

**生息環境** アザミ類が生育する草原の湿地。

**現 状** 緒方町では発見後の記録がない。湯布院町では少ないながら、最近も確認されている。

## カツラネクイハムシ

*Donacia katsurai* Kimoto

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハムシ科  
Chrysomelidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 情報不足

**選定理由** 九州では大分県にのみ隔離分布する。県内の生息地では、湿原の開発や乾燥化などによる環境悪化により、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 玖珠町

**分布域** 本州(兵庫) 九州(大分)

**生息環境** スゲ類・ホタルイ・サヤヌカグサなどが繁茂している湿原の止水域。

**現 状** 玖珠町の湿原で生息が確認されている。

## スゲハムシ

*Plateumaris sericea* (Linnaeus)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハムシ科  
Chrysomelidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 生息地、個体数ともきわめて僅少である。生息地の湿原環境の悪化により、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 玖珠町

**分布域** 北海道 本州 九州  
南千島 ,サハリン 朝鮮半島 ,シベリア ,中央アジア ,ヨーロッパ

**生息環境** スゲ類が繁茂している湿原の止水域。

**現 状** 玖珠町の湿原で生息が確認されている。

## クロカメノコハムシ *Cassida mongolica* Boheman

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ハムシ科  
Chrysomelidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州の熊本県と大分県にのみ分布し、非常に希な種である。県内でも極めて希である。観光開発の影響による生息環境の変化が懸念される。

県内分布 庄内町

分布域 九州(熊本・大分)

生息環境 草原のノアザミ。

現 状 庄内町で数例の採集記録がある。

## エノキミツギリゾウムシ *Eterozemus celtis* (Lewis)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ミツギリゾウムシ科  
Brentidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州にのみ分布し、非常に希な種である。生育地の生息環境の変化が懸念される。

県内分布 臼杵市

分布域 九州

生息環境 低山地のエノキの枯木。

現 状 県内では臼杵市で生息が確認されている。

## タカハシトゲゾウムシ *Dinorhopala takahashii* (Kono)

コウチュウ目  
COLEOPTERA  
ゾウムシ科  
Curculionidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (竹田市)

分布域 本州 四国 九州

生息環境 幼虫は林内のバラ科植物を食草とする。

現 状 竹田市でごく少数の個体が採集されているが、その後記録はない。

## ハラアカマルセイボウ

*Hedychrum gerstackeri japonicum*  
Cameron

ハチ目  
HYMENOPTERA  
セイボウ科  
Chrysididae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 人の住環境の激変により、山村などを除き、確認されなくなった。生息環境の変化が懸念される。

県内分布 | 県内全域

分布域 | 北海道 本州 九州  
中国北部 朝鮮半島

生息環境 | 板やシノ竹の多く使われた藁屋根と広葉樹の薪を何層も積み重ねて備蓄した場所。

現 状 | 好適な生息環境の減少により、種の維持は非常に難しくなっている。

## オオセイボウ 本土亜種

*Stilbum cyanurum pacificum*  
Linsenmairer

ハチ目  
HYMENOPTERA  
セイボウ科  
Chrysididae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 餌となるスズメバチが駆除されることによる、本種の生息環境への影響が懸念される。

県内分布 | 県内全域

分布域 | 本州, 四国, 九州

生息環境 | スズメバチに寄生。

現 状 | 危険だと駆除されるスズメバチの減少が、本種の減少をまねている。

## ルリモンハナバチ

*Thyreus decorus* (Smith)

ハチ目  
HYMENOPTERA  
コシブトハナバチ科  
Anthophoridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 個体数は著しく減少しており、農地開発やリゾート開発などによる生息地の消滅や減少が懸念される。

県内分布 | 玖珠郡, 九重町, 湯布院町, 別府市, 庄内町, 直入町, 久住町

分布域 | 本州 四国 九州  
朝鮮半島 中国 台湾 タイ マレー ヒマラヤ アッサム

生息環境 | 県内では火山性草原地帯。コトブトハナバチに寄生。

現 状 | 生息地の開発が、宿主(コシブトハナバチ)の生息と蜜源の減少を招き、本種の減少傾向の要因となっている。

## クロバネツリアブ

*Ligyra tantalus* (Fabricius)

ハエ目  
DIPTERA  
ツリアブ科  
Bombyliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 里山の環境変化や藁屋根の減少による生息環境の悪化により、個体数の減少が懸念される。

県内分布 県内全域

分布域 本州, 四国, 九州, 沖縄  
朝鮮半島, 中国, 台湾, 東南アジア

生息環境 各種昆虫の天敵であり、人家周辺に生息。

現 状 人家周辺の環境変化により、以前に比べ個体数が減少している。

## ベッコウハナアブ

*Volucella jeddona* Bigot

ハエ目  
DIPTERA  
ハナアブ科  
Syrphidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 高原の農地改良やリゾート開発によって、個体数の減少がみられ、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 庄内町, 九重町

分布域 北海道, 本州, 四国, 九州  
ソ連極東部

生息環境 火山性原野の林辺。

現 状 観光開発などによる生息環境の悪化で個体数が減少している。

## エサキマダラ

*Clelea esakii* Inoue

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
マダラガ科  
Zygaenidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的にも数か所にのみ分布し、九州では対馬を除き、大分県にのみ分布している。海岸部に生息しており、生息環境の変化が懸念される。

県内分布 蒲江町

分布域 本州(和歌山・大阪), 四国(香川), 九州(大分), 対馬

生息環境 海岸部の暖帯林。

現 状 海岸に近接した低山地斜面に生息していると推定される。

備 考 日本特産種。

## ベニイラガ

*Demonarosa rufotessellata issiki*  
(kawazoe et Ogata)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
イラガ科  
Limacodidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (佐伯市)

分布域 四国 九州(熊本・大分・鹿児島) 屋久島,トカラ列島(中之島) 沖縄本島,西表島

生息環境 海岸部の暖帯林。

現 状 1950年代に佐伯市で記録がある。近辺の海岸林には生息している可能性があるが、1980年以降の調査では再発見できなかった。

備 考 別亜種が台湾に分布。

## ギンイチモンジセセリ

*Leptalina unicolor*  
(Bremer et Grey)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
セセリチョウ科  
Hesperiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 生息地が開発や河川改修工事などによって狭められ、個体数が減少し、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 前津江村,日田市,天瀬町,本耶馬溪町,玖珠町,九重町,別府市,湯布院町,庄内町,大分市,久住町,直入町,竹田市,朝地町,大野町,清川村

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) シベリア ,アムール ,ウスリー 朝鮮半島 ,中国北部

生息環境 火山草原や低山地丘陵部の草原,河川周辺の草地など,いずれも明るい乾燥草原。イネ科植物が食草。

現 状 火山性草原では生息地の草原が狭められ,河川部では草地が減少し,各地とも個体数が減少している。

## スジグロチャバネセセリ

*Thymelicus leoninus leoninus*  
(Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
セセリチョウ科  
Hesperiidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

選定理由 分布が限られ,個体数も少ない種である。県内では九重山群で,生息地が開発によって狭められ,生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 前津江村,九重町,庄内町,久住町,竹田市,緒方町

分布域 北海道 本州 九州(熊本・大分・宮崎) アムール 朝鮮半島 ,中国

生息環境 山地の樹林と草地の境に生息し,林縁部のイネ科植物が食草。

現 状 津江山系,九重山群,祖母・傾山系のごく一部に生息地が点在する。

## ツマグロキチョウ

*Eurema laeta betheseba* (Janson)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シロチョウ科  
Pieridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁

**選定理由** 普遍的な種であったが、最近10数年、急激に個体数が減少し、全国的に絶滅が危惧されている。県内でも安定した生息地は少なくなり、生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** ほぼ県内全域

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 南西諸島 朝鮮半島 中国 台湾

**生息環境** 河川敷、堤防の草地や荒地。カワラケツメイが食草。

**現 状** 河川改修工事、草地の開発などにより、発生数が減少している所がある。

## スジボソヤマキチョウ

*Gonepteryx aspasia nipponica*  
Bollow

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シロチョウ科  
Pieridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州ではかなり広く分布する。九州では分布が局限され、個体数も極めて少ない。県内では九重山群と祖母山の限られた高地に分布し、生息環境の変化で絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 九重町、久住町、竹田市

**分布域** 本州 四国 九州(熊本?・大分・宮崎)

**生息環境** 山地の溪流沿いや樹林の林縁。クロウメモドキ科を食草とする。

**現 状** 祖母山、九重山群で1950年代に採集され、その後記録は途絶えたが、1986年に祖母山で採集されている。

## ヒメシロチョウ

*Leptidea amurensis* (Menetries)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シロチョウ科  
Pieridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

**選定理由** 高原草地の観光開発、草地改良などによって、本来の火山性一次草原が失われたため、生息地が著しく狭められ、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 天瀬町、玖珠町、九重町、久住町、直入町、湯布院町、竹田市

**分布域** 北海道 本州 九州(熊本・大分)  
アムール 朝鮮半島 中国

**生息環境** 九州では阿蘇・九重の火山性一次草原。ツルフジバカマが食草。

**現 状** 久住高原・飯田高原では食草の生育する草地が非常に少なくなり、個体数は1980年以降、急激に減少している。

### スギタニルリシジミ 九州亜種

*Celastrina sugitanii kyushuensis*  
Shirozu

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

#### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 県内では分布地は局限され、山地の渓谷部の伐採によって食草が減少し、個体数の減少傾向がみられる。生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 | 九重町，庄内町，竹田市，緒方町，宇目町

分布域 | 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 | 九州ではキハダ，ミズキがおもな食草であり，これらが生育する渓谷の森林。

現 状 | 祖母・傾山系と九重山群の渓谷部に生息は限られ，個体数は非常に少なくなっている。

備 考 | 原名亜種(本州，四国)，北海道亜種がある。

### ヒサマツミドリシジミ

*Chrysozephyrus hisamatsusanus*  
(Nagami et Ishiga)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

#### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 | (緒方町)

分布域 | 本州(中部地方以西)，四国，九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 | 暖帯林～暖温帯林。ウラジロガシ，イチイガシが主な食草として知られる。

現 状 | 祖母・傾山系の山麓部の谷に生息の可能性が残っているが，緒方町では発見当時の森林が伐採されて姿を変えてしまっており，非常に厳しい現状にある。

### タイワンツバメシジミ 本土亜種

*Everes lacturnus kawaii*  
Matsumura

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

#### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

選定理由 | 南方系の遺存種と考えられ，局地的な分布を示す。生息地が草原化したり雑木林の進出により生息環境が悪化し，個体数が激減し，絶滅の危機に瀕している。

県内分布 | (日田市)，(杵築市)，(佐賀関町)，臼杵市，(野津町)，蒲江町

分布域 | 本州(和歌山)，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，甌島 種子島 屋久島

生息環境 | 低山地の里山の路傍や伐採地，耕作地などの食草であるシバハギの群生地。

現 状 | 臼杵市と蒲江町を除いて近年の記録がない。

## ウラクロシジミ

*Iratsume orsedice orsedice* (Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 祖母・傾山系と九州中央山地が九州における限られた生息地であり、本県の個体数は少ない。森林伐採による生息環境の悪化や、人の採集による個体数の減少が懸念される。

**県内分布** 竹田市, 緒方町

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 急峻な谷筋や岩稜地に生息し、標高1,000m以上の高地のマンサクが食草。

**現 状** 生息地となっている森林はよく保全されているが、個体数は減少している。

## ゴマシジミ 中国地方・九州亜種

*Maculinea teleius kazamoto*  
(H.Druce)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

**選定理由** 生息地である高原草地は、野焼きの停止による放置や開発によって、生息環境が変わり、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 天瀬町, 玖珠町, 九重町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 久住町

**分布域** 本州 九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 火山裾野の高原の明るい草地。中令幼虫まではワレモコウを食草とし、その後、シワクシケアリの巣に運ばれ、アリの幼虫を食べて巣中で成長する。

**現 状** 九重山群の草原では開発ほかによって激減しているが、由布岳一帯では個体数は少ないものの、比較的安定している。

**備 考** 日本産を6亜種に分類する学説によった。国外では南千島、樺太にも分布する。

## ミドリシジミ

*Neozephyrus japonicus* (Murray)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州では九重山群と阿蘇地方の一部にのみ分布する。観光開発と農地化のため、生息地が非常に狭められ、その減少や消滅が懸念される。

**県内分布** 九重町, 庄内町, 久住町, 直入町

**分布域** 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分)  
南千島 ,アムール ,ウスリー ,カラフト 朝鮮半島 ,中国東北部

**生息環境** 高原の湿地, 小川沿いのハンノキの林が主な生息地。森林帯のヤマハンノキでも少数が発生。

**現 状** 高原の生息地は環境改変によって非常に狭められ、局所的に残るだけとなっている。

## クロシジミ

*Niphanda fusca* (Bremer et Grey)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

選定理由 主な生息地である草原疎林や荒地草原が、近年の観光開発、宅地開発などによって大きく姿を変え、生息地の減少や消滅により、絶滅の危険性が高い。

県内分布 前津江村、日田市、天瀬町、本耶馬溪町、耶馬溪町、山香町、九重町、別府市、湯布院町、庄内町、大分市、久住町、竹田市、宇目町

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 対馬 アムール、ウスリー 朝鮮半島 中国

生息環境 草原疎林や荒地、堤防草地など。幼虫は2令以降、クロオオアリに運ばれてアリの巣中で成育する。

現 状 多産地であった由布・鶴見一帯の高原や九重山群は、開発によって非常に少なくなった。そのほかの産地でも、極めて希。

## ルーミスシジミ

*Panchala loomisi* H.Pryer

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

選定理由

県内分布 (三光村)

分布域 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 隠岐 屋久島

生息環境 食草のイチイガシ、ウラジロガシを主体とする暖帯照葉樹林。

現 状 1950年に三光村で発見されたが、その後の記録はない。

備 考 ほぼ県内全域の暖帯照葉樹林を20年間にわたって組織的に調査したが、発見できていない。

## ヒメシジミ 本州・九州亜種

*Plebejus argus micrargus*  
(Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 準

選定理由

県内分布 (九重町)、(久住町)、(庄内町)

分布域 本州 九州(大分)

生息環境 九州では火山性一次草原の、マアザミ群落のある湿地。

現 状 局所的な多産地であった飯田高原吉部地区は、農用地開発公団による大規模農地化のため、1984年を最後に、その後の発生がみられない。

## オオルリシジミ

*Shijimiaeoides divinus barine*  
(Leech)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 |

選定理由

県内分布 (玖珠町), (九重町), (久住町)

分布域 本州(東北地方, 中部地帯), 九州(熊本・大分)

生息環境 明るい草原, とくに火山草原。幼虫はクララを食草とする。

現 状 県内では, 1970代前半の, 記録が最後である。

## カラスシジミ

*Strymonidia w-album fentoni*  
(Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内に広く分布しているが, 生息地である河川上・中流域の河畔林が, 堤防工事などの河川改修工事によって消失し, 生息域が狭められ, 生息地の減少が懸念される。

県内分布

中津江村, 日田市, 耶馬溪町, 三光村, 安心院町, 玖珠町, 別府市, 庄内町, 挾間町, 野津原町, 大分市, 直入町, 竹田市, 朝地町, 緒方町, 三重町, 野津町, 臼杵市, 宇目町

分布域

北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
国後, カラフト, 朝鮮半島

生息環境

河川沿いのハルニレ。オヒョウがあれば山地の森林にも生息。

現 状

県内の分布は, いずれも河川上・中流部に点在する生息地であり, 個体数は少なくなっている。

## クロツバメシジミ

*Tongeia fischeri* (Eversmann)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 準

選定理由

道路法面のコンクリート吹き付け工事や河川改修工事などによる生息地の環境変化や食草の人による採取などによって, 個体数が激減し, 絶滅に瀕している。

県内分布

山国町, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 中津市, 院内町, 安心院町, 山香町, 玖珠町

分布域

本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島), 香岐, 対馬, シベリア, カラフト, 朝鮮半島, 中国

生息環境

低山地の比較的明るい岩場や河原などの露岩がある場所。ツメレンゲほかのベンケイソウ科植物を食草とする。

現 状

生息環境が限られるため, 分布は点在し, 局限される。

備 考

北部九州には, 沿岸部岩場のタイトゴメやイワレンゲなどを食草とする分布が知られるが, 大分県には例がない。

## ウラミスジシジミ *Wagimo signatus* (Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 主な生息地である火山高原のカシワ、クヌギ、コナラの疎林が、観光開発によって急激に失われており、生息地は狭められて、生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 九重町, 別府市, 庄内町, 久住町

**分布域** 北海道 本州 九州(熊本・大分)  
アムール, ウスリー 朝鮮半島 中国

**生息環境** 火山草原の疎林地帯。卵はクヌギ、コナラのほかカシワ、ミズナラからも希に発見される。

**現 状** 主要な生息地である飯田高原一帯は大きく環境を変え、生息地は分断されて僅かに点在し、個体数は激減している。

**備 考** 九州では、九重山群一帯が唯一の生息地。

## シルビアシジミ 本土亜種 *Zizina otis emelina* (de l'Orza)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シジミチョウ科  
Lycaenidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

**選定理由** 全国各地で減少傾向がもっとも著しい種のひとつ。県内の生息地は開発や河川改修などの人為的な影響を強く受け、個体数は減少の一途をたどり、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 日田市, 天瀬町, 本耶馬溪町, 中津市, 宇佐市, 玖珠町, 九重町

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 五島 志岐,  
対馬 種子島

**生息環境** 火山性草原や河川堤防、河川敷の草地。背丈の低いシバ草原に生えるミヤコグサが食草。

**現 状** 近年、県内の生育地は狭小化し、その生息が確認されるのは数か所に限られる。

## オオウラギンヒョウモン *Fabriciana nerippe* (C. et R. Felder)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
タテハチョウ科  
Nymphalidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

**選定理由** かつて西日本では平地から山地の草原に少なくなかったが、近年、急激に減少し、安定した生息地は自衛隊演習地などの限られた草原の数か所となり、生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 日田市, 前津江村, 天瀬町, 本耶馬溪町, 玖珠町, 九重町, 杵築市,  
別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 竹田市, 臼杵市, 緒方町, 宇目町

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
朝鮮半島 中国

**生息環境** 日当たりの良い草地, 草原。スマレ(*Viola mandshurica*)が唯一の食草。

**現 状** 県内に広く分布していたが、近年は極めて希となっている。

## ミスジチョウ

*Neptis philyra excellens* Butler

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
タテハチョウ科  
Nymphalidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 西日本では個体数の少ない種である。県内では生息地である山地溪谷部の伐採によって生息環境が悪化し、生息地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 山国町, 耶馬溪町, 庄内町, 大分市, 竹田市, 臼杵市, 緒方町, 清川村, 宇目町

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎) 対馬

生息環境 山地溪谷部。カエデ類を食草とする。

現 状 耶馬溪地方, 祖母・傾山系で希に生息が確認される。

## ホシミスジ

*Neptis pryeri pryeri* Butler

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
タテハチョウ科  
Nymphalidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州では希な種であり、県内でも平地から山麓部里山の生息地の開発により、個体数が少なくなり、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪町, 安心院町, 九重町, 山香町, 杵築市, 国見町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 直入町, 竹田市, 臼杵市, 野津町, 佐伯市

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)  
中国

生息環境 里山の林縁部。シモツケや石灰岩地域のイブキシモツケを食草とし、市街地の園芸種のコデマリやユキヤナギも食草とする。

現 状 別府市, 大分市などの市街地では、近年ほとんど確認されず、低山地でも個体数は非常に少なくなっている。

## シータテハ

*Polytonia c-album hamigera*  
(Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
タテハチョウ科  
Nymphalidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 生息地である保存の良い森のある溪谷が観光開発や樹木伐採によって少なくなり、個体数の減少が著しく、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 九重町, 湯布院町, 庄内町, 久住町, 竹田市, 緒方町

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
カラフト

生息環境 山地溪谷の河畔林のハルニレ, 一部では深山地のオヒョウを食草とする。

現 状 九重山群, 祖母・傾山系の谷筋などでは、少ないながらも生息が確認されている。

## オオムラサキ

*Sasakia charonda charonda*  
(Hewitson)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
タテハチョウ科  
Nymphalidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

選定理由 河川改修，河川上流部の伐採とスギ・ヒノキ植林などによる生息環境の悪化で，個体数の減少が懸念される。

県内分布 国東半島部と県南沿岸地方を除く県内全域

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 渓谷や河畔林のエノキ，林内のエゾエノキを食草とし，冬季は食草の根元の落葉下で幼虫越冬する。

現 状 食草のエノキは雑木として伐採されることも多く，市街地周辺の里山では生息を確認することが少なくなっている。

備 考 日本の国蝶。

## キマダラモドキ

*Kirinia epaminondas* (Staudinger)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ジャノメチョウ科  
Satyridae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 準

選定理由 局地的な分布を示す種で，生息地が観光開発や里山環境の変化などで狭められ，個体数の減少傾向が懸念される。

県内分布 日田市，前津江村，中津江村，玖珠町，九重町，別府市，湯布院町，庄内町，大分市，久住町，竹田市，臼杵市

分布域 北海道 本州 四国 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)  
アムール，ウスリー 朝鮮半島 中国東北部

生息環境 山地のカシワ疎林から低山地のクヌギ・コナラ二次林。食草はイネ科，カヤツリグサ科の植物。

現 状 都市近郊の里山では，近年ほとんど生息が確認できず，山地でも個体数が減少している。

## クロヒカゲモドキ

*Lethe marginalis* (Motschulsky)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ジャノメチョウ科  
Satyridae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁

選定理由 全国的に分布が局限される種で，県内でも個体数が少なく，スギ植林や開発などによる生息地の消滅で，絶滅の危険性が高い。

県内分布 前津江村，中津江村，九重町，湯布院町，庄内町

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分)  
アムール，ウスリー 朝鮮半島 中国

生息環境 山地のクヌギ，コナラなどの雑木林。下草のイネ科植物を食草とする。

現 状 県内に点在する生息地では，個体数が激減している。飯田高原はかつて多産地であったが，近年生息を確認することは極めて希。

## ウラナミジャノメ

*Ypthima motschulskyi nipponica*  
Murayama

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ジャノメチョウ科  
Satyridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁

- 選定理由 | 全国的に個体数が減少している。県内では個体数が少なくなっており、里山の生息環境の悪化が懸念される。
- 県内分布 | 前津江村，日田市，本耶馬溪町，耶馬溪町，中津市，天瀬町，玖珠町，九重町，杵築市，別府市，湯布院町，庄内町，挾間町，野津原町，大分市，竹田市
- 分布域 | 本州(神奈川県以西) , 四国 , 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) , 徳島 , 対馬 , 五島  
朝鮮半島 , 中国
- 生息環境 | 低陵地や低山地の明るい環境の草地，林縁部。カヤツリグサ科植物が食草として知られるが，イネ科植物も食草となっている。
- 現 状 | 県内に広く分布するが，いずれの地でも生息範囲は限られ，近年，個体数が少なくなっている。

## オオツバメエダシャク

*Amblychia angeronaria* Guenee

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シャクガ科  
Geometridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 県内での生息地は，わずかである。森林伐採による生息環境の変化が懸念される。
- 県内分布 | 直川村，宇目町
- 分布域 | 本州(奈良・和歌山・三重・山口) , 四国南部 , 九州(福岡・熊本・大分) , 対馬 , 屋久島 , 徳之島 , 西表島  
中国 , 台湾 , インド - マレー地区 , ニューギニア
- 生息環境 | 照葉樹林。
- 現 状 | 照葉樹林の消滅に伴い，生息地が減少している。

## キイロミモンエダシャク

*Eilierinia parvula* Wehrli

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シャクガ科  
Geometridae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由 | 国内の産地がわずか数か所と少なく，県内でもごくわずかの生息地が確認されている。森林伐採で生息環境の変化が懸念される。
- 県内分布 | 香々地町，蒲江町
- 分布域 | 本州(和歌山・山口) , 四国(小豆島) , 九州(大分) , 対馬  
中国南部
- 生息環境 | 海岸部の照葉樹林。
- 現 状 | 生息環境は，今の所変化がみられない。

## ミヤケカレハ

*Takanea miyakei* (Wileman)

チョウ目  
LEPIDOPTERA

カレハガ科  
Lasiocampidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (緒方町)

分布域 本州(関東～中部地方) 四国 九州  
中国(雲南省) 台湾

生息環境 高地の森林。

現 状 1950年代に傾山で採集されているが、その後、生息が確認されていない。

備 考 九州の高地、四国高地及び本州の紀伊半島高地に生息するものは本州の個体群と異なる特徴を有するので別亜種*excisa*として扱われることがある。

## ヒサゴスズメ

*Mimas christophi* (Staudinger)

チョウ目  
LEPIDOPTERA

スズメガ科  
Sphingidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重町)

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 ,サハリン ,シベリア南部

生息環境 ハンノキを食草とする。

現 状 九重山地から古く記録されたスズメガで、その後半世紀にわたって生息が確認されていない。

備 考 九州では高地で2例の記録がある。

## ヒメスズメ

*Deilephila askoldensis*  
(Oberthur)

チョウ目  
LEPIDOPTERA

スズメガ科  
Sphingidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 全国的に特異な分布をするが、県内では広く分布し、生息地での個体数は少なくない。生息環境が草原のため、その生息環境の変化が懸念される。

県内分布 久住町, 庄内町, 朝地町, 宇目町, 竹田市

分布域 北海道 本州 四国 九州(熊本・大分)  
朝鮮半島 ,シベリア南部

生息環境 九重山系の一次草原。キバナカワラマツバが食草。

現 状 久住町では個体数は少なくない。

## アカシャチホコ

*Gangaridopsis citrina* (Wileman)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
シャチホコガ科  
Notodontidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (九重町), (緒方町)

分布域 本州(青森県まで) 四国(高知) 九州(大分)

生息環境 ブナ, ミズナラ帯。マンサクが食草。

現 状 九重山(1959)と祖母山で記録されているが、その後の生息は確認されていない。

## トラサンドクガ

*Euproctis torasan* (Holland)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ドクガ科  
Lymantriidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (久住町)

分布域 本州(静岡以南) 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)

生息環境 一次草原の植生が維持されている草地。

現 状 人工牧野の拡大による生息地の消失や縮小, 及び牧草の種の変化など, 生息環境の変化が大きい。最近では生息が確認されていない。

## キバネモンヒトリ

*Spilarctia luteum japonicum*  
(Rothchild)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヒトリガ科  
Arctiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 本州中部草原と共通する旧北区系の種であり、県内では一次草原に生息している。生息地に外国産の牧草が導入されることによる生息環境の変化が懸念される。

県内分布 玖珠町, 久住町, 庄内町, 九重町

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分)  
ヨーロッパ, 中国東北, シベリア南部

生息環境 九重山群の一次草原。

現 状 久住高原を除いては、個体数は少ない。

## ツマアカキヨトウ

*Mythimna inornata* (Leech)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (庄内町)

分布域 北海道 本州(中部～東北地方まで) 九州(大分)

生息環境 九重山群の一次草原。

現 状 県内では庄内町で採集記録がある。最近は生息が確認されていない。

## アカバキヨトウ

*Mythimna rufipennis* Butler

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 県内では主として一次草原に分布し、草原開発に伴う生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 玖珠町, 九重町, 久住町, 緒方町

分布域 北海道 本州 九州(熊本・大分)  
沿海州 朝鮮半島

生息環境 内陸や盆地の一次草原。

現 状 県内の生息地は局部的であるが、存続している。

## ウスイロキヨトウ

*Mythimna inalis* (Oberthur)

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 旧北区系の蛾であり、隔離分布を示す。九州では大分県にのみ分布し、生息域の開発による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 久住町

分布域 北海道 本州中部 九州(大分)  
沿海州

生息環境 一次草原。

現 状 生息地では、近年生息環境が悪化している。

## ブンゴキヨトウ

*Mythimna percussa* Butler

チョウ目  
LEPIDOPTERA

ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (佐伯市)

分布域 九州(大分)  
台湾

生息環境 河口の低湿地。

現 状 佐伯市の河口部は、この蛾が採集された当時と比べると著しく変化している。1956年に佐伯市で数頭採集された以外は、国内の記録はない。

備 考 偶産種ではなく、河口の低湿地群落に生息していたものと考えられる。

## ナカスジキヨトウ

*Mythimna flammea* (Curtis)

チョウ目  
LEPIDOPTERA

ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (宇佐市)

分布域 北海道 本州 四国 九州(佐賀・大分)  
ユーラシア大陸

生息環境 低地の沼沢地。

現 状 県内では1980年代半ばまで宇佐市で生息が確認されているが、それ以降は記録がない。

## スミレモンキリガ

*Sugitania akirai* Sugi

チョウ目  
LEPIDOPTERA

ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州でも分布が限られ、県内では庄内町でのみ記録されている。森林伐採による生息環境の変化が懸念される。

県内分布 庄内町

分布域 本州(東京・大阪) 四国(徳島) 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)

生息環境 山地の落葉樹林。

現 状 生息地の環境は現在のところ、特に問題はない。

## ナマリキシタバ

*Catocala columbina* Leech

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (宇佐市)

分布域 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分)  
中国南部

生息環境 石炭岩地帯のシモツケ属植物が生育する岩場。イワガサが食草。

現 状 県内では宇佐市で記録されているが、その後確認されていない。

## オニベニシタバ

*Catocala dula* Bremer

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (庄内町) , (九重町)

分布域 北海道 本州 四国(高知) 九州(佐賀・長崎・大分)  
沿海州 ,サハリン 朝鮮半島 中国北部

生息環境 高地の落葉樹林。

現 状 1940年代に九重町で採集されたと思われるラベルのない標本が残っている。1980年代に庄内町でごく少数採集された。それ以降は確認されていない。

## クロシオキシタバ

*Catocala kuangtungensis* Mell

チョウ目  
LEPIDOPTERA  
ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州から本州南部にかけて分布し、県内では県東部の半島沿岸に局地的な生息地がある。海岸部の開発に伴う伐採などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布 津久見市 , 鶴見町

分布域 本州(南岸沿いに伊豆半島まで) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
中国南部 広東省

生息環境 ウバメガシ林内。

現 状 ある程度の規模のウバメガシ林では個体数が多い。

## ヒメシロシタバ

*Catocala nagoides* Wileman

チョウ目  
LEPIDOPTERA

ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由 生育地は一次草原のカシワ林で、開発に伴う生息地の減少や消滅により、絶滅が懸念される。

県内分布 久住町，九重町

分布域 本州 九州(熊本・大分・鹿児島)  
朝鮮半島 沿海州

生息環境 高原のカシワ林。

現 状 久住町の一次草原のカシワ疎林で少数の生息が確認されている。

## ヒメウンモンクチバ

*Mocis dolosa* (Butler)

チョウ目  
LEPIDOPTERA

ヤガ科  
Noctuidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (佐伯市)

分布域 九州(大分・鹿児島)  
台湾 中国

生息環境

現 状 1953年に佐伯市で記録されたが、1979～1980年の佐伯市での継続調査では確認されず、その後も記録されていない。

## ツリフネソウトラガ

*Sarbanissa yunnana* (Mell)

チョウ目  
LEPIDOPTERA

トラガ科  
Agaristidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 中国(雲南省)と九州に隔離分布し、県内では、生息地は極めて限られている。生息環境の変化が懸念される。

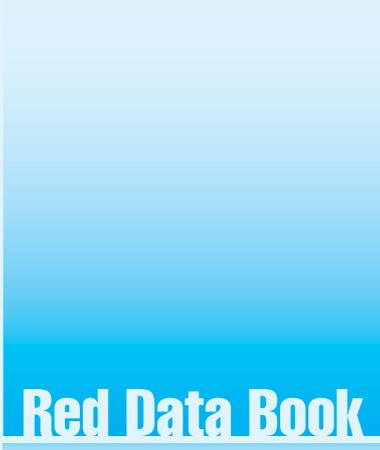
県内分布 庄内町，湯布院町，久住町，朝地町，直川村

分布域 九州(熊本・大分・宮崎)  
中国(雲南省)

生息環境 九重山群の林縁のキツリフネ群生地。

現 状 林縁部の乾燥化の影響は多少あるが、現状では特に問題はない。



The logo for the Red Data Book, featuring a blue square with a white horizontal bar at the bottom containing the text "Red Data Book" in white.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 7. クモ類



## (1) 概要

### 概況

大分県下に生息分布するクモ類は、2000年現在で約480種に留まっているが、調査の進展により、ほぼ2年以内に合計600種類のクモ類が確認されることが、明らかに予想されている。これは、大分県下の地形・地質と関連していて、島嶼・石灰洞・森林の林床などを生息地とするクモ類に、特徴在る小型種が多いことが既に実証されており、島嶼・石灰洞その他の洞窟・暗渠などで次々に新種が発見・新種記載された事実を背景とする。

殊にホラヒメグモ類・ヤミサラグモ類・ヌカグモ類などをはじめとする小型種は、明らかに生息が予想されながら調査の手が及ばず、現状のまま推移すれば、地域開発などの進展により、種個体群の記載すら無いままに人為的干渉を受けて個体群そのものが消滅するおそれが高い。

したがって、今回のレッドデータブック指定に当たり、その本来の目的の一つである「絶滅を未然に防ぐ」狙いを重視し、生息地点名を指定せず、生息個体群の存在が明らかに予想される「種個体群」を対象として、積極的保全策樹立の根拠を設定しておくという立場を取ったことは、クモ類の「指定候補種」を検討する原則とした。

一般に大分県下のクモ相は、瀬戸内海～豊後水道～日向灘に沿った海岸地域のクモ相と、耶馬・日田・英彦山地や久住山群のほか、祖母・傾山系のような地域的特性に満ちた各山系ごとの山地性クモ相とに大きく別けられる特徴がある。この両タイプの間、高原草地性のクモ相、中層湿原性クモ相などのタイプがあり、九州でも多様性に満ちたクモ相を形成している。

大分県下のクモ相のうち、特に記載しておくべきものは、キムラグモの種個体群が、大分県日田市～安心院町を生息北限地帯としていることであろう。この北限に付いては白（韓国）、萱島（東京）らによって1950年代に調査が行われたが特定できず、1990年代にいたって「北限生息地帯」（菊屋，1992a）が明らかにされた経緯がある。この北限生息地帯は、主として観光開発、高速交通網整備、都市圏30分構想による道路網整備など地域振興を目的とする開発行為が集中的に企画され、生息地帯の分断現象に曝されている状況にあり、北限地帯のキムラグモ個体群は衰弱・劣化の傾向を示し始めている。

また、従来「キムラグモ」として全九州一種に取り扱われていた「キムラグモ」は、国立科学博物館の小野により分類学的精査を受け、大分県下に生息するキムラグモが「ブンゴキムラグモ」として独立種（小野，1997）とされたことから、大分県下のキムラグモは、九州・沖縄を通じて「キムラグモ類」の生息北限地帯であり、かつ、ブンゴキムラグモの種個体群の北限生息地として、地域個体群の存続を意識すべき現況に達していることを併記するべき必要がある。

次に、ホラヒメグモ類は、これもまた大分県下の特徴あるクモ個体群として特に注目する必要がある。大分県下には多くの金鉱・錫鉱・その他の鉱山跡・試掘坑が残されているほか、石灰岩地帯の特徴としての鍾乳洞・石灰洞、火山系山地の溶岩洞、第二次大戦中の陸海軍軍用壕類が多数に存在している。これらの洞・坑・壕類には、これまでの調査により、入江（熊本）、西川（大阪）、故八木沼（大阪）、菊屋（大分）らによって、各洞窟、坑、壕ごとに種が独立したホラヒメグモ類が報告されていて、県下の未調査の洞、坑、壕にそれぞれ「新種記載がされていないだけ」と言う現状のホラヒメグモの存在が、肯定されている現状にある。殊に、洞・坑・壕などは、既に消滅した農業用暗渠について、危険防止の立場から閉鎖、もしくは埋め戻し、密封などの人為管理が強化される社会的傾向が見られる。また、石灰洞については、ホラヒメグモ類の存在が明らかになることは、鉱業用採掘の妨

げとなる原因性が懸念されるところから、洞内の調査さえ拒絶される現場もあり、ホラヒメグモの地域個体群の消滅は多数の地点で懸念されているのが実情である。したがって、種名も特定していない各洞・坑・壕のホラヒメグモを「ホラヒメグモ類」として一括した上、レッドリストに登載することは、本来の保全・保護目的に合致する個体群維持策であると考えている。

ヤミサラグモ類、マルサラグモ類、ヨツボシサラグモ類、ヌカグモ類、ナンキングモ類、ヤチグモ類のそれぞれが、上記、ホラヒメグモ類と同じような位置付けでリストアップせざるを得なかった。この点については、種指定、個体指定などよりも、地域個体群指定のほうが保全・保護の取り組みにより具体性を内包できることに着目したことを強調したい。

大分県のクモ類については、「情報不足」のものが多く、県下のクモ類の調査が徹底的に精査されてはいないと言う実情を示している。これは環境庁の指定において、いまだに「対象外」が多いことと併せて、日本のクモ類研究者が分類学的研究を主としてきた従来の偏った研究部門の展開の現れでも在り、世界的注目種であるキムラグモの「レッドリスト搭載」を機として、クモ類の積極的保全保護の立場を、生態学的立場から提示する方策として今回のリスト登載を活用したことを付記しておく。

## 選定種について

日本産クモ類1,100種のうち、これまでに大分県下で生息が確認され、または生息することが明らかクモ類600種については選定の対象としたが、偶産種、飛来種などについても、複数の機会に複数の発見が報告されている種についても選定対象とした。

選定の対象地域を県下一円とするため、文献報告に依らない場合でも、クモの分類について信頼性が高い情報は、一応「知見資料、未発表」として選定対象種に加えた。

日本クモ学会自然保護委員会の間議するところに従ったが、大分県独自の種個体群分布状況もあり、選定主任者のクモ研究過程における、各種クモ類の「個体群地域評価」を選定基準としたものが多い。これは、全日本レベルにおいてクモ類の種の位置付けがなされていないのに反し、大分県下では1985年、菊屋によって、全国に先駆けての地域レベル評価がまとめられていると言う、地域的事情によるところが大きい。

この地域的评价を参考にしながら、レッドデータブック編纂の趣旨に従って、以下の基準によってそれぞれのカテゴリー区分を適用したが、殊に、大分県の場合は、1985年以来、それぞれのクモ類について地域個体群としての動態調査を継続しており、「種」「個体」レベルで保護・保全を検討するよりは、飽くまでも個体群レベルで保護・保全策を講じなければ、その効果が確保できないことがフィールド調査の段階で確認されているので、レッドデータブック設定の趣旨に沿って、「地域個体群」という概念を重要視したことを特に記載しておく。

標準和名、学名などは、日本クモ学会誌ACTA ARACHNOLOGICA各号搭載の分類学的記載を参考にしたが、主として千国(1989)によった。クモ類の標準和名および学名については、現在、西川(追手門大学)、小野(国立科学博物館)らによって総合的に検討が進み、これを一覽性在る集約は作業中であるから、2000年現在、最も多用されている千国をもって「標準」としたが、いくつかの種については、今後の記載変更がある場合も予想されることを付記しておく。

クモ類の大分県RDBカテゴリー別選定種数は、次の通りである。

	絶 滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	総 計
大分県	0	1	0	0	12	20	8	41
環境庁	0	0	0	2	1	1	0	4

「環境庁」は、環境庁レッドデータブック（1991）の大分県関係数。

## 解説の項目・内容について

選定種の、各項目の解説は次のように行った。

### 「選定理由」

県内の生息分布域、生息環境の現状、絶滅の危険度の増大傾向、生息環境の悪化・生息環境に対する人為干渉の急増などを勘案し、該当カテゴリーを選択した理由を記載した。

「情報不足」は過去30年以内に信頼度の高い情報がない種をこの項目にあて、その現況を記載した。

「地域個体群」は大分県内では全国に先駆けて、県下のクモ相について地域的評価が行われ、1985年菊屋により主要な種毎に地域個体群の生息状況が把握される研究が継続されている。地域ごとに特定の種個体群の成立が記録されているので、生息地ごとの環境の状況や、人為干渉の程度によって特に絶滅が危惧される個体群について記載した。

### 「県内分布」

一般にクモ類に限らず、動物類は人為的行政区分とは全く無関係の分布行動を示す行動習性を持つ。殊に、目撃地点を以って生息分布地点とすることは、行動半径の大きい動物類を理解する手法としては不適切である。しかしながら、保全手法・管理施策などの適用をも念頭に、一応行政区域表示可能な生息分布地点は記載しておいたが、行政地域名称を掲げる事によって混乱する恐れのある場合は、山系、水系、地形、植生、その他生息環境条件を勘案しながら生息地域が理解されやすい表記を採用した。

### 「分布域」

国内分布は、北海道・本州・中国・四国・九州・沖縄など、動物地理学的分布区分に従い、国外分布に付いてはアジア・東南アジア・台湾など現在クモ学会で多用されている呼称を採用した。

### 「生息環境」

選定種の国内における一般的生息場所の環境を表徴する呼称を採用し、また生態や生存形態を略記した。殊に、個体群については、その個体群が存在する特徴的地域名や、地域環境の形態を記載した。

### 「現 状」

選定種の県内における生息分布域・生息環境・生存形態・生態・個体数の減少状況などについて、2000年末の状況を簡記した。

### 「備 考」

備考欄の記載は、その種ごとの特殊な事情や、日本クモ学会自然保護委員会での検討状況その他、とくに記載する必要があると認められた事項について簡記した。

## 危険性の主要因

各種開発工事（河川改修・護岸・流域河岸林伐除・法面加工・崩落防止工事・掘削・山地切り通し工事・路肩強化工事・宅地造成・圃場整備工事・新道開削工事）、人為的踏みつけ、森林伐採、林

床整備・草地整備事業), 各種洞窟類の人為管理強化(洞窟内部照明など観光開発を含む), 農薬散布, 種間関係(被食動物類の個体群劣化)など急激にして大規模・長期的な人為的干渉

### 選定種の配列

主として千国安之輔『写真日本クモ類大図鑑』(1989)によった。

## (2) 文 献

- 入江照雄 1978, 九州の洞窟産真正蜘蛛類 ( ) Hep. 1(1): 22~27  
 1979, " ( ) Hep. 1(2): 20~23  
 1980, " ( ) Hep. 1(3): 20~23  
 1981, " ( ) Hep. 2(1): 30~33  
 1982, " ( ) Hep. 2(2): 51~61  
 1983, " ( ) Hep. 2(3): 74~81  
 1984, " ( ) Hep. 3(1): 13~22
- 石野田辰夫 1968, 日豊海岸自然公園候補地における蜘蛛目録, 日豊海岸自然公園候補地学術調査報告書, 84~87, 大分県および宮崎県  
 1971, 日豊海岸の蜘蛛, ATYPUS(55): 7~8
- 桂孝次郎 1981, 九州で見つかったミズグモ, ATYPUS 78: 24  
 1982, ミズグモ再び九州で発見される, ATYPUS 80: 28
- 菊屋奈良義 1979, 津久見地域のクモ相, 津久見港公有水面埋立環境影響評価書: 133~140, 大分県  
 1980, 「佐藤真一クモノートについて」, Hep. 1(3): 12~18  
 1980, 大分川下流域のクモ, Hep. 1(Suppl): 1~30  
 1980, 大分地域のクモ類リスト, 大分地域工業開発影響評価書: 56大分県  
 1980, 大分県産の若干のクモ類について, 大分生物談話会会報24: 1  
 1980, 大分県下のキムラグモの現況(1), ATYPUS 76: 1~43  
 1981, 豊肥地区の真正クモ類, 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書, : 45~49  
 1981, 節足動物の分布(クモ類), 大分地域の陸域自然環境, : 19~21九州電力  
 1981, 大分県の真正クモ類, 日本生物教育会大分大会記念誌「大分の生物」: 57~60,
- ① 1981, 佐賀関防災ダム周辺のクモ類, 大分県緑化センター整備計画書: 34~35, 大分県  
 ② 1981, 佐伯湾沿岸の動物(クモ類), 佐伯港港湾計画: 29 大分県  
 ③ 1982, 山国町のクモ, 82年活動報告: 55~64, 山国町教育委員会  
 ④ 1982, 大分県下のキムラグモ~その生息状況のまとめと検討( ), Hep. No2(suppl): 1~23  
 ⑤ 1982, 大分県下のキムラグモ~その生息状況のまとめと検討( ), ATYPUS 81: 11~20  
 ⑥ 1982, 耶馬日田英彦山国定公園の真正クモ類, 耶馬日田英彦山国定公園学術調査  
 ⑦ 1982, 杵築湾埋立工事にかかる背後地の自然環境調査報告書: 1~60. 大分県  
 ⑧ 1983, 仙崎生活環境保全林のクモ, 大分県緑化センター整備事業報告書: 55~59  
 ⑨ 1984, コガネグモの方言分布と地域交流, Hep. 3(1): 23~30  
 ⑩ 1984, 祖母傾国定公園の真正クモ類, 祖母傾国定公園学術調査報告書: 113~116, 大分県  
 ⑪ 1984, 大分県下のキムラグモの現況~その生息状況のまとめと検討( ), ATYPUS 85:

43～66

- ③② 1984, 滝上地区の自然環境の現況調査報告書, :1～105, 出光地熱開発
- ③③ 1985, 日豊海岸地域の真正クモ類, 日豊海岸国定公園学術調査報告書:125～130
- ③④ 1988, くじゅう地域の真正クモ類, 阿蘇くじゅう国立公園学術調査報告書141～145, 大分県
- ③⑤ 1988, 大分県下のキムラグモの現況～その生息状況のまとめと検討( ), Hep. 3(3):17～34
- ③⑥ 1988, 大分市街地の真正クモ類, 大分生物談話会会誌第4号大分川下流域の生物:43～51
- ③⑦ 1989, 大分県下のキムラグモの現況～その生息状況のまとめと検討( ), Hep. 4(1):36～44
- ③⑧ 1991, 大分市松岡丘陵の陸域生態系とその有効利用について意見書, 50pp, (株)大分イカリテクノス
- ③⑨ 1992, 分布北限地帯のキムラグモ個体群( ), Hep. 5(2):27～30
- ④⑩ 1993, 自然史双書「キムラグモ～環節を持つ原始のクモ～」211pp. 八坂書房
- ④⑪ 1994, Resistance to Inundation and Its Utilization by *Heptathela kimurai* (Araneae: Liphistiidae). ACTA ARACHNOL. 43(2):195～208.
- ④⑫ 1995, Pre-courtship Trip of the Male Spider, *Heptathela kimurai* (Araneae: Heptathelidae). EDAPHOLOGIA 53:11～18
- ④⑬ 木庭 奏 1974, 九州中・北部のキムラグモの生息分布, ATYPUS 62:34～40
- ④⑭ 西川喜朗 1976, 日本産ヤチグモ属の地理的分布(予報), 追大10周年記念論集:1043～1066

## ブンゴキムラグモ *Heptathela kikuyai* Ono

古蛛亜目  
ARCHAEOTHELAE  
キムラグモ科  
Heptathelidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁

**選定理由** 生息北限地帯のキムラグモ個体群で、最近の開発企画がこの北限地帯において、大規模・高頻度で計画されつつあり、地域個体群そのものの生息状況が急激に劣化しつつある。

**県内分布** 日田市, 玖珠町(一部山国町), 安心院町, 山香町, 日出町, 以南

**分布域** 福岡県八女地方, 大分県, 宮崎県北部(熊本県北東部を含む)

**生息環境** 標高900m以下の斜面林床, 草地, 裸崖地などに, 地表面に直接穿孔して生息巣をつくり, 歩行性昆虫類を捕食する。

**現 状** 特に標高200~400m地帯で, 開発行為による個体群が消滅した事例が多い。

## キノボリトタテグモ *Ummidia fragaria* (Donitz)

原蛛亜目  
PROTOTHELAE  
トタテグモ科  
Ctenizidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 準

**選定理由** 自然林, 社寺林の大径木樹皮などに袋状生活を造成して生息する習性を持つが, これらの樹木類に関する管理などにより個体数が急減している。

**県内分布** 県内全域の標高0~800m地帯の大径木, 自然崖の乾燥した場所

**分布域** 本州南部, 四国, 九州, 南西諸島

**生息環境** 大径木の樹皮で, 照葉樹のうち, コジイ, タブノキ, クスノキ, イチイガシなど, 針葉樹のうち, スギ, ヒノキ, マツ類, 落葉樹でカキノキ, ケヤキなどに営巣する。

**現 状** 県内では, ほとんど目撃できなくなった。1999年12月現在, 17例が確認されている。

## マシラグモ *Leptoneta* sp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
マシラグモ科  
Leptonetidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 洞窟など暗環境に適応するクモで, 各洞窟, 各暗環境ごとに, いくつかのタイプの種にかたよる傾向がある。環境条件の変化に鋭敏であるため, 個体群そのものの消滅のおそれが高い。

**県内分布** 山国町, 耶馬溪町, 本耶馬溪町, 前津江村, 安心院町, 豊後高田市, 香々地町, 上津江村, 九重町, 山香町, 湯布院町, 別府市, 直入町, 大分市, 竹田市, 緒方町, 清川村, 三重町, 野津町, 臼杵市, 津久見市, 本匠村, 弥生町, 佐伯市, 鶴見町, 米水津村, 宇目町, 蒲江町

**分布域**

**生息環境** 石灰洞, 侵食洞, 岩裂, 暗渠, 古い人工洞などの壁面で湿度の高い凸凹面。

**現 状** 自然洞に対する人為的破壊, 明環境化, コンクリート板覆などによって, 生息環境が消滅しつつあり, これに伴って, 個体数は急減している。

**備 考** 日本固有属, 日本固有種。日本哺乳類学会: 保護すべき地域個体群(九州)

## ツクネグモ

*Phoroncidia pilula* (Karsch)

新蛛亜目  
METATHELAE  
ヒメグモ科  
Theridiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 県内では標高200～700m地帯の森林の林縁などで人為干渉が進み、生息する樹皮、草地などでの安定した生息が確保できなくなった空間が拡大されている。

**県内分布** ほぼ県内全域

**分布域** 本州 四国 九州

**生息環境** 山地林縁、林内のギャップ間縁など明環境にある樹林の樹枝や草木を利用して造網(1本の粘り糸をはるだけ)。

**現 状** 県内全域で、1988年ごろから特に個体数が減少しはじめ、1999年10月現在までこの傾向は継続している。

## ハラダカツネグモ

*Phoroncidia altiventris* Yoshida

新蛛亜目  
METATHELAE  
ヒメグモ科  
Theridiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** 山国町

**分布域** 本州 九州

**生息環境** 陰樹林内の岩裂や、地表面のシダ類などの草間に生息。

**現 状** 山国町野峠などに極めて希。

**備 考** 1981年5月31日、山国町天の岩戸岩窟入口で確認。1985年、吉田哉により新種記載。

## オオツリガネヒメグモ

*Achaeearanea tubulata*  
Levi

新蛛亜目  
METATHELAE  
ヒメグモ科  
Theridiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** 湯布院町小田の池、由布岳東南麓、石垣原、戸次河原、三軒茶屋

**分布域** 本州 九州

**生息環境** 崖地のくぼみなどに立体網、その中に砂粒などで釣鐘状住居をつくってひそむ。

**現 状** 現地では、県内分布種として確認地点が極めて少ない。

**備 考** 1981年6月14日湯布院町小田の池で確認。1983年吉田哉により *Achaeearanea nipponica* Yoshida とされたが、1980年に *A. tubulata* Levi であることが判明した。

## ツノヒシガタグモ

*Episinus bicornutus* Yoshida

新蛛亜目  
METATHELAE  
ヒメグモ科  
Theridiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	1981年7月22日糸戸岳, 1981年6月8日, 大分市において確認されて以来, 急激に個体数が減少している。
県内分布	津久見市保戸岳, 津久見市四浦, 津久見市刀自ヶ浦, 大分市中判田, 大分市竹中
分布域	九州
生息環境	照葉樹林帯マント群落の低部に造網する。リター内にも小規模個体群が認められることがある。
現 状	津久見市保戸岳, 大分市中判田では極少個体となっている。
備 考	1983年, 県産個体をタイプ標本として吉田哉により新種記載。

## フウレンホラヒメグモ

*Nesticus furenensis* Yaginuma

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホラヒメグモ科  
Nesticidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由	野津町風蓮洞のみに生息。洞内人工照明により生息環境が狭小化し, 個体数が減少している。
県内分布	野津町風蓮洞
分布域	九州(大分)
生息環境	洞窟内暗部の崖くぼみなどに造網。
現 状	風蓮洞でも未開発の部分でないと, 確認しがたい。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

## ブンゴホラヒメグモ

*Nesticus bungonus* Yaginuma

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホラヒメグモ科  
Nesticidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由	緒方町の九十九折洞のみに生息。観光地化がすすみ, 人為干渉頻度が高くなりつつあり, 生息環境が狭小化している。
県内分布	緒方町九十九洞
分布域	九州(大分)
生息環境	侵食洞暗部の石の下や崖のくぼみに造網。
現 状	個体数減少中。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

## ソボホラヒメグモ *Nesticus iriei* Yaginuma

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホラヒメグモ科  
Nesticidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由	竹田市穴森の穴にのみ生息する。観光開発により洞内の人為干渉が増加したため、生息環境が狭小化傾向にある。
県内分布	竹田市神原穴森の穴
分布域	九州(大分)
生息環境	洞穴暗部の石の下、側壁のくぼみなどに造網。
現 状	個体数は減少しつつある。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

## カリユウホラヒメグモ *Nesticus karyuensis* Yaginuma

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホラヒメグモ科  
Nesticidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由	佐伯市狩生洞、津久見市願寺石灰岩裂内部にのみ生息。狩生洞は崩落がはげしく、願寺の岩裂は掘削(石灰岩掘削)により生息環境が劣悪化し、更に掘削により生息場所が狭小化している。
県内分布	佐伯市狩生洞、津久見市願寺の石灰岩裂
分布域	九州(大分)
生息環境	洞内、岩裂内の側壁のくぼみなどに造網。
現 状	個体数減少中、特に願寺では、個体数は壊滅する見通しがある。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

## ホラヒメグモ類 *Nesticus* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホラヒメグモ科  
Nesticidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由	県下の石灰洞、侵食洞、人工トンネル(屈曲型)、掘削壕、岩裂などに生息するホラヒメグモ類は、ほら穴、洞・壕ごとに新種として記載される見通しが明らかになっている。
県内分布	山国町草本廃坑、山香町金山跡、大分市防空壕跡・魚雷収納壕跡、佐賀関町防空壕跡、三重町岩裂、宇目町千人間歩・天神原洞、本匠村侵食洞、鶴見町砲台壕跡、米水津村沖黒島オオミズナギドリ生息地内、蒲江町沖黒島林内、宇目町上津小野のこうもり穴
分布域	九州(大分)
生息環境	洞・壕内の暗部側壁などのくぼみに造網。
現 状	いずれも洞・壕に対する人為管理、人為干渉が強く、個体数の減少傾向がみられる。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

## ヤミサラグモ類

*Arcuphantes* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 地域個体群  
環境庁 掲載なし

選定理由 山国町天の岩戸溪流，大分市九六位山経塚，臼杵市東沖野，米水津村沖黒島などの林内陰地の林床，草むらなどに生息。各生息地ごとに種が異なる傾向がある。

県内分布 山国町天の岩戸溪流，大分市九六位山経塚，臼杵市東沖野川原内の穴，米水津村沖黒島

分布域 九州(大分)

生息環境 森林林内の草本，林床，低木などに造網。

現 状 各地とも，小規模個体群は維持中であるが，個体数は1990年代に入って減少中。

## マルサラグモ類

*Centromerus* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由 野津町風蓮洞に生息。洞内人工照明により生息環境が狭小化し，個体数が減少している。

県内分布 耶馬溪町錦雲峡，三重町松尾谷高屋

分布域 九州(大分)

生息環境 アラカシ林林縁などのコウヤボウキの末端の小枝などに造網。

現 状 耶馬溪町錦雲峡，三重町松尾谷などに生息するマルサラグモ属の各種，個体数が極めて少ないため，情報不足とした。

## ヨツボシサラグモ類

*Strandera* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 九重町，久住町，宇目町

分布域 本州 九州

生息環境 森林林縁部などの低木やブッシュの植生空間に生息するが，落葉層空間などにも生息する。

現 状 標高400～1,000m付近のノリウツギ，ネジキなどの低木で極めて希に遭遇する種で，小規模範囲に小個体群を形成する。

## ヌカグモ類

*Gongylidioides* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 ほぼ県内全域と思われる。

分布域 本州 四国 九州

生息環境 アラカシ林，コジイ林などの林内の岩崖のくぼみなどに造網。

現 状 大分市，竹田市，三重町，臼杵市などのアラカシ林，コジイ林に希に生息し，個体数も少ない。各地で報告があるが未記載。和名，学名ともに未定。

## ゴマグモ類

*Micargus* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 大分市柞原八幡宮の森

分布域 本州 本州(高地) 九州(大分)

生息環境 照葉樹林のリター，Ao層。

現 状 大分市柞原八幡宮のコジイ林でのみ記録，林内林床部Ao層に生息する希な種である。( *Micargas acuiteglatus* )を含む。

## アカムネグモの1種

*Ummeliata* sp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホラヒメグモ科  
Nesticidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 久住町，宇目町

分布域 北海道 本州 四国 九州

生息環境 耕作地表面のくぼ地などに造網。

現 状 水田，畑地などの畔や，稲刈取りあとのくぼ地などに極めて希な個体。久住町，宇目町などにわずかに生息。

## ナンキングモ類

*Erigonidium* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 ほぼ県内全域

分布域 本州 九州

生息環境 農耕地などの裸地化された地表面の小さな窪地地形にシート網を造網。

現 状 農耕地などに多いが、耕作放棄、休耕田の増加などで急減している。

## チビサラグモの1種

*Nematogmus* sp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
サラグモ科  
Linyphiidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 大分市東部，佐賀関町

分布域 本州 四国 九州

生息環境 山地の草地。草本層の特に根元や株もとなどにシート網を張る。

現 状 コジイ林林縁部などのコモチシダ群落に生息するも、県下では佐賀関町～大分市坂ノ市などに希に確認される。

## (和名未定)

*Ero koreana* Paik

新蛛亜目  
METATHELAE  
センショウグモ科  
Mimetidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 大分市三佐松原緑地クロマツ林

分布域 不明

生息環境 海岸低木林の枝先に造網。

現 状 大分市松原緑地にのみ生息。吉田哉による同定であるが、1999年現在、継続論議中の種で確認は一例のみである。

## アカオニグモ

*Araneus pinguis* (Karsch)

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 湯布院町小田の池など中層高原などの草原台地に希に生息。しかし産卵が認められない飛来種と考えるが定着性が薄弱。

**県内分布** 湯布院町小田の池，湯布院町塚原高原，別府市十文字原，久住町清水山牧場

**分布域** 北海道 本州 四国 九州

**生息環境** 草原のススキ，ハギなどの草葉間に丸網を造網。

**現 状** 確認個体数は極めて少ない。

## イエオニグモ

*Neoscona nautica* (L.Koch)

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 住宅団地開発前線の拡大と共に，民家の軒先から個体数ははげしく減った。特に都市周辺部の農家ではすでに生息が認められない。

**県内分布** ほぼ全県域

**分布域** 本州 四国 九州 南西諸島

**生息環境** 旧家の軒下，天井，納屋，畜舎などに生息。軒先に丸網を造網。

**現 状** 1975年ごろから次第に減少。

**備 考** 九州では，子供達の虫取りにこのクモの円網を利用していた習慣があり，人の日常生活と密着していた。

## キジロオヒキグモ

*Arachruralogio Yaginuma*

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

**選定理由**

**県内分布** 大分市柞原八幡宮コジイ林，臼杵市九六位山コジイ林

**分布域** 本州南部 四国 九州 南西諸島

**生息環境** コジイ林内，萌芽部先端に限って遭遇する。

**現 状** コジイ林内の暗環境で，コジイの萌芽部に生息するが，県下では極めて希な個体となっている。

## チュウガタコガネグモ

*Argiope boesenbergi* Levi

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 水田周辺，林縁部で1980年ごろから急速な減少が見られる。水田の畔などに多かったが，コガネグモと共に減少中。

**県内分布** ほぼ県内全域

**分布域** 本州中部以南 四国 九州 南西諸島

**生息環境** 草原，林縁部袖群落，農耕地周辺の草地などに造網。

**現 状** 1985年ごろから，水田周辺部でもまれになり，大分市西北西山麓部に限って少数個体の生息が例年認められる程度になった。

## コガネグモ

*Argiope amoena* L.Koch

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全県下で1980年初頭ごろから急減。1985年ごろには県下の目撃率はゼロに近くなったが，1992年ごろから徐々に回復し，目撃率4%程度に回復したものの，宅地造成，観光開発のための施設建造などによる環境条件変化により，生息域が再び狭小化している。

**県内分布** ほぼ県内全域

**分布域** 本州中部以南 四国 九州 南西諸島

**生息環境** トキワススキ，メダケなどの草間に造網，民家の軒先にも造網。

**現 状** 都市化された郊外部から都市中心部では生息例がない。

**備 考** 1950年ごろまでは，コガネグモを用いたクモ合戦は，日豊海岸沿岸地域で普通に行われていた。

## タニマノドヨウグモ

*Metleucauge kompirensis*  
(Bos. & Str.)

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 1985年頃から次第に個体数が減少し，各水系ともに6～8月に2～3個体しか見られない状態になっている。河川工事により，兩岸河畔林の伐開と河川水面上空間部の人為的開放が原因と思われる。

**県内分布** 山国川水系，院内川水系，深見川水系，阿蘇野川水系，由布川水系，平井川水系，奥嶽川水系，番匠川水系などの河川上流部溪谷

**分布域** 国内全域

**生息環境** 谷川の兩岸の植生樹林を利用して，谷川の水面上1～4m程度の空間に大きな水平円網を張る。

**現 状** 生息水系では極めて少ない個体数となっている。

## ゲホウグモ

*Polthys illepidus* L.Koch

新蛛亜目  
METATHELAE  
コガネグモ科  
Araneidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 山地森林の伐採などにより生息環境は悪化。(夜間活動性)照葉樹林帯に多かったが、1985年ごろから急減した。

県内分布 ほぼ県内全域

分布域 本州 四国 九州 南西諸島

生息環境 山地，森林の樹皮間に造網。萌芽や樹幹のコブ状に見せる。

現 状 1980年代から減少中。

## ヒカリアシナグモ

*Tetragnatha nitens* (Audouin)

新蛛亜目  
METATHELAE  
アシナグモ科  
Tetragnathidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 佐賀関町串ヶ鼻，一尺屋，蒲江町波当津

分布域 九州(大分)

生息環境 タブノキ林，ヤブツバキ林の樹枝間に丸網(タテ型)を造網。

現 状 佐賀関町で1978年，1個体が確認された。南方インドネシアなどに依拠したクモで台風による飛来種であるが，その後，数年に一度，間欠的に確認することができるだけの種である。

備 考 1998年9月に蒲江町波当津で2個体確認。

## ミスグモ

*Argyroneta aquatica* (Clerck)

新蛛亜目  
METATHELAE  
ミスグモ科  
Argyronetidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁

選定理由

県内分布 (湯布院町小田の池)

分布域 北海道 本州 九州

生息環境 高層湿原の水中，タヌキモなどに捕集した空気球をつくり，その中で営巣し産卵，幼蛛を育てる。

現 状 1981年5月4日，桂孝次郎によって，湯布院町小田の池周辺湿地で発見され，一挙に生息南限地を九州にまで拡大するきっかけとなった。

## クリチャササグモ

*Oxyopes badius* Yaginuma

新蛛亜目  
METATHELAE  
ササグモ科  
Oxyopidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 1980年代初頭から急激に減少した種。1999年8月現在，県内では一桁の確認数。

県内分布 | 大分市，臼杵市，佐伯市，米水津村

分布域 | 本州 九州

生息環境 | 草原の草間，林縁の樹枝間を徘徊して昆虫などを捕食。

現 状 | 減少が著しい。大分市東部坂ノ市地域ではほとんど目撃できなくなった。

## カマスグモ

*Thectocoris severa* (L.Koch)

新蛛亜目  
METATHELAE  
アシダカグモ科  
Heteropodidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 | アシダカグモ科の緑灰褐色の腹部背面に，黄色の矢筈斑をもつクモで大型，美しい個体であるが，1980頃から，県下での目撃はきわめて減少した。

県内分布 | ほぼ全域

分布域 | 本州近畿以南 四国 九州 南西諸島

生息環境 | 山地の樹枝・葉上，草地のイネ科草本葉上を徘徊。

現 状 | 極端に個体数が減った1985年ごろ以来，個体数の復元が認められない。

## ヒトエグモの1種

*Plator* sp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
ヒトエグモ科  
Platoridae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 | 国東半島，玖珠ドリーネ地帯，津江山系，久住火山群，祖母傾山系，宗太郎峠

分布域 | 九州(大分)

生息環境 | 屋内性屋根伏せ板の下とか，森林の岩の下，落葉堆積部周辺，冬木にはイチイガシの樹皮下でも希に目撃。

現 状 | 個体数急減，大分市松原緑地などでわずかに確認できるのみ。1999年8月以来目撃例がない。

## ドウシグモ

*Doosia japonica* (Bos. et Str.)

新蛛亜目  
METATHELAE  
ホウシグモ科  
Zodariidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 情報不足

### 選定理由

県内分布 日田津江山系，大分市～佐賀関町低山丘陵(縦の木山系)，三重町大白谷，臼津石灰岩台地

分布域 本州 四国 九州 南西諸島

生息環境 クスノキ，ヤマザクラなどの樹枝間を徘徊。

現 状 県内でも4か所の確認事例しかない。

## ウスイロヤチグモ

*Coelotes decolor* Nishikawa

新蛛亜目  
METATHELAE  
タナグモ科  
Agelenidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

### 選定理由

県内分布 上津江村，前津江村，大分市，佐賀関

分布域 本州 九州

生息環境 山地の岩崖，岩裂などが主たる生息地であるが，崖地などでも同じような環境を選び，ロート状網を張る。

現 状 県内でも津江山系，大分市縦の木峠の2か所で確認されているだけ。

## ミカドヤチグモ

*Coelotes micado* Str.

新蛛亜目  
METATHELAE  
タナグモ科  
Agelenidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

### 選定理由

県内分布 由布山麓

分布域 不明

生息環境 林内のリター，低木の根株周辺。

現 状 佐藤真一によって確認されている事例があるが，1985年以来目撃例がない。

## ヤチグモ類

*Coelotes* spp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
タナグモ科  
Agelenidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 ほぼ県内全域

分布域 本州中部以南 四国 九州

生息環境 主として農村地帯～自然林。森林のリター，袖群落の根方，林内崖地の窪みなどに棚網を作って生息。

現 状 各地域の自然林のリターや洞穴などで，複数のヤチグモ類が確認されているが，西川による多様性判断に従い，大分県内の *Coelotes* 属は未だ種未確認のものが多い。

## フノジグモ

*Synaema globosum japonicum*  
Karsch

新蛛亜目  
METATHELAE  
カニグモ科  
Thomisidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 ほぼ県内全域

分布域 本州中部以南 四国 九州

生息環境 林内，林縁を問わず，草地なども利用している。

現 状 ほぼ全県域に生息していたが，1985年ごろから減少中で，1995年ごろからは個体数において「希少」と判断される。個体数減少が著しく，特に都市部周辺では目撃例が急減した。

## クロボシカニグモの1種

*Xysticus* sp.

新蛛亜目  
METATHELAE  
カニグモ科  
Thomisidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 ほぼ県内全域

分布域 本州中部 九州

生息環境 山地低木類の葉上などを徘徊。

現 状 1982年頃から，林内低木などでの発見が困難になり，1997年ごろから個体数が急激に減少中である。米水津村沖の黒島では，オニヤブソテツ，ヤマアイなどの草本層で安定した個体群が維持されている。

**オオクマアメイロハエトリ**  
*Synagebides annae*  
Bohdanowicz

新蛛亜目  
METATHELAE  
ハエトリグモ科  
Salticidae

**カテゴリー**

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	もともと希少であったが、1992年ごろから個体数が減少中。
県内分布	ほぼ県内全域
分布域	四国 九州
生息環境	林床に生息。
現 状	個体数減少が著しく1975年ごろに比べて半数以下の出現率になった。
備 考	1980年代、大分県新産都第2期計画推進のための環境調査で発見され、国内初記録となった種である。

**アリグモの1種**  
*Myrmarachne* sp.

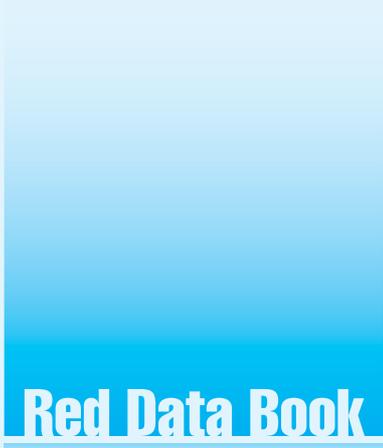
新蛛亜目  
METATHELAE  
ハエトリグモ科  
Salticidae

**カテゴリー**

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由	
県内分布	ほぼ県内全域
分布域	九州
生息環境	林内の林床。
現 状	個体数減少中である。



The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. At the bottom of the square, the text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font. A thin white horizontal line is positioned directly below the text.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 8. 甲 殻 類



## (1) 概要

### 概況

県内における甲殻類に関する文献資料はほとんどないので、現地調査を5年間実施し、その結果を基礎資料とした。調査対象地点は、河口域・海岸域約150地点、水田ほか内陸部約100地点、そして海洋4地点である。大分県で生息が確認された大型甲殻類は、今回の調査結果を含めると約200種類となった。選定種全体としてはスナガニ科の絶滅に対する危険性が高かった。これは河川改修・干潟の埋め立てなどにより生息環境の消滅や狭小化が主要因であると考えられる。また今回の調査では国の天然記念物に指定されているオカヤドカリが初めてムラサキオカヤドカリであることが確認されたが、絶滅に近い状態であった。

### 選定種について

選定対象は、種レベルとし、亜種レベルは選定対象から外した。輸入種や偶発的な分布と思われる種は、対象外とし、また不確実な要素を含む種やデータに疑問がある種は除外した。ただし、国指定天然記念物であるオカヤドカリは、大分県での繁殖は確認されていないが、調査研究対象種としては分類学上極めて重要な位置にあるため、偶発的な分布扱いとはせず、絶滅危惧ⅠA類に指定した。

甲殻類の大分県RDBカテゴリー別選定種数は、次の通りである。

	絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	総計
大分県	0	1	1	2	3	0	7
環境庁	0	絶滅危惧 類 1		0	2	0	3

「環境庁」は、環境庁レッドデータブック（2000）掲載分類群の大分県関係数。

### 解説の項目・内容について

選定種についての各項目の解説は、下記の要領で行った。

#### 「選定理由」

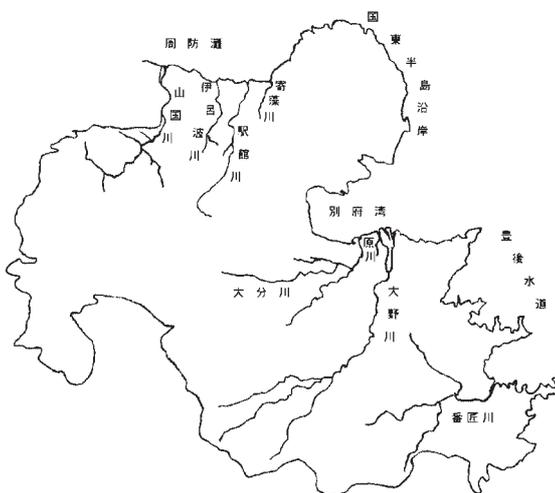
分布域、県内分布、生息環境の現状、絶滅の危険度の増大、生息状況の悪化などからカテゴリーを選択した理由を記述した。

#### 「県内分布」

大分県の地形、気候、海流の影響などから周防灘、国東半島沿岸、別府湾、豊後水道域沿岸の4地域に区分した。また、生息する河川が限定される場合はその河川名を明記し、河口域・感潮域等の生息域を記した。ただし、水田に生息するカプトエビに関しては市町村名で記した。

#### 「分布域」

国内分布（北海道、本州、四国、九州、沖縄）及び国外分布は『原色日本大型甲殻類図鑑』（1991）および『原色甲殻類検索図鑑』（1976）を基本資料とし、新たな知



見がある場合はそれを追加した。また、九州においては県名がはっきりしている場合は県名を記載した。

「生息環境」

生息が確認された海の深度や河川の流域及びその生息地の水質・地質などを記載した。

「現 状」

およそ10年以前からの生息地並びに生息状況の消長（増減した生息地の個体数など）をできるだけ量的に記載した。

「備 考」

以下のような内容について記載した。

- ・WWF（世界自然保護基金）の指定ランク
- ・日本固有種
- ・天然記念物
- ・その他必要特記事項

**危険性の主要因**

- ・干潟の消失
- ・海岸埋め立て
- ・護岸工事
- ・河口改修
- ・水質悪化
- ・農薬や除草剤

**選定種の種名及び配列**

学名や和名の配列は、文献 に従った。

(2) 文 献

川原 大 海洋と生物22 (1982)

酒井 恒 日本産蟹類 講談社 (1976)

武田正倫 原色甲殻類検索図鑑 北隆館 (1976)

三宅貞祥 原色日本大型甲殻類図鑑 ・ 保育社 (1991)

三宅貞祥 日本産えび・やどかり・しゃこ類および日本産かに類分類目録 (1991)

和田恵次ほか 日本における干潟海岸とそこに生息する低生生物の現状第3巻 WWF日本委員会 (1996)

## ムラサキオカヤドカリ

*Coenobita purpureus* Stimpson

十脚目  
DECAPODA  
オオヤドカリ科  
Coenobitidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし  
水産庁 掲載なし

**選定理由** 亜熱帯に分布する。県内では、1920年代以前に深島で多数の個体が生息していた情報が得られている。現在は数回の現地調査で3個体の生息が確認されただけであり、絶滅の危険性が極めて高い。

**県内分布** 深島

**分布域** 東京(小笠原諸島・慶良間諸島) 九州(大分・宮崎・鹿児島) 沖縄

**生息環境** 初夏から初秋の夜間だけは浜辺に生息するが、それ以外は海岸近くの林。

**現 状** 県内唯一の生息地である深島には海岸近くの自然林中にごくわずか生息するだけである。

**備 考** 日本固有種。国指定天然記念物

## ヘイケガニ

*Heikea japonica* (Von Siebold)

十脚目  
DECAPODA  
ヘイケガニ科  
Dorippidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし  
水産庁 希少種

**選定理由** 日本では駿河湾以西に分布し、個体数は少ない。県内では、周防灘海底に生息するが、その分布域は狭く、個体数は多くない。干潟消失による海水富栄養化等、生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 周防灘

**分布域** 駿河湾～九州西岸  
韓国、台湾、中国南部、ベトナムの各沿岸

**生息環境** 主な生息域は水深10～30mの貝殻などが多い砂底や泥底をもつ浅海。

**現 状** 以前は底引き網に多数の個体が採捕されていたが、現在は減少している。

## シオマネキ

*Uca arcuata* (De Haan)

十脚目  
DECAPODA  
スナガニ科  
Ocypodidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 準  
水産庁 希少種

**選定理由** 紀伊半島以西に分布している。県内では、海岸埋め立て工事や掘削工事による干潟の減少により、生息場所が狭められておる。生息環境の悪化で生息地の減少が懸念される。

**県内分布** 寄藻川河口域、日出町小深江

**分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄  
朝鮮半島、中国、台湾

**生息環境** 淡水流入で塩分濃度がやや薄くなり、大潮の日のみに冠水するような泥質干潟。

**現 状** 県内でその生息が確認できたのは、現在では2地点のみで、個体数も少ない。

**備 考** WWFの指定ランク：危険

## ハクセンシオマネキ

*Uca lactea* (De Haan)

十脚目  
DECAPODA  
スナガニ科  
Ocypodidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

- 選定理由** 紀伊半島以西に分布している。県内では河口域高潮帯の埋め立て工事，護岸工事，河口改修により生息場所が完全に消滅した地域があり，生息環境の悪化が懸念される。
- 県内分布** 周防灘海岸，国東海岸，別府湾沿岸，豊後水道域沿岸に注ぐ主要河川，及びその周辺の小河川の河口域
- 分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 沖縄 朝鮮半島 台湾 中国
- 生息環境** 塩分濃度がやや薄く適度な硬さをもつ泥干潟の高潮帯。
- 現 状** 県内では周防灘海岸，国東海岸で多くその生息が確認されているが，個体数が減少している地域もある。
- 備 考** WWFの指定ランク：危険

## アリアケモドキ

*Deiratonotus cristatus* De Man

十脚目  
DECAPODA  
スナガニ科  
Ocypodidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

- 選定理由** 青森県以南に分布する。県内では，もともと個体数も少なかったが，近年の河口の水質悪化や河川改修により，生息環境が悪くなった生息地が生じてきた。
- 県内分布** 伊呂波川，寄藻川，駅館川，原川，大野川の各河口および感潮域。
- 分布域** 本州 四国 九州 韓国 中国
- 生息環境** 泥質干潟の泥中や転石の下，河川の河口域および感潮域。
- 現 状** 県内では現在，数地点においてその生息が確認されているが，生息域が狭小した地域や個体数が減少した地域もある。
- 備 考** WWFの指定ランク：希少

## カブトガニ

*Tachypleus tridentatus* (Leach)

剣尾目  
XIPHOSURAN  
カブトガニ科  
Limulidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I  
水産庁 絶滅危惧種

- 選定理由** 日本を北限とする。漁網を破るため乱獲されていた時期もあったが，近年は干潟や沿岸の埋め立て工事が個体数の減少に拍車をかけている。生息域が狭められ絶滅の危険性が高い。
- 県内分布** 別府湾(おもに守江湾)，周防灘
- 分布域** 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分) 中国 インドシナ ฟิลิปปิน 西太平洋
- 生息環境** 干潮時に干潟のできる砂泥質の内湾。
- 現 状** 県内では現在別府湾と周防灘に生息するが，杵築市守江湾では保護対策活動が積極的に展開されている。
- 備 考** 「生きた化石」として系統進化学上，極めて重要。

## アジアカブトエビ

*Triops granarius* (Lucas)

背甲目  
NOTOSTRACA

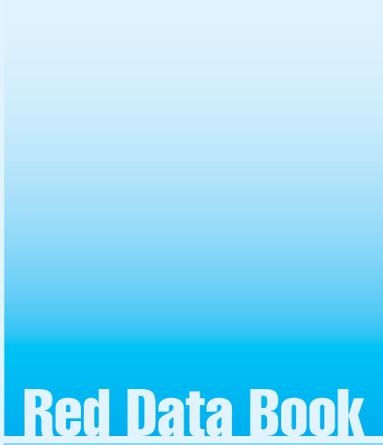
カブトエビ科  
Apodidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由	日本の分布域は全国的に散在し，県内での分布域が国内における分布の南限となっている。今後，農薬等による生息環境の悪化が懸念される。
県内分布	中津市，耶馬溪町，天瀬町
分布域	本州 四国 九州(福岡・大分) アフリカ 中近東～インド 中国
生息環境	生息場所は，冬季に乾燥期を有する水田。
現 状	県内における確実な分布域は，上記3市町村のみである。
備 考	県内に広く分布しているのは同属のアメリカカブトエビ。また県内の本種に関する調査研究は，これまでほとんどなされていなかったため，分布域の動向など不明な点が多い。



The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font at the bottom of the square, with a thin white horizontal line underneath it.

**Red Data Book**

# 保護上重要な動物

## 9. 陸・淡水産貝類



## (1) 概要

### 概況

日本国内には、およそ800種の陸産貝類が生息している。大分県では140数種が記録されていて、今回その中からレッドデータブックに掲載する28種を選定した。また、国内にはおよそ170種の淡水産貝類が生息している。大分県では50数種が記録されていて、その内から20種を選定した。

複雑な地形や地質と気象条件に恵まれて、大分県の陸産貝類は多様である。殊に県南部の石灰岩地域には、オナガラムシオイガイ、オオイタシロギセルガイなど、石灰岩地域特産の固有種が多種生息している。

豊後水道の島嶼には、ウブギセルガイなど2～3の特産種が生息し、山地帯の自然林にはナンピギセルガイ、里山の神社林にはカスガコギセルガイ、ハナコギセルガイなどの希産種が生息する。

淡水産の貝類も多様である。周防灘や別府湾に流入する大小の河川の汽水域には、ミヤコドリガイ、ヒナユキスズメガイなどの他に、ワカウラツボやサンショウガイ科、オカミミガイ科など、国内に残された数少ない貴重な汽水性貝類が生息する。真水性のハマダモノアラガイやオンセンミズゴマツボは、本県が国内で唯一の生息地となっている。

陸・淡水産貝類の多くは5mm以下の微小な貝であり、落ち葉の下や礫の間、泥に埋もれた石の裏面などで生息している。従って人の目に触れることは少なく、気付かぬ間に開発や水質汚染で、生息地が徐々に失われている。このようなことから、陸・淡水産貝類の保全は今後重要な課題である。

### 選定種について

- ・選定は環境庁のカテゴリー（環境庁，1997）に準拠し、主として定性的要件に基づき評価を行った。
- ・選定の対象は種および亜種レベルとしたが、同定が不確実な種やデータに疑問がある種は除外した。
- ・移入種や偶然な分布による種は対象外とした。
- ・未記載種でも分類学的に確定している種は選定の対象とした。
- ・淡水産貝類では波部（1990）のリスト以外にユキスズメガイ科、イソアワモチ科およびオカミミガイ科の中の汽水性の貝を選定対象種に加えた。
- ・過去に生息していたが、現在生息の確認が出来ない種は「情報不足」とした。

陸・淡水産貝類の大分県RDBカテゴリー別選定種数は、次の通りである。

		絶滅	絶滅危惧 A類	絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	情報不足	総計	
陸産貝類	大分県	0	6	6	5	10	1	28	
	環境庁	0	絶滅危惧 類	8	5	5	1	19	
淡水産貝類	真水性貝類	大分県	0	1	0	2	2	1	6
		環境庁	0	絶滅危惧 類	2	3	1	0	6
	汽水性貝類	大分県	0	3	10	1	0	0	14
		環境庁	0	絶滅危惧 類	0	0	0	0	0
選定種	大分県	0	10	16	8	12	2	48	
	環境庁	0	絶滅危惧 類	10	8	6	1	25	

「環境庁」は、環境庁レッドデータブック掲載分類群の大分県関係数。

選定対象種に対する選定種の割合(%)

(選定種数/選定対象種数)

全選定種	23.9%	(48/201)
陸産貝類	19.3%	(28/145)
淡水産貝類	35.7%	(20/56)
真水性貝類	18.8%	(6/32)
汽水性貝類	58.3%	(14/24)

### 解説の項目・内容について

選定種の各項目の解説は、次のように行った。

#### 「選定理由」

分布域、県内分布、生息環境の現状、危険度の増大、生息状況の悪化などを踏まえて、該当するカテゴリーを選択した理由を記述した。「情報不足」の種については記述しなかった。

#### 「県内分布」

市町村単位で示した。「情報不足」の種は、過去の生息地を( )で示した。

#### 「分布域」

国内分布(北海道,本州,四国,九州,沖縄)及び国外分布とし,九州については県別分布を示した。

#### 「生息環境」

生息環境(微生物環境)を具体的に簡潔に記述した。

#### 「現状」

およそ10年以前からの生息地、生息状況などを記述した。

#### 「備考」

- ・ 模式産地、固有種、分布限界種(南限・北限)、その他特色ある分布域などについて記載した。
- ・ 汽水性の貝類ではWWF(世界自然保護基金)日本委員会の評価を記載した。

### 危険性の主要因

- ・ 森林伐採
- ・ 干潟・塩性湿地・池沼の埋立
- ・ 河川改修
- ・ 海岸開発
- ・ 石灰岩採掘
- ・ 土地造成
- ・ 道路工事
- ・ 水質汚染
- ・ 水田・水路の干出
- ・ 植生遷移

### 選定種の種名及び配列

学名や和名の配列は「日本及び周辺地域産軟体動物総目録」(1993)に準拠した。

## (2) 文献

- 環境庁 日本の絶滅のおそれのある野生生物 無脊椎動物(1991)
- 環境庁 無脊椎動物(昆虫類,貝類,クモ類,甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(2000)
- 神田正人 大分県陸産貝類誌(1992)
- 水産庁 軟体動物 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料( )~( )(1994~1997)
- 水産庁 日本の希少な野生水生生物に関するレッドデータブック(1998)
- 波部忠重 日本産非海産水棲貝類目録 ひたちおび54.55.56(1990)
- 肥後俊一・後藤芳央 日本及び周辺地域産軟体動物総目録(1993)
- 福田 宏 腹足綱 WWF Japan Sci Rep3(1996)
- 福田 宏・山下博由・藤井暁彦 佐賀県太良町田古里川河口の貝類層 佐賀自然史研究5(1999)
- 湊 宏 日本陸産貝類総目録 日本陸産貝類総目録刊行会(1988)
- 湊 宏 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究 貝類学雑誌「別巻,2」(1994)

## ヒロクチカノコガイ

*Neritina (Dostia) violacea*  
(Gmelin)

アマオブネガイ科  
Neritidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 希少種(1991)  
水産庁 希少種

**選定理由** 国内・県内ともに生息地は少ない。河口の汽水域に生息するが、開発や水質汚染などのために生息条件が著しく悪化している。

**県内分布** 中津市, 宇佐市, 豊後高田市, 真玉町

**分布域** 本州(東京湾以西) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分) 沖縄  
中国南部, インド, 太平洋域

**生息環境** 汽水域の止水中や小石混じりの砂泥上, 捨て石, コンクリート護岸。

**現 状** 希に群生していることもあるが、通常は個体数が少なく消滅寸前といえる生息地もある。

**備 考** WWFの指定ランク：絶滅寸前

## ヒナユキスズメガイ

*Phenacolepas* sp.

ユキスズメガイ科  
Phenacolepadidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に分布地は極めて少なく、生息地は狭い区域に局限される。開発や水質汚染などで個体数が危機的状態にまで減少している。

**県内分布** 真玉町, 日出町

**分布域** 本州(愛知・山口) 九州(大分)

**生息環境** 汽水域のヨシ原近くの泥地で、半ば埋もれた石の裏面。

**現 状** 特殊な環境に適応して生息しているので、埋め立てや河川の改修などのために、生息地が少なくなっている。

**備 考** 本種は未記載種。WWFの指定ランク：危険

## ミヤコドリガイ

*Cinnalepeta pulchella*  
(Lischke)

ユキスズメガイ科  
Phenacolepadidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 全国的に生息地は局限される。本県でも生息地は極めて希で個体数は少ない。開発や水質汚染などで、危機的水準にまで個体数が減少している。

**県内分布** 日出町

**分布域** 本州(房総・男鹿半島以西) 四国 九州(大分)

**生息環境** 汽水域のヨシ原近くの泥地で、半ば埋もれた石の裏面。

**現 状** 特殊な環境に適応して生息しているので、埋め立てや河川の改修などのために、生息適地が少なくなっている。

**備 考** WWFの指定ランク：危険

## ヤマキサゴ

*Waldemaria japonica*  
(A.Adams)

ヤマキサゴ科  
Helicinidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州と四国に広く分布域をもつが、九州では分布地が少なく、本県では山地に生息する。樹木の伐採で生息地・個体数ともに減少傾向にある。

**県内分布** 山国町，耶馬溪町，竹田市，宇目町

**分布域** 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 山地の自然林内で落ち葉の下や朽ち木。

**現 状** 自然林の減少によって生息地が少なくなり，かつてのような群生地はみられない。

## オナガラムシオイガイ

*Chamalycaeus takahashii*  
Habe

ムシオイガイ科  
Alycaeidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

**選定理由** 本県南部の石灰岩地域だけに分布する固有種である。採取や開発などのため，絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 臼杵市，野津町，津久見市，本匠村，佐伯市

**分布域** 九州(大分)

**生息環境** 石灰岩地の凹地や礫の間，落ち葉の下。

**現 状** 人による採取や観光施設の整備などにより，個体数が減少している。

**備 考** 県南部の石灰岩地域固有種。模式標本産地 [ 本匠村小半鍾乳洞 ]

## オオウエゴマガイ

*Diplommatina (Sinica) labiosa tenuiplica*  
Pilsbry

ゴマガイ科  
Diplommatinidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 本州西部と九州の北部に分布域をもつ。本県では北部と西部に分布する。自然林の減少により生息地が徐々に失われている。

**県内分布** 本耶馬溪町，日田市，前津江村，安岐町

**分布域** 本州(西部) 九州(福岡・大分)

**生息環境** 山間部林内の落ち葉の下。

**現 状** 樹木の伐採や林道の開設で，生息地の一部が失われ個体数が減少している。

## ホラアナミジンナ

*Bythinella (Moria) nipponica*  
Mori

ミズツボ科  
Hydrobiidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 九州での分布域は比較的広く、本県では北部と南部に分布する。河川上流域の開発のために、環境が悪化して個体数が減少している。

**県内分布** 山国町，大山町，弥生町，宇目町

**分布域** 本州(山口) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)

**生息環境** 山間部の小さな溪流で礫や落ち葉に着生。

**現 状** 土砂による埋没や濁水のために、多くの溪流で生息の確認が難しくなっている。

## ヒメマルマメタニシ

*Bithynia (Gabbia) kiusiuensis*  
S.Hirase

エゾマメタニシ科  
Bithyniidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 本州の兵庫以西に分布域をもつが、生息地は少なく、本県でも生息地は局限される。圃場整備や水田の干出による乾燥化などで、生息環境が悪化している。

**県内分布** 宇佐市，大分市

**分布域** 本州(兵庫以西) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)  
朝鮮半島

**生息環境** イネの切り株や水路の周辺，休耕田。

**現 状** 水田や周辺の水路の乾燥化などで、個体数が減少傾向にある。

## オンセンミズゴマツボ

*Stenothyra thermaecota*  
Kuroda

ミズゴマツボ科  
Stenothyridae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

**選定理由** 本県のみ分布域をもち、生息地は局限される。生息域が観光地であるため、絶滅の危機に瀕している。

**県内分布** 湯布院町，(九重町)，(別府市)

**分布域** 九州(大分)

**生息環境** 湯口から流れ出る温泉水の水路の壁面。

**現 状** 数か所の温泉地に分布していたが、模式産地などでは既に絶滅して、現在では僅かな範囲に生息している。

**備 考** 模式標本産地 [九重町宝泉寺温泉]

## ワカウラツボ

*Iravadia (Fairbankia) sakaguchii*  
(Kuroda et Habe)

ワカウラツボ科  
Iravadiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	全国的に分布地は少ない。開発や水質汚染による環境の悪化で、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	中津市，宇佐市，豊後高田市，真玉町，杵築市
分布域	本州(三河湾 紀伊西部) 瀬戸内海 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)
生息環境	汽水域のヨシ原近くの泥地で、半ば埋もれた石の裏面や他の動物の生息穴。
現 状	特殊な環境に適応して生息しているので、埋め立てや河川の改修などのために、生息適地が少なくなっている。
備 考	WWFの指定ランク：絶滅寸前

## ツブカワザンショウガイ

*Assimineea estuarina* Habe

カワザンショウガイ科  
Assimineidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	全国的に分布地が少なく、本県でも生息地は局限される。開発や水質汚染のために、環境が著しく悪化して絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	日出町，別府市，大分市
分布域	本州(三河湾以西) 四国 九州(福岡・熊本・大分)
生息環境	河口干潟の高潮帯にある転石地の礫の間。
現 状	河川の改修や埋め立てなどによって生息地が失われ、いずれの河川でも個体数が減少している。
備 考	WWFの指定ランク：危険

## ヨシダカワザンショウガイ

*Angustassimineea yoshidayukioi*  
(Kuroda)

カワザンショウガイ科  
Assimineidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	全国的に分布地が少なく、本県でも生息地は局限される。開発や水質汚染のために、環境が著しく悪化して絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	宇佐市，日出町，大分市
分布域	本州(静岡以西) 四国 九州(佐賀・熊本・大分)
生息環境	河口干潟の高潮帯にある転石地の礫の間。
現 状	河川の改修や埋め立てなどによって生息地が失われ、いずれの河川でも個体数が減少している。
備 考	WWFの指定ランク：危険

ムシヤドリカワザンショウガイ  
*Assiminea parasitologica*  
Kuroda

カワザンショウガイ科  
Assimineidae

カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由	全国的に分布地が少なく、本県でも生息地は局限される。開発や水質汚染のために、環境が著しく悪化して生息地の減少が懸念される。
県内分布	中津市，宇佐市，真玉町，杵築市，大分市，臼杵市
分布域	本州(静岡 兵庫以西) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分)
生息環境	河口干潟の高潮帯にある転石地の礫の間。
現 状	河川の改修や埋め立てなどによって生息地が失われ、いずれの河川でも個体数が減少している。
備 考	WWFの指定ランク：危険

タケノコカワニナ  
*Stenomelania rufescens*  
(Martens)

トウガタカワニナ科  
Thiaridae

カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由	房総以西に分布域をもつが、本県ではごく少数の河川に生息している。植生の自然遷移や護岸工事などのため、環境が悪化して絶滅の危機に瀕している。
県内分布	別府市，臼杵市，佐伯市
分布域	本州(房総以南) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生息環境	汽水域の小石混じりの砂泥地。
現 状	上流の護岸工事の影響や、生息地がヨシ原に自然遷移するなどして、各河川では生息環境が極めて悪化している。
備 考	WWFの指定ランク：絶滅寸前

センベシアワモチ  
*Platevindex* sp.

ドロアワモチ科  
Onchidiidae

カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由	国内の分布域は狭く、本県でも生息地は局限される。開発や水質汚染のために環境が著しく悪化して、絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	宇佐市，真玉町，杵築市，日出町
分布域	本州(山口) 九州(佐賀・熊本・大分)
生息環境	汽水域のヨシ原に近い泥地で、半ば埋もれた石の裏面や、護岸ブロックの隙間。
現 状	特殊な環境に適応して生息しているので、埋め立てや河川の改修などのために、生息適地が少なくなっている。
備 考	本種は未記載種。WWFの指定ランク：絶滅寸前

## オカミミガイ

*Ellobium chinense*  
(Pfeiffer)

オカミミガイ科  
Ellobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 危急種(1991)  
水産庁 危急種

選定理由 国内の生息地は干潟の埋め立てにより多くが失われた。本県でも開発や水質汚染で、生息環境が著しく悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津市，宇佐市，真玉町，杵築市，日出町，別府市

分布域 本州(東京湾・伊勢湾) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分) 奄美 沖縄 台湾

生息環境 汽水域に生育するヨシ原の泥上や漂着物の下。

現 状 住宅地に近い生息地では、ヨシ原の荒廃によって絶滅寸前になっている所がある。

備 考 WWFの指定ランク：危険

## ナラビオカミミガイ

*Auriculastra duplicata*  
(Pfeiffer)

オカミミガイ科  
Ellobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 本州西部以南に分布域をもつが分布地は局限される。本県でも生息地は少ない。開発や水質汚染などで環境が悪化して、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津市，宇佐市，杵築市，日出町，別府市

分布域 本州(山口) 四国 九州(福岡・佐賀・大分) 沖縄 中国

生息環境 汽水域のヨシ原で、泥に埋もれた石や漂着物の下。

現 状 干潟の減少によって生息適地が少なくなり、現在では僅かな河川に生息している。

備 考 WWFの指定ランク：危険

## キヌカツギハマシノミガイ

*Melampus (Melampus) sincaporensis*  
Pfeiffer

オカミミガイ科  
Ellobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 伊勢湾以西に分布域をもつが、分布地は少なく、本県でも生息地は局限される。開発や水質汚染などで環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津市，宇佐市，真玉町，杵築市，日出町，別府市，大分市

分布域 本州(伊勢湾以西) 四国 九州(福岡・長崎・熊本・大分) 種子島，奄美大島，西表島

生息環境 汽水域のヨシ原で、泥に埋もれた石や漂着物の下。

現 状 干潟の減少によって生息適地が少なくなり、現在では僅かな河川に生息しているにすぎない。

備 考 WWFの指定ランク：危険

## クリイロコミミガイ

*Laemodonta siamensis*  
(Morelet)

オカミミガイ科  
Ellobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 国内・県内ともに分布地が少なく局限される。開発や水質汚染のために生息条件が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 中津市，宇佐市，真玉町，杵築市，日出町，別府市

分布域 本州(三河湾以西) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) 沖縄

生息環境 汽水域のヨシ原で、泥に埋もれた石や漂着物の下。

現 状 干潟の減少によって生息適地が少なくなり、現在では僅かな河川に生息しているにすぎない。

備 考 WWFの指定ランク：危険

## ウスコミミガイ

*Laemodonta exaratooides*  
Kuroda(MS)

オカミミガイ科  
Ellobiidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

選定理由 三河湾や山口に分布域をもつが分布地は少なく、本県の生息地は局限される。開発や水質汚染のために環境が悪化して、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布 日出町

分布域 本州(三河湾・山口) 四国 九州(佐賀・熊本・大分) 沖縄  
朝鮮半島

生息環境 汽水域の高潮帯で、転石の間や泥に埋もれた石の下。

現 状 干潟の減少によって生息適地が少なくなり、現在では僅かな河川に生息しているにすぎない。

備 考 WWFの指定ランク：危険

## ハマダモノアラガイ

*Radix hamadai* Habe

モノアラガイ科  
Lymnaeidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 I

選定理由

県内分布 (竹田市)

分布域 九州(大分)

生息環境 山間の小さな溪流で、藻のついた岩や用水路の壁面・アカバナの根元。

現 状 1977年以降生息の確認ができていない。

備 考 模式標本産地 [ 竹田市神原 ]

## クルマヒラマキガイ

*Hippeutis (Segnitilia) cantori*  
(Benson)

ヒラマキガイ科  
Planorbidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II  
水産庁 希少種

選定理由 | 西日本に分布域をもつが生息地は少なく、本県でも生息地は局限される。圃場整備や水田の干出による乾燥化などで、個体数が減少傾向にある

県内分布 | 大分市，野津町

分布域 | 本州(大阪・兵庫・山口) 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎) 沖縄  
中国 ,ウツリヨウ島

生息環境 | イネの切り株や水路の周辺，休耕田。

現 状 | 水田や周辺の水路の乾燥化などで，生息環境が悪化して個体数が減少している。

## チョウセンスナガイ

*Gastrocopta (Sinalbinula) coreana*  
Pilsbry

スナガイ科  
Chondrinidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 | 全国的に分布地は少なく，九州では本匠村の石灰岩地域にのみ生息する。樹木の伐採や造林による環境の変化で絶滅の危機に瀕している。

県内分布 | 本匠村

分布域 | 本州(埼玉・群馬・広島) 九州(大分)  
韓国南部

生息環境 | 石灰岩地の凹地や礫の間，落ち葉の下。

現 状 | 一生息地では植林された樹木の生長に伴い，環境が変化したために生息の確認が出来なくなっている。

## ホソキセルガイモドキ

*Mirus rugulosus*  
(Moellendorff)

キセルガイモドキ科  
Enidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 準

選定理由 | 九州に広く分布域をもつが，本県では生息地が少ない。樹木の伐採により環境の悪化が懸念される。

県内分布 | 中津江村，弥生町

分布域 | 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 | 自然林内にある老木の樹幹。

現 状 | 古い樹木の樹幹に着生していたが個体数が減少して，最近では生息の確認が出来なくなっている。

## ピントノミギセルガイ

*Hemizaptyx pinto* (Pilsbry)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 (臼杵市)

分布域 四国(徳島) 九州(大分) 沖縄

生息環境 神社の裏にある石垣の間や落ち葉の下。

現 状 山麓の崩落防止工事のために生息地が失われ、1995年以降生息の確認ができていない。

## トサギセルガイ

*Placeophaedusa tosana tosana*  
(Pilsbry)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 四国に広く分布域をもつが、本県には生息地が少ない。自然林の減少により生息地、個体数ともに減少傾向にある。

県内分布 安岐町、竹田市、宇目町

分布域 本州(中部) 四国 九州(熊本・大分・宮崎)

生息環境 山地の自然林内で落ち葉の下や朽ち木。

現 状 樹木の伐採や造林のために、一部の生息地が失われている。

## アラナミギセルガイ

*Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) oxycyma*  
(Pilsbry)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州南部が分布域で、本県では生息地が局限される。自然林の中に生息するが、登山者などの踏圧により絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 庄内町

分布域 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 林内に堆積する落ち葉の下や朽ち木。

現 状 観光客や登山者の林内への立入りで、生息環境が徐々に悪化している。

備 考 本種は北限分布。

## ピルスブリギセルガイ

*Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) pilsbryana*  
(Ancey)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

**選定理由** 九州北部が分布域で、本県でも主に北部に分布する。自然林の減少で、生息地が徐々に少なくなっている。

**県内分布** 山国町，耶馬溪町，本耶馬溪町，日田市，中津江村，上津江村，九重町，庄内町，大分市，宇目町

**分布域** 本州(山口) 九州(福岡・長崎・熊本・大分)

**生息環境** 丘陵地や低山地の森林内で倒木や朽ち木。

**現 状** 樹木の伐採による自然林の減少により，良好な生息地が少なくなっている。

## カワモトギセルガイ

*Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) kawamotoi*  
Kuroda & Taki

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

**選定理由** 本州の西部と九州の中部に分布域をもつ。本県では南部に分布する。樹木の伐採による環境の変化で個体数は減少傾向にある。

**県内分布** 三重町，野津町，津久見市，本匠村，佐伯市，宇目町，緒方町

**分布域** 本州(山口) 九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 石灰岩地や山地の林内で落ち葉の下や倒木の下。

**現 状** 生息地の石灰岩地が荒廃したために，その地区では生息の確認ができなくなっている。

## ミヤザキギセルガイ

*Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) miyazakii*  
Minato & Tada

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

**選定理由** 大分県と宮崎県に分布域をもつ。本県では南部に分布するが，生息地は局限される。開発により生息環境の悪化が懸念される。

**県内分布** 上浦町

**分布域** 九州(大分・宮崎)

**生息環境** 石灰岩地のがれ場で礫の間や落ち葉の下。

**現 状** 生息地の近くでシイタケが栽培され始め，生息地の一部にも人為が及んでいる。

## スギモトギセルガイ

*Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa)*  
*sugimotonis sugimotonis* Minato & Tada

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

**選定理由** 大分県と愛媛県の豊後水道域を主分布域とする。この地域は自然環境が良く保存されているが、生息個体数は減少傾向にある。

**県内分布** 津久見市, 上浦町, 本匠村, 佐伯市, 鶴見町, 米水津村, 蒲江町, 宇目町

**分布域** 四国(愛媛南部) 九州(大分・宮崎)

**生息環境** 海浜の低木林内のがれ場や丘陵地にあるスギ林の落ち葉の下。

**現 状** かつては群生していた生息地でも個体数が減少して、最近では生息の確認が困難になっている。

## ウブギセルガイ

*Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa)*  
*puellaris* Minato & Tada

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 II

**選定理由** 一島嶼のみに生息する固有種である。生息地が集落に近接しているために人為が加わりやすく、絶滅の危険性が高くなっている。

**県内分布** 蒲江町

**分布域** 九州(大分)

**生息環境** 林内や山麓のがれ場の礫の間や落ち葉の下。

**現 状** 生息地の周辺で整地や開墾が行われ、環境が悪化している。

**備 考** 模式標本産地 [ 蒲江町屋形島 ]

## ナンピギセルガイ

*Pauciphaedusa toshiyukii*  
Minato & Habe

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

**選定理由** 九州山地に分布域をもち、本県では祖母・傾山地に生息する。自然林の一部荒廃や倒木の減少などにより、消滅した生息地が多くなっている。

**県内分布** 竹田市, 宇目町

**分布域** 九州(熊本・大分・宮崎)

**生息環境** 山地の自然林内で倒木や朽ち木。

**現 状** 依存している朽ち木などの減少で、個体数が少なくなっている。

## オオイタシロギセルガイ

*Neophaedusa masatokandai*  
*masatokandai* Minato

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

選定理由	本県南部の石灰岩地域と宮崎県北部に分布する。林道の開設や造林などにより、生息環境が悪化して絶滅の危険性が高くなっている。
県内分布	三重町，宇目町
分布域	九州(大分・宮崎)
生息環境	石灰岩の礫の間や落ち葉の下。
現 状	樹木の伐採や林道の開設などで、生息地の一部が荒廃したり失われたりしている。
備 考	石灰岩地域の固有種。模式標本産地 [ 三重町白谷 ]

## ヒメシロギセルガイ

*Neophaedusa masatokandai shiroi*  
Minato

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

選定理由	大分県南部の石灰岩地域に分布域をもつ。模式産地では道路の開設により生息環境が著しく悪化し、危機的水準にまで減少している。
県内分布	野津町，本匠村
分布域	九州(大分)
生息環境	石灰岩の礫の間や落ち葉の下，草むら。
現 状	開発などによりいずれの生息地でも、生息の確認が困難な状況になっている。
備 考	大分県南部石灰岩地域の固有種。模式標本産地 [ 本匠村前高神社 ]

## オキモドキセルガイ

*Mesophaedusa okimodoki*  
Minato & Tada

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由	九州に分布域をもつ。本県では主に南部に分布する。丘陵地や低山地に生息するが、開発などにより個体数は減少傾向にある。
県内分布	中津江村，別府市，大分市，三重町，本匠村，蒲江町，竹田市
分布域	九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
生息環境	自然林内や溪流沿いのがれ場などで落ち葉の下や倒木。
現 状	林道の開設や樹木の伐採によって、生息地の一部で環境が悪化している。

## カタギセルガイ

*Mesophaedusa interlamellaris*  
(Martens)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州南部が主な分布域で、本県でも南部に分布するが生息地は局限される。開発のため個体数が減少傾向にある。

県内分布 庄内町，宇目町，緒方町

分布域 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 山地の林内で落ち葉の下や倒木。

現 状 樹木の伐採や林道の開設により生息地・個体数ともに減少している。

備 考 本県は分布の北限域。

## タケノコギセルガイ

*Mesophaedusa elongata*  
Minato & Tada

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

選定理由 本県の南部石灰岩地域と宮崎県北部を分布域とするが、生息地は局限される。樹木の伐採や林道の開設などで、個体数は危機的水準にまで減少している。

県内分布 宇目町

分布域 九州(大分・宮崎)

生息環境 落ち葉が堆積した石灰岩の礫地や、洞穴入口付近の草むらなど。

現 状 開発により生息地の一部が消滅した。また他の生息地では植林による攪乱で、個体数が著しく減少している。

備 考 石灰岩地域の固有種。

## キュウシュウナミコギセルガイ

*Euphaedusa subaculus*  
(Pilsbry)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由 九州に広く分布域をもつが、本県には生息地が少ない。平地の畑地周辺などに生息するため人為を受けやすく、個体数の減少が懸念される。

県内分布 宇佐市，臼杵市，弥生町

分布域 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 平野部の畑作地周辺や、丘陵地の林内の落ち葉の下。

現 状 丘陵地の自然林の減少や畑作地周辺の開発で、生息地が少なくなっている。

## カスガコギセルガイ

*Pictophaedusa hungerfordiana*  
(Moellendorff)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 I

- 選定理由** 国内に生息地は極めて少なく、九州では本県の一地点のみが知られる。周辺の開発の影響を受けて環境が悪化し、生息個体数は危機的水準にまで減少している。
- 県内分布** 三重町
- 分布域** 本州(近畿・中国地方) 四国(徳島) 九州(大分)
- 生息環境** 林内に生育する二本の苔むした老木。
- 現 状** 生息地周辺で樹木が伐採されたために乾燥しやすくなった。また近くが落ち葉の焼却場所になり、生息環境が更に悪化している。
- 備 考** 本県は分布の南限域。

## ハナコギセルガイ

*Pictophaedusa euholostoma*  
(Pilsbry)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

- 選定理由** 伊豆半島以西に分布域をもつが生息地はごく少なく、本県では南部に分布する。樹木の伐採のために、環境が著しく悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。
- 県内分布** 弥生町, 本匠村, 宇目町
- 分布域** 本州(伊豆半島) 四国(高知西部) 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
- 生息環境** 神社境内の苔むした老木。
- 現 状** 生息地の神社では整地や樹木の伐採などのために、神社林が攪乱されて環境が極めて悪化している。
- 備 考** ソハヤキ要素型分布。

## ヒロクチコギセルガイ

*Reinia variegata*  
(A, Adams)

キセルガイ科  
Clausiliidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 II

- 選定理由** 西南日本の沿海地に分布域をもち、本県では豊後水道沿岸に分布する。海岸部の開発により環境の悪化が懸念される。
- 県内分布** 宇佐市, 姫島村, 臼杵市, 津久見市, 鶴見町, 蒲江町
- 分布域** 本州(関東以西の太平洋側・山口) 四国 九州(福岡・長崎・大分)
- 生息環境** 沿海地に生育する自然林内の樹幹。
- 現 状** 海岸林の伐採のために乾燥化が進み、生息の存続が困難となった生息地がある。

## カンダベッコウマイマイ

*Ovachlamys kandai* Azuma

ベッコウマイマイ科  
Helicarionidae

### カテゴリー

大分県 II  
環境庁 情報不足

選定理由 豊後水道域のわずかな島嶼に分布域をもつ。開発のために生息地が徐々に失われていて、個体数が大幅に減少している。

県内分布 津久見市，鶴見町，米水津村

分布域 九州(大分)

生息環境 林縁に捨てられた瓦の間や，がれ場。

現 状 山麓の崩落防止工事や道路の開設などにより，生息地の一部が攪乱されている。

備 考 模式標本産地 [ 鶴見町大島 ]

## テラマチベッコウマイマイ

*Bekkochlamys teramachii*

Kuroda & Minato

ベッコウマイマイ科  
Helicarionidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

選定理由 九州が分布域で，本県に広く分布するが希である。人為の加わらない自然度豊かな土地の減少に伴い，生息地が少なくなっている。

県内分布 耶馬溪町，宇佐市，安岐町，別府市，大分市，佐伯市，本匠村，宇目町，緒方町

分布域 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 自然林内の礫の間や落ち葉の下。

現 状 自然林の減少や樹木の伐採による荒廃で，生息地が少なくなっている。

## オオウスピロウドマイマイ

*Nipponochloritis fragosus*

Minato

ナンバンマイマイ科  
Camaenidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 II

選定理由 九州に分布域をもつが生息地は少なく，本県でも生息地は局限される。自然林の減少に伴い，個体数は減少傾向にある。

県内分布 耶馬溪町，庄内町，竹田市

分布域 九州(熊本・大分)

生息環境 山地の林内で，朽ち木や石の裏面などの暗湿な所。

現 状 樹木の伐採により環境が悪化して，生息の確認が困難になった生息地がある。

## シコクビロウドマイマイ

*Nipponochloritis hiromitadae*  
Minato

ナンバンマイマイ科  
Camaenidae

### カテゴリー

大分県 IA  
環境庁 準

選定理由 四国を分布域として、九州では本県だけに分布する。生息地の近くに道路が開設されて環境が悪化し、絶滅の危機に瀕している。

県内分布 蒲江町

分布域 四国 九州(大分)

生息環境 山間部の自然林内のがれ場。

現 状 林道の開設による樹木の伐採などで、生息地の一部が攪乱され環境が悪化している。

## カンダマイマイ

*Aegista (Coelorus) kandai*  
Azuma

オナジマイマイ科  
Bradybaenidae

### カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 I

選定理由 大分県南部が主な分布域である。生息地が集落の周辺にあるために、開発など人為による攪乱があり、環境が著しく悪化しつつある。

県内分布 野津町、本匠村、佐伯市、米水津村、蒲江町

分布域 九州(熊本・大分・宮崎)

生息環境 山麓や林縁にあるがれ場の礫の間や落ち葉の下。

現 状 整地や除草などの小さな人為により、多くの生息地が消滅している。

備 考 模式標本産地 [ 蒲江町葛原 ]

## マツカサガイ

*Inversidens (Pronodularia) japonensis*  
(Lea)

イシガイ科  
Unionidae

### カテゴリー

大分県 準  
環境庁 準

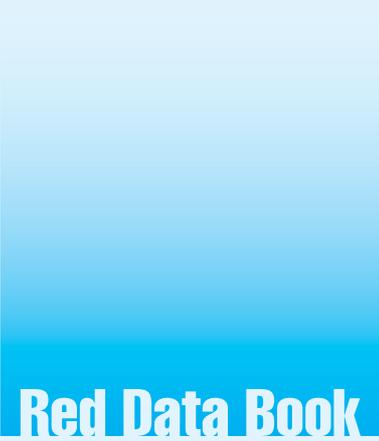
選定理由 国内に分布域は広いが、本県には生息地が少ない。河川の改修や水質汚染など、環境の悪化により個体数が減少傾向にある。

県内分布 宇佐市

分布域 本州 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

生息環境 流れの緩やかな砂と礫の混じる浅い河床。

現 状 河川の改修により生息地の河床が部分的に攪乱されて、個体数が減少している。

The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. At the bottom of the square, the text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font. A thin white horizontal line is positioned directly below the text.

**Red Data Book**

絶滅のおそれのある  
野生生物の現状と課題



『レッドデータブックおおいた』には、現存する野生生物のうち、絶滅のおそれのあるものが922種（野生絶滅、情報不足を除く）掲載されている。その多くは、特殊な環境に限定して生育・生息しているものを除くと、人との関わりにより、生育地あるいは生息地の破壊・劣化によるものとなっている。野生生物を絶滅させないためには、人の英知とその対応策が必要である。次に本県における野生生物の現状と課題について述べる。

## 1. 野生植物

### (1) 自生地の保護

開発や土木工事など巨大な動力による自然環境の破壊が続いており、絶滅が危惧される植物の保護は、生育地の環境保全なしには考えられない。

大分県が本邦唯一の産地であるシダ植物ホウライクジャクは、石灰岩地の洞窟の崖地に生育している。環境は大正時代の発見当時のままで、個体数はほとんど増減もなく生育し続けている。洞窟の内部は広げられて道路になったが、生育地の現状を変えずに保護したため、この狭い場所で生き続けている。

### (2) 盗掘防止対策の強化

希少植物の多くは、野草愛好家や収集マニアにより採取され、著しく減少した。特に県内では、ヤマシャクヤク、サクラソウ、ランの仲間が対象となってきた。かつては、エビネの仲間やクマガイソウなどはそれほど珍しくもなかったが、近年ほとんどみられなくなっている。

また、盗掘の防止とともに、希少野生植物の販売、外国植物の輸入などの指導と規制も必要である。

しかし、ハマオモトのように、採取によって激減した種でも、地域の保護運動により、以前よりも増加したものもある。

### (3) 生育環境の管理

観光開発、人工採草地の拡張などの土地改変により、高原の半自然草原や湿地に生育している植物の多くは、直接的な影響を受け、激減したり、消滅したりしている。半自然草原を生育地としてきたエヒメアヤメ、ヒゴタイなどや、サクラソウ、サギソウなどの湿地植物は絶滅寸前となっている。また、低地の湿地に生育するイバラモ科の水草やオニバスなどは、田圃の宅地化、ため池の埋立てなどにより、絶滅に追い込まれているものが多い。生育環境の復元が困難なこれらの植物は、その生育環境の確保が保全の必須条件となる。

また、近年多くの外来種が侵入し、園芸品種が逸出しているものも多く、草地のフラサバソウやセイヨウタンポポなどによって、イヌノフグリ、ツクシタンポポなどの在来種の生存が脅かされている。

### (4) 環境保全と環境教育の推進

道路工事などの大規模な改変には環境アセスメントの実施が義務づけられているが、小規模なものについても、土地改変工事前後における計画的な資料の検討や調査・研究が必要である。

絶滅寸前の種については、保護地の拡大や人の立入制限、人工増殖も視野に入れた保護対策の検討がなされなければならない。

長期的には自然愛護精神の涵養、幼児教育段階からの自然保護教育の徹底、博物館や教育委員会での自然教室の開催、研究者や同好の有志らによる保護運動などの充実と継続も大切である。

## (5) 生態系の保全

### 森林の現状と保全

絶滅の危険性の要因として、種子・シダ・コケ植物の各分類群とも、1960～1970年にかけての大規模な森林伐採を挙げている。特に、コケ植物とシダ植物は湿度や光などの環境変化に敏感であるため、その影響を受けた種類が多い。

このことから、スギ、ヒノキの針葉樹の植栽だけでなく、当該地域の潜在種を発掘・選択することによって、自然林の復活をめざし、県土の自然環境を保全すべきものとする。

[ブナ林, モミ・ツガ林] 1960年代から、県内では祖母・傾山系を中心にしたブナ林, モミ・ツガ林などの国有林の多くが伐採された。そのため、木材切り出しのための林道の整備が森深くまで進められた。その結果、モミ林, シオジの自然林はごく限られた岩角地や谷部にしか残ってなく、標高1,000m前後の林内に生育する希少種が消滅した。現在、残されている自然林のすべてが保全されなければならない。

[照葉樹林] 標高800m以下の低地の照葉樹林の多くは伐採され、スギ・ヒノキなどの人工林に変えられた。また、伐採後放置されて荒廃し、陽樹を中心にした二次林となっている所が多く、山ろくでは住宅地やゴルフ場になった所もある。特にラン科植物は、環境の変化に弱く、ほとんどみられなくなっている。残存する自然林は、天然記念物指定などの保護地域の拡大による保全対策が必要である。

林業や農業と共に栄えてきた里山は、生活の場として、多様な環境を作り出してきたが、農山村の高齢化に伴い荒廃してきている。里山は人との関わりが弱くなると植生遷移が進行し、環境が単純化し、里山に長い間生きてきた野生生物に影響を与える。里山の環境の保持には特に配慮が必要であろう。

### 草原等の現状と保全

火山性高原を中心に原野を開墾して広大な牧草地が広がっている。一方、人手不足により野焼きや採草を中止した所も多く、草原ではツクシヤブウツギ、ノリウツギなどの落葉低木林へと遷移の進行による生育環境の変化で、サクラソウやエヒメアヤメなどは激減している。今後、草原の多様性を維持するための野焼きや適度な採草などにも配慮することが必要である。

### 河川水湿地の現状と保全

河川が堤防により区切られ、河床や河岸がコンクリートで補強されたため、タコノアシ、ミクリの仲間などの水辺の植物の生育地はほとんど消滅した。さらに水田で使用した除草剤の河川への流入により、ミズオオバコ、セキショウモなどの水草は、壊滅的な打撃を受けた。

現在、多自然的川づくりが提唱され、中流域の水辺の生き物のための環境がよみがえりつつある。今後はこの運動が上流・下流域にも広がっていくことが期待される。

### 干潟、海浜の現状と保全

都市住宅地や工業用地確保のため海岸の埋め立てが進み、砂浜や塩性湿地、干潟が失われてきた。砂浜や河口の湿地ではカモノハシ、ハマボウなどが減少しており、シバナ、ハマサジなど特定の環境でのみ生育できる種は塩性湿地の減少により、危険にさらされている。また、河口汽水域に生育するコアマモ、ウミヒルモなどは、生育調査と保護への対応が必要であろう。

海岸の砂浜は、港湾施設のための埋め立ての対象地となり、消滅したり、規模が縮小したりして、以前は普通種であったハマイチョウ、ハマグルマなどが減少している。

海岸の岩場も道路工事により、岩上に生育するサダソウ、ヒュウガトウキなどが影響を受けている。また、釣りブームのため、海岸の岩上が汚染され、岩場の植物にも影響が出ている。

#### 田園環境の現状と保全

1970年代に始まった農業の大規模化、機械化は田園の様相を一変させ、突き立て井戸や規模の小さいため池や湿地はなくなり、小形の水生植物は消えた。さらに、減反政策が実施され、海岸部や中山間地を中心に水田が減少し、平野部でも休耕田や畑への転作が相次いだ。

さらに、除草剤や農薬の使用により田園地帯からミズワラビ、デンジソウ、ミズオオバコ、さらにハンゲショウなどが激減した。また、県の北部地域では、周囲の宅地化により、ため池や湖沼に生育する水生植物が影響を受けている。

田園環境の変化で激減した生物の保護についての対応は、しばしば話題になるが、現在まで有効な方策は施されていない。

## 2. 野生動物

### (1) 生息地の保護

希少野生生物の生息を危うくする共通の要因として、森林伐採、宅地開発、河川改修、池沼の埋立て等があげられている。

- ・哺乳類については、里山周辺などに生息し人との関わりが深かった種の減少傾向が著しい。
- ・鳥類では、里山域で繁殖する夏鳥や留鳥が生息環境の悪化の影響を受けている。
- ・爬虫類では、森林伐採による生息域の減少や生息環境の質的变化などにより、県下で普通種であったヘビ類全体が減少傾向にある。
- ・両生類では、森林伐採、池沼・湿地開発、道路工事、水質汚染などにより、トノサマガエルのように多くの種で個体数の減少傾向が続いている。
- ・魚類では、ハゼ科のように河川の上・中流域や干潟を生息場所とする種は、河川改修や水質汚染などの人為的開発の影響を直接的に受けている。
- ・昆虫類では、森林伐採、池沼・湿地開発、河川開発、土地造成、水質汚染などの様々な要因により、絶滅が危惧されている種が非常に多い。
- ・クモ類のキムラグモは、本県が生息北限域となっているが、この地域は、観光開発、道路網整備等の開発が行われており、生息地の分断現象にさらされている。
- ・甲殻類では、河川改修、干潟の埋立てにより生息地の狭小化が進んでいる。
- ・陸・淡水産貝類の多くは、落ち葉の下や礫の間、泥に埋もれた石の裏面などで生息しており、森林伐採、干潟・塩性湿地・池沼の埋立て、河川改修、水質汚染などにより生息地が徐々に失われている。

しかし、一方では、オオイタサンショウウオの保護のための池が作られ、ベッコウトンボの生息地が保護されている例もある。

### (2) 人為的な管理

自然度の高い自然林や大河川などについては、人為的な管理はできるだけ加えないのが望ましい。しかし、二次林、二次草原、農耕地等の二次的環境は、人為的な管理を行わないと、これまでの環境を維持することができなくなり、これに生息する生物の生存が危ぶまれることとなる。

雑木林とよばれる二次林は、燃料の採取など人間生活との関わりを通して維持されてきた。二次

草原（半自然草原）についても採草を目的とした定期的な火入れなどにより維持されてきたが、生活スタイルや生活環境の変化などにより、以前のような自然環境を維持することが極めて困難になってきている。

また、長い時間をかけて形成された水田は、田に水を供給する水路、水源としてのため池などとともに水生生物の生息地でもあった。しかし、市街地周辺部においては宅地造成や道路工事などにより、中山間地域では担い手不足で水田が減少している。

このような状況から、二次的自然環境の保全には、生活の場、生産の場としての活用の強化を図るとともに、二次林や水田を含めた「里山の保全」というとらえ方での環境保全を進める必要がある。

中小河川では、生活排水の流入やゴミなどの投棄により水質の汚染と富栄養化が進んでいる。このような河川では、水域から陸域への連続性を確保するため、魚類の生息のために必要な瀬と淵の保全、魚が上り下りしやすい環境の整備、水生昆虫が生息できる河床の形成、水生植物が生育できる水際環境の保全などに留意した「多自然型川づくり」を推進しなければならない。

海岸においても、浅場、干潟など水産動植物の生息、繁殖に必要な自然環境の保全や海岸部の水質保全を図るために汚泥やヘドロの除去を行ったり、渡り鳥などに少なからず影響を与えている浮遊ゴミ等の処理も行わなければならない。また、磯釣りによる環境汚染にも配慮が必要である。

### （３）生態系の保全

希少野生動物の保護のためには、その動物が生息している生態系そのものの保全が必要である。森林の伐採は樹木の消失だけでなく動物の生息空間を奪い、生息を危うくしている。森林の伐採によりその数が激減した動物は多い。また、森林伐採によって起こされる河川汚濁などの現象は、淡水魚類や両生類にも多大な影響を与えている。

人里近くの森は里山とよばれ、人為的影響のもとで安定した状態にあり、多様な動植物の生息地になっていた。しかし、生活様式の変化により管理が行き届かなくなり荒廃が進んでいる。また、都市近郊においては宅地造成のため、里山そのものが消滅している所も多く、小型哺乳類、昆虫類、両生類などもその生息域が狭められている。

1970年ごろからは、田畑の圃場整備などが行われるようになり、それに伴って中小河川の改修が行われ、コンクリート三面張りが多くなってきた。そのため動植物の生育場所が減少し、種が消滅したり、個体数が激減している。

さらに、平野部に点在していた小規模な湿地やため池などは宅地造成や道路工事などによりその姿を消し、山間部でも里山や原野などの湿地は、放置されたために植生遷移の進行で森林化したりして、大きく変貌した。このような変化は、水生植物の生存に大きな影響を与え、淡水魚、両生類、トンボなどの昆虫類にも多大な影響を及ぼしている。

### （４）その他

#### 狩猟・捕獲の問題

狩猟・捕獲により野生絶滅したものはツキノワグマであるが、ニホンカモシカやオオタカなども密猟による圧迫を受けており、その数が激減している。

また、ニホンザルのように観光産業資源として人為的保護を永年にわたって加えた結果、個体群規模が異常に増大し、生息環境や周辺地に及ぼす影響が懸念されるため、避妊などによって個体群規模を積極的にコントロールしている事例もある。

### 移入種

外国産生物種の移入や飼育放棄が行われると、外来種に比べて生活力の弱い在来種は圧倒されてしまう。ブラックバスやブルーギルなどの外来の淡水魚が、県内各地のため池に放流されたため、急激に増加し、在来種の生存に多大な影響をもたらしている。また、本県に侵入してきたタイリクバラタナゴは急速に生息域を広げる一方で、在来のニッポンバラタナゴと容易に交雑するため、在来種の純系がほとんど残っていない状況にある。食用として輸入されたウシガエルは河川・池沼に分布域を広げ、在来の水生動物や昆虫を捕食している。ウシガエルの餌として移入されたアメリカザリガニもその旺盛な繁殖力のため県下各地に分布するようになり、在来種の昆虫や淡水魚に影響を及ぼしている。ペットとして飼育されていたミシシッピーアカミミガメ（ミドリガメ）も野生化したものが、県内の河川、池沼に広く分布し、在来種のカメの生息に大きな影響を与えている。

## 3. 今後の課題

絶滅のおそれのある野生動植物の現状と課題が明らかになり、今後はこうした野生動植物の生息・生育環境をいかに保全していくかが大きな課題である。それには、行政による野生生物保護施策の積極的な展開が望まれる一方、県民一人ひとりの理解と実践が必要である。

### (1) 希少野生生物保護対策

『レッドデータブックおおいた』において、絶滅の危険性が高いとされた種については、その積極的な保護に向けた対策が必要であり、具体的な保護方法等を内容とする「希少野生生物保護条例」（仮称）の制定などによる法規制が望まれる。

### (2) 各種開発事業における環境配慮

アセス法又はアセス条例に規定されている大規模事業では、環境影響評価の実施が義務づけられているが、規模の小さい開発事業においても自然環境の現況調査に基づく影響評価を実施するなどの環境配慮が必要であり、行政、民間を問わず、レッドデータブックを活用した自然環境保全の配慮が求められる。

### (3) 自然保護思想の普及

自然環境を保全する主体は県民であり、自然保護思想の普及啓発が重要である。野生生物の現状と課題をまとめた『レッドデータブックおおいた』の内容を広く県民が理解され、自然保護の関心を高めていくとともに、自然保護活動の基礎資料としての活用が望まれる。

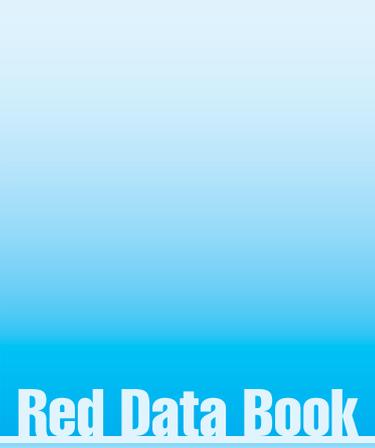
また、平成13年度に出版が予定されている写真で紹介する『レッドデータブックおおいた』の普及版は、県民に分かりやすく編集されるようになっており、大分県における絶滅のおそれのある野生生物を理解する教材としての活用が期待される。

### (4) レッドデータブックの定期的な見直し

野生生物の種は非常に多く、今回の調査で確認することができず今後の調査に残されたものもある。また、人による生産活動の拡大によって、カテゴリーの変更や新たに絶滅が心配されるものも生じてくる。さらには、「情報不足」とされた種の生息・生育状況が確認されたり、広く県民から多くの情報が提供されることも期待される。

このようなことから、少なくとも5～10年ごとにレッドデータブックの見直し作業を実施し、定期的な改訂を行う必要がある。



The logo consists of a blue square with a vertical gradient from light blue at the top to a darker blue at the bottom. The text "Red Data Book" is written in white, bold, sans-serif font across the bottom portion of the square.

**Red Data Book**

資 料



# 生物分類群・カテゴリー別 選定種一覧（植 物）

種名の後の（ ）書きは環境庁のカテゴリー（略号）

## シダ植物

### 絶滅危惧 IA類（30種）

ヒカゲノカズラ科	ヒモラン（IA）
ミズニラ科	シナミズニラ（IB）
ハナヤスリ科	ナガホノナツノハナワラビ
リュウビンタイ科	リュウビンタイ
ゼンマイ科	シロヤマゼンマイ
ウラジロ科	カネコシダ（IB）
コケシノブ科	ツルホラゴケ
コバノイシカグマ科	オオレンシダ
	オオフジシダ
ホングウシダ科	ハマホラシノブ
	サイゴクホングウシダ
ホウライシダ科	ホウライクジャク（IB）
シシラン科	ナカミシシラン
イノモトソウ科	ヤワラハチジョウシダ
チャセンシダ科	コタニワタリ
	ヒノキシダ
	シモツケヌリトラノオ
オシダ科	タチデンド
	オトコシダ
	ツクシオオクジャク
	ワカナシダ
ヒメシダ科	テツホシダ
	ホソバショリマ
イワデンダ科	コモチイヌワラビ（IA）
	ミドリワラビ
	ヒトツバシケシダ
	アソシケシダ（IB）
	イヨクジャク
デンジソウ科	デンジソウ（II）
	サンショウモ（II）

### 絶滅危惧 IB類（20種）

ヒカゲノカズラ科	スギラン（IB）
ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ
ホングウシダ科	エダウチホングウシダ
ホウライシダ科	エビガラシダ
	オトメクジャク（II）
イノモトソウ科	ハチジョウシダモドキ
	アイコハチジョウシダ
チャセンシダ科	カミガモシダ

オシダ科	サカゲイノデ
	キヨズミオオクジャク
	ヌカイタチシダ
	ヌカイタチシダマガイ
イワデンダ科	シイバサトメシダ（II）
	ハコネシケチシダ
	コクモウクジャク
	イワヤシダ
ウラボシ科	ホテイシダ
	ヒメサジラン
	オシャグジデンダ
アカウキクサ科	アカウキクサ（II）

### 絶滅危惧 II類（17種）

ヒカゲノカズラ科	ヒメスギラン
	ミズスギ
コケシノブ科	オオコケシノブ
ホウライシダ科	ミズワラビ
イノモトソウ科	キドイノモトソウ（II）
チャセンシダ科	クモノスシダ
	トキワシダ
オシダ科	ヌカイタチシダモドキ
	イワイタチシダ
ヒメシダ科	ヨコグラヒメワラビ
イワデンダ科	コガネシダ
	ミヤコイヌワラビ
	ツクシイヌワラビ
	フモトシケシダ
	オニヒカゲワラビ
ウラボシ科	コウラボシ
	ツクシノキシノブ

### 準絶滅危惧（18種）

マツバラン科	マツバラン（II）
ハナヤスリ科	ヒロハハナヤスリ
コケシノブ科	コケシノブ
コバノイシカグマ科	フジシダ
ホウライシダ科	ヒメウラジロ（II）
	ハコネシダ
	カラクサシダ
シシガシラ科	オサシダ
オシダ科	メヤブソテツ
	ツルデンダ

(準絶滅危惧)

オシダ科	アイアスカイノデ タニヘゴ ニセヨゴレイタチシダ(II) ナチクジャク
イワデンダ科	イワデンダ サトメシダ
ウラボシ科	オオヒメワラビモドキ イワヤナギシダ

情報不足(17種)

ミズニラ科	オオバシナミズニラ(II)
ゼンマイ科	ヤシャゼンマイ
イノモトソウ科	ハチジョウシダ
オシダ科	アスカイノデ シビカナワラビ(IA) ハガクレカナワラビ サクライカグマ ギフベニシダ
ヒメシダ科	ミヤマワラビ ミドリヒメワラビ
イワデンダ科	ヌイワデンダ サカバサトメシダ(II) コウライイヌワラビ(II)
ウラボシ科	クラガリシダ(II) ヌカボシクリハラン ヒトツバイワヒトデ
ヒメウラボシ科	オオクボシダ

種 子 植 物

野生絶滅(1種)

バラ科	ツクシカイドウ(野生絶滅)
-----	---------------

絶滅危惧 IA類(75種)

オモダカ科	マルバオモダカ(II)
イネ科	ハネガヤ コメガヤ ミチシバ
カヤツリグサ科	フサスゲ オオアゼスゲ オニナルコスゲ ツクシオオガヤツリ(II) オオイヌノハナヒゲ トラノハナヒゲ
ホシクサ科	ゴマシオホシクサ(II)
ユリ科	タマボウキ(IA) キバナノアマナ

ユリ科	カンザシギボウシ ノヒメユリ ヒメユリ(II) キバナノコオニユリ
ヒナノシヤクジョウ科	ヒナノシヤクジョウ シロシヤクジョウ キリシマシヤクジョウ(IA)
ラン科	タガネラン(IA) キエビネ(II) クマガイソウ(II) ツリシュスラン サギソウ(II) ニラバラン ガンゼキラン(IA) ツクシチドリ(II) ウチョウラン(II) ナゴラン(IA) イラクサ科 アカザ科 ナデシコ科 キンポウゲ科
	チョクザキミズ(IA) ヒロハマツナ(II) オグラセンノウ(II) ハナカズラ(II) フクジュソウ(II) アズマイチゲ ミスミソウ(準) トウゴクサバノオ ヒメバイカモ(IA) ツツラフジ科 ベンケイソウ科 バラ科
	マメ科 コウモリカズラ イワレンゲ(II) ズミ ゴショイチゴ(II) チョウセンニワフジ(IA) レンリソウ アカササゲ(IA) ツクシフウロ(II) オオヤマカタバミ(II) ナガバヒゼンマユミ(IA) ハマナツメ(II) ブンゴボダイジュ ツクシボダイジュ(IA) タチスミレ(II) ウバタケニンジン(II) シラカワボウフウ ツクシボウフウ(II) オオツルコウジ(II) ナタオレノキ ミツガシワ ヤブコウジ科 モクセイ科 リンドウ科 キョウチクトウ科 ガガイモ科 ヒルガオ科
	チョウジソウ(II) ロクオンソウ(II) ゲンバイヒルガオ

(絶滅危惧 IA類)

ムラサキ科	マルバチシャノキ
シソ科	ツクバキンモウソウ
	ケミヤマナミキ (IB)
ゴマノハグサ科	ツクシクガイソウ (IB)
イワタバコ科	シシンラン (IB)
	イワギリソウ (IB)
タヌキモ科	コタヌキモ
スイカズラ科	ハクサンボク
レンブクソウ科	マンセンレンブクソウ
キキョウ科	ヤツシロソウ (IB)
キク科	イワギク (II)
	コウリンギク (IA)

絶滅危惧 IB類 (159種)

ヒルムシロ科	ササバモ
	オヒルムシロ
	イトクズモ (II)
イバラモ科	イトトリゲモ (IB)
	トリゲモ (IB)
ホロムイソウ科	シバナ (II)
トチカガミ科	スブタ (II)
	ウミヒルモ (準)
	ミズオオバコ
イネ科	クジュウガリヤス
	タシロノガリヤス (IB)
	ウンヌケモドキ (II)
	ヤマトボシガラ
	ハイキビ
カヤツリグサ科	オニスゲ
	ピロウドスゲ
	クジュウツリスゲ (II)
	ヌマクロボスゲ(シラカワスゲ)
	ミタケスゲ
	キシウナキリスゲ (IB)
	タカネマスケサ
	ジングウスゲ (II)
	タシロスゲ
	ミスミイ (IB)
	ノグサ
	シズイ
サトイモ科	オキノシマテンナンショウ
	ツクシヒトツバテンナンショウ
ホシクサ科	クロホシクサ (IB)
イグサ科	ツクシイヌイ
ユリ科	ホソバナコバイモ (II)
	ベニカンゾウ
	ウバタケギボウシ (IB)
	ホソバノアマナ

ユリ科

アヤメ科

ショウガ科

ラン科

ホトトギス
カキツバタ (II)
エヒメアヤメ (IB)
アオノクマタケラン
ヒナラン (IB)
エビネ (II)
ナツエビネ (II)
サルメンエビネ (IB)
ユウシュンラン (II)
ムカデラン (II)
ナギラン (II)
タシロラン (準)
アキザキヤツシロラン
ベニシュスラン
アケボノシュスラン
ムカゴソウ
ムヨウラン
セイタカスズムシソウ
ボウラン (準)
フウラン (II)
ヨウラクラン
ソハヤキトンボソウ (IA)
コバノトンボソウ
トキソウ (II)
ヤマトキシソウ
オオハクウンラン (IB)
キバナノショウキラン (IB)

ブナ科

イラクサ科

ツチトリモチ科

ナデシコ科

スイレン科

キンポウゲ科

ハナガガシ (IB)
アカソ
コケミズ
ツチトリモチ
アオハコベ
オニバス (II)
ヒメコウホネ (II)
ヤマオダマキ
リュウキンカ
カザグルマ (II)
シロバナハンショウヅル
ハイサバノオ
ヤマシャクヤク (II)
ケナシベニバナヤマシャクヤク (IB)
ミヤマカラマツ
ノカラマツ (II)
モミジカラマツ
イカリソウ
コウシュウウヤク
ミヤコジマツツラフジ
ヤマブキシソウ
シコクハタザオ

メギ科

ツツラフジ科

ケシ科

アブラナ科

(絶滅危惧 IB類)

ベンケイソウ科	チャボツメレンゲ(II) タコノアシ(II)
ユキノシタ科	ネコノメソウ コミノヒメウツギ キレンゲショウマ(II) ヤブサンザシ ダイヤモンドソウ ナメラダイヤモンドソウ センダイソウ(II)
マンサク科	コウヤミズキ
バラ科	カワラサイコ ツチグリ(II) ナガホノシロワレモコウ
マメ科	八カマカズラ クズモダマ オオバクサフジ
フウロソウ科	タチフウロ
ミカン科	タチバナ(II)
ニシキギ科	ヒゼンマユミ(II)
ミツバウツギ科	ショウベンノキ
クロウメモドキ科	イソノキ
オトギリソウ科	コウライトモエソウ(II) トモエソウ タカネオトギリ
ジンチョウゲ科	キガンピ
アカバナ科	イワアカバナ ケナシイワアカバナ ヒメビシ(II)
ウコギ科	ウラジロウコギ
セリ科	シラハノダケ シムラニンジン(II) カノツメソウ
ツツジ科	レンゲツツジ ナンゴクミツバツツジ(II) キシツツジ コメツツジ
サクラソウ科	クサレダマ サクラソウ(II)
リンドウ科	アサザ(II)
ガガイモ科	アオカモメヅル クロバナイヨカズラ
ヒルガオ科	ノアサガオ
ムラサキ科	ホタルカズラ
シソ科	カイジンドウ(II) ミズネコノオ(II) キセワタ(II) ミヤマナミキ ナミキソウ

シソ科	ケナシイヌゴマ
ナス科	ヤマホオズキ(II)
ゴマノハグサ科	ゴマクサ(II) キュウシュウコゴメグサ ホソバママコナ(II) スズメノハコベ(II) イヌノフグリ(II)
タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ(II) ノタヌキモ
アカネ科	ナガバジズネノキ ニセナガバジズネノキ
スイカズラ科	ウスバヒョウタンボク(II) ヤマヒョウタンボク
キキョウ科	キキョウ(II)
キク科	ヒゴシオン(II) シオン(II) イヨアブラギク ヒゴタイ(II) アキノハハコグサ(II) チョウセンスイラン(II) タカサゴソウ(II) ホソバニガナ(II) ミヤマアキノノゲシ ヒナヒゴタイ(IIA) タカネコウリンギク(II) カンサイタンポポ ツクシタンポポ(II) ハマグルマ

絶滅危惧 類(186種)

イチイ科	イチイ
マツ科	ハリモミ
ヒノキ科	ヒノキ(自生種) ビャクシン ツクシビャクシン
ミクリ科	ミクリ(準) ヤマトミクリ(II) ナガエミクリ(準) ヒメミクリ(II)
ヒルムシロ科	イトモ(II)
イバラモ科	ホッスモ イバラモ
アマモ科	コアマモ(情報不足)
オモダカ科	アギナシ(準)
トチカガミ科	セキショウモ
イネ科	ホッスガヤ ヒナザサ ヒロハノドジョウツナギ ハイチゴザサ

(絶滅危惧 類)

イネ科

ケカモノハシ  
カモノハシ  
ムカゴツツリ  
チシマカニツリ

カヤツリグサ科

コオニシバ  
イトテンツキ(Ⅱ)  
ケタガネソウ  
ウマスゲ  
センダイスゲ  
タイワンスゲ(ⅠB)  
チュウゼンジスゲ  
キノクニスゲ(Ⅱ)  
ヤチカワズスゲ  
エゾツリスゲ  
アブラシバ  
ツクシナルコ(Ⅱ)  
オオヌマハリイ  
シオカゼテンツキ  
ツクシテンツキ(Ⅱ)  
ミカツキグサ  
ミクリガヤ(ⅠB)  
コマツカサススキ  
ウキヤガラ  
サンカクイ

ヤシ科

ピロウ

サトイモ科

マイヅルテンナンショウ(Ⅱ)  
ヒロハテンナンショウ

ホシクサ科

ツクシクロイヌノヒゲ(Ⅱ)  
クジュウイヌノヒゲ

イグサ科

ヒメコウガイゼキショウ  
ニッコウコウガイゼキショウ

ユリ科

キキョウラン  
キバナチゴユリ  
ヒメヤブラン  
ミドリヨウラク  
ワニグチソウ  
マルバサンキライ  
シロバナエンレイソウ

ヒガンバナ科

ラン科

キンバイザサ  
マメツタラン(Ⅱ)  
ムギラン(Ⅱ)  
キンラン(Ⅱ)  
ササバギンラン  
セッコク  
ベニカヤラン(マツラン)  
オニノヤガラ  
シュスラン  
ミズトンボ(Ⅱ)

ラン科

ヒメノヤガラ  
ジガバチソウ  
アオフタバラン  
ミズチドリ  
ツレサギソウ  
ハシナガヤマサギソウ

ドクダミ科

ハンゲショウ

コショウ科

サダソウ

ヤナギ科

イヌコリヤナギ

カバノキ科

ハンノキ

ケハンノキ

イワシデ

ブナ科

アベマキ(自生種)

イラクサ科

イヌヤブマオ

ミヤコミズ(Ⅱ)

ウマノスズクサ科

クロフネサイシン(Ⅱ)

ツチトリモチ科

ミヤマツチトリモチ(Ⅱ)

タデ科

ヤナギヌカボ(Ⅱ)

ヌカボタデ(Ⅱ)

フトボノヌカボタデ

コギシギシ(Ⅱ)

ヒユ科

ヤナギイノコズチ

ナデシコ科

ワダソウ

ハマツメクサ

スイレン科

ジュンサイ

ヒツジグサ

キンボウゲ科

タンナトリカブト

ルイヨウショウマ

ユキワリイチゲ

オオクサボタン

トリガタハンショウヅル

オキナグサ(Ⅱ)

メギ科

ルイヨウボタン

アブラナ科

ユリワサビ

コイヌガラシ(準)

ベンケイソウ科

ツシママンネングサ

ユキノシタ科

ギンバイソウ

ツクシチャルメルソウ(Ⅱ)

コチャルメルソウ

シラヒゲソウ

ワタナベソウ(Ⅱ)

ヤシャビシャク(Ⅱ)

ケナシヤシャビシャク

ウチワダイモンジソウ

クロクモソウ

(絶滅危惧 類)

バラ科	ツルキジムシロ クロイチゴ
マメ科	ミヤマトベラ サイカチ イヌハギ(II) ヒメヨツバハギ
カタバミ科 カエデ科 アワブキ科	コミヤマカタバミ ナンゴクミネカエデ フシノハアワブキ アオカズラ
ツリフネソウ科 ブドウ科	エンシュウツリフネ ウドカズラ ケサンカクヅル
アオイ科 オトギリソウ科 スミレ科	ハマボウ ミズオトギリ サクラスミレ キスミレ(II) ホソバシロスミレ ヒメアギスミレ ヒカゲスミレ
ミソハギ科	ミズキカシグサ(II) ミズマツバ(II)
アリノトウグサ科 ウコギ科 セリ科	フサモ ミヤマウコギ ヒュウガトウキ(II) ハナビゼリ ミシマサイコ(II) ミツバグサ
イチヤクソウ科 ツツジ科	ウメガサソウ ツクシドウダン ヨウラクツツジ(II) ヒュウガミツバツツジ
イソマツ科 リンドウ科	ハマサジ(II) ガガブタ(II) イヌセンブリ(II) ムラサキセンブリ(II) シノノメソウ(II)
ガガイモ科 クマツヅラ科	タチカモメヅル トサムラサキ(II) ショウロウクサギ
シソ科	タニジャコウソウ エゾシロネ ホソバヤマジソ(II) ヤマジソ(II) コナミキ(II)
ゴマノハグサ科	キクモ ツクシシオガマ ヤマトラノオ

ハマウツボ科 タヌキモ科	キヨスミウツボ ホザキノミミカキグサ タヌキモ(II) キヌタソウ ツクバネウツギ ツルギキョウ(II) サワギキョウ
アカネ科 スイカズラ科 キキョウ科	ヤブヨモギ(II) ウラギク(II) ビッチュウアザミ モリアザミ ウラジロヤナギアザミ サツマアザミ(II) ソナレノギク ホソバオグルマ(II) カセンソウ チョウセンヤマニガナ ツクシカシワバハグマ ミヤコアザミ ヒメヒゴタイ(II) キクアザミ キクバヤマボクチ
キク科	

準絶滅危惧(91種)

ヒノキ科 ヒルムシロ科 トチカガミ科 イネ科	ネズ フトヒルムシロ ヤナギスプタ ホガエリガヤ コメススキ ヌマガヤ ヒロバスゲ アオバスゲ コウボウムギ コハリスゲ クジュウスゲ アゼスゲ ビロウドテンツキ ナンゴクウラシマソウ ケイビラン キスゲ ハマカンゾウ ヒュウガギボウシ オニツルボ タマガワホトトギス ノハナショウブ シラン(準) ギンラン コケイラン カヤラン
カヤツリグサ科	
サトイモ科 ユリ科	
アヤメ科 ラン科	

(準絶滅危惧)

ヤナギ科	ノヤナギ
カバノキ科	ハシバミ
イラクサ科	ヤナギイチゴ
ボロボロノキ科	ボロボロノキ
ヤドリギ科	オオバヤドリギ
ウマノスズクサ科	タイリンアオイ
	ミヤコアオイ
	フタバアオイ
	サンヨウアオイ
アカザ科	イソホウキギ
	ハママツナ
ヒコ科	ハチジョウイノコズチ
ナデシコ科	フシグロセンノウ
スイレン科	コウホネ
メギ科	オオバメギ
ケシ科	ナガミノツルキケマン(準)
モウセンゴケ科	モウセンゴケ
ベンケイソウ科	ツメレンゲ(準)
	メノマンネングサ
	ウンゼンマンネングサ(II)
	アオベンケイ
ユキノシタ科	アワモリショウマ
	ツクシネコノメソウ
	ウメバチソウ
バラ科	クサボケ
	シモツケソウ
	イワキンバイ
	コジキイチゴ
フウロソウ科	イヨフウロ
トウダイグサ科	イワタイゲキ
ニシキギ科	サワダツ
ツリフネソウ科	ハガクレツリフネ
ジンチョウゲ科	オニシバリ
	ミヤマガンピ
	シマサクラガンピ
セリ科	ツクシゼリ
イワウメ科	イワカガミ
イチヤクソウ科	マルバノイチヤクソウ
ツツジ科	ツクシチャクナゲ
	ヒカゲツツジ
	ミヤマキリシマ
	カラムラサキツツジ(II)
	ツクシアケボノツツジ(II)
	コケモモ
サクラソウ科	ミヤマコナスビ
エゴノキ科	ハクウンボク
リンドウ科	センブリ
ガガイモ科	スズサイコ(II)

シソ科

ゴマノハグサ科  
アカネ科

マツムシソウ科  
キキョウ科  
キク科

情報不足(95種)

コウヤマキ科  
ヒルムシロ科

イバラモ科  
トチカガミ科

イネ科

カヤツリグサ科

サトイモ科  
ホシクサ科  
ミズアオイ科  
ビャクブ科  
ユリ科

スズコウジュ  
ミゾコウジュ(準)  
カワジサ(準)  
ルリミノキ  
サツマルリミノキ  
ミサオノキ  
ヘツカニガキ  
マツムシソウ  
シデシャジン  
アソノコギリソウ(II)  
ケショウヨモギ  
フクド  
ヒロハヤマヨモギ(準)  
テバコモミジガサ  
イズハハコ(II)  
アシズリノジギク  
ブゼンノギク(II)  
オオモミジガサ

コウヤマキ  
センニンモ  
ミズヒキモ  
リュウノヒゲモ(II)  
カワツルモ(IB)  
サガミトリゲモ(IB)  
マルミスブタ(II)  
トチカガミ  
イシヅチコウボウ  
イワタケソウ  
ビロウドキビ  
タカネノガリヤス  
ヒロハノサヤヌカゲサ  
コササキビ  
コジュズスゲ  
アズマスゲ  
ハタベスゲ  
ノゲヌカスゲ  
サドスゲ  
ムギガラガヤツリ  
ノハラテンツキ(II)  
ツクシアブラガヤ(IB)  
カガシラ(IB)  
ミカワシンジュガヤ(IB)  
シコクヒロハテンナンショウ(IB)  
イヌノヒゲ  
ミズアオイ(II)  
ナベワリ  
チャボゼキショウ

(情報不足)

アヤメ科  
ラン科

ヒメシャガ(準)  
キリシマエビネ(IA)  
トケンラン(IB)  
カシノキラン(II)  
ハルザキヤツシロラン(II)  
ギボウシラン  
フガクスズムシソウ(IB)  
ミヤマフタバラン  
ムカゴサイシン(IA)  
マイサギソウ  
キソチドリ  
オオヤマサギソウ  
ヒトツボクロ  
イイヌマムカゴ(IB)  
コウライヤナギ  
タイワントリアシ(II)  
タチゲヒカゲミズ(IB)

ヤナギ科  
イラクサ科

ビャクダン科  
タデ科  
アカザ科  
ナデシコ科

キンボウゲ科

バラ科

アマ科  
ヒメハギ科  
ブドウ科  
シナノキ科  
オトギリソウ科

ノボタン科  
アリノトウグサ科  
セリ科

サクラソウ科  
リンドウ科  
ガガイモ科  
ハナシノブ科  
ムラサキ科  
シソ科

ツクバネ  
サイコクヌカボ(IB)  
シチメンソウ(II)  
ヒメハマナデシコ  
タチハコベ(II)  
コウライブシ(IA)  
キクザキイチリンソウ  
タマカラマツ(IB)  
オオウラジロノキ  
ミヤマウラジロイチゴ  
イワガサ  
マツバニンジン  
ヒナノカンザシ  
シラガブドウ(II)  
ケナシシナノキ  
アゼオトギリ(IB)  
クモイオトギリ  
ヒメノボタン(IB)  
タチモ(準)  
オニノダケ  
ツクシトウキ(IB)  
イヌトウキ  
ドクゼリ  
フキヤミツバ  
サワゼリ(ヌマゼリ)(IB)  
オニコナスビ(IB)  
ヒメシロアサザ(II)  
マルバカモメツル  
ハナシノブ(IA)  
ムラサキ(IB)  
ジャコウソウ

シソ科

ゴマノハグサ科

ハマウツボ科  
タヌキモ科  
アカネ科  
キク科

ミズトラノオ(II)  
マネキグサ(II)  
ヒメキセウタ(IB)  
シロネ  
マルバノサウトウガラシ(IB)  
シソバウリクサ  
ヒロバトラノオ  
ホソバヒメトラノオ  
オオホソバヒメトラノオ  
ナンゴククガイソウ  
ハマウツボ  
ミカワタヌキモ(IB)  
ハナムグラ(IB)  
カワラハハコ  
アソヨモギ  
モミジタマブキ  
ミヤマヤブタバコ  
オオバヨメナ

蕨 類

絶滅危惧 IA類(7種)

ミズゴケ科  
オオツボゴケ科  
ハイヒモゴケ科  
トラノオゴケ科  
シノブゴケ科  
ヤナギゴケ科  
ハイゴケ科  
コアナミズゴケ  
フガゴケ(I)  
ヒロハシノブイトゴケ(I)  
ケサガリゴケ(I)  
ヌマシノブゴケ  
アオモリカギハイゴケ(I)  
マキハキヌゴケ

絶滅危惧 IB類(4種)

ハイヒモゴケ科  
ヒラゴケ科  
クジャクゴケ科  
ミズスギモドキ  
イトゴケ  
トサヒラゴケ  
コキジノオゴケ(I)

絶滅危惧 II類(4種)

ホゴケ科  
イトヒバゴケ科  
イタチゴケ科  
ハイヒモゴケ科  
ホゴケ  
ツルゴケ  
リスゴケ  
ハイヒモゴケ

準絶滅危惧(12種)

ミズゴケ科  
キセルゴケ科  
ギボウシゴケ科  
タチヒダゴケ科  
ムジナゴケ科  
オオミズゴケ(I)  
クマノゴケ(準)  
ヤマトハクチョウゴケ(準)  
イブキキンモウゴケ(II)  
マツムラゴケ(準)

(準絶滅危惧)

ムジナゴケ科  
ヒラゴケ科

ヤナギゴケ科  
ツヤゴケ科

オオノコギリゴケ(情報不足)  
ヒメタチヒラゴケ(Ⅰ)  
セイナンヒラゴケ(準)  
キブリハネゴケ(Ⅰ)  
ヤリノホゴケ  
コゴメツヤゴケ

ハイゴケ科

情報不足(4種)

コシッポゴケ科  
チョウチンゴケ科  
ハイヒモゴケ科  
クジャクゴケ科

トガリイチイゴケ

コキヌシッポゴケ(Ⅰ)  
タチチョウチンゴケ(Ⅰ)  
ツクシタスキゴケ  
フチナシクジャクゴケ(Ⅰ)

# 生物分類群・カテゴリー別 選定種一覧（動物）

種名の後の（ ）書きは環境庁のカテゴリー（略号）

## 哺乳類

野生絶滅（1種）	
クマ科	ツキノワグマ(地域個体群)
絶滅危惧 IA類（1種）	
ヤマネ科	ヤマネ(準)
絶滅危惧 IB類（2種）	
モグラ科	ヒメヒミズ
ヒナコウモリ科	ノレンコウモリ (IB)
絶滅危惧 II類（6種）	
トガリネズミ科	カワネズミ
ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ
	ヤマコウモリ (II)
	ユビナガコウモリ
ネズミ科	スミスネズミ
ウシ科	ニホンカモシカ
準絶滅危惧（8種）	
トガリネズミ科	ジネズミ(サイゴクジネズミ)
キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ
	コキクガシラコウモリ
オナガザル科	ニホンザル(ホンドザル)
ネズミ科	ハタネズミ
	カヤネズミ
イタチ科	ニホンアナグマ
	ニホンイタチ
情報不足（1種）	
リス科	ニホンモモンガ
地域個体群（2種）	
リス科	ムササビ
シカ科	ニホンジカ(キュウシュウジカ)

## 鳥類

絶滅危惧 IA類（5種）	
サギ科	カラシラサギ(情報不足)
	アカツクシガモ(情報不足)

カモ科	アカハジロ(情報不足)
	コウライアイサ(情報不足)
タカ科	イヌワシ (IB)
絶滅危惧 IB類（12種）	
サギ科	ヨシゴイ
トキ科	ヘラサギ(情報不足)
カモ科	ツクシガモ (IB)
	クマタカ (IB)
	チュウヒ (II)
キジ科	ウズラ(情報不足)
シギ科	シベリアオオハシギ(情報不足)
セイタカシギ科	セイタカシギ (IB)
カモメ科	ズグロカモメ (II)
	コアジサシ (II)
ヨタカ科	ヨタカ
ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ (IB)
絶滅危惧 II類（22種）	
カモ科	クガン (II)
	オシドリ
	トモエガモ (II)
タカ科	オオタカ (II)
	ツミ
ハヤブサ科	ハヤブサ (II)
クイナ科	オオバン
シギ科	アカアシギ (II)
	ホウロクシギ (II)
ツバメチドリ科	ツバメチドリ (II)
カッコウ科	ジュウイチ
フクロウ科	コミミズク
	コノハズク
	フクロウ
カワセミ科	アカショウビン
ブッポウソウ科	ブッポウソウ (II)
サンショウクイ科	サンショウクイ (II)
ツグミ科	コマドリ
	コルリ
ウグイス科	コヨシキリ
	メボソムシクイ
カラス科	ホシガラス

準絶滅危惧 (22種)

サギ科	ミゾゴイ (準)
	チュウサギ (準)
	クロサギ
タカ科	ミサゴ (準)
	ハチクマ (準)
	ハイタカ (準)
	サシバ
キジ科	ヤマドリ
クイナ科	ヒクイナ
タマシギ科	タマシギ
チドリ科	コチドリ
	シロチドリ
シギ科	オオジシギ (準)
ハト科	カラスバト (準)
フクロウ科	アオバズク
アマツバメ科	アマツバメ
モズ科	アカモズ (準)
イワヒバリ科	カヤクグリ
ツグミ科	クロツグミ
ヒタキ科	キビタキ
カササギビタキ科	サンコウチョウ
ホオジロ科	ホオアカ

情報不足 (15種)

サギ科	サンカノゴイ (IB)
トキ科	クロツラヘラサギ (IA)
カモ科	マガン (準)
	ヒシクイ (II)
ツル科	ナベヅル (II)
	マナヅル (II)
シギ科	ヘラシギ (IB)
	カラフトアオアシシギ (IA)
	コシャクシギ (IA)
ウミスズメ科	ウミスズメ (IA)
	カンムリウミスズメ (II)
フクロウ科	オオコノハズク
モズ科	チゴモズ (II)
キバシリ科	キバシリ
ホオジロ科	コジュリン (II)

地域個体群 (1種)

ウ科	カワウ
----	-----

爬虫類

絶滅危惧 IA類 (2種)

ヘビ科	シロマダラ
-----	-------

ウミガメ科 タイマイ (I)

絶滅危惧 IB類 (2種)

ウミガメ科	アカウミガメ (II)
	アオウミガメ (II)

絶滅危惧 II類 (1種)

ヘビ科	タカチホヘビ
-----	--------

情報不足 (1種)

スッポン科	スッポン (情報不足)
-------	-------------

地域個体群 (1種)

イシガメ科	クサガメ
-------	------

両生類

絶滅危惧 IA類 (1種)

オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ (準)
------------	---------------

絶滅危惧 II類 (2種)

サンショウウオ科	オオイタサンショウウオ (II)
アカガエル科	トノサマガエル

準絶滅危惧 (2種)

サンショウウオ科	カスミサンショウウオ
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル

地域個体群 (1種)

サンショウウオ科	オオダイガラサンショウウオ (地域個体群)
----------	-----------------------

魚類

絶滅危惧 IB類 (4種)

ヤツメウナギ科	スナヤツメ (II)
カジカ科	カジカ
ハゼ科	クボハゼ (IB)
	チクゼンハゼ (IB)

絶滅危惧 II類 (4種)

コイ科	カゼトゲタナゴ (II)
ギギ科	アリアケギバチ (準)
アカザ科	アカザ (II)
キス科	アオギス

準絶滅危惧 (7種)

コイ科	ヤリタナゴ カワムツA型
ドジョウ科	ヤマトシマドジョウ
ケツギョ科	オヤニラミ (準)
カワアナゴ科	カワアナゴ
ハゼ科	トビハゼ (地域個体群) シロウオ (準)

情報不足 (7種)

コイ科	セボシタビラ (II) ニッポンバラタナゴ (IA)
トゲウオ科	降海型イトヨ
カジカ科	ウツセミカジカ (II)
アカメ科	アカメ (準)
ハゼ科	ネムリミズハゼ (情報不足) シモフリシマハゼ

地域個体群 (1種)

サケ科	無班型が混在するアマ ゴ個体群 (地域個体群)
-----	----------------------------

頭 索 類

絶滅危惧 IA類 (1種)

ナメクジウオ科	ナメクジウオ
---------	--------

昆 虫 類

絶滅危惧 IA類 (9種)

トンボ科	ベッコウトンボ (I)
コオイムシ科	タガメ (II)
ハンミョウ科	ヨドシロヘリハンミョウ (II)
テントウムシ科	ギョウトクテントウ
ハムシ科	カツラネクイハムシ (情報不足) スゲハムシ
シジミチョウ科	台湾ンツバメシジミ 本土亜種 (I) クロツバメシジミ (準) シルビアシジミ本土亜種 (I)

絶滅危惧 IB類 (21種)

ヤマトンボ科	キイロヤマトンボ (II)
エゾトンボ科	ハネヒロエゾトンボ オオエゾトンボ
アメンボ科	エサキアメンボ (準)
ナベブタムシ科	トゲナベブタムシ

マキバサシガメ科  
ハンミョウ科  
ゲンゴロウ科

クワガタムシ科  
タマムシ科  
カミキリムシ科

シロチョウ科

シジミチョウ科

タテハチョウ科  
ジャノメチョウ科

絶滅危惧 II類 (29種)

イトトンボ科	モートンイトトンボ
ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ
サナエトンボ科	キイロサナエ
ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ
トンボ科	ハッチョウトンボ オオキトンボ (II)

イトアメンボ科	イトアメンボ (II)
コオイムシ科	コオイムシ (準)
サシガメ科	ハリサシガメ
ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ (準)
ハンミョウ科	イカリモンハンミョウ (I) ホソハンミョウ

オサムシ科	クロカタビロオサムシ セアカオサムシ ウミホソチビゴミムシ (準)
-------	---

センチコガネ科	ムネアカセンチコガネ
コガネムシ科	アカマダラセンチコガネ アカマダラコガネ

カミキリムシ科	ケブカヒラタカミキリ ヒメビロウドカミキリ (情報不足)
---------	------------------------------------

コシブトハナバチ科	ルリモンハナバチ
セセリチョウ科	スジグロチャバネセセリ (準)

シジミチョウ科	ミドリシジミ ウラミスジシジミ
---------	--------------------

タテハチョウ科	ミスジチョウ シータテハ オオムラサキ (準)
---------	-------------------------------

ジャノメチョウ科	キマダラモドキ (準)
----------	-------------

(絶滅危惧 類)

ヤガ科	ヒメシロシタバ
準絶滅危惧 (71種)	
アオイトトンボ科	オツネントンボ
トゲオトンボ科	トゲオトンボ
サナエトンボ科	ウチワヤンマ アオサナエ
ヤンマ科	オオルリボシヤンマ
タイコウチ科	ヒメミズカマキリ
マキバサシガメ科	アシプトマキバサシガメ
サシガメ科	オオカモドキサシガメ(準)
ツチカメムシ科	ベニツチカメムシ
カメムシ科	アカアシクチプトカメムシ
ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ
コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
ゲンゴロウ科	ヒメケシゲンゴロウ チャイロチビゲンゴロウ コクロマメゲンゴロウ ヒコサンセスジゲンゴロウ テラニセスジゲンゴロウ サワダマメゲンゴロウ
ガムシ科	ツヤヒラタガムシ マルヒラタガムシ マルチビガムシ コガタガムシ
ハネカクシ科	エゾアリガタハネカクシ シラフハイイロハネカクシ
クワガタムシ科	ネプトクワガタ
コガネムシ科	ゴホンダイコクコガネ ダイコクコガネ(準) ヒゲコガネ オオチャイロハナムグリ(準) コカブトムシ
ヒメドロムシ科	クロサワードロムシ ゴトウミゾドロムシ
タマムシ科	アヤムネスジタマムシ
テントウムシ科	クロスジチャイロテントウ
カミキリムシ科	イガブチヒゲハナカミキリ ヒメヨツスジハナカミキリ ヒゲブトハナカミキリ クロサワヒメコバネカミキリ ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ アカアシオオアオカミキリ オオアオカミキリ ヨコヤマトラカミキリ ヤマトシロオビトラカミキリ マダラゴマフカミキリ ムネホシシロカミキリ

カミキリムシ科	エゾナガヒゲカミキリ イッシキキモンカミキリ ホソリンゴカミキリ クロカメノコハムシ
ハムシ科	エノキミツギリゾウムシ
ミツギリゾウムシ科	ハラアカマルセイボウ
セイボウ科	オオセイボウ本土亜種 クロバネツリアブ ベッコウハナアブ エサキマダラ ギンイチモンジセセリ(準) ツマグロキチョウ(II) スギタニルリシジミ九州亜種 ウラクロシジミ カラスシジミ ホシミスジ ウラナミジャノメ(II) オオツバメエダシャク キイロミモンエダシャク ヒメスズメ キバネモンヒトリ アカバキヨトウ ウスイロキヨトウ スミレモンキリガ クロシオキシタバ ツリフネソウトラガ
ツリアブ科	
ハナアブ科	
マダラガ科	
セセリチョウ科	
シロチョウ科	
シジミチョウ科	
タテハチョウ科	
ジャノメチョウ科	
シャクガ科	
スズメガ科	
ヒトリガ科	
ヤガ科	
トラガ科	
情報不足 (35種)	
サシガメ科	ピロウドサシガメ クロバアカサシガメ カワラハンミョウ(II) マルガタゲンゴロウ スジゲンゴロウ(I) フチトリヒメヒラタタマムシ サツマウバタマムシ アオタマムシ ツメアカナガヒラタタマムシ
ハンミョウ科	
ゲンゴロウ科	
タマムシ科	
カミキリムシ科	トゲウスバカミキリ ヒラヤマコブハナカミキリ クロサワヘリグロハナカミキリ キュウシュウヒメコブけカミキリ オニホソコバネカミキリ スネケブカヒロコバネカミキリ キジマトラカミキリ エゾトラカミキリ カラフトヒゲナガカミキリ フタモンアラゲカミキリ タカハシトゲゾウムシ
ゾウムシ科	

(情報不足)

イラガ科	ベニイラガ
シジミチョウ科	ヒサマツミドリシジミ
	ルーミスシジミ(II)
	ヒメシジミ本州 九州
	亜種(準)
	オオルリシジミ(I)
カレハガ科	ミヤケカレハ
スズメガ科	ヒサゴスズメ
シャチホコガ科	アカシャチホコ
ドクガ科	トラサンドクガ
ヤガ科	ツマアカキヨトウ
	ブンゴキヨトウ
	ナカスジキヨトウ
	ナマリキシタバ
	オニベニシタバ
	ヒメウンモンクチバ

クモ類

絶滅危惧 IA類(1種)

トタテグモ科 キノボリトタテグモ(準)

準絶滅危惧(12種)

ヒメグモ科	ツクネグモ
	ツノヒシガタグモ
コガネグモ科	アカオニグモ
	イエオニグモ
	チュウガタコガネグモ
	コガネグモ
	タニマノドヨウグモ
	ゲホウグモ
ササグモ科	クリチャササグモ
アシダカグモ科	カマスグモ
カニグモ科	フノジグモ
ハエトリグモ科	オオクマアメイロハエトリ

情報不足(20種)

ヒメグモ科	ハラダカツクネグモ
	オオツリガネヒメグモ
サラグモ科	マルサラグモ類
	ヨツボシサラグモ類
	ヌカグモ類
	ゴマグモ類
	アカムネグモの1種
	ナンキングモ類
	チビサラグモの1種
センショウグモ科	(和名未定)

コガネグモ科	キジロオヒキグモ
アシナガグモ科	ヒカリアシナガグモ
ミズグモ科	ミズグモ(II)
ヒトエグモ科	ヒトエグモの1種
ハウシグモ科	ドウシグモ(情報不足)
タナグモ科	ウスイロヤチグモ
	ミカドヤチグモ
	ヤチグモ類
カニグモ科	クロボシカニグモの1種
ハエトリグモ科	アリグモの1種

地域個体群(8種)

キムラグモ科	ブンゴキムラグモ(II)
マシラグモ科	マシラグモ
ホラヒメグモ科	フウレンホラヒメグモ
	ブンゴホラヒメグモ
	ソボホラヒメグモ
	カリユウホラヒメグモ
	ホラヒメグモ類
サラグモ科	ヤミサラグモ類

甲殻類

絶滅危惧 IA類(1種)

オカヤドカリ科 ムラサキオカヤドカリ

絶滅危惧 IB類(1種)

カプトガニ科 カプトガニ(I)

絶滅危惧 II類(2種)

ヘイケガニ科	ヘイケガニ
スナガニ科	シオマネキ(準)

準絶滅危惧(3種)

スナガニ科	ハクセンシオマネキ(準)
	アリアケモドキ
カプトエビ科	アジアカプトエビ

陸・淡水産貝類

絶滅危惧 IA類(10種)

ユキスズメガイ科	ヒナユキスズメガイ
	ミヤコドリガイ
ミズゴマツボ科	オンセンミズゴマツボ(I)
トウガタカワニナ科	タケノコカワニナ
スナガイ科	チョウセンスナガイ
キセルガイ科	アラナミギセルガイ

(絶滅危惧IA類)

キセルガイ科	ヒメシロギセルガイ(Ⅰ) タケノコギセルガイ(Ⅰ) カスガコギセルガイ(Ⅰ)
ナンバンマイマイ科	シコクピロウドマイマイ(準)

絶滅危惧 IB類(16種)

アマオブネガイ科	ヒロクチカノコガイ
ムシオイガイ科	オナガラムシオイガイ(Ⅰ)
ワカウラツボ科	ワカウラツボ
カワザンショウガイ科	ツブカワザンショウガイ ヨシダカワザンショウガイ
ドロアワモチ科	センベシアワモチ
オカミミガイ科	オカミミガイ ナラビオカミミガイ キヌカツギハマシイノミガイ クリイロコミミガイ ウスコミミガイ
キセルガイ科	ウブギセルガイ(Ⅱ) ナンピギセルガイ(Ⅰ) オオイタシロギセルガイ(Ⅰ) ハナコギセルガイ(Ⅰ)
オナジマイマイ科	カンダマイマイ(Ⅰ)

絶滅危惧 II類(8種)

エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ(Ⅱ)
カワザンショウガイ科	ムシヤドリカワザンシ ョウガイ

ヒラマキガイ科	クルマヒラマキガイ(Ⅱ)
キセルガイモドキ科	ホソキセルガイモドキ(準)
キセルガイ科	ミヤザキギセルガイ(Ⅱ) カタギセルガイ ヒロクチコギセルガイ(Ⅱ)

ベッコウマイマイ科	カンダベッコウマイマ イ(情報不足)
-----------	-----------------------

準絶滅危惧(12種)

ヤマキサゴ科	ヤマキサゴ
ゴマガイ科	オオウエゴマガイ
ミズツボ科	ホラアナミジンナ(Ⅱ)
キセルガイ科	トサギセルガイ ピルスプリギセルガイ カワモトギセルガイ(Ⅱ) スギモトギセルガイ(準) オキモドキギセルガイ(準) キュウシュウナミコギセルガイ
ベッコウマイマイ科	テラマチベッコウマイマイ(準)
ナンバンマイマイ科	オオウスピロウドマイマイ(Ⅱ)
イシガイ科	マツカサガイ(準)

情報不足(2種)

モノアラガイ科	ハマダモノアラガイ(Ⅰ)
キセルガイ科	ピントノミギセルガイ

## 自然公園・自然環境保全地域等一覧

### 1. 国立公園

(単位:ha)

公園名	面積	公園の特色	所在市町村
瀬戸内海国立公園	2,933	本県はこの公園の最西端に位置しており、黒曜石の断崖、褶曲、断層など各種地形地質の構造がみられる姫島、仏教文化遺跡の観賞と瀬戸内海的好展望地としての両子・文殊地区、ニホンザルの自然動物園高崎山、海蝕崖などの発達やウミネコの営巣地の高島地区がとりこまれている。	大分市、豊後高田市、真玉町、香々地町、国見町、姫島村、国東町、安岐町、佐賀関町
阿蘇くじゅう国立公園	18,310	熊本県の阿蘇火山一帯と九州本土最高峰のくじゅう山群と広大な飯田・久住の両高原から奥別府までをとりこむ山岳の公園である。 くじゅう山群には、ミヤマキリシマ、コケモモなど数々の高山植物が生育し、南北に展開する雄大な久住・飯田の高原と相まって独特の山岳景観を呈し、随所に湧出する各種の温泉とともに多くの人々に利用されている。県道「別府一の宮線」は、この公園の中を走り、城島高原、由布岳、小田の池、山下池、飯田高原などの美しい自然景観が沿線に続いている。	別府市、庄内町、湯布院町、久住町、直入町、九重町、玖珠町

### 2. 国定公園

(単位:ha)

公園名	面積	公園の特色	所在市町村
耶馬日田英彦山国定公園	74,772.5	英彦山を中心に南画風の奇岩秀峰と渓谷美を誇る耶馬溪とメサ・ビュートの独特な地形を形成する岩扇山 万年山一帯及び温泉 河川美をもって知られる日田 天瀬 松原ダムなどをとりこむわが国最大の溶岩侵食台地である。 有名な青の洞門 羅漢寺もこの公園に含まれている。	日田市、宇佐市、九重町、玖珠町、大山町、天瀬町、三光村、本耶馬溪町、耶馬溪町、山国町、院内町
祖母傾国定公園	10,240	宮崎県の大崩山 高千穂峡一帯と祖母傾山系、三国峠 藤河内溪谷などをとりこむ地域である。 モミツガ プナ シオジなどの針広混交の原生林として西日本に残された唯一の秘境であり、ニホンカモシカや野生のキリなど動植物の学術上貴重なものが数多く見られる。	竹田市、本匠村、宇目町、三重町、清川村、緒方町

(単位：ha)

公園名	面積	公園の特色	所在市町村
日豊海岸国定公園	28,474.2 陸域 4,293.8 海域 24,180.4	佐賀関半島から宮崎県美々津海岸に至る、いわゆる日豊海岸と呼ばれる海岸、海中景観に優れた公園である。この公園は典型的なリアス式海岸で多くの島、半島、岩礁、海蝕崖があり、これに激突する黒潮は豪快で男性的な景観を呈しているとともに、この地域は亜熱帯植物の北限地域として学術上貴重な地域でもある。また、漁獲の宝庫として知られ、絶好の釣場が多く点在している。	佐伯市，臼杵市，津久見市，佐賀関町，上浦町，弥生町，鶴見町，米水津村，蒲江町

## 3. 県立自然公園

(単位：ha)

公園名	面積	公園の特色	所在市町村
国東半島県立自然公園	19,691.18 陸域 15,591.18 海域 4,100	国宝富貴寺をはじめ真木大堂，熊野磨崖仏や国東塔など六郷満山にまつわる文化財を数多く包蔵するほか、耶馬溪式景観が林立する国東半島内陸部と、岩礁、洞窟をもつリアス式海岸の北部海岸、白砂青松の海岸美を誇る南部の海岸よりなる。この公園には古代文化公園、国民休養地をはじめ、各種のレクリエーション施設が整備され、また随所で海水浴、キャンプ、魚釣りが楽しめる。	豊後高田市，杵築市，宇佐市，大田村，真玉町，香々地町，国見町，国東町，武蔵町，安岐町，山香町
豊後水道県立自然公園	8,271.5	日豊海岸国定公園に接続する長目，四浦，鶴見，入津半島などのリアス式海岸とカルスト地形の八戸台一帯を包摂する。海岸は小島岩礁が多く、ハマユウ、ピロウなどの亜熱帯植物が茂り、海水浴、魚釣、遊船などの利用が多い。	佐伯市，臼杵市，津久見市，上浦町，鶴見町，米水津村，蒲江町
神角寺芹川県立自然公園	10,065.5	重要文化財神角寺を中心に鎧ヶ岳，烏帽子岳の山岳地域、人造湖芹川ダム及び長湯温泉を包摂した公園である。この公園には溪仙峡普光寺の磨崖仏や紅葉で知られる用作公園などがあり、また県民の森計画区域にも含まれている。	野津原町，庄内町，朝地町，大野町，直入町
津江山系県立自然公園	16,246	釈迦岳，御前岳，酒呑童子岳，渡神岳など峻険な山岳を中心とする公園で、ブナ，ミズナラ，シオジなどの原生林と渓谷美を誇るとともに展望もすぐれている。	日田市，前津江村，中津江村，上津江村，大山町

(単位：ha)

公園名	面積	公園の特色	所在市町村
祖母傾県立自然公園	14,123.95	祖母傾国定公園に隣接する山岳，渓谷を中心とした公園で，神原，内山観音，大白谷，九折を包摂しており，内山観音の文化財，大白谷の渓谷，神原渓谷などの景勝地とともに素朴な山村風景がみられる。また公園利用のため，隣接地の祖母傾国定公園の神原地区（竹田市）自然探勝路，休憩舎，簡易宿舎，園地などが整備されている。	竹田市，宇目町，三重町，清川村，緒方町

## 4．自然環境保全地域

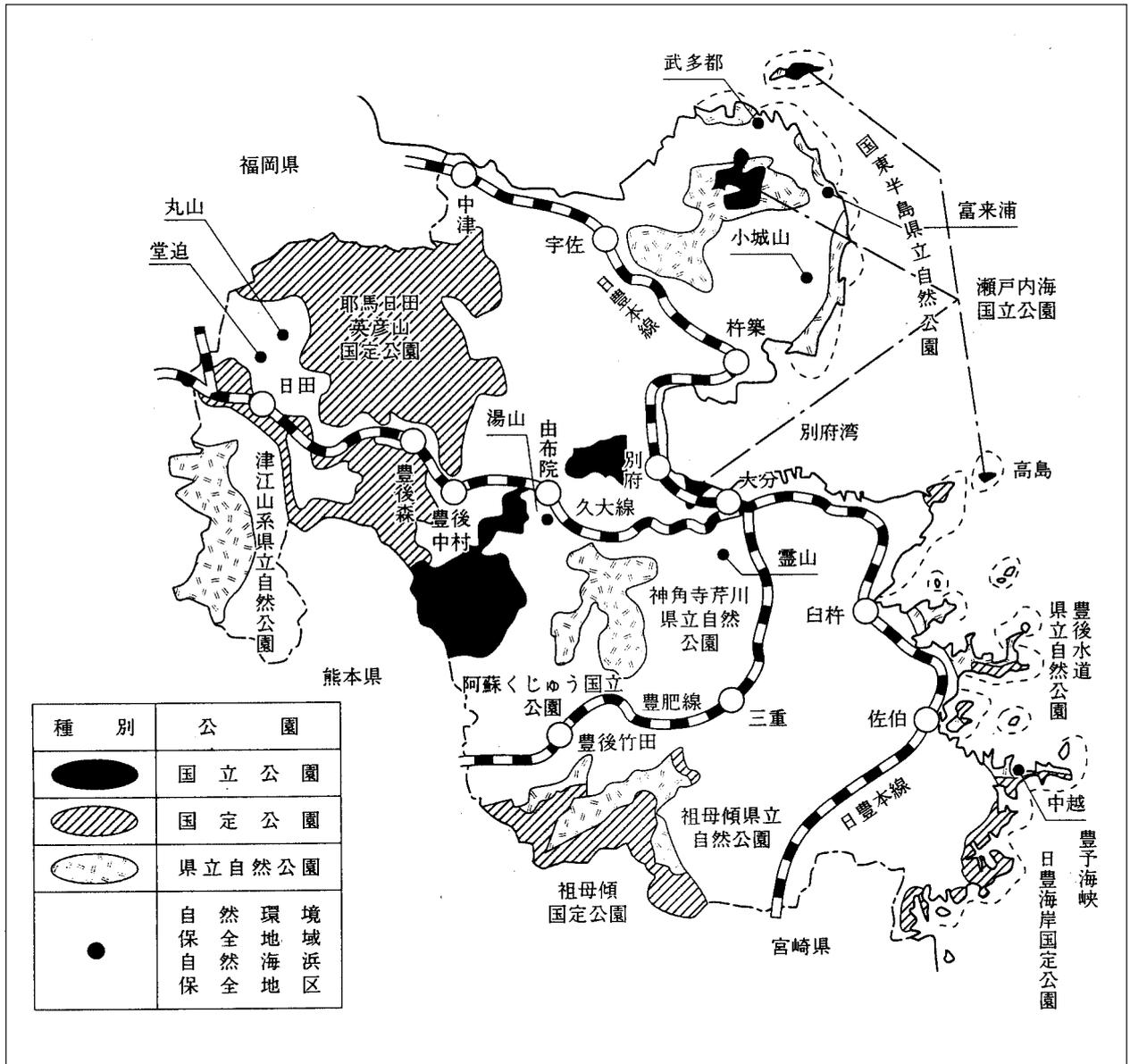
(単位：ha)

名称	所在	面積	内特別地区	自然環境の特質
大分県武多都自然環境保全地域	国見町	3.3	1.8	武多都社の境内林で，常緑広葉樹スダジイ・コジイの天然林は国東半島に残る稀少価値のあるまとまった森林である。
大分県小城山自然環境保全地域	武蔵町	3.36	1.62	宝命寺の境内林を中心とする常緑広葉樹スダジイの天然林で，国東半島に残る稀少価値のあるまとまった森林である。
大分県霊山自然環境保全地域	大分市	2.8	2.8 (野生動植物保護地区2.8)	大分県に特有のオオイタサンショウウオの生息繁殖の場として残された数少ない地域。大分地区では少なくなったコジイの典型林が残されているのをはじめ，アカガシ，アラカン等の森林が順調に復元し，すぐれた常緑広葉樹をつくりつつある貴重な地域である。
大分県湯山自然環境保全地域	湯布院町	3.9	3.9	標高650～750mの比較的高地にありながら，林内にはシロダモ，ユズリハなどの常緑広葉樹を含み，高木層の林冠群にはコナラ，イヌシデなど落葉広葉樹の両者で構成された，森の仕組みの特異な常落混交の天然林である。
大分県丸山自然環境保全地域	日田市	1.7	1.7	九州北東部と中国西南部の内陸丘陵地に特有とされるコジイ・シイモチ群集の常緑広葉樹がまとまって残された地域性の強い貴重な天然林である。
大分県堂迫自然環境保全地域	日田市	1.1	1.1	同上
計6か所		16.16	12.92 (2.8)	

自然海浜保全地区

地区名	市町村	指定年月日	海岸線延長	利用型
富来浦自然海浜保全地区	国東町	昭和57年8月3日	約1,000m	潮干狩り
中越自然海浜保全地区	鶴見町	昭和57年8月3日	約500m	海水浴

大分県の自然公園等





## お わ り に

本書をまとめるにあたり、「大分県自然環境学術調査会 野生生物専門部会」の皆様方には、過去5年間にわたり精力的に県内の森林や草原、河川、海浜など多様な環境に生育・生息する野生生物の情報を収集していただきました。その結果、大分県の野生生物の生育・生息状況が明らかとなり、さまざまな種類の生物が減少し、絶滅しつつあることが判明しました。今回のように幅広い生物分類群の状況が全体的に整理されたことは意義深く画期的なことと考えています。

『レッドデータブックおおいた』の編集では、選定理由とカテゴリー区分の整合性には、特に配慮したため、編集委員会を15回も重ねました。また、使用者の利便性を考慮して、県と国のカテゴリーを並記したこと、種の配列をカテゴリー別とはせず生物分類群別に配列としたことなどの工夫をしています。

本書の中では、森林の伐採や河川改修、圃場整備、都市化、観光開発、道路改修、埋立や湿地の減少などによって、野生生物の生育・生息環境の破壊や劣化、消失または人による採取や人が持ち込んだ生物の繁殖などによって、多くの野生生物が危機に直面していることが分かります。また、実態が明らかになることもないまま、姿を消してしまう野生生物がいるのではないかと危惧されています。「情報不足」の197種は、現状では生育・生息が未確認のものがほとんどであるため、県民の方々から多くの情報をお寄せいただくと幸甚です。

21世紀の課題としては、絶滅の危機に瀕している野生生物を注意深く見守り保護すること、これからも野生生物の実態把握に努める必要があること、これらの生育・生息環境の保全こそが重要であること、そのような環境保全の重要性を大分県民一人ひとりが理解していくための教育普及活動が必要であることなどが指摘されています。

自然環境の変化は、人間生活の変化と大きな関わりがあることは言うまでもありません。経済活動やライフスタイルの変化と共存できない野生生物もいます。人の活動が野生生物との共存を許容できなくしてきたことの責任が人間の側にあることを意識することが、とても大切です。

私たちが生活している大分県の自然環境を県民全員が理解し、野生生物と共存できるような住みやすい環境であり続けるようお願いしたいものです。

終わりにになりましたが、『レッドデータブックおおいた』の編集・作成作業に関わられた皆様方に厚く感謝申し上げます。

事務局長 高岡 芳 憲

# 和名索引(植物)

## ア

アイアスカイノデ	48
アイコハチジョウシダ	44
アオカズラ	202
アオカモメヅル	230
アオノクマタケラン	126
アオハコベ	165
アオバスケ	94
アオフタバラン	140
アオベンケイ	181
アオモリカギハイゴケ	286
アカウキクサ	66
アカササゲ	196
アカソ	154
アキザキヤツシロラン	134
アキノハハコグサ	263
アギナシ	81
アケボノシュスラン	136
アサザ	228
アシズリノジギク	262
アスカイノデ	48
アズマイチゲ	169
アズマスゲ	95
アゼオトギリ	206
アゼスゲ	102
アソヨモギ	258
アソシケシダ	61
アソノコギリソウ	256
アブラシバ	101
アベマキ(自生種)	153
アワモリショウマ	182

## イ

イイヌマムカゴ	148
イカリソウ	176
イシツチコウボウ	84
イズハハコ	262
イソノキ	203
イソホウキギ	161
イチイ	72
イトクズモ	78
イトゴケ	281

イトテンツキ	92
イトトリゲモ	79
イトモ	77
イヌイワデンダ	56
イヌコリヤナギ	151
イヌセンブリ	229
イヌトウキ	216
イヌノヒゲ	112
イヌノフグリ	245
イヌハギ	195
イヌヤブマオ	154
イバラモ	79
イブキキンモウゴケ	279
イヨアブラギク	262
イヨクジャク	61
イヨフウロ	197
イワアカバナ	212
イワイタチシダ	54
イワカガミ	219
イワガサ	193
イワキンバイ	190
イワギク	263
イワギリソウ	248
イワシデ	152
イワタイゲキ	199
イワタケソウ	84
イワデンダ	56
イワヤシダ	62
イワヤナギシダ	64
イワレンゲ	180

## ウ

ウキヤガラ	108
ウスバヒョウタンボク	253
ウチョウラン	147
ウチワダイモンジソウ	187
ウドカズラ	203
ウバタケギボウシ	119
ウバタケニンジン	216
ウマスゲ	94
ウミヒルモ	82
ウメガサソウ	220
ウメバチソウ	185

ウラギク	259
ウラジロウコギ	213
ウラジロヤナギアザミ	261
ウンゼンマンネングサ	181
ウンヌケモドキ	87

## エ

エゾシロネ	238
エゾツリスゲ	100
エダウチホングウシダ	40
エヒメアヤメ	125
エビガラシダ	41
エビネ	129
エンシュウツリフネ	202

## オ

オウレンシダ	38
オオアゼスゲ	103
オオイヌノハナヒゲ	106
オオウラジロノキ	190
オオクサボタン	171
オオクボシダ	65
オオコケシノブ	38
オオツルコウジ	225
オオヌマハリイ	104
オオノコギリゴケ	281
オオハクウンラン	149
オオバクサフジ	196
オオバシナミズニラ	35
オオバメギ	175
オオバヤドリギ	157
オオバヨメナ	266
オオヒメワラビモドキ	59
オオフジシダ	39
オオホソパトラノオ	245
オオミズゴケ	277
オオモミジガサ	267
オオヤマカタバミ	198
オオヤマサギソウ	145
オキナグサ	172
オキノシマテンナンショウ	111
オグラセンノウ	163
オサシダ	47

オシャグジデンド	65
オトコシダ	49
オトメクジャク	41
オニコナスビ	225
オニシバリ	209
オニスゲ	93
オニツルボ	122
オニナルコスゲ	103
オキノダケ	214
オキノヤガラ	135
オニバス	166
オニヒカゲワラビ	62
オヒルムシロ	76

## カ

カイジンドウ	235
カガシラ	109
カキツバタ	125
カザグルマ	170
カシノキラン	134
カセンソウ	265
カネコシダ	37
カノツメソウ	219
カミガモシダ	46
カモノハシ	89
カヤラン	148
カラクサシダ	42
カラムラサキツツジ	223
カワジサ	246
カワツルモ	78
カワラサイコ	190
カワラハハコ	256
カンサイタンポポ	269
カンザシギボウシ	119
ガガブタ	228
ガンゼキラン	142

## キ

キエビネ	130
キガンピ	210
キキョウ	256
キキョウラン	116
キクアザミ	270
キクザキイチリンソウ	169
キクバヤマボクチ	269
キクモ	243
キシツツジ	223
キシウナキリスゲ	99
キスゲ	118

キスミレ	208
キセワタ	238
キソチドリ	145
キドイノモトソウ	43
キヌタソウ	251
キノクニスゲ	97
キバナチゴユリ	117
キバナノアマナ	117
キバナノコオニユリ	120
キバナノショウキラン	149
キブリハネゴケ	284
キュウシュウコゴメグサ	243
キヨスミウツボ	247
キヨズミオオクジャク	51
キリシマエビネ	128
キリシマシャクジョウ	127
キレンゲショウマ	184
キンバイザサ	124
キンラン	131
ギフベニシダ	52
ギボウシラン	138
ギンバイソウ	183
ギンラン	130

## ク

クサボケ	188
クサレダマ	226
クジュウイヌノヒゲ	113
クジュウガリヤス	85
クジュウスゲ	100
クジュウツリスゲ	95
クズモダマ	195
クマガイソウ	133
クマノゴケ	277
クモイオトギリ	207
クモノスシダ	45
クモラン	147
クラガリシダ	63
クロイチゴ	192
クロクモソウ	187
クロバナイヨカズラ	231
クロフネサイシン	158
クロホシクサ	113
クンバイヒルガオ	233

## ケ

ケイビラン	116
ケカモノハシ	89
ケサガリゴケ	284

ケサンカクヅル	204
ケショウヨモギ	257
ケタガネソウ	93
ケナシイヌゴマ	241
ケナシイワアカバナ	212
ケナシシナノキ	205
ケナシベニバナヤマシャクヤク	172
ケナシヤシャビシャク	186
ケハンノキ	152
ケミヤマナミキ	241

## コ

コアナミズゴケ	277
コアマモ	80
コイヌガラシ	179
コウシュウウヤク	176
コウホネ	166
コウボウムギ	95
コウモリカズラ	177
コウヤマキ	72
コウヤミズキ	188
コウライイヌワラビ	60
コウライトモエソウ	206
コウライブシ	167
コウライヤナギ	151
コウラボシ	62
コウリングク	270
コオニシバ	92
コガネシダ	56
コキジノオゴケ	284
コキヌシッポゴケ	278
コギシギシ	161
コクモウクジャク	61
コケイラン	142
コケシノブ	37
コケミズ	156
コケモモ	224
コゴメツヤゴケ	286
コササキビ	91
コジキイチゴ	192
コジュズスゲ	94
コタニワタリ	45
コタヌキモ	250
コチャルメルソウ	184
コナミキ	240
コハリスゲ	99
コバノトンボソウ	146
コマツカサススキ	108
コミノヒメウツギ	183

コミヤマカタバミ	198
コメガヤ	90
コメススキ	87
コメツツジ	224
コモチイヌワラビ	57
ゴショイチゴ	192
ゴマクサ	242
ゴマシオホシクサ	114

## サ

サイカチ	194
サイコクヌカボ	159
サイゴクホングウシダ	40
サカゲイノデ	49
サカバサトメシダ	57
サガミトリゲモ	79
サギソウ	137
サクライカグマ	51
サクラスミレ	207
サクラソウ	226
ササバギンラン	131
ササバモ	76
サダソウ	150
サツマアザミ	261
サツマルリミノキ	251
サトメシダ	58
サドスゲ	101
サルメンエビネ	130
サワギキョウ	255
サワゼリ	219
サワダツ	200
サンカクイ	109
サンショウモ	66
サンヨウアオイ	158

## シ

シイバサトメシダ	58
シオカゼテンツキ	105
シオン	259
シコクハタザオ	178
シコクヒロハテンナンショウ	111
シシンラン	248
シズイ	108
シソバウリクサ	243
シチメンソウ	161
シデシャジン	254
シナミズニラ	34
シノノメソウ	230
シバナ	80

シビカナワラビ	49
シマサクラガンピ	210
シムラニンジン	218
シモツクソウ	189
シモツクヌリトラノオ	46
シュスラン	136
ショウキラン	150
ショウベンノキ	201
ショウロウクサギ	235
シラカワスゲ	98
シラカワボウフウ	217
シラガブドウ	204
シラハノダケ	214
シラヒゲソウ	185
シラン	127
シロシャクジョウ	126
シロネ	238
シロバナエンレイソウ	124
シロバナハンショウヅル	171
シロヤマゼンマイ	37
ジガバチソウ	139
ジャコウソウ	236
ジュンサイ	165
ジングウスゲ	101

## ス

スギラン	34
スズコウジュ	239
スズサイコ	232
スズメノハコベ	244
スブタ	82
ズミ	189

## セ

セイトカスズムシソウ	139
セイナンヒラゴケ	283
セキショウモ	83
セッコク	133
センダイスゲ	96
センダイソウ	188
センニンモ	76
センブリ	229

## ソ

ソナレノギク	264
ソハヤキトンボソウ	145

## タ

タイリンアオイ	157
---------	-----

タイワンスゲ	96
タイワントリアシ	153
タカサゴソウ	265
タカネオトギリ	206
タカネコウリンギク	270
タカネノガリヤス	86
タカネマスクサ	100
タガネラン	129
タコノアシ	180
タシロスゲ	102
タシロノガリヤス	86
タシロラン	133
タチカモメヅル	231
タチゲヒカゲミズ	155
タチスミレ	208
タチチョウチンゴケ	279
タチデンダ	48
タチハコベ	164
タチバナ	199
タチフウロ	197
タチモ	212
タニジャコウソウ	236
タニヘゴ	51
タヌキモ	250
タマカラマツ	175
タマガワホトトギス	123
タマボウキ	116
タンナトリカブト	168
ダイヤモンドソウ	186

## チ

チシマカニツリ	92
チャボゼキショウ	123
チャボツメレンゲ	179
チュウゼンジスゲ	97
チョウジソウ	230
チョウセンスイラン	264
チョウセンニワフジ	194
チョウセンヤマニガナ	267
チョクザキミズ	155

## ツ

ツクシアケボノツツジ	223
ツクシアブラガヤ	109
ツクシイヌイ	115
ツクシイヌワラビ	58
ツクシオオガヤツリ	103
ツクシオオクジャク	50
ツクシカイドウ	189

ツクシカシワバハグマ	267
ツクシクガイソウ	247
ツクシクロイヌノヒゲ	113
ツクシシオガマ	244
ツクシシャクナゲ	221
ツクシゼリ	215
ツクシタスキゴケ	282
ツクシタンポポ	269
ツクシチドリ	143
ツクシチャルメルソウ	184
ツクシテンツキ	105
ツクシトウキ	215
ツクシドウダン	220
ツクシナルコ	102
ツクシネコノメソウ	183
ツクシノキシノブ	63
ツクシヒトツパテンナンショウ	112
ツクシビャクシン	73
ツクシフウロ	197
ツクシボウフウ	218
ツクシボダイジュ	205
ツクバキンモウソウ	235
ツクバネ	156
ツクバネウツギ	252
ツシママンネングサ	182
ツチグリ	191
ツチトリモチ	159
ツメレンゲ	180
ツリシュスラン	136
ツルキジムシロ	191
ツルギキョウ	255
ツルゴケ	280
ツルデンダ	47
ツルホラゴケ	38
ツレサギソウ	143

## テ

テツホシダ	55
テバコモミジガサ	260
デンジソウ	66

## ト

トウゴクサバノオ	172
トガリイチイゴケ	287
トキソウ	146
トキワシダ	46
トケンラン	132
トサヒラゴケ	283
トサムラサキ	234

トチカガミ	83
トモエソウ	206
トラノハナヒゲ	107
トリガタハンショウヅル	171
トリゲモ	80
トンボソウ	149
ドクゼリ	217

## ナ

ナカミシシラン	43
ナガエミクリ	75
ナガバジュズネノキ	250
ナガバヒゼンマユミ	200
ナガホノシロワレモコウ	193
ナガホノナツノハナワラビ	36
ナガミノツルキケマン	177
ナギラン	132
ナゴラン	147
ナタオレノキ	227
ナチクジャク	52
ナツエビネ	129
ナベワリ	115
ナミキソウ	241
ナメラダイモンジソウ	187
ナンゴクウラシマソウ	112
ナンゴククガイソウ	246
ナンゴクミツバツツジ	222
ナンゴクミネカエデ	201

## ニ

ニセナガバジュズネノキ	250
ニセヨゴレイタチシダ	52
ニッコウコウガイゼキショウ	115
ニラバラン	141

## ヌ

ヌカイタチシダ	53
ヌカイタチシダマガイ	53
ヌカイタチシダモドキ	53
ヌカボシクリハラン	64
ヌカボタデ	160
ヌマガヤ	90
ヌマクロボスゲ	98
ヌマシノブゴケ	285
ヌマゼリ	219

## ネ

ネコノメソウ	182
ネズ	74

## ノ

ノアサガオ	232
ノカラムツ	174
ノグサ	107
ノゲヌカスゲ	98
ノタヌキモ	249
ノハナショウブ	124
ノハラテンツキ	105
ノヒメユリ	120
ノヤナギ	151

## ハ

ハイキビ	91
ハイサバノオ	172
ハイチゴザサ	88
ハイヒモゴケ	282
ハカマカズラ	193
ハガクレカナワラビ	50
ハガクレツリフネ	202
ハクウンボク	227
ハクサンボク	253
ハコネシケチシダ	59
ハコネシダ	42
ハシナガヤマサギソウ	144
ハシバミ	152
ハタベスゲ	96
ハチジョウイノコズチ	162
ハチジョウシダ	43
ハチジョウシダモドキ	44
ハナカズラ	167
ハナガガシ	153
ハナシノブ	233
ハナビゼリ	215
ハナムグラ	251
ハネガヤ	84
ハマウツボ	247
ハマカンゾウ	118
ハマグルマ	271
ハマサジ	226
ハマツメクサ	165
ハマナツメ	203
ハマハナヤスリ	35
ハマホラシノブ	39
ハマボウ	205
ハママツナ	162
ハリモミ	72
ハルザキヤツシロラン	135
ハンゲショウ	150

ハンノキ ..... 152

## ヒ

ヒカゲスミレ ..... 209  
ヒカゲツツジ ..... 222  
ヒゴシオン ..... 258  
ヒゴタイ ..... 263  
ヒゼンマユミ ..... 200  
ヒツジグサ ..... 167  
ヒトツバイワヒトデ ..... 64  
ヒトツバシケシダ ..... 60  
ヒトツボクロ ..... 148  
ヒナザサ ..... 87  
ヒナノカンザシ ..... 199  
ヒナノシャクジョウ ..... 126  
ヒナヒゴタイ ..... 268  
ヒナラン ..... 127  
ヒノキ（自生種） ..... 73  
ヒノキシダ ..... 45  
ヒメアギスミレ ..... 209  
ヒメウラジロ ..... 41  
ヒメキセワタ ..... 237  
ヒメコウガイゼキショウ ..... 114  
ヒメコウホネ ..... 166  
ヒメサジラン ..... 65  
ヒメシャガ ..... 125  
ヒメシロアサザ ..... 228  
ヒメスギラン ..... 33  
ヒメタチヒラゴケ ..... 283  
ヒメノボタン ..... 211  
ヒメノヤガラ ..... 138  
ヒメハmanaデシコ ..... 163  
ヒメバイカモ ..... 174  
ヒメヒゴタイ ..... 268  
ヒメビシ ..... 212  
ヒメミクリ ..... 75  
ヒメヤブラン ..... 121  
ヒメユリ ..... 120  
ヒメヨツバハギ ..... 196  
ヒモラン ..... 33  
ヒユウガギボウシ ..... 119  
ヒユウガトウキ ..... 214  
ヒユウガミツバツツジ ..... 224  
ヒロハシノブイトゴケ ..... 282  
ヒロハテンナンショウ ..... 111  
ヒロハノサヤヌカグサ ..... 89  
ヒロハノドジョウツナギ ..... 88  
ヒロハハナヤスリ ..... 35  
ヒロハマツナ ..... 162

ヒロハヤマヨモギ ..... 258  
ヒロバスゲ ..... 94  
ヒロバトラノオ ..... 245  
ビッチュウアザミ ..... 260  
ビャクシン ..... 73  
ピロウ ..... 110  
ピロウドキビ ..... 85  
ピロウドスゲ ..... 93  
ピロウドテンツキ ..... 106

## フ

フウラン ..... 141  
フガクスズムシソウ ..... 139  
フガゴケ ..... 278  
フキヤミツバ ..... 218  
フクジュソウ ..... 168  
フクド ..... 257  
フサスゲ ..... 97  
フサモ ..... 213  
フシグロセンノウ ..... 164  
フシノハアワブキ ..... 201  
フジシダ ..... 39  
フタバアオイ ..... 158  
フチナシクジャクゴケ ..... 285  
フトヒルムシロ ..... 75  
フトボノヌカボタデ ..... 160  
フモトシケシダ ..... 60  
フゼンノギク ..... 264  
ブンゴボダイジュ ..... 204

## ヘ

ヘツカニガキ ..... 252  
ベニカヤラン ..... 134  
ベニカンゾウ ..... 118  
ベニシュスラン ..... 135

## ホ

ホウライクジャク ..... 42  
ホガエリガヤ ..... 85  
ホゴケ ..... 279  
ホザキノミミカキグサ ..... 249  
ホソバオグルマ ..... 265  
ホソバショリマ ..... 55  
ホソバシロスミレ ..... 208  
ホソバナコバイモ ..... 117  
ホソバニガナ ..... 266  
ホソバノアマナ ..... 121  
ホソバヒメトラノオ ..... 245  
ホソバママコナ ..... 244

ホソバヤマジソ ..... 239  
ホタルカズラ ..... 233  
ホッスガヤ ..... 86  
ホッスモ ..... 78  
ホテイシダ ..... 63  
ホトトギス ..... 123  
ボウラン ..... 140  
ボロボロノキ ..... 156

## マ

マイサギソウ ..... 144  
マイヅルテンナンショウ ..... 110  
マキハキヌゴケ ..... 286  
マツバニンジン ..... 198  
マツバラ ..... 33  
マツムシソウ ..... 254  
マツムラゴケ ..... 280  
マツラン ..... 134  
マネキグサ ..... 237  
マメツタラン ..... 128  
マルバオモダカ ..... 81  
マルバカモメヅル ..... 232  
マルバサンキライ ..... 122  
マルバチシャノキ ..... 234  
マルバノイチヤクソウ ..... 220  
マルバノサウトウガラシ ..... 242  
マルミスブタ ..... 81  
マンセンレンブクソウ ..... 254

## ミ

ミカツキグサ ..... 106  
ミカワシンジュガヤ ..... 110  
ミカワタヌキモ ..... 249  
ミクリ ..... 74  
ミクリガヤ ..... 107  
ミサオノキ ..... 252  
ミシマサイコ ..... 216  
ミスミイ ..... 104  
ミスミソウ ..... 172  
ミズアオイ ..... 114  
ミズオオバコ ..... 83  
ミズオトギリ ..... 207  
ミズキカシグサ ..... 211  
ミズスギ ..... 34  
ミズスギモドキ ..... 281  
ミズチドリ ..... 143  
ミズトラノオ ..... 237  
ミズトンボ ..... 137  
ミズネコノオ ..... 236

ミズヒキモ	77
ミズマツバ	211
ミズウラビ	40
ミゾコウジュ	240
ミタケスゲ	98
ミチシバ	90
ミツガシワ	227
ミツバグサ	217
ミドリヒメワラビ	55
ミドリヨウラク	121
ミドリワラビ	59
ミヤコアオイ	157
ミヤコアザミ	268
ミヤコイヌワラビ	57
ミヤコジマツツラフジ	177
ミヤコミズ	155
ミヤマアキノノゲシ	266
ミヤマウコギ	213
ミヤマウラジロイチゴ	191
ミヤマカラマツ	174
ミヤマガンピ	210
ミヤマキリシマ	222
ミヤマコナスビ	225
ミヤマツチトリモチ	159
ミヤマトベラ	194
ミヤマナミキ	240
ミヤマフタバラン	140
ミヤマヤブタバコ	260
ミヤマワラビ	54

## ム

ムカゴサイシン	141
ムカゴソウ	137
ムカゴツツリ	91
ムカデラン	132
ムギガラガヤツリ	104
ムギラン	128

ムヨウラン	138
ムラサキ	234
ムラサキセンブリ	229
ムラサキミミカキグサ	248

## メ

メノマンネングサ	181
メヤブソテツ	47

## モ

モウセンゴケ	179
モミジカラマツ	175
モミジタマブキ	259
モリアザミ	261

## ヤ

ヤシャゼンマイ	36
ヤシャビシヤク	186
ヤチカワズスゲ	99
ヤツシロソウ	255
ヤナギイチゴ	154
ヤナギイノコズチ	163
ヤナギスプタ	82
ヤナギヌカボ	160
ヤブサンザシ	186
ヤブヨモギ	257
ヤマオダマキ	170
ヤマサギソウ	144
ヤマシャクヤク	173
ヤマジソ	239
ヤマトキシソウ	146
ヤマトハクチョウゴケ	278
ヤマトボシガラ	88
ヤマトミクリ	74
ヤマトラノオ	246
ヤマヒョウタンボク	253
ヤマブキソウ	178

ヤマホオズキ	242
ヤリノホゴケ	285
ヤワラハチジョウシダ	44

## ユ

ユウシュンラン	131
ユキワリイチゲ	169
ユリワサビ	178

## ヨ

ヨウラクツツジ	221
ヨウラクラン	142
ヨコグラヒメワラビ	54

## リ

リスゴケ	280
リュウキンカ	170
リュウノヒゲモ	77
リュウビンタイ	36

## ル

ルイヨウショウマ	168
ルイヨウボタン	176
ルリミノキ	251

## レ

レンゲツツジ	221
レンリソウ	195

## ロ

ロクオンソウ	231
--------	-----

## ワ

ワカナシダ	50
ワタナベソウ	185
ワダソウ	164
ワニグチソウ	122

# 和名索引(動物)

## ア

アオウミガメ	336
アオギス	354
アオサナエ	363
アオタマムシ	384
アオバズク	323
アカアシオアオカミキリ	390
アカアシクチブトカメムシ	370
アカアシギ	318
アカウミガメ	335
アカオニグモ	431
アカザ	351
アカシャチホコ	411
アカショウビン	324
アカツクシガモ	309
アカハジロ	310
アカバキヨトウ	412
アカマダラコガネ	382
アカマダラセンチコガネ	380
アカムネグモの1種	429
アカメ	353
アカモズ	326
アサカミキリ	396
アシプトマキバサシガメ	368
アジアカブトエビ	445
アマゴ個体群	352
アマツバメ	324
アヤムネスジタマムシ	384
アラナミギセルガイ	459
アリアケギバチ	351
アリアケモドキ	444
アリグモの1種	437

## イ

イエオニグモ	431
イカリモンハンミョウ	371
イガブチヒゲハナカミキリ	387
イッシキキモンカミキリ	395
イトアメンボ	366
イトヨ	352
イヌワシ	313

## ウ

ウスイロキヨトウ	412
ウスイロヤチグモ	435
ウスコミミガイ	457
ウズラ	314
ウチワヤンマ	362
ウツセミカジカ	353
ウブギセルガイ	461
ウミスズメ	321
ウミホソチビゴミムシ	373
ウラクロシジミ	403
ウラナミジャノメ	409
ウラミスジシジミ	406

## エ

エサキアメンボ	366
エサキマダラ	399
エゾアリガタハネカクシ	379
エゾトラカミキリ	392
エゾナガヒゲカミキリ	394
エノキミツギリゾウムシ	397

## オ

オオアオカミキリ	390
オオイタサンショウウオ	343
オオイタシロギセルガイ	462
オオウエゴマガイ	452
オオウスピロウドマイマイ	465
オオウラギンヒョウモン	406
オオエゾトンボ	364
オオカモドキサシガメ	369
オオキトンボ	365
オオクマアメイロハエトリ	437
オオクワガタ	380
オオコノハズク	323
オオサンショウウオ	343
オオジシギ	319
オオセイボウ	398
オオタカ	311
オオダイガハラサンショウウオ	343
オオチャイロハナムグリ	382
オオツバメエダシヤク	409

オオツリガネヒメグモ	425
オオバン	316
オオムラサキ	408
オオルリシジミ	405
オオルリボシヤンマ	363
オカミミガイ	456
オキモドキギセルガイ	462
オシドリ	309
オツネトンボ	361
オナガラムシオイガイ	452
オニベニシタバ	414
オニホソコバネカミキリ	389
オヤニラミ	353
オンセンミスゴマツボ	453

## カ

カジカ	352
カスガコギセルガイ	464
カスミサンショウウオ	344
カゼトゲタナゴ	350
カタギセルガイ	463
カツラネクイハムシ	396
カブトガニ	444
カマスグモ	434
カヤクグリ	326
カヤネズミ	299
カラシラサギ	306
カラスシジミ	405
カラスバト	321
カラフトアオアシシギ	318
カラフトヒゲナガカミキリ	393
カリユウホラヒメグモ	427
カワアナゴ	354
カワウ	305
カワネズミ	294
カワムツA型	350
カワモトギセルガイ	460
カワラハンミョウ	372
カンダベッコウマイマイ	465
カンダマイマイ	466
カンムリウミスズメ	321

## キ

キイロサナエ	362
キイロミモンエダシャク	409
キイロヤマトンボ	364
キクガシラコウモリ	295
キジマトラカミキリ	391
キジロオヒキグモ	431
キヌカツギハマシイノミガイ	456
キノボリトタテグモ	424
キバシリ	329
キパネアシプトマキバサシガメ	368
キパネモンヒトリ	411
キビタキ	328
キマダラモドキ	408
キュウシュウジカ	300
キュウシュウナミコギセルガイ	463
キュウシュウヒメコブハナカミキリ	388
ギョウトクテントウ	385
ギンイチモンジセセリ	400

## ク

クサガメ	336
クボハゼ	355
クマタカ	313
クリイロコミミガイ	457
クリチャササグモ	434
クルマヒラマキガイ	458
クロカタピロオサムシ	373
クロカメノコハムシ	397
クロサギ	307
クロサワドロムシ	383
クロサワヒメコバネカミキリ	389
クロサワヘリグロハナカミキリ	387
クロシオキシタバ	414
クロシジミ	404
クロスジチャイロテントウ	386
クロツグミ	327
クロツバメシジミ	405
クロツラヘラサギ	307
クロバアカサシガメ	369
クロバネツリアブ	399
クロヒカゲモドキ	408
クロボシカニグモの1種	436
クロマダラタマムシ	385

## ケ

ケブカヒラタカミキリ	386
ゲハウグモ	433

ゲンゴロウ	376
-------	-----

## コ

コアジサシ	320
コウライアイサ	310
コオイムシ	366
コカブトムシ	382
コガタガムシ	378
コガタノゲンゴロウ	376
コガネグモ	432
コキクガシラコウモリ	295
コクガン	308
コクロマメゲンゴロウ	375
コシャクシギ	319
コジュリン	329
コチドリ	316
コノハズク	322
コマドリ	327
コミズク	322
コヨシキリ	328
コルリ	327
ゴトウミゾドロムシ	383
ゴホンダイコクコガネ	381
ゴマグモ類	429
ゴマシジミ	403

## サ

サイゴクジネズミ	294
サシバ	312
サツマウバタマムシ	384
サワダマメゲンゴロウ	376
サンカノゴイ	305
サンコウチョウ	329
サンショウクイ	325

## シ

シータテハ	407
シオマネキ	443
シコクピロウドマイマイ	466
シベリアオオハシシギ	317
シモフリシマハゼ	356
シラフハイロハネカクシ	379
シルビアシジミ	406
シロウオ	355
シロチドリ	317
シロヘリツチカメムシ	370
シロマダラ	335
ジネズミ	294
ジュウイチ	322

ジュウジクロカミキリ	394
------------	-----

## ス

スギタニルリシジミ	402
スギモトギセルガイ	461
スゲハムシ	396
スジグロチャバネセセリ	400
スジゲンゴロウ	377
スジボソヤマキチョウ	401
スッポン	337
スナヤツメ	349
スネケブカヒロコバネカミキリ	390
スミスネズミ	298
スマレモンキリガ	413
ズグロカモメ	320

## セ

セアカオサムシ	373
セイタカシギ	319
セボシタビラ	349
センベイアワモチ	455

## ソ

ソボホラヒメグモ	427
----------	-----

## タ

タイマイ	336
タイワンツバメシジミ	402
タカチホヘビ	335
タカハシトゲゾウムシ	397
タガメ	367
タケノコカワニナ	455
タケノコギセルガイ	463
タニマノドヨウグモ	432
タマシギ	316
ダイコクコガネ	381

## チ

チクゼンハゼ	356
チゴモズ	326
チビサラグモの1種	430
チャイロチビゲンゴロウ	374
チュウガタコガネグモ	432
チュウサギ	306
チュウヒ	313
チョウセンスナガイ	458

## ツ

ツキノワグマ	299
--------	-----

ツクシガモ	309
ツクネグモ	425
ツノヒシガタグモ	426
ツバメチドリ	320
ツブカワザンショウガイ	454
ツマアカキョトウ	412
ツماغロキチョウ	401
ツミ	312
ツメアカナガヒラタタマムシ	385
ツヤヒラタガムシ	377
ツリフネソウトラガ	415

## テ

テラニシセスジゲンゴロウ	375
テラマチベッコウマイマイ	465

## ト

トウキョウヒメハンミョウ	372
トゲウスバカミキリ	386
トゲオトンボ	361
トゲナベブタムシ	367
トサギセルガイ	459
トノサマガエル	344
トビハゼ	354
トモエガモ	310
トラサンドクガ	411
ドウシグモ	435

## ナ

ナカスジキョトウ	413
ナベヅル	315
ナマリキシタバ	414
ナメクジウオ	356
ナラビオカミミガイ	456
ナンキングモ類	430
ナンピギセルガイ	461

## ニ

ニッポンバラタナゴ	350
ニホンアナグマ	299
ニホンイタチ	300
ニホンカモシカ	300
ニホンザル	297
ニホンジカ	300
ニホンヒキガエル	344
ニホンモモンガ	297

## ヌ

ヌカグモ類	429
-------	-----

## ネ

ネアカヨシヤンマ	363
ネプトクワガタ	379
ネムリミミズハゼ	355

## ノ

ノレンコウモリ	296
---------	-----

## ハ

ハイタカ	312
ハクセンシオマネキ	444
ハタネズミ	298
ハチクマ	311
ハッチョウトンボ	365
ハナコギセルガイ	464
ハネピロエゾトンボ	364
ハマダモノアラガイ	457
ハヤブサ	314
ハラアカマルセイボウ	398
ハラダカツクネグモ	425
ハリサシガメ	368

## ヒ

ヒカリアシナガガモ	433
ヒクイナ	315
ヒゲコガネ	381
ヒゲブトハナカミキリ	388
ヒコサンセスジゲンゴロウ	375
ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ	389
ヒサゴズメ	410
ヒサマツミドリシジミ	402
ヒシクイ	308
ヒトエグモの1種	434
ヒナユキスズメガイ	451
ヒメウンモンクチバ	415
ヒメケシゲンゴロウ	374
ヒメシジミ	404
ヒメシロギセルガイ	462
ヒメシロシタバ	415
ヒメシロチョウ	401
ヒメスズメ	410
ヒメヒミズ	294
ヒメピロウドカミキリ	393
ヒメマルマメタニシ	453
ヒメミズカマキリ	367
ヒメヨツスジハナカミキリ	388
ヒラヤマコブハナカミキリ	387
ヒロクチカノコガイ	451

ヒロクチコギセルガイ	464
ピロウドサシガメ	369
ピルスブリギセルガイ	460
ピントノミギセルガイ	459

## フ

フウレンホラヒメグモ	426
フクロウ	323
フタモンアラゲカミキリ	394
フチトリヒメヒラタタマムシ	383
フノジグモ	436
フッポウソウ	325
ブロイニングカミキリ	395
ブンゴキムラグモ	424
ブンゴキョトウ	413
ブンゴホラヒメグモ	426

## ヘ

ヘイケガニ	443
ヘラサギ	307
ヘラシギ	317
ベッコウトンボ	365
ベッコウハナアブ	399
ベニイラガ	400
ベニツチカメムシ	370

## ホ

ホウロクシギ	318
ホオアカ	330
ホシガラス	330
ホシミスジ	407
ホソキセルガイモドキ	458
ホソハンミョウ	371
ホソリンゴカミキリ	395
ホラアナミジンナ	453
ホラヒメグモ類	427
ホンドザル	

## マ

マガン	308
マシラグモ	424
マダラゴマフカミキリ	392
マツカサガイ	466
マナヅル	315
マルガタゲンゴロウ	377
マルサラグモ類	428
マルチビガムシ	378
マルヒラタガムシ	378

**ミ**

ミカドヤチグモ .....	435
ミサゴ .....	311
ミスジチョウ .....	407
ミズグモ .....	433
ミゾゴイ .....	306
ミドリシジミ .....	403
ミヤケカレハ .....	410
ミヤコドリガイ .....	451
ミヤザキギセルガイ .....	460

**ム**

ムカシヤンマ .....	362
ムササビ .....	297
ムシヤドリカワザンショウガイ ...	455
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ ...	374
ムネアカセンチコガネ .....	380
ムネホシシロカミキリ .....	393
ムラサキオカヤドカリ .....	443

**メ**

メボソムシクイ .....	328
---------------	-----

**モ**

モートンイトトンボ .....	361
モモジロコウモリ .....	295
モンクロベニカミキリ .....	392

**ヤ**

ヤイロチョウ .....	325
ヤチグモ類 .....	436
ヤマキサゴ .....	452
ヤマコウモリ .....	296
ヤマトシマドジョウ .....	351
ヤマトシロオビトラカミキリ .....	391
ヤマドリ .....	314
ヤマネ .....	298
ヤミサラグモ類 .....	428
ヤリタナゴ .....	349

**ユ**

ユビナガコウモリ .....	296
----------------	-----

**ヨ**

ヨコヤマトラカミキリ .....	391
ヨシゴイ .....	305
ヨシダカワザンショウガイ .....	454
ヨタカ .....	324
ヨツボシサラグモ類 .....	428
ヨドシロヘリハンミョウ .....	371

**ル**

ルーミスシジミ .....	404
ルイスハンミョウ .....	372
ルリモンハナバチ .....	398

**ワ**

ワカウラツボ .....	454
--------------	-----

---

# レッドデータブックおおいた

～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～

平成13(2001)年3月15日発行

---

編集 大分県自然環境学術調査会野生生物専門部会

発行 大分県生活環境部生活環境課  
〒870-8501  
大分市大手町3丁目1番1号

印刷 佐伯印刷株式会社

---





この印刷物は  
再生紙を使用しています。

# Red Data Book